

4 古代

古代の遺構は、竪穴建物跡 9 軒、掘立柱建物跡 3 棟、土坑 19 基及びピット 78 基が該当する。竪穴建物跡は、出土遺物や遺構の形状・付帯施設等から奈良時代～平安時代に帰属するとみなせるものを、それ以外の遺構については、出土遺物や遺構間の切り合い関係、覆土の様相が上述の竪穴建物跡と類似するものを古代の遺構として扱った。

遺構は、調査区中央部の 2-6 西区中央付近に集中する傾向がみられる。特に、SI58 と SI63 が切り合っている地点では、掘立柱建物跡 E の各ピットが SI63 を取り囲むかのように位置し、その東隣には掘立柱建物跡 D が並び、更に掘立柱建物跡 D の一部を切るように SK195 が位置する等、切り合い関係が複雑である。

出土遺物としては、竪穴建物跡を中心とする古代の各遺構や遺物包含層等から土師器、須恵器、灰釉陶器、石製品（砥石・台石）、金属製品（鉄鏃・釘・刀子・鉄鎌・巡方）、焼成粘土塊、凝灰質砂岩、被熱礫や礫、炭化種実及び炭化材が出土した。

中でも、SI64 から出土した銚子の巡方や SI58 から複数点出土した炭化種実（モモ）が特筆される。

1) 竪穴建物跡（第 163 ～ 281 図、第 28 ～ 45 表）

古代の竪穴建物跡は 9 軒を検出し、調査した。遺構略号は SI である。

分布は、2-6 西区の西寄りから中央部にかけて 5 軒、2-6 東区が 4 軒で、2-6 西区の東寄りと西部の 2-7 区では検出されなかった。SI58 と 63 が重複して位置している他は、各遺構がある程度の間隔を保って分布している。

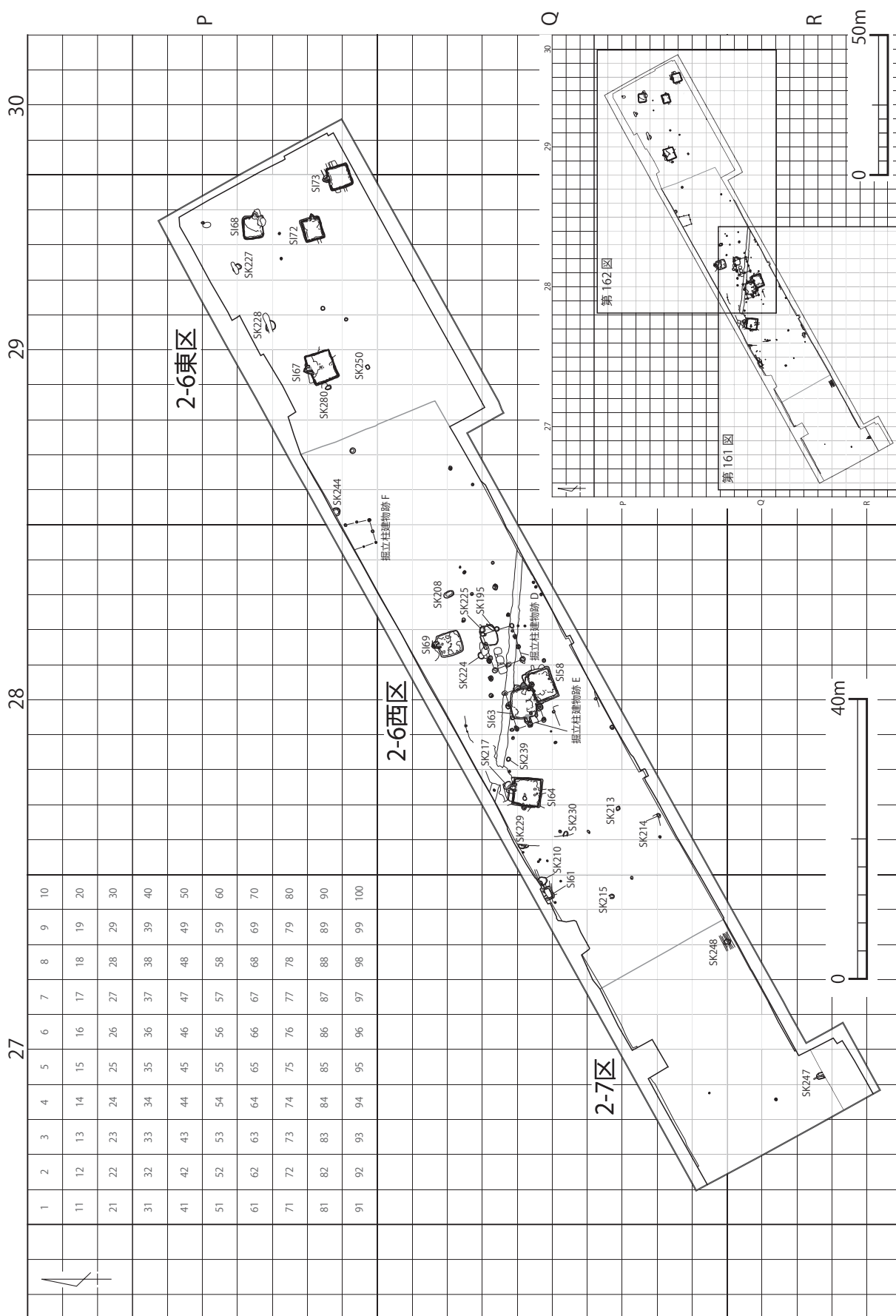
各遺構の帰属時期は、8 世紀前葉から中葉（SI67）、8 世紀後葉（SI61・64・68・72・73）、8 世紀後葉から 9 世紀初頭（SI58）、9 世紀末葉から 10 世紀初頭（SI69）、10 世紀初頭から前半（SI63）で、8 世紀後葉に 5 軒が集中している以外は、その前後の時期に分散している。その 5 軒も、西側の SI61・64、東側の SI68・72・73 と、分布範囲内の東西に分かれて位置していることも特徴である。

以下、検出時の遺構番号順に記述していく。

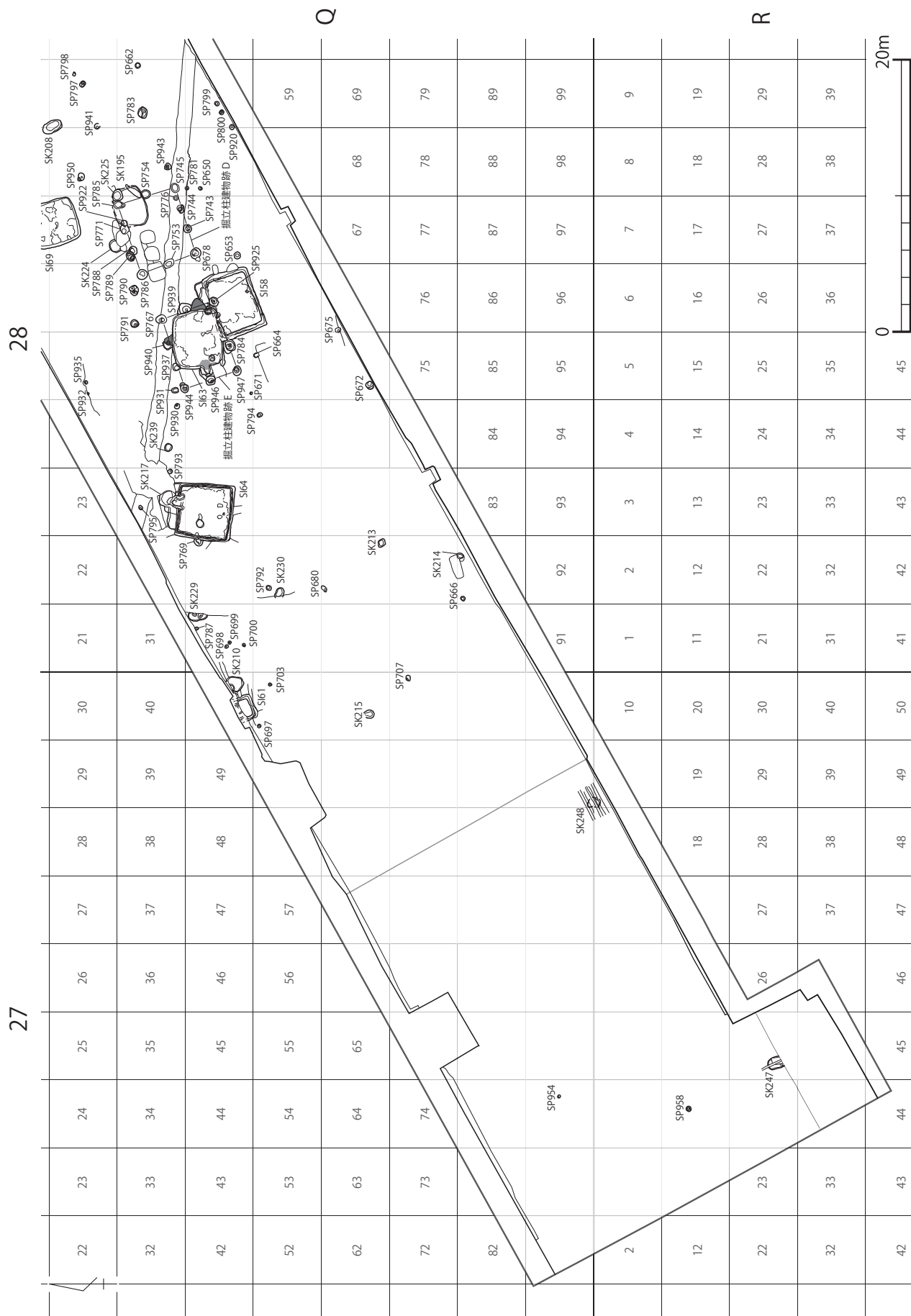
SI58（第 163 ～ 180 図、第 28 ～ 30・45 表）

中世以前の遺構検出作業時に検出した。上部の覆土に焼土や砂質粘土の粒子を多く含んでいたことから、容易に遺構の存在を確認できたが、調査を進めてみると、SI58 の掘削途中に後から検出された SI63 により当遺構が切られていることや、更にその SI63 を切る中世の溝 SD12 が医療廃棄物を含む攪乱に切られていることが確認された。そのため、廃棄物の処理や SI58 より新しい遺構の調査を先行して行うことに伴う長い中断を経たため、発掘着手より調査終了まで 10 か月を要した。

遺構 2-6 西区中央部の 28Q-45・46・56 グリッドに位置する。検出面はⅡ3・Ⅲ2 層上で、SI63 に北壁の西半分とカマドの左袖から奥壁の大部分が切られ、SP925 にカマドの右袖部分を大きく切られている他、SK194・211、SP784 に壁上部の一部も切られている。なお、SP925 については、SI58 のベルト除去後にカマドの掘り込みと誤認して掘削していたが、途中で掘立柱建物跡 E を構成するピットであることが判明した（369・371 ページ参照）。そのため、SI58 と SP925 の切り合い関係は、平面及び土層断面では十分に確認することができなかった。その他、SP784 と SP925 の中間にも掘

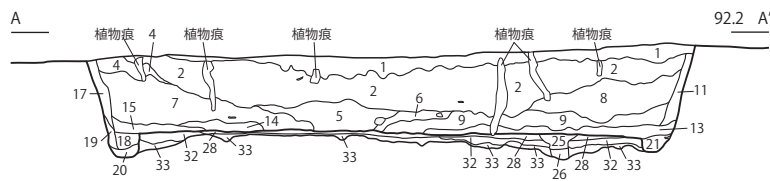
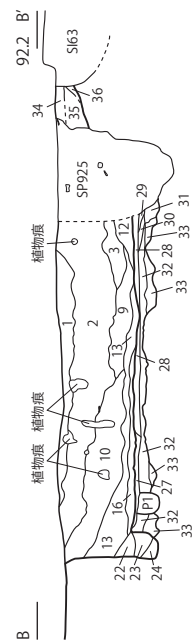
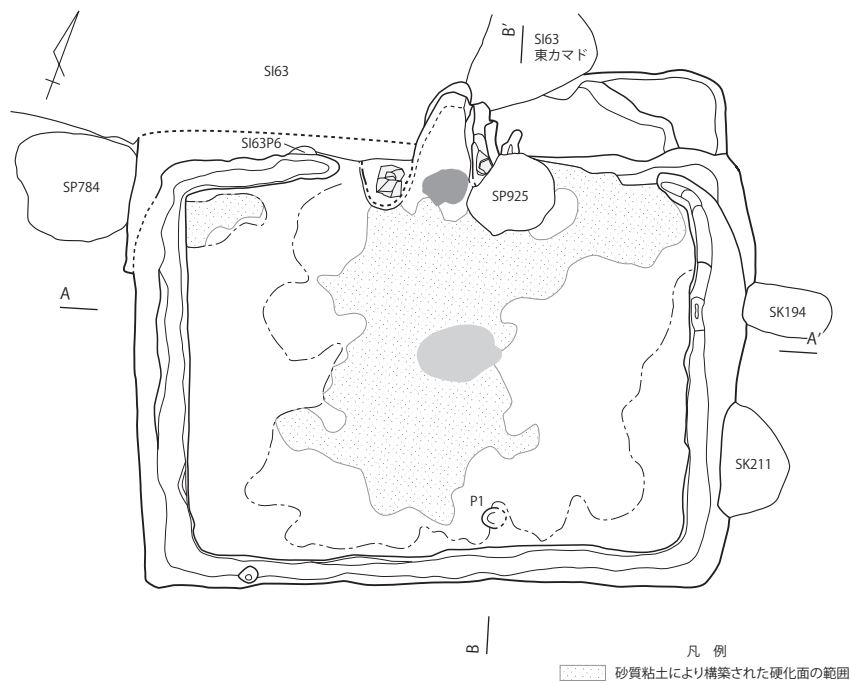


第 160 図 古代遺構分布図・区割図 (1/800・1/2,000)

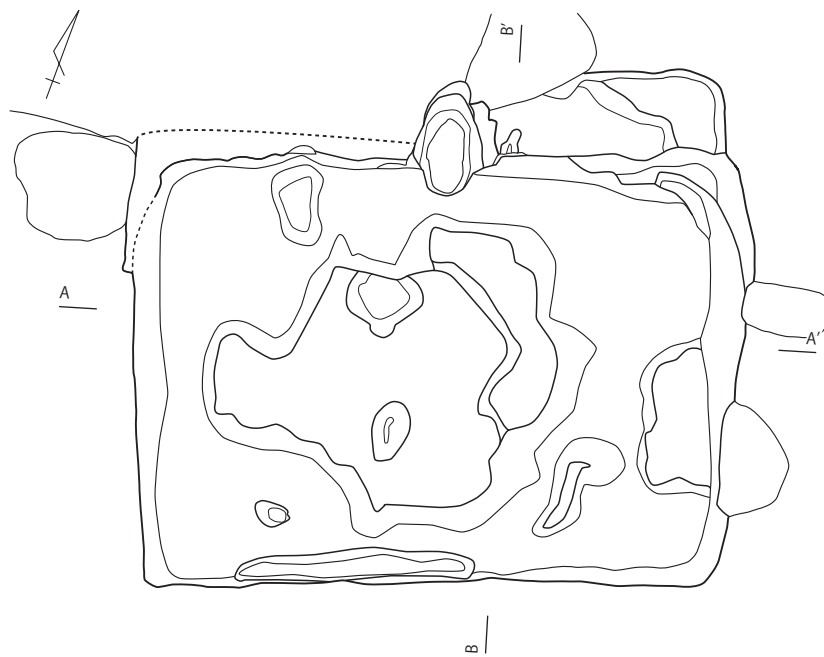




第 162 図 古代遺構分布図割図 (2)(1/400)



掘方



第 163 図 SI58(1)(1/60)

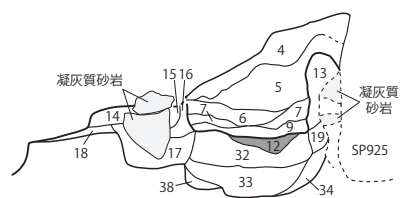
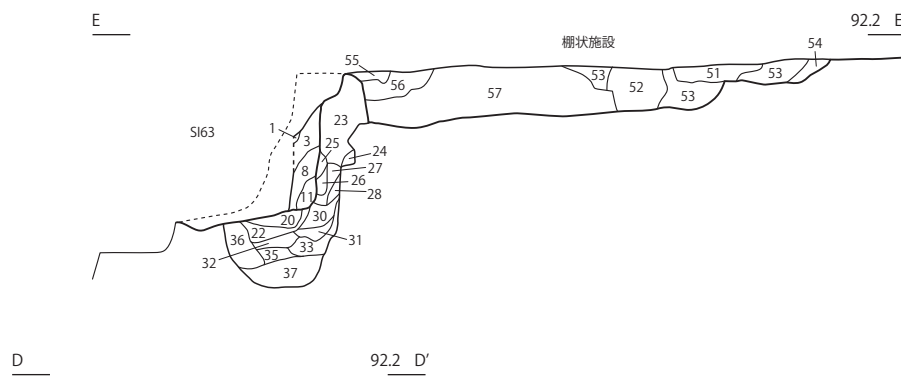
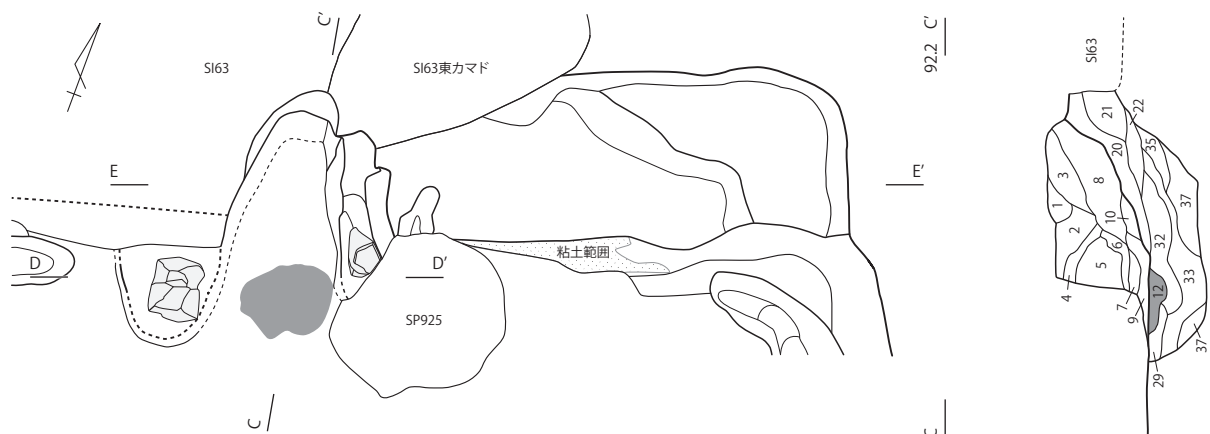
SI58

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径5mm以下の焼土粒子10%、直径5mm以下のローム粒子(10YR3/4)5%、直径2mm以下の砂質粘土粒子(10YR5/4)7%、直径3mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子極めて粗い。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径15mm以下の焼土粒子・ブロック20%、直径3mm以下のローム粒子(10YR3/4)3%、直径10mm以下の砂質粘土粒子(10YR5/4)10%、直径3mm以下の炭化物粒子3%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径10mm以下の焼土粒子・ブロック10%、直径3mm以下のローム粒子(10YR3/4)2%、直径12mm以下の砂質粘土粒子(10YR5/4)20%、直径2mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径4mm以下の焼土粒子7%、直径2mm以下のローム粒子(10YR3/4)3%、直径1mmの砂質粘土粒子(10YR5/4)1%、直径5mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性なし、締まりあり、粒子極めて粗い。
5. 10YR2/2 黒褐色土層 直径5mm以下の焼土粒子15%、直径3mm以下のローム粒子(10YR3/4)3%、直径10mm以下の砂質粘土粒子(10YR5/4)15%、直径2mm以下の浅黄色砂質粘土粒子(2.5Y7/4)3%含む。黒色土(10YR2/1)斑文状に10%偏在。粘性あり、締まり強、粒子粗い。
6. 10YR3/3 暗褐色土層 直径10mm以下の焼土粒子10%、直径20mm以下の砂質粘土粒子30%、直径5mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
7. 10YR2/1 黒色土層 直径7mm以下の焼土粒子15%、直径3mm以下のローム粒子(10YR3/4)3%、直径2～5mmの砂質粘土粒子(10YR5/4)5%、直径2mm以下の炭化物粒子2%、直径2mm以下の浅黄色砂質粘土粒子(2.5Y7/4)1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
8. 10YR3/1 黒褐色土層 直径10mm以下の焼土粒子20%、直径5mm以下のローム粒子(10YR5/8)5%、直径10mm以下の砂質粘土ブロック(10YR5/4)15%、直径2mm以下の炭化物粒子2%、直径3mm以下の浅黄色砂質粘土粒子(2.5Y7/4)2%、直径2mm以下の黒色土ブロック(N1.5/0)3%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
9. 10YR2/2 黒褐色土層 直径8mm以下の焼土粒子・ブロック10%、直径2mm以下のローム粒子(10YR3/4)2%、直径10mm以下の砂質粘土粒子(10YR5/4)5%、直径5mm以下の炭化物粒子3%、直径10mm以下の浅黄色砂質粘土粒子(2.5Y7/4)2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
10. 10YR2/2 黒褐色土層 直径8mm以下の焼土粒子・ブロック7%、直径5mm以下のローム粒子(10YR3/4)3%、直径3mm以下の砂質粘土粒子(10YR5/4)5%、直径2mm以下の炭化物粒子1%、直径10mm以下の浅黄色砂質粘土粒子(2.5Y7/4)12%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
11. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の焼土粒子2%、直径3mm以下のローム粒子(10YR5/8)1%含む。粘性ややあり、締まりなし、粒子粗い。
12. 10YR2/3 黒褐色土層 直径8mm以下の焼土粒子・ブロック7%、直径3mm以下のローム粒子(10YR3/4)2%、直径8mm以下の砂質粘土粒子(10YR5/4)7%、直径2mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
13. 10YR2/2 黒褐色土層 直径6mm以下の焼土粒子・ブロック3%、直径3mm以下のローム粒子(10YR3/4)5%、直径5mm以下の砂質粘土粒子(10YR5/4)5%、直径3mm以下の炭化物粒子2%、直径8mm以下の浅黄色砂質粘土粒子(2.5Y7/4)2%含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
14. 10YR3/1 黒褐色土層 直径15mm以下の焼土粒子・ブロック15%、直径3mm以下のローム粒子(10YR3/4)5%、直径10mm以下の砂質粘土粒子(10YR5/4)7%、直径3mm以下の炭化物粒子5%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや粗い。
15. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の焼土粒子7%、直径7mm以下のローム粒子(10YR3/4)5%、直径20mm以下の浅黄色砂質粘土粒子(2.5Y7/4)2%含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
16. 10YR2/2 黒褐色土層 直径4mm以下の焼土粒子・ブロック2%、直径2mm以下のローム粒子(10YR3/4)3%、直径5mm以下の砂質粘土粒子(10YR5/4)2%、直径5mm以下の炭化物粒子5%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
17. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径5mm以下の焼土粒子3%、直径2mm以下のローム粒子(10YR5/8)2%、直径1mmの砂質粘土粒子(10YR5/4)1%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや密。
18. 10YR2/2 黒褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%、直径3mm以下のローム粒子(10YR5/8)10%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
19. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の焼土粒子5%、直径3mm以下のローム粒子(10YR5/8)7%、直径2mm以下の黒色土粒子(10YR2/1)3%含む。粘性あり、締まりなし、粒子粗い。
20. 10YR2/2 黒褐色土層 ローム粒子(10YR4/6)40%偏在。直径1mmの明赤褐色スコリア(2.5YR5/8)3%、直径5mm以下のにぶい黄褐色土ブロック(10YR5/4)7%含む。粘性ややあり、締まりなし、粒子極めて粗い。
21. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の焼土粒子1%、直径10mm以下のロームブロック・粒子(10YR5/8)10%、直径10mm以下の砂質粘土粒子(10YR5/4)3%、直径5mm以下の黒色土ブロック(N1.5/0)2%含む。粘性あり、締まりなし、粒子極めて粗い。
22. 7.5YR2/2 黒褐色土層 ローム粒子(7.5YR4/6)10%偏在。直径3mm以下の焼土粒子10%、直径3mm以下の炭化物粒子5%含む。粘性あり、締まりなし、粒子粗い。
23. 10YR2/2 黒褐色土層 直径20mm以下のロームブロック(7.5YR4/6)7%、直径1mmの赤褐色スコリア(5YR4/8)2%、直径5mm以下の炭化粒子1%含む。粘性強、締まりなし、粒子粗い。
24. 10YR2/3 黒褐色土層 直径3mm以下のローム粒子(7.5YR4/6)25%偏在。直径1mmの赤褐色スコリア(5YR4/8)2%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
25. 10YR2/3 黒褐色土層 黒色土(10YR2/1)10%偏在。直径5mm以下のロームブロック(10YR4/6)10%、直径5mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
26. 10YR3/3 暗褐色土層 ローム・黒色土混合土層。直径10mm以下の黒褐色土ブロック(10YR2/2)10%、直径3mm以下のローム粒子(10YR4/6)5%、直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
27. 7.5YR1.7/1 黒色土層 炭化材を多く含む土層。直径5mm以下の砂質粘土粒子(10YR4/4)5%、直径3mm以下の焼土粒子3%、直径15mm以下のロームブロック(7.5YR5/8)2%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア(2.5Y4/6)1%含む。粘性強、締まり極めて強、粒子やや密。
28. 7.5YR2/1 黒色土層 粘土粒子・ブロック40%含む。直径10mm以下の焼土ブロック7%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア(2.5Y4/6)2%含む。粘性強、締まり極めて強、粒子密。
29. 10YR3/3 暗褐色土層 ローム粒子主体。直径3mm以下の焼土粒子3%、直径3mm以下の炭化物粒子3%、直径2mm以下の砂質粘土粒子(10YR5/4)2%含む。粘性強、締まり強、粒子密。
30. 10YR2/3 黒褐色土層 硬化面。暗褐色土・黒褐色土混合土層。直径15mm以下の焼土ブロック5%、直径20mm以下のロームブロック(7.5YR4/6)3%、直径15mm以下の砂質粘土ブロック3%含む。粘性強、締まり極めて強、粒子やや密。
31. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径5mm以下のロームブロック(7.5YR4/6)5%、直径5mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)2%含む。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。
32. 10YR2/1 黒色土層 硬化面。直径20mm以下のロームブロック15%、直径5mm以下の明赤褐色スコリア(2.5Y4/6)7%、直径2mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性あり、締まり極めて強、粒子密。
33. 10YR2/3 黒褐色土層 直径30mm以下のロームブロック・粒子(10YR4/6)30%混在。直径5mm以下の明赤褐色スコリア(2.5Y4/6)2%含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
34. 10YR3/3 暗褐色土層 砂質粘土40%含む。直径15mm以下の焼土ブロック5%、直径3mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや密。
35. 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 砂質粘土主体。黒色土(10YR2/1)30%偏在。直径5mm以下の焼土粒子3%、直径2mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
36. 10YR2/3 黒褐色土層 砂質粘土斑文状に30%含む。直径5mm以下の焼土粒子3%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。

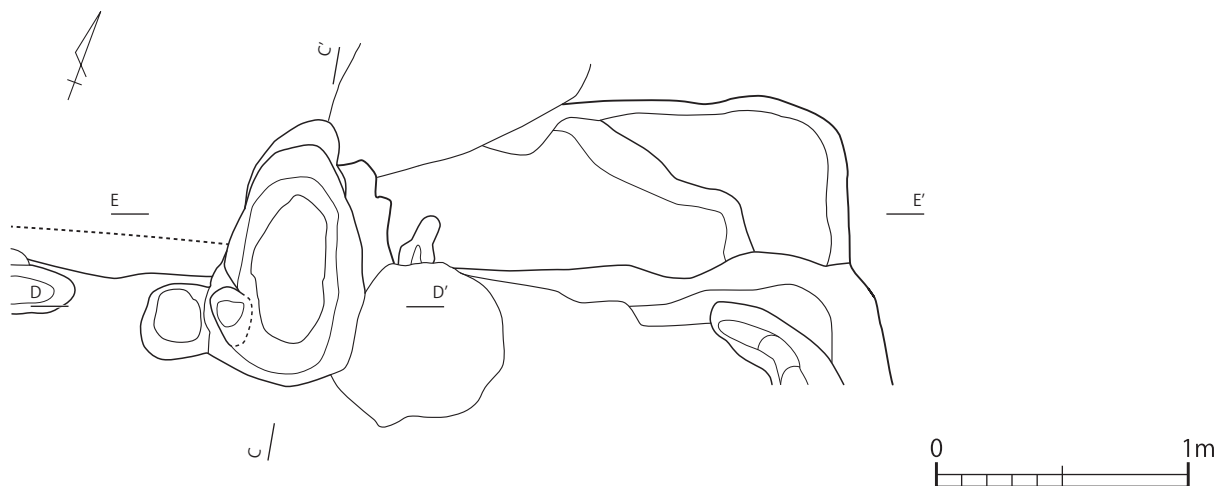
P1

1. 10YR2/3 黒褐色土層 直径30mm以下のロームブロック・粒子(10YR4/6)40%混在。直径3mm以下の明赤褐色スコリア(2.5Y4/6)7%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。

カマド・棚状施設



掘方



第 165 図 SI58(3) カマド・棚状施設 (1/30)

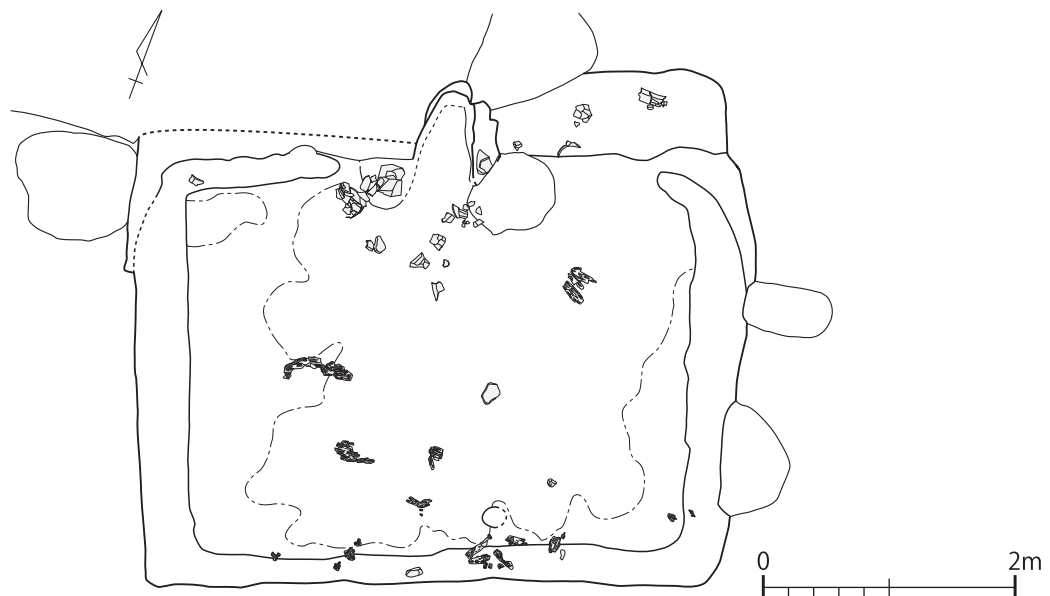
カマド

1. 10YR2/2	黒褐色土層	砂質粘土粒子 20% 偏在。直径 5mm 以下の焼土粒子 3%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
2. 7.5YR2/1	黒色土層	砂質粘土・黒色土混合土層。直径 5mm 以下の焼土ブロック 2%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子極めて粗い。
3. 10YR3/2	黒褐色土層	砂質粘土粒子・ブロック主体。直径 5mm 以下の焼土粒子 7%、長さ 5mm 以下の炭化材料 2%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6) 1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
4. 10YR3/2	黒褐色土層	砂質粘土主体。黒色土 (10YR2/1) 20% 偏在。直径 3mm 以下の焼土粒子 2%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 5% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
5. 10YR4/4	褐色土層	砂質粘土層。下部に焼土粒子 5% 偏在。粘性強、締まり強、粒子密。
6. 5YR4/6	赤褐色土層	砂質粘土・焼土粒子混合土層。粘性強、締まり強、粒子粗い。
7. 5YR4/6	赤褐色土層	焼土粒子・砂質粘土混合土層。直径 5mm 以下の炭化物粒子 2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
8. 10YR2/3	黒褐色土層	直径 15mm 以下の焼土ブロック 10%、粘土 15% 偏在。直径 8mm 以下の黒色土ブロック (10YR2/1) 3%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
9. 7.5YR3/4	暗褐色土層	直径 5mm 以下の凝灰質砂岩ブロック 10%、直径 5mm 以下の焼土ブロック 3% 含む。粘性極めて強、締まりなし、粒子極めて粗い。
10. 5YR3/4	暗赤褐色土層	被熱して強く硬化した焼土主体。長さ 10mm 以下の炭化材料 2% 含む。
11. 10YR4/3	にぶい黄褐色土層	砂質粘土主体。黒色土 (10YR2/1) 30% 偏在。直径 3mm 以下の焼土粒子 5% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
12. 5YR4/6	赤褐色土層	被熱した砂質粘土層。粘性極めて強、締まりあり、粒子密。
13. 5YR4/8	赤褐色土層	被熱した砂質粘土層。黒褐色土 10% 混在。粘性極めて強、締まりなし、粒子極めて粗い。
14. 10YR4/4	褐色土層	砂質粘土主体。黒色土 (10YR2/1) 10% 偏在。直径 5mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
15. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 10mm 以下の焼土ブロック 5%、直径 5mm 以下の凝灰質砂岩片 10%、直径 3mm 以下の砂質粘土粒子 (10YR4/4) 3% 含む。粘性あり、締まり強、粒子粗い。
16. 2.5YR4/8	赤褐色土層	焼けた砂質粘土ブロック層。粘性あり、締まりなし、粒子粗い。
17. N1.5/0	黒色土層	直径 7mm 以下の焼土ブロック 5%、直径 5mm 以下の凝灰質砂岩ブロック 2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
18. 7.5YR1.7/1	黒色土層	直径 5mm 以下の砂質粘土粒子 (10YR4/4) 3%、直径 3mm 以下の焼土粒子 3%、直径 10mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性極めて強、締まりあり、粒子やや密。
19. 10YR3/3	暗褐色土層	砂質粘土主体。直径 7mm 以下の焼土ブロック 7%、直径 10mm 以下の明黄褐色土ブロック 1%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
20. 10YR2/3	黒褐色土層	砂質粘土主体。直径 15mm 以下の焼土ブロック 10%、長さ 5mm 以下の炭化材料 3% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
21. 7.5YR3/2	暗褐色土層	砂質粘土主体。黒褐色土を斑文状に 10% 含む。直径 10mm 以下の焼土ブロック 3%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 3%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5Y4/6) 1% 含む。粘性極めて強、締まりあり、粒子やや密。
22. 7.5YR3/3	暗褐色土層	焼土粒子主体。直径 5mm 以下の焼土ブロック 10%、直径 7mm 以下の黒色土ブロック (N1.5/0) 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
23. 10YR4/3	にぶい黄褐色土層	砂質粘土層。直径 2mm 以下の焼土粒子 5% 含む。粘性極めて強、締まり極めて強、粒子密。
24. 10YR4/3	にぶい黄褐色土層	砂質粘土主体。黒色土 (10YR2/1) 40% 偏在。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
25. 10YR3/3	暗褐色土層	砂質粘土主体。直径 3mm 以下の焼土粒子 3%、直径 3mm 以下の黒色土粒子 (10YR2/1) 2% 含む。粘性強、締まり強、粒子粗い。
26. 10YR4/3	にぶい黄褐色土層	砂質粘土主体。焼土 15% 混在。直径 5mm 以下の黒色土粒子 (10YR2/1) 1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
27. 10YR3/4	暗褐色土層	砂質粘土主体。黒褐色土 5% 偏在。直径 5mm 以下の焼土ブロック 3% 含む。粘性極めて強、締まりあり、粒子やや密。
28. 10YR2/3	黒褐色土層	砂質粘土主体。黒褐色土 30% 偏在。直径 3mm 以下の焼土粒子 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
29. 10YR4/6	褐色土層	砂質粘土主体。直径 5mm 以下の焼土ブロック 5%、直径 5mm 以下の黒色土粒子 (N1.5/0) 5% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
30. 10YR5/4	にぶい黄褐色土層	砂質粘土層。直径 5mm 以下の焼土ブロック 5% 含む。粘性極めて強、締まりややあり、粒子密。
31. 10YR4/6	褐色土層	砂質粘土主体。直径 5mm 以下の焼土粒子 5% 含む。粘性極めて強、締まりあり、粒子やや粗い。
32. 10YR4/6	褐色土層	砂質粘土主体。黒色土 (N1.5/0) 20% 偏在。直径 7mm 以下の焼土ブロック 5% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
33. 10YR3/3	暗褐色土層	直径 7mm 以下の焼土ブロック 5%、直径 3mm 以下の凝灰質砂岩ブロック 2% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
34. 10YR3/2	黒褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 10mm 以下の砂質粘土ブロック 10%、直径 5mm 以下の黒色土粒子 (N1.5/0) 2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
35. 10YR3/4	暗褐色土層	砂質粘土主体。直径 5mm 以下の焼土粒子 5% 含む。粘性極めて強、締まりあり、粒子やや粗い。
36. 10YR4/6	褐色土層	砂質粘土主体。黒色土斑文状に 20%、直径 5mm 以下の焼土粒子 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
37. 10YR4/6	褐色土層	砂質粘土主体。黒色土斑文状に 20%、直径 5mm 以下の焼土ブロック 5% 含む。粘性強、締まり粗い、粒子密。
38. 10YR3/3	暗褐色土層	黒色土 (10YR2/1) 10% 偏在。直径 7mm 以下の焼土ブロック 3%、直径 10mm 以下の凝灰質砂岩ブロック 5% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。

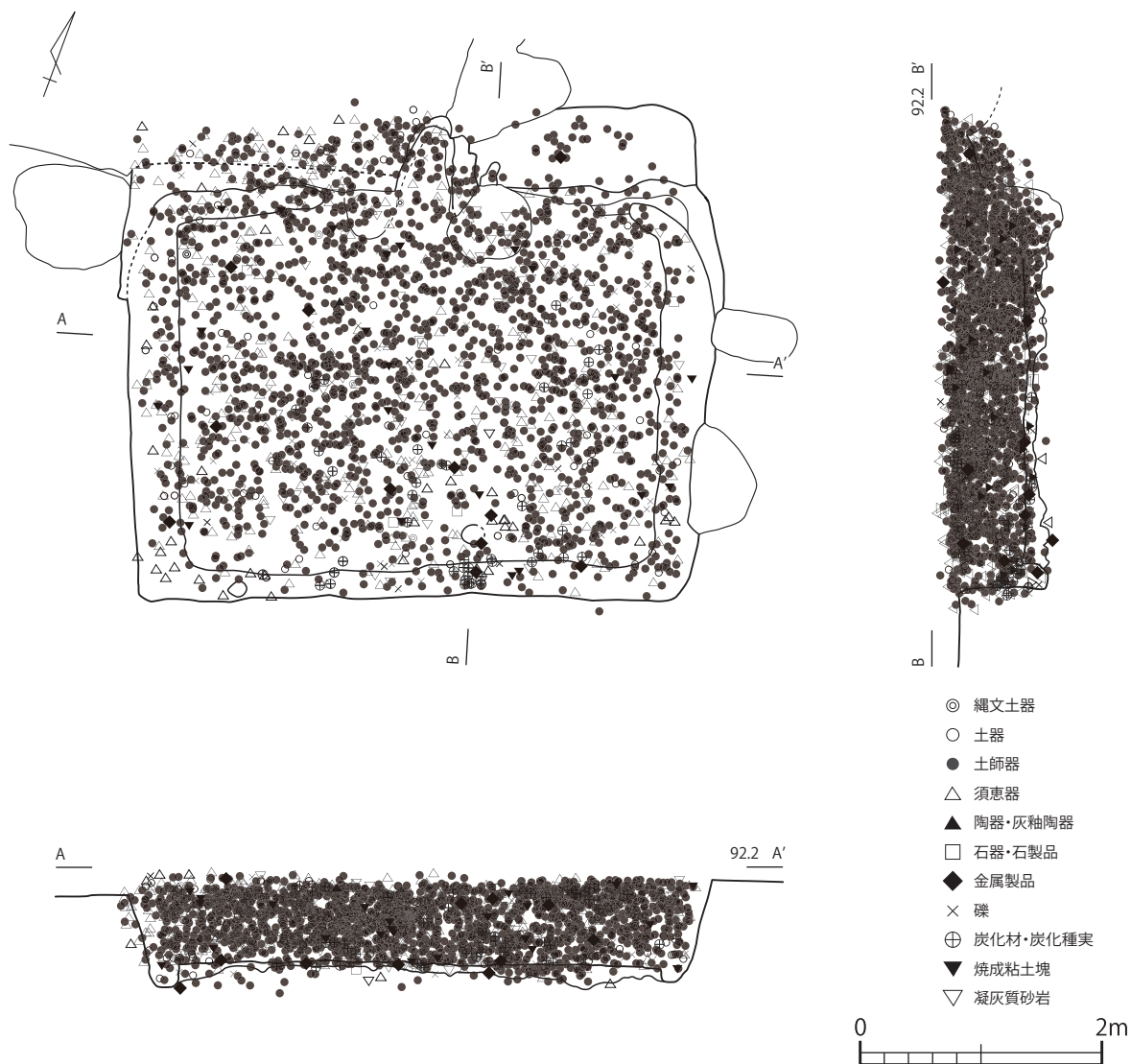
柵状施設 E-F

51. 10YR3/3	暗褐色土層	直径 20mm 以下の砂質粘土粒子・ブロック (10YR4/4) 40% 偏在。直径 2～3mm の焼土粒子 (2.5YR6/8) 2%、直径 1mm 以下の白色粒子 1% 含む。粘性あまりなし、締まり極めて強、粒子密。
52. 10YR4/4	褐色土層	砂質粘土塊主体。黒褐色土 (10YR2/3) 15% 偏在。直径 3mm 以下の焼土粒子 (2.5YR6/8) 2%、直径 1mm 以下の白色粒子 1% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
53. 10YR2/3	黒褐色土層	直径 10mm 以下の砂質粘土粒子・ブロック (10YR4/4) 15%、直径 3mm 以下の焼土粒子 (2.5YR6/8) 3% 含む。粘性強、締まり強、粒子粗い。
54. 10YR4/2	灰黄褐色土層	直径 2mm 以下の焼土粒子 (2.5YR6/8) 1%、直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (2.5Y6/6) 2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
55. 10YR2/3	黒褐色土層	直径 10mm 以下の砂質粘土ブロック (10YR4/4) 5%、直径 3mm 以下の焼土粒子 2%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8) 1% 含む。粘性あまりなし、締まり極めて強、粒子密。
56. 10YR3/3	暗褐色土層	第 163 図 34 層に同じ。
57. 10YR4/3	にぶい黄褐色土層	第 163 図 35 層に同じ。

遺物出土状況



第 166 図 SI58(4) 遺物出土状況図 (1/60)



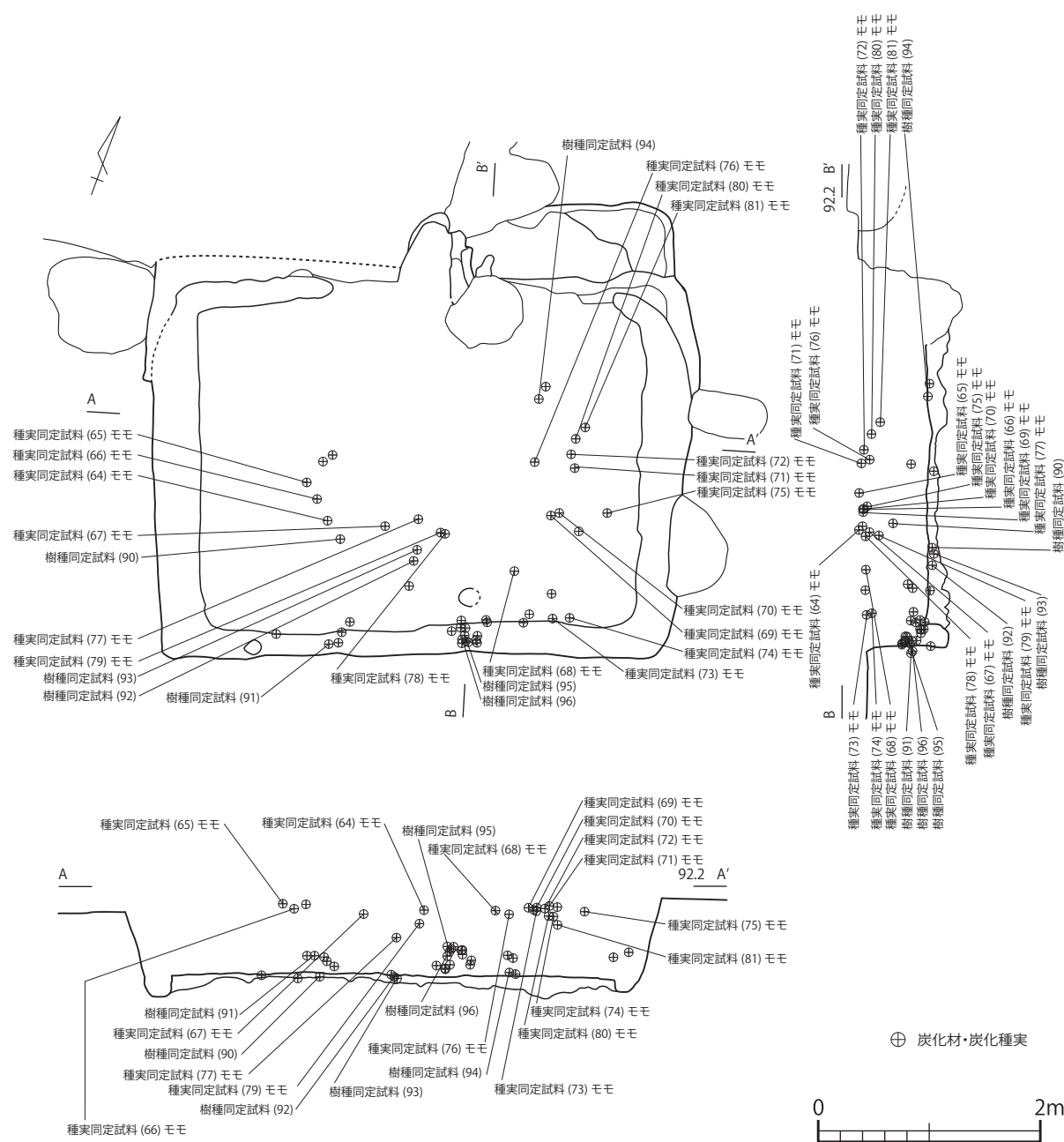
第 167 図 SI58(5) 遺物分布図 (1/60)

立柱建物跡 E を構成するピットがあったことが想定されるが、検出し得なかった。これは、帰属時期の近接した SI58 と SI63 が重複した地点であったことと、ピットの存在を予想していなかったことによる。

平面形態は長方形で、その規模は東西 501cm、南北 411cm で東西に長く、検出面から床面までの深さは 76cm を測る。壁はやや開きながら直線的に立ち上がっている。主軸方向は N-20°-W を指す。

床面は貼床で、壁際を除く広い範囲が硬化し、壁溝はカマド及びカマド右袖付近を除いて全周する。カマドは北壁の中央部に構築され、カマドの東には、棚状の施設が確認された。支柱穴は確認されなかったが、南壁際の中央部に、梯子穴の可能性のある小ピット P1 が確認された。

床面までの覆土は 18 層に分けられた。概ね黒褐色土を主体としており、1・10・12・16 の各層は、焼土の粒子やブロック、砂質粘土の粒子を比較的多く含んでおり、特に焼土は、2・5・7・8・14 の各層で顕著にみられた。また、一部の層では炭化物粒子の混入も見られた。11・17・19 層は壁に沿って薄く堆積しており、壁体と関連する土層だった可能性がある。18・20・21・23・24 層は壁溝の



第 168 図 SI58(6) 遺物分布図 (炭化材・炭化種実)(1/60)

覆土で、いずれもロームの粒子やブロックを多く含む傾向にある。

掘方はVS層まで掘り込まれているが、床面の中央部分では掘り込みが浅くなっている、一部はほぼ床面と同じ高さになっている。また、全面的に細かな凹凸を多数有している。掘方充填土は9層に分けられた。床面の大部分を占める28層は粘土の粒子やブロックを多く含むほか、焼土粒子も含んでいて、非常に強く突き固められている。中～下層で広くみられる32・33層はロームを多く含む。

壁溝は、前述の通りカマド及びカマド右袖部分を除いて全周して、幅は最大で24cm、床面からの深さは22cmを測る。覆土にはロームを含有している。

P1は、掘方掘削時に南北方向のベルト側面で検出された。上部の一部は掘削により湮滅してしまっ

たが、床面から掘り込まれており、推定で直径 16 ～ 19cm、床面からの深さは 18cm を測る。覆土にはロームの粒子やブロックを多く含んでいる。その位置から、梯子穴の可能性が想定される。

棚状施設は、北壁のカマドより東側の壁より奥で検出された。幅 187cm、奥行 72cm で、検出面からの深さは深い部分で 27cm を測る。底面には段差があり東側が一段高くなっていて、こちらの検出面からの深さは 10cm である。覆土は 7 層に分けられた。砂質粘土が占める割合が高く、51 層は砂質粘土粒子が 40%、52 層は砂質粘土が主体、53 層は砂質粘土粒子とブロックが 15% で、それぞれ焼土粒子が少量含まれる。棚状施設は、カマドの西側にもあった可能性があるが、前述の通り SI63 により北壁西側が湮滅しており不明である。

カマドは 1 基で、北壁の中央部を U 字状に掘り込んで構築されていた。右袖の広い範囲を SP925、左袖から奥へ近かけての大部分を SI63 に切られ、更に右袖の一部は調査中の崩落によって壊れており、遺存状況は芳しくなかった。

袖は、左右共に凝灰質砂岩の切石を芯材として、砂質粘土により構築されていたものと思われるが、前述の通り、左袖は芯材も含め下部のみが残存していた。側壁や奥壁についても、残存部の状況から、砂質粘土を主体として構築されていたと推定される。なお、カマド前面の床面付近に多くの粘土の流出が確認できたことから、砂質粘土を主体に構築されていたと見て差し支えないであろう。火床部は、左右両袖間で確認することができた。建物床面とほぼ同じ高さで、被熱赤化した砂質粘土粒子が敷き詰められたような状況であった。

その他、カマドより東側の北壁では、壁面に砂質粘土の付着が顕著に認められた。その上部の棚状施設では、砂質粘土内から土師器甕が出土しており、これをカマドの構築に関連する遺物と考え、この壁の砂質粘土部分を袖とする旧カマドが存在していた可能性も考えられる。

また、採取したカマドの覆土の一部に対して水洗選別を行い、炭化種実 6 点を抽出した。同定の結果、アワやイネの穎果、ヒエ属の可能性のある穎果等であることが分かった（第 V 章第 1 節参照）。（相原）

第 167 図に示すように、遺物は建物全体、覆土の上層から掘方に至るまで分布し、その数は 3,000 点近い。本遺構に帰属する遺物は古代の土師器と須恵器が主体で、その他に金属製品や石製品がある。これらの遺物分布を見ると、土師器や須恵器は全体の傾向と同様で、金属製品や石製品は主に覆土上層と床面から掘方とに分布が分かれる。SI58 として取り上げた遺物には、本来 SI63 に帰属する遺物も含まれていた。おそらくは、遺構廃絶後、何らかの要因で混入したのだろう。

出土遺物には炭化種実および炭化材も含まれており、これらは床面直上や覆土中から出土した。炭化材と炭化種実の一部（モモ核）は、土師器や須恵器等と同様に、位置情報と標高を記録して取り上げており、その分布状況が第 168 図である。それ以外に、カマド覆土の一部を採取し、水洗選別により抽出した炭化種実がある。両者を合わせた 26 点の炭化種実は樹種同定を実施し、その結果、26 点中 18 点がモモ核であることが判明した。そのうち 3 点に食痕が認められた。一方、発掘調査で取り上げた炭化材は約 50 点で、材として長さがあるものは少なく、この中には中空のカヤのような植物も含まれていた。このうち 7 点の樹種同定を行い、カヤ状の炭化材はイネ科草本類で、それ以外の炭化材はクリ、アカガシ亜属、モミ属だと判明した。こうした状況から、出土した炭化材は建物の上屋を含む部材が焼失したものと推察される。本遺構の炭化種実および炭化材の樹種同定の詳細は、第 V 章第 1 節に掲載した。

第 169 図 SI58(7) 遺物接合図 (1/60)

遺物 本遺構からは、総点数 2,967 点、総重量 45,952.3g が出土した。種別・器種ごとの内訳は、古代の土師器 2,044 点 8,177.4g（坏 25 点 144.2g、甕 1,996 点 7,876.1g、台付甕 23 点 157.1g）、古代の須恵器 374 点 2,938.8g（坏 321 点 1,983.1g、高台付坏 6 点 142.1g、埴 5 点 47.5g、蓋 24 点 201.6g、甕 8 点 292.9g、瓶あるいは壺 10 点 271.6g）、古代のロクロ土師器（坏）1 点 7.5g、古代の金属製品 27 点 55.7g（刀子 3 点 20.4g、鉄鏃 18 点 26.3g、不明 6 点 9g）、古代の石製品（砥石）1 点 49.8g、凝灰質砂岩 215 点 20,211.7g、焼成粘土塊 34 点 273.8g、旧石器時代の石器（細石刃）1 点 0.1g、縄文土器 8 点 82.6g（勝坂式 1 点 8.9g、加曽利 E3 式 1 点 11.1g、加曽利 E4 式 1 点 21g、曾利式古手 1 点 6.9g、曾利Ⅳ式 1 点 5.7g、時期型式不明 3 点 29g）、縄文時代の石器 3 点 12.9g（二次加工剥片 1 点 3.6g、剥片 2 点 9.3g）、弥生時代後期～古墳時代前期の土器 82 点 371.6g（壺 30 点 157.4g、甕 33 点 150.3g、台付甕 5 点 17.8g、高坏 2 点 10.4g、鉢 2 点 9g、甕あるいは壺 7 点 22g、器種不明 3 点 4.7g）、近世の陶器（瀬戸・美濃産碗）1 点 2.3g、被熱礫を含む礫 176 点 13,768.2g で、これら以外に炭化種実・炭化材が出土した。

本遺構に伴う遺物は主に古代の土器類、金属製品や石製品、凝灰質砂岩、礫や炭化材等である。それ以外の時代の土器や石器は、混入したものと考えられる。古代の土器類の傾向を見ると、土師器では他の器種に比べ甕が圧倒的に多く、須恵器では坏の出土量が突出して多いことが分かる。こうした傾向は、他の竪穴建物跡とも共通する。古代の遺物の中から、遺存状態が比較的良好なものを抽出し、44 点を図示した。

なお、旧石器時代の細石刃、縄文土器の一部については、遺構外出土遺物として各時代に掲載した。

第 174・175 図 1・2 は土師器坏で、南武蔵型坏である。1 は体部が底部から直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。底部は平底を指向すると思われるが、わずかに弧状を呈する。2 は体下部から底部にかけて遺存し、体部外面には指押さえの痕跡が残る。3～第 176・177 図 18 は須恵器坏である。3 は底径が 7.5cm と大きく、底部は手持ちヘラケズリ調整である。内面には摩耗痕が見られることから、転用硯と考えられる。4 は全体的に厚手のつくりで、口縁部は丸く肥厚する。底部調整は全面回転ヘラケズリである。5～7・11～14 は、体部が底部から直線的に開く器形を呈する。8～10 は体部がやや内湾気味に立ち上がり、9・10 は口縁部がわずかに外反して開く。第 174・175 図に掲載した坏は、底径が 6cm 台後半から 7cm 台前半に収まるものが多く、15 のみ 7cm 台後半である。5～13・15 の底部は、回転糸切り後、外周に回転ヘラケズリを施す。第 176・177 図 16～18 の底径は 5.1～5.5cm で、底部調整は回転糸切り後、無調整の坏である。3～18 は東金子窯、15 は南比企窯の製品である。3 は東金子窯跡群の前内出窯の系統と考えられる。

19・20 は高台付坏である。19 は逆台形を呈する深身の坏部に高台が付く。20 は坏部の形状が不明だが、19 よりも大形の高台付坏である。21 は「ハ」の字状に開く高台が付く埴である。22・23 は須恵器蓋である。22 は全周の 2/3 が遺存し、つまみを欠損する。全体的に厚手のつくりで、口縁端部は直立気味に曲がり、丸みのある形状を呈する。天井部内面には顕著に摩耗する範囲が認められ、転用硯である可能性が高い。転用硯だとすれば、置いた場合の安定性を考え、つまみを意図的に打ち欠いたと推察される。23 は扁平な器形で、口縁端部は屈曲する。19～23 の須恵器はいずれも東金子窯の製品で、21 は前内出窯の製品である。

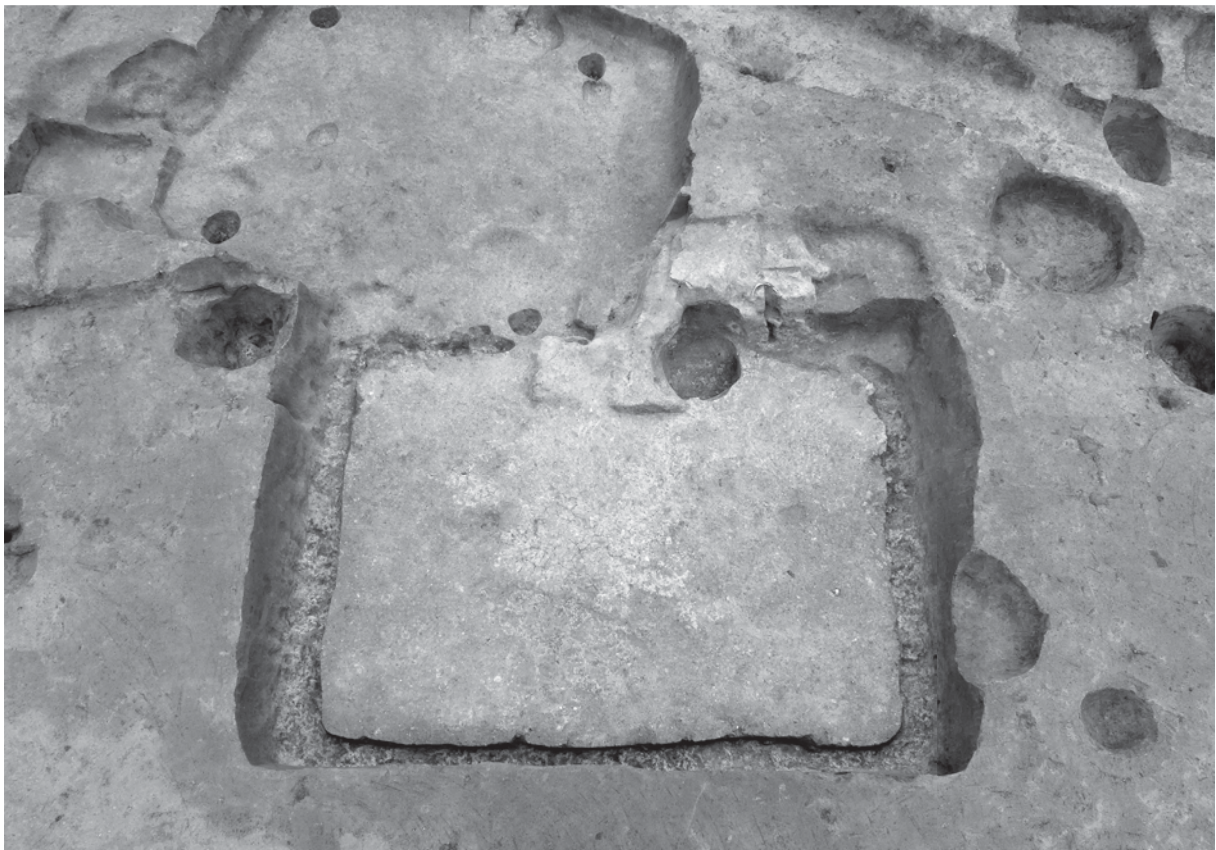
24～第 178・179 図 35 は土師器甕である。24～28 の口縁部は頸部から緩やかに外反する器形で、



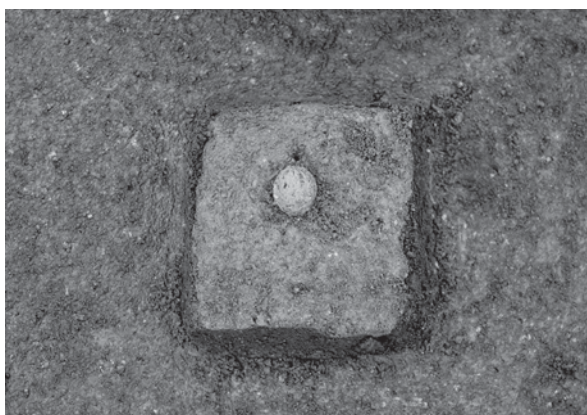
1. 土層断面 A-A' 東北東から



2. 土層断面 B-B' 南南東から



3. 床面全景 南南東から



1. 遺物出土状況 南南東から



2. 遺物出土状況 南南東から



3. 遺物出土状況 南から



4. 遺物出土状況 南南東から



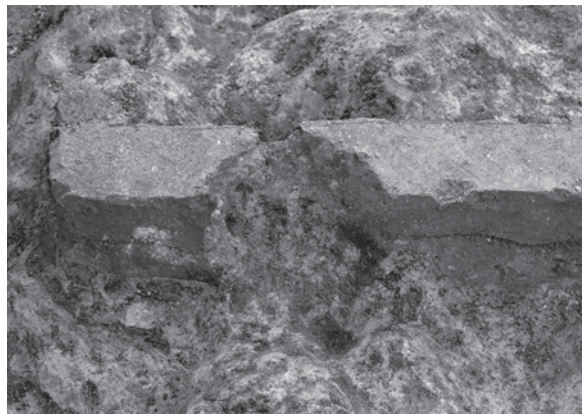
5. 遺物出土状況 北北西から



6. 遺物出土状況 南南東から

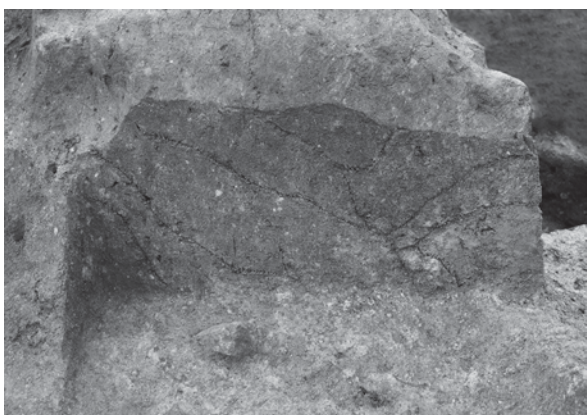


7. 遺物出土状況 南南東から



8. P1 全景 東北東から

第 171 図 SI58 写真 (2)



1. カマド土層断面 I-I' 西南西から



2. カマド・棚状施設土層断面 C-C' 南南東から



3. カマド全景 南から



4. カマド土層断面 G-G' 南南東から



5. カマド掘方土層断面 I-I' 西南西から



6. カマド掘方土層断面 G-G' 南南東から



7. カマド掘方土層断面 C-C' 南南東から



8. カマド掘方全景 南南東から

第 172 図 SI58 写真 (3)



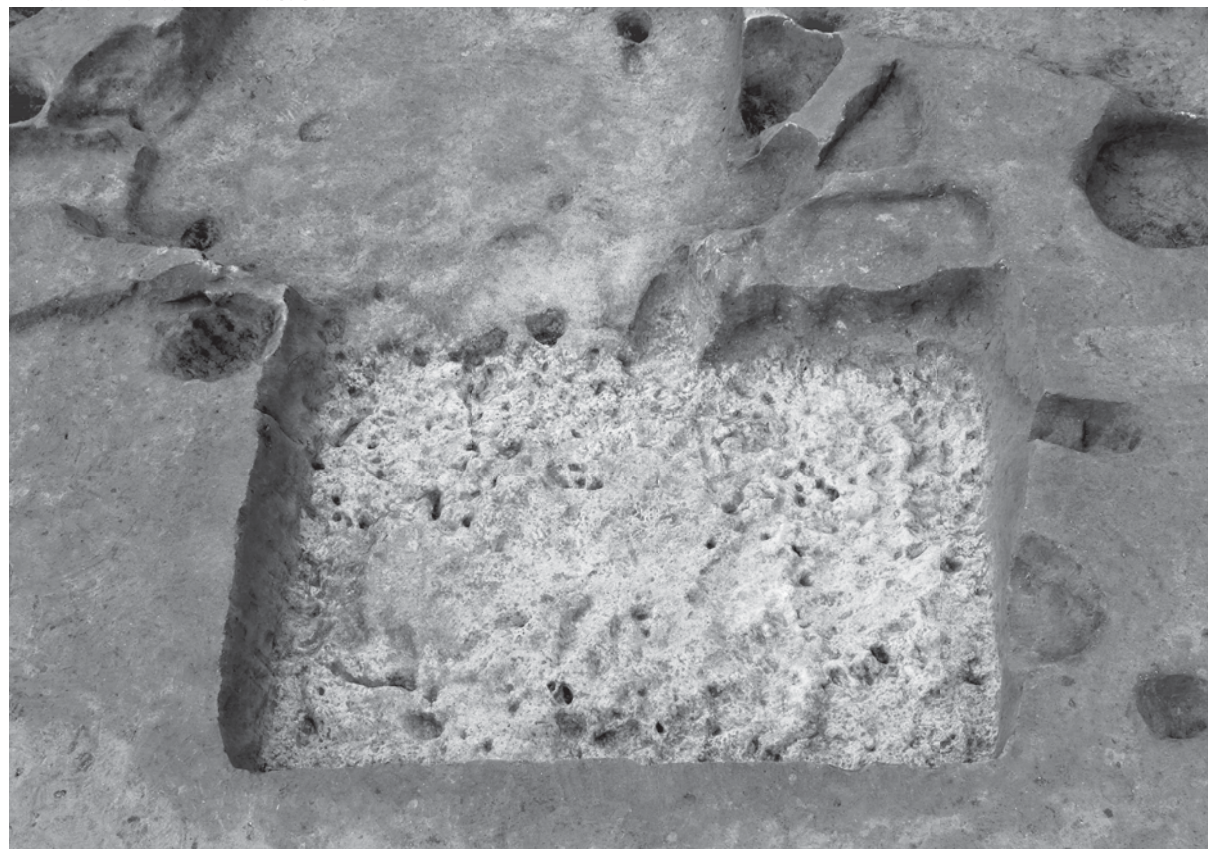
1. 掘方土層断面 A-A' 南側 東北東から



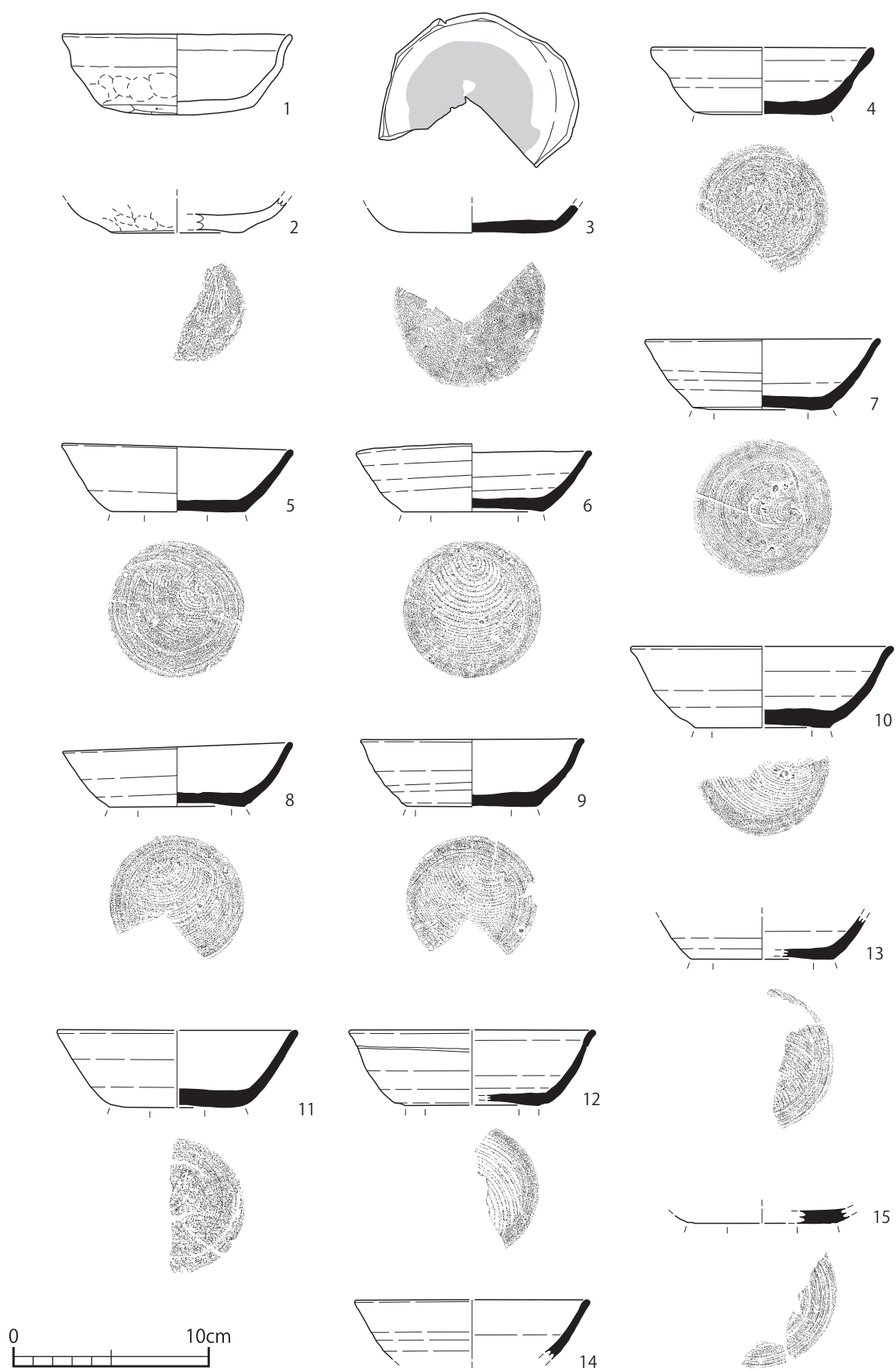
2. 掘方土層断面 A-A' 北側 東北東から



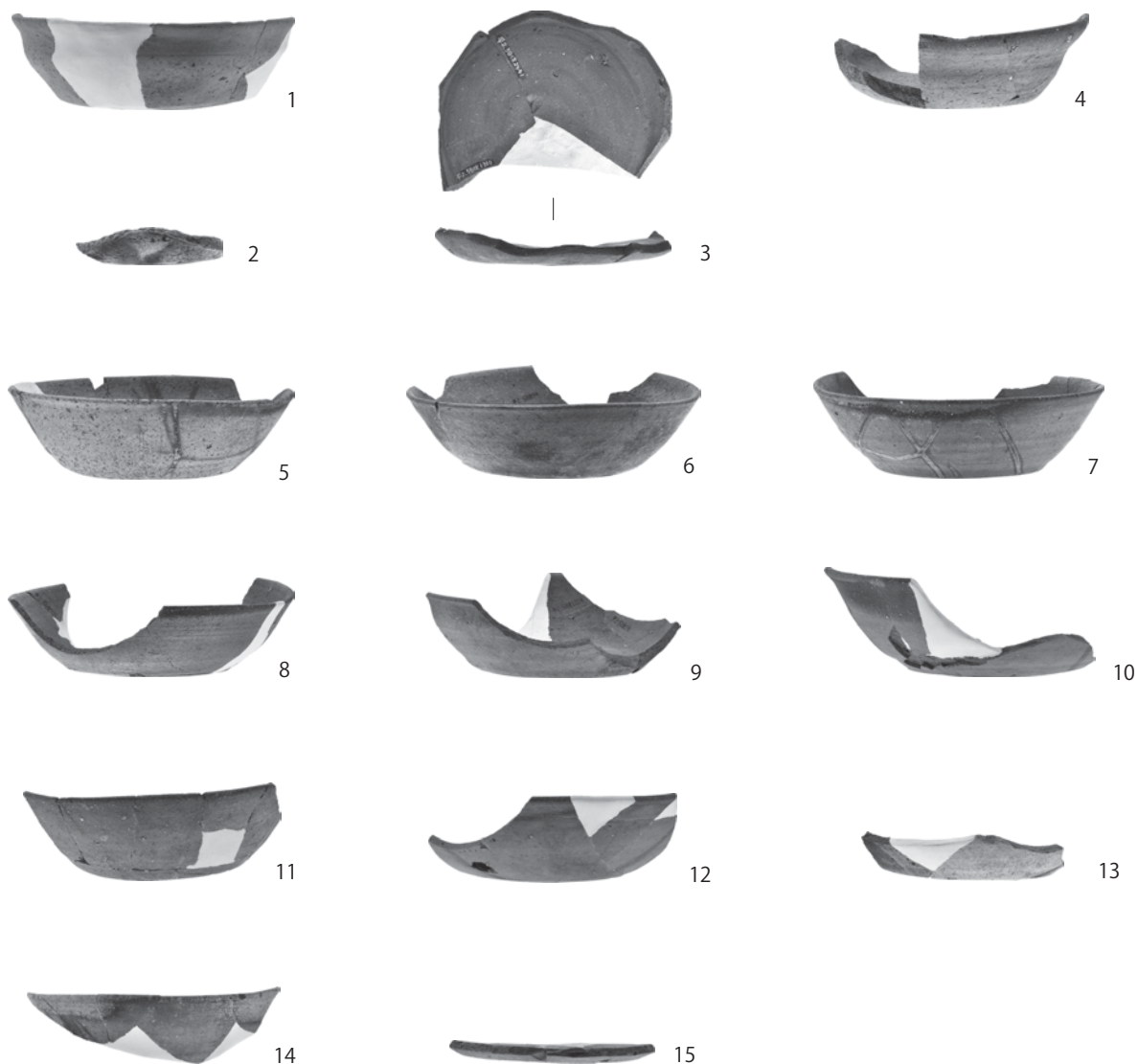
3. 掘方土層断面 B-B' 南南東から



4. 掘方全景 東南東から



第 174 図 SI58 出土遺物 (1)(1/3)



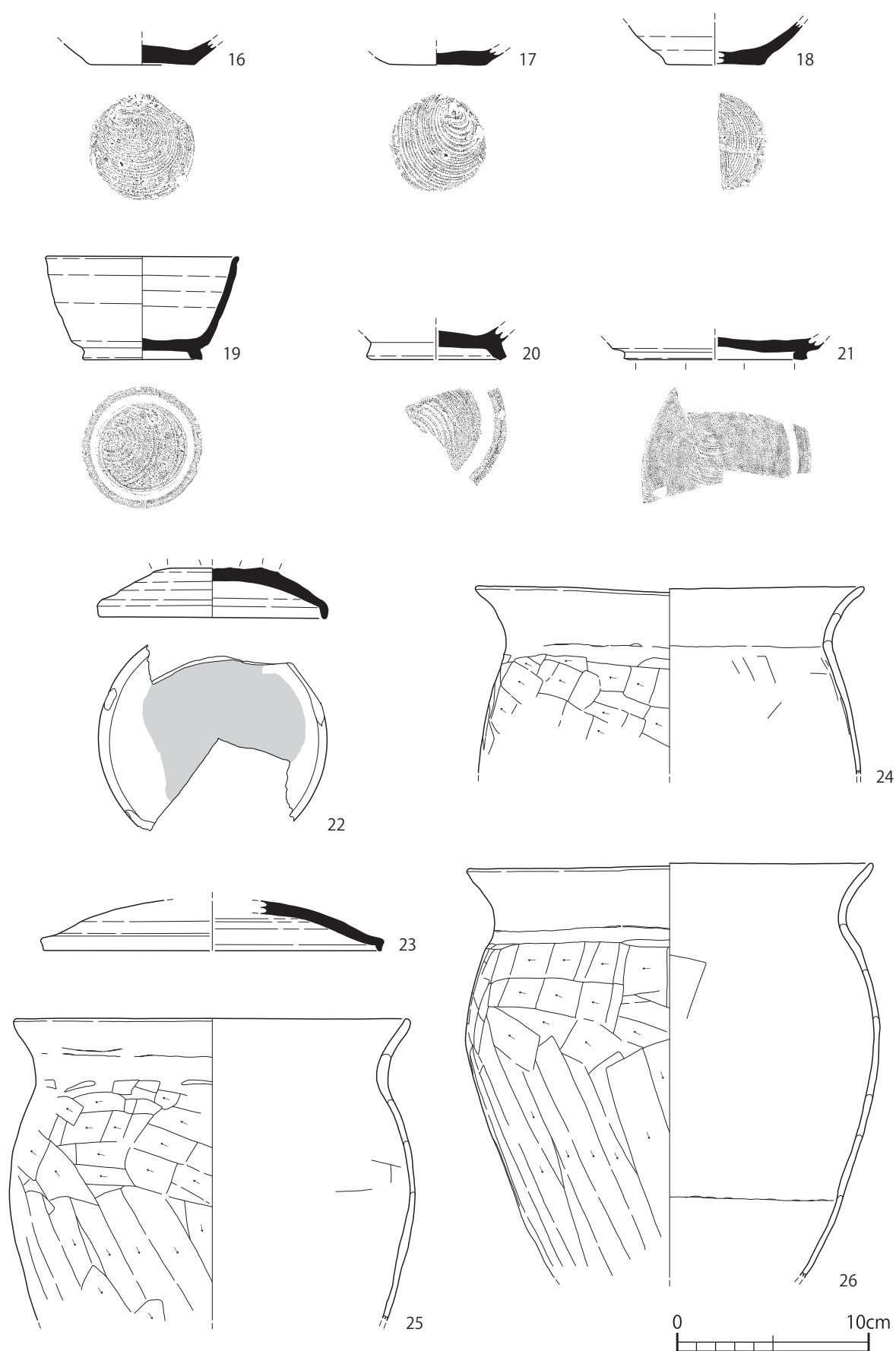
第 175 図 SI58 出土遺物 (1) 写真

頸部以下に横位のヘラケズリを 3～5 段施したのち、胴部は斜位のヘラケズリを施す。24～27 は胴部最大径が上位にある器形を呈する。29 は口縁部が「く」の字状に屈曲する器形で、口縁部全体が肥厚する。30 は頸部から口縁部が「コ」の字形に近い形状を呈している。31～35 は胴下部から底部にかけての破片で、いずれの外面上にも斜位のヘラケズリが見られる。36 は土師器台付甕の脚台部である。37～39 は須恵器甕である。37 の胎土には海綿骨針が含まれることから南比企窯、38・39 は東金子窯の製品である。

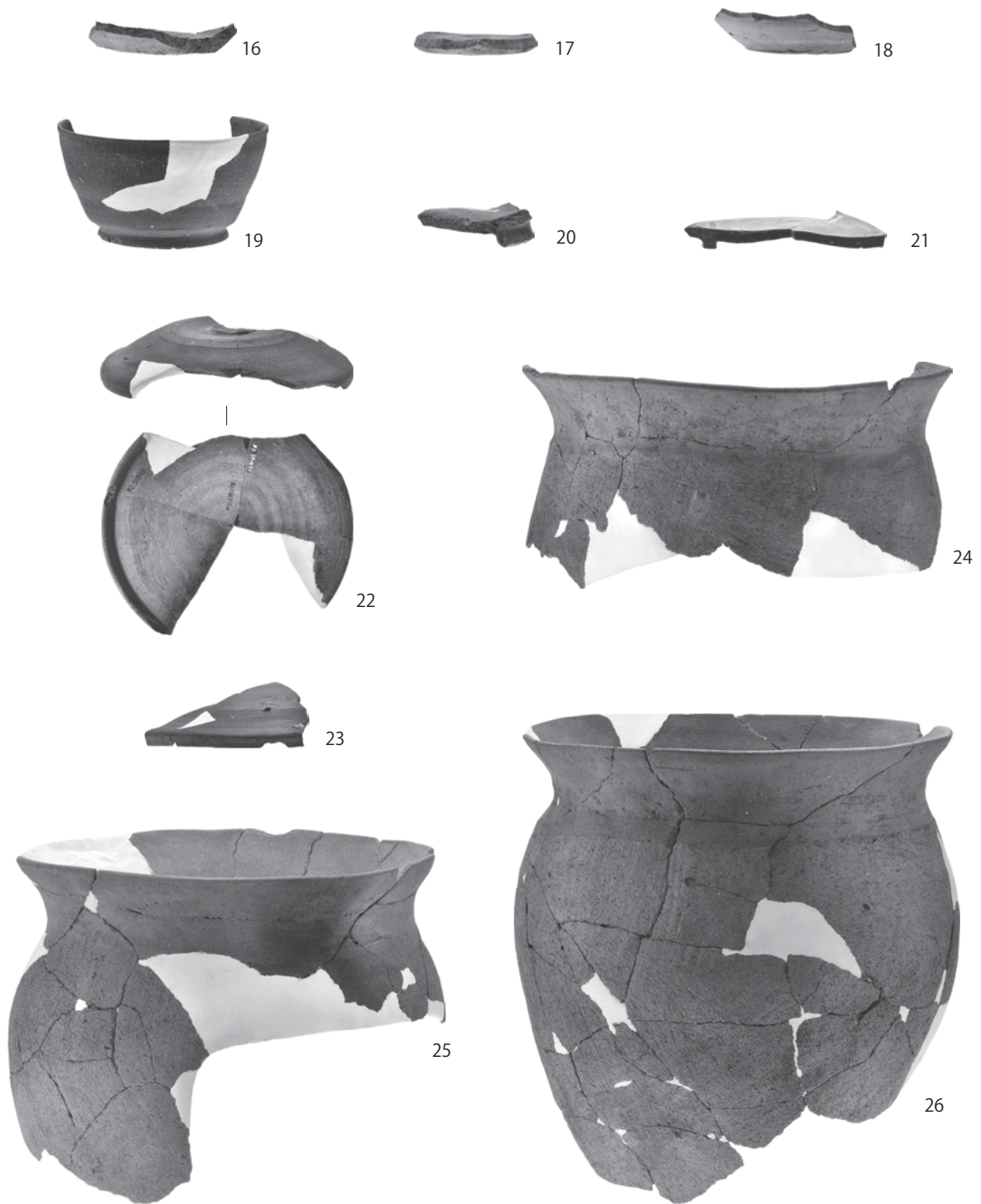
第 180 図 40 は流紋岩製の砥石で、両側面が大きく摩耗している。41・42 は鉄鏃の頸部と茎部である。43・44 は両区平造りの刀子で、同一個体と思われたが接合しなかったため個別に図示した。

本遺構の出土遺物として掲載した土器のうち、16～18 や 29・30 のように他の土器と明らかな時期差が認められる土器は、本来は SI63 に伴う遺物と考えられる。16～18 は本遺構の遺物番号を付して取り上げたが、平面分布を見ると 16 や 18 は SI63 の範囲に分布することが確認できる。

南武蔵型坏の 1・2 は、鶴間正昭による編年（鶴間 2009）の 4 段階（8 世紀末葉～9 世紀中葉）

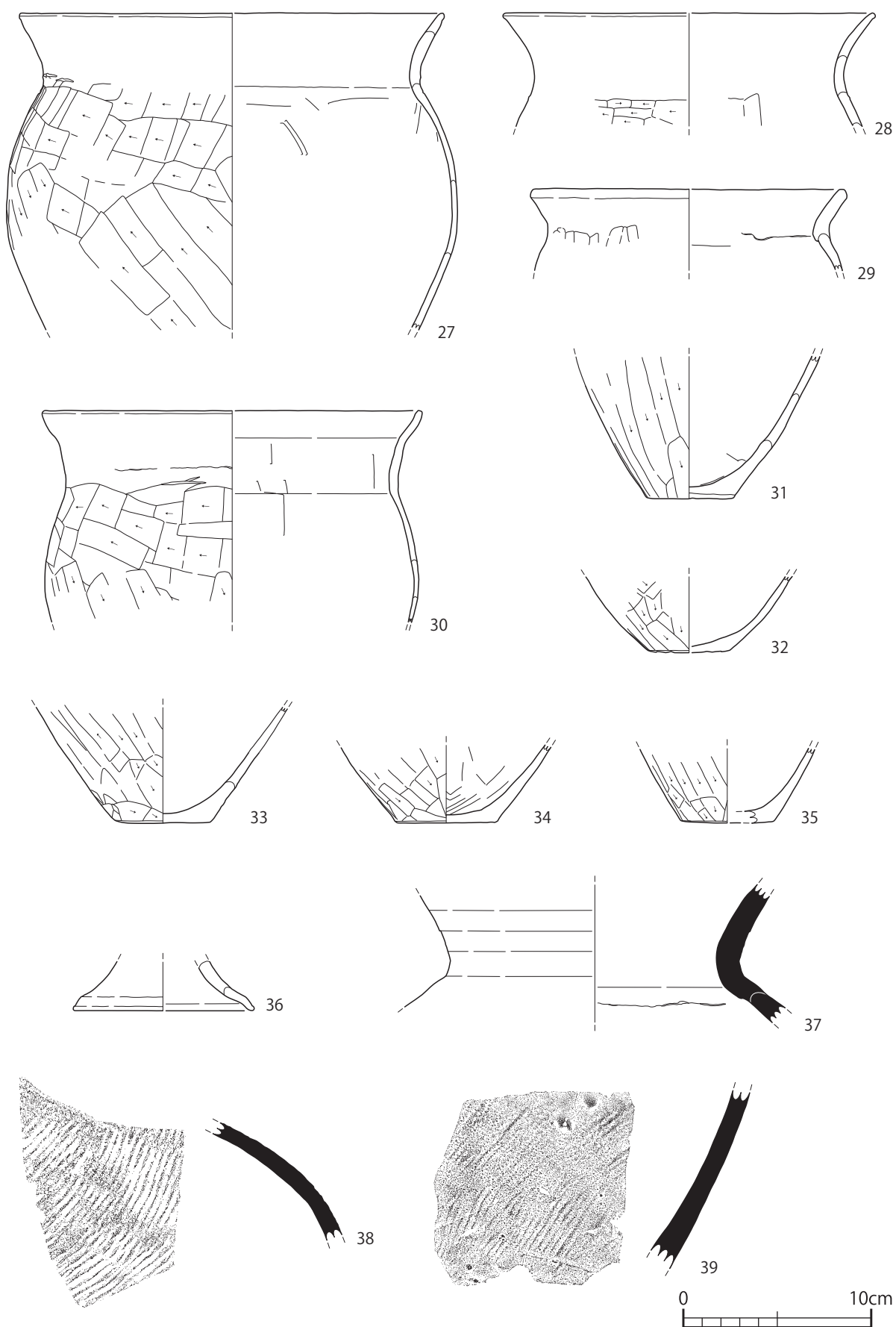


第 176 図 SI58 出土遺物 (2)(1/3)

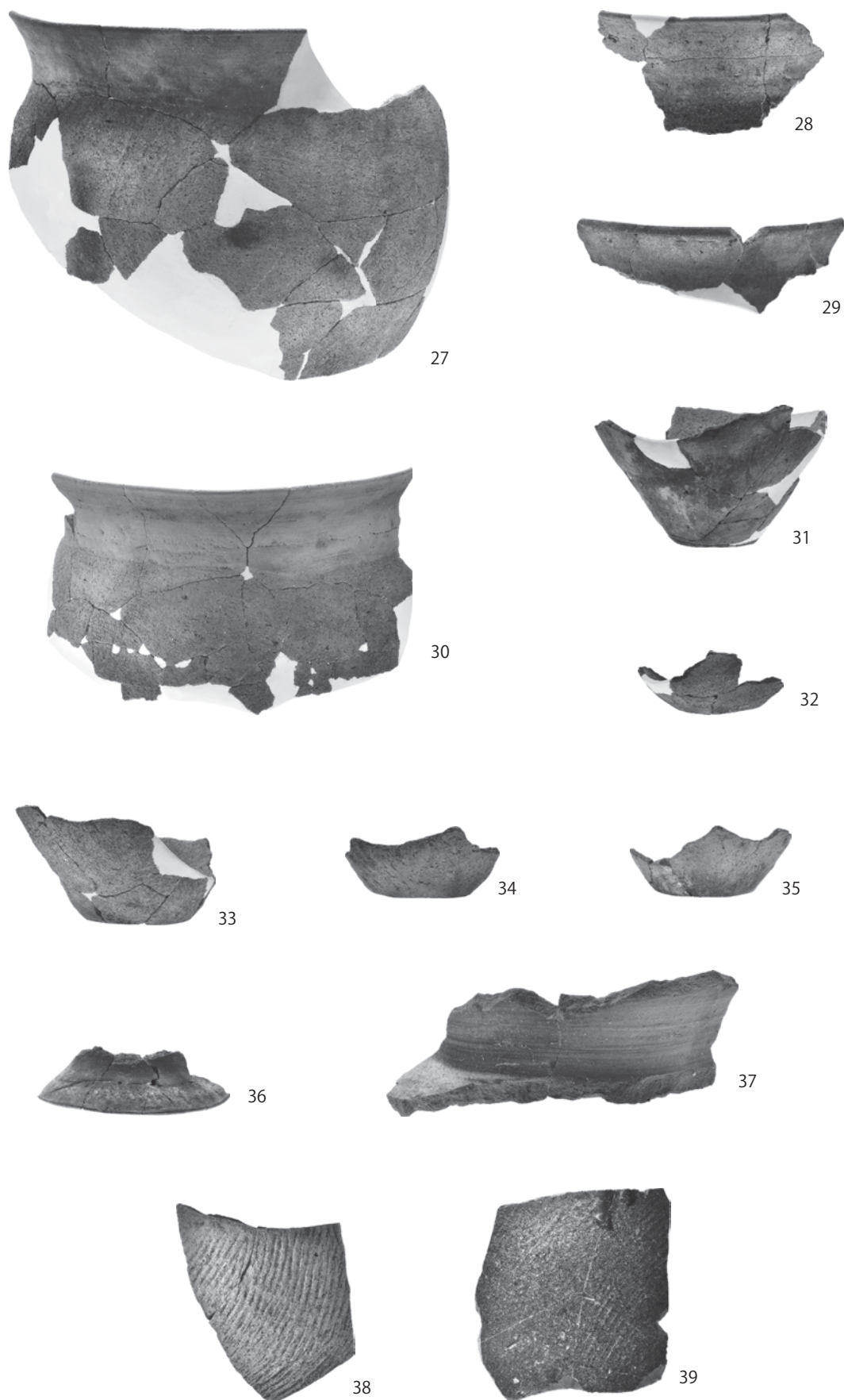


第 177 図 SI58 出土遺物 (2) 写真

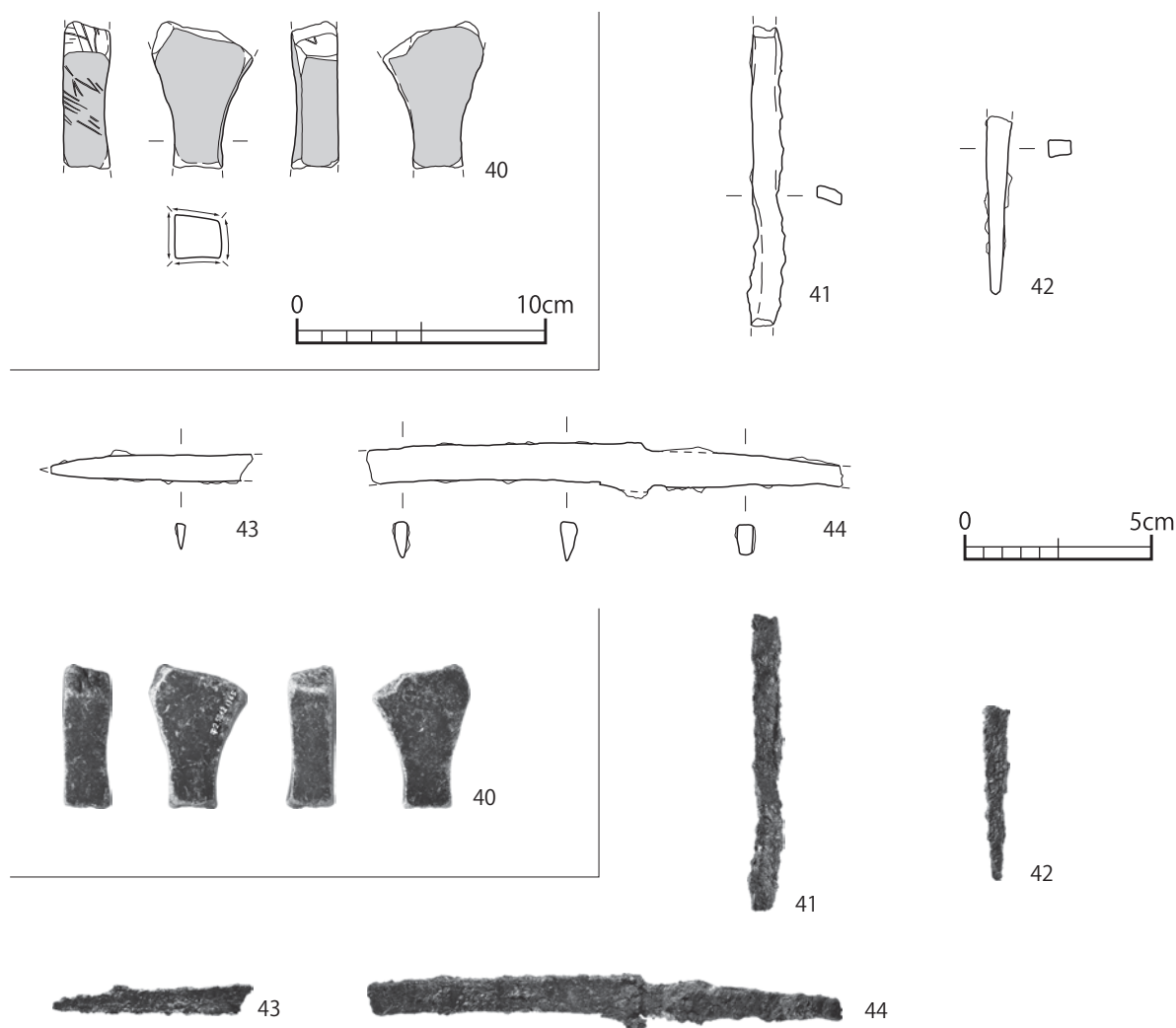
に比定される。須恵器では、4～14の坏や19の高台付坏が南比企窯跡群鳩山編年（渡辺1990）のHⅤ期に位置付けられる。3や21は、それよりもやや古くHⅢ期～HⅣ期に比定されよう。また、SI63からの混入品である16～18の坏はHⅧ期～HⅨ期である。南武蔵型坏や4～14の須恵器坏等の年代観や出土状況から、本遺構の廃絶時期は8世紀末～9世紀初頭と考えられる。（小西）



第 178 図 SI58 出土遺物 (3)(1/3)



第 179 図 SI58 出土遺物 (3) 写真



第 180 図 SI58 出土遺物 (4)(1/3・1/2)・写真

第 28 表 SI58 出土土器観察表 (1)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 174 ・ 175 図	1	SI58	土師器 坏	11.6 4.1 7.8	底部は弧状を呈する。	外面のうち、口縁部はナデ、 体部は指おさえ、底部はヘラ ケズリ。 内面は口縁～体部はナデ。	砂粒、黒色 粒子	良好	外面 5YR6/6 橙 内面 10YR7/3 鈍い 橙	口縁～底 部 1/3	重量 51.1g 南武蔵型坏
	2	SI58	土師器 坏	(1.5) [6.8]	底部は平底。	外面のうち、体部は指おさえ、 底部は静止糸切りのち外周ヘ ラケズリ。	砂粒、黒色 粒子	良好	外面 10YR6/3 にぶ い黄橙 内面 7.5YR6/4 にぶ い橙	底部 1/3	重量 26.9g 南武蔵型坏
	3	SI58	須恵器 坏	(1.4) 7.5	外面の体部と底部の 境は不明瞭。	ロクロ成形。 底部は全面手持ちヘラケズ リ。	小礫、砂粒	良好	N4/ 灰	底部 2/3	重量 100.9g 底部内面と体部破 断面に研磨痕あ り、転用硯。 東金子窯
	4	SI58・ SI63	須恵器 坏	[11.2] 3.4 6.9	全体的に器壁が厚 く、口縁部は肥厚す る。体部は底部から 直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は全面回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、 白色粒子	良好	5Y5.5/1 灰	口縁部 1/4 底部 2/3	重量 82.1g 東金子窯

第 28 表 SI58 出土土器観察表 (2)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 174 ・ 175 図	5	SI58	須恵器 坏	11.7 3.5 6.8	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、 白色粒子	良好	口縁～体部 2.5Y7/1 灰白 底部 7.5YR8/4 浅黄 橙	口縁部 7/8 底部完形	重量 110.6g 内外面の口縁～底部にかけて火罨痕、内外面の一部に爆げた痕跡。 東金子窯
	6	SI58	須恵器坏	11.9 3.5 11.2	口縁部が広がり、いびつな器形。体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、白色 粒子	良好	N5/ 灰	口縁部 3/4 底部完形	重量 116.4g 東金子窯
	7	SI58	須恵器 坏	11.9 3.6 7.1	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、 白色粒子	良好	N4.5/ 灰	口縁部 3/4 底部完形	重量 129.2g 内外面に火罨痕。 東金子窯
	8	SI58・ SI63	須恵器 坏	11.6 3.3 6.9	体部は底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、 白色粒子	良好	N5/ 灰	口縁部 1/2 底部 3/4	重量 71.4g 東金子窯
	9	SI58	須恵器 坏	[11.2] 3.4 6.7	体部は底部からやや内湾気味に開き、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒	良好	N5/ 灰	口縁部 1/8 底部 3/4	重量 73.3g 東金子窯
	10	SI58	須恵器 坏	[13.3] 4.1 [6.9]	体部は底部からやや内湾気味に開き、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、白色 粒子	良好	口縁部外面 N3/ 暗灰 それ以外 N5.5/ 灰	口縁部 1/6 底部 2/1	重量 54.4g 体～底部外面と口縁～底部内面に火罨痕。 東金子窯
	11	SI58・ 28Q-45	須恵器 坏	[12.1] 4.0 [6.8]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒	良好	N5.5/ 灰	口縁部 1/3 底部 1/4	重量 64.3g 口縁～底部外面と口縁部内面に火罨痕。 東金子窯
	12	SI58・ 28Q-45	須恵器 坏	[12.4] (3.8) [6.8]	体部は底部からやや内湾気味に開き、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、黒色 粒子	良好	7.5YR6/1 灰	口縁部 1/6 底部 1/3	重量 40.9g 口縁～底部外面と口縁部内面に火罨痕。 東金子窯
	13	SI58	須恵器 坏	(2.2) [7.3]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒	軟質	外面 2.5Y7/2 灰黄 内面 10YR7/3 にぶ い黄橙	底部 1/2	重量 24.2g 体部外面と体～底部内面に火罨痕。 東金子窯
第 176 ・ 177 図	14	SI58	須恵器 坏	[11.9] (3.0)	体部はやや直線的に開く。	ロクロ成形。	砂粒、白色 粒子	軟質	5Y6.5/1 灰白	口縁部 1/4	重量 12.3g 体部外面に火罨痕。 東金子窯
	15	SI58・ 28Q-46	須恵器 坏	(0.7) [7.7]		ロクロ成形。 底部は回転ヘラケズリ。	砂粒、海綿 骨子	軟質	10YR7/3 にぶ い黄橙	底部 1/3	重量 17.4g 南比企窯
	16	SI58	須恵器 坏	(1.0) 5.5	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒、白色 粒子	やや軟 質	外面 10YR5/2 灰黄 褐 内面 5Y5/1 灰	底部完形	重量 42.1g SI63 からの混入。 東金子窯
	17	SI58	須恵器 坏	(0.6) 5.1	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒	軟質	10YR6.5/2 灰 黄褐	底部完形	重量 30.1g SI63 からの混入。 東金子窯
	18	SI58	須恵器 坏	(2.0) 5.2	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	小礫、砂粒	軟質	7.5YR6/1 灰	底部 1/3	重量 54.7g SI63 からの混入。 東金子窯
	19	SI58	須恵器 高台付坏	10.0 5.4 6.2	坏部は深身で、逆台形状を呈する。高台部は低い。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り。	小礫、砂粒、 白色粒子	良好	N4.5/ 灰	口縁部 2/3 高台部完 形	重量 100.9g 東金子窯
	20	SI58	須恵器 高台付坏	(1.2) [6.8]	高台部は短くハの字状に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り。	砂粒、白色 粒子	良好	7.5YR5/1 灰	高台部 1/4	重量 20.2g 高台端部に摩耗した痕跡。 東金子窯
	21	SI58	須恵器 高台付坏	(1.1) [9.5]	高台部は直立気味で低い。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周ヘラケズリ。	小礫、砂粒	良好	N5.5/ 灰	底～高台 部破片	重量 39.7g 東金子窯 (前内出窯)
	22	SI58・ 28Q-46	須恵器 蓋	11.7 (2.6)	全体的に器壁が厚く、口縁端部は丸く収める。	ロクロ成形。 天井部は回転ヘラケズリ。	砂粒、白色 粒子	良好	N5/ 灰	天井部 2/3 口縁部 1/2	重量 85.5g 天井部内面に摩耗した痕跡、転用硯。 東金子窯
	23	SI58	須恵器 蓋	[17.5] (2.6)	口縁端部は短く屈曲する。	ロクロ成形。	小礫、砂粒、 白色粒子	良好	2.5YR4/1 赤灰	口縁部 1/6	重量 30.0g 東金子窯

第 28 表 SI58 出土土器観察表 (3)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 176 ・ 177 図	24	SI58	土師器 甕	20.1 (9.7) 胴部最大 径 [20.0]	口縁部は緩やかに外 反し、胴部最大径は 上部にある。	外面のうち、口縁～頸部は横 位のナデ、胴上部は横位のヘ ラケズリ。 内面は横位のヘラナデ。	小礫、砂 粒、赤褐色 粒子、黒色 粒子	良好	外面 7.5YR6/6 橙 内面 5YR5/6 明赤褐	口縁～胴 部 2/3	重量 196.5g
	25	SI58	土師器 甕	[20.2] (15.7) 胴部最大 径 [21.2]	口縁部は緩やかに外 反し、胴部最大径は 上部にある。	外面のうち、口縁～頸部は横 位のナデ、胴上部は横位のヘ ラケズリ主体、それ以下は縦 位のヘラケズリ主体。 内面はヘラナデ。	砂粒、角閃 石、赤褐色 粒子	良好	5YR5/6 明赤 褐	口縁～胴 部 2/3	重量 267.9g
	26	SI58	土師器 甕	21.0 (21.6) 胴部最大 径 21.6	口縁部は緩やかに外 反し、胴部最大径は 上部にある。	外面のうち、口縁～頸部は横 位のナデ、胴上部は横位のヘ ラケズリ、それ以下は縦位の ヘラケズリ。 内面は横位のヘラナデ。	砂粒、黒色 粒子、赤褐 色粒子	良好	5YR5/6 明赤 褐	口縁～胴 部	重量 614.9g
第 178 ・ 179 図	27	SI58	土師器 甕	[22.5] (16.8) 胴部最大 径 [24.0]	口縁部は緩やかに外 反し、胴部最大径は 上部にある。	外面のうち、口縁～頸部は横 位のナデ、胴上部は横位のヘ ラケズリ、それ以下は縦位の ヘラケズリ。 内面は横位のヘラナデ。	砂粒、白色 粒子、赤褐 色粒子	良好	外面 7.5YR6/6 橙 内面 5YR5/8 明赤 褐	口縁～胴 部 1/4	重量 191.4g
	28	SI58	土師器 甕	[19.4] (6.0)	口縁部は緩やかに外 反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横 位のナデ、胴上部外面は横位 のヘラケズリ。	砂粒、角閃 石	良好	5YR6/6 橙	口縁部 1/6	重量 54.0g
	29	SI58	土師器 甕	[16.5] (4.3)	頸部は「く」の字状 に屈曲し、口縁部は 直線的に開く。	外面のうち、口縁～頸部は横 位のナデ、胴部調整は不明瞭。	砂粒、角閃 石	良好	10YR5/3 にぶ い黄褐	口縁部 1/4	重量 48.1g
	30	SI58	土師器 甕	[20.2] (11.2) 胴部最大 径 [19.8]	頸部は直線的に立ち 上がり、屈曲して口 縁部は短く外反して 開く。「コ」の字形 に近い形状。	外面のうち、口縁～頸部は横 位のナデ、胴上部は横位のヘ ラケズリ、それ以下は縦位の ヘラケズリ。 内面のうち、頸部～胴部は横 位のヘラナデ。	小礫、砂粒、 赤褐色粒子	良好	5YR5/6 明赤 褐	口縁～胴 部 1/3	重量 152.0g
	31	SI58・ SI63	土師器 甕	(7.5) 4.6	胴部は底部からやや 内湾気味に開く。	外面のうち、胴下部は縦位の ヘラケズリ、底部はヘラケズ リ。 内面はヘラナデ。	砂粒、白色 粒子	良好	外面 10YR3/1 黒褐 内面 10YR6/3 にぶ い黄橙	底部完形	重量 166.8g
	32	SI58	土師器 甕	(4.1) [4.4]	胴部は底部からやや 内湾気味に開く。	外面のうち、胴下部は縦位の ヘラケズリ、底部はヘラケズ リ。 内面の調整は不明瞭。	砂粒、赤褐 色粒子	良好	外面 10YR3/1 黒褐 内面 10YR4/2 灰黄 褐	底部 1/3	重量 23.2g
	33	SI58	土師器 甕	(6.2) 5.0	胴部は底部から直線 的に開く。	外面のうち、胴下部は斜位の ヘラケズリ、底部はヘラケズ リ。 内面の調整は不明瞭。	砂粒、角閃 石、赤褐色 粒子	良好	外面 5YR5/6 明赤 褐 内面 5YR6.5/6 橙	底部完形	重量 95.8g
	34	SI58	土師器 甕	(4.0) [5.2]	胴部は底部から直線 的に開く。	外面のうち、胴下部は斜位の ヘラケズリ、底部はヘラケズ リ。 内面はヘラナデ。	砂粒、黒色 粒子	良好	外面 10YR5/2 灰黄 褐 内面 10YR6/2 灰黄 褐	底部 1/2	重量 42.5g
	35	SI58	土師器 甕	(3.9) [4.9]	胴部は底部から直線 的に開く。	外面のうち、胴下部外面は斜 位のヘラケズリ、底部はヘラ ケズリ。 内面の調整は不明瞭。	砂粒、白色 粒子	良好	5YR5/8 明赤 褐	胴～底部 1/3	重量 30.4g 底部付近に黒斑
	36	SI58	土師器 台付甕	(2.6) [9.6]	脚台部はハの字状に 開く。	内外面ともにナデ。	砂粒	良好	外面 10YR3/1 黒褐 内面 5YR5/6 明赤褐	脚台部 1/2	重量 31.0g
	37	SI58	須恵器 甕	頸部径 [15.2] (7.2)	頸部は「く」の字状 に屈曲する。	口頸部内外面ともにナデ。	小礫、砂粒、 海綿骨子	良好	N3.5/ 暗灰	頸部 1/3	重量 212.3g 外面に自然釉。 南比企窯
	38	SI58・ 28Q-46	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面は 無文の当て具痕。	砂粒、白色 粒子	良好	外面 5Y4/2 灰オ リーブ 内面 5Y5/1 灰	胴部破片	重量 115.6g 外面に自然釉。 東金子窯
	39	SI58	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面は 無文の当て具痕。	小礫	良好	外面 5Y3/2 オリー ブ黒 内面 2.5Y6/1 黄灰	胴部破片	重量 185.3g 外面に自然釉。 東金子窯

第 29 表 SI58 出土石製品観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	器種	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	残存	石材	備考
第 180 図	40	SI58	砥石	(5.7)	(4.0)	(1.9)	49.8g	約 1/2	流紋岩	

第 30 表 SI58 出土金属製品観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	器種	素材	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	残存	備考
第 180 図	41	SI58	鉄鏃	鉄	(8.1)	(0.8)	(0.4)	8.2g	頸部破片	全体的に湾曲する。
	42	SI58	鉄鏃	鉄	(4.9)	(0.7)	(0.4)	3.3g	茎部破片	
	43	SI58	刀子	鉄	(5.4)	(0.7)	(0.3)	2.3g	刃部破片	平造り
	44	SI58	刀子	鉄	(12.7)	刃部 (1.2) 柄部 (0.9)	刃部 (0.4) 柄部 (0.4)	15.1g	刃～茎部 破片	刃部と茎部の先端を欠損。両区、平造り。

SI61 (第 181 ～ 183 図、第 31 ・ 45 表)

2-6 西区西寄りの 27Q-50・60 グリッドに位置する。今回の調査の範囲外となる北側では、日野市教育委員会が発掘調査を実施している。今回の調査ではⅡ3 層上で検出を試みたが、近世以降の溝や攪乱のためプランの検出が困難で、日野市調査済み範囲側の埋戻し土を掘削し、漸く断面から遺構の範囲を確認することができた。

遺構 今回の発掘調査範囲内では、東西 187cm、南北 106cm を測り、平面形態は隅丸長方形を呈している。検出面から床面までの深さは 90cm を測り、規模の割には深い印象を受ける。壁はわずかに開きながら立ち上がっている。壁の上部は SDK1220・1222 及び攪乱に切られている。主軸方向は N-24°-W を指す。

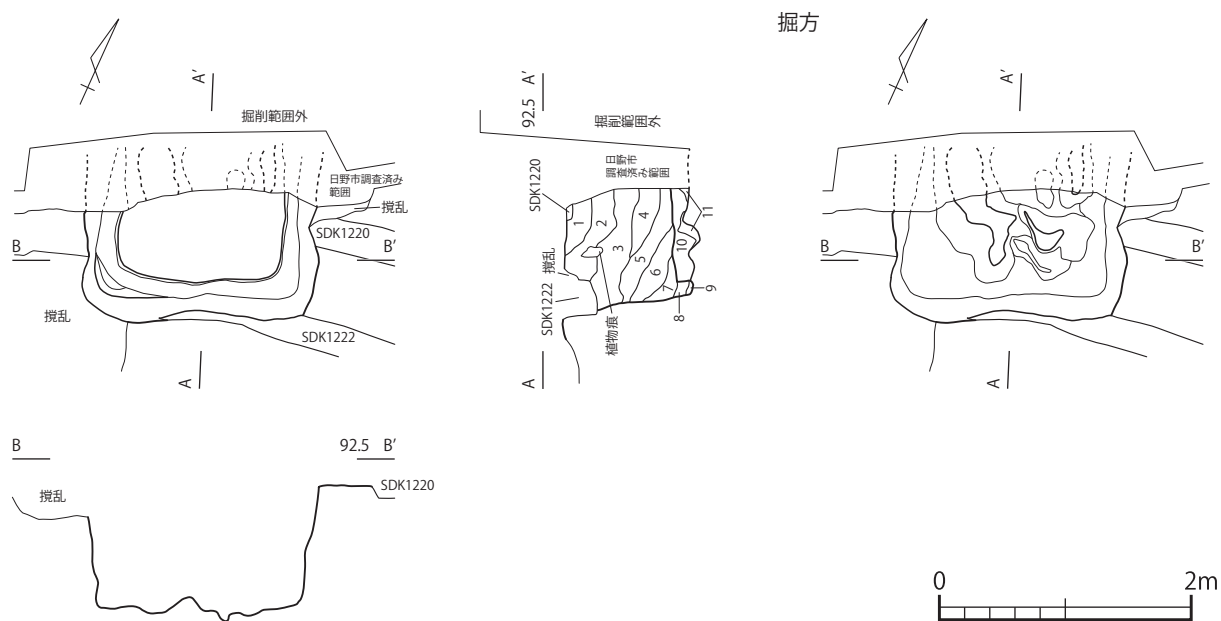
床面は貼床で、ほぼ全面が硬化している。壁際は傾斜しており、壁溝に向けて緩やかに下がっている。壁溝は掘削範囲外へと続く北側を除いて検出された。調査範囲内においてはカマド、支柱穴やその他の施設は確認されなかった。

床面までの覆土は 7 層に分けられ、全体的に、南から北へ向けて斜めに堆積している。1 ～ 3・5・6 層には焼土粒子を含み、そのうち 2 層は最も多く含んでいる。また、1 ～ 3 層は炭化物粒子も含んでいる。4 層はローム粒子が主体で黒褐色土が偏在し、焼土粒子は含まないが、被熱したロームブロックを含んでいる。

掘方は V 層まで掘り込まれていて、全体に凹凸を有している。掘方の土層は 2 層に分層され、上層の 10 層はロームブロックが多く混在する黒色土で、下層の 11 層はロームが主体である。

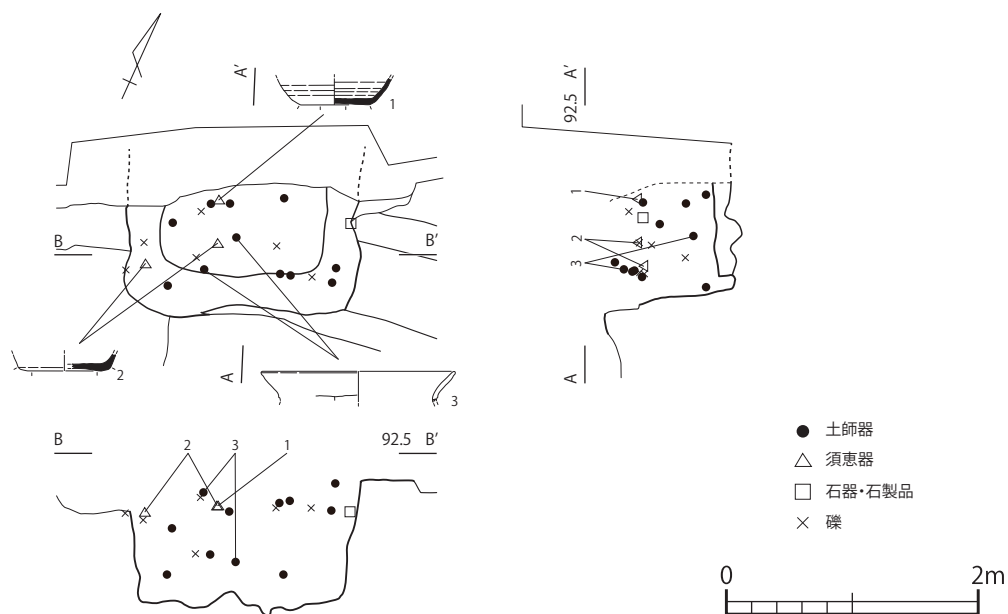
なお SI61 は、日野市教育委員会の調査地区では小型の竪穴建物跡として扱われ、更にその北側で検出された大型の竪穴建物跡に切られているとされているが、本来これらは 1 つの遺構で、SI61 相当部分は大型の竪穴建物跡の「張り出し構造」であったものと考えられる。(相原)

遺物 本遺構からは、総点数 19 点、総重量 460.3g が出土した。種別・器種ごとの内訳は、古代の土師器 11 点 53.6g (坏 1 点 6.2g、甕 10 点 47.4g)、古代の須恵器 (坏) 3 点 122.1g、縄文時代の石器 (石鏃) 1 点 1.1g で、これ以外に礫がある (6 点 283.5g)。本遺構に伴う遺物は土師器と須恵



SI61

1. 7.5YR2/1 黒色土層 直径2～6mmの焼土粒子5%、直径2mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/8)3%、直径3mm以下の黒色スコリア3%、直径2～6mmの炭化物粒子1%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや粗い。
2. 5YR2/1 黒褐色土層 赤黒色土(2.5YR1.7/1)40%偏在。直径2mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/8)5%、直径3～5mmの焼土粒子10%、直径2～4mmのローム粒子(7.5YR5/6)3%、直径1mmの炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
3. 7.5YR2/1 黒色土層 直径4mm以下の焼土粒子10%、直径10mm以下のローム粒子(7.5YR5/6)15%、直径2mm以下の炭化物粒子3%含む。粘性あまりなし、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
4. 7.5YR4/4 褐色土層 ローム主体。黒褐色土(10YR2/2)20%偏在。直径12mm以下の被熱したロームブロック(5YR4/8)10%、直径3mm以下の黒色土粒子(5YR1.7/1)3%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
5. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の焼土粒子5%、直径2～20mmのローム粒子(7.5YR4/4)7%、直径2mm以下の黒色スコリア1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
6. 10YR2/2 黒褐色土層 直径15mm以下のロームブロック(7.5YR4/4)20%、直径10mm以下の焼土粒子5%、直径5mm以下の黒色土粒子(10YR1.7/1)2%含む。粘性あり、締まりなし、粒子粗い。
7. 10YR4/6 褐色土層 黒色土(10YR1.7/1)40%混在。直径20mm以下のロームブロック(7.5YR5/8)5%、直径2mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)1%含む。粘性あまりなし、締まりなし、粒子極めて粗い。
8. 7.5YR4/6 褐色土層 黒色土(10YR1.7/1)40%混在。直径10mm以下のロームブロック(7.5YR5/8)10%、直径3mm以下の黒色土粒子(10YR1.7/1)3%含む。粘性ややあり、締まりなし、粒子極めて粗い。
9. 10YR1.7/1 黒色土層 ローム(7.5YR5/8)30%混在。直径3mm以下の黒色土粒子(10YR1.7/1)5%含む。粘性なし、締まりあまりなし、粒子粗い。
10. 7.5YR2/1 黒色土層 貼床土。ロームブロック40%混在。直径2～10mmの赤色スコリア(10R4/8)5%、直径2mm以下の黒色スコリア3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
11. 7.5YR5/6 明褐色土層 貼床土。ローム主体。黒色土(7.5YR2/1)10%偏在。粘性あり、締まり強、粒子粗い。



第181図 SI61(1/60)



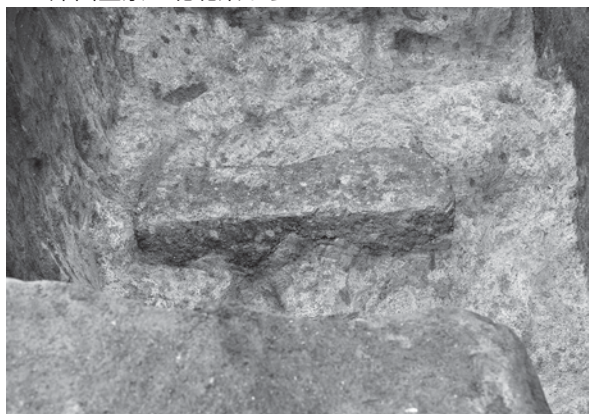
1. 遺物出土状況 北北東から



2. 土層断面 東北東から



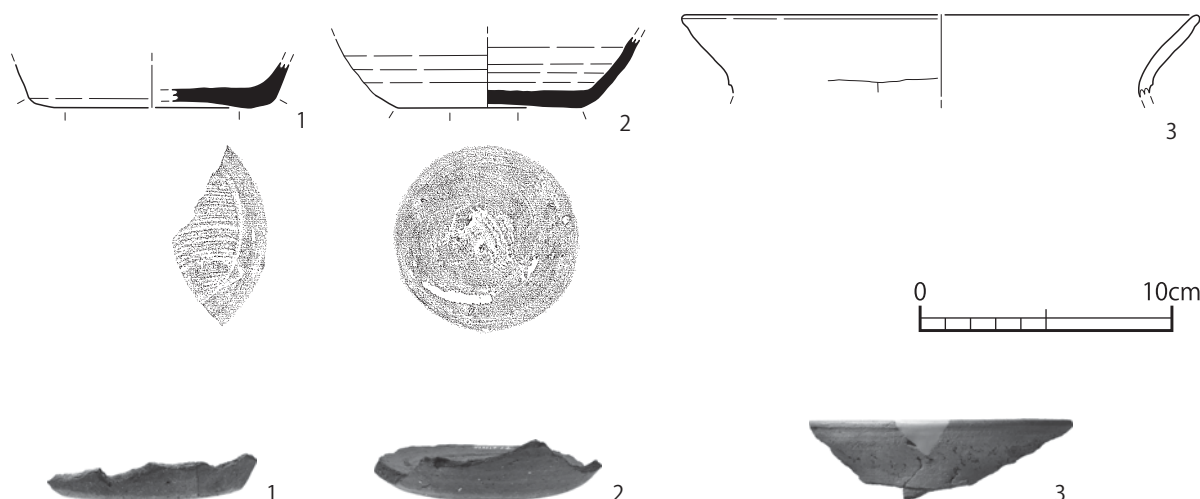
3. 床面全景 北北東から



4. 掘方土層断面 東北東から



5. 掘方全景 北北東から



第 183 図 SI61 出土遺物 (1/3) ・写真

第 31 表 SI61 出土土器観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 183 図	1	SI61	須恵器 坏	(1.8) [9.2]	体部は底部から直線的に開き、箱型を呈する。	ロクロ成形。 体下部にヘラケズリ。底部は回転糸切り後、外周ヘラケズリ。	砂粒、白色 粒子	良好	5Y5/1 灰	底部 1/4	重量 31.9g 東金子窯
	2	SI61	須恵器 坏	(2.6) 7.3	体部は底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周ヘラケズリ。	小礫、砂粒、 海綿骨針	良好	5Y4.5/1 灰	底部完形	重量 90.2g 南比企窯
	3	SI61	土師器 甕	[20.3] (3.3)	口縁部は緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、頸部以下は縦位のヘラケズリ。	砂粒、雲母	良好	7.5YR5/4 に近い 褐色	口縁部 1/6	重量 20.8g

器であり、このうち 3 点の図化を行い、掲載した。

第 183 図 1・2 は須恵器坏である。1 は箱型を呈する器形で、底部は静止糸切り後、外周に回転ヘラケズリを施す。2 の底部は完形で、体部はやや内湾気味に開く。底部は回転糸切り後、広い幅で外周に回転ヘラケズリを施す。1 は東金子窯、2 は南比企窯の製品である。3 は土師器甕の口縁部で、頸部から緩やかに外反して開く器形を呈する。

須恵器坏 (1・2) は、南比企窯跡群鳩山編年の H Ⅲ期末に比定される。これらは覆土上層から出土しており、本遺構の廃絶時期は 8 世紀後半と考えられる。(小西)

SI63 (第 184 ～ 205 図、第 32・33・45 表)

SI63 は、遺構検出のために検出面を精査している時点では、カマド (西カマド) の砂質粘土は明瞭に確認できたが、遺構全体の範囲は判然とせず、南側に位置する SI58 との切り合い関係も不明瞭であった。その後精査を続けたところ、SI58 を切り、北と西にカマドを持つ竪穴建物跡であることが明らかとなった。一方、東カマドは、検出当初は SI58 のカマドの一部と認識していたが、SI58 のカマドの位置が想定より西にあることが明らかになった時点で、このカマドを SI63 の東カマドと判断した。しかし、SI63 の発掘調査が進むと、一旦は東カマドは SI63 より古い別の竪穴建物跡 (SI71) のカマドとした (SI71 の本体は SI63 構築時に湮滅したと考えた)。しかし、整理調査における精査の結果、SI63 の最初期のカマド (東カマド) として扱うこととした。

遺構 2-6 西区の 28Q-35・36・45・46 グリッドに位置する。検出面はⅡ3・Ⅲ2 層で、SI58、掘立柱建物跡 E の各ピット（SP784・937・939・940・946）を切り、古代末～中世の SK207、中世の溝 SD12、近世以降の SKK974 に切られる。

平面形態は隅丸長方形で、規模は東西 623cm、南北 429cm を測る。検出面から床面までの深さは 61cm で、壁はやや内湾して立ち上がる。主軸方向は N-97°-W を指す。

床面は貼床で、北西部と南西部の一部分を除いて硬化しているが、全体的に硬化の程度は弱い。壁溝は無い。カマドは西カマド、北カマド及び東カマドの 3 基が検出された。主柱穴は、貼床下の掘方底面で P1・2・4・7 の 4 基と、P4 に接する P5 が検出された。その他のピットとして、P3・6 も掘方底面で検出されている。

床面までの覆土は 10 層に分層された。最上層の 1～3 層は焼土やロームの粒子を含む黒色土で、焼土粒子の含有量等が異なる。そのうち 3 層は砂質粘土粒子をやや多く含んでいる。カマド付近の 4 層、カマド上からカマド前面に広がる 5 層は砂質粘土粒子を多く含む。床面直上で見られる 6 層は、砂質粘土粒子のほか小礫等を含む黒色土層である。8～10 層は焼土の粒子やブロックを多く含んでおり、東カマドの影響があると思われる層である。

掘方は概ねⅢ3～Ⅳ層まで、全体的に浅く掘り込まれていて、底面は緩やかな凹凸を有する。掘方の充填土は 9 層に細分され、いずれも黒褐色土がベースで、11～13、15～19 層では焼土と砂質粘土の粒子を含んでいる。また、床面中央部分は粘土の粒子やブロックを多く含む土壌で構築されている。14 層は炭化物粒子や小礫を少量含んでいる。18 層は上部が硬化する傾向にあり、この面が、古い床面とみられ、主柱穴と対応する可能性がある。

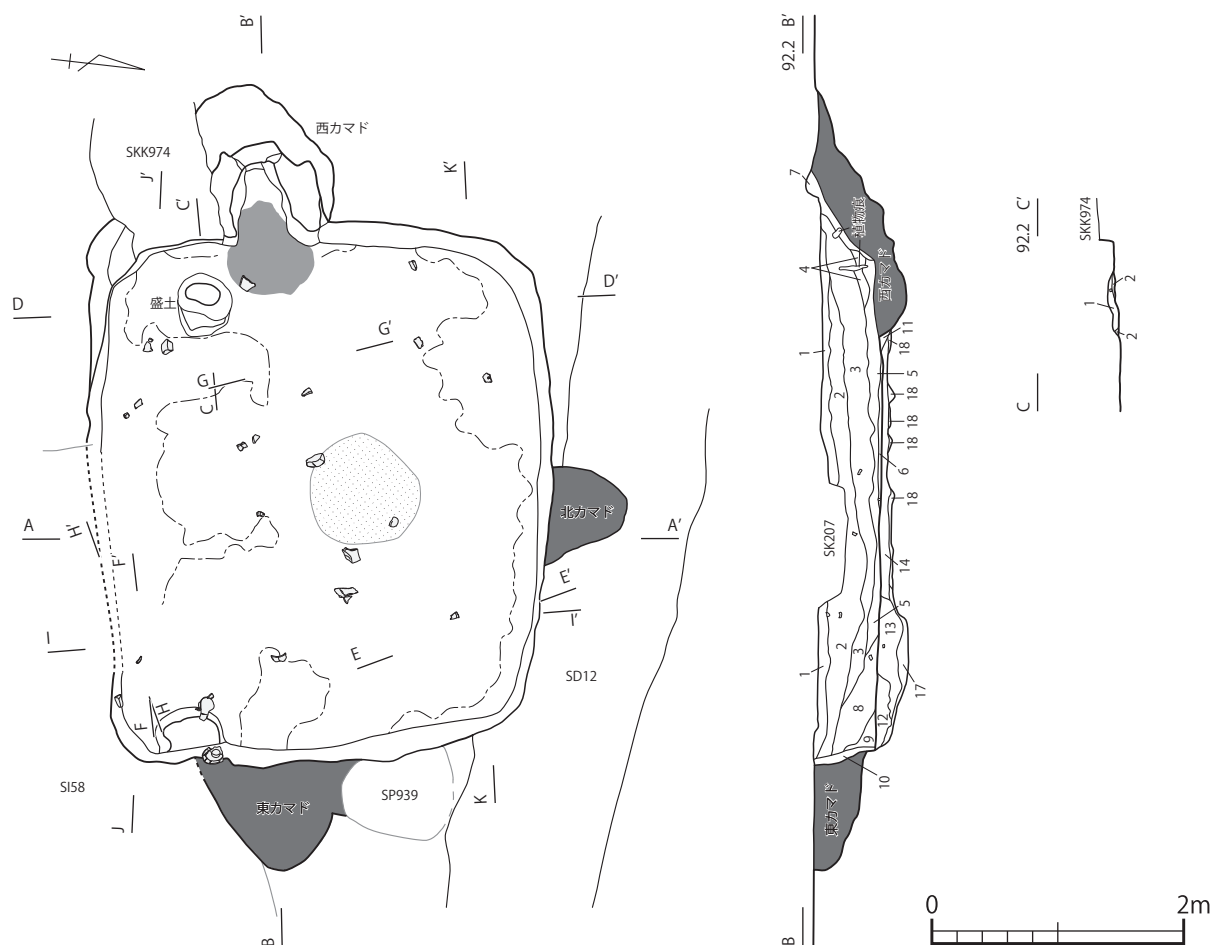
主柱穴は P1・2・4・7 の 4 基である。床面ではなく掘方底面で検出されており、上述の旧床面に伴うものとみられる。南西の P1 は 36×31cm の楕円形、北西の P2 は 30×29cm の円形、北東の P4 は 32×26cm の卵形、南東の P7 は 28×25cm の楕円形を呈する。検出時の深さは、順に 36cm、35cm、30cm、23cm だが、底面の標高は順に 91.115 m、91.116 m、91.156 m、91.129 m で、最大の高低差は約 4cm であり、概ね一定の深さといえる。覆土は、P1・2・7 が焼土粒子やローム粒子等を含む締まりの弱い土壌からなる。P4 は、2 層が柱拔取り穴の覆土、1 層が柱拔取り後の覆土、3 層が締まりの強い掘方の覆土とみられる。

P5 は P4 に切られる浅いピットであるが、柱拔取り穴覆土（1 層）や、柱穴の掘方覆土（2・3 層）が見られ、主柱穴 P4 の補助的な役割があったものと推察される。長軸 36cm、短軸 26cm の楕円形で、掘方底面からの深さは 9cm である。

その他、掘方底面では P3・6 が検出された。西カマドの前面にある P3 は長軸 36cm、短軸 27cm、掘方底面からの深さ 16cm を測る楕円形、P7 に近い壁際にある P6 は、残存範囲で長軸 24cm、短軸 9cm、掘方底面からの深さは 16cm を測り、平面形態は卵形である。P6 の 1 層、P7 の 1 層の各覆土には、砂質粘土粒子が含まれている。いずれも用途は不明である。

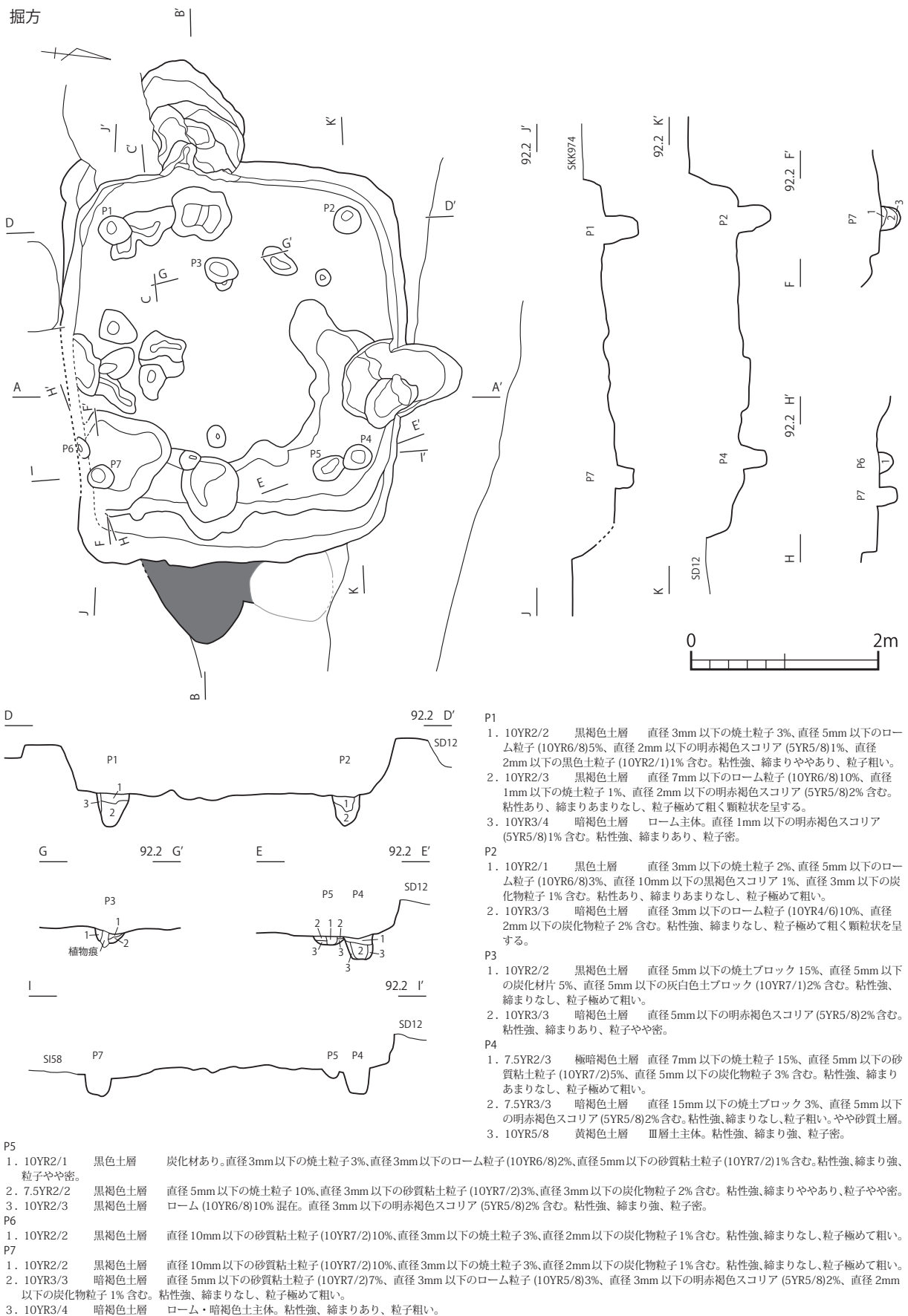
SI63 に伴うカマドは 3 基ある。建物廃絶時に使用していたのは西カマドで、それ以前が北カマド、最も古いと判断したものが東カマドである。

西カマドは、西壁の南寄りを U 字状に 111cm 掘り込んで構築されており、カマド南側の右袖部分等を SKK974 に切られている。



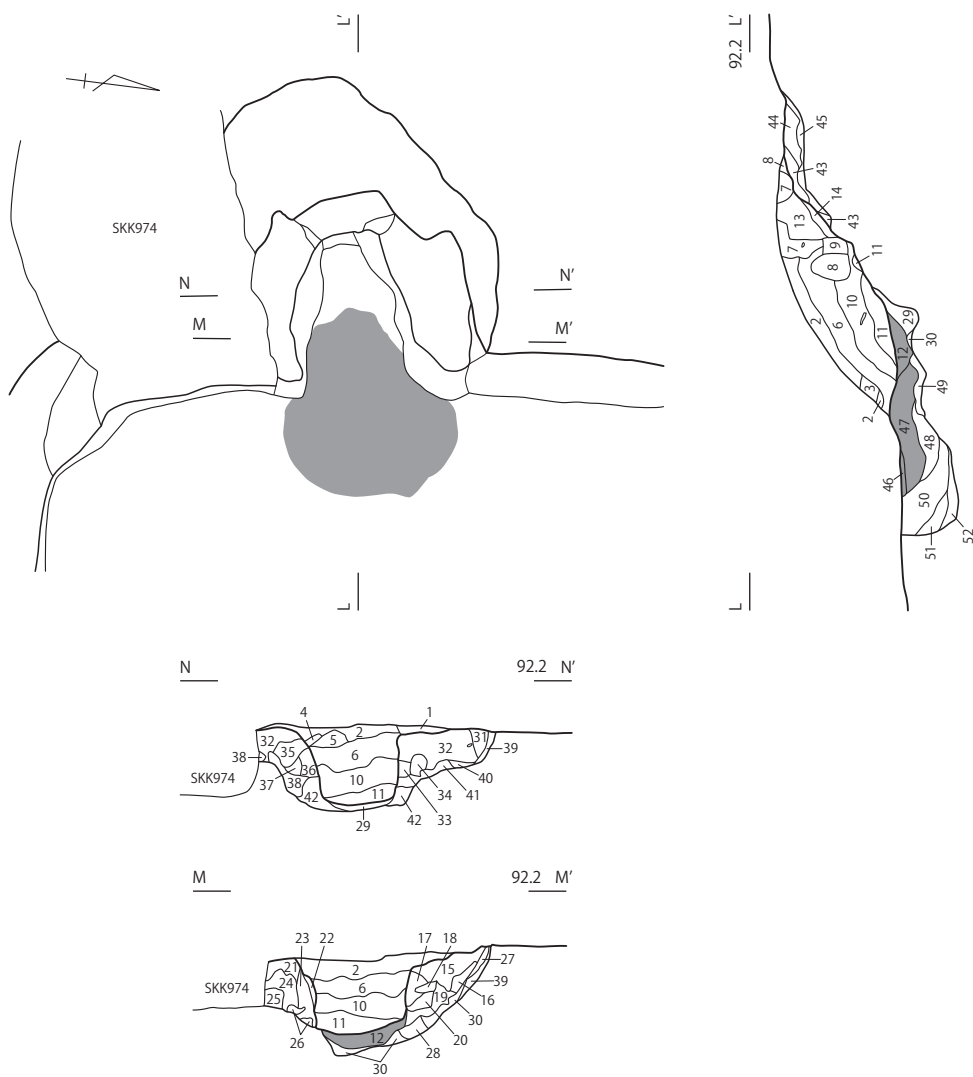
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の焼土粒子3%、直径2mm以下のローム粒子(10YR4/6)1%、直径5mm以下の砂質粘土粒子(10YR7/2)10%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
5. 10YR2/2 黒褐色土層 直径5mm以下の焼土粒子5%、直径2mm以下のローム粒子(10YR4/6)2%、直径10mm以下の砂質粘土粒子(10YR7/2)10%含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
6. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の焼土粒子2%、直径1mmのローム粒子(10YR4/6)1%、直径8mm以下の砂質粘土粒子(10YR7/2)7%、直径5～10mmの小礫3%含む。粘性あり、締まり極めて強い、粒子やや粗い。
7. 7.5YR2/1 黒色土層 直径5mm以下の焼土粒子5%、直径5mm以下の砂質粘土粒子(10YR7/2)10%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
8. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径15mm以下の焼土粒子・ブロック10%、直径1mmのローム粒子(10YR4/6)1%、直径5mm以下の砂質粘土粒子(10YR7/2)7%含む。砂質粘土(10YR5/4)斑文状に20%偏在。粘性強、締まり強、粒子やや密。
9. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径20mm以下の焼土粒子・ブロック15%、直径5mm以下の砂質粘土粒子(10YR7/2)10%含む。砂質粘土(10YR5/4)斑文状に30%偏在。粘性極めて強、締まり強、粒子やや粗い。
10. 10YR3/1 黒褐色土層 直径8mm以下の焼土粒子7%、直径3mm以下の砂質粘土粒子(10YR7/2)5%含む。砂質粘土(10YR5/4)斑文状に10%偏在。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
11. 7.5YR2/2 黒褐色土層 焼土粒子20%偏在。直径2mm以下の炭化物粒子5%、直径3mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
12. 10YR2/1 黒色土層 貼床土。直径5mm以下の焼土粒子3%、直径10mm以下の砂質粘土粒子(10YR7/2)7%、直径5mm以下の炭化物粒子5%、直径3mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)1%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや密。
13. 10YR2/2 黒褐色土層 貼床土。砂質粘土10%偏在。直径5mm以下の焼土粒子(10YR7/2)5%、直径2mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)1%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。やや粘土質。
14. 10YR2/2 黒褐色土層 貼床土。上面が硬化する。直径20mm以下の粘土ブロック(10YR7/2)5%、直径7mm以下の焼土粒子3%、直径3mm以下のにぶい黄色スコリア(2.5Y6/3)1%、直径3mm以下の炭化物粒子1%、小礫1%含む。粘性あり、締まり極めて強い、粒子粗い。
15. 10YR2/2 黒褐色土層 貼床土。砂質粘土(10YR7/2)20%、焼土10%混在。直径5mm以下のローム粒子(10YR5/6)1%、直径3mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性強、締まり極めて強、粒子やや粗い。
16. 10YR2/2 黒褐色土層 貼床土。直径10mm以下の砂質粘土ブロック・粒子(10YR7/2)5%、直径5mm以下の焼土粒子5%、直径3mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)3%、直径2mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。やや粘土質。
17. 10YR2/3 黒褐色土層 貼床土。直径5mm以下の焼土粒子3%、直径2mm以下の砂質粘土粒子(10YR7/2)3%、直径1mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)1%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。粘土質。
18. 10YR2/2 黒褐色土層 貼床土。直径5mm以下の砂質粘土粒子(10YR7/2)3%、直径2mm以下の焼土粒子2%、直径1mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)1%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。やや粘土質。
19. 10YR2/3 黒褐色土層 貼床土。直径5mm以下の砂質粘土粒子(10YR7/2)5%、直径2mm以下の焼土粒子1%、直径5mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)5%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
- 盛土**
1. 7.5YR3/3 暗褐色土層 焼土粒子40%偏在。砂質粘土7%、直径3mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm以下の焼土粒子2%、直径2mm以下のローム粒子(10YR4/6)3%、直径1mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まり強、粒子密。

第184図 SI63(1)(1/60)

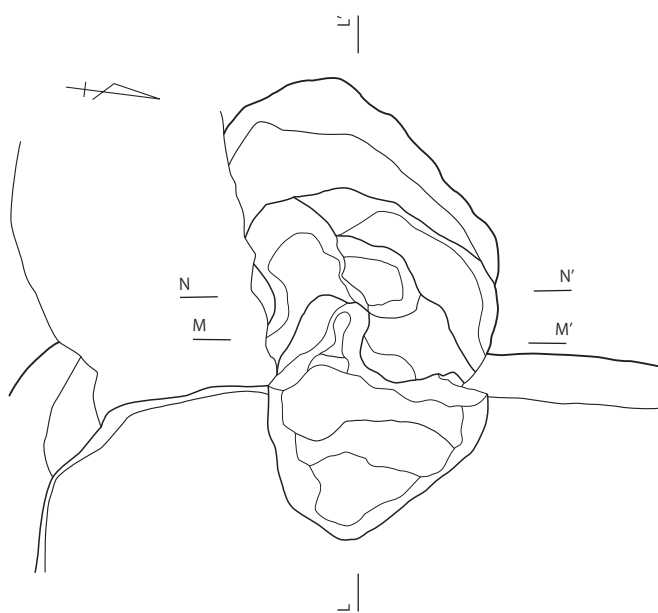


第185図 SI63(2)(1/60)

西カマド



掘方



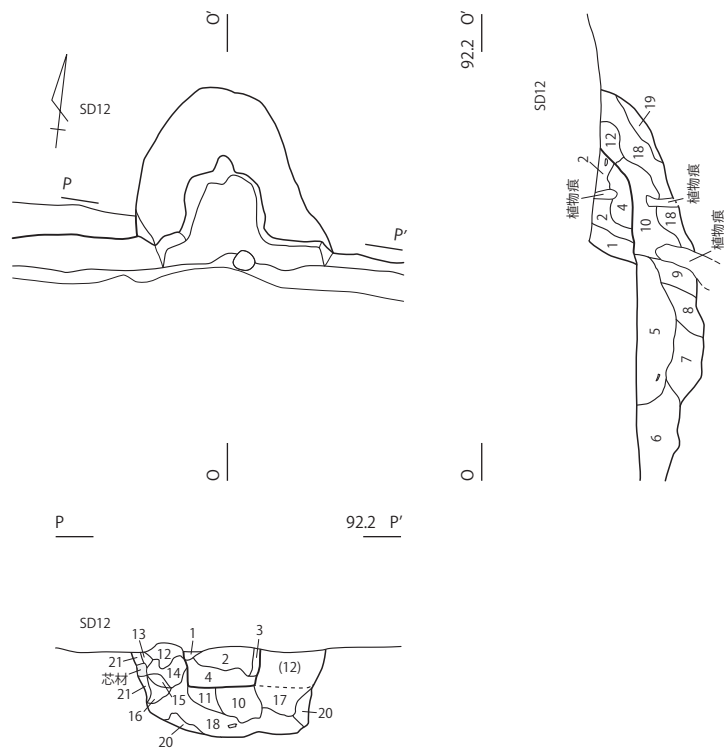
第186図 SI63(3) 西カマド (1/30)

西カマド

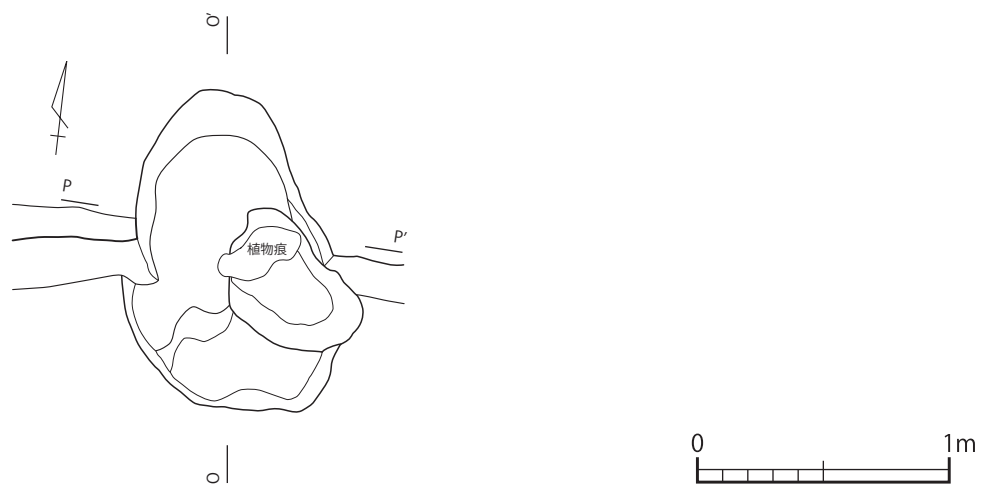
1. 7.5YR3/3	暗褐色土層	直径5mm以下の砂質粘土粒子10%、直径3mm以下の焼土粒子7%、直径10mm以下の小礫5%、直径3mm以下の黒色土粒子3%含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや粗い。
2. 7.5YR3/2	黒褐色土層	砂質粘土20%混在。直径10mm以下の焼土ブロック・粒子5%、直径5mm以下の炭化物粒子1%、直径10mm以下の小礫1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
3. 5YR2/2	黒褐色土層	焼土20%偏在。直径3mm以下の砂質粘土粒子3%、直径1mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
4. 2.5Y2/1	黒色土層	砂質粘土5%混在。直径8mm以下の焼土粒子7%含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや密。
5. 10YR3/3	暗褐色土層	砂質粘土10%混在。直径10mm以下の焼土ブロック・粒子10%含む。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。
6. 5YR2/2	黒褐色土層	焼土30%偏在。直径5mm以下の砂質粘土粒子5%、直径5mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
7. 5YR3/3	暗赤褐色土層	焼土30%、直径5mm以下の砂質粘土粒子5%、直径3mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
8. 5YR3/4	暗赤褐色土層	焼土40%、直径2mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子極めて粗い。
9. 5YR2/2	黒褐色土層	3層に似る。焼土30%偏在。直径3mm以下の砂質粘土粒子3%、直径1mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
10. 5YR3/3	暗赤褐色土層	焼土40%混在。直径4mm以下の黒色スコリア3%、直径5mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。
11. 5YR2/2	黒褐色土層	焼土30%混在。直径3mm以下の黒色スコリア2%、直径3mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子粗い。
12. 5YR2/2	黒褐色土層	焼土20%混在。直径15mm以下の黒色土ブロック(10YR2/1)10%、直径2mm以下の黒色スコリア1%含む。粘性あまりなし、締まりあまりなし、粒子粗い。
13. 7.5YR2/3	極暗褐色土層	焼土30%、直径2mm以下の炭化物粒子3%、直径10mm以下の小礫2%含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子粗い。
14. 5YR3/2	暗赤褐色土層	直径15mm以下の砂質粘土ブロック(10YR7/2)10%、直径10mm以下の黒色土ブロック(10YR2/1)5%、直径10mm以下の焼土ブロック5%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
15. 5YR4/3	にぶい赤褐色土層	砂質粘土主体。黒褐色土(10YR3/1)20%偏在。直径1mm以下の焼土粒子3%含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
16. 2.5Y2/1	黒色土層	砂質粘土15%混在。直径3mm以下の焼土粒子3%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
17. 2.5YR5/8	明赤褐色土層	焼土主体。黒褐色土(10YR3/1)20%偏在。直径2mm以下の炭化物粒子3%含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
18. 10YR3/1	黒褐色土層	直径5mm以下の暗褐色土ブロック(10YR3/3)5%、直径2mm以下の焼土粒子3%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
19. 10YR3/3	暗褐色土層	砂質粘土20%偏在。直径3mm以下の焼土粒子5%、直径5mm以下の黒褐色土ブロック(10YR3/1)5%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
20. 10YR2/3	黒褐色土層	直径15mm以下の暗褐色土ブロック(7.5YR3/4)10%、直径10mm以下の焼土ブロック7%、直径5mm以下の砂質粘土粒子5%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
21. 10YR3/3	暗褐色土層	直径20mm以下の砂質粘土ブロック20%、直径5mm以下の焼土粒子10%、直径3mm以下の黒褐色土粒子(5YR2/2)5%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
22. 5YR3/4	暗赤褐色土層	焼土主体。直径5mm以下の炭化物粒子3%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。
23. 5YR4/6	赤褐色土層	焼土主体。直径3mm以下の暗褐色土粒子(7.5YR3/4)5%、直径5mm以下の炭化物粒子3%含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
24. 7.5YR3/4	暗褐色土層	直径5mm以下の焼土ブロック15%、直径3mm以下の暗褐色土粒子(7.5YR3/4)3%、直径3mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
25. 10YR1.7/1	黒色土層	直径3mm以下の焼土粒子3%、直径2mm以下の砂質粘土粒子2%、直径1mm以下の暗褐色土粒子(7.5YR3/4)1%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや密。
26. 10YR2/2	黒褐色土層	直径5mm以下の焼土粒子3%、直径5mm以下の砂質粘土粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
27. 10YR3/3	暗褐色土層	直径3mm以下の砂質粘土粒子30%、直径5mm以下の焼土粒子5%、直径2mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
28. 10YR2/3	黒褐色土層	直径15mm以下の暗褐色土ブロック(7.5YR3/4)15%、直径7mm以下の焼土ブロック10%、砂質粘土10%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
29. 2.5Y2/1	黒色土層	直径2mm以下の焼土粒子10%、直径2mm以下のローム粒子(10YR5/6)5%含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
30. 10YR2/2	黒褐色土層	Ⅲ層土主体。焼土を斑文状に3%含む。粘性強、締まり強、粒子密。
31. 10YR3/3	暗褐色土層	直径3mm以下の砂質粘土粒子7%、直径2mm以下の焼土粒子3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。
32. 2.5Y3/3	暗オリーブ褐色土層	砂質粘土主体。直径5mm以下の焼土粒子3%、直径2mm以下の炭化物粒子3%、直径1mm以下のにぶい黄色土粒子(2.5Y6/4)2%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
33. 7.5YR3/4	暗褐色土層	砂質粘土主体。直径3mm以下の焼土粒子10%、直径5mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
34. 2.5Y3/3	暗オリーブ褐色土層	砂質粘土主体。黒褐色土(10YR3/1)10%偏在。直径15mm以下の砂質粘土ブロック(10YR5/3)10%、直径5mm以下の焼土粒子3%、直径5mm以下の黒褐色土ブロック(10YR3/1)2%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
35. 10YR4/3	にぶい黄褐色土層	砂質粘土層。焼土5%偏在。粘性強、締まり強、粒子密。
36. 7.5YR3/4	暗褐色土層	砂質粘土主体。直径5mm以下の焼土粒子7%、直径3mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
37. 2.5Y3/3	暗オリーブ褐色土層	砂質粘土主体。直径3mm以下の焼土粒子3%、直径5mm以下の黒褐色土ブロック(10YR3/1)2%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
38. 10YR2/2	黒褐色土層	Ⅲ層土主体。砂質粘土20%、焼土30%が斑文状に偏在。粘性強、締まりあり、粒子密。
39. 10YR2/2	黒褐色土層	Ⅲ層土主体。直径3mm以下の焼土粒子3%、直径2mm以下の砂質粘土粒子2%含む。粘性強、締まり強、粒子密。
40. 10YR3/3	暗褐色土層	直径2mm以下の砂質粘土粒子20%、直径3mm以下の焼土粒子3%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
41. 10YR2/2	黒褐色土層	Ⅲ層土主体。砂質粘土・焼土混合土が斑文状に30%偏在。粘性強、締まりあり、粒子密。
42. 7.5YR3/4	暗褐色土層	砂質粘土20%偏在。直径5mm以下の焼土粒子15%、直径5mm以下の黒褐色土粒子(10YR3/1)3%、直径3mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
43. 10YR2/3	黒褐色土層	直径5mm以下の焼土粒子20%、直径2mmの黒褐色土粒子(5YR2/2)3%、直径1mm以下の粘土粒子1%含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子極めて粗い。
44. 10YR2/3	黒褐色土層	直径2mm以下のローム粒子(10YR5/6)5%、直径2mm以下の焼土粒子3%、直径2mm以下の黒褐色スコリア2%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。
45. 10YR2/3	黒褐色土層	直径3mm以下のローム粒子(10YR5/6)3%、直径3mm以下の黒褐色スコリア3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
46. 5YR1.7/1	黒色土層	直径15mm以下の焼土ブロック・粒子7%、直径3mm以下の砂質粘土粒子3%、直径2mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まり強、粒子粗い。
47. 10YR2/3	黒褐色土層	直径10mm以下の焼土ブロック・粒子15%、直径3mm以下の砂質粘土粒子3%、直径3mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
48. 10YR2/3	黒褐色土層	直径7mm以下の焼土ブロック・粒子5%、直径2mm以下の砂質粘土粒子2%、直径3mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
49. 10YR3/3	暗褐色土層	直径5mm以下の焼土ブロック・粒子3%、直径2mm以下の砂質粘土粒子1%含む。粘性あり、締まり強、粒子密。
50. 10YR2/2	黒褐色土層	直径10mm以下の砂質粘土ブロック・粒子(10YR7/2)7%、直径5mm以下の炭化物粒子3%、長さ10mm以下の炭化材片2%、直径3mm以下の浅黄色土粒子(2.5Y7/3)1%含む。粘性あり、締まり強、粒子極めて粗い。
51. 10YR2/3	黒褐色土層	直径5mm以下の焼土粒子5%、直径3mm以下のローム粒子(10YR5/6)3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
52. 10YR4/6	褐色土層	ほぼⅢ3層土。直径2mm以下の焼土粒子2%含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。

第187図 SI63(4) 西カマド

北カマド



掘方

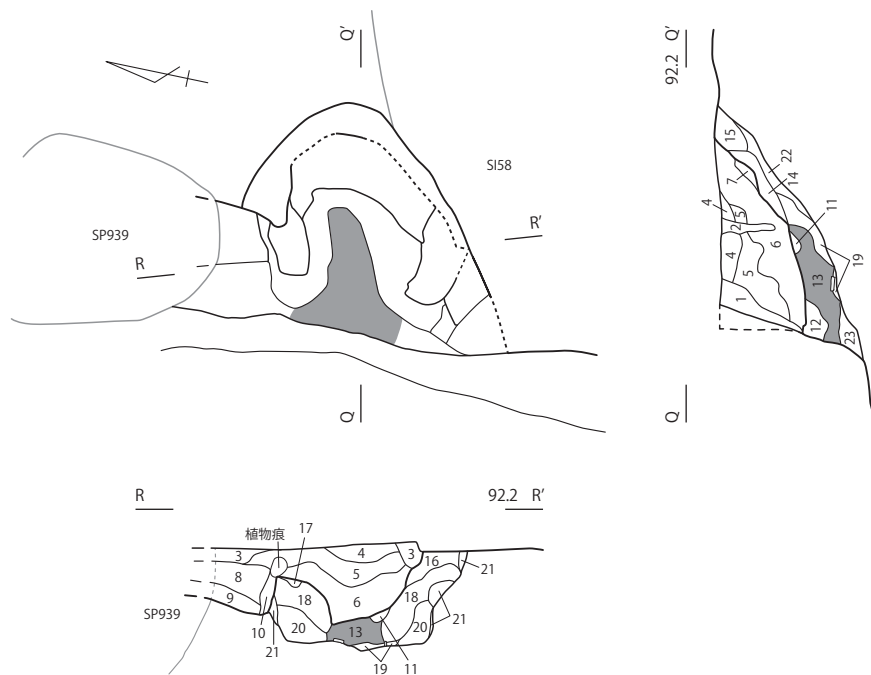


北カマド

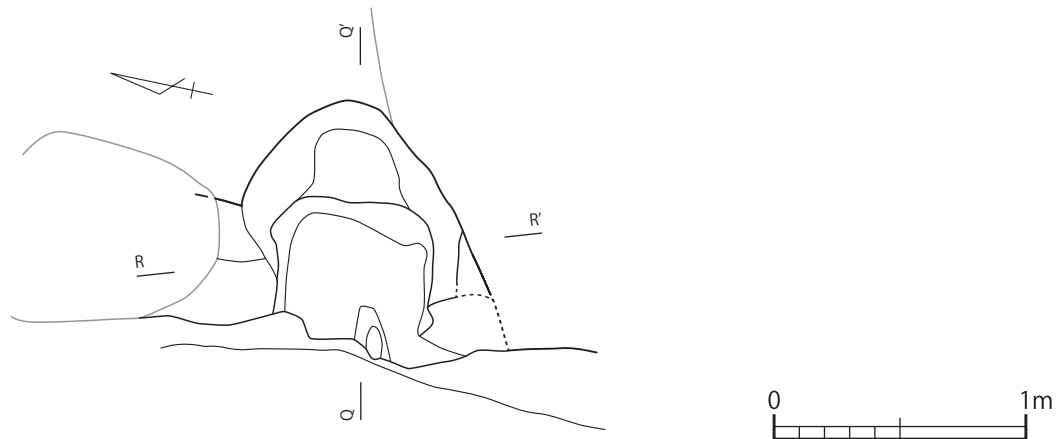
1. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 3%、直径 5mm 以下の砂質粘土粒子 5%、直径 3mm 以下の黒褐色土粒子 2% 含む。粘性あまりなし、締まり強、粒子密。
2. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 3mm 以下の焼土粒子 5%、直径 5mm 以下の砂質粘土粒子 10%、直径 3mm 以下の黒褐色土粒子 2%、直径 1mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性あり、締まり強、粒子密。
3. 10YR3/2	黒褐色土層	直径 2mm 以下の焼土粒子 2%、直径 3mm 以下の砂質粘土粒子 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
4. 10YR4/4	褐色土層	砂質粘土主体。直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 5mm 以下の黒褐色土粒子 3%、直径 1mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性極めて強、締まりあり、粒子やや粗い。
5. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 10%、直径 5mm 以下の砂質粘土粒子 5%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
6. 10YR2/3	黒褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2mm 以下の砂質粘土粒子 2%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
7. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 10mm 以下の焼土粒子 5%、直径 7mm 以下の砂質粘土粒子 2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
8. 10YR3/3	暗褐色土層	直径 10mm 以下の焼土ブロック 5%、直径 3mm 以下の砂質粘土粒子 2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
9. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8) 1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
10. 5YR4/8	赤褐色土層	砂質粘土主体。焼土 40%、黒褐色土粒子 (10YR2/2) 3% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
11. 10YR4/3	にぶい黄褐色土層	砂質粘土主体。黒色土 (10YR2/1) 3% 偏在。直径 5mm 以下の焼土粒子 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
12. 10YR3/4	暗褐色土層	砂質粘土 30% 偏在。直径 7mm 以下の焼土ブロック 5%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
13. 10YR3/3	暗褐色土層	砂質粘土 10% 混在。直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 3mm 以下の黒色土粒子 (10YR2/1) 2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
14. 7.5YR4/3	褐色土層	焼土・砂質粘土混合土層。粘性強、締まり強、粒子密。
15. 2.5Y2/1	黒色土層	焼土 10% 偏在。直径 5mm 以下の砂質粘土粒子 5% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
16. 5YR4/8	赤褐色土層	焼土主体。砂質粘土 20%、黒褐色土 (10YR2/2) 10% 偏在。粘性強、締まりあまりなし、粒子粗い。
17. 10YR4/4	褐色土層	砂質粘土主体。焼土 20%、黒褐色土 (10YR2/2) 5% 偏在。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
18. 10YR4/4	褐色土層	砂質粘土 30%、焼土 20% 混在。直径 10mm 以下のロームブロック (2.5Y7/8) 2% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
19. 10YR2/3	黒褐色土層	焼土・砂質粘土各 20%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
20. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8) 1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
21. 7.5YR2/3	極暗褐色土層	焼土 30%、直径 3mm 以下の黒色土粒子 (10YR2/1) 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。

第 188 図 SI63(5) 北カマド (1/30)

東カマド



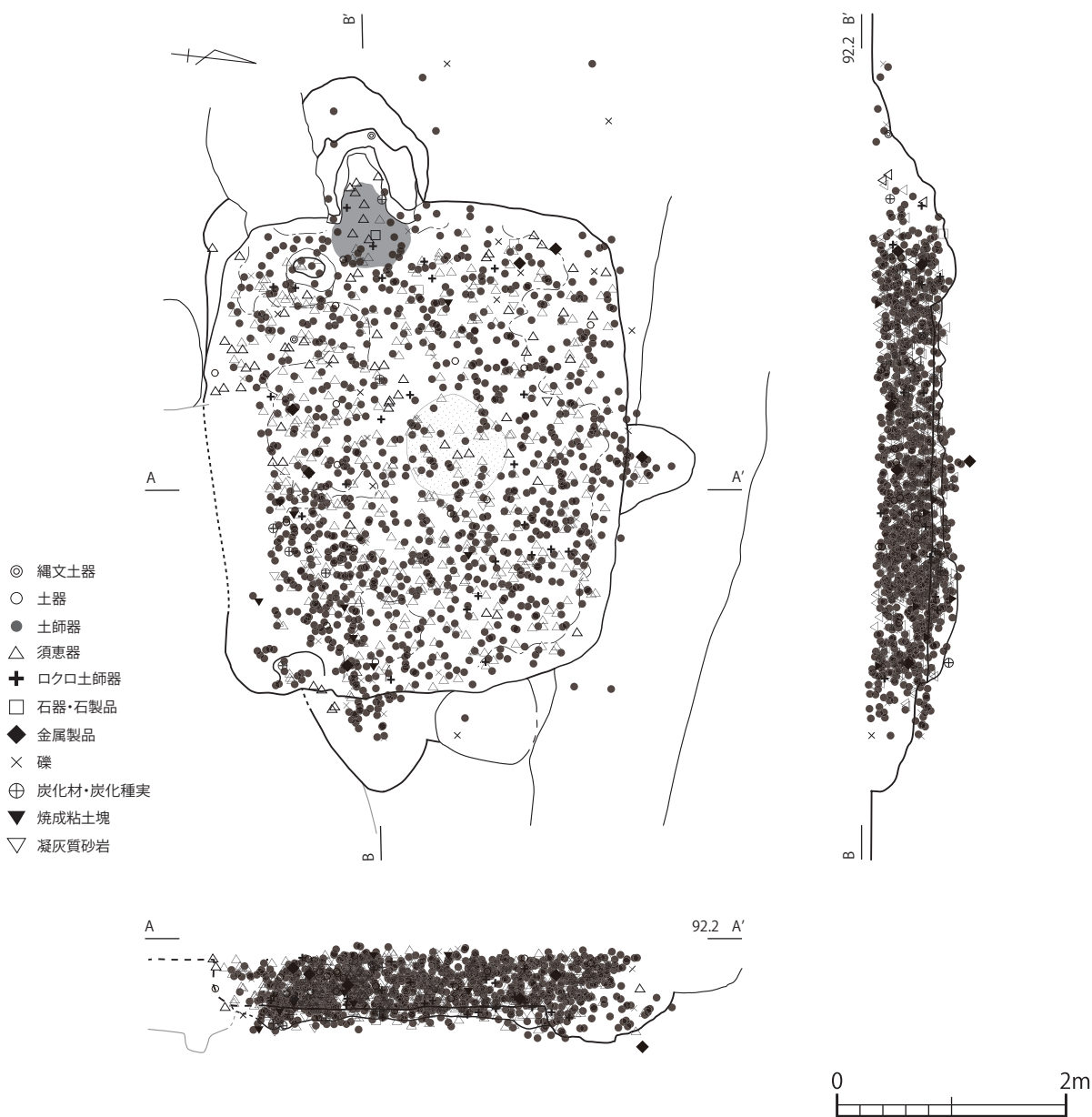
掘方



東カマド

- | | | |
|---------------|-----------|---|
| 1. 10YR3/1 | 黒褐色土層 | 直径10mm以下の砂質粘土ブロック (10YR7/2)10%、直径3mm以下の焼土粒子2%、直径3mm以下の黒褐色土粒子 (10YR2/2)1%含む。粘性あまりなし、締まり強、粒子密。 |
| 2. 7.5YR3/3 | 暗褐色土層 | 直径2mm以下の砂質粘土ブロック (10YR7/2)3%、直径5mm以下の焼土粒子15%、直径3mm以下の黒褐色土粒子 (10YR2/2)5%含む。粘性なし、締まりあまりなし、粒子やや粗い。 |
| 3. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 直径20mm以下の焼土ブロック3%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。 |
| 4. 10YR2/1 | 黒色土層 | 直径2mm以下の焼土粒子5%、直径3mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。 |
| 5. 7.5YR2/2 | 黒褐色土層 | 直径15mm以下の焼土ブロック10%、長さ5mm以下の炭化物片2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。 |
| 6. 7.5YR3/3 | 暗褐色土層 | 直径10mm以下の焼土ブロック15%、直径3mm以下の炭化物粒子5%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。 |
| 7. 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色土層 | 直径10mm以下の焼土粒子10%、直径3mm以下の黒褐色土粒子 (10YR2/2)3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。 |
| 8. 10YR2/1 | 黒色土層 | 直径10mm以下の焼土ブロック10%、直径1mm以下の炭化物粒子1%、直径2mm以下の黒褐色スコリア2%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。 |
| 9. 10YR2/1 | 黒色土層 | 直径3mm以下の焼土粒子3%、直径1mm以下の炭化物粒子1%、直径2mm以下の黒褐色スコリア1%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。 |
| 10. 10YR2/1 | 黒色土層 | 直径2mm以下の焼土粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。 |
| 11. 7.5YR4/3 | 褐色土層 | 砂質粘土層。直径5mm以下の焼土粒子5%、直径2mm以下の黒色土粒子 (10YR2/1)2%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子やや粗い。 |
| 12. 7.5YR3/3 | 暗褐色土層 | 直径15mm以下の焼土ブロック5%、直径3mm以下の炭化物粒子3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。やや砂質土層。 |
| 13. 7.5YR3/3 | 暗褐色土層 | 焼土粒子主体。黒褐色土10%偏在。直径10mm以下の焼土ブロック10%含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。 |
| 14. 10YR1.7/1 | 黒色土層 | 直径2mm以下の砂質粘土ブロック (10YR7/2)1%、直径5mm以下の焼土粒子5%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。 |
| 15. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 直径1mm以下の砂質粘土ブロック (10YR7/2)1%、直径1mm以下の焼土粒子5%、直径1mm以下の黒褐色スコリア1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。 |
| 16. 7.5YR3/3 | 暗褐色土層 | 直径5mm以下の焼土ブロック10%、直径3mm以下の炭化物粒子3%、直径2mm以下の黒褐色スコリア1%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや粗い。 |
| 17. 7.5YR3/2 | 黒褐色土層 | 焼土粒子30%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。 |
| 18. 7.5YR3/3 | 暗褐色土層 | 焼土粒子主体。黒褐色土20%偏在。直径20mm以下の焼土ブロック15%、長さ5mm以下の炭化材片2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。 |
| 19. 7.5YR2/1 | 黒色土層 | 直径5mm以下の焼土粒子3%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子やや密。 |
| 20. 7.5YR2/2 | 黒褐色土層 | 焼土粒子・焼土ブロック40%斑文状に偏在。直径5mm以下の砂質粘土粒子1%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。 |
| 21. 7.5YR2/1 | 黒色土層 | 焼土粒子10%斑文状に混入。粘性ややあり、締まりあり、粒子密。 |
| 22. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | III層土主体。直径3mm以下の焼土粒子3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。 |
| 23. 7.5YR3/2 | 黒褐色土層 | 直径10mm以下の焼土ブロック3%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。やや砂質土層。 |

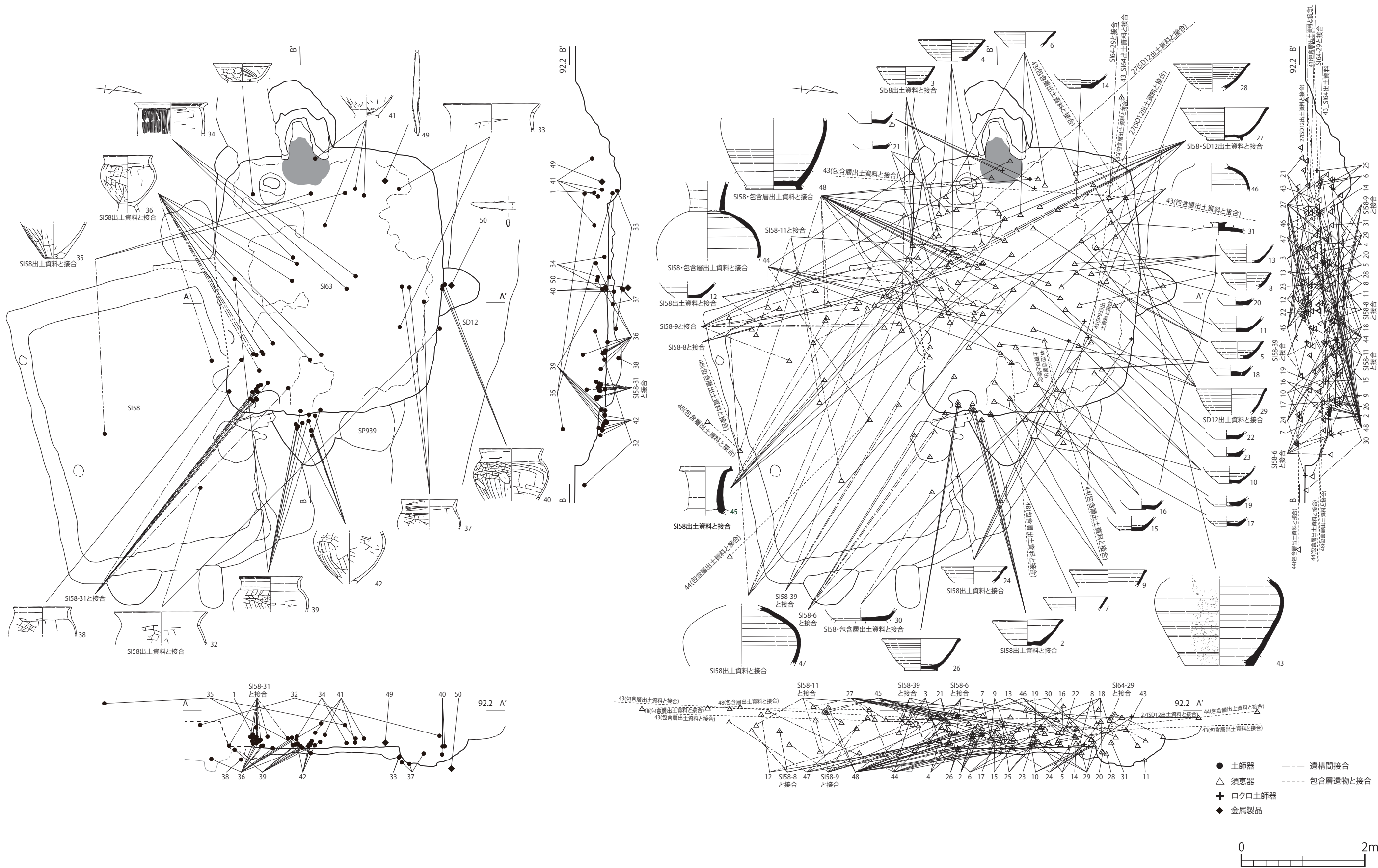
第189図 SI63(6) 東カマド (1/30)



第 190 図 SI63(7) 遺物分布図 (1/60)

左右の袖は遺存していなかったが、側壁は良好に残存していた。また、奥壁はやや不明瞭ながらも確認された。天井部は残存していなかったが、燃焼室内の覆土の状況から、天井部は、袖部と共に構築材が取り払われたものと考えられる。火床部は床面とほぼ同じ高さで、一部がやや高く盛り上がっている。カマドの掘方は、全体的に浅いが、焚口部前面のみ深く掘り込まれている。

北カマドは、北壁の中央をU字状に掘り込んで構築されていた。西カマド構築以前に使用されていたとみられ、本カマドの廃絶時、燃焼室等の壁の掘り込みは埋められて壁が復元されていた。そのため、袖部は遺存していなかった。



第 191 図 SI63(8) 遺物接合図 (1/60)

北カマド上部は全体的に中世の溝SD12に削平されていた。奥壁と左側の側壁とは遺存していたが、右側の側壁は、右袖と共に、奥壁近くまで構築材が持ち出されたものとみられ、遺存していなかった。残存部分の構築材には、砂質粘土や砂質粘土と黒褐色土を混ぜ合わせたものが用いられ、それらを相互に積み上げている。砂質粘土には被熱、赤化したブロックも含まれていることから、カマドの作り直しが想定される。また、左側壁には、芯材とみられるやや小型の自然礫（砂岩）が地山に寄り添うように立てられていた。北カマド掘方の5層は、北カマドの廃絶時、床面を構築する部分の火床部を一旦掘り起こしてから埋め直した土壌と想定される。6～9層もその可能性が考えられる。10層は焼土を多く含む砂質粘土主体の層で、この上面がカマドの底面だったものと思われる。

なお、掘立柱建物跡Eを構成するSP940を切ってこの北カマドが構築されており、掘立柱建物跡EよりもSI63の方が新しいことが分かる。

東カマドは、東壁の南寄りをV字状に掘り込んで構築されていた。他の遺構等による損壊は無かったが、遺存状況は悪かった。被熱した砂質粘土や焼土の大型ブロック等を多く含む暗褐色や黒褐色の土壌により構築されていて、機能していた時点で崩れやすかったものと思われる。袖は完全に取り払われていて、左右の側壁が遺存していた。奥壁、天井部は遺存しておらず、廃絶時に構築材が取り払われたようである。火床部は床面よりも10cm程度高い位置にあり、側壁の内面と共に強く被熱していた。（相原）

第190図によると、遺物は建物全体から出土し、覆土上層から掘方に至るまで、濃い密度で分布する。本遺構の主たる遺物である土師器や須恵器、ロクロ土師器等は建物全体に分布するが、それ以外に目立った特徴は認められない。金属製品の大部分は覆土中に分布する。

遺物の項目で後述するが、本遺構の遺物として取り上げたものの中に、本来はSI58に帰属するであろう土器も含まれていた。それらは、主に建物の東半分、SI58の北側に当たる範囲に分布し、一部の破片はSI58出土の破片と接合することを確認した。

出土遺物の中には凝灰質砂岩も含まれており、その一部には平坦な加工面を有する切石状の破片もある。凝灰質砂岩の分布を見ると建物の東半分に分布し、本来はSI58に伴うであろう土器と同様の分布状況を示す。本遺構に付帯する3基のカマドに凝灰質砂岩が使用された明瞭な痕跡が見られないことを考え合わせると、凝灰質砂岩はSI58のカマド構築材の一部だと推察される。

遺物 本遺構からは、総点数1,677点、総重量16,156gが出土した。種別・器種ごとの内訳は、古代の土師器1,021点3,991.1g（坏18点81.7g、甕967点3,392.5g、台付甕35点516.5g、器種不明1点0.4g）、古代の須恵器515点3,694.9g（坏450点2,222.7g、埴12点265.9g、鉢1点13.3g、蓋9点112.9g、甕8点260.4g、長頸瓶6点143.5g、瓶あるいは壺29点676.4g）、古代のロクロ土師器（坏）24点107.6g、古代の金属製品6点20g（刀子2点3.5g、鉄鏃3点14.8g、器種不明1点1.8g）、凝灰質砂岩21点68.6g、焼成粘土塊13点23.9g、縄文土器2点16g（五領ケ台Ⅱ式1点3.5g、中期型式不明1点12.4g）、縄文時代の石器（剥片）2点1.7g、弥生時代後期～古墳時代前期の土器22点128.3g（壺9点70.5g、甕11点56g、鉢1点0.8g、甕あるいは壺1点1g）、被熱礫を含む礫51点8,103.7gで、これら以外に炭化物が出土した。

縄文土器や石器、弥生時代後期～古墳時代前期の土器は、本遺構に伴う遺物ではない。古代の出土遺物の傾向として、土師器では甕の出土量が圧倒的に多いが、台付甕が一定量出土していること、須



1. 土層断面 A-A' 東南東から



2. 土層断面 B-B' 南南東から



3. 床面全景 東から



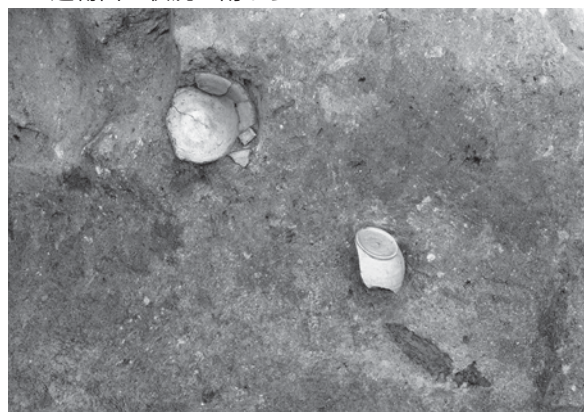
1. 遺物出土状況 東から



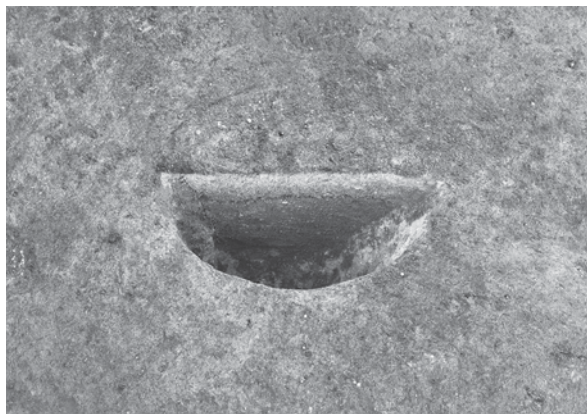
2. 遺物出土状況 南から



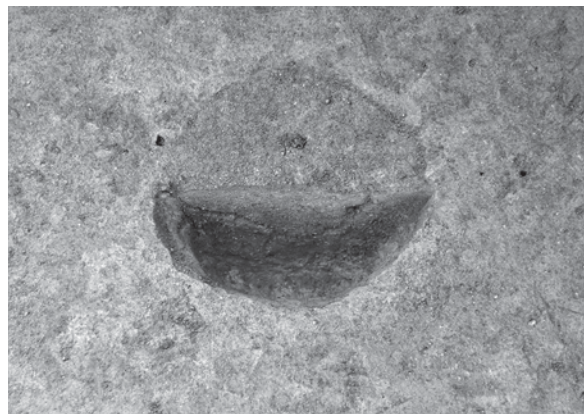
3. 遺物出土状況 東から



4. 遺物出土状況 西から



5. P1 土層断面 東から



6. P2 土層断面 東から



7. P4・5 土層断面 東北東から



8. P7 土層断面 南から



1. 西カマド土層断面 C-C' 東から



2. 西カマド土層断面 D-D' 東から



3. 西カマド土層断面 E-E' 南東から



4. 西カマド全景 東から



5. 西カマド掘方土層断面 C-C' 東から



6. 西カマド掘方土層断面 D-D' 東から



7. 西カマド掘方土層断面 E-E' 南東から



8. 西カマド掘方全景 東から



1. 北カマド土層断面 F-F' 南から



2. 北カマド土層断面 G-G' 東から



3. 北カマド全景 南から



4. 北カマド掘方土層断面 F-F' 南から



5. 北カマド掘方土層断面 G-G' 東から



1. 東カマド土層断面 A-A' 西南西から



2. 東カマド土層断面 B-B' 南南東から



3. 東カマド全景 西南西から



4. 東カマド掘方土層断面 A-A' 西南西から



5. 東カマド掘方土層断面 B-B' 南南東から



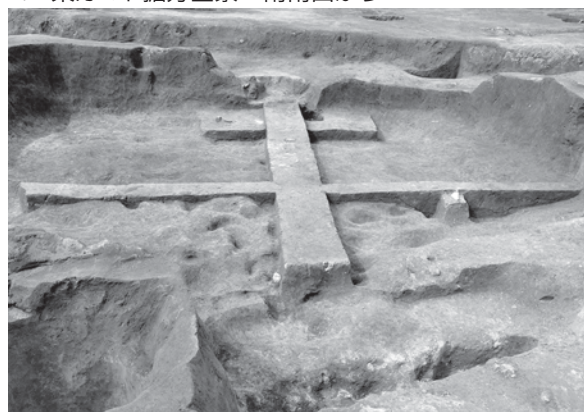
1. 北カマド掘方全景 南から



2. 東カマド掘方全景 南南西から



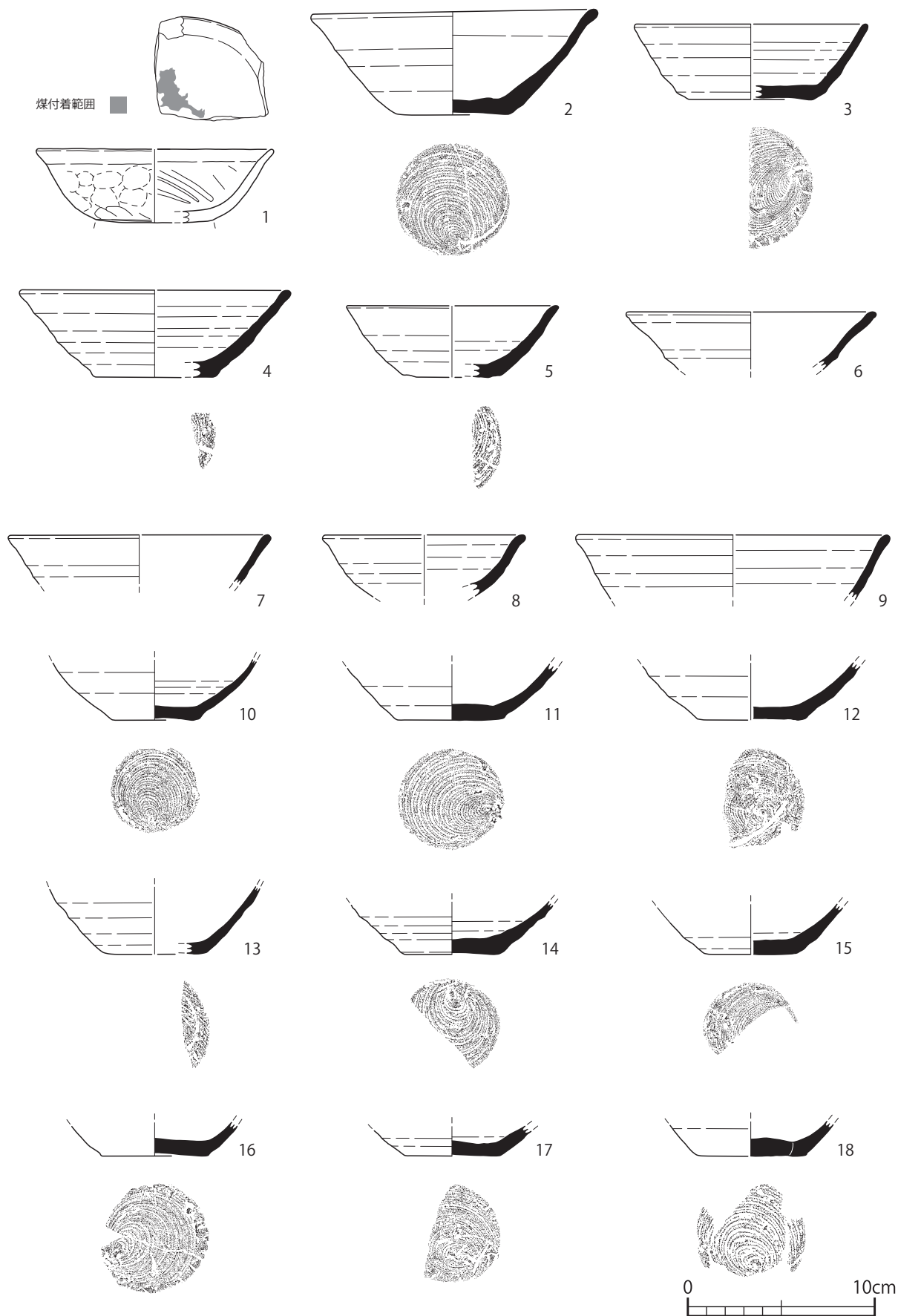
3. 掘方土層断面 A-A' 東南東から



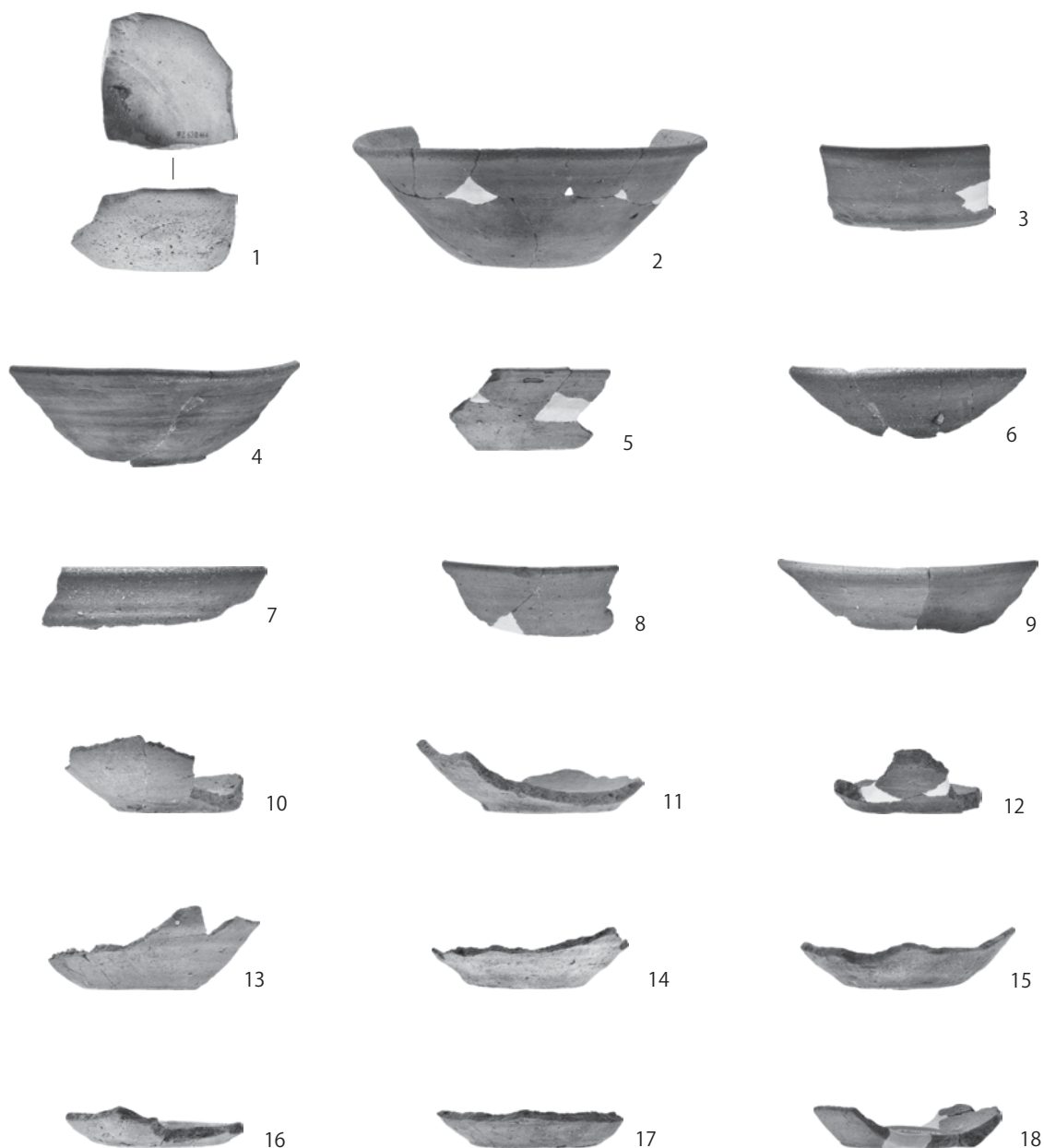
4. 掘方土層断面 B-B' 南南東から



5. 掘方全景 東から



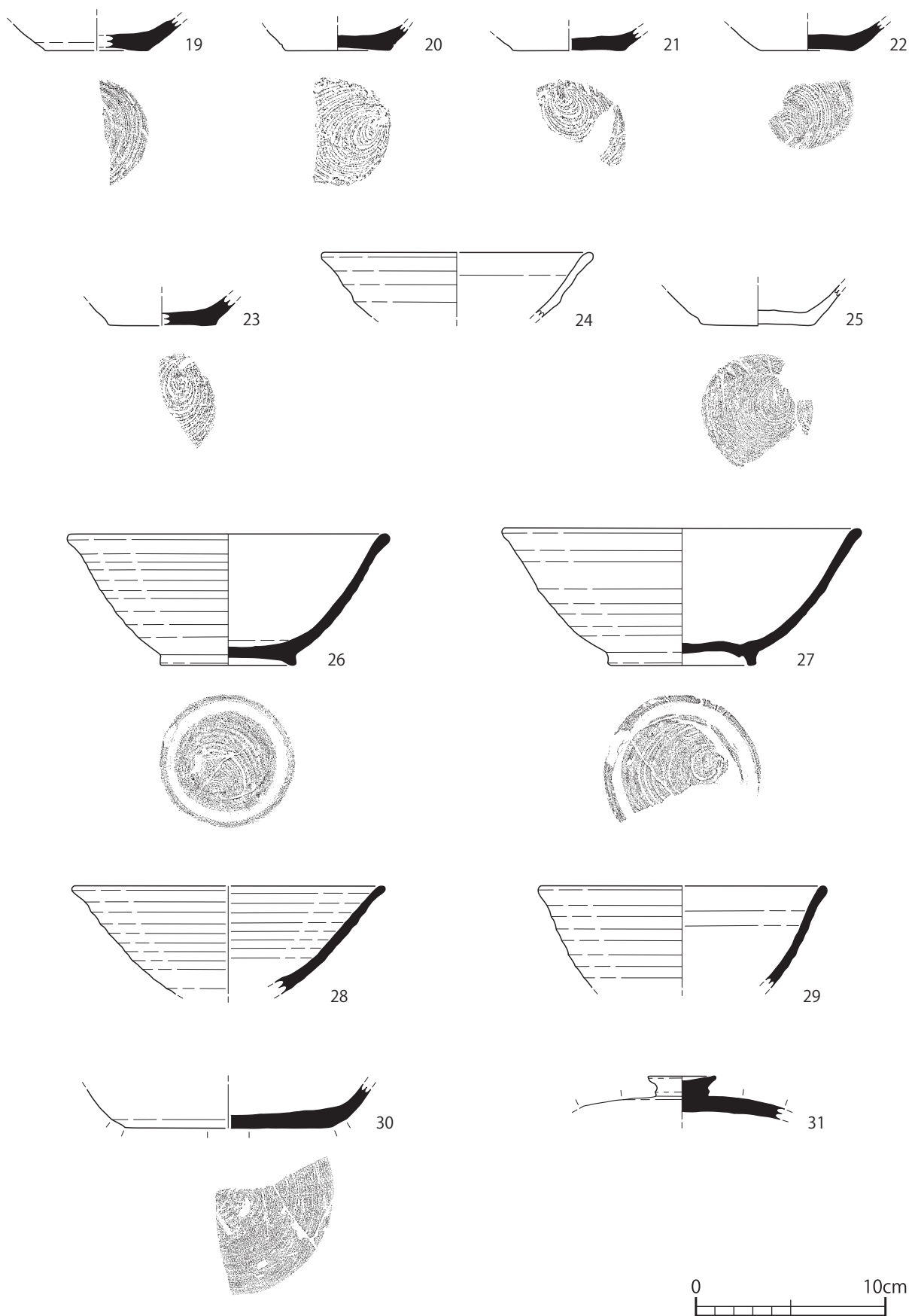
第 198 図 SI63 出土遺物 (1)(1/3)



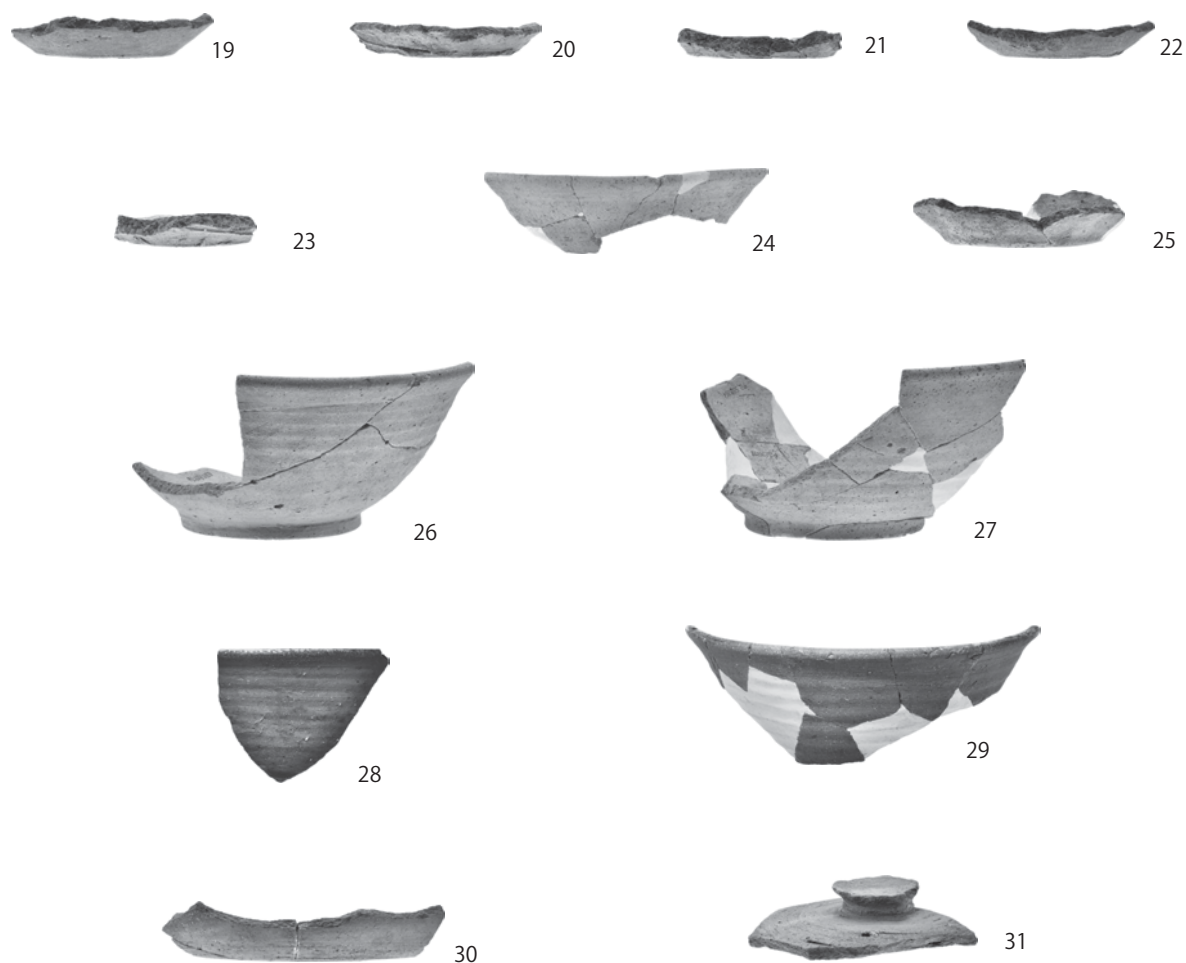
第 199 図 SI63 出土遺物 (1) 写真

恵器では坏・埴類で須恵器の点数全体の 8 割以上を占めること、長頸瓶を含む瓶類が甕よりも多く出土していること等が指摘できる。また、ロクロ土師器が少量ながら出土したことも特徴である。これらの中から、金属製品を含む 50 点を図化し、掲載した。

第 198・199 図 1 は土師器坏で、南武蔵型坏である。体部外面には指おさえの痕跡、体下部にはナデが見られる。内面には煤が付着している。2～第 200・201 図 23 は須恵器坏である。2 は全体的に器壁が厚く、口縁端部は丸く肥厚する。2～4 は体部が底部から直線的に開く器形で、2 の口縁部はわずかに外反する。5・10・12 は体部が底部からやや内湾気味に開く形状である。6～9 は口縁端部が丸く肥厚し、8 の口縁部はわずかに外反する。11・13～23 は体部が底部から直線的に開く器形を呈する。底径を見ると、2～4 が 6cm 台、5・11～21・23 が 5cm 台、10・22 が 4cm 台



第 200 図 SI63 出土遺物 (2)(1/3)

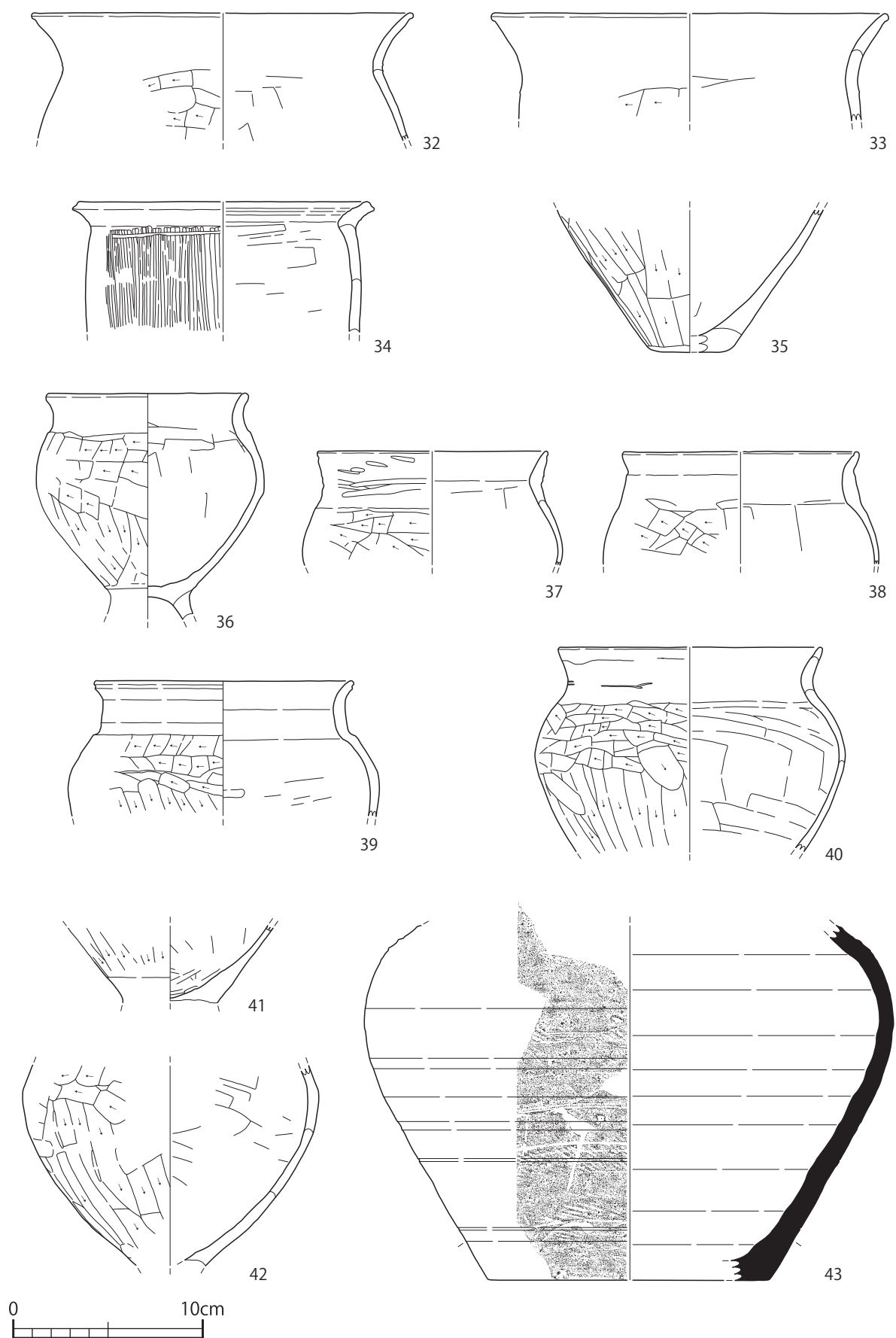


第 201 図 SI63 出土遺物 (2) 写真

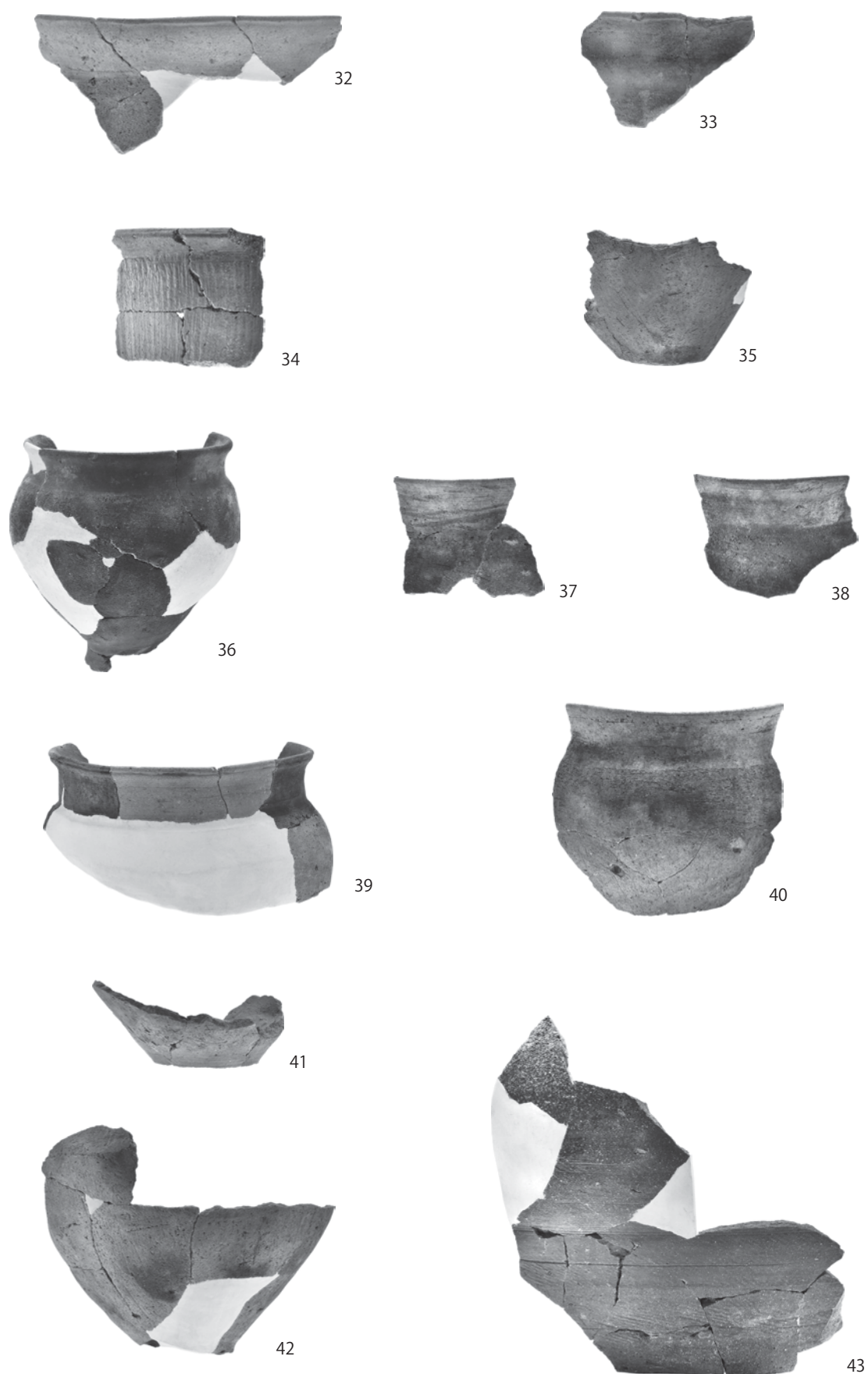
である。これらの坏の中で底部が遺存する坏は、どれも回転糸切り後、無調整の底部である。2・6・7・10・11・14・15・18 は南多摩窯、3・4・8・12・13・16・17・19～23 は東金子窯、5・9 は南比企窯の製品である。

24・25 はいずれも坏で、いわゆるロクロ土師器として扱った。ロクロ成形だが、焼成は軟質である。26～30 は須恵器碗で、いずれも体部が底部から内湾気味に開き、口縁部がやや外反する器形である。口縁端部は丸く肥厚する。26・27 は低い高台が付いており、高台部を欠く 28 や 29 も同様の器形と推定される。30 は高台の付かない碗で、底部は回転糸切り後、外周に回転ヘラケズリを施す。体下部にもヘラケズリが見られる。底径は 11cm と大きい。26・27 は南多摩窯、28～30 は東金子窯の製品である。31 は須恵器蓋で、ボタン状のつまみを有する。胎土に海綿骨針を含むことから、南比企窯の製品である。

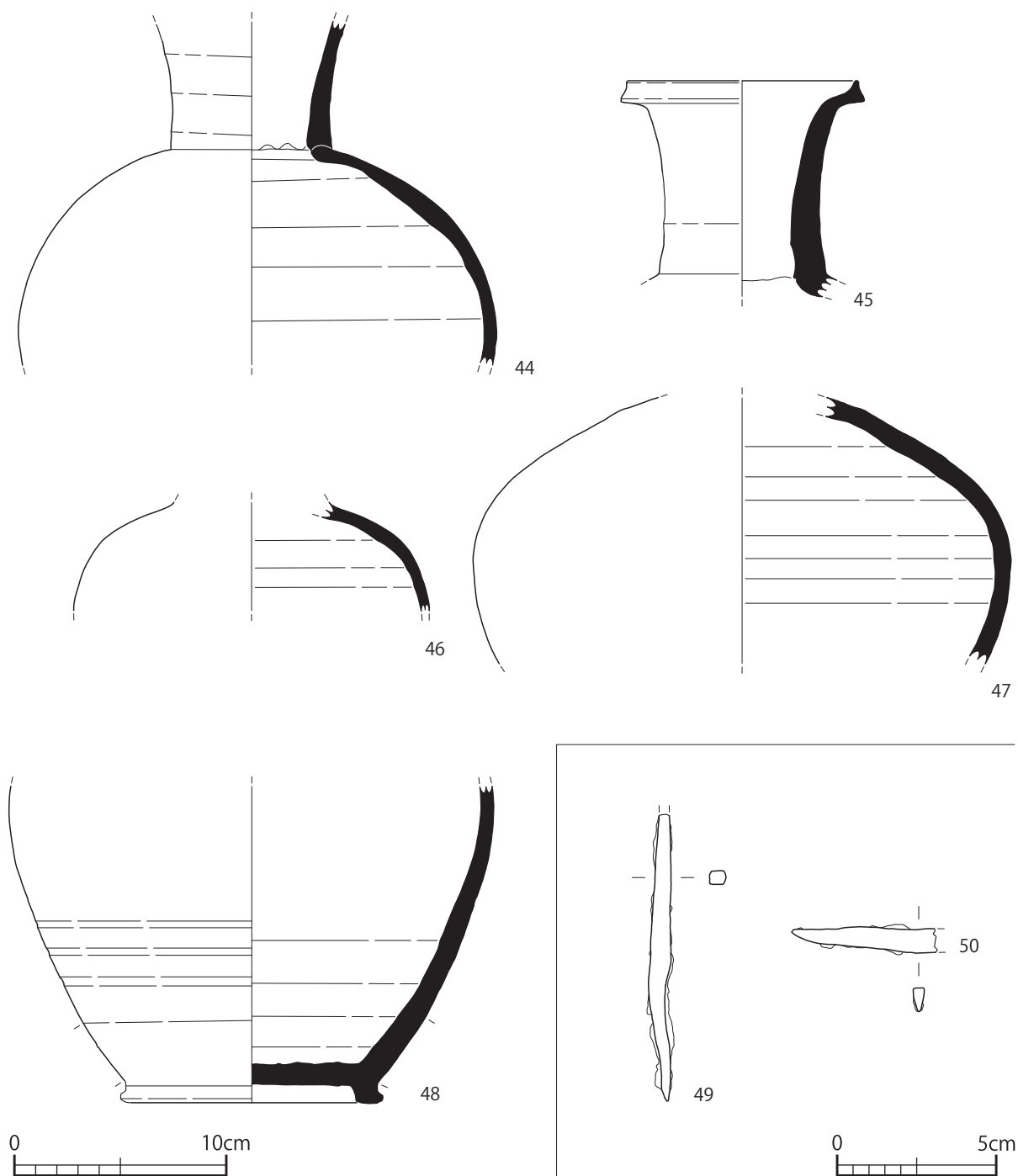
第 202・203 図 32～35 は土師器甕である。32 は頸部から口縁部にかけて「く」の字状に屈曲する形状で、33 は頸部の屈曲は弱く、緩やかに開く器形を呈する。34 は全体的に厚手なつくりと、「く」の字状に強く屈曲する器形が特徴的である。胴部外面は粗いハケ状工具による調整で、胎土には金雲母を多く含む。甲斐型甕の小形甕である。なお、34 と同一個体と考えられる胴部から底部にかけての破片が遺物包含層から出土しており、第 322・323 図 56 に掲載した。



第 202 図 SI63 出土遺物 (3)(1/3)



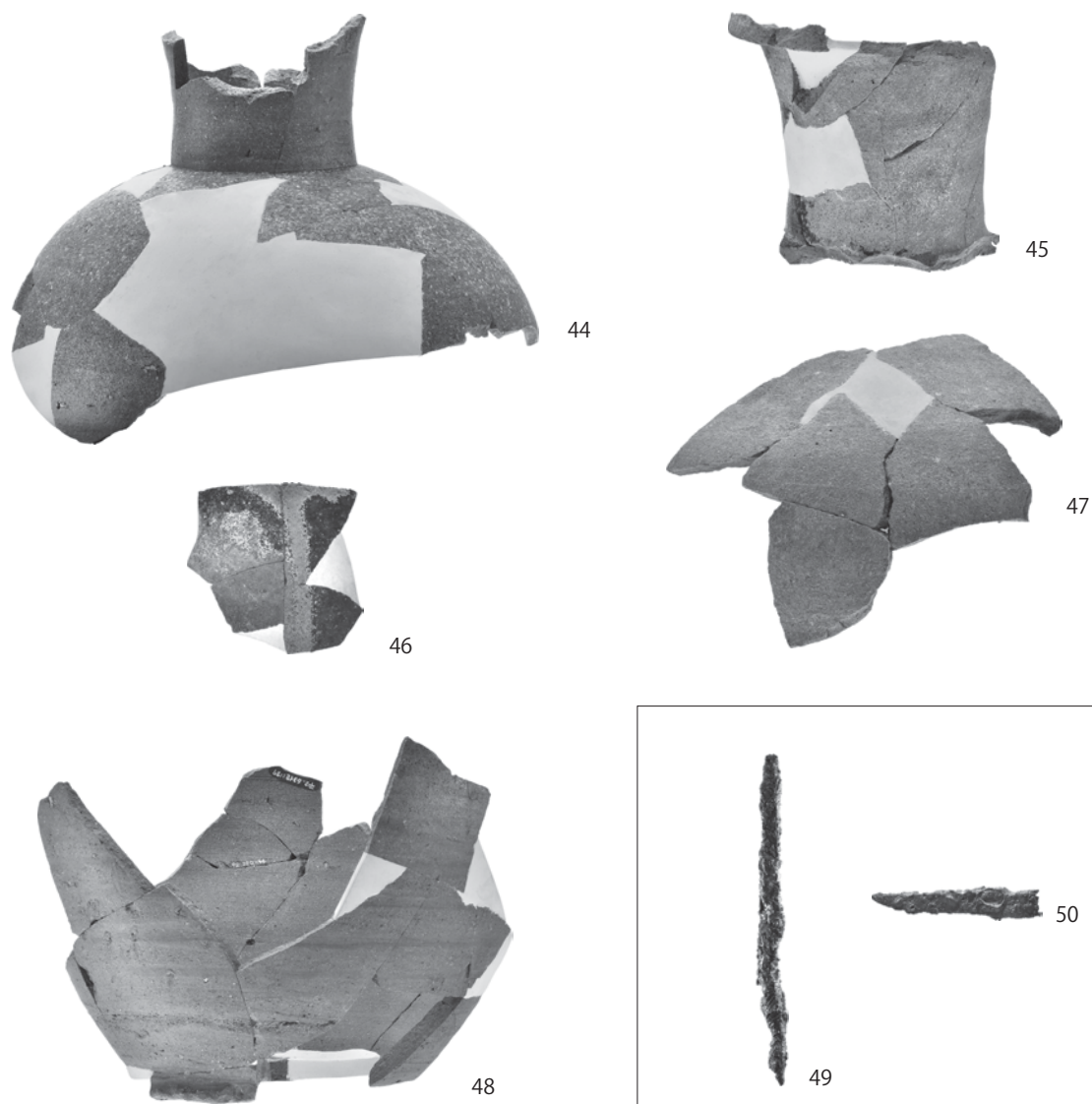
第 203 図 SI63 出土遺物 (3) 写真



第 204 図 SI63 出土遺物 (4)(1/3・1/2)

36～42 は土師器台付甕である。頸部から口縁部にかけての形態は一様ではなく、36 や 40 のように口縁部が緩やかに外反するものや、38・39 のように「コ」の字状に近い形状を呈するものもある。胴部外面は頸部直下に横位のヘラケズリを数段施し、それ以下は斜位あるいは縦位にヘラケズリを施すことが共通している。

43 は須恵器甕で、胴部最大径が上部にある器形である。胎土に海綿骨針が含まれており、南比企窯の製品である。第 204・205 図 44～48 は須恵器長頸瓶である。口頸部が遺存する 45 と胴部破



第205図 SI63 出土遺物(4) 写真

片の47は胎土の特徴等から、同一個体と考えられる。46は肩が張る器形で、やや小形の長頸瓶だろう。48は胴部から底部にかけて遺存しており、外端部が飛び出す形状の高台が貼り付けられている。44～46は南多摩窯、47は東金子窯の製品である。

49は鉄鏝の頸～茎部と考えられ、50は刀子の刃部である。

南武蔵型坏の1は鶴間正昭による編年の3段階に比定されようか。須恵器坏のうち4～15・17～23が南比企窯跡群鳩山編年のHXⅠ期とまとまっている。2は同HX期、3は同HⅦ期、16は同HⅧ期、30は同HⅣ期前半にそれぞれ位置付けられる。30については、古い様相を示す1の南武蔵型坏や32～34の土師器甕とともに、本来はSI58に伴う遺物と推定される。4～15・17～23の須恵器坏が床面直上から覆土上層にかけて出土していることから、本遺構の廃絶時期は10世紀初頭から前葉にかけてである。
(小西)

第 32 表 SI63 出土土器観察表 (1)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 198 ・ 199 図	1	SI63	土師器 坏	[12.4] (3.9) [6.2]	体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外反して開く。平底。	外面のうち、口縁部は横位のナデ、体部は指おさえ。内面はナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	5YR6/6 橙	口縁～底部 1/8	重量 26.8g 南武蔵型坏
	2	SI63・SI58	須恵器 坏	15.2 5.6 6.0	体部は底部から直線的に立ち上がり、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒、白色粒子	軟質	底部外面 5YR7/4 にぶい橙 それ以外 2.5Y5/2 暗灰黄	口縁～体部 3/4 底部完形	重量 178.7g 南多摩窯
	3	SI63・SI58・28Q-46	須恵器 坏	[12.3] 6.6 [4.0]	体部は底部から直線的に開く。全体的に厚手のつくり。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	小礫、砂粒	良好	底部 5YR5/3 にぶい赤褐 それ以外 N4.5/ 灰	口縁部 1/6 底部 1/2	重量 51.4g 東金子窯
	4	SI63	須恵器 坏	[14.2] 4.6 [6.5]	体部は底部から直線的に開く。全体的に厚手のつくり。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒、白色粒子	良好	10YR5/1 褐灰	口縁部 1/3	重量 58.1g 東金子窯
	5	SI63	須恵器 坏	[11.2] 3.8 [5.2]	体部は底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	小礫、砂粒、 海綿骨針	軟質	底部断面 5YR6/6 橙 それ以外 2.5Y7/1 灰白	口縁～底部 1/8	重量 24.8g 南比企窯
	6	SI63	須恵器 坏	[13.1] (3.1)	体部は直線的に開き、口縁部は肥厚する。	ロクロ成形。	小礫、砂粒	良好	N4.5/ 灰	口縁部 1/4	重量 24.3g 南多摩窯
	7	SI63	須恵器 坏	[13.8] (2.6)	体部は直線的に開き、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。	小礫、砂粒	良好	N4.5/ 灰	口縁部 1/4	重量 17.3g 南多摩窯
	8	SI63	須恵器 坏	[10.6] (3.3)	口縁部は短く外反して開く。全体的に厚手のつくり。	ロクロ成形。	小礫、砂粒	良好	2.5Y5/1 黄灰	口縁部 1/4	重量 22.2g 東金子窯
	9	SI63	須恵器 坏	[16.5] (3.3)	体部は直線的に開き、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。	砂粒、海綿骨針	軟質	外面 2.5Y6.5/2 灰黄 内面 10YR7/3 にぶい黄橙	口縁部 1/4	重量 24.1g 南比企窯
	10	SI63・28Q-46	須恵器 坏	(3.1) 4.6	体部は底部から内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒、黒色粒子	良好	N5/ 灰	底部完形	重量 37.7g 南多摩窯
	11	SI63	須恵器 坏	(2.7) 5.6	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒、黒色粒子、赤褐色粒子	軟質	外面 10YR8/3 浅黄橙 内面 10YR7/4 にぶい黄橙	底部完形	重量 58.8g 南多摩窯
	12	SI63・SI58・28Q-46	須恵器 坏	(2.8) [5.7]	体部は底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒、白色粒子	良好	5Y5/1 灰	底部 1/4	重量 30.1g 東金子窯
	13	SI63・28Q-45	須恵器 坏	(3.5) [5.5]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	小礫、砂粒	やや軟質	底部外面 5YR6/3.5 にぶい橙 それ以外 7.5Y5/1 灰	底部 1/4	重量 22.0g 東金子窯
	14	SI63	須恵器 坏	(2.6) [5.1]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒、黒色粒子	やや軟質	2.5Y7/1 灰白	底部 1/2	重量 44.5g 南多摩窯
	15	SI63	須恵器 坏	(2.5) [5.0]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒、白色粒子	軟質	2.5Y6/2 灰黄	底部 1/2	重量 40.2g 南多摩窯
	16	SI63	須恵器 坏	(1.6) 5.8	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	小礫、砂粒、白色粒子	軟質	外面 7.5YR6.5/4 にぶい橙 内面 10YR7/2 にぶい黄橙	底部完形	重量 43.0g 東金子窯
	17	SI63	須恵器 坏	(1.3) [5.1]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	小礫、砂粒、白色粒子	良好	5YR5.5/1 灰	底部 1/2	重量 35.4g 東金子窯
	18	SI63	須恵器 坏	(1.6) 5.8	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒、黒色粒子	軟質	2.5Y7/2 灰黄	底部 1/3	重量 37.0g 南多摩窯
第 200 ・ 201 図	19	SI63	須恵器 坏	(1.4) [5.4]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒	良好	2.5Y6/1.5 黄灰	底部 1/3	重量 30.4g 東金子窯
	20	SI63	須恵器 坏	(1.1) [5.5]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	小礫、砂粒	軟質	7.5YR6/4 にぶい橙	底部 1/2	重量 34.8g 東金子窯
	21	SI63・28Q-45	須恵器 坏	(0.8) [5.9]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒、赤褐色粒子	軟質	7.5YR6/6 橙	底部 1/3	重量 19.6g 東金子窯

第 32 表 SI63 出土土器観察表 (2)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 200 ・ 201 図	22	SI63	須恵器 坏	(1.2) [4.8]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒、黒色 粒子	良好	10YR5.5/1 褐 灰	底部 1/2	重量 27.6g 東金子窯
	23	SI63	須恵器 坏	(1.2) [5.7]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒、赤褐色 色粒子	やや軟 質	7.5YR6.5/6 橙	底部 1/3	重量 18.5g 東金子窯
	24	SI63・ SI58・ 28Q-36	ロクロ 土師器 坏	[14.0] (3.4)	体部は直線的に開き、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。	砂粒、赤褐色 色粒子	軟質	7.5YR6.5/6 橙	口縁部 1/4	重量 23.7g
	25	SI63	ロクロ 土師器 坏	(1.7) 6.0	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒	軟質	外面 10YR7/2.5 に ぶい黄橙 内面 10YR5.5/2 灰 黄褐	底部 3/4	重量 41.6g
	26	SI63	須恵器 壺	[16.6] 6.9 7.0	体部は底部から内湾気味に開く。口縁部は短く外反し、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、高台部を貼り付ける。	小礫、砂粒、 白色粒子	軟質	2.5Y7/1 灰白	口縁～体 部 1/6 高台部完 形	重量 123.7g 南多摩窯
	27	SI63・ SI58・ 28Q-46	須恵器 壺	[18.6] 7.1 7.8	体部は底部から内湾気味に開く。口縁部は短く外反し、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、高台部を貼り付ける。	砂粒	軟質	2.5Y8/2 灰白	口縁部 1/12 高台部 2/3	重量 95.5g 南多摩窯
	28	SI63	須恵器 壺	[16.3] (5.7)	体部は底部から内湾気味に開く。口縁部は短く外反し、口縁端部はわずかに肥厚する。	ロクロ成形。	砂粒、白色 粒子	良好	5YR5/1 灰	口縁部 1/8	重量 30.7g 東金子窯
	29	SI63	須恵器 壺	[14.9] (5.3)	体部はやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。	砂粒、白色 粒子	良好	5YR5/1 灰	口縁部 1/3	重量 36.1g 東金子窯
	30	SI63・ SD12・ 28Q-35	須恵器 壺	(2.0) [11.0]	体部は底部から内湾気味に開く。	ロクロ成形。底部は(回転糸切り後?)回転ヘラケズリ。回転ヘラケズリが体下部におよぶ。	小礫、砂粒	やや軟 質	底部外面 5YR6/6 橙 それ以外 5YR5/3 にぶ い赤褐	底部 1/4	重量 85.1g 東金子窯
第 202 ・ 203 図	31	SI63	須恵器 蓋	(1.7) つまみ径 3.5	扁平宝珠形のつまみ。	ロクロ成形。 天井部は回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、 海綿骨針	良好	2.5Y7/1 灰白	天井部 2/3	重量 66.3g 南比企窯
	32	SI63・ SI58・	土師器 甕	[19.7] (6.6)	口縁部は緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ。 内面は横位のヘラナデ。	砂粒、赤褐色 色粒子	良好	5YR5/6 明赤 褐	口縁部 1/4	重量 58.5g
	33	SI63	土師器 甕	[20.6] (5.6)	口縁部は緩やかに外反して開く。頸部の屈曲は弱い。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ。 内面はヘラナデか。	砂粒	良好	5YR5/6 明赤 褐	口縁～頸 部破片	重量 37.4g
	34	SI63	土師器 甕	[14.5] (6.8)	頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は短く外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は縦位の粗いナゲ目。 内面は横位のヘラナデ。	砂粒、金雲 母	良好	5YR4/4 にぶ い赤褐	口縁～胴 部 1/6	重量 59.6g 甲斐型甕 同一個体と考えられる胴部破片が遺構外から出土。
	35	SI63・ 28Q-46	土師器 甕	(7.4) [4.5]	胴部は底部から直線的に開く。	胴部外面は縦位のヘラケズリ。	砂粒	良好	外面 5YR5/6 明赤 褐 内面 7.5YR7/4 にぶ い橙	底部 3/4	重量 112.8g
	36	SI63・ SI58	土師器 台付甕	10.4 (11.6) 胴部 最大径 12.0	口縁部は外反して開く。最大径は胴上部にくる。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ、胴下部は縦位のヘラケズリ。甕と脚だ部との接合部は横位のナデ。 内面は横位のヘラナデ。	砂粒、赤褐色 色粒子	良好	7.5YR3/1 黒 褐・10YR6/3 にぶい黄橙	口縁～胴 部 2/3 甕底部完 形	重量 170.4g 口縁～頸部内面に 爆ぜた痕跡。
	37	SI63	土師器 台付甕	[11.9] (6.0)	口縁部は直立気味に開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ。 内面は横位のナデ主体。	砂粒	良好	外面 5YR5/4 にぶ い赤褐 内面 7.5YR3/2 黒褐	口縁部 1/6	重量 29.8g
	38	SI63	土師器 台付甕	[12.3] (5.9)	頸部は内傾して立ち上がり、口縁部は短く外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ。 内面はヘラナデ。	砂粒	良好	7.5YR3/3 暗褐	口縁部 1/6	重量 35.9g

第 32 表 SI63 出土土器観察表 (3)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 202 ・ 203 図	39	SI63・ SI58	土師器 台付甕	13.4 (7.1) 胴部 最大径 [16.4]	頸部は直立気味に立ち上がり、口縁部は短く外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位と縦位のヘラケズリ。内面はナデ。	砂粒、白色粒子、赤褐色粒子	良好	7.5YR7/6 橙・7.5YR3/1 黒褐	口縁部 2/3	重量 96.7g
	40	SI63	土師器 台付甕	[13.6] (10.7) 胴部 最大径 [16.3]	口縁部は直線的に開く。最大径は胴上部にある。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ、それ以下は縦位のヘラケズリ。内面は横位のヘラナデ。	小礫、砂粒	良好	5YR5/6 明赤褐	口縁～胴部 1/4	重量 106.6g
	41	SI63	土師器 台付甕	(4.1) 甕底部径 5.0	胴部は底部から直線的に開く。	外面のうち、胴下部は縦位のヘラケズリ、甕と脚台部との接合部外面は横位のナデ。内面はヘラナデ。	砂粒	良好	外面 5YR5/6 明赤褐 内面 10YR4/2 灰黄褐	底部 3/4	重量 71.2g
	42	SI63	土師器 台付甕	(10.6) 胴部最大 径 [15.6]	胴部は底部からやや内湾気味に開く。最大径は胴上部にある。	外面のうち、胴上部は横位のヘラケズリ、それ以下は縦位のヘラケズリ、甕と脚台部との接合部外面は横位のナデ。内面は横位のヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR7/6 橙 内面 7.5YR6.5/4 にぶい橙・7.5YR3/1 黒褐	胴部 1/3	重量 124.4g
	43	SI63・ SI64・ SP939・ 28Q-25・ 34・35・ 53・55	須恵器 甕	(18.6) [14.8] 胴部 最大径 [27.9]	最大径は胴上部にある。底部は平底。	胴下部にヘラケズリ、底部は回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、海綿骨針、黑色粒子	良好	外面 2.5Y5.5/1 黄灰 内面 N5.5/ 灰	胴～底部 破片	重量 427.8 南比企窯
第 204 ・ 205 図	44	SI63・ SI58・ 28Q-39・ 44・46・ 55・56	須恵器 長頸瓶	(16.1) 頸部径 7.5 胴部 最大径 [22.6]	頸部は直立気味に立ち上がり、胴部は球形を呈する。	ロクロ成形。 内面はナデ。	小礫、砂粒	良好	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 N5.5/ 灰	頸部完形 胴部 1/2	重量 434.9g 胴部外面に自然釉。 東金子窯
	45	SI63・ 28Q-44 ～46	須恵器 長頸瓶	[10.8] (9.4) 頸部径 (7.9)	頸部は直立気味に立ち上がり、口縁端部断面は三角形を呈する。	ロクロ成形。	砂粒、白色粒子	良好	内外面 5Y7/1 灰白 釉 7.5Y4/3 暗オリーブ	口縁部 1/4 頸部 1/2	重量 189.4g 南多摩窯 第 204・205 図 45・47 は同一個体。
	46	SI63・ 28Q-46	須恵器 長頸瓶	(12.5) 胴部 最大径 [25.4]	肩が張る器形を呈する。	ロクロ成形。 内面はナデ。	砂粒、黑色粒子	良好	外面 N7.5/ 灰白 内面 2.5Y6/1.5 灰黄	胴部破片	重量 214.9g 外面に自然釉。 南多摩窯
	47	SI63・ SI58・ 28Q-46	須恵器 長頸瓶	(5.1) 胴部 最大径 [16.8]	胴部最大径が上部にある。	ロクロ成形。	砂粒、黑色粒子	良好	内外面 10YR6.5/1 灰白 釉 7.5Y4.5/2 灰オリーブ	胴部破片	重量 34.7g 南多摩窯 第 204・205 図 45・47 は同一個体。
	48	SI63・ SI58・ 28Q-45・ 46・55・ 56	須恵器 長頸瓶	(14.9) [12.3] 胴部 最大径 (23.4)		ロクロ成形。 胴下部外面は回転ヘラケズリ、高台部は貼り付け。	小礫、砂粒	良好	外面 2.5Y6/2 黄灰 内面 N5/ 灰	胴部 3/4 高台部 1/12	重量 739.5g 東金子窯

第 33 表 SI63 出土金属製品観察表

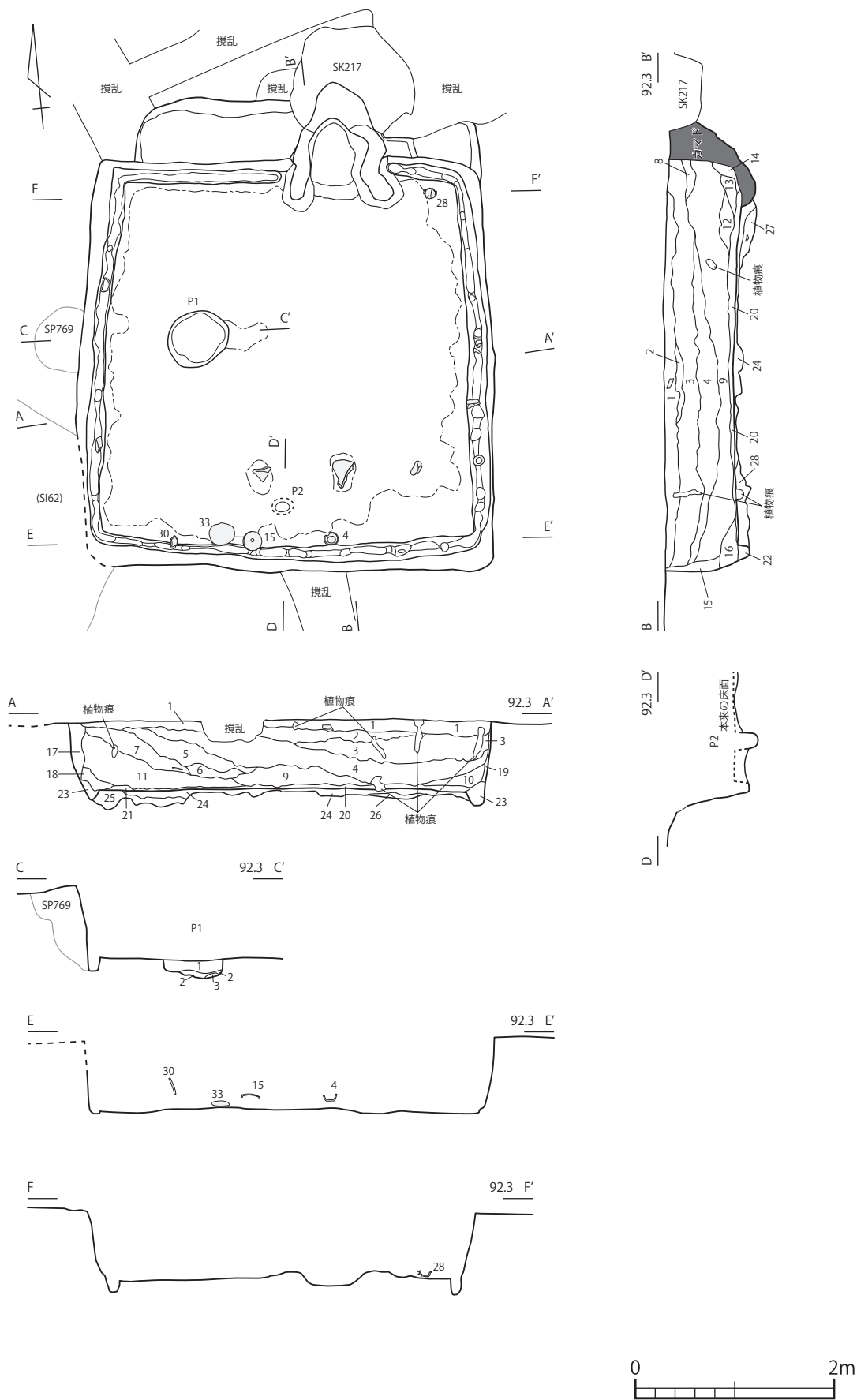
※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	器種	素材	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	残存	備考
第 204 ・ 205 図	49	SI63	鉄鏃	鉄	(9.0)	(0.6)	(0.4)	7.5g	頸～茎部 破片	
	50	SI63	刀子	鉄	(4.5)	(0.7)	(0.3)	2.1g	刃部破片	平造り

SI64 (第 206～222 図、第 34～36・45 表)

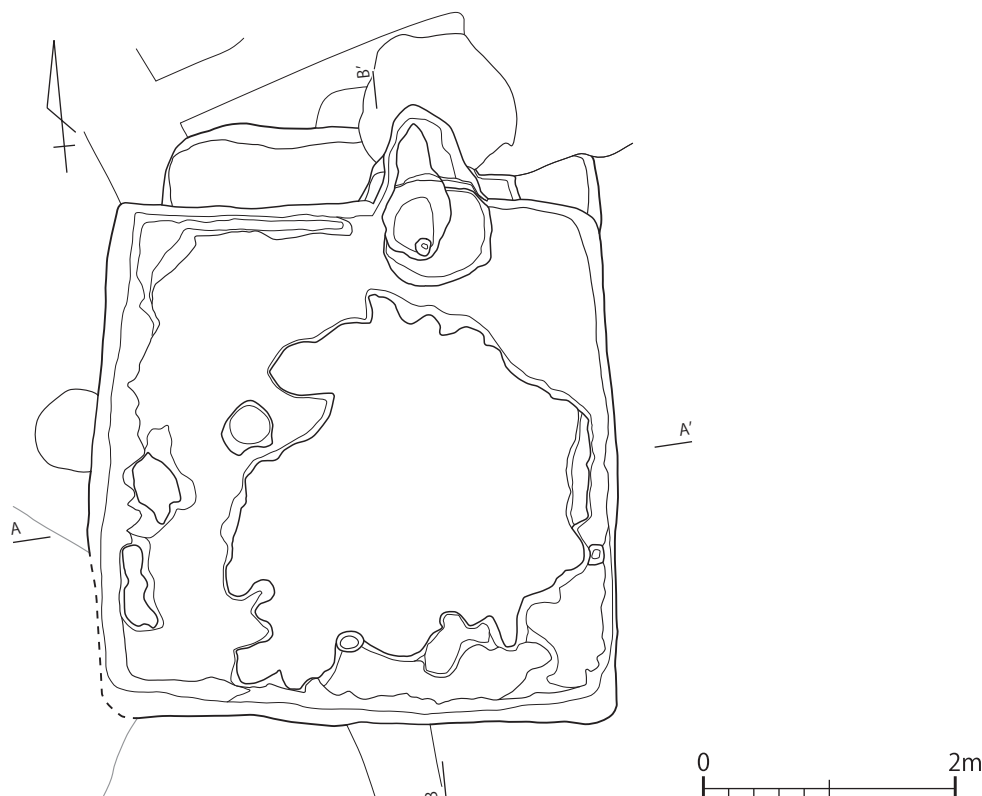
遺構 弥生時代後期後半の竪穴建物跡 SI62 の発掘調査時、赤砂部分を精査していた際に新たに検出された古代の竪穴建物跡である。

2-6 西区西寄りの 28Q-32・33・42・43 グリッドに位置する。検出面はⅡ3 層上で、SI62、SP769 を切っ



第 206 図 SI64(1)(1/60)

掘方



SI64

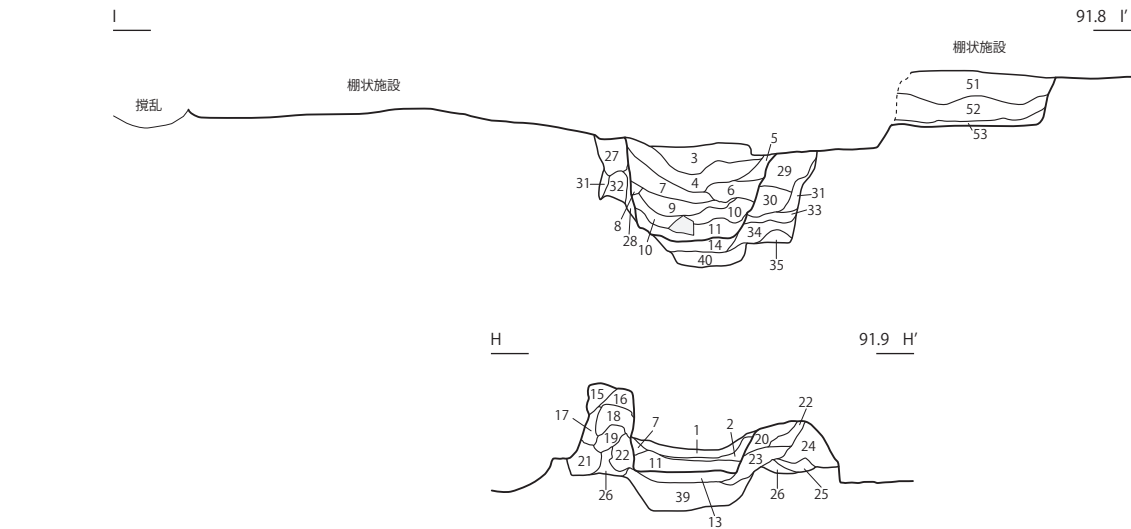
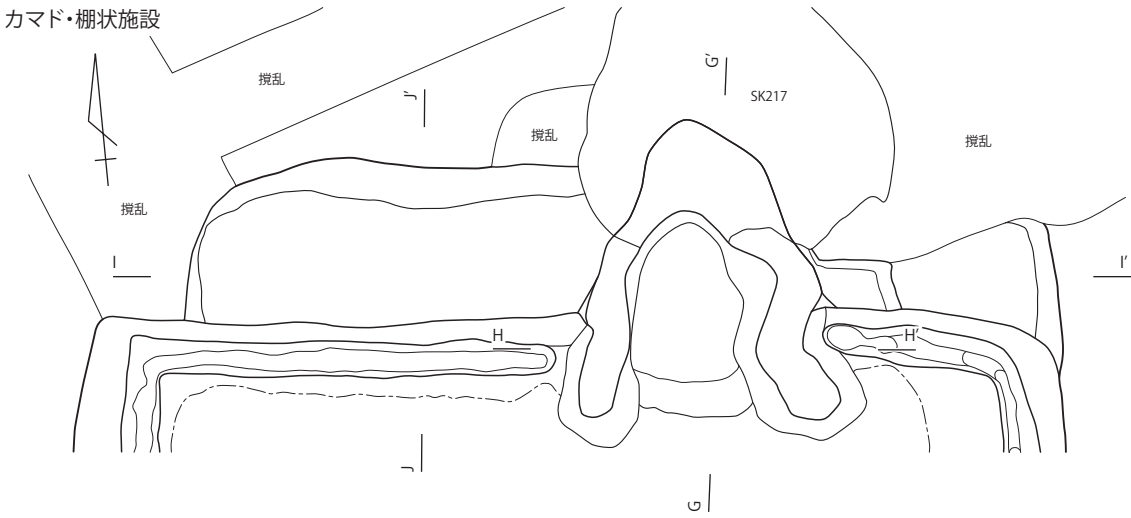
1. 10YR2/1 黒色土層 小ブロックと微粒子が混在した層。直径2mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/8)7%、直径2mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/8)5%、直径2mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子極めて粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/8)5%、直径3mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/8)3%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 小ブロックと微粒子が混在した層。直径5mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/8)7%、直径3mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/8)7%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い(2層より粗い)。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径5mm以下の焼土粒子(5YR4/8)7%、直径5mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/8)10%、直径3mm以下の黄褐色土粒子(10YR5/4)7%、直径2mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径5mm以下の焼土粒子10%、直径7mm以下のローム粒子(10YR5/8)10%、直径5mm以下の炭化物粒子2%、直径1mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
6. 10YR2/1 黒色土層 黒色土(10YR1.7/1)30%偏在。直径3mm以下の焼土粒子7%、直径5mm以下のローム粒子(10YR5/8)7%、直径3mm以下の赤褐色スコリア(10R4/8)2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
7. 10YR2/1 黒色土層 直径10mm以下のロームブロック(10YR5/8)15%、直径12mm以下の焼土ブロック10%、直径2mm以下の赤褐色スコリア(10R4/8)1%、直径2mm以下の炭化物粒子1%、直径5mm以下の黄褐色土粒子(10YR5/4)1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
8. 10YR2/1 黒色土層 直径5mm以下の焼土粒子5%、直径3mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/8)5%、直径2mm以下の黄褐色土粒子(10YR5/4)5%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや粗い。
9. 10YR2/1 黒色土層 直径10mm以下の焼土粒子7%、直径5mm以下のロームブロック(10YR3/3)5%、直径3mm以下の黄褐色土粒子(10YR5/4)5%、直径3mm以下の炭化物粒子2%含む。ベルト北寄りでは直径10mm以下の砂質粘土粒子15%偏在。粘性あり、締まりややあり、粒子極めて粗い。
10. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の焼土粒子3%、直径3mm以下のローム粒子(10YR5/8)2%、直径1mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
11. 10YR2/2 黒褐色土層 直径15mm以下の焼土ブロック10%、直径15mm以下のロームブロック(10YR5/8)15%、直径8mm以下の黄褐色土粒子(10YR5/4)10%、直径2mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
12. 10YR2/1 黒色土層 9層より暗い。直径7mm以下の焼土粒子(5YR4/8)3%、直径3mm以下のロームブロック(10YR3/3)3%、直径2mm以下の黄褐色土粒子(10YR5/4)3%、直径3mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
13. 10YR2/2 黒褐色土層 直径10mm以下の焼土粒子5%、直径5mm以下のロームブロック(10YR3/3)2%、直径3mm以下の黄褐色土粒子(10YR5/4)7%、直径5mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
14. 10YR3/3 暗褐色土層 黄褐色土(10YR5/8)40%、直径10mm以下の焼土ブロック10%偏在。直径3mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
15. 2.5Y2/1 黒色土層 直径1mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/8)5%、直径3mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/8)3%含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。
16. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)3%、直径5mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/8)10%、直径10mm以下のロームブロック(10YR4/6)5%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子粗い。
17. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の焼土粒子2%、直径2mm以下のローム粒子(10YR5/8)3%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子やや密。
18. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の焼土粒子3%、直径10mm以下のロームブロック(10YR5/8)7%、直径3mm以下の黄褐色土粒子(10YR5/4)5%、直径3mm以下の炭化物粒子3%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。
19. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土主体。直径1mm以下の赤褐色スコリア(10R4/8)2%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや密。
20. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)1%、直径3mm以下のロームブロック(10YR4/6)3%、直径2mm以下の炭化物粒子1%、直径5mm以下の焼土粒子3%含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
21. 10YR3/1 黒褐色土層 直径5mm以下の焼土粒子3%、直径5mm以下のローム粒子(10YR5/8)5%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
22. 10YR2/2 黒褐色土層 ローム(10YR4/6)20%偏在、直径10mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/8)5%含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
23. 7.5YR2/3 極暗褐色土層 ローム(10YR5/8)40%偏在。直径5mm以下のローム粒子(10YR5/8)7%、直径2mm以下の焼土粒子2%、直径5mm以下の赤褐色スコリア(10R4/8)2%含む。粘性強、締まりなし、粒子極めて粗い。
24. 10YR2/2 黒褐色土層 貼床土。層の上部が硬化する。直径5mm以下の明赤褐色スコリア(2.5Y4/6)10%、直径5mm以下の炭化物粒子5%含む。ローム粒子・ブロック30%偏在。粘性ややあり、締まり極めて強、粒子やや密。
25. 10YR4/4 褐色土層 貼床土。ローム主体土層。黒色土(10YR1.7/1)20%偏在。直径10mm以下の明赤褐色スコリア(2.5Y4/6)5%含む。粘性ややあり、締まり強、粒子粗い。
26. 10YR4/4 褐色土層 貼床土。ローム主体土層。黒色土(10YR1.7/1)10%偏在。直径5mm以下の明赤褐色スコリア(2.5Y4/6)3%含む。粘性ややあり、締まり強、粒子やや密。
27. 7.5YR3/3 暗褐色土層 貼床土。直径10mm以下の焼土粒子7%、直径10mm以下の黒色土ブロック(10YR1.7/1)5%、直径3mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
28. 10YR2/1 黒色土層 貼床土。5mm以下の明赤褐色スコリア(2.5Y4/6)5%含む。ローム粒子・ブロック20%偏在。粘性あり、締まり強、粒子粗い。

P1

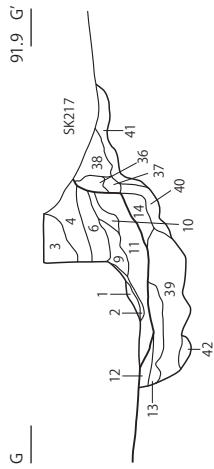
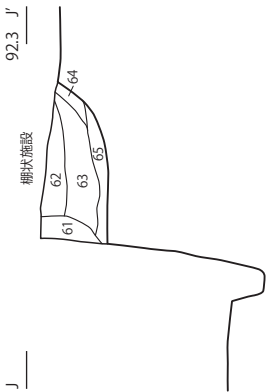
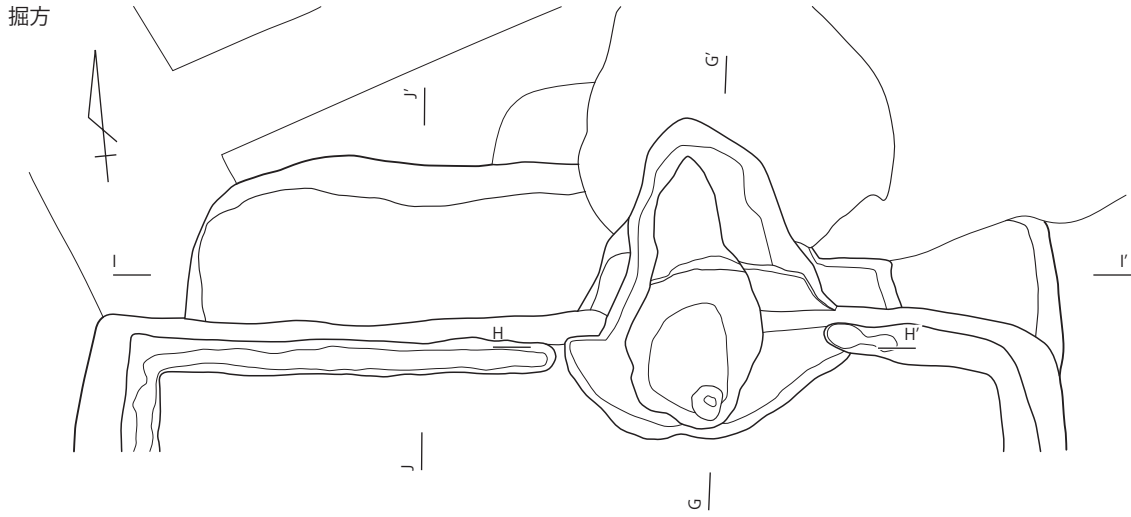
1. 7.5YR2/2 黒褐色土層 焼土粒子30%、ローム(10YR4/6)10%偏在。長さ5mm以下の炭化材片5%、直径15mm以下の焼土ブロック(10YR6/4)5%含む。粘性あまりなし、締まり強、粒子極めて粗い。
2. 7.5YR3/3 暗褐色土層 焼土粒子5%、長さ10mm以下の炭化材片3%、直径20mm以下のロームブロック(10YR5/8)5%含む。粘性あり、締まりなし、粒子極めて粗い。
3. 10YR5/8 黄褐色土層 ロームブロック主体。暗褐色土(10YR4/6)20%偏在。直径3mm以下の焼土粒子2%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子極めて粗い。

第207図 SI64(2)(1/60)

カマド・棚状施設



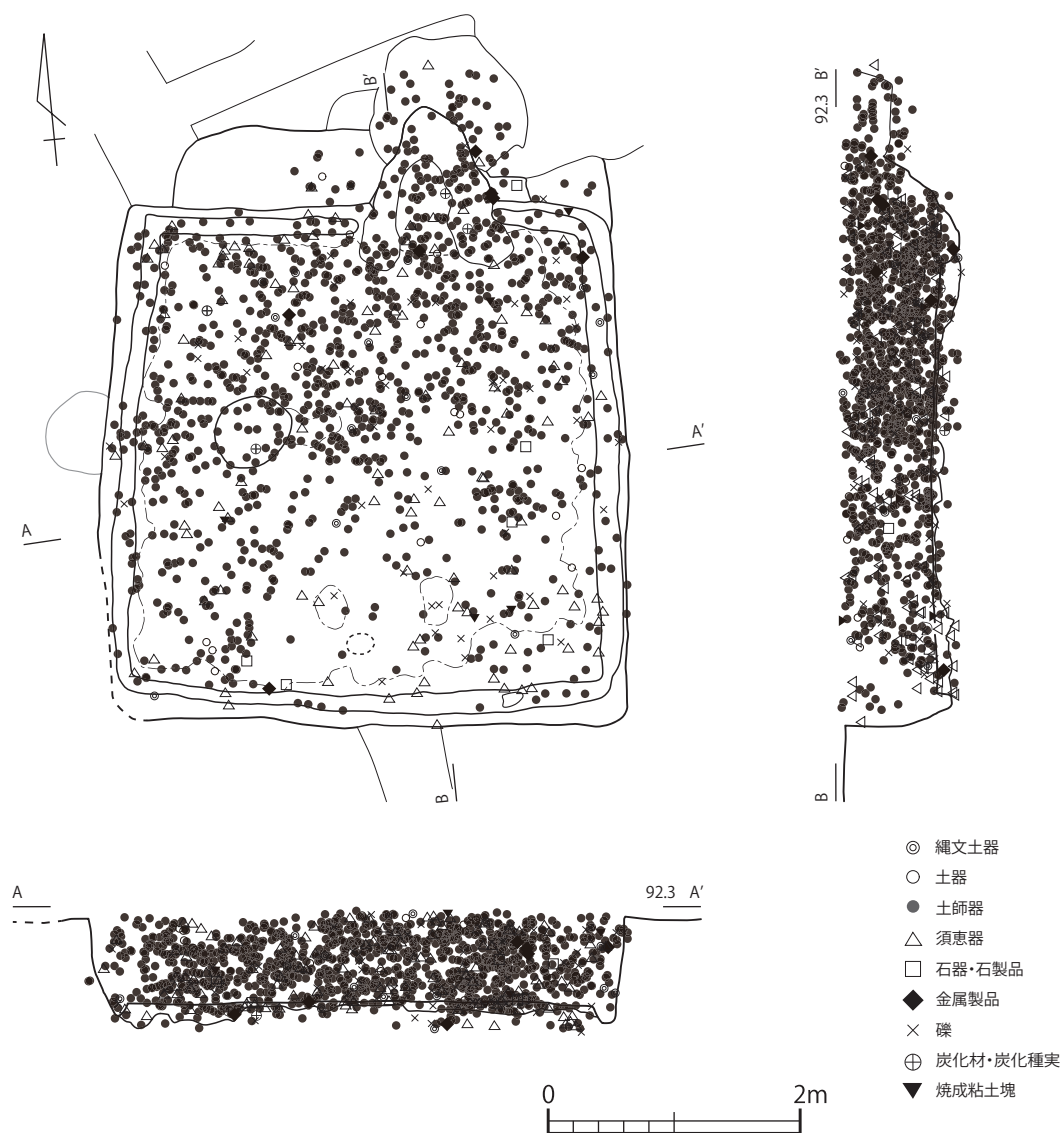
掘方



カマド

1. 7.5YR3/3	暗褐色土層	黒褐色土 10% 偏在。直径 5mm 以下の砂質粘土ブロック 15%、直径 8mm 以下の焼土ブロック 5% 含む。粘性強、締まりなし、粒子極めて粗い。
2. 10YR2/2	黒褐色土層	黒褐色土 7% 偏在。直径 3mm 以下の砂質粘土粒子 10%、直径 15mm 以下の焼土ブロック 15% 含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
3. 10YR2/1	黒色土層	直径 10mm 以下の焼土粒子 3%、直径 3mm 以下の砂質粘土粒子 10%、長さ 10mm 以下の炭化物粒子 2% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
4. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 10mm 以下の焼土粒子 3%、直径 10mm 以下の砂質粘土ブロック 20%、長さ 5mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
5. 10YR4/3	にぶい黄褐色土層	粘土主体。直径 2 ～ 10mm の焼土ブロック 5%、直径 10mm 以下の砂質粘土ブロック (10YR5/4)10%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
6. 10YR4/2	灰黄褐色土層	直径 12mm 以下の焼土ブロック 30% 偏在。直径 5mm 以下の砂質粘土粒子 5%、直径 2 ～ 3mm の黒色土ブロック (10Y1.7/1)1%、長さ 5mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
7. 10YR4/3	にぶい黄褐色土層	砂質粘土主体。直径 8mm 以下の焼土ブロック 30% 偏在。上部に黒褐色土 (10YR2/2)10% 偏在。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
8. 5YR4/8	赤褐色土層	焼土層。直径 5mm 以下の焼土ブロック 5%、直径 3mm 以下の黒褐色土ブロック 2% 含む。粘性なし、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
9. 7.5YR4/6	褐色土層	焼土主体。砂質粘土 30%、黒褐色土 10% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
10. 10YR3/4	暗褐色土層	直径 15mm 以下の砂質粘土ブロック 30%、直径 5mm 以下の焼土粒子 7%、直径 3mm 以下の黒褐色土ブロック 2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
11. 10YR3/3	暗褐色土層	直径 10mm 以下の砂質粘土ブロック 20%、直径 5mm 以下の焼土ブロック 3%、直径 5mm 以下の黒褐色土ブロック 2% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。
12. 10YR4/3	にぶい黄褐色土層	黒褐色土 10% 偏在。直径 10mm 以下の砂質粘土粒子 10%、直径 5mm 以下の焼土ブロック 20% 含む。粘性強、締まり強、粒子粗い。粘土質。
13. 10YR3/3	暗褐色土層	直径 8mm 以下の焼土ブロック 7%、直径 5mm 以下の砂質粘土粒子 5%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 3% 含む。粘性あり、締まり強、粒子極めて粗い。
14. 10YR2/3	黒褐色土層	黒褐色土 (10YR2/2)20% 偏在。直径 5mm 以下の粘土粒子 15%、直径 10mm 以下の焼土ブロック 10% 含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
15. 10YR2/2	砂質粘土 40% 偏在。直径 10mm 以下の焼土ブロック 5%、直径 2mm 以下の黒色土粒子 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。	
16. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 10mm 以下の砂質粘土ブロック 15%、直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 5mm 以下の黒色土粒子 3% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや密。
17. 10YR2/3	黒褐色土層	直径 10mm 以下の砂質粘土ブロック 15%、直径 3mm 以下の焼土粒子 3%、直径 5mm 以下の黒色土粒子 (10YR2/1)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
18. 10YR4/4	褐色土層	砂質粘土ブロック主体。黒褐色土 (10YR2/3)30%、焼土 10% 偏在。直径 5mm 以下の黒色土粒子 3% 偏在。粘性強、締まり強、粒子密。
19. 10YR3/4	暗褐色土層	砂質粘土ブロック 30%、直径 3mm 以下の焼土粒子 3%、直径 5mm 以下の黒色土粒子 2% 含む。粘性強、締まり強、粒子粗い。
20. 10YR4/4	褐色土層	ローム主体。直径 10mm 以下の焼土ブロック 10%、直径 5mm 以下の黒色土粒子 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
21. 10YR2/3	黒褐色土層	直径 7mm 以下の砂質粘土ブロック 10%、直径 5mm 以下の焼土粒子 3%、直径 5mm 以下の黒色土粒子 (10YR2/1)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
22. 10YR3/3	暗褐色土層	砂質粘土粒子 40%、直径 3mm 以下の焼土粒子 5%、直径 3mm 以下の黒色土粒子 3%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。
23. 10YR2/3	黒褐色土層	直径 5mm 以下の砂質粘土粒子 5%、直径 3mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
24. 10YR4/4	褐色土層	砂質粘土粒子主体。黒褐色土 (10YR2/3)40%、直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
25. 10YR2/1	黒色土層	直径 5mm 以下のローム粒子 3%、直径 2mm 以下の焼土粒子 1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
26. 10YR4/6	褐色土層	ローム主体。黒色土 7% 偏在。直径 3mm 以下の焼土粒子 2%、直径 2mm 以下の炭化物粒 2%、直径 3mm 以下の黒色土粒子 (10YR2/1)2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
27. 10YR2/1	黒色土層	直径 20mm 以下の砂質粘土ブロック 30%、直径 3mm 以下の黒褐色土粒子 7%、直径 3mm 以下の焼土粒子 3%、直径 5mm 以下の炭化物粒子 5% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
28. 7.5YR4/6	褐色土層	砂質粘土ブロック・粒子主体。焼土粒子 20%、直径 5mm 以下の炭化物粒子 5%、直径 3mm 以下の黒褐色土粒子 3% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
29. 10YR5/4	にぶい黄褐色土層	砂質粘土主体。直径 2 ～ 5mm の粘土粒子 7%、直径 2 ～ 5mm の炭化物粒子 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
30. 7.5YR4/6	褐色土層	砂質粘土・焼土粒子混合土層。黒色土 (10YR2/1)10% ブロック状に偏在。粘性あまりなし、締まりあまりなし、粒子やや密。
31. 10YR3/3	暗褐色土層	直径 2mm 以下の焼土粒子 1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
32. 10YR2/1	黒色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 15%、直径 3mm 以下の砂質粘土 10%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 2% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや粗い。
33. 10YR4/3	にぶい黄褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 10%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 3% 偏在。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや密。
34. 10YR4/4	褐色土層	ローム主体。直径 5mm 以下の焼土粒子 5% 含む。粘性強、締まり強、粒子密。
35. 10YR3/4	暗褐色土層	ローム主体。直径 3mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 2% 含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。
36. 10YR5/4	にぶい黄褐色土層	砂質粘土主体。下部に焼土粒子 10% 偏在。直径 3mm 以下の黒褐色土粒子 (10YR2/2)3% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
37. 10YR3/3	暗褐色土層	直径 8mm 以下の焼土粒子 10%、直径 3mm 以下の砂質粘土粒子 5%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性あり、締まり強、粒子密。
38. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 8mm 以下の砂質粘土粒子 15%、直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 3% 含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。
39. 10YR2/3	黒褐色土層	砂質粘土粒子 20% 偏在。直径 5mm 以下の焼土粒子 10%、直径 2mm 以下の黒色土粒子 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
40. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 10mm 以下の砂質粘土粒子 7%、直径 7mm 以下の焼土粒子 5%、直径 8mm 以下の炭化物粒子 7% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや密。
41. 10YR2/3	黒褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 7%、直径 3mm 以下の砂質粘土粒子 3%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 3% 含む。粘性ややあり、締まり強、粒子やや粗い。
42. 10YR3/3	暗褐色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 3mm 以下の炭化物粒子 3% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
棚状施設 I-I'		
51. 2.5Y2/1	黒色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 7%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
52. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 15mm 以下の砂質粘土ブロック (10YR4/4)10%、直径 3mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
53. 10YR2/1	黒色土層	直径 3mm 以下の砂質粘土粒子 (10YR4/4)3%、直径 1mm の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性強、締まり強、粒子密。
棚状施設 J-J'		
61. 7.5YR2/1	黒色土層	直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)7%、直径 3mm 以下のローム粒子 (2.5Y5/6)10% 含む。粘性あまりなし、締まり強、粒子極めて粗い。
62. 7.5YR2/1	黒色土層	直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 2mm 以下のローム粒子 (2.5Y5/6)5%、直径 1mm の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子極めて粗い。
63. 10YR2/1	黒色土層	直径 1mm の赤褐色スコリア (5YR4/8)1%、直径 1mm のローム粒子 (2.5Y5/6)3%、直径 2mm 以下の焼土粒子 2%、直径 5mm 以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子極めて粗い。
64. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 1mm の赤褐色スコリア (5YR4/8)5%、直径 1mm のローム粒子 (2.5Y5/6)3%、直径 1mm の明黄褐色スコリア (10YR6/6)3% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
65. 10YR2/1	黒色土層	直径 1mm の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性あり、締まり強、粒子密。

第 208 図 SI64(3) カマド・棚状施設 (1/30)



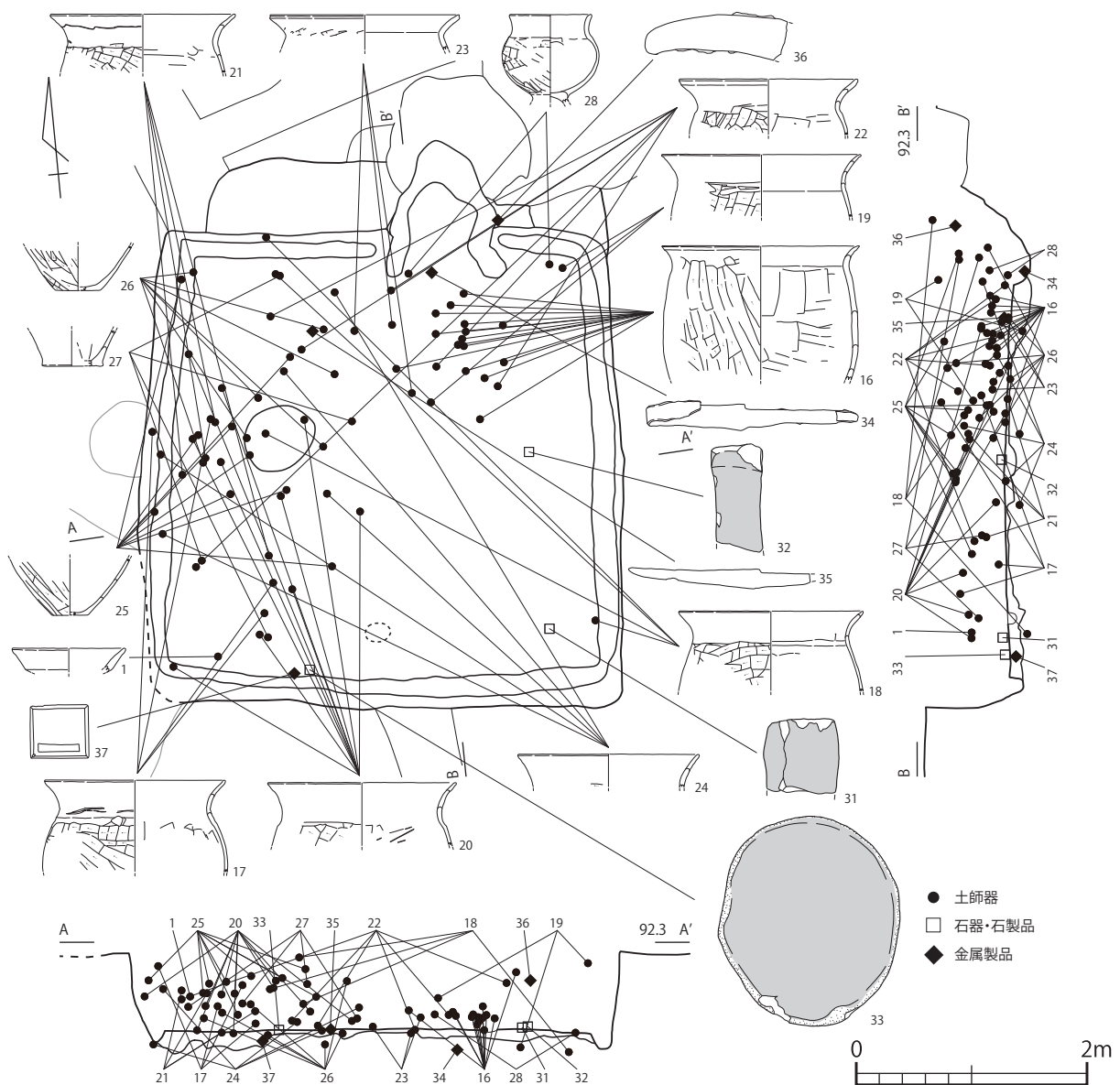
第 209 図 SI64(4) 遺物分布図 (1/60)

ており、カマドの北側をSK217に切られている他、カマドや壁の上部を攪乱に切られている。

平面形態は方形で、東西 422cm、南北 493cm、検出面から床面までの深さは 79cm を測る。壁は垂直に立ち上がる部分と開き気味に立ち上がる部分がある。主軸方向は N-6°-E を指す。

床面は貼床で、概ね平坦であり、壁際を除くほぼ全面が硬化している。壁溝はカマド部分を除き全周する。カマドは北壁の中心よりやや東寄りに構築される。主柱穴等は確認されなかったが、床面中心部の西壁寄りで焼土を含む浅いピット P1 を検出した。また、カマドのある北壁では、カマドの両脇で棚状施設を検出した。

床面までの覆土は 21 層に分けられた。最上層の 1 層は黒色で粒子が極めて粗い。4・5 層は焼土粒子をやや多く含む黒色土である。7 層はロームブロックや焼土ブロックを多く含んでおり、西側から投げ込まれた可能性がある。9 層は砂質粘土粒子を多く含むほか、焼土粒子も含まれ、カマドの構築材が含まれたものであろう。10～12 層もカマドからの崩落土である。

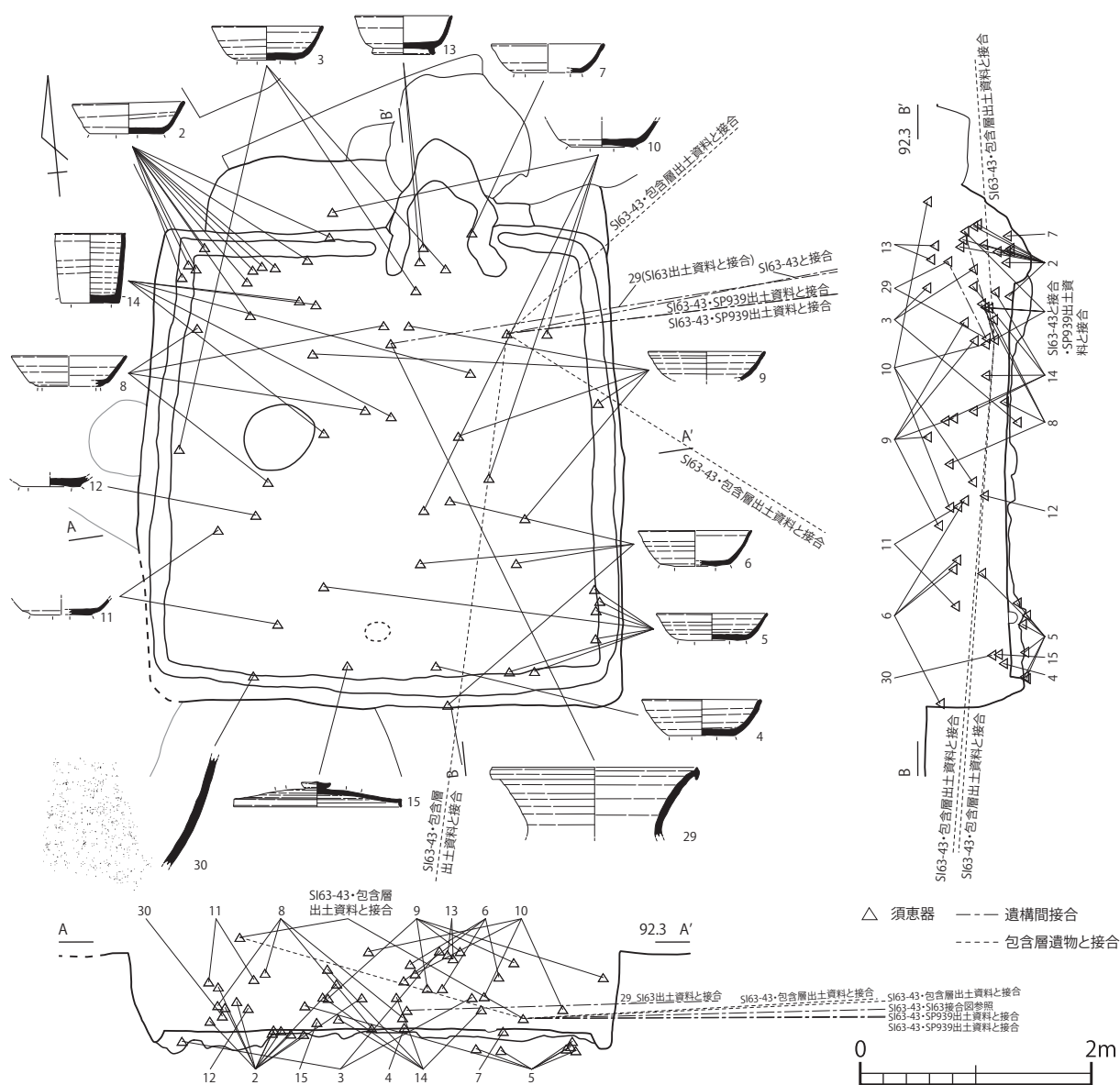


第 210 図 SI64(5) 遺物接合図 (土師器・石製品・金属製品) (1/60)

掘方はV層まで掘り込まれ、全体に不規則な凹凸を有しており、中心部がやや浅くなっている。掘方の充填土は5層に分けられ、上層の24層はロームの粒子やブロックを多く含む黒褐色土で、上面が硬化している。

壁溝は、断面形態が逆台形を呈し、幅は広いところで21cm、床面からの深さ13cmを測る。壁溝の底面には、ピット状の窪みが不規則に並んでいる。

棚状施設はカマドの両脇で検出された。カマド東側のものは攪乱に切られている。カマド寄り是一段低くなっているが、これは、棚状施設に伴うものか、カマド構築に関するものかは不明である。高い部分のみの場合、残存範囲の幅69cm、奥行き60cmで、検出面からの深さは22cmを測る底面は平坦である。カマド西側の棚状施設は、幅170cm、奥行き67cm、検出面からの深さは27cmを測る。底面はやや凹凸があり、壁はやや内湾して立ち上がる。



第 211 図 SI64(6) 遺物接合図 (須恵器) (1/60)

P1 は長軸 64cm、短軸 54cm の楕円形で、床面からの深さは 19cm を測る。底面には凹凸があり、壁は垂直に立ち上がる。覆土は 3 層に分けられ、焼土粒子とロームブロックや粒子を多く含み、特に 1 層では焼土粒子の含有が多い。

カマドは、北壁のやや東寄りを V 字状に 75cm 掘り込んで構築されていた。左右の袖の遺存状況が悪く不明瞭で、また奥壁端部も SK217 により切られている。残存部分の状況から、袖や側壁・奥壁は砂質粘土を主体に構築されていたようである。天井部は残存していなかった。また、明瞭な火床部も確認できなかった。なお、カマド掘方の土層より金属製品の鉄鎌と刀子が出土した。(相原)

第 209 図によれば、遺物は遺構全体に分布し、特に建物の北半分に集中する状況が窺える。掲載した遺物に限れば、土師器甕等はカマド前から建物の西寄りに分布する一方で、須恵器は全体に分布している。特筆すべきは、建物の南壁際で出土した完形の須恵器坏と蓋、台石である。どれも正位置



1. 土層断面 A-A' 東から



2. 土層断面 B-B' 南から



3. 床面全景 南から



1. 遺物出土状況 東から



2. 遺物出土状況 南から



3. 遺物出土状況 北から



4. 遺物出土状況 南から



5. 遺物出土状況 北から

第 213 図 SI64 写真 (2)



1. カマド土層断面 E-E' 南から



2. カマド土層断面 F-F' 南から



3. カマド土層断面 G-G' 南東から



4. カマド全景 南から



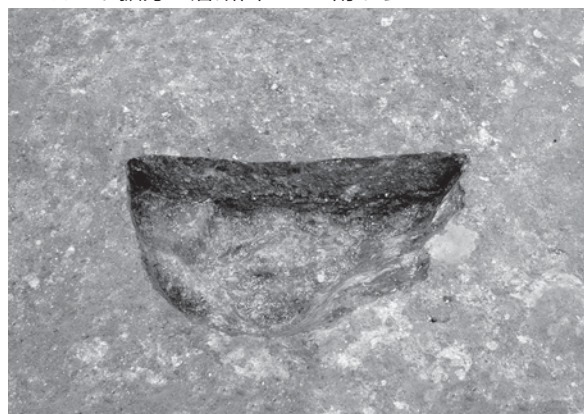
5. カマド掘方土層断面 E-E' 南から



6. カマド掘方土層断面 F-F' 南から



7. カマド掘方全景 南から



8. P1 土層断面 南から



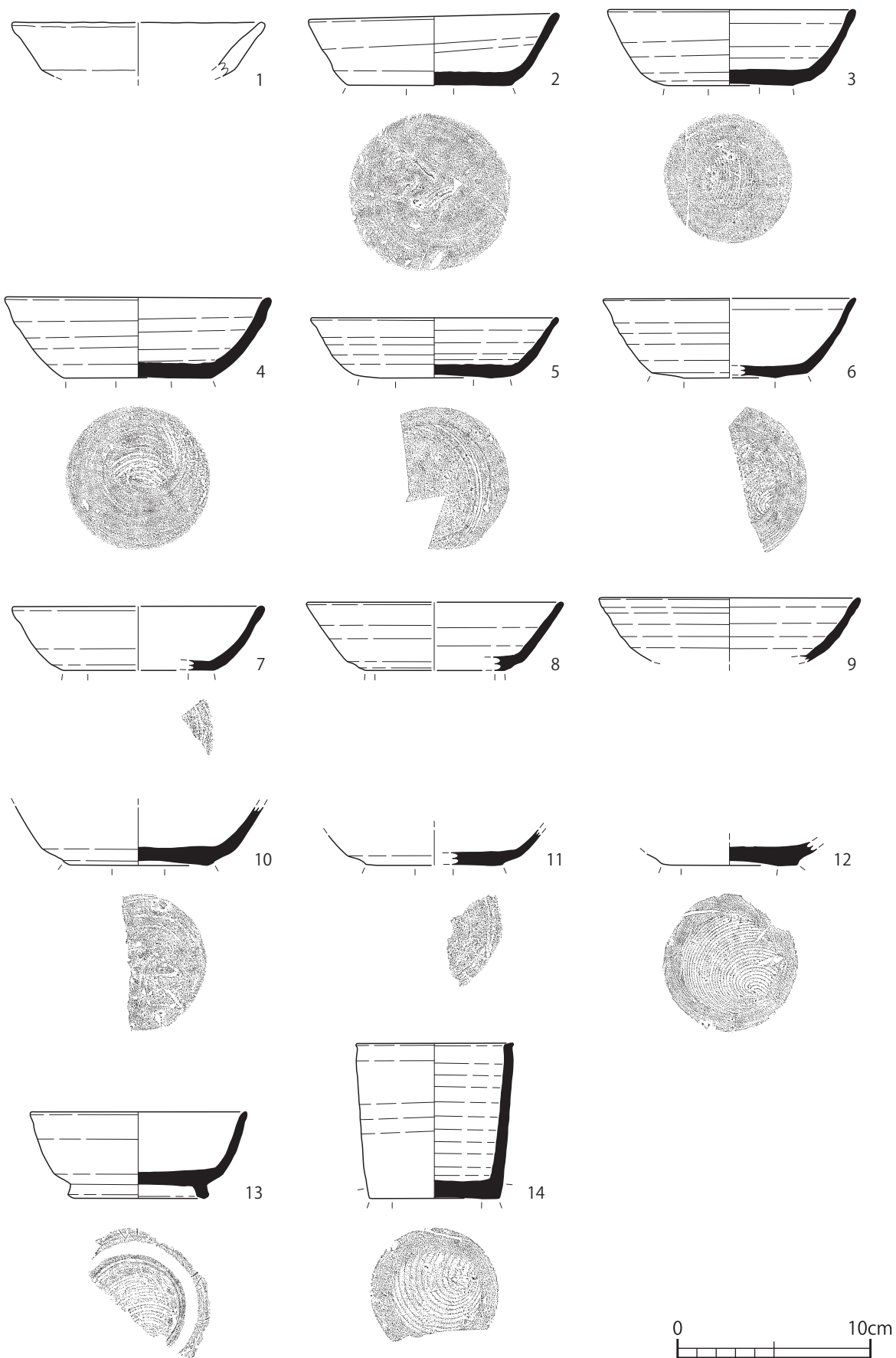
1. 掘方土層断面 A-A' 東から



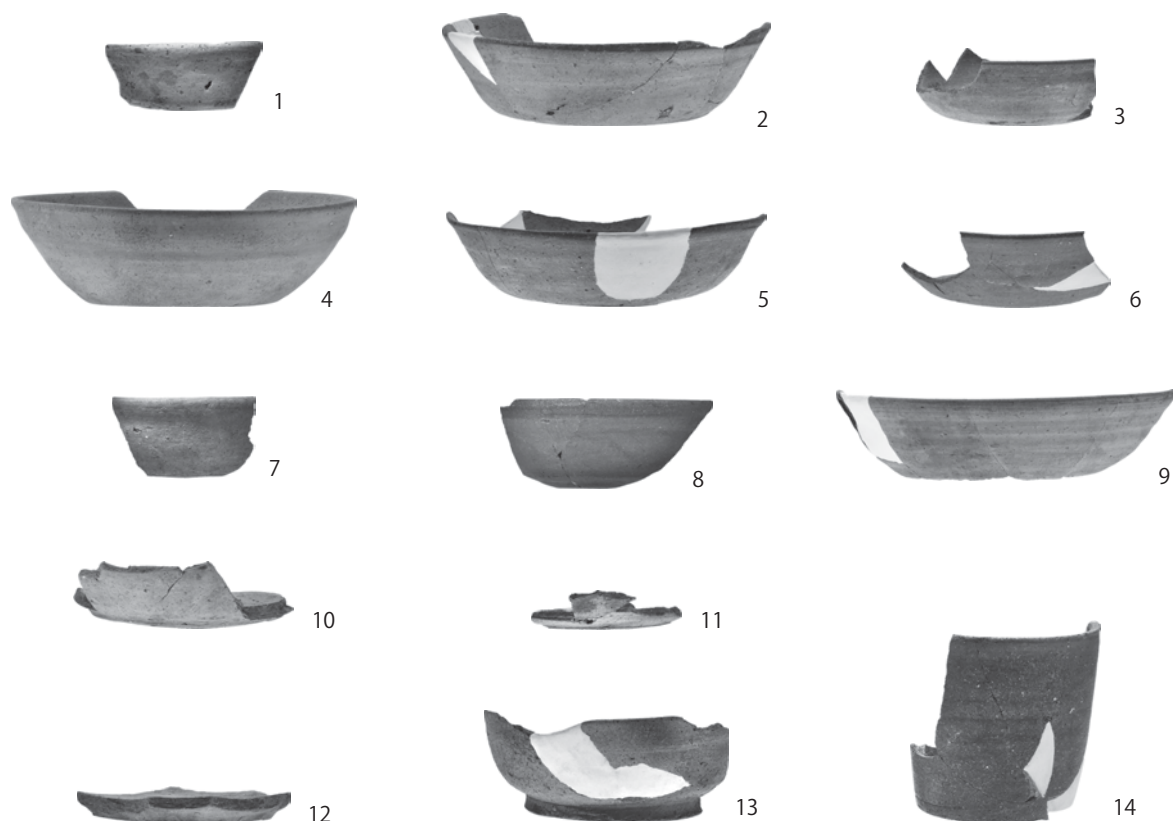
2. 掘方土層断面 B-B' 南から



3. 掘方全景 南から



第 216 図 SI64 出土遺物 (1)(1/3)



第 217 図 Sl64 出土遺物 (1) 写真

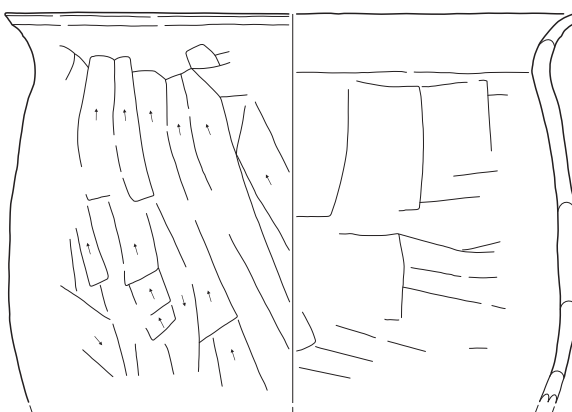
で置かれたような状況だった。また、建物の南壁際の掘方中から銅製の銚帯金具（第 222 図 37）が、カマド掘方からは両端が折り曲げられた刀子と鎌（第 222 図 34・36）がそれぞれ出土した。いずれの出土状況を見ても、単に廃棄した様相ではなく、明らかに何らかの意図的な行為と捉えられる。

遺物 本遺構からは、総点数 1,393 点、総重量 38,915.6g が出土した。種別・器種ごとの内訳は、古代の土師器 1,180 点 5,680g（坏 13 点 57.3g、甕 1,159 点 5,490.6g、台付甕 8 点 132.1g）、古代の須恵器 109 点 2,107.4g（坏 81 点 878.4g、高台付坏 2 点 58.2g、蓋 8 点 375g、鉢 3 点 24.5g、甕 6 点 495.9g、コップ形須恵器 5 点 123.8g、瓶あるいは壺 3 点 150.8g、器種不明 1 点 0.8g）、古代の金属製品 8 点 109.3g（巡方 1 点 13.6g、刀子 3 点 29.5g、鉄鏃 1 点 2.0g、鉄鎌 3 点 64.1g）、古代の石製品 4 点 4,808.3g（砥石 3 点 168.3g、台石 1 点 4,640g）、焼成粘土塊 7 点 23.8g、縄文土器 14 点 132.5g（諸磯式 2 点 14.9g、五領ヶ台Ⅱ式 1 点 5.2g、阿玉台式 1 点 17.4g、勝坂 1 式 2 点 37.6g、加曽利 E3 式 2 点 14.5g、加曽利 E 式 1 点 6.3g、曾利Ⅳ～Ⅴ式 2 点 22.8g、時期型式不明 3 点 13.8g）、縄文時代の石器 3 点 22.7g（石匙 1 点 21.5g、剥片 2 点 1.2g）、弥生時代後期～古墳時代前期の土器 17 点 114.2g（壺 9 点 92.7g、甕 2 点 3.3g、高坏 1 点 6.4g、甕あるいは壺 5 点 11.8g）、被熱礫を含む礫 51 点 8,103.7g で、これら以外に炭化物が出土した。

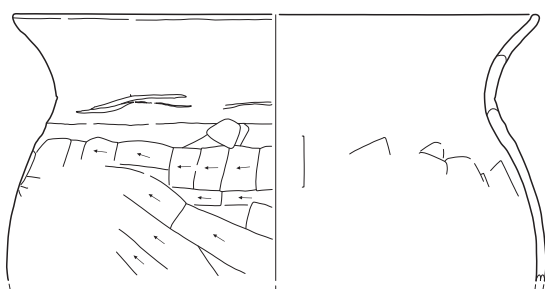
本遺構に伴う遺物は、古代の土器類、金属製品や石製品等であり、他の時期の土器や石器は混入した遺物である。本遺構の出土遺物の特色として、土師器甕と須恵器坏の出土量が他の器種に比べ多いこと、銅製の巡方や鉄鎌、刀子といった金属製品が出土したことが挙げられる。前者は本遺構のみな



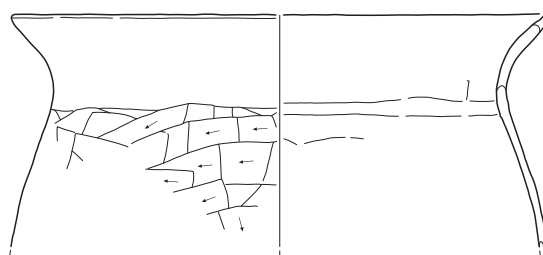
15



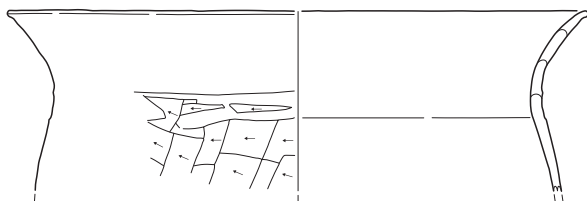
16



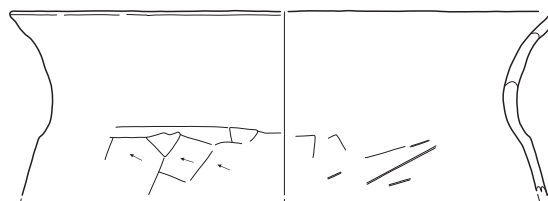
17



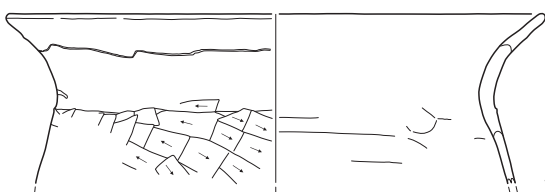
18



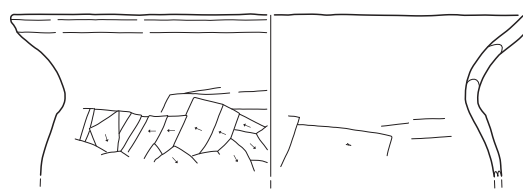
19



20



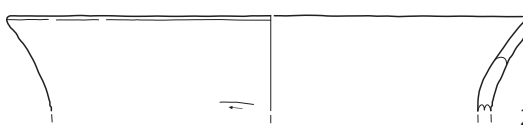
21



22



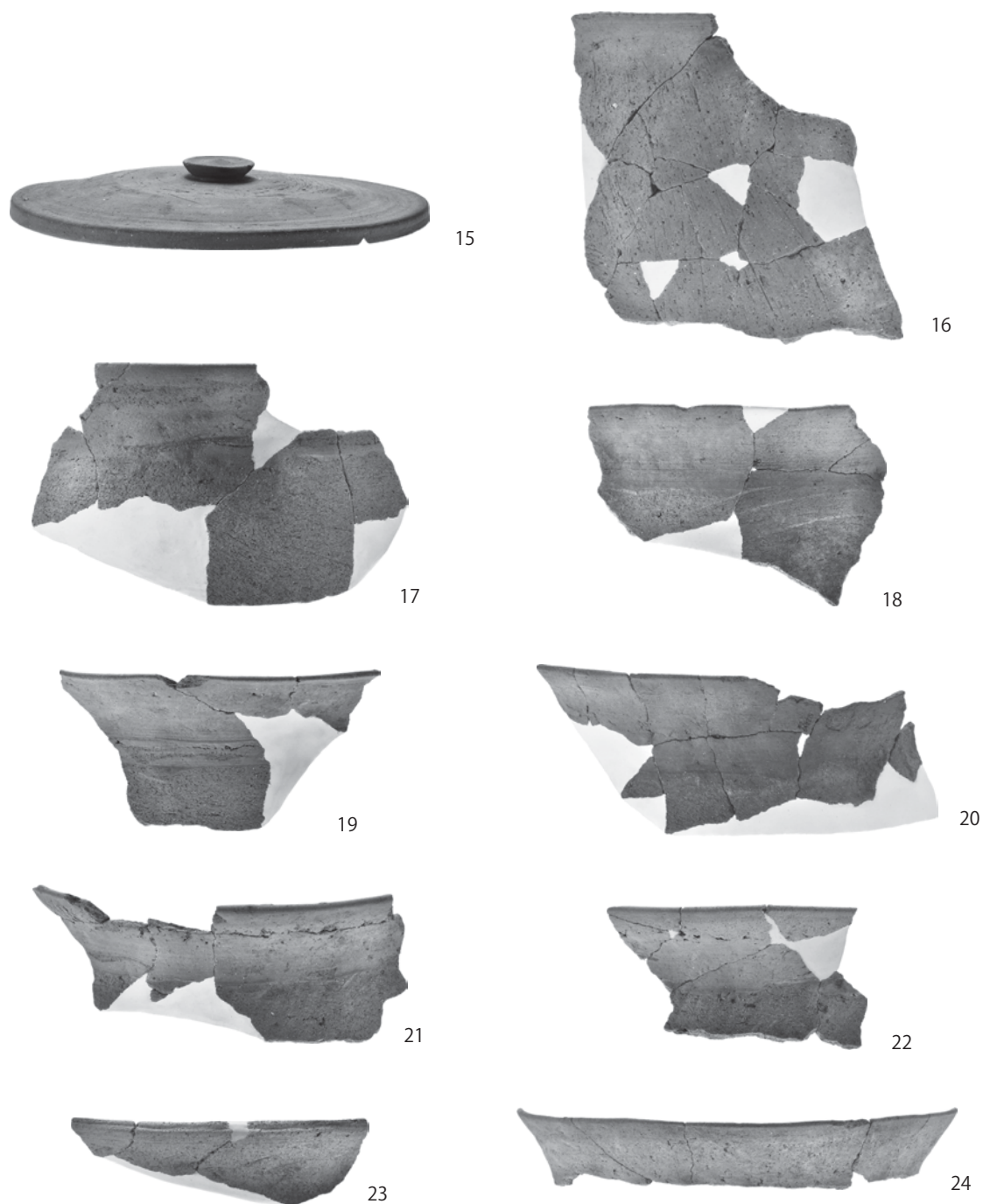
23



24



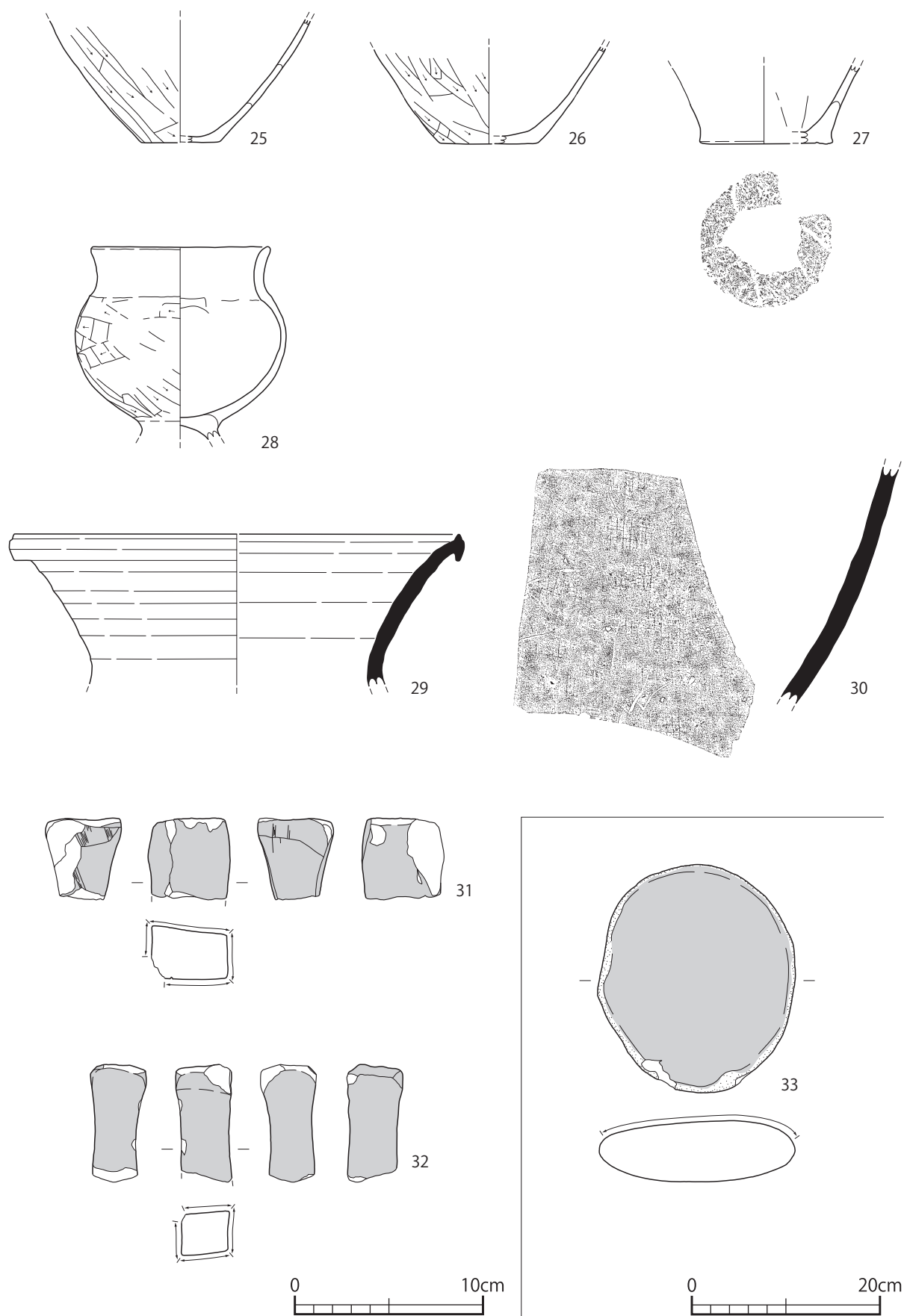
第 218 図 SI64 出土遺物 (2)(1/3)



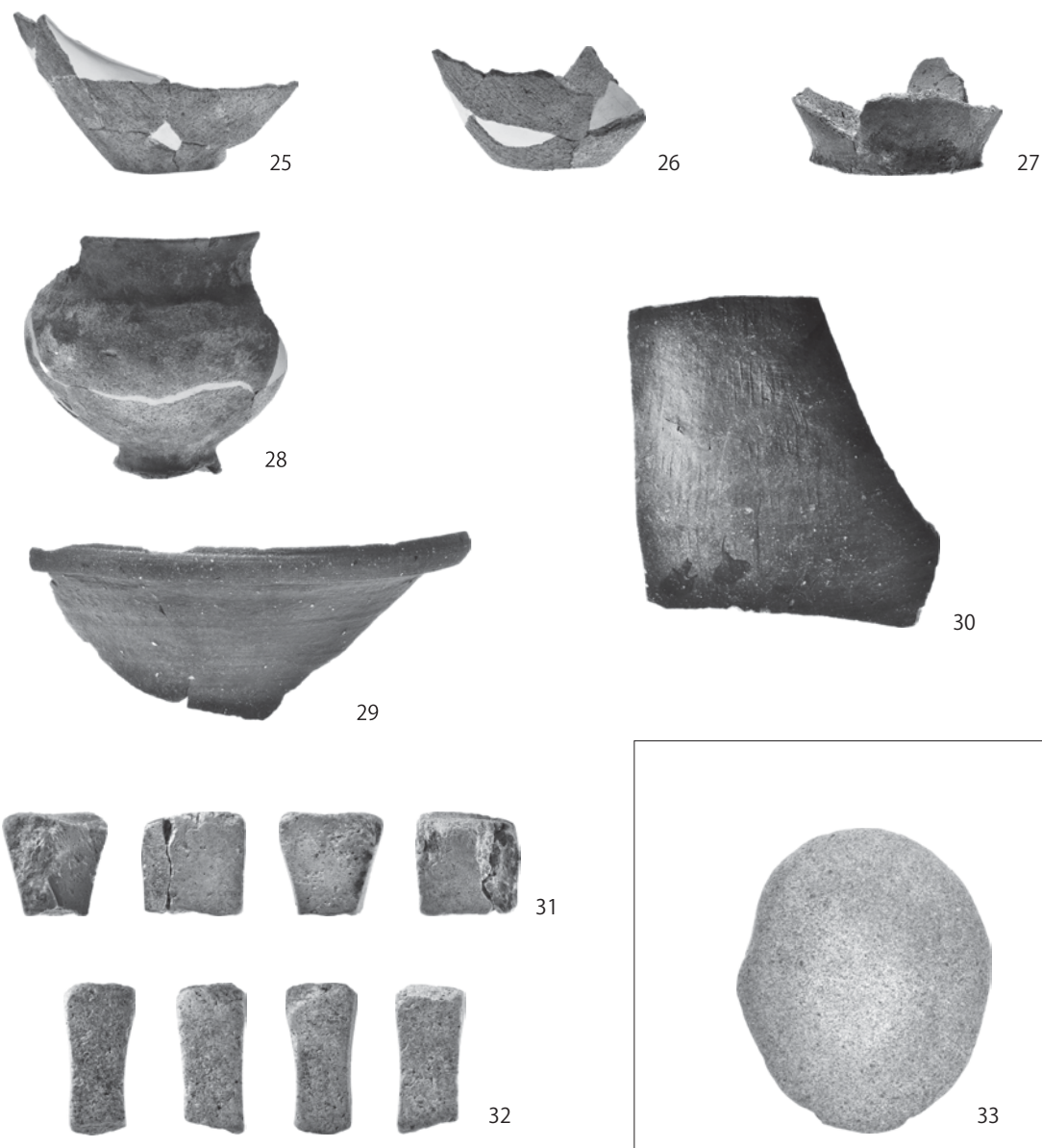
第 219 図 SI64 出土遺物 (2) 写真

らず、他の竪穴建物跡でも見られる。後者については、これまでの平山遺跡では銚帯金具が出土した事例はなく、これが初見と言えよう。また、これはカマド構築材に起因することだが、本遺構では凝灰質砂岩が一切出土していない点も特徴である。遺存状態の良い土器や接合した土器を中心に、金属製品と石製品を含め、33 点の図化を行った。

第 216・217 図 1 は土師器坏で、口縁部がわずかに外反する器形である。2～12 は須恵器坏である。器形では、体部は底部から直線的に開くもの (2・5・8・10・11) と、やや内湾気味に開くもの (3・4・6・7・



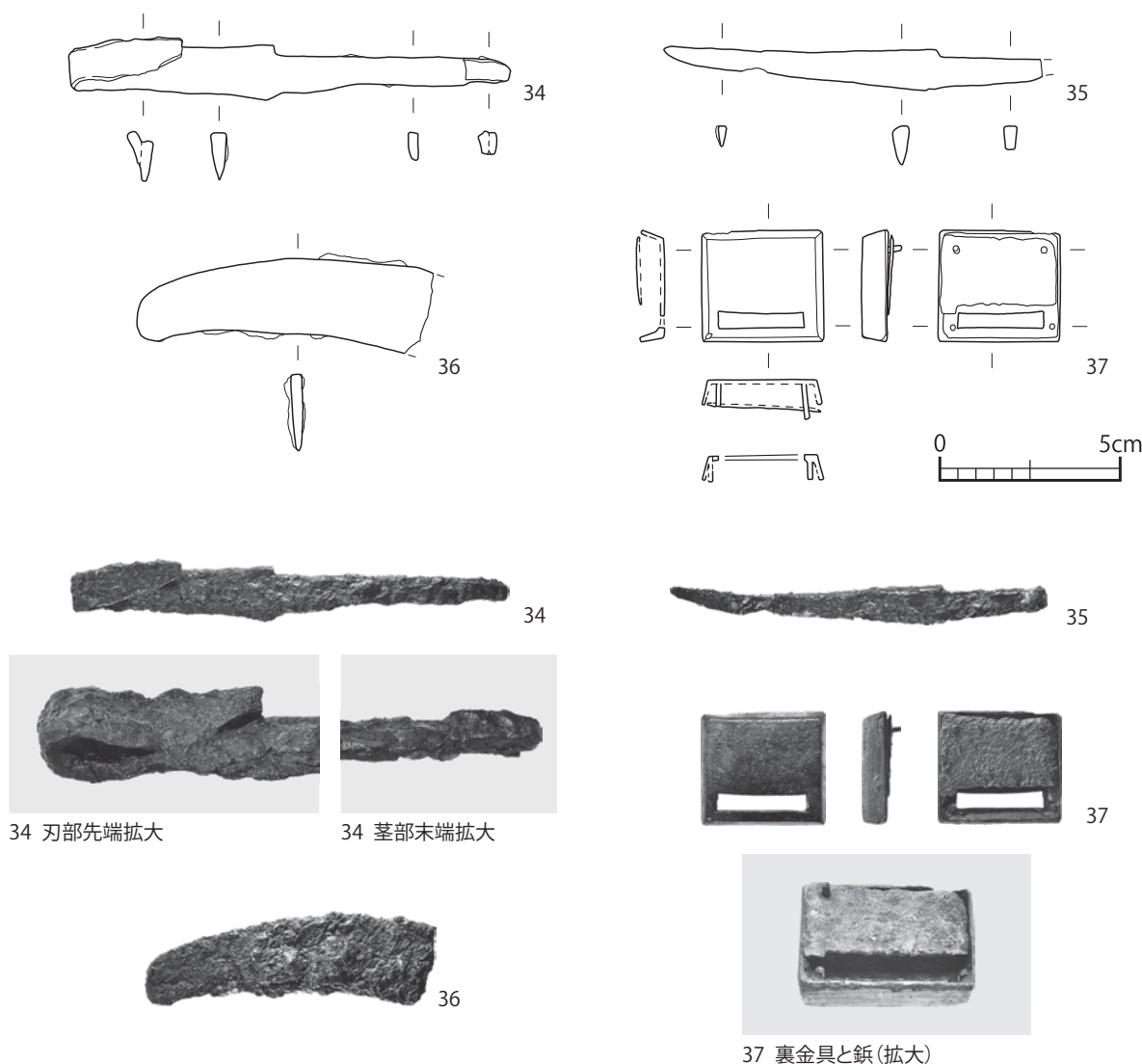
第220図 SI64 出土遺物 (3)(1/3・1/6)



第 221 図 SI64 出土遺物 (3) 写真

9) が見られる。また、5・7・9は口縁部が肥厚するものや、2～4のように全体的に厚手なつくりのものがある。底径を見ると、2・6は8cm台、4・5・7・8・10・11は7cm台、3・12は6cm台である。底部が遺存する坏の底部調整は、いずれも回転糸切り後、外周に回転ヘラケズリを施す。回転ヘラケズリの幅は2～4のように広いものと、12のように狭いものが見られる。5は一度の回転ヘラケズリで整えきれなかったようで、少なくとも2度に分けて回転ヘラケズリを行っている。これらの須恵器坏は、8は東金子窯、それ以外はすべて胎土に海綿骨針が含まれており、南比企窯の製品である。なお、8については、胎土の特徴や製作技法から、前内出窯の系統だと考えられる。

13は須恵器高台付坏で、逆台形上の坏部に「ハ」の字状に開く高台が付く。14はコップ形須恵器で、体部は直線的で筒形を呈する。口唇部はやや内傾するように平坦で、口唇部外面がやや飛び出す形状である。体部下端にヘラケズリが認められ、底部は回転糸切り後、外周に回転ヘラケズリを施す。



第 222 図 SI64 出土遺物 (4)(1/2)・写真

第 218・219 図 15 は須恵器蓋で、完形である。口径に比べ器高が低く、扁平な器形を呈する。天井部には扁平な宝珠形のつまみが付き、口縁端部は直立するように強く屈曲する。13～15 はいずれも胎土に海綿骨針が認められることから、南比企窯の製品である。

16～第 220・221 図 27 は土師器甕である。土師器甕は口縁部から底部まで接合した資料がなく、口縁部から頸部あるいは胴部まで接合した資料を第 218・219 図に、胴部から底部にかけての資料を第 220・221 図に掲載した。16 は口縁部が頸部から緩やかに外反して開き、口縁端部はすぼまるような形状を呈する。外面調整は、頸部から胴部にかけて縦位のヘラケズリである。口径と胴部最大径がほぼ等しい。17～22・24 は武蔵型甕で、口縁部は頸部から緩やかに外反して開く器形である。口縁端部はいずれも丸く収めている。外面調整では、頸部直下に横位のヘラケズリを数段施し、それより下方は斜位あるいは縦位のヘラケズリが主体である。23 は頸部が「く」の字状に屈曲し、口縁部は直線的に開く。口唇部は外傾する面に沈線が一周することで、特徴的な形状を呈している。こうした口縁部の形態は、武蔵型甕に通有のものではない。

25・26 は武蔵型甕で、胴部は底部から内湾気味に開く。27 は相模型甕で、底部外端部が張り出す形状を呈する。底部中央を欠損するが、底部外面には木葉痕が認められる。28 は土師器台付甕である。頸部は屈曲せずに、口縁部は直立気味に開く。脚台部を欠損しているが、口径が 10cm と小さく、小形の台付甕である。29・30 は須恵器甕である。29 は頸部から口縁部にかけての破片で、口縁端部は外方に向いた面を有する。30 は胴部破片で、4・15・33 とともに建物の南壁際で出土した。外面には格子叩きが認められる。29 は東金子窯、30 は胎土に海綿骨針が含まれており、南比企窯の製品である。

第 220・221 図 31・32 は変質流紋岩製の砥石である。いずれもよく使い込まれており、各面に摩耗した痕跡が認められる。33 は台石とした。片面の広範囲が摩耗している。反対の面には摩耗の痕跡は見られないが、全体的に変色している。使用する際に地面に直接据え置き、その影響で変色したのではないだろうか。

第 222 図 34・35 は鉄製の刀子である。34 は完形だが、刃部先端と茎部末端が強く折り曲げられている。特に刃部はそれが明瞭で、折り曲げられた刃部の稜線が一部潰れている。折り曲げる際、おそらくはこの部分を鉄鉗のようなもので挟んだのだろう。35 は茎部から刃部にかけて遺存する。36 は曲刃鎌である。刃部先端以外を欠損するが、刃部の湾曲は弱い形状と考えられる。37 は銅製の巡方である。横幅がやや長い長方形で、垂孔は細長い形状である。裏金具は下端約 1/3 を欠損しており、鉾が表金具に作り付けられていることが確認できる。裏金具が鉾で固定されていることから、帯に装着された状態で廃棄されたと推察される。

須恵器坏のうち、2・5 は南比企窯跡群鳩山編年の H Ⅲ期後半、3・4・8 は H Ⅲ期末～H Ⅳ期、

第 34 表 SI64 出土土器観察表 (1)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 216 ・ 217 図	1	SI64	土師器 坏	[12.8] (2.8)	体部はやや外反して開く。	調整不明瞭。	砂粒、黒色 粒子	軟質	7.5YR7/5 橙	口縁部 1/6	重量 14.4g
	2	SI64	須恵器 坏	12.9 3.7 8.5	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、 海綿骨針	軟質	口縁部 5Y5/1 灰 それ以外 2.5Y6.5/1 灰 白	口縁部 2/3 底部完形	重量 122.0g 南比企窯
	3	SI64	須恵器 坏	[12.7] 4.0 6.6	体部は底部から内湾気味に開き、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、白色 粒子、海綿 骨針	やや軟 質	口縁～体部 7.5YR6/4 に ぶい橙 底部 10YR7/2 に ぶい黄橙	口縁部 1/6 底部完形	重量 97.2g 南比企窯
	4	SI64	須恵器 坏	13.6 4.2 7.6	体部は底部からやや内湾気味に開く。全体的に厚手なつくり。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、石英、 白色粒子、 海綿骨針	軟質	口縁部 2.5Y6/2 灰黄 それ以外 7.5YR7/6 橙	口縁部 7/8 底部完形	重量 171.0g 南比企窯
	5	SI64	須恵器 坏	12.6 3.1 7.7	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、 白色粒子、 黒色粒子、 海綿骨針	良好	N5/ 灰	口縁部 1/2 底部 2/3	重量 77.5g 南比企窯
	6	SI64	須恵器 坏	[12.9] 4.1 [8.0]	体部は底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、海綿 骨針	良好	5Y5/1 灰	口縁部 1/8 底部 1/2	重量 31.3g 南比企窯
	7	SI64	須恵器 坏	[13.0] 3.3 [7.8]	体部は底部からやや内湾気味に開き、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。 底部は回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、 黒色粒子、 海綿骨針	やや軟 質	2.5Y6/2 灰黄	口縁部 1/6	重量 16.1g 南比企窯
	8	SI64	須恵器 坏	[13.1] 3.5 [7.2]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転ヘラケズリ。	砂粒、白色 粒子	良好	7.5Y5/1 灰	口縁部 1/4	重量 25.0g 東金子窯 (前内出 窯系)
	9	SI64	須恵器 坏	[13.3] (3.2)	体部はやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。	小礫、砂粒、 海綿骨針	軟質	2.5Y7/1.5 灰 黄	口縁部 1/2	重量 42.7g 南比企窯

第 34 表 SI64 出土土器観察表 (2)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 216 ・ 217 図	10	SI64	須恵器 坏	(3.0) [7.0]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、外周回転ヘラケズリ。回転ヘラケズリが体部下端に及ぶ。	小礫、砂粒、 海綿骨針	やや軟 質	2.5Y6.5/2 灰 黄	底部 1/2	重量 60.0g 南比企窯
	11	SI64	須恵器 坏	(1.6) [7.1]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転ヘラケズリ。	砂粒、黒色 粒子、海綿 骨針	良好	2.5Y6/1 黄灰	底部 1/4	重量 19.1g 南比企窯
	12	SI64	須恵器 坏	(0.8) 7.0		ロクロ成形。 底部は回転系切り後、回転ヘラケズリ。	砂粒、海綿 骨針	やや軟 質	2.5Y6/2 灰黄	底部完形	重量 65.8g 南比企窯
	13	SI64	須恵器 高台付坏	11.1 4.4 6.8	体部は底部から直線的に開く。高台部は「ハ」の字状に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、高台部を貼り付ける。	砂粒、海綿 骨針	やや軟 質	2.5Y7/1 灰白	口縁部 1/4 高台部 1/2	重量 58.2g 南比企窯
	14	SI64	須恵器 コップ形	[8.0] 8.0 6.7	口縁～体部は底部から直立気味に立ち上がり、口縁端部は内傾する面を有する。	ロクロ成形。 体部下端にヘラケズリ。底部は回転系切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、石英、 海綿骨針	良好	N5.5/ 灰	口縁部 1/3 底部完形	重量 123.8g 南比企窯
第 218 ・ 219 図	15	SI64	須恵器 蓋	19.2 2.9	扁平宝珠形のつまみ。口縁端部は屈曲する。扁平な器形。	ロクロ成形。 天井部は回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、 白色粒子、 海綿骨針	良好	5Y5/1 灰	完形	重量 266.0g 南比企窯
	16	SI64	土師器 甕	[22.4] (15.0) 胴部 最大径 [22.5]	口縁部は短く外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴部外面は縦位のヘラケズリ。 内面は横位の幅広のヘラナデ。	小礫、砂粒、 石英	良好	5YR5/7 明赤 褐	口縁～胴 部 1/8	重量 200.0g 鬼高系？
	17	SI64	土師器 甕	[20.7] (10.5)	口縁部は緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、頸～胴上部は横位のヘラケズリ主体、それ以下は斜位のヘラケズリ主体。 内面はヘラナデ。	砂粒、赤褐 色粒子	良好	5YR5/8 明赤 褐	口縁部 1/8 頸部 1/4	重量 79.9g 武蔵型甕
	18	SI64	土師器 甕	[21.1] (9.2)	口縁部は緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位ヘラケズリ。 内面はナデ。	砂粒	良好	5YR6/6 橙	口縁部 1/6	重量 74.1g 武蔵型甕
	19	SI64	土師器 甕	[22.8] (7.1)	口縁部は緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ主体。 内面はナデ。	砂粒	良好	5YR5/6 明赤 褐	口縁部 1/4	重量 59.3g 武蔵型甕
	20	SI64	土師器 甕	[21.6] (7.3)	口縁部は緩やかに外反して開く。頸部と胴部との境にヘラケズリによる稜あり。	画面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ。 内面はナデ主体。	砂粒	良好	5YR5/6 明赤 褐	口縁部 1/4	重量 73.5g 武蔵型甕
	21	SI64	土師器 甕	[20.1] (6.7)	口縁部は緩やかに外反して開く。頸部と胴部との境にヘラケズリによる稜あり。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部外面は斜位のヘラケズリ主体、 内面は横位のナデ。	砂粒、白色 粒子	良好	5YR5/6 明赤 褐	口縁部 1/6	重量 83.6g 武蔵型甕
	22	SI64	土師器 甕	[20.3] (6.4)	口縁部は内湾気味に開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、頸～胴上部外面は横位と斜位のヘラケズリ、 内面は横位のヘラナデ。	砂粒、黒色 粒子	良好	外面 10YR6/3.5 に ぶい黄橙内面 5YR4/6 赤褐	口縁～頸 部 1/6	重量 50.8g 武蔵型甕
	23	SI64	土師器 甕	[21.8] (3.9)	頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は直線的に開く。	口唇部外面に沈線がめぐる。 外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、頸部外面にヘラ状工具端部の痕跡が残る。胴部は不明瞭、 内面は横位のナデ。	砂粒、赤褐 色粒子	良好	外面 10YR7/4 にぶ い黄橙 内面 10YR6/3 にぶ い黄橙	口縁部 1/4	重量 47.5g
	24	SI64	土師器 甕	[20.7] (3.7)	口縁部は緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、頸部外面は横位のヘラケズリ。	砂粒、白色 粒子	良好	5YR5.5/6 明赤 褐	口縁部 1/2	重量 79.3g 武蔵型甕
第 220 ・ 221 図	25	SI64	土師器 甕	(6.4) [4.2]	胴部は底部から内湾気味に開く。	外面のうち、胴部は縦位のヘラケズリ、底部はヘラケズリ。 内面はナデか。	砂粒、赤褐 色粒子	良好	外面 10YR5/4 にぶ い黄褐 内面 10YR7/6 明黄 褐	胴～底部 1/3	重量 36.8g 武蔵型甕
	26	SI64	土師器 甕	(5.0) [5.2]	胴部は底部から内湾気味に開く。	外面のうち、胴部は縦位のヘラケズリ、底部はヘラケズリ。	砂粒	良好	外面 7.5YR5/4 にぶ い褐 内面 5YR5/6 明赤 褐	底部 5/6	重量 58.5g 武蔵型甕

第 34 表 SI64 出土土器観察表 (3)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 220 ・ 221 図	27	SI64	土師器 甕	(4.0) [7.1]	胴部は底部から直線的に開く。	底部外面に木葉痕。胴下部内面はヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR3/1.5 黒褐 内面 7.5YR6.5/4 にぶい橙	底部 5/6	重量 74.9g 相模型甕
	28	SI64	土師器 台付甕	[9.3] (10.0) 胴部 最大径 [11.2]	口縁部は直立気味に開く。胴部最大径は中央部にある。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位と斜位のヘラケズリ、胴下部は縦位のヘラケズリ。	砂粒、黒色粒子	良好	外面 7.5YR4/3 褐 内面 7.5YR4/6 赤褐	口縁部 1/4 胴部 1/3	重量 122.2g
	29	SI63・ SI64	須恵器 甕	[23.2] (7.9)	口縁部は外反して開き、外方に面を有する。		小礫、砂粒	良好	内外面 10YR4/1 褐灰 断面 5YR5/3 にぶい赤褐	口縁部 1/3	重量 196.2g 東金子窯
	30	SI64	須恵器 甕			胴部外面は格子状叩き、内面は無文の当て具痕。	砂粒	良好	外面 N3/ 灰 内面 10YR5/1 褐灰	胴部破片	重量 254.0g

第 35 表 SI64 出土石製品観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	器種	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	残存	石材	備考
第 220 ・ 221 図	31	SI64	砥石	(4.3)	(4.3)	(2.7)	96g	約 1/4	流紋岩	
	32	SI64	砥石	(6.2)	(2.9)	(2.2)	72.3g	約 1/2	流紋岩	
	33	SI64	台石	24.3	20.8	6.4	4640g	完形	閃緑岩	片面に磨面あり。

第 36 表 SI64 出土金属製品観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	器種	素材	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	残存	備考
第 222 図	34	SI64	刀子	鉄	12.2	刃部 1.5 柄部 1.1	刃部 0.4 柄部 0.3	19.4g	完形	刃部先端と茎部末端が折り曲げられた状態。両区で、平造り。
	35	SI64	刀子	鉄	(10.4)	刃部 1.1 柄部 0.8	刃部 0.4 柄部 (0.3)	8.7g	刃～茎部 約 3/4	片区で、平造り。
	36	SI64	鎌	鉄	(8.2)	(2.3)	(0.3)	16.7g	刃部破片	刃部はあまり湾曲しない形状。
	37	SI64	巡方	銅	3.4	3.1	0.9	13.6g	ほぼ完形	裏金の鉋が 4 箇所遺存。

それ以外は H IV 期に位置付けられる。また、13 の高台付坏は H IV 期に比定される。13 は覆土上層から出土したが、坏は覆土中や床面直上、掘方から出土している。こうした状況から、本遺構の廃絶時期は、8 世紀後葉と考えられる。

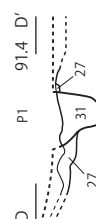
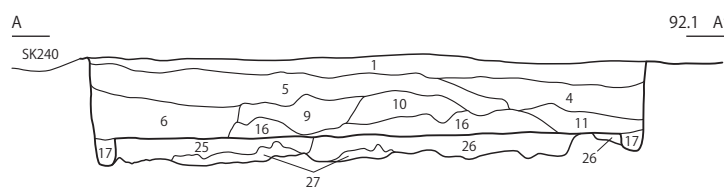
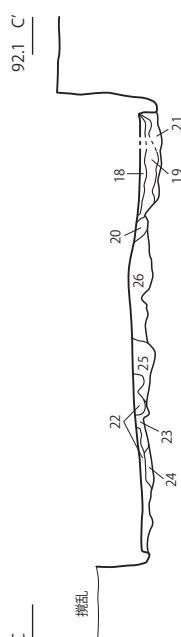
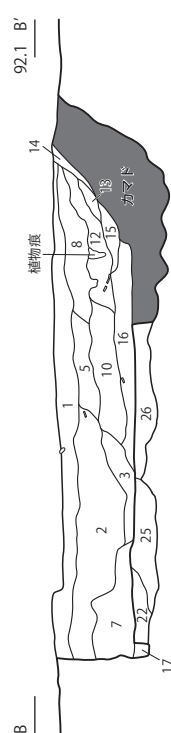
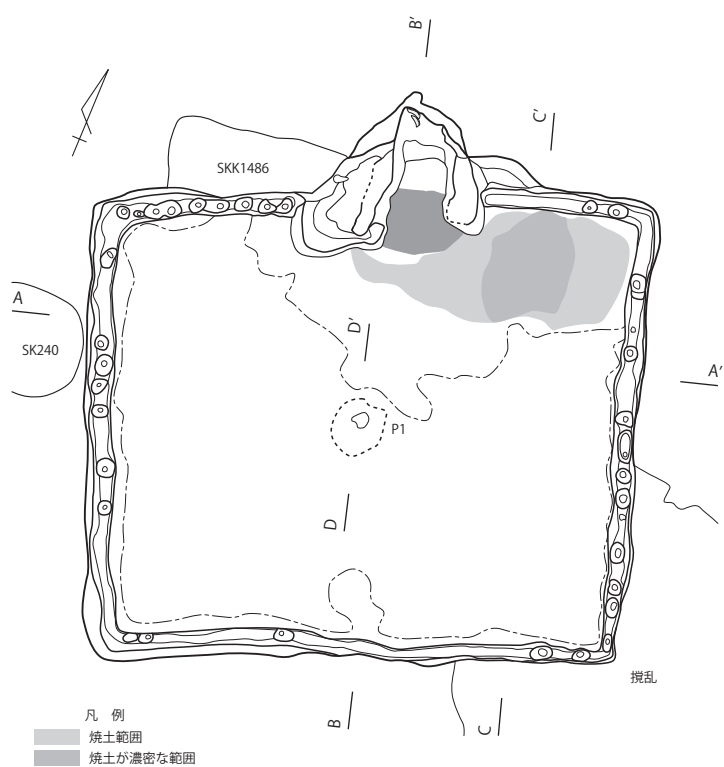
(小西)

SI67 (第 223 ～ 239 図、第 37 ・ 38 ・ 45 表)

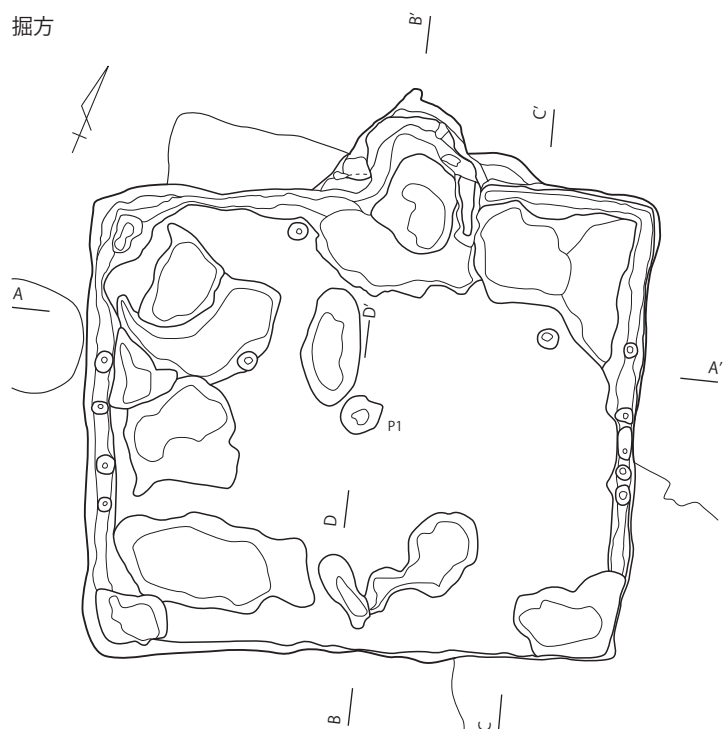
遺構 2-6 東区西部の 29P-75 ・ 84 ・ 85 ・ 86 グリッドに位置する。検出面はⅢ 1 層上で、壁の上部やカマドの一部が SKK1486 及び攪乱に切られている。

平面形態は長方形で、東西 458cm、南北 456cm、検出面から床面までの深さは 73cm を測る。壁は垂直に立ち上がっている。主軸方向は N-23°-W を指す。

床面は貼床で、壁溝沿いやカマド前面、後述する焼土範囲を除く広い範囲が硬化する。壁溝はカマ



掘方



第223図 SI67(1)(1/60)

SI67

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)7%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)7% 含む。焼土微量混入。締まりあり、粘性弱い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)10%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)8% 含む。焼土微量混入。締まりあり、粘性弱い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)7%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)7% 含む。直径 2mm 以下の炭化物粒子少量、直径 3mm 前後の粘土粒子少量混入。締まりあり、粘性弱い。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)8%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)10% 含む。直径 2mm 前後の焼土・炭化物粒子少量混入。締まりあり、粘性ややあり。
5. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)7% 含む。直径 2mm 前後の焼土・炭化物粒子少量混入。締まりあり、粘性あり。
6. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)7%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)7% 含む。直径 2mm 前後の焼土・炭化物粒子少量混入。締まりあり、粘性弱い。
7. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)6%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)6% 含む。直径 5mm 前後の焼土ブロック多量、直径 2mm 以下の砂岩質粒子少量混入。締まりあり、粘性やや弱い。
8. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)8%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)8% 含む。直径 2mm 前後の粘土粒子やや多量、直径 3mm 前後の焼土粒子・炭化物粒子少量混入。締まりややあり、粘性ややあり。
9. 10YR3/3 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)7% 含む。直径 3～5mm 前後の炭化物粒子やや多量、直径 10mm 以下の砂質粘土粒子多量、直径 3mm 前後の焼土粒子やや多量混入。締まりあり、粘性やや弱い。
10. 10YR3/3 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)7%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)10% 含む。直径 3～5mm 前後の炭化物粒子やや多量、直径 10mm 以下の砂質粘土粒子多量、直径 3mm 前後の焼土粒子やや多量混入。締まりあり、粘性やや弱い。
11. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)7% 含む。直径 2mm 前後の焼土粒子やや多量、直径 2mm 前後の炭化物粒子やや多量、直径 10mm 以下の炭化物少量混入。締まりややあり、粘性やや弱い。
12. 10YR3/4 暗褐色土層 砂質粘土主体。直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)2%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。砂質粘土ブロック多量、直径 3mm 前後の焼土粒子やや多量、直径 2mm 前後の炭化物粒子やや多量混入。締まりあり、粘性ややあり。
13. 10YR3/4 暗褐色土層 砂質粘土主体。直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)2%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 100mm 以下の砂質粘土ブロック多量、直径 3mm 前後の焼土粒子多量、直径 3mm 前後の炭化物粒子多量混入。締まりあり、粘性やや弱い。
14. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)2%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。砂質粘土ブロック多量、直径 2mm 前後の炭化物粒子少量混入。締まりあり、粘性ややあり。
15. 10YR4/3 暗褐色土層 砂質粘土主体。直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)2%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 15mm 以下の砂質粘土ブロックやや多量、直径 2mm 前後の焼土粒子少量、直径 2mm 前後の炭化物粒子少量混入。締まりあり、粘性ややあり。
16. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)6%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)8% 含む。直径 2mm 前後の焼土粒子やや多量、直径 2mm 前後の炭化物粒子やや多量、直径 10mm 以下の炭化材片少量混入。締まりややあり、粘性あり。
17. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)1% 含む。直径 2mm 以下のローム粒子やや多量混入。締まりややあり、粘性やや弱い。壁溝埋没土。
18. 7.5YR4/6 褐色土層 直径 20mm 以下の焼土・粘土ブロック多量、直径 3mm 以下の焼土粒子多量、直径 3mm 以下の炭化物粒子やや多量混入。締まりあり、粘性あり。
19. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 10mm 以下の焼土ブロックやや多量、直径 3mm 以下の焼土粒子やや多量、直径 3mm 以下の炭化物粒子少量混入。締まりあり、粘性あり。
20. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。直径 2mm 前後のローム粒子少量、直径 2mm 前後の粘土粒子少量、直径 2mm 前後の炭化物粒子少量、直径 2mm 前後の焼土粒子微量混入。締まりあり、粘性ややあり。
21. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。直径 10mm 以下の焼土ブロックやや多量、直径 3mm 前後の焼土粒子やや多量、直径 2mm 前後の炭化物粒子少量、直径 10mm 前後のロームブロック微量混入。締まりあり、粘性あり。
22. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)2% 含む。直径 2mm 以下の焼土粒子少量、直径 10mm 以下のロームブロック少量混入。締まりあり、粘性あり。
23. 10YR4/6 褐色土層 ロームブロック主体。直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 2% 含む。締まりあり、粘性ややあり。
24. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。直径 2mm 以下のローム粒子やや多量、直径 10mm 以下のロームブロック少量混入。締まりややあり、粘性あり。
25. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)7%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。直径 30mm 以下のロームブロックやや多量、直径 2mm 前後の焼土粒子微量混入。締まりややあり、粘性あり。
26. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)4%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。直径 3mm 以下の焼土粒子少量、直径 2mm 前後の炭化物粒子少量、直径 10mm 以下のロームブロックやや多量混入。締まりあり、粘性やや弱い。
27. 10YR3/4 暗褐色土層 ロームブロック主体。直径 2mm 以下の赤褐色スコリア 3%、直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。直径 2mm 前後の炭化物粒子少量、直径 2mm 以下の焼土粒子少量混入。締まり非常にあり、粘性あり。

P1

31. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)6%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。直径 2mm 前後の炭化物粒子やや多量、直径 3mm 前後の砂質粘土粒子やや多量、直径 3mm 前後のローム粒子やや多量、直径 2mm 前後の焼土粒子少量、直径 10mm 以下のロームブロック少量混入。締まりあり、粘性ややあり。

第 224 図 SI67(2)

ド部分を除いて全周する。カマドは北壁の中央部に構築されていた。主柱穴は無かったが、床面中央で P1 を検出した。

床面までの覆土は 16 層に分けられ、ほぼ全ての層で焼土粒子が見られ、多くの層で炭化物粒子が見られる。また、中～下層の 3・8～15 層は、覆土中にカマドの構築材である砂質粘土の粒子やブロックが多く含まれている。特にカマドに近接する 12～14 層で顕著で、砂質粘土のブロックを多量に含んでいる。一方で、カマド前の床面直上に堆積する 16 層では砂質粘土が見られないことから、この 16 層は、カマドの廃絶前に堆積したと考えられる。

掘方はローム層まで掘り込まれており、カマド前面や壁溝周辺がやや深くなっている。掘方の充填土は大小のロームブロックを含む黒色あるいは黒褐色の土壌が中心である。

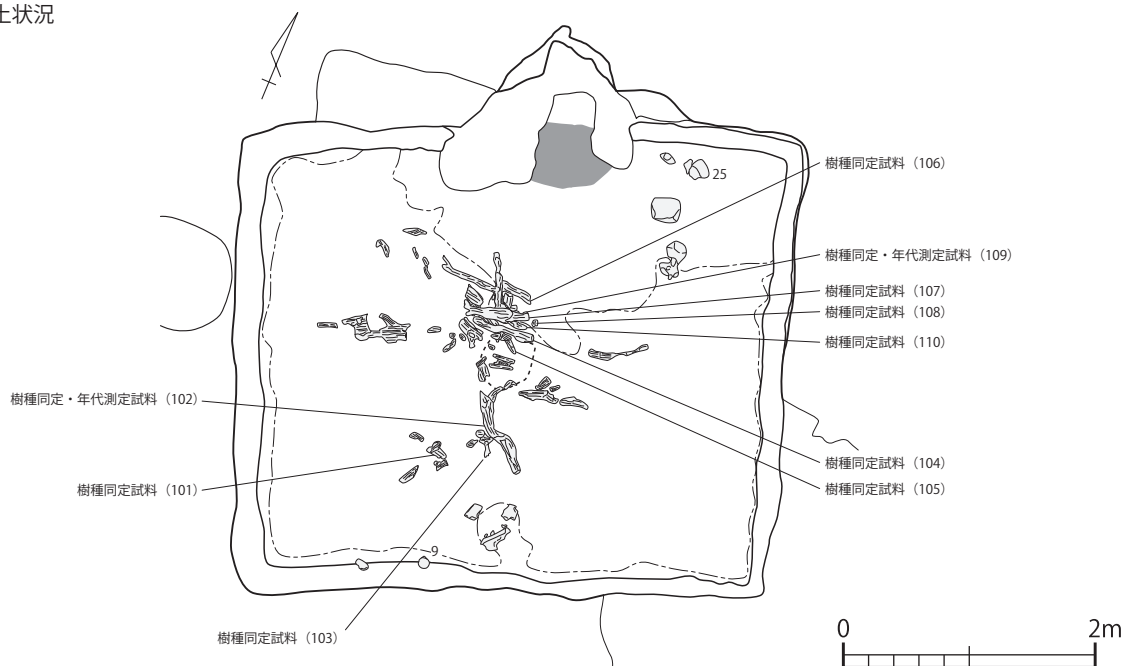
また、カマドに向かって右側の掘方部分には焼土ブロックを多く含む土壌によって充填された範囲（18～21 層）が確認された。貼床の構築もしくは補修によるものとみられる。

壁溝は断面が逆台形もしくは箱状を呈し、幅は広いところで 18cm、深さは 22cm を測る。壁溝の

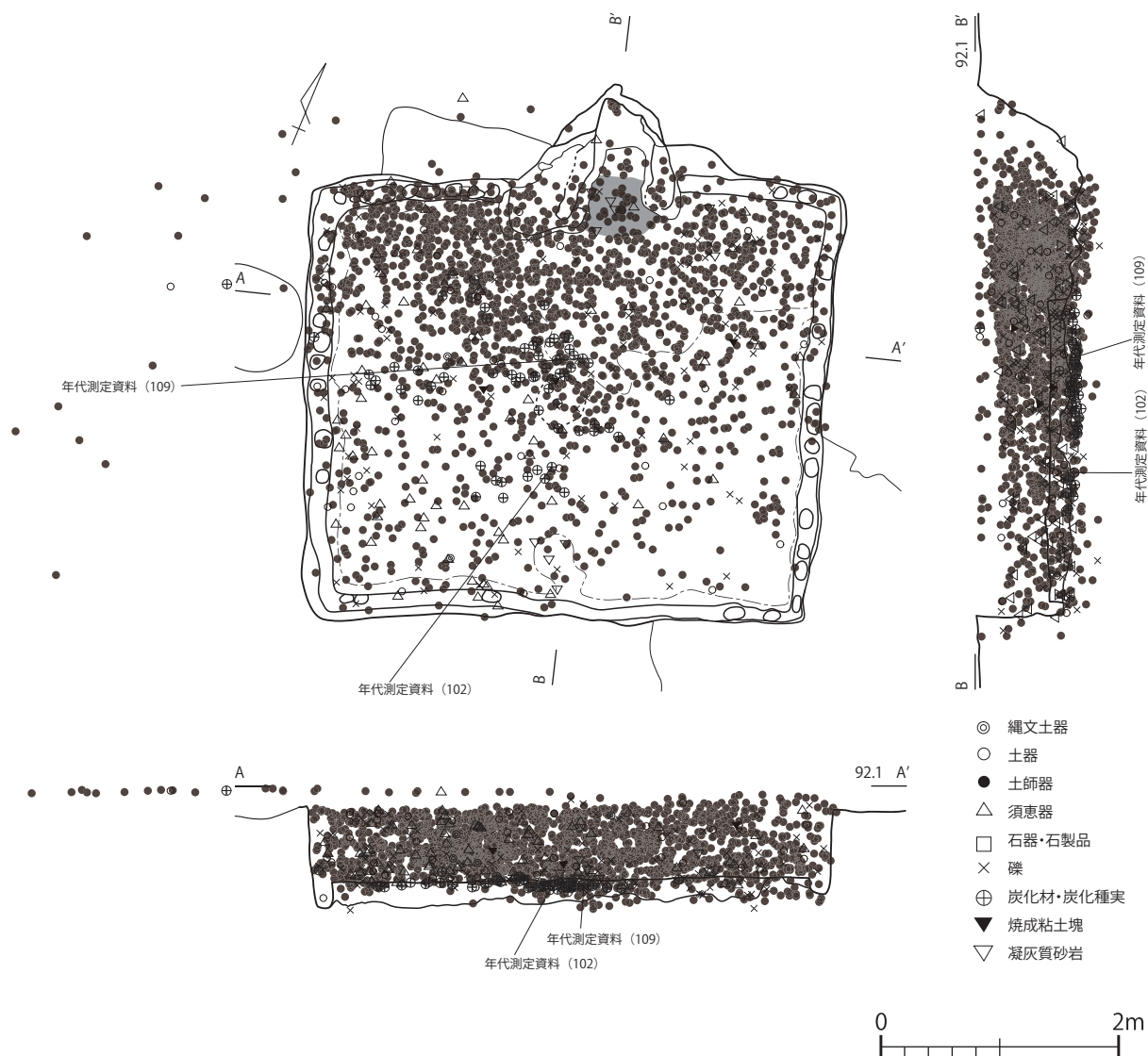
カマド

1. 10YR3/4 暗褐色土層 砂質粘土主体。直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)3%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)2%含む。直径5mm前後の砂質粘土ブロックやや多量、直径2mm前後の炭化物粒子少量、直径3mm前後の焼土粒子少量混入。締まりあり、粘性あり。
2. 10YR3/4 暗褐色土層 砂質粘土主体。直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)4%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)5%含む。直径2mm前後の炭化物粒子少量、直径3mm前後の焼土粒子少量混入。締まりあり、粘性あり。
3. 10YR2/3 黒褐色土層 直径3mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)7%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)2%含む。直径2mm前後の炭化物粒子やや多量、直径3mm前後の砂質粘土粒子やや多量、直径3mm前後の焼土粒子少量混入。締まりあり、粘性あり。
4. 10YR3/4 暗褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)7%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)7%含む。直径2mm前後の炭化物粒子やや多量、直径3mm前後の焼土粒子やや多量、直径2mm前後の砂質粘土粒子やや多量、直径30mm以下の砂質粘土ブロック少量混入。締まりややあり、粘性やや弱い。
5. 10YR3/4 暗褐色土層 砂質粘土主体。直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)4%、直径3mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)5%含む。直径2mm以下の炭化物粒子やや多量、直径10mm前後の焼土ブロックおよび直径2mm以下の焼土粒子少量混入。締まりあり、粘性あり。
6. 10YR2/3 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)4%、直径3mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)10%含む。直径2mm前後の焼土粒子やや多量、直径4mm前後の粘土粒子やや多量、直径2mm以下の炭化物粒子少量混入。締まりあり、粘性ややあり。
7. 10YR4/4 褐色土層 砂質粘土ブロック主体。褐色土(10YR4/4)30%含む。直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)2%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)3%含む。直径2mm前後の焼土粒子少量、直径2mm前後の砂質粘土粒子少量、直径2mm前後の炭化物粒子微量混入。締まりあり、粘性あり。
8. 7.5YR3/4 暗褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)1%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)2%含む。直径10mm以下の焼土ブロックやや多量、直径3mm前後の焼土粒子やや多量、直径3mm前後の炭化物粒子少量、直径2mm前後の砂質粘土粒子少量混入。締まりややあり、粘性やや弱い。
9. 7.5YR3/4 暗褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)2%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)3%含む。直径2mm以下の炭化物粒子少量、直径2mm以下の焼土粒子少量、直径3mm前後の砂質粘土粒子少量混入。締まりあり、粘性あり。
10. 7.5YR3/4 暗褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)6%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)4%含む。直径2mm前後の焼土粒子多量、直径10mm前後の焼土ブロック多量、直径2mm前後の炭化物粒子やや多量、直径10mm以下の砂質粘土ブロック少量混入。締まりややあり、粘性弱い。
11. 10YR4/4 褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)・直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)共に2%含む。直径10mm以下の焼土ブロック少量、直径2mm前後の炭化物粒子微量混入。締まり非常にあり、粘性ややあり。
12. 7.5YR3/4 暗褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)1%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)2%含む。直径10mm以下の焼土ブロック・直径3mm前後の焼土粒子多量、直径3mm前後の炭化物粒子少量、直径2mm前後の砂質粘土粒子少量混入。締まりあり、粘性あり。
13. 10YR3/4 暗褐色土層 ブロック状の砂質粘土主体。直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)2%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)3%含む。直径2mm前後の炭化物粒子やや多量、直径2mm前後の砂質粘土粒子やや多量、直径5mm以下の焼土粒子少量混入。締まり非常にあり、粘性やや弱い。
14. 5YR3/6 暗赤褐色土層 砂質粘土主体。直径15mm以下の焼土ブロック多量、直径3mm前後の炭化物粒子少量混入。締まりあり、粘性やや弱い。
15. 5YR3/6 暗赤褐色土層 砂質粘土主体。直径15mm以下の焼土ブロックやや多量、直径3mm前後の炭化物粒子やや多量混入。締まりあり、粘性やや弱い。
16. 10YR3/4 暗褐色土層 砂質粘土主体。直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)3%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)2%含む。直径2mm前後の炭化物粒子やや多量、直径2mm前後の砂質粘土粒子やや多量、直径5mm以下の焼土粒子やや多量混入。締まり非常にあり、粘性ややあり。
17. 5YR3/6 暗赤褐色土層 火床部。直径15mm以下の焼土ブロック多量、直径3mm前後の炭化物粒子少量混入。締まりあり、粘性やや弱い。
18. 10YR3/4 暗褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)4%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)5%含む。直径3mm前後の焼土粒子やや多量、直径2mm前後の炭化物粒子少量、直径10mm以下の砂質粘土ブロック少量混入。締まりややあり、粘性あり。
19. 10YR4/4 褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)・直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)共に2%含む。直径2mm前後の炭化物粒子少量、直径3mm以下の焼土粒子少量混入。締まり非常にあり全体的に緻密。粘性やや弱い。
20. 10YR4/4 褐色土層 ブロック状の砂質粘土主体。直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)2%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)2%含む。直径2mm以下の炭化物粒子・焼土粒子微量混入。締まり非常にあり、粘性弱い。
21. 10YR3/4 暗褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)3%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)2%含む。直径15mm以下の砂質粘土ブロックやや多量、直径4mm前後の砂質粘土粒子やや多量、直径3mm前後の焼土粒子少量、直径3mm前後の炭化物粒子少量混入。締まりあり、粘性ややあり。
22. 10YR3/4 暗褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)5%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)5%含む。直径4mm以下の焼土粒子少量、直径2mm前後の炭化物粒子少量、直径5mm以下の砂質粘土ブロック少量混入。締まりあり、粘性ややあり。
23. 10YR2/3 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)6%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)4%含む。直径2mm以下の砂質粘土粒子やや多量、直径3mm前後の焼土粒子少量、直径2mm以下の炭化物粒子少量、直径3mm前後の砂質粘土ブロック少量混入。締まりあり、粘性ややあり。
24. 10YR3/4 暗褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)3%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)4%含む。直径2mm前後の焼土粒子・炭化物粒子共に微量。締まりあり、粘性あり。
25. 7.5YR4/6 褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)2%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)3%含む。直径2mm前後の炭化物粒子少量、直径3mm前後の焼土粒子少量、直径2mm前後の砂質粘土粒子少量混入。締まりあり、粘性あり。
26. 10YR4/4 褐色土層 砂質粘土主体。直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)2%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)3%含む。直径10mm以下の焼土ブロック・粒子やや多量、直径8mm以下の砂質粘土ブロックやや多量、直径2mm前後の炭化物粒子少量混入。締まり非常にあり、粘性あり。
27. 10YR2/3 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)6%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)3%含む。直径5mm前後の砂質粘土ブロックやや多量、直径2mm前後の砂質粘土粒子やや多量、直径3mm前後の焼土粒子少量、直径3mm前後の炭化物粒子少量混入。締まり非常にあり、粘性弱い。
28. 10YR4/4 褐色土層 砂質粘土主体。直径2mm以下の黄橙色スコリア(10YR8/8)2%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)3%含む。直径10mm以下の焼土ブロック・粒子やや多量、直径8mm以下の砂質粘土ブロックやや多量、直径2mm前後の炭化物粒子少量混入。締まり非常にあり、粘性あり。

遺物出土状況



第 226 図 SI67(4) 遺物出土状況図 (1/60)

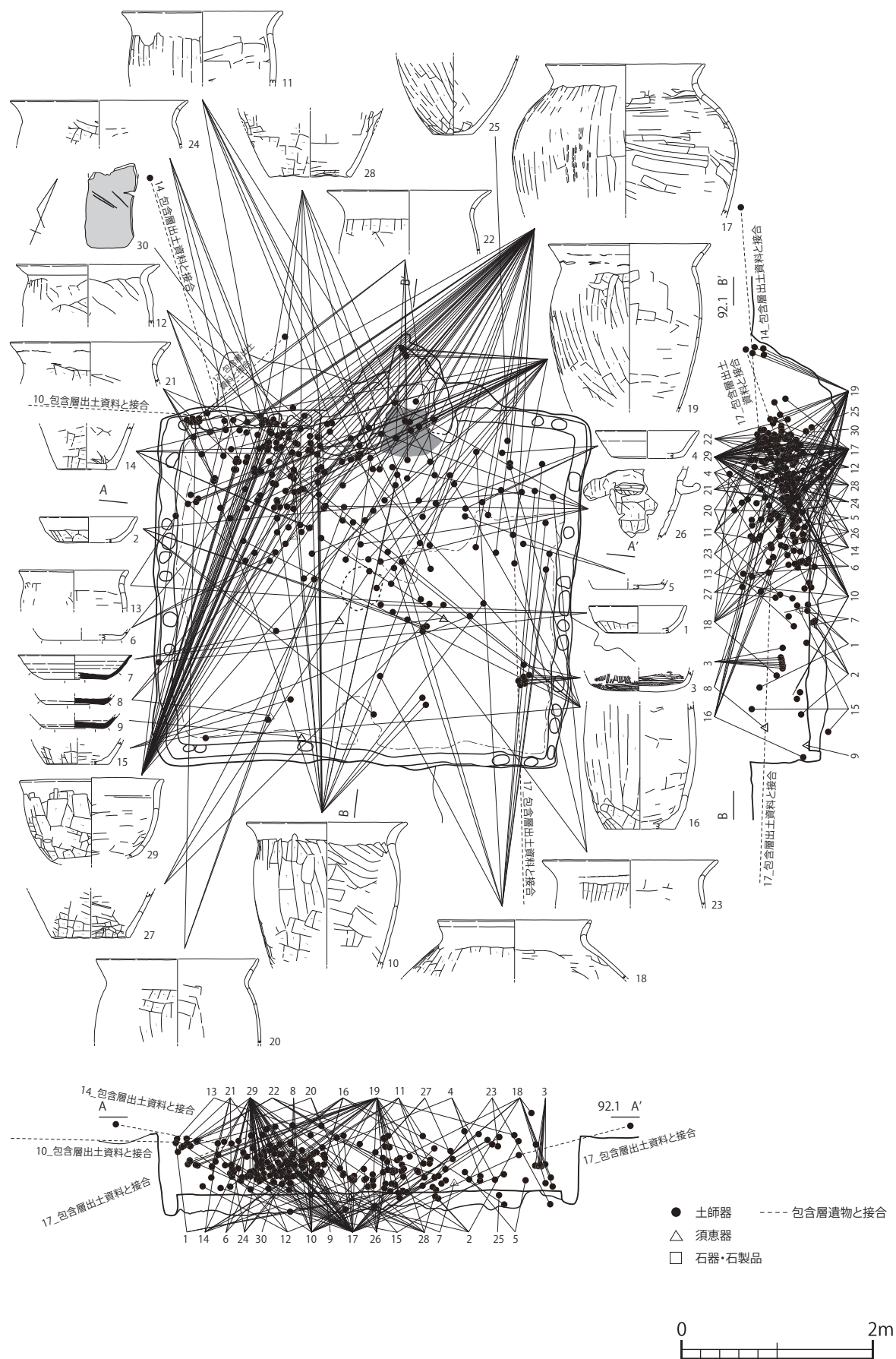


第 227 図 SI67(5) 遺物分布図 (1/60)

底面には、長軸 12 ～ 26cm の円形もしくは楕円形を呈する小ピットが不規則に並んでいる。壁溝覆土はロームブロックや粒子をやや多く含む黒褐色土である。

P1 は、貼床土の掘削中に検出されたが、本来は床面から掘り込まれていたものであろう。規模は長軸 46cm、短軸 40cm の楕円形で、床面からの深さは推定で 42cm を測る。覆土は黒褐色で、炭化物粒子や砂質粘土粒子をやや多く含んでいる。

カマドは、北壁の中央部を奥行き 86cm 掘り込んで構築されている。左右の袖、側壁・奥壁とも



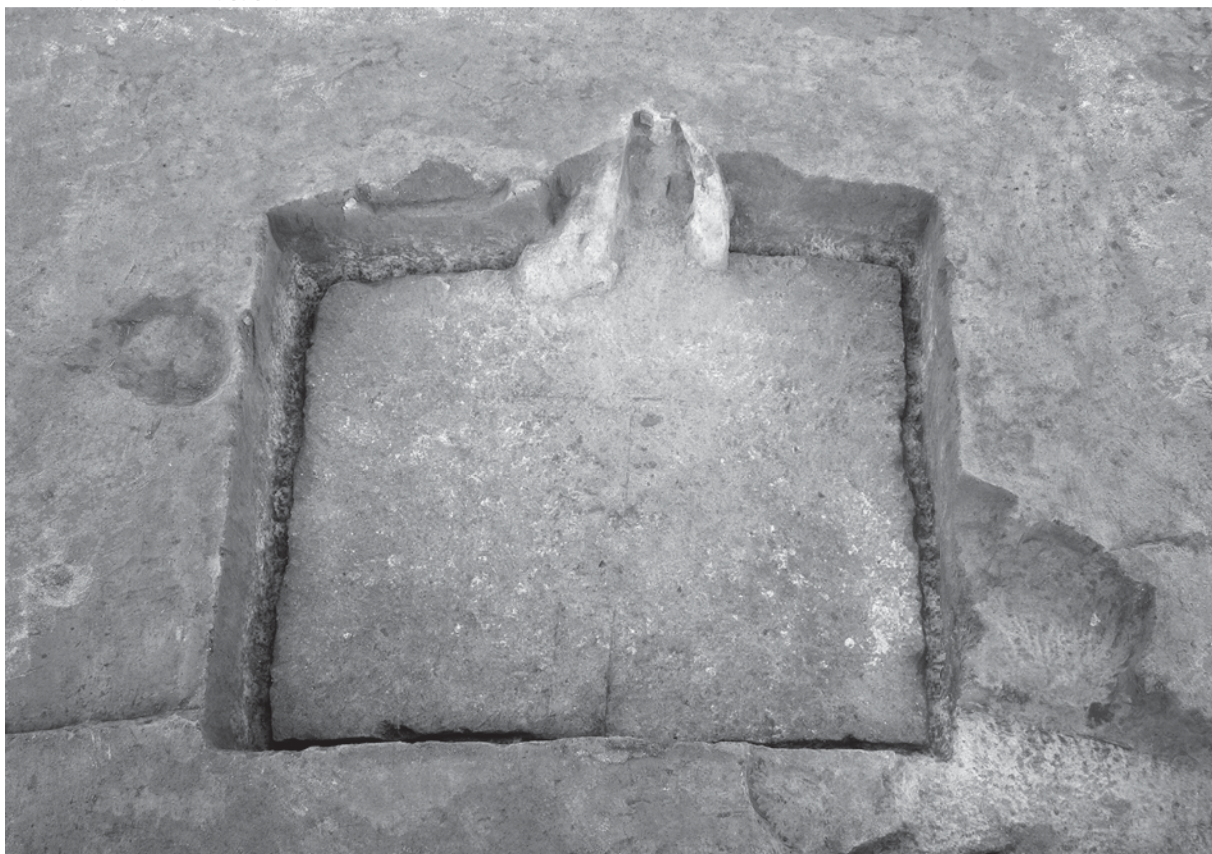
第 228 図 SI67(6) 遺物接合図 (1/60)



1. 土層断面 A-A' 東北東から



2. 土層断面 B-B' 南南東から



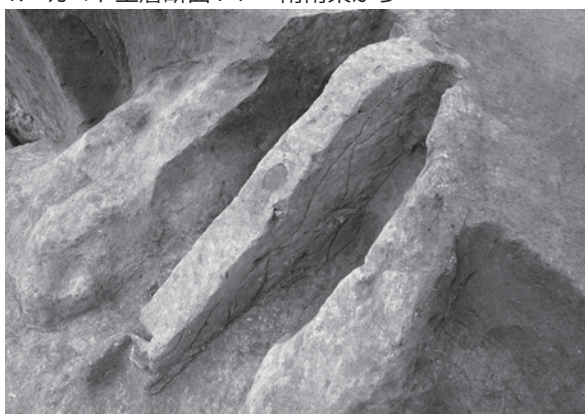
3. 床面全景 南南東から



1. カマド土層断面 F-F' 南南東から



2. カマド土層断面 G-G' 南南東から



3. カマド土層断面 E-E' 東南東から



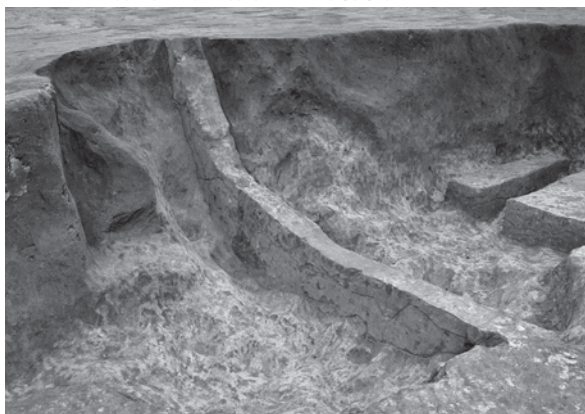
4. カマド全景 南南東から



5. カマド掘方土層断面 F-F' 南南東から



6. カマド掘方土層断面 G-G' 南南東から



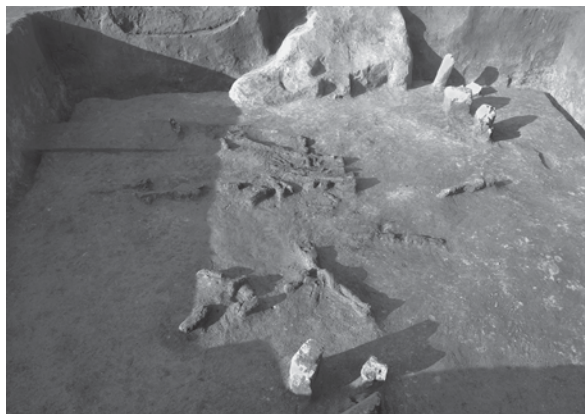
7. カマド掘方土層断面 E-E' 南西から



8. カマド掘方全景 南南東から



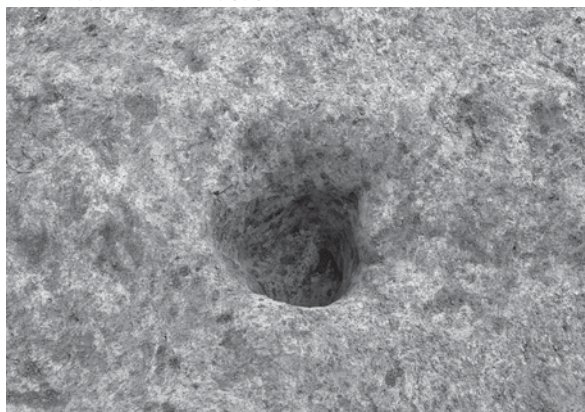
1. 遺物出土状況 南南東から



2. 遺物出土状況 南南東から



3. 遺物出土状況 南南東から



4. P1 全景 西南西から



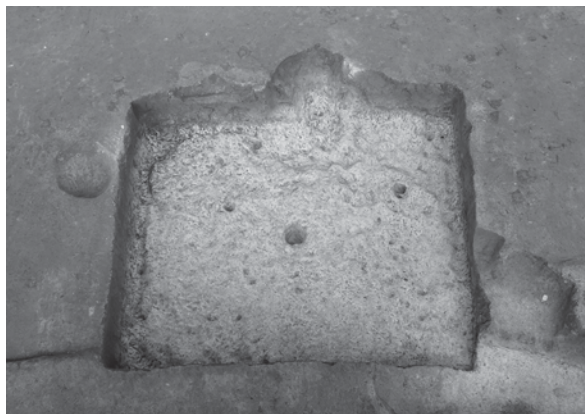
5. 掘方土層断面 A-A' 東北東から



6. 掘方土層断面 B-B' 南南東から



7. 床面北東部焼土土層断面 西南西から



8. 掘方全景 南南東から

第 231 図 SI67 写真 (3)

砂質粘土を主体に構築されていて、右袖は、削り出したロームを土台として構築されている。天井部は残存していなかったが、両袖間の覆土堆積状況から、天井部は崩落し、構築材の砂質粘土はカマド前面まで流れ出したものと想定できる。なお、断面の観察から、左袖は外側から内側に造り替えが行われたものと思われる。火床部（17層）は床面とほぼ同じ高さで検出された。左袖の造り替え時には、この火床部上に新たに袖材を載せて構築されている。（相原）

第227図の遺物分布図によれば、遺物は平面、立面ともに建物の北半分、特にカマド付近に集中する傾向が指摘できる。掲載した遺物に限定するとこの傾向は一目瞭然で、さらにカマドからその西側にかけて土師器甕や甗、鉢等が集中的に分布する状況が読み取れる（第228図）。第236・237図19の土師器甕はカマド煙道部に沿うようにして出土しており、煙道の補強材として用いられた可能性がある。また、第226図・第231図1～3に示すように、建物中央付近において炭化材が集中して出土した。炭化材は比較的長さがある物が多く、建物の中心部に向かうようにして出土していることや、先述のとおり、覆土のすべての層に焼土が含まれていることから、本遺構は焼失住居である可能性が高い。

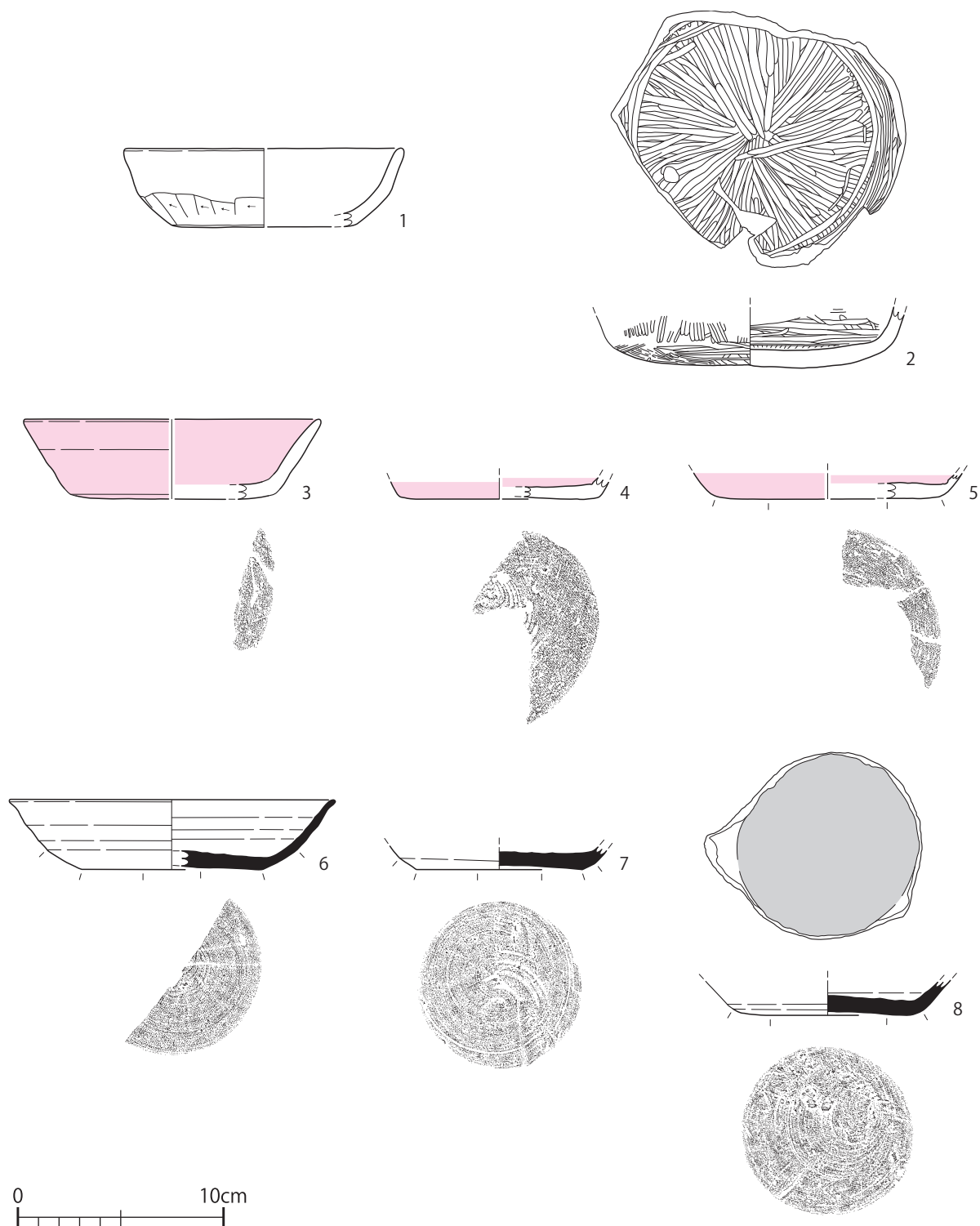
なお、これらの炭化材のうち10点の樹種同定を行い、このうちの2点については放射性炭素年代測定を合わせて実施した。同定した試料は、クリやオニグルミ、ケヤキ、アカガシ亜属、カヤといった複数の樹種が確認された。また、放射性炭素年代測定の結果、7世紀半ば～8世紀後半頃という暦年代範囲を示している（第V章第1節参照）。

遺物 本遺構からは、総点数2,082点、総重量30,730.4gが出土した。種別・器種ごとの内訳は、古代の土師器1,845点13,007.6g（坏41点388.4g、盤状坏15点74.7g、甕1,694点11,596.5g、甗43点379.6g、鉢50点566.1g、器種不明2点2.3g）、古代の須恵器71点541.5g（坏60点479.9g、高台付坏2点6.4g、甕4点41.8g、瓶あるいは壺5点13.4g）、古代の石製品（砥石）2点35.1g、凝灰質砂岩25点10,597g、焼成粘土塊3点7.7g、縄文土器4点33g（諸磯式2点21.2g、曾利式古手1点10.1g、時期型式不明1点1.8g）、弥生時代後期～古墳時代前期の土器41点149.3g（壺23点85.4g、甕7点24.8g、台付甕6点27.4g、鉢5点11.7g）、被熱礫を含む礫91点6,359.2gで、これら以外に炭化材が出土した。

縄文土器や弥生時代後期～古墳時代前期の土器は本遺構に伴う遺物ではなく、何らかの要因で混入したものと考えられる。本遺構に伴う古代の遺物については、須恵器の出土量が圧倒的に少ないことが特徴である。また、土師器には坏や甕以外に甗や鉢も含まれており、器種が豊富である点も特筆される。こうした状況は、本遺構が奈良時代の所産で、当時は土師器に比べ須恵器の使用が少ない状況が反映されている。本遺構に伴う遺物として、石製品を含む30点を図化し、掲載した。

第232・233図1・2は土師器坏である。1は相模型坏で、体下部には横位のヘラケズリを施す。外面に煤が付着している他、内面には灯芯油痕が認められる。2は内面に暗文を施す坏で、体下部から底部にかけて遺存する。体部の大半を欠損しているが、底部から直立気味に開く器形のようなものである。底部内面には中心から外側に向けて放射状の暗文を隙間なく施し、体部内面は横位のミガキを施す。底部外面や体部外面にもミガキが見られるが、内面と比べるとやや散漫である。底径は13.4cmと大ぶりの坏である。

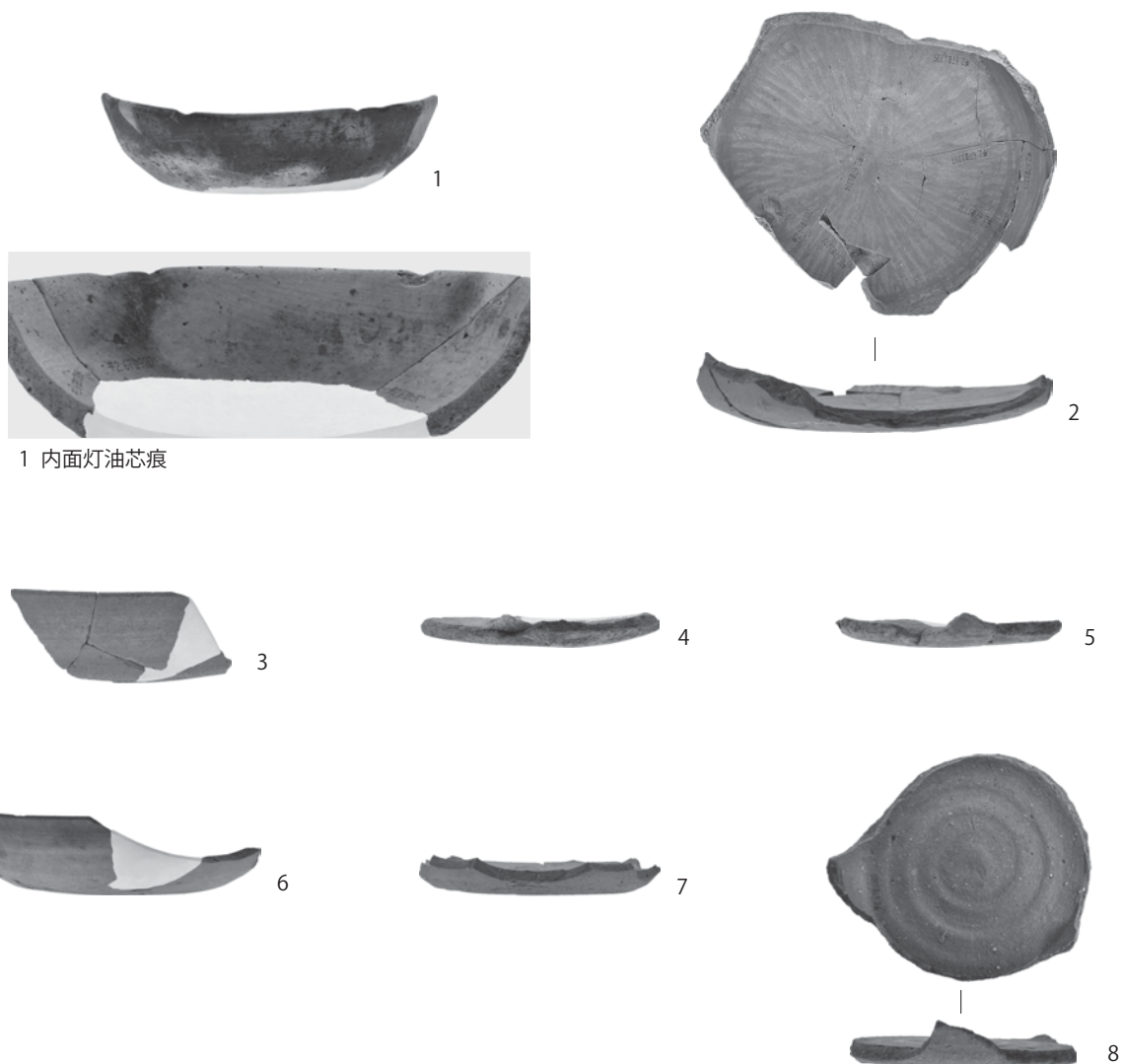
3～5は土師器盤状坏である。3は口縁部から底部にかけて遺存し、逆台形状の形状を呈する。口



第 232 図 SI67 出土遺物 (1)(1/3)

唇部内面に沈線は認められない。口縁部内面から体部外面にかけて、かろうじて赤彩が残る。4・5 はいずれも体下部から底部にかけての破片である。いずれも外面等に赤彩が認められる。

6～8 は須恵器坏で、6 は体部が底部から内湾して開き、口縁端部がわずかに外反する。口径や底径に比べ器高が低く、浅身の坏である。6・7 の底部は回転糸切り後、外周に幅広い回転ヘラケズリ



1 内面灯油芯痕

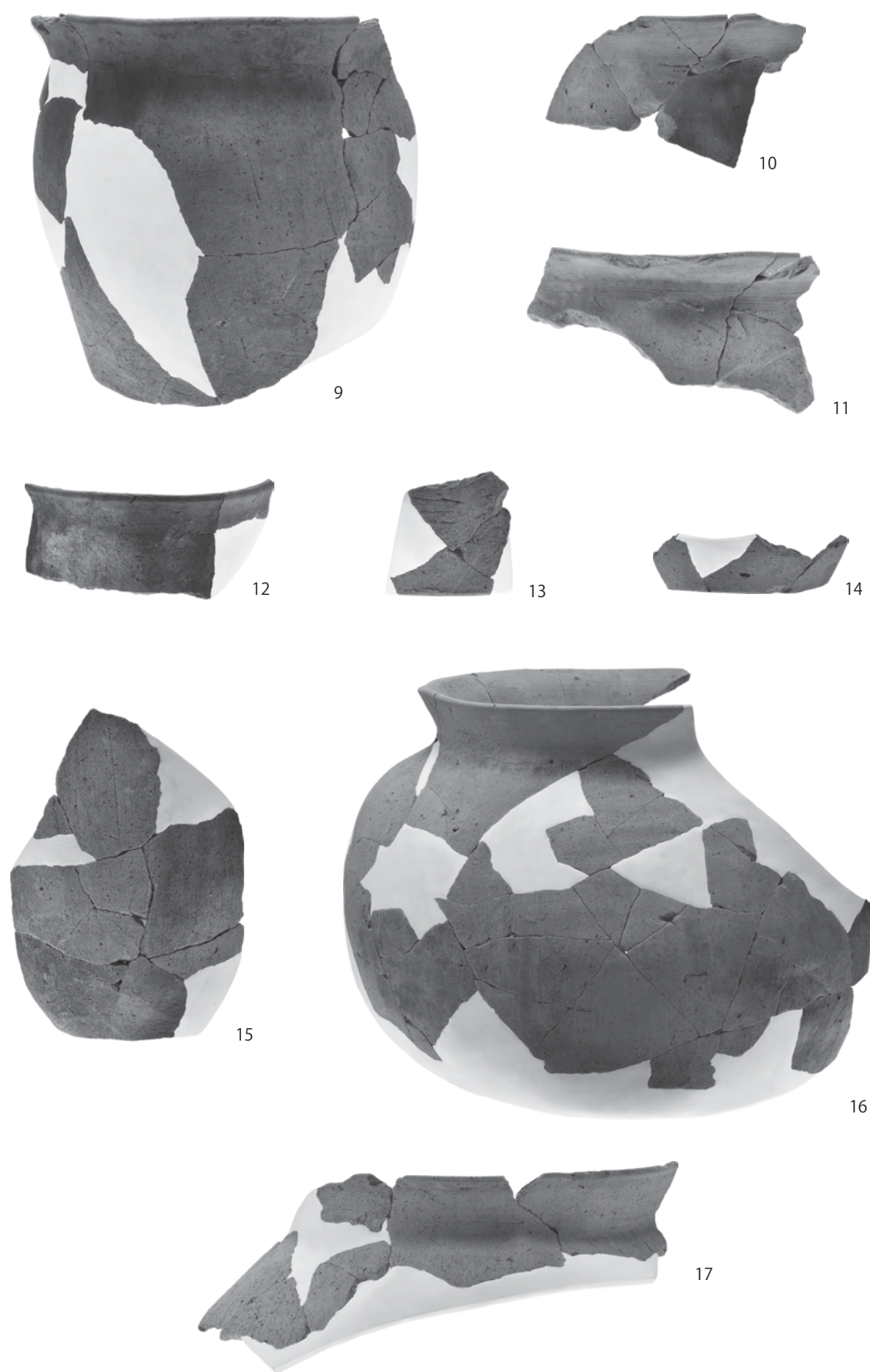
第 233 図 SI67 出土遺物 (1) 写真

を施す。8 は坏の底部破片である。底部縁辺は丁寧に打ち割られているが、わずかに体部が突起状に残っている。おそらくは体部の一部を意図的に残し、つまみとして使用したのだろう。底部内面が全面的に磨滅していることから、転用硯の可能性が考えられる。胎土には海綿骨針が含まれている。6 は南多摩窯、7 は東金子窯、8 は南比企窯の製品である。6 については、古代の入間を考える会の根本靖氏から、多摩ニュータウンNo. 107 遺跡の水場遺構出土須恵器と胎土や質感が類似するとの指摘があった。

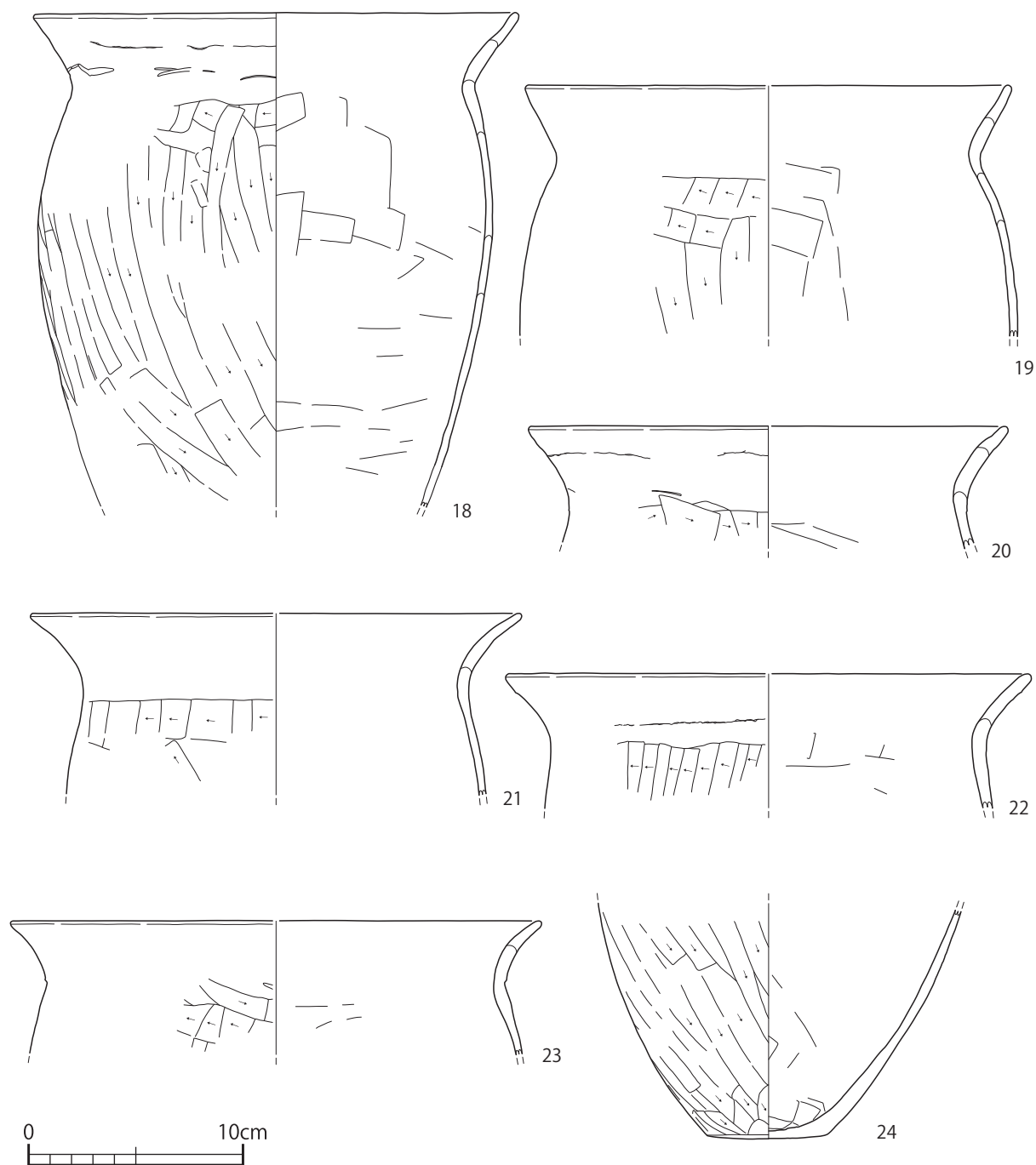
第 234・235 図 9 ～第 236・237 図 24 は土師器甕である。第 234・235 図には鬼高系の甕をまとめた。9 は頸部から口縁部が緩やかに外反して開く。胴部最大径は上部にあり、口径よりも小さい。10 は頸部から口縁部にかけて非常になだらかに開く形状で、11 は頸部の屈曲が強く、口縁部が折れ曲がるように開く。胴部外面の調整は、縦位のヘラケズリを主体とし、斜位のヘラケズリも見られる。12 は全体的に厚手なつくりで、頸部から口縁部にかけてはなだらかな形状を呈する。13～15 は胴部から底部にかけての破片である。13・14 は底部から直線的な器形で、外面には横位のヘラケズリを施す。15 は砲弾形の器形で、胴部外面は縦位のヘラケズリと、底部付近は斜位のヘラケズリである。



第 234 図 SI67 出土遺物 (2)(1/3)



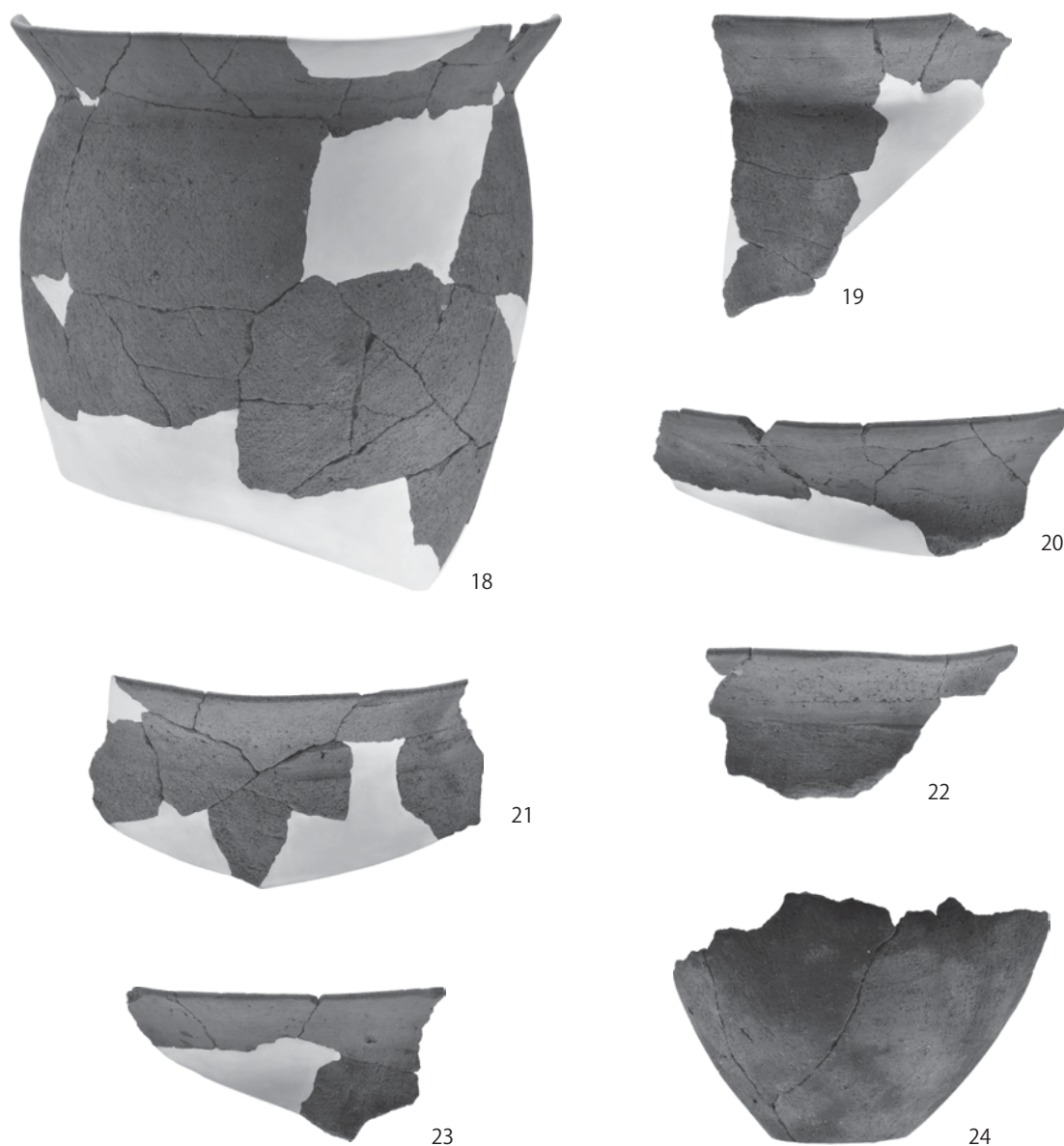
第 235 図 SI67 出土遺物 (2) 写真



第 236 図 SI67 出土遺物 (3)(1/3)

16 は球胴形の甕で、胴部最大径が上部にある器形である。頸部はすぼまり、口縁部は直線的に開く。外面は縦位のヘラケズリ主体である。17 も球胴形の甕と考えられる。

18～24 は武蔵型甕を掲載した。18・19 は口縁部が頸部から「く」の字状に屈曲して開く。20～22 は頸部から口縁部にかけてなだらかに開く器形である。いずれの甕も口縁端部は丸く収める。胴部外面の調整は、頸部直下に横位のヘラケズリが見られ、それより下方には 18・19 のように縦位あるいは斜位のヘラケズリを施す。24 は底部から内湾気味に開く形状で、胴部から底部に向け斜位のヘラケズリを施す。

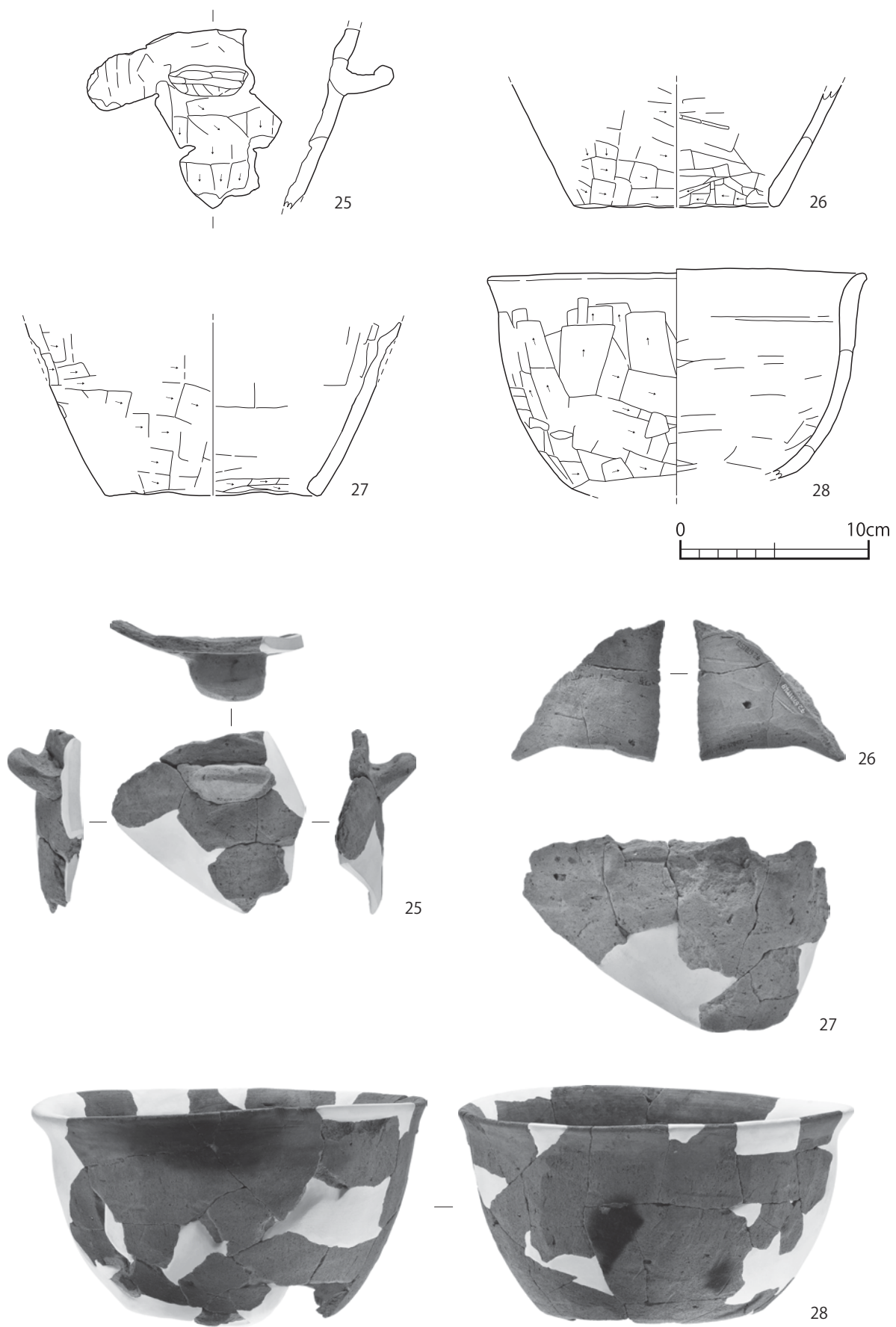


第 237 図 SI67 出土遺物 (3) 写真

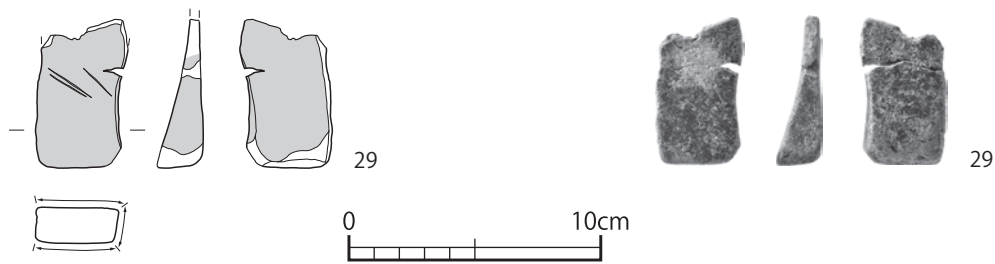
第 238・239 図 25～27 は土師器甕である。25・27 は胎土や焼成の特徴から同一個体だが、接合しなかったため、分けて図示した。この甕には扁平な把手が胴上部に付き、底部は単孔である。26 の甕も単孔である。28 は土師器鉢で、口縁部から体下部まで復元することができたが、全体的に歪みが目立つ。体部は内湾し、口縁部は短く外反する。

第 239 図 29 は流紋岩製の砥石である。よく使い込まれており摩耗が著しいが、図の左側面は使用されていないようである。

相模型坏の 1・2 は、田尾誠敏による相模型坏分類（田尾 2003）の a 段階ないしは b 段階に比定されようか。盤状坏の 4～6 は、形態的特徴から、盤状坏の終末期の所産と考えられる。須恵器坏は、南比企窯跡群鳩山編年の H Ⅲ 期に位置付けられる。これらの年代観は、鬼高系の甕と武蔵型甕のあり方とも符合するもので、本遺構の廃絶時期は 8 世紀初頭から中葉と考えられる。



第 238 図 SI67 出土遺物 (4)(1/3)・写真



第 239 図 SI67 出土遺物 (5)(1/3)・写真

第 37 表 SI67 出土土器観察表 (1)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 232 ・ 233 図	1	SI67	土師器 坏	[13.4] (3.8) [8.9]		口縁内面から体上部外面は横位のナデ、体下部外面は横位のヘラケズリ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR6/4 にぶい橙 内面 5YR6/6 橙	口縁～体部 1/2	重量 50.5g 相模型坏 内面に灯油芯痕。 第 232・233 図 1・2 は同一個体。
	2	SI67	土師器 坏	(2.6) 13.4	体部は底部から直線的に開く。底部は弧状を呈する。	外面のうち、体部は縦位のミガキ、底部はミガキ。内面のうち、底部は放射状のミガキ、体部と底部の境は横位のミガキ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	5YR5/7 明赤褐	底部 3/4	重量 156.1g
	3	SI67	土師器 盤状坏	[14.2] 3.9 [9.3]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は手持ちヘラケズリ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR6/4 にぶい橙 内面 10YR6.5/4 にぶい黄橙	口縁部 1/6 底部 1/4	重量 29.0g 口縁部内面から体部外面にかけて赤彩。
	4	SI67	土師器 盤状坏	(0.8) [9.7]		ロクロ成形。 底部は回転系切り後、手持ちヘラケズリか。	砂粒、角閃石	良好	外面 5YR6.5/6 橙 内面 7.5YR7/4	底部 1/3	重量 37.7g 外面赤彩の可能性あり。
	5	SI67・ 29P-85	土師器 盤状坏	(1.2) [10.9]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転ヘラケズリ。	砂粒	良好	5YR4/6 赤褐	底部 1/4	重量 24.3g 内外面に赤彩。
	6	SI67	須恵器 坏	[15.7] 3.0 [8.6]	体部は底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 体部下端にヘラケズリ。底部は回転系切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒	軟質	7.5YR7/5 にぶい橙	口縁部 1/12 底部 1/2	重量 61.3g 南多摩窯
	7	SI67	須恵器 坏	(2.1) 8.0	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 体部下端にヘラケズリ。底部は回転系切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、白色粒子	良好	外面 5Y5/1 灰 内面 N5.5/ 灰	底部完形	重量 95.3g 東金子窯
	8	SI67	須恵器 坏	(1.7) 8.3	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、海綿骨針	良好	N5/ 灰	底部完形	重量 96.8g 底部内面に研磨痕、転用硯。南比企窯
第 234 ・ 235 図	9	SI67・ 29P-92	土師器 甕	[22.1] (19.9) 胴部最大径 [21.1]	口縁部は緩やかに外反し、頸部から口縁部が肥厚する。胴部最大径は上部にある。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は縦位のヘラケズリ、胴中央部外面は横位のヘラケズリ。内面は横位と斜位のヘラナデ。	小礫、砂粒、赤褐色粒子	良好	5YR5/6 明赤褐・7.5YR6/4 にぶい橙	口縁～胴部 1/3	重量 539.5g 鬼高系
	10	SI67	土師器 甕	[22.1] (10.0)	口縁部は緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は縦位のヘラケズリ。内面は横位のナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR6.5/6 橙 内面 5YR7/6 橙	口縁部 1/6	重量 154.7g 鬼高系
	11	SI67	土師器 甕	[19.7] (8.2)	頸部は強く屈曲し、口縁部は折れ曲がるように開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は縦位と斜位のヘラケズリ。内面は斜位のナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	5YR6/3.5 にぶい橙	口縁部 1/4	重量 110.5g 鬼高系

第 37 表 SI67 出土土器観察表 (2)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 234 ・ 235 図	12	SI67	土師器 甕	[14.9] (5.3)	頸部から口縁部にかけて緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴部の調整は不明瞭。 内面はヘラナデ。	砂粒	良好	外面 7.5YR4/3 褐 内面 10YR3/3 暗褐・ 7.5YR5/4 にぶい褐	口縁～胴部 1/3	重量 89.3g 胴部外面に煤付着。 鬼高系
	13	SI67・ 29P-74・ 85	土師器 甕	(6.0) [8.3]	胴部は底部から直線的に開く。	外面のうち、胴下部は横位のヘラケズリ、底部はヘラケズリとナデ。 内面はヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR6/4 にぶい橙 内面 10YR3/1.5 黒褐	底部 1/4	重量 74.1g 鬼高系
	14	SI67・ 29P-85	土師器 甕	(3.0) [8.9]	胴部は底部から直線的に開く。	胴下部外面は横位のヘラケズリ。 内面は横位のヘラナデ。	砂粒、角閃石、金雲母	良好	外面 10YR5/4 鈍い黄褐 内面 5YR6/6 橙	底部 1/3	重量 42.6g 鬼高系
	15	SI67	土師器 甕	(17.2) [9.7]	胴部は底部からやや膨らみながら直立気味に立ち上がる。	外面のうち、胴中央部は縦位のヘラケズリ、胴下部は斜位のヘラケズリ、底部はヘラケズリ。 内面はヘラナデ。	砂粒、角閃石、赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR6/4 にぶい橙 内面 10YR7/3 にぶい黄橙	胴～底部 1/4	重量 283.7g 鬼高系
	16	SI67・ 29P-75・ 85・96	土師器 甕	22.1 (20.8) 胴部最大径 [31.6]	口縁部は短く外反する。丸胴形。胴部最大径は上部にある。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴部は縦位のヘラナデ、一部にヘラナデ状の痕跡。 内面は横位のヘラナデ。	小礫、砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR7/5 橙 内面 5YR6.5/6 橙	口縁～胴部 2/3	重量 710.0g 鬼高系
	17	SI67・ 29P-85	土師器 甕	[20.9] (7.8)	口縁部は緩やかに外反して開く。丸胴形。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は縦位のヘラケズリ。 内面は横位のヘラナデ主体。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR7/6 橙 内面 10YR7/4 にぶい黄橙	口縁～胴部 1/3	重量 194.9g 鬼高系
第 236 ・ 237 図	18	SI67・ 29P-85	土師器 甕	22.5 (23.0) 胴部最大径 21.2	口縁部は緩やかに外反して開く。胴部最大径は上部にある。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ、胴中央部から下部は縦位から斜位のヘラケズリ。 内面は横位のヘラナデ。	小礫、砂粒、赤褐色粒子	良好	5YR5/6 明赤褐	口縁～頸部 1/2 胴部 2/3	重量 538.7g 武蔵型甕
	19	SI67・ 29P-85	土師器 甕	[22.3] (11.6) 胴部最大径 (23.1)	口縁部は緩やかに外反して開く。胴部最大径は上部にある。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ、胴中央部は縦位のヘラケズリ。 内面は横位のヘラナデ。	小礫、砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 5YR5/5 にぶい赤褐 内面 7.5YR5/4 にぶい褐	口縁～胴部 1/6	重量 68.4g 武蔵型甕
	20	SI67	土師器 甕	[22.1] (5.4)	口縁部は緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、頸部は横位のヘラケズリ。 内面はヘラナデ。	小礫、砂粒	良好	5YR5/8 明赤褐	口縁部 1/4	重量 85.4g 武蔵型甕
	21	SI67	土師器 甕	[22.8] (8.4)	口縁部は緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ。 内面はヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	5YR6/7 橙	口縁～胴部 1/4	重量 81.0g 武蔵型甕
	22	SI67	土師器 甕	[24.3] (6.3)	口縁部は緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ。 内面はヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	5YR5/7 明赤褐	口縁部 1/6	重量 64.8g 武蔵型甕
	23	SI67	土師器 甕	[24.5] (6.2)	口縁部は緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ。 内面は横位のヘラナデ。	砂粒	良好	外面 7.5YR6/6 橙 内面 5YR5/8 明赤褐	口縁部 1/6	重量 48.3g 武蔵型甕
	24	SI67	土師器 甕	(10.8) 5.6	胴部は底部から内湾気味に開く。	外面のうち、胴下部は縦位のヘラケズリ、底部はヘラケズリ。 内面はヘラナデ。	砂粒、角閃石	良好	10YR3/1 黒褐・5YR4/4 にぶい赤褐	胴～底部 2/3	重量 155.5g 武蔵型甕
第 238 図	25	SI67	土師器 甕		胴部に扁平な把手が付く。	胴部外面は縦位のヘラケズリ主体、突起と胴部との接合部はヘラナデ。 内面は不明。	砂粒、赤褐色粒子	良好	5YR7/5 橙	胴部破片	重量 81.6g 第 238 図 26・28 は同一個体。
	26	SI67	土師器 甕	(6.5) [10.8]	胴部は底部から直線的に開く。底部は単孔。	胴下部外面は横位のヘラケズリ。 内面のうち、胴部は横位のヘラナデ、底部穿孔部は横位のヘラケズリ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 10YR7/4 にぶい黄橙 内面 7.5YR7/4 にぶい橙	底部 1/4	重量 42.9g

第 37 表 SI67 出土土器観察表 (3)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 238 図	27	SI67	土師器 甕	(9.1) [11.5]	胴部は底部から直線的に開く。底部は単孔。	胴下部外面は横位のヘラケズリ。 内面のうち胴部はヘラナデ、底部穿孔部内面は横位のヘラケズリ。	小礫、砂粒、赤褐色粒子	良好	7.5YR7/5 橙	胴～底部破片	重量 139.5g 第 238 図 26・28 は同一個体。
	28	SI67・ 29P-85	土師器 鉢	19.9 (12.6) [11.9]	体部は底部から内湾して開き、口縁部は短く外反する。	外面のうち、口縁部はナデ、体上部は縦位のヘラケズリ主体、体下部から底部は横位のヘラケズリ主体。 内面は横位のヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 10YR6/4 にぶい黄橙 内面 10YR4.5/3 にぶい黄褐	口縁～体部 3/4	重量 531.2g

第 38 表 SI67 出土石製品観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	器種	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	残存	石材	備考
第 239 図	29	SI67	砥石	(5.9)	(3.5)	(1.4)	35.1g	約 1/2	流紋岩	左側面には使用痕なし。

SI68 (第 240～246 図、第 39・40・45 表)

遺構 本遺構は 2-6 東区の 29P-69 グリッドに所在し、Ⅲ 2 層上面で検出した。カマド南側を近世以降の農事関連遺構群のひとつである SKK1353 に切られ、建物の南壁の一部を古代末～中世の SK232 と SP951 に切られる。

平面プランは隅丸長方形で、長軸（東西）382cm、短軸（南北）290cm の規模である。検出面から床面までの深さは 30～35cm を測る。主軸は N-85°-E を指す。

床面までの覆土は 11 層に分層した。大別すると、遺構全体に堆積した 1～5 層、カマドから流出し堆積した 6・9・10 層、壁際のいわゆる三角堆積である 7・8 層である。1～5 層の色調は黒あるいは黒褐で、主体となるのはⅡ層である。本遺構廃絶時にカマドにはある程度の粘土が残っていたようで、カマドから流れ出した層位には粘土が斑状に混在したり、粒子状の粘土が含まれたりする様相が認められた。各覆土の様相から、これらはいずれも自然堆積と考えられる。

本遺構の床面は貼床で、黒褐色土を主体としてⅢ 2 層やⅤ層が混在する土が用いられている。壁溝は東壁から北壁、西壁へと続くが、南壁では検出できなかった。床面はカマド前と SK232 を除く範囲がやや硬化していた。床面で検出したのは壁溝のみで、柱穴等は確認できなかった。建物の掘方は、深いところではⅤ層に達するが、浅いところではⅢ 3 層からⅣ層辺りで止まっていた。掘方充填土は 14～18 層で、黒褐色土主体で、地山であるⅢ 3 層やⅣ層、ローム層が混在していた。

本遺構に伴うカマドは、東壁の中央よりやや南寄りに設けられていた。冒頭で述べたとおり、カマドの一部を SKK1353 に壊されているが、カマドの上部が少し削平された程度であった。カマドの輪郭を検出している際に、完形の須恵器蓋が内面を上に向けた状態で出土した（第 244 図 1・2）。本遺構の出土遺物のうち、完形の土器はこの蓋のみであり、単なる廃棄とは考え難い。

カマドは小規模な造りで、東壁を「U」字形に掘り込み、構築材として砂質粘土が用いられている。カマドに設定した C-C' では、カマド天井部が崩れ堆積したと考えられる層（5 層）があることから、本遺構廃絶時にカマドは天井部がある状態で、その後、天井部が崩落し、建物とともに全体が埋没し

たと推察される。建物の壁よりも外側、カマドの奥壁部分には純度の高い砂質粘土が使用された一方で、建物の内側にある両袖部には黒褐色土等が多く混在する砂質粘土が使われていた。両者の砂質粘土の違いは一目瞭然で、両袖部の砂質粘土は再利用したものであることが窺える。この砂質粘土は不純物が多いせいか、乾燥すると亀裂が入りやすいという特徴が見られた。第 244 図 5 では、カマド左袖と奥壁との間に凹みが生じている。これは、左袖部に用いられた砂質粘土にあまりにも黒褐色土が多く混在していたため、本来の左袖部分を認識できなかったことに起因する。

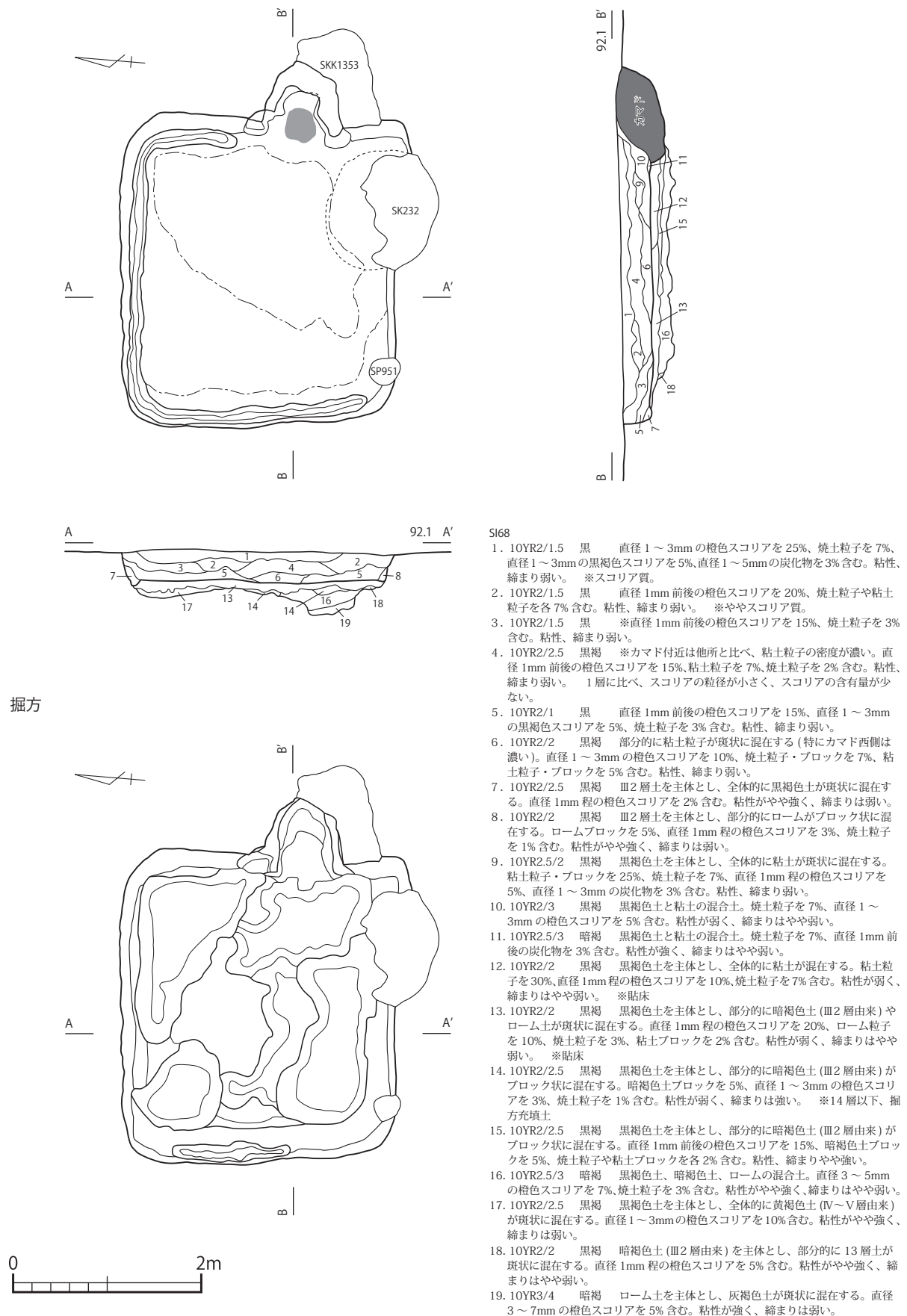
カマド火床面は床面と同じ高さで検出した。火床部は両袖間の中央にあり、焼土が顕著に認められた。カマド掘方の調査では、掘方充填土に粘土や焼土が多く混在する状況が認められた。土層を観察した際に、ただ混在するというよりも、よく混ぜられている印象を持った。両袖部の砂質粘土が再利用されていることを考え合わせると、同じ位置でカマドの造り替えを行っている可能性が高い。

建物の掘方を調査している際に、建物の西壁から南壁にかけての範囲がテラス状に掘り残されていることが判明した。これは土層断面 A-A'・B-B' にもよく表れており、A-A' では 16 層が落ち込んだところに堆積し、B-B' では 16 層から一段低くなっている。こうした状況から、少なくとも 1 度の拡張が行われたと推察される。西壁から南壁に残るテラス状の内側部分が拡張前の建物の範囲で、拡張を経て、検出した規模の平面プランになったと考えられる。

第 242 図に示した遺物分布図を見ると、建物の西側にやや集中する状況があるものの、建物全体から遺物が出土したことが読み取れる。建物掘方からの出土遺物が少ない点は、本遺構の特徴のひとつではないだろうか。出土遺物は破片の状態が大部分を占めるが、先述のとおり、カマド上部から完形の須恵器蓋が出土している。出土状況から、本遺構埋没過程で何らかの意図を持ってその場所に置いた可能性が考えられる。なお、須恵器蓋に関しては、SI64 において床面直上から完形の須恵器蓋が正位置で出土したほか、SI72 においてもカマド脇から内面を上にした状態で須恵器蓋が出土している。いずれも須恵器蓋という共通項があり、何かしらの関連性を窺わせる。

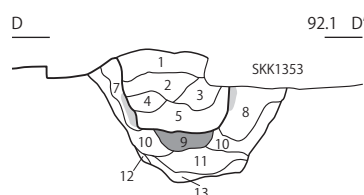
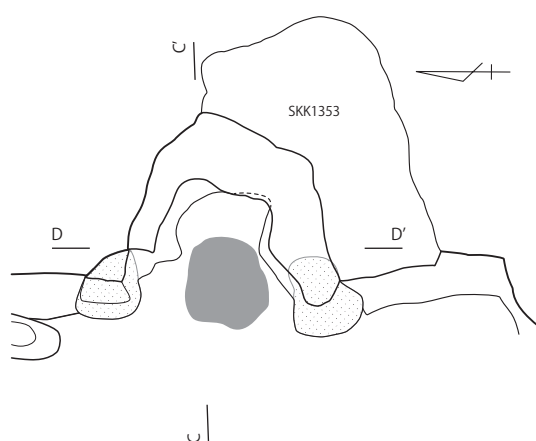
遺物 本遺構からは、総点数 183 点、総重量 4,243g が出土した。種別・器種ごとの内訳は、古代の土師器 129 点 581g（坏 14 点 88g、甕 114 点 483.3g、台付甕 1 点 9.4g）、古代の須恵器 24 点 265.1g（坏 18 点 127.9g、蓋 6 点 137.2g）、古代の石製品（砥石）1 点 199.4g、焼成粘土塊 3 点 33.5g、縄文土器 2 点 21.9g（加曾利 E3 式 1 点 12.7g、曾利式古手 1 点 9.2g）、弥生時代後期～古墳時代前期の土器（壺）1 点 1.4g、被熱礫を含む礫 23 点 3,140.7g である。出土遺物のうち、縄文時代と弥生時代後期～古墳時代前期の土器は混入品と考えられる。古代の土師器や須恵器、石製品のうち、8 点の図化を行った。

第 246 図 1 は土師器坏で、南武蔵型坏である。体部は底部から直線的に開き、口縁部は緩やかに外反する器形である。体部外面には指おさえの痕跡が残る。2～4 は須恵器坏である。2 の底部調整は回転糸切り後、手持ちヘラケズリ、4 は回転糸切り後、外周に回転ヘラケズリを施す。4 の体下部、底部付近にはナデが一周する。2・4 は東金子窯、3 は海綿骨針を含むことから南比企窯の製品である。5・6 は須恵器蓋である。5 は完形で、扁平な宝珠形のつまみが付く直径 12.5cm の小形の蓋である。胎土に海綿骨針を含む。6 は口縁部の破片で、復元値では 5 よりも直径が大きいと想定される。いずれも口縁端部は短く屈曲する。5 は南比企窯、6 は東金子窯の製品である。7 は土師器甕である。胴下部から底部にかけての破片で、胴部外面には爆ぜた痕跡が目立つ。

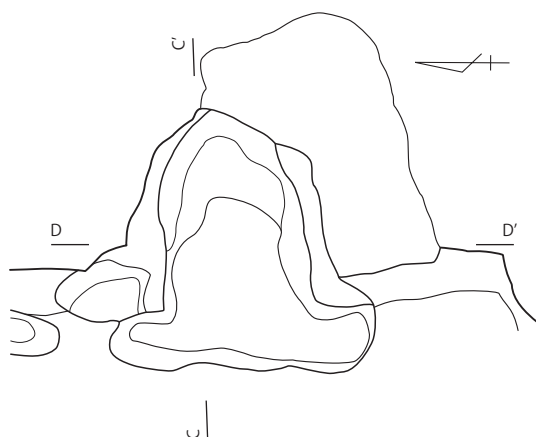


第240図 SI68(1)(1/60)

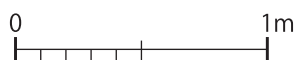
カマド



掘方



凡 例
 被熱・赤化範囲
 火床部
 再利用粘土



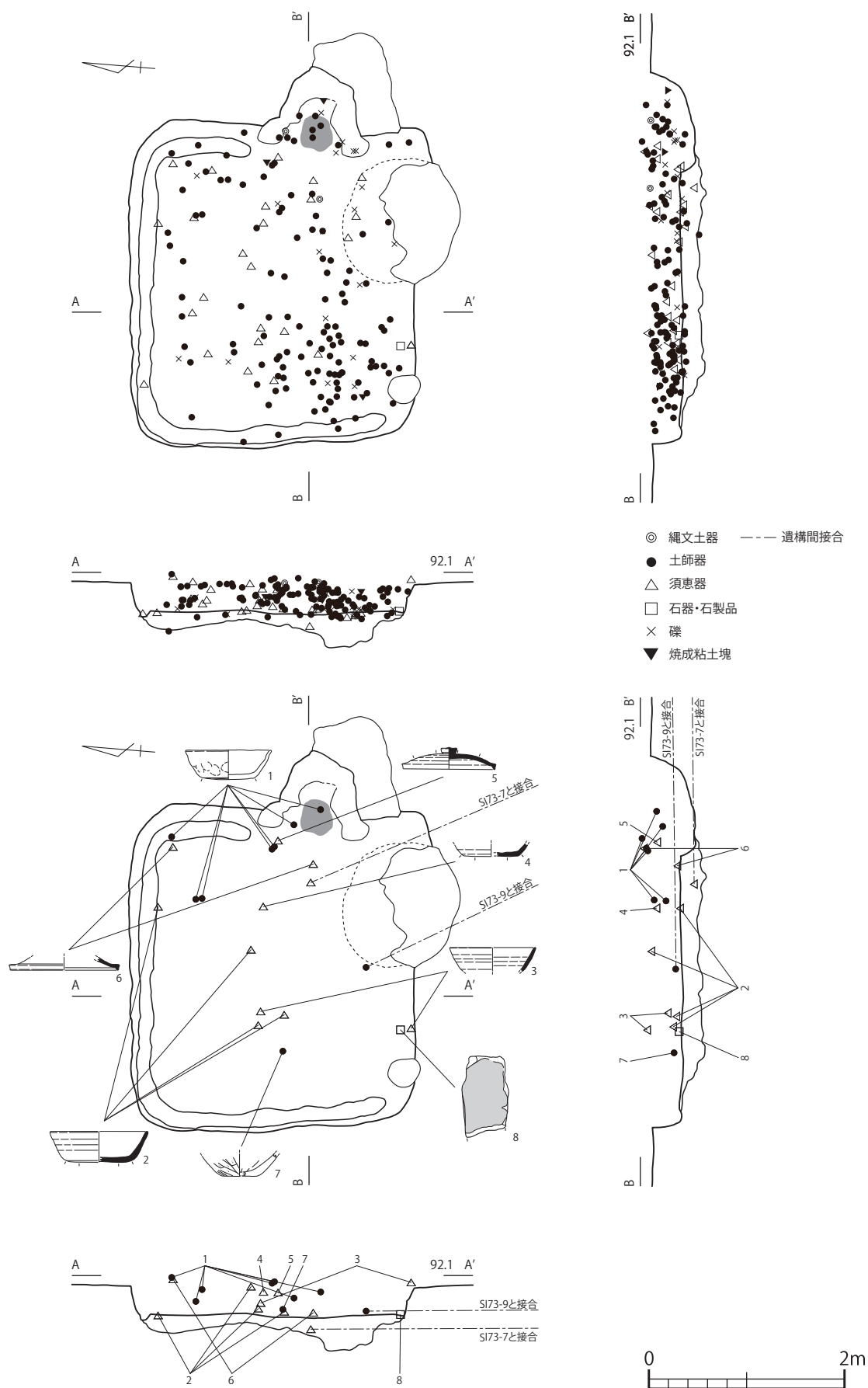
カマド

- 10YR2.5/3 暗褐 黒褐色土を主体とし、全体的に粘土が斑状に混在する。粘土粒子・ブロックを20%、直径1mm程の橙色スコリア10%、焼土粒子を7%、直径3～5mmの炭化物を3%含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。
- 10YR2/3 黒褐 黒褐色土を主体とし、全体的に焼土や粘土が混在する。焼土粒子・ブロックを15%、粘土粒子・ブロックを10%、直径1mm程の橙色スコリア7%、直径3～5mmの炭化物を5%含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。
- 10YR2/2 黒褐 黒褐色土を主体とし、部分的に粘土が斑状に混在する。粘土粒子を10%、焼土粒子を7%、直径1～3mmの橙色スコリア3%、直径1～3mmの炭化物を2%含む。粘性、締まり弱い。
- 7.5YR3/4 暗褐 粘土を主体とし、全体的に焼土が混在する。焼土粒子・ブロックを25%、直径3～5mmの炭化物を3%含む。粘性がやや弱く、締まりは弱い。
- 10YR3/3 暗褐 粘土を主体とし、部分的に黒褐色土が斑状に混在する。焼土粒子・ブロックを20%、直径3～5mmの炭化物を3%含む。粘性が強く、締まりは弱い。
- 10YR3/3 暗褐 粘土を主体とし、全体的に黒褐色土が斑状に混在する。焼土粒子を10%、直径1～3mmの炭化物を3%含む。粘性、締まり弱い。 ※5層と近似するが、焼土の含有量に違いがある。
- 10YR3/3 暗褐 粘土を主体とし、部分的に黒褐色土が斑状に混在する。焼土粒子を5%、直径3mm前後の炭化物を3%含む。粘性、締まりやや弱い。 ※カマド内側が被熱、赤化している。カマド構築土
- 10YR4/3 にぶい黄褐 粘土主体。焼土粒子・ブロックを10%含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。 ※カマド内側が被熱、赤化している。カマド構築土
- 10YR3/4 暗褐 灰褐色土を主体とし、全体的に焼土が混在する。焼土粒子・ブロックを20%、粘土ブロックを5%、直径3～5mmの炭化物を2%、小礫を1%含む。粘性がやや強く、締まりは弱い。 ※カマド火床部
- 10YR4/3 にぶい黄褐 黒褐色土と粘土の混合土。焼土粒子を7%含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。 ※10～15層はカマド掘方充填土
- 10YR3/3.5 暗褐 黒褐色土と粘土の混合土。焼土粒子・ブロックを15%、直径3～5mmの炭化物を5%含む。粘性が強く、締まりは弱い。
- 10YR2.5/3 暗褐 III層土を主体とし、全体的に粘土が混在する。粘土粒子を7%、焼土粒子を3%含む。粘性がやや強く、締まりはやや弱い。
- 10YR3/3 暗褐 IV層土を主体とし、全体的にIII層土が斑状に混在する。焼土粒子を5%含む。粘性が強く、締まりはやや弱い。
- 10YR2.5/2 黒褐 黒褐色土を主体とし、全体的に粘土が混在する。粘土粒子30%、焼土粒子を10%、直径3mm前後の炭化物を3%含む。粘性、締まりやや弱い。
- 10YR3/3 暗褐 粘土を主体とし、全体的に黒褐色土が斑状に混在する。焼土粒子を7%、粘土ブロックを5%、直径5mm前後の炭化物を3%含む。粘性、締まり弱い。 ※11層と近似する。

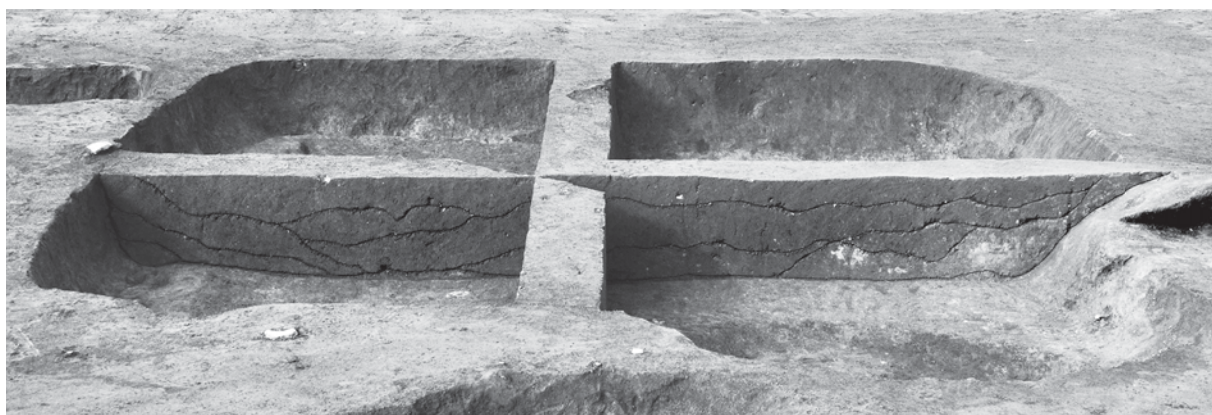
第241図 SI68(2) カマド (1/30)

南武蔵型坏の1は、法量や調整から鶴間正昭による編年の第4段階に位置付けられる。一方、須恵器では2が南比企窯跡群鳩山編年のHⅢ期末、5が同HⅣ期に比定される。出土状況を見ると、1・5はカマド上部の覆土中から出土し、2は床面直上から出土している。こうした遺物の年代観から、本遺構の廃絶時期は8世紀後半と判断した。

(小西)



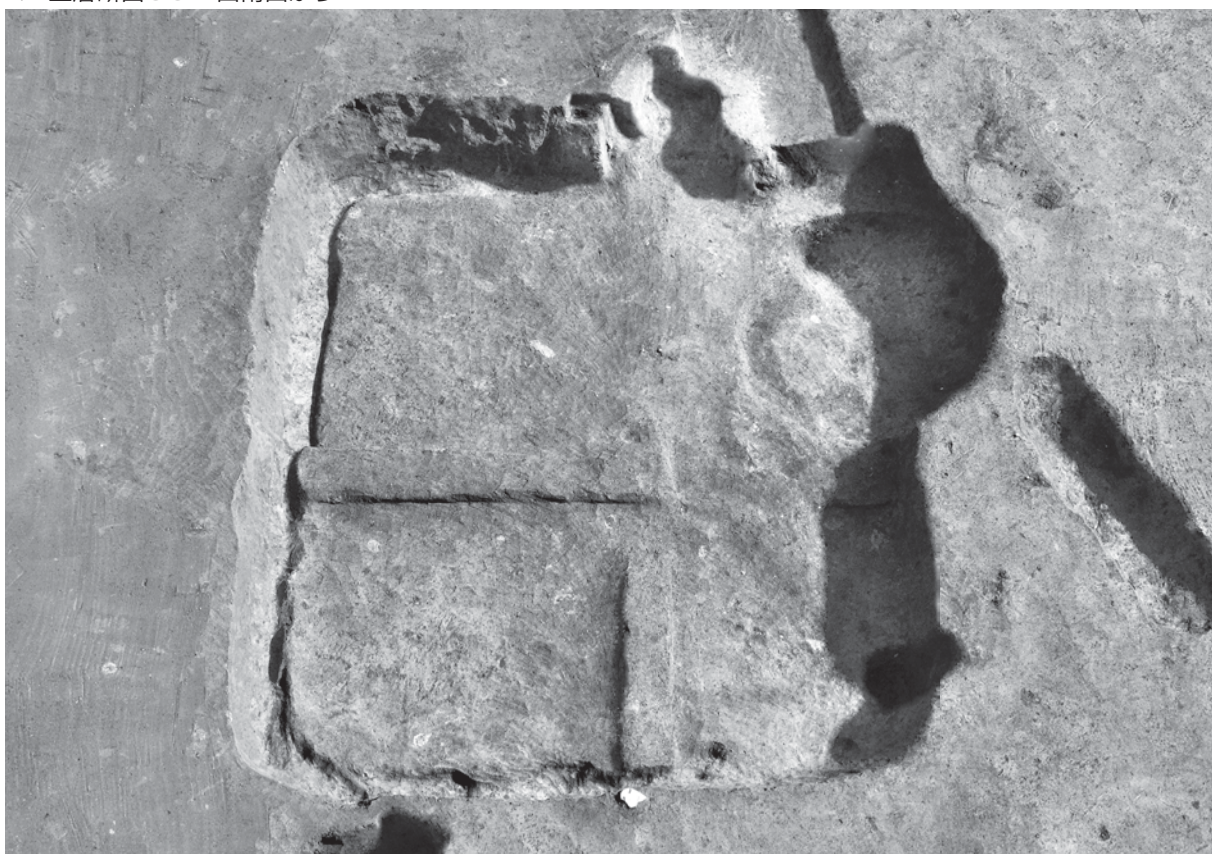
第 242 図 SI68(3) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. 土層断面 A-A' 南南東から



2. 土層断面 B-B' 西南西から



3. 床面全景 西南西から



1. カマド付近須恵器蓋出土状況 西北西から



2. カマド付近出土須恵器蓋 西北西から



3. カマド土層断面 D-D' 西から



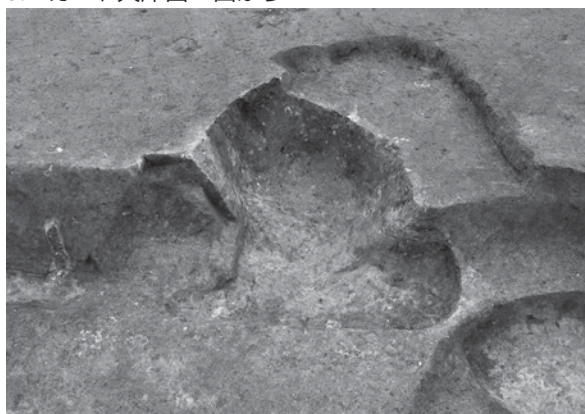
4. カマド土層断面 C-C' 南南西から



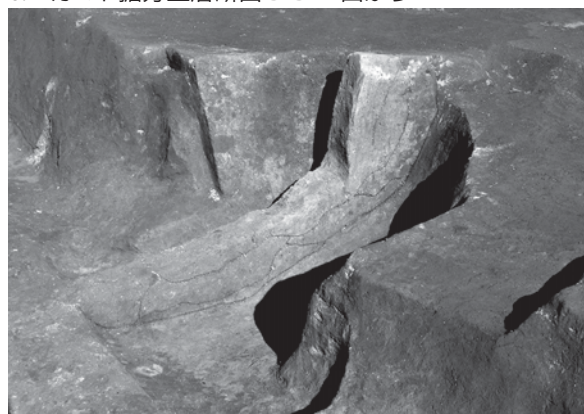
5. カマド火床面 西から



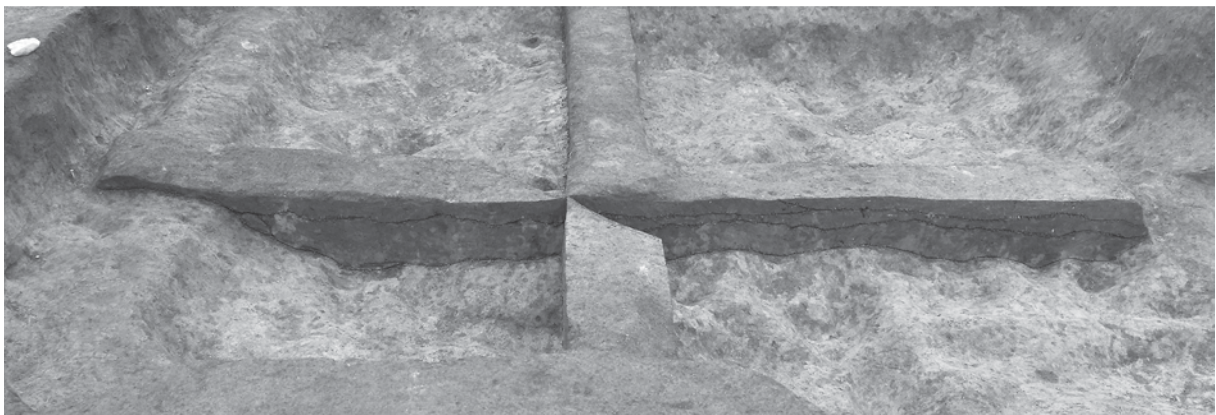
6. カマド掘方土層断面 D-D' 西から



7. カマド掘方 西から



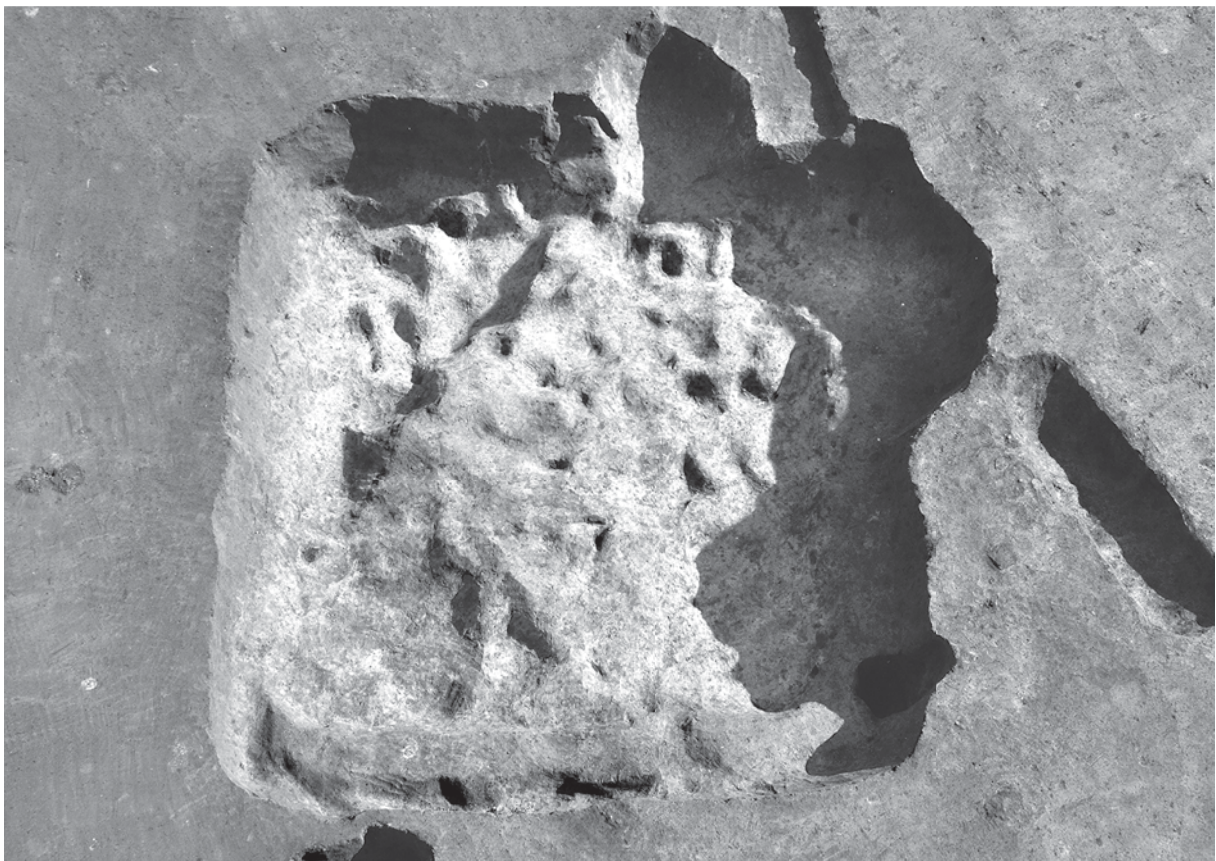
8. カマド掘方土層断面 C-C' 南南西から



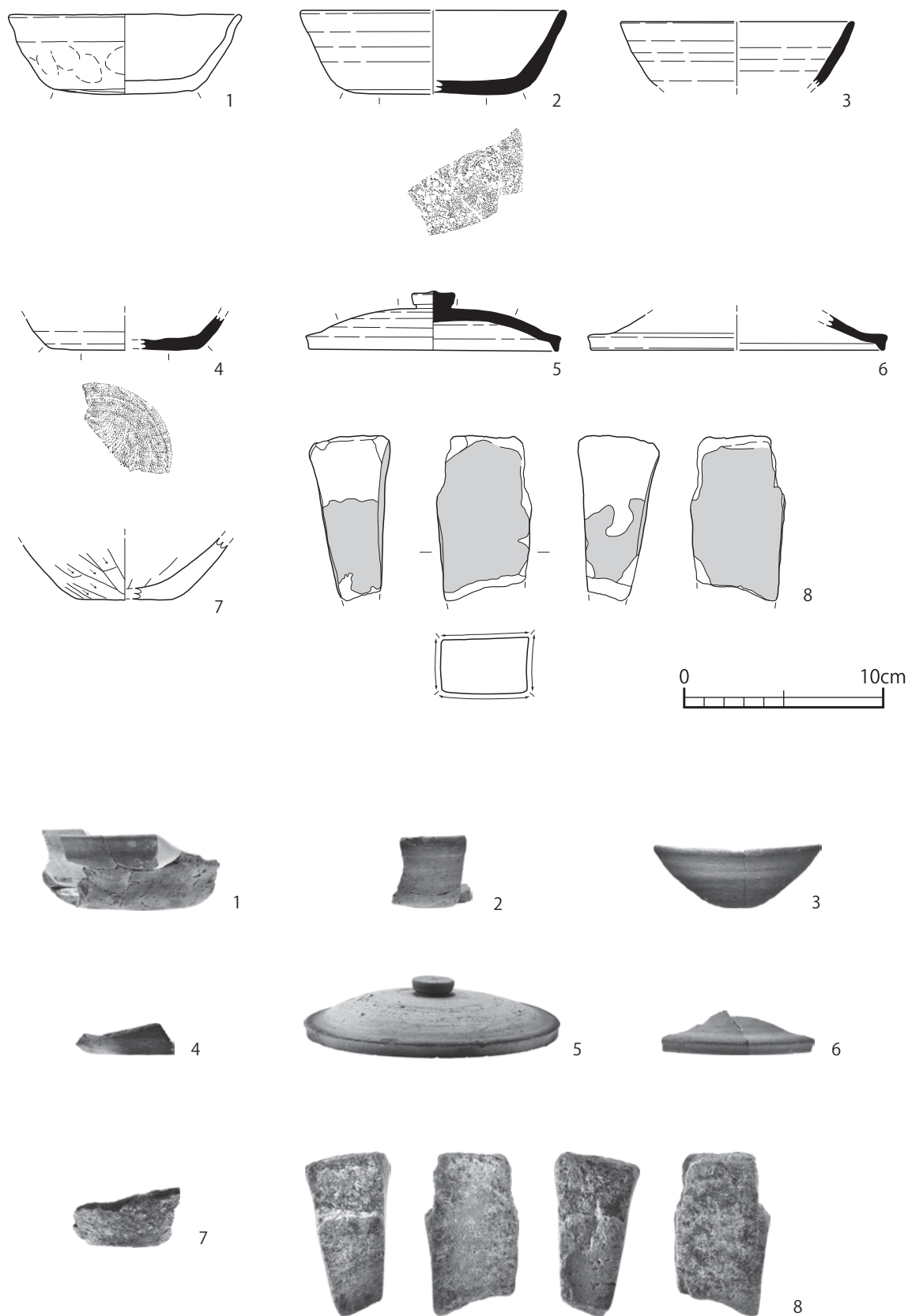
1. 掘方土層断面 A-A' 南南東から



2. 掘方土層断面 B-B' 西南西から



3. 掘方全景 南西から



第 246 図 SI68 出土遺物 (1/3) ・写真

第 39 表 SI68 出土土器観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 246 図	1	SI68・ 29P-69	土師器 坏	[11.5] 4.0 [7.1]	体部は底部から直線的に開き、口縁部は緩やかに外反する。底部はわずかに弧状を呈する。	口縁部外面はナデ、体下部外面は指おさえ、内面はナデ、底部はヘラケズリ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	5YR6.5/6 橙	口縁部 1/4 底部 1/2	重量 63.2g 南武蔵型坏
	2	SI68	須恵器 坏	[13.1] 4.2 [8.9]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は糸切り後、手持ちヘラケズリ。	砂粒	軟質	2.5Y6/2 灰黄	口縁部 1/10 以下 底部 1/8	重量 30.8g 東金子窯
	3	SI68	須恵器 坏	[11.5] (3.3)	体部は直線的に開く。	ロクロ成形。	砂粒、白色粒子	良好	2.5Y4/1 黄灰	口縁部 1/4	重量 16.2g 南比企窯
	4	SI68	須恵器 坏	(1.6) [7.5]	体部は底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、石英	良好	外面 7.5YR5/4 に近い褐色 内面 10YR3/2 黒褐	底部 1/3	重量 20.7g 東金子窯
	5	SI68	須恵器 蓋	12.5 2.9	扁平宝珠形のつまみ。口縁部は短く屈曲する。	ロクロ成形。 天井部は回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、石英、海綿骨針	良好	N5.5/ 灰	完形	重量 120.5g 南比企窯
	6	SI68	須恵器 蓋	[14.6] (1.8)	口縁部は短く屈曲する。	ロクロ成形。	砂粒、白色粒子	良好	5Y5.5/1 灰	口縁部 1/6	重量 12.9g 東金子窯
	7	SI68	土師器 甕	(2.7) [4.9]	胴部は底部から直線的に開く。	胴下部外面は縦位のヘラケズリ、内面はヘラナデ。	砂粒	良好	外面 10YR3/2 黒褐 内面 5YR5/6 明赤褐	底部 1/4	重量 26.2g 胴部外面に爆ぜた痕跡。

第 40 表 SI68 出土石製品観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	器種	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	残存	石材	備考
第 246 図	8	SI68	砥石	(8.2)	(4.7)	(2.7)	199.4g	約 1/2	流紋岩	

SI69 (第 247 ～ 264 図、第 41・42・45 表)

遺構 2-6 西区中央部付近の 28Q-17・27 グリッドに位置する。Ⅲ1 層上で検出を試みたが、プランが不明確であったため、結果的に、土層観察用ベルトの設定が斜めになってしまった。他の遺構との切り合いは無いが、カマドの一部が攪乱により壊されている。

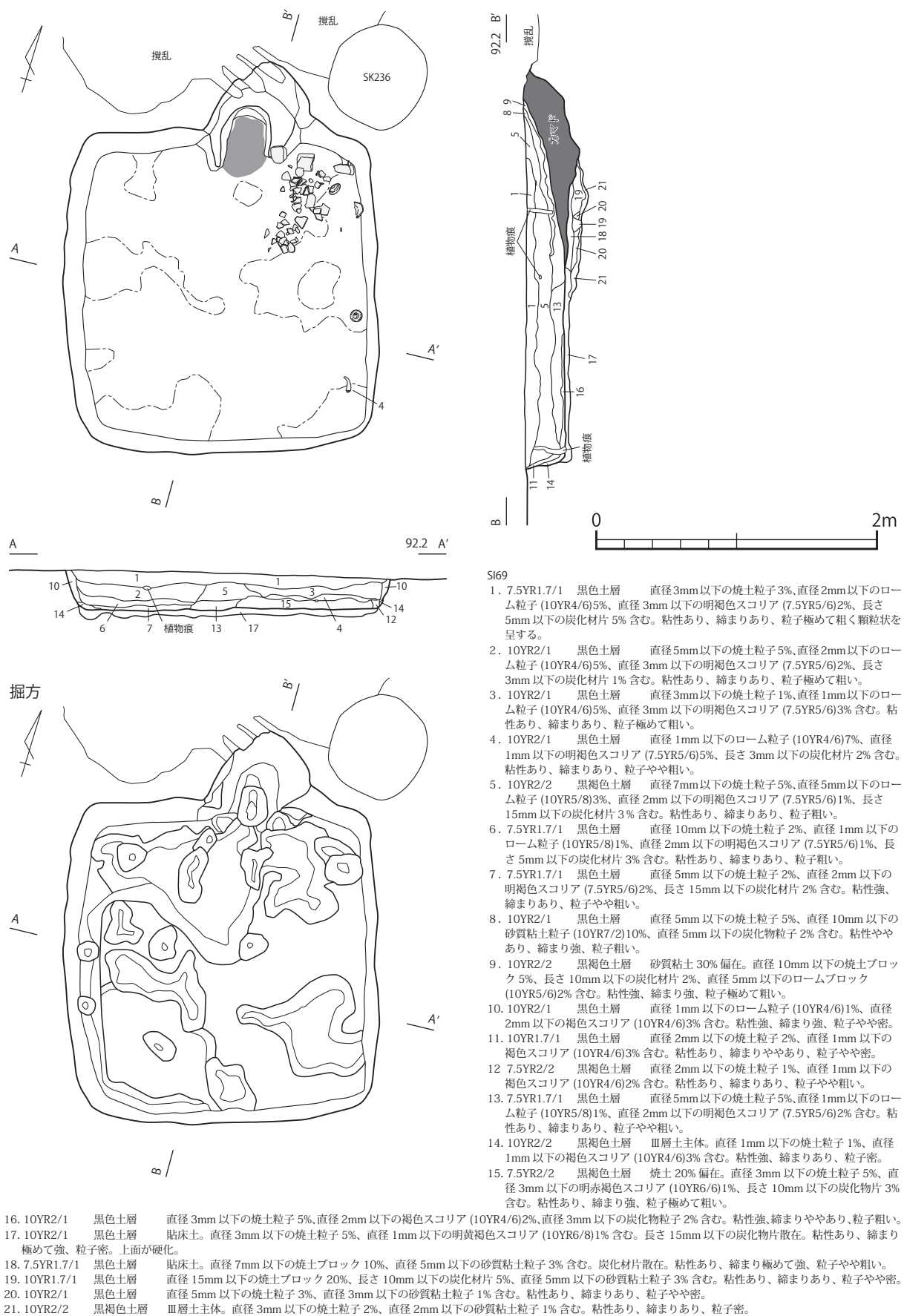
平面形態は隅丸方形で、東西 338cm、南北 520cm、検出面から床面までの深さは 46cm を測る。壁はやや開きながら立ち上がっている。主軸方向は N-17°-W を指す。

床面は貼床で、平坦である。床面の硬化は広い範囲で確認されたが、南東部を除き全体的に弱い。壁溝、支柱穴等は確認されなかった。カマドは北壁の中央やや東寄りに構築されている。

床面までの覆土は 16 層に分けられる。ほぼ全ての層に焼土粒子、多くの層に炭化材片が含まれており、特に床面直上の 15 層は焼土の混入割合が高い。この 15 層に相当する焼土を多く含む土壌は、床面の東半分、特に南東隅から東壁際で顕著に検出された。また、覆土は全般的に粒子が粗く、特に最上層の 1 層は顆粒状を呈している。その他、カマド付近の上部付近にある 8・9 層は砂質粘土の混入が認められた。

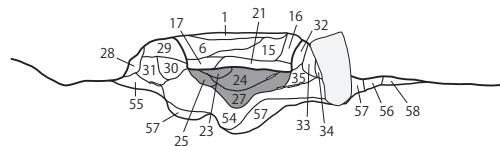
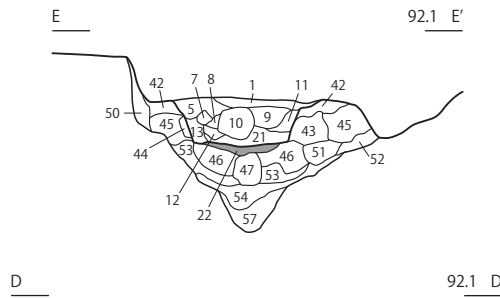
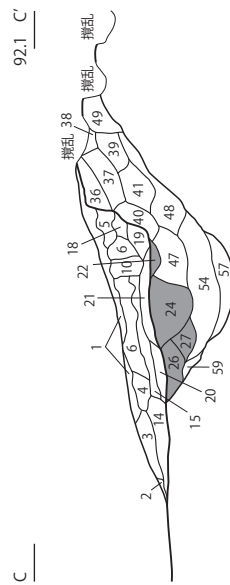
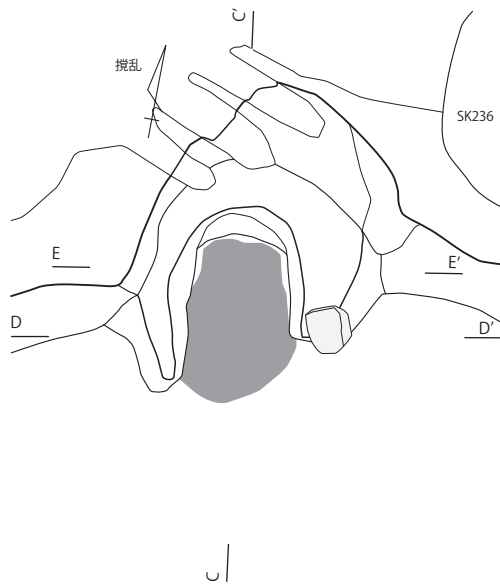
掘方の掘り込みはⅢ3 層までで全体的に浅いが、カマドの前面や西壁沿い等、一部が若干深くなっている。掘方の土層は 5 層に分けられる。主に黒色土が主体で、各層とも焼土のブロックや砂質粘土粒子、炭化材片が含まれる。ローム粒子の混入は認められない。

カマドは 1 基で、北壁中央部のやや東寄りを U 字状に掘り込んで構築されていた。一部を除き、

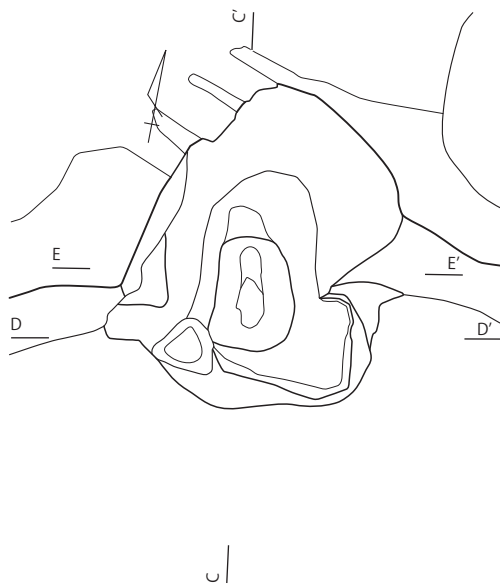


第247図 SI69(1)(1/60)

カマド



掘方

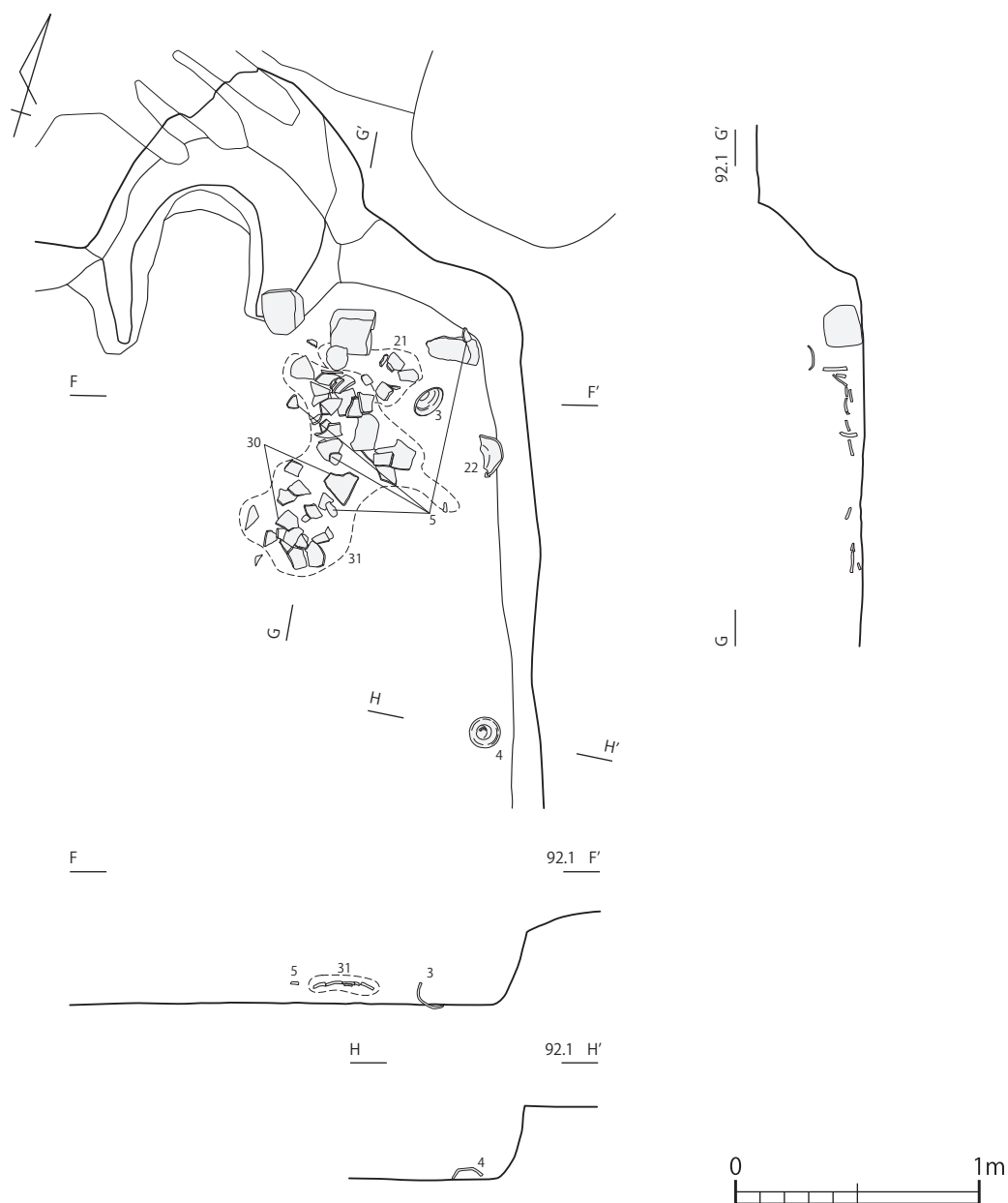


第 248 図 SI69(2) カマド (1/30)

カマド

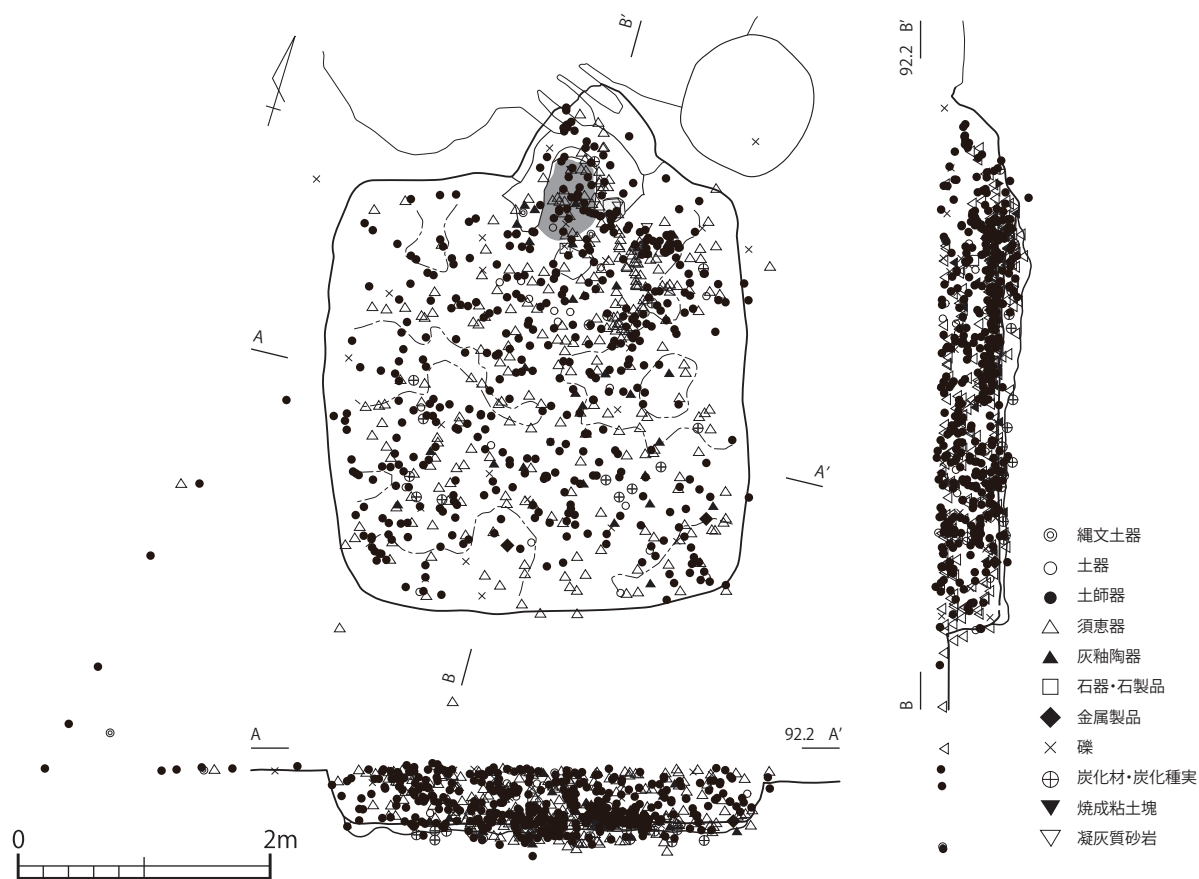
1.	10YR3/3	暗褐色土層	砂質粘土主体。黒褐色土(10YR2/2)斑文状に30%含む。直径3mm以下の焼土粒子2%、直径2mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
2.	10YR2/2	黒褐色土層	砂質粘土10%混在。直径7mm以下の焼土ブロック3%、直径2mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
3.	7.5YR3/3	暗褐色土層	砂質粘土40%混在。直径7mm以下の焼土ブロック7%、直径10mm以下の黒色土ブロック(2.5Y2/1)3%、直径3mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
4.	10YR4/3	にぶい黄褐色土層	砂質粘土主体。直径1mm以下の焼土ブロック2%、直径3mm以下の黒色土ブロック(2.5Y2/1)2%、直径1mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
5.	10YR5/4	にぶい黄褐色土層	砂質粘土層。直径5mm以下の焼土粒子2%含む。粘性強、締まり強、粒子密。
6.	10YR3/4	暗褐色土層	砂質粘土主体。黒褐色土(10YR2/2)5%偏在。直径3mm以下の焼土粒子1%、直径2mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
7.	7.5YR2/3	極暗褐色土層	直径5mm以下の焼土粒子5%、直径3mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや密。
8.	10YR3/2	黒褐色土層	砂質粘土10%含む。直径7mm以下の焼土粒子5%、直径2mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
9.	10YR3/3	暗褐色土層	砂質粘土主体。焼土40%含む。直径3mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性強、締まり強、粒子密だがブロック状を呈する。
10.	10YR4/3	にぶい黄褐色土層	砂質粘土主体。直径5mm以下の焼土粒子7%、直径2mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まり強、粒子密だがブロック状を呈する。
11.	7.5YR3/4	暗褐色土層	砂質粘土・焼土混合土層。直径5mm以下の焼土粒子5%、長さ2mm以下の炭化材料1%含む。粘性極めて強、締まり強、粒子密。
12.	7.5YR2/3	極暗褐色土層	直径3mm以下の砂質粘土ブロック3%、直径10mm以下の焼土ブロック3%、長さ5mm以下の炭化材料1%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子粗い。
13.	10YR3/2	黒褐色土層	凝灰質砂岩ブロック主体。焼土20%混在。
14.	2.5Y2/1	黒色土層	直径5mm以下の焼土ブロック5%、直径10mm以下の炭化物粒子3%、直径5mm以下のロームブロック(10YR4/6)1%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。
15.	7.5YR3/3	暗褐色土層	砂質粘土主体。直径7mm以下の黒褐色土ブロック(10YR2/2)3%、直径5mm以下の焼土粒子10%、直径3mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
16.	7.5YR3/4	暗褐色土層	砂質粘土・焼土混合土層。直径3mm以下の黒褐色土粒子(10YR2/2)3%含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
17.	7.5YR3/3	暗褐色土層	砂質粘土主体。黒褐色土(10YR2/2)5%偏在。直径7mm以下の焼土粒子7%、直径2mm以下の炭化物粒子1%、直径2mm以下の凝灰質砂岩片2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
18.	10YR5/4	にぶい黄褐色土層	砂質粘土主体。直径5mm以下の焼土粒子2%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
19.	10YR3/4	暗褐色土層	直径3mm以下の焼土粒子5%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。
20.	10YR3/3	暗褐色土層	直径15mm以下の焼土ブロック10%、直径5mm以下の炭化物粒子3%、直径10mm以下の凝灰質砂岩片1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
21.	7.5YR4/4	褐色土層	焼土主体。砂質粘土30%偏在。直径5mm以下の黒褐色土粒子(10YR2/2)5%、長さ10mm以下の炭化材料1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
22.	7.5YR4/6	褐色土層	火床部。直径5mm以下の焼土粒子10%、直径3mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。やや砂質土層。
23.	7.5YR3/4	暗褐色土層	火床部。直径5mm以下の焼土粒子10%、長さ5mm以下の炭化材料2%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
24.	5YR4/6	赤褐色土層	火床部。焼土層。直径10mm以下のロームブロック(10YR5/8)5%含む。粘性あまりなし、締まりややあり、粒子極めて粗い。
25.	7.5YR3/4	暗褐色土層	火床部。焼土主体。直径5mm以下の焼土粒子15%、長さ7mm以下の炭化材料2%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
26.	7.5YR4/6	褐色土層	火床部。直径7mm以下の焼土ブロック7%、長さ5mm以下の炭化材料3%、直径3mm以下の砂質粘土粒子2%含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
27.	7.5YR4/6	褐色土層	火床部。焼土主体。直径7mm以下の焼土ブロック10%、長さ10mm以下の炭化材料1%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
28.	7.5YR3/4	暗褐色土層	直径3mm以下の黒褐色土粒子(10YR2/2)1%、直径5mm以下の焼土粒子7%、直径3mm以下の砂質粘土粒子7%、直径2mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
29.	10YR5/4	にぶい黄褐色土層	砂質粘土層。直径5mm以下の炭化物粒子5%、直径3mm以下の焼土粒子1%含む。粘性極めて強、締まり強、粒子密。
30.	7.5YR3/3	暗褐色土層	砂質粘土主体。直径5mm以下の焼土粒子7%、直径3mm以下の炭化物粒子3%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
31.	10YR3/3	暗褐色土層	砂質粘土主体。直径7mm以下の焼土粒子5%、直径3mm以下の炭化物粒子3%含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
32.	10YR3/4	暗褐色土層	直径3mm以下の黒褐色土粒子(10YR2/2)5%、直径3mm以下の焼土粒子7%、直径2mm以下の砂質粘土粒子7%、直径2mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
33.	10YR3/4	暗褐色土層	32層に似る。直径2mm以下の黒褐色土粒子(10YR2/2)2%、直径2mm以下の焼土粒子3%、直径2mm以下の砂質粘土粒子5%、直径1mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
34.	7.5YR3/3	暗褐色土層	直径1mm以下の焼土粒子2%含む。粘性極めて強、締まりあまりなし、粒子やや密。
35.	7.5YR3/3	暗褐色土層	直径15mm以下の焼土ブロック5%、直径5mm以下の黒色土粒子(10YR2/1)2%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
36.	7.5YR3/3	暗褐色土層	焼土主体。黒褐色土(10YR2/2)斑文状に10%含む。直径7mm以下の焼土ブロック10%、長さ5mm以下の炭化材料3%含む。粘性極めて強、締まりあり、粒子密。
37.	7.5YR4/6	褐色土層	砂質粘土・焼土混合土層。直径10mm以下の焼土ブロック2%、直径2mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
38.	5YR3/4	暗赤褐色土層	砂質粘土・焼土混合土層。上部に黒褐色土(10YR2/2)5%偏在。直径5mm以下の焼土ブロック3%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
39.	7.5YR3/4	暗褐色土層	砂質粘土・焼土混合土層。直径2mm以下の焼土粒子3%、直径3mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
40.	5YR4/6	赤褐色土層	焼土層。直径10mm以下のロームブロック(10YR5/8)3%含む。粘性なし、締まりややあり、粒子極めて粗い。
41.	7.5YR3/4	暗褐色土層	砂質粘土主体。焼土30%、黒褐色土(10YR2/2)斑文状に15%含む。直径5mm以下の焼土粒子3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
42.	10YR3/4	暗褐色土層	砂質粘土主体。黒褐色土(10YR3/1)30%斑文状に偏在。直径3mm以下の焼土粒子3%含む。粘性強、締まり強、粒子密。
43.	7.5YR3/3	暗褐色土層	砂質粘土主体。焼土20%偏在。直径3mm以下の焼土粒子1%、直径2mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
44.	5YR5/6	明赤褐色土層	被熱した砂質粘土層。粘性ややあり、締まり極めて強、粒子粗い。
45.	7.5YR4/3	褐色土層	砂質粘土層。黒褐色土(10YR3/1)10%混在。直径3mm以下の焼土粒子1%、直径2mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性強、締まり極めて強、粒子密。
46.	7.5YR4/6	褐色土層	直径10mm以下の焼土粒子7%、直径1mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。やや砂質土層。
47.	7.5YR3/4	暗褐色土層	直径10mm以下の凝灰質砂岩ブロック3%、直径7mm以下の焼土ブロック5%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。やや砂質土層。
48.	7.5YR2/3	極暗褐色土層	直径10mm以下の焼土ブロック7%、長さ10mm以下の炭化材料3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
49.	5YR3/6	暗赤褐色土層	被熱した砂質粘土層。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
50.	10YR2/2	黒褐色土層	砂質粘土斑文状に30%含む。直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
51.	10YR3/4	暗褐色土層	直径7mm以下の焼土ブロック10%、直径2mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
52.	10YR2/3	黒褐色土層	砂質粘土10%偏在。直径5mm以下の焼土ブロック3%、直径2mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
53.	7.5YR3/3	暗褐色土層	直径15mm以下の黒褐色土ブロック(10YR3/1)5%、直径10mm以下の焼土ブロック5%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。やや砂質土層。
54.	7.5YR2/3	極暗褐色土層	直径10mm以下の焼土ブロック10%、直径3mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや粗い。
55.	10YR3/3	暗褐色土層	直径5mm以下の焼土粒子3%、直径5mm以下の砂質粘土粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
56.	10YR3/3	暗褐色土層	直径3mm以下の焼土粒子1%、直径1mm以下の砂質粘土粒子1%含む。粘性強、締まり強、粒子密。
57.	7.5YR3/3	暗褐色土層	直径5mm以下の焼土ブロック5%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
58.	10YR3/3	暗褐色土層	直径5mm以下の焼土ブロック2%、直径10mm以下の砂質粘土ブロック10%、長さ5mm以下の炭化材料5%含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
59.	10YR2/3	黒褐色土層	直径5mm以下の焼土ブロック5%、直径3mm以下の炭化物粒子3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。

第249図 SI69(3) カマド



第 250 図 SI69(4) 遺物出土状況図 (1/30)

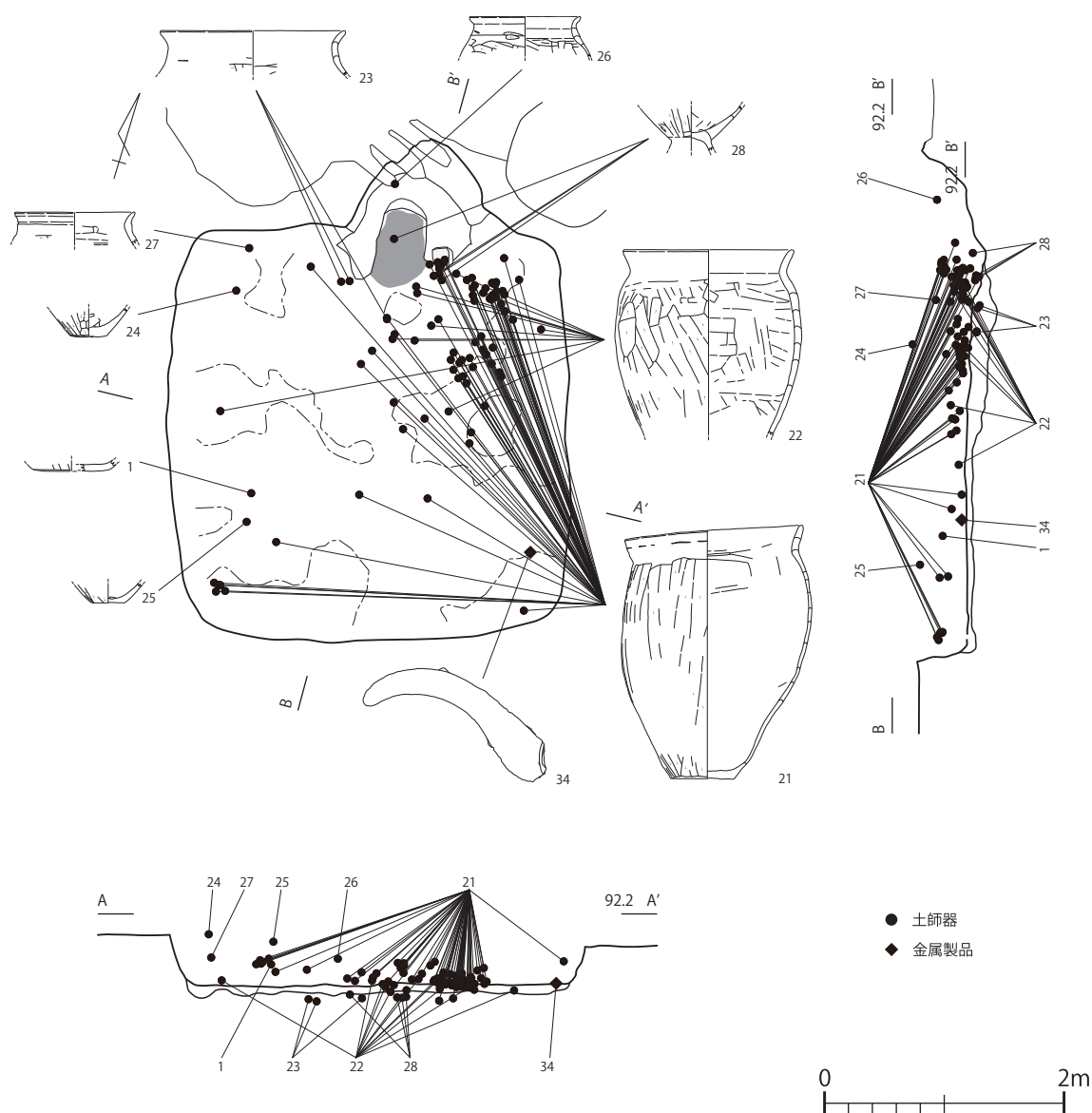
遺存状況は概ね良好であった。主に砂質粘土を構築材としているが、被熱、赤化した砂質粘土ブロックの混入も多くみられることから、カマドの作り直しや構築材の再利用が想定される。袖は、左袖は比較的良好に遺存していた。右袖は、凝灰質砂岩の切石を用いた芯材が立てられた状態で露出していたが、それより前の部分は残存していなかった。側壁・奥壁も良好に残存し、燃烧室に面した砂質粘土が強く被熱、赤化していた。天井部は残存していなかったが、燃烧室内に見られる砂質粘土の堆積状況等から、崩落したものと想定される。火床部は床面よりやや高い位置で検出され、焼土と砂質粘土のブロックからなっていた。掘方は、火床部の中心部付近が深く掘り窪められていた(54・57 層等)。なお、カマド手前右側の遺物集中部から被熱した凝灰質砂岩の切石が出土しており、これはカマドの芯材もしくは焚口の天井石であった可能性がある。(相原)



第 251 図 SI69(5) 遺物分布図 (1/60)

本遺構の遺物分布状況を見ると、平面的にも立面的にも大きく偏ることなく、遺構全体から出土したことが窺える。そうした中で、第 250 図に示すように、建物の北東隅において須恵器甕や坏を主体とする土器のまとまりを検出した。土器の出土層位は、床面よりもわずかが、ほぼ床面直上と捉えられる。ここから出土した須恵器や土師器の甕の破片は大部分が接合し、器形全体が分かる程度に復元することができた。甕以外では完形の須恵器坏が 2 点あり、第 258・259 図 3 は甕等の破片とともに出土し、4 は 3 から約 140cm 離れた位置で出土した。また、これらの中には、切石状の凝灰質砂岩も含まれており、これはカマド構築材の一部と考えられる。床面直上から出土したこれらの遺物は、本遺構の廃絶時に遺棄されたと推察される。

遺物 本遺構からは、総点数 870 点、総重量 28,053.3g が出土した。種別・器種ごとの内訳は、古代の土師器 487 点 2,890.3g (坏 9 点 45.3g、甕 471 点 2,758.7g、台付甕 6 点 74.3g、器種不明 1 点 12g)、古代の須恵器 297 点 6,113g (坏 182 点 1,732g、埴 5 点 154.8g、高台付皿 1 点 63.3g、蓋 10 点 76.2g、甕 92 点 3,951.3g、長頸瓶 4 点 59.5g、瓶あるいは壺 3 点 75.9g)、古代の灰釉陶器 28 点 134.4g (皿 8 点 41.5g、瓶 20 点 92.9g)、古代の金属製品 2 点 48.1g (刀子 1 点 1.3g、鉄鎌 1 点 46.8g)、凝灰質砂岩 5 点 14,090g、焼成粘土塊 1 点 10.3g、縄文土器 3 点 17.6g (諸磯 c 式 2 点 11.6g、時期型式不明 1 点 6g)、縄文時代の石器 (剥片) 1 点 2.2g、弥生時代後期～古墳時代前期の土器 19 点 118.8g (壺 6 点 64.3g、甕 10 点 48.1g、甕あるいは壺 3 点 6.4g)、被熱礫を含む礫 27

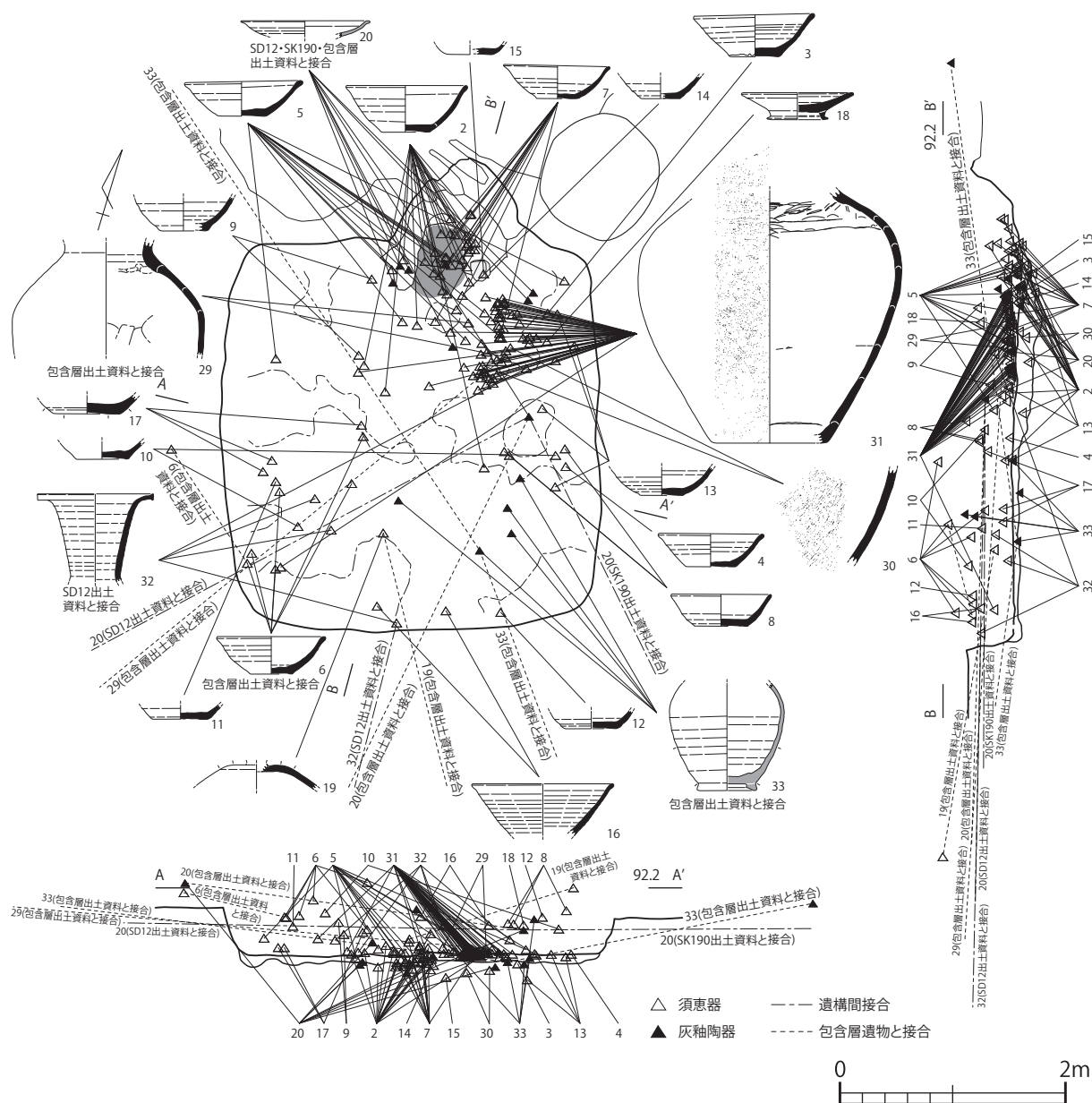


第 252 図 SI69(6) 遺物接合図 (土師器・金属製品) (1/60)

点 4,628.6g で、これら以外に炭化材が出土した。

本遺構に伴う遺物は古代の土師器や須恵器、灰釉陶器、金属製品等である。出土遺物の特徴として、他の竪穴建物跡に比べ、須恵器甕が突出して多い点が挙げられる。これは床面直上で須恵器甕の破片がまとまって出土したことに起因する。点数では須恵器よりも土師器が多いが、重量では須恵器が土師器を上回る。須恵器甕の重量は、須恵器全体の約 65% を占める。また、竪穴建物跡の中で唯一、灰釉陶器が出土した点も特色の一つである。出土量としては微量だが、皿や瓶といった器種が認められる。これらの遺物のうち、遺存状態の良いものや形状が分かる程度に復元できたものを抽出し、図化を行った。

第 258・259 図 1 は土師器坏で、相模型坏である。体下部に横位のヘラケズリがかろうじて確認



第 253 図 SI69(7) 遺物接合図 (須恵器・灰釉陶器) (1/60)

できる。2～第 260・261 図 15 は須恵器坏である。2～7 は体部が底部から内湾気味に開き、口縁端部が丸く肥厚する。8 は体部から口縁部にかけて直線的な形状で、口縁端部は丸く収める。9・13 は体部が内湾気味に開く形状で、10～12・14・15 は体部が直線的に開く。底径では、6・14 が 4cm 台、2～5・7・9・13・15 が 5cm 台、8・10～12 が 6cm 台で、底部はどれも回転糸切り後、無調整である。3・4 は完形で、4 の体部外面には墨書が認められる。4 の外面の広範囲に煤が付着しているため、肉眼観察で確認できたのは墨書の上半分だった。赤外線撮影を行ったところ、煤で覆われた部分にも墨書が明瞭に遺存しており、「良」と判読することができた。墨書に煤が被さり、肉眼観察で見えない場合における赤外線撮影の有用性を示す好例である。10 は坏の体下部から底部にかけての破片である。口縁部から体上部を欠損するが、おおよそ同じ高さに揃えることを意識し、打



1. 土層断面 A-A' 南から



2. 土層断面 B-B' 西から



3. 床面全景 南から



1. 遺物出土状況 南から



2. 遺物出土状況 東から



3. 遺物出土状況 北北東から



4. 遺物出土状況 西南西から



5. 遺物出土状況 南から

第 255 図 SI69 写真 (2)



1. カマド土層断面 D-D' 南から



2. カマド土層断面 E-E' 南から



3. カマド土層断面 C-C' 西から



4. カマド全景 南から



5. カマド掘方土層断面 D-D' 南から



6. カマド掘方土層断面 E-E' 南から



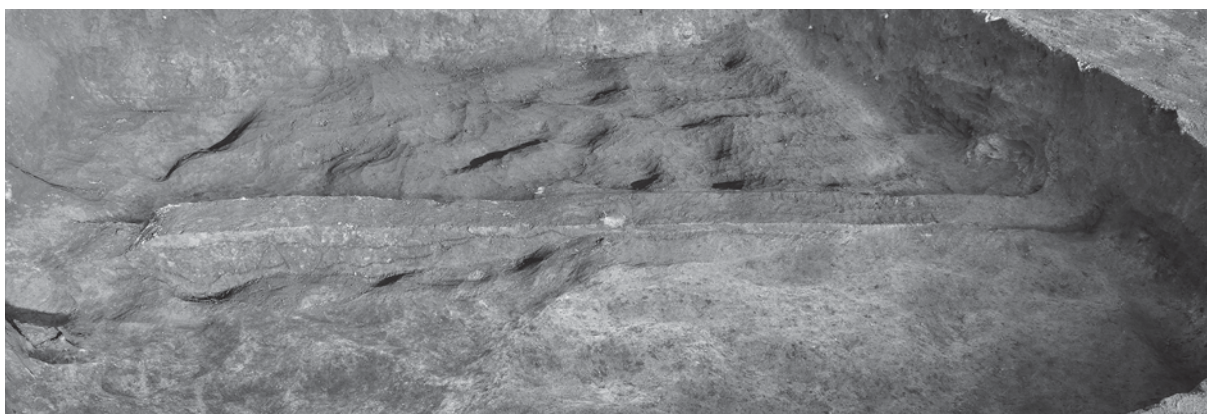
7. カマド掘方土層断面 C-C' 西から



8. カマド掘方 南から



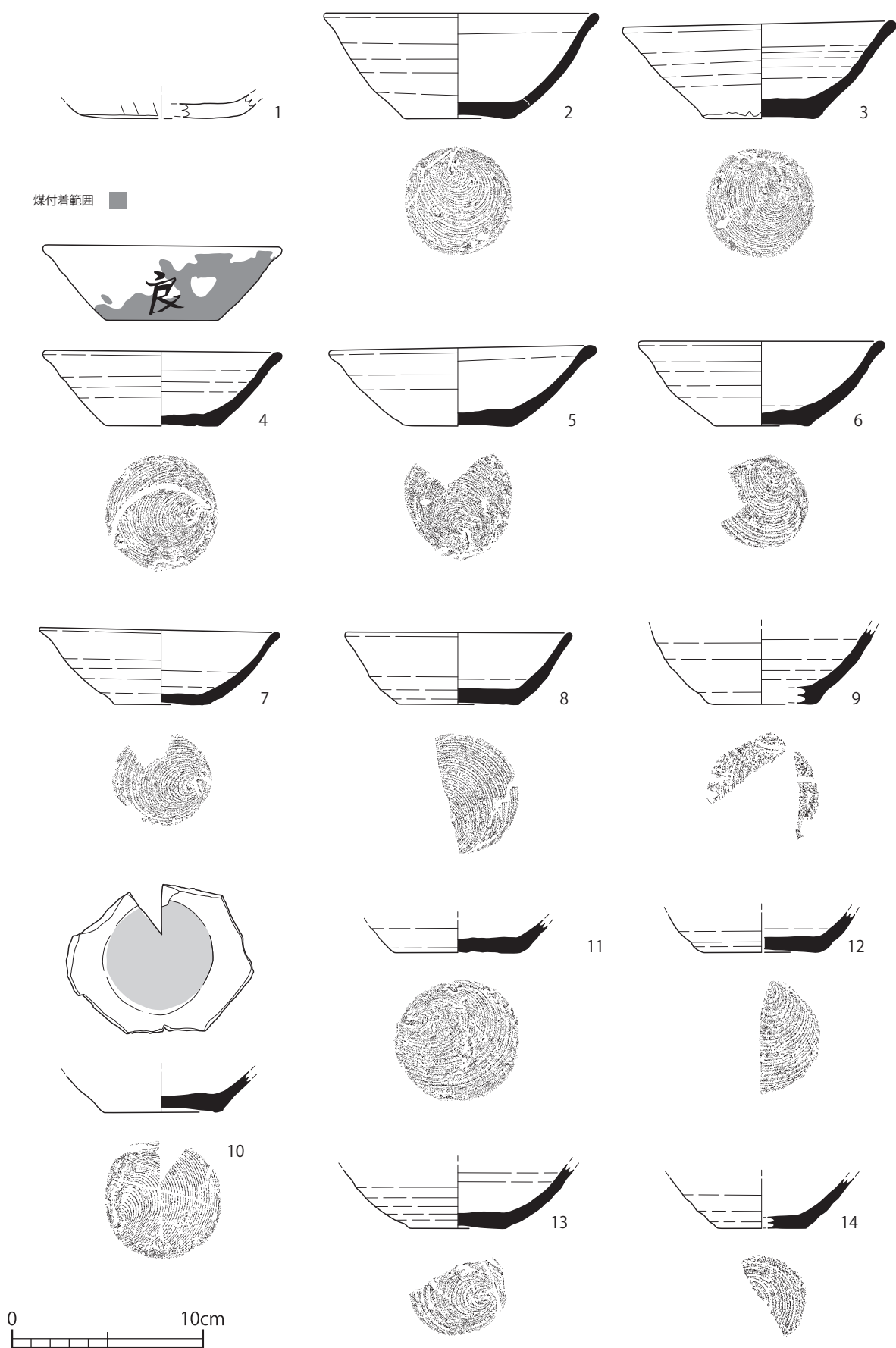
1. 掘方土層断面 A-A' 南から



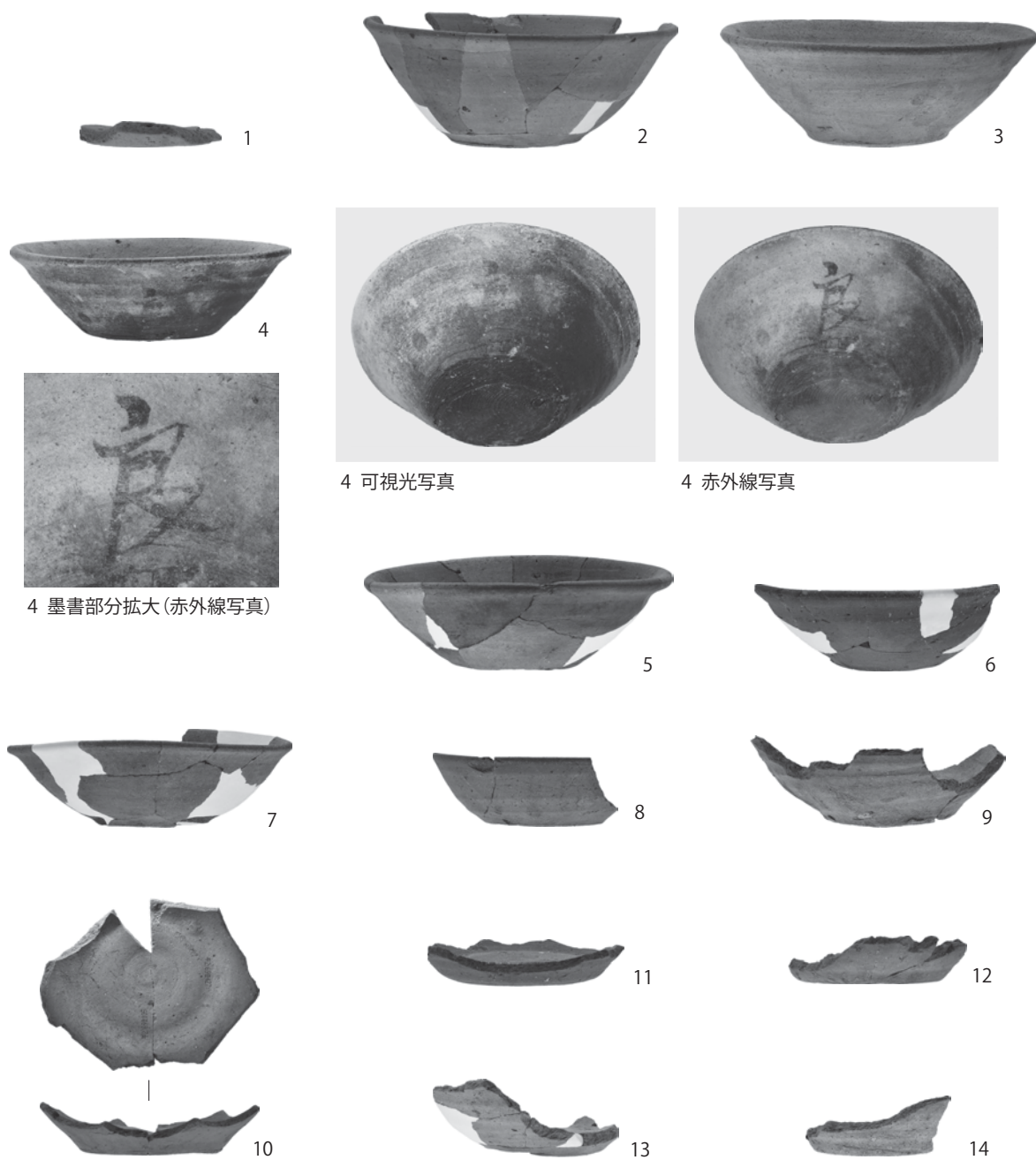
2. 掘方土層断面 B-B' 西から



3. 掘方全景 南から



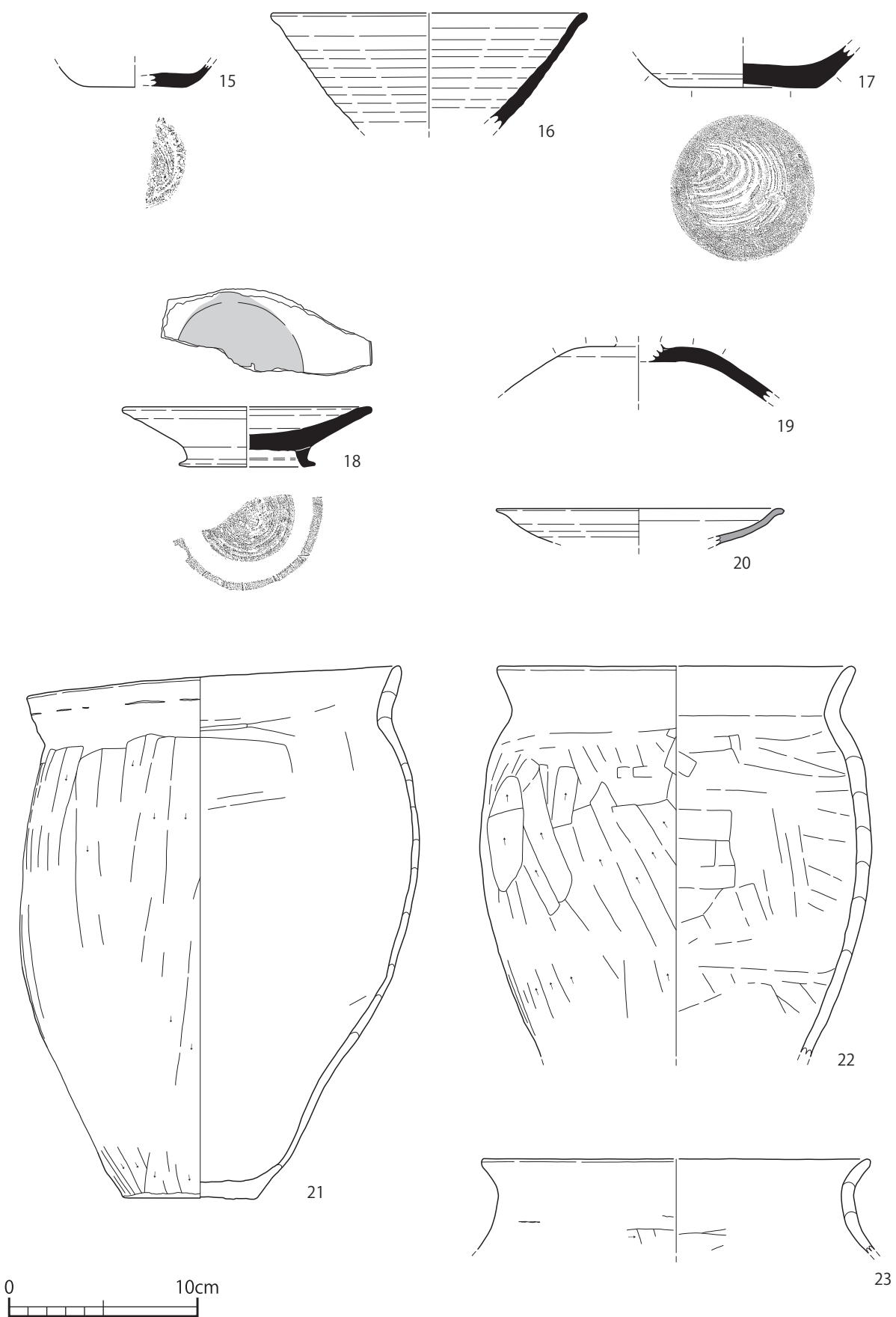
第 258 図 SI69 出土遺物 (1)(1/3)



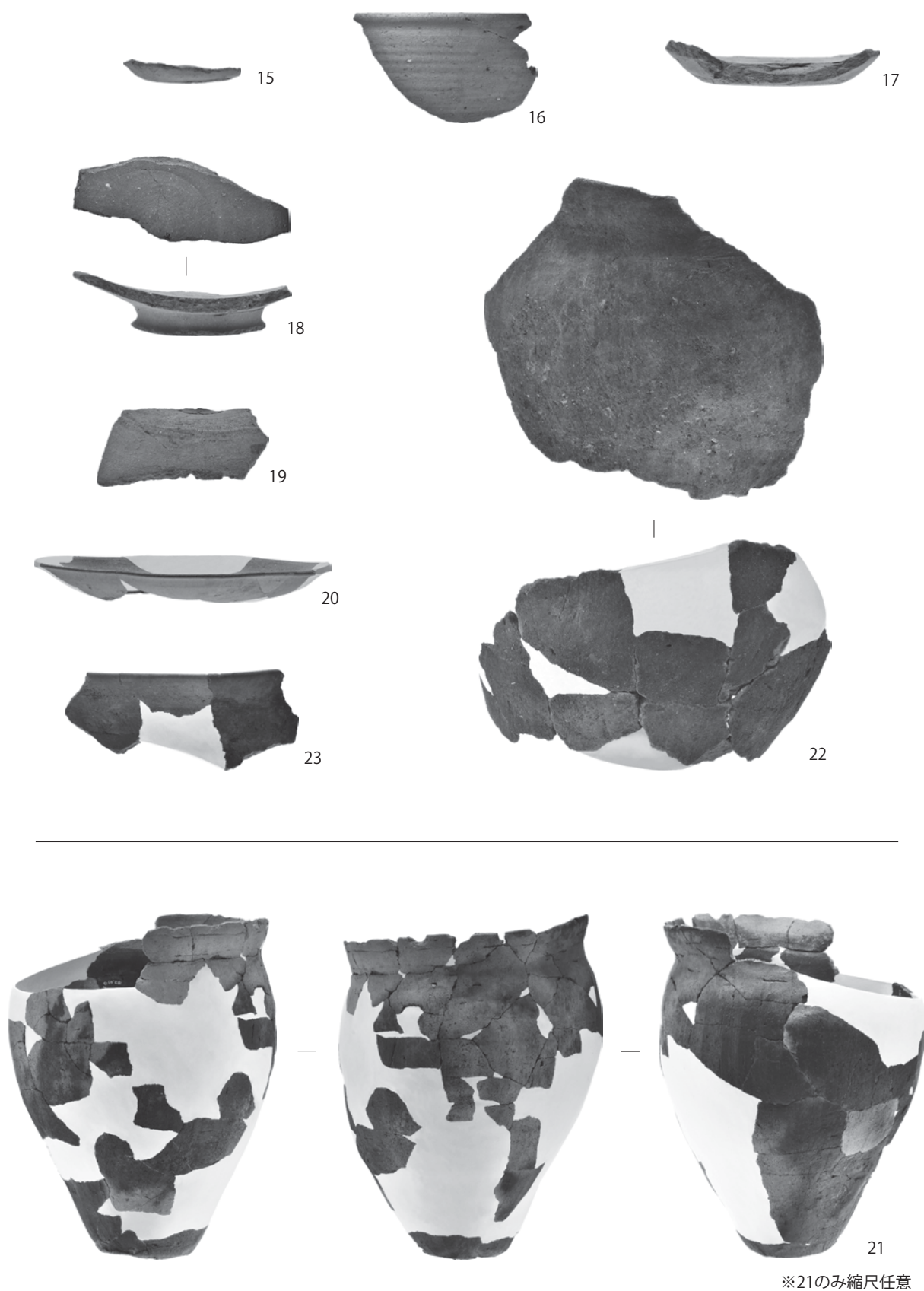
第 259 図 SI69 出土遺物 (1) 写真

ち割っているようである。底部内面全体に摩耗した痕跡が認められ、転用硯として再利用された可能性が考えられる。2～5・7・9・13～15は南多摩窯、6・8・10～12が東金子窯の製品である。

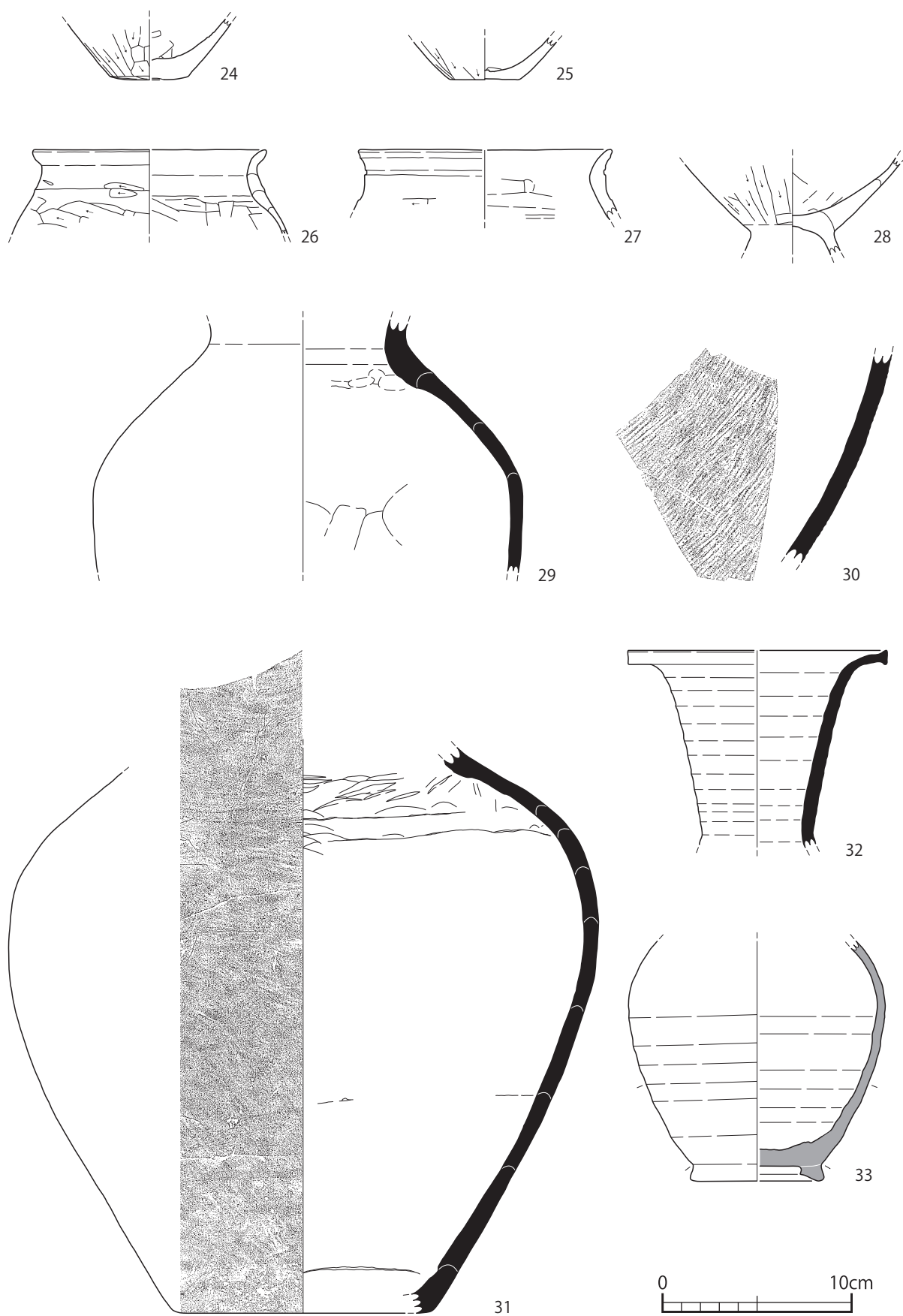
第 260・261 図 16・17 は須恵器碗である。16 の体部は直線的に開き、口縁端部が丸く肥厚する。内外面ともにロクロ目が明瞭に残る。17 は厚手のつくりで、底部には回転糸切り後、外周に回転ヘラズリを施す。18 は須恵器高台付皿で、直線的に開く体部に高台部が付く。高台は外端部が突出する形状で、非常に特徴的である。底部内面は全面的に摩耗しており、転用硯等として再利用されたのだろう。19 は須恵器蓋で、天井部の破片である。天井部に厚みのある器形と推察される。20 は灰釉陶器皿である、口縁部から体部にかけて全周するように復元できたが、底部の破片は見つかっていない。



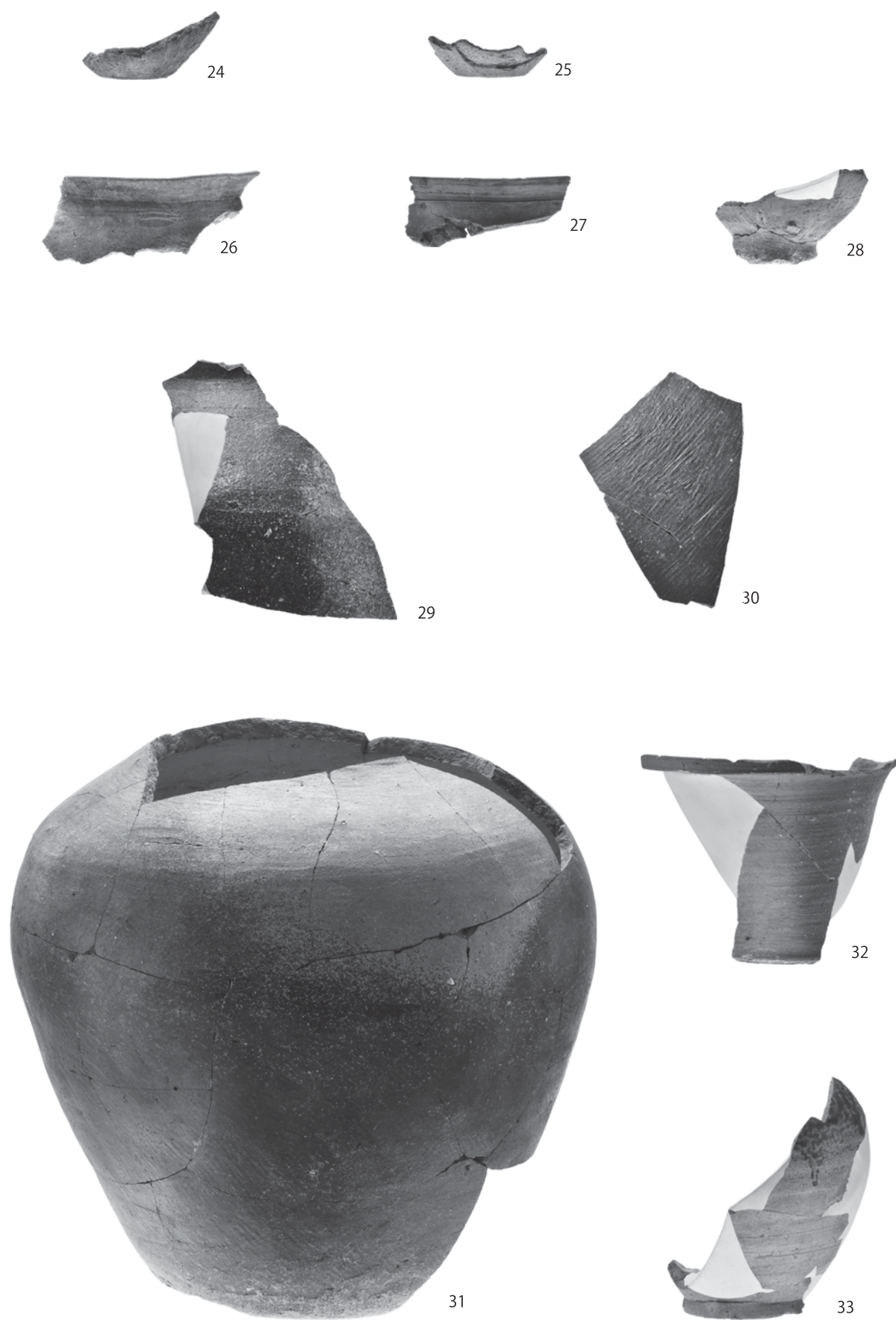
第 260 図 SI69 出土遺物 (2)(1/3)



第 261 図 SI69 出土遺物 (2) 写真



第 262 図 SI69 出土遺物 (3)(1/3)



第 263 図 SI69 出土遺物 (3) 写真



第 264 図 SI69 出土遺物 (4)(1/2)・写真

ない。口縁部は短く外反し、口縁端部は丸く収めている。16 は南多摩窯、17 ～ 19 は東金子窯、20 は猿投窯の製品である。

21 ～第 262・263 図 25 は土師器甕である。21 は 71 点の破片を接合し、口縁部から底部にかけて復元した。非常にいびつな形状で、特に胴下部には大きなゆがみが見られる。頸部の屈曲は緩やかで、口縁部は直線的に開き、胴部は倒卵形を呈する。胴部外面には縦位のヘラケズリを施す。22 は全体的に厚手のつくりの甕である。口縁部から胴上部にかけての破片と胴部破片とがあり、接合しなかったため、図上で合成して作図した。胴部には輪積みの痕跡が所々に残る。23 は頸部から口縁部にかけて遺存し、「コ」の字形に近い形状を呈する。24・25 は武蔵型甕の底部である。26 ～ 28 は土師器台付甕である。26 は頸部から口縁部が「コ」の字形が崩れたような形状で、口縁部は肥厚する。27 は頸部が「く」の字状に緩く屈曲する。28 は胴下部から脚台部にかけての破片である。

29 ～ 31 は須恵器甕である。29 は肩が張る器形を呈する。30 は外面に平行叩きを密に施す。31 は建物北東隅から出土した甕の破片を接合したところ、全体の形状が分かる程度に復元することができた。胴部の大半は全周するが、口頸部及び胴下部から底部を欠損する。外面には平行叩きが所々に見られ、頸部に近い胴部内面には当て具痕の端部が弧状に残る。胎土には海綿骨針が含まれている。32 は須恵器長頸瓶で、ラッパ状に開き、口縁端部は面を有する。33 は灰釉陶器の瓶で、おそらくは 32 のような口頸部の長頸瓶であろう。倒卵形の胴部に高台部が付く。接地する部分は高台の外側で、高台内側はせり上がっている。29・32 は南多摩窯、30 は東金子窯、31 は南比企窯の製品である。33 は猿投窯あるいは二川窯の製品だろうか。

第 264 図 34 は鉄製の両刃鎌で完形である。刃先が大きく湾曲する形状で、柄との装着部は直角に折り曲げられている。

須恵器坏のうち、2 は南比企窯跡群鳩山編年の H IX 期、6・7 は H X I 期、8・11 は H VII 期、9・12・13 ～ 15 は H X 期、10 は H VIII 期にそれぞれ比定される。これらの坏の出土層位を見ると、3 ～ 5 は床面直上、6・8 ～ 12 は覆土の中層から上層にかけて、2・7・13・14 は床面から掘方にかけて、15 は掘方中から出土している。これらの出土状況と坏の年代観を考え合わせると、本遺構の廃絶時期は 9 世紀末葉から 10 世紀初頭に位置付けられる。

第 41 表 SI69 出土土器観察表 (1)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 258 ・ 259 図	1	SI69	土師器 坏	(1.2) [8.2]		体下部外面は横位のヘラケズリ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	7.5YR7/6 橙	底部破片	重量 18.9g 相模型
	2	SI69	須恵器 坏	14.2 5.7 5.5	体部は底部から内湾気味に開き、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、無調整。	小礫、砂粒、白色粒子	やや軟質	N7/ 灰白・5Y5/1 灰	口縁部 7/8 底部完形	重量 168.2g 体下部 (底部付近) に摩耗痕。 南多摩窯
	3	SI69	須恵器 坏	13.8 4.9 5.6	体部は底部からやや内湾気味に開き、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、無調整。	砂粒、赤褐色粒子	軟質	7.5YR7/4 にぶい橙・2.5Y5.5/1 灰黄	完形	重量 202.9g 口縁部外面に煤付着。 体下部 (底部付近) に摩耗痕。 南多摩窯
	4	SI69	須恵器 坏	12.3 3.9 5.9	体部は底部から直線的に開き、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、無調整。	小礫、砂粒	軟質	10YR7/3 にぶい黄橙	完形	重量 129.4g 体部外面に煤付着、「良」墨書。 南多摩窯
	5	SI69	須恵器 坏	13.6 4.2 5.7	体部は底部からやや内湾気味に開き、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、無調整。	砂粒、白色粒子	やや軟質	10YR4/1 ～6/1 褐灰	口縁部完形 底部 3/4	重量 129.3g 南多摩窯
	6	SI69・28Q-27	須恵器 坏	12.7 4.9 4.4	体部は底部から内湾気味に開き、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、無調整。	小礫、砂粒	やや軟質	口縁部外面 N5/ 灰 それ以外 5YR5/3 にぶい赤褐	口縁～体部 1/3 底部 3/4	重量 71.9g 東金子窯
	7	SI69	須恵器 坏	12.4 5.0 5.0	体部は底部から内湾気味に開き、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、無調整。	小礫、砂粒	良好	5Y5/1 灰	口縁部 2/3 底部 3/4	重量 95.5g 南多摩窯
	8	SI69	須恵器 坏	[11.7] 3.8 [6.3]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、無調整。	小礫、砂粒、黑色粒子	良好	5Y6/1 灰	口縁～体部 1/3 底部 1/2	重量 76.3g 東金子窯
	9	SI69	須恵器 坏	(3.8) [5.7]	体部は底部から内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、無調整。	小礫、砂粒	やや軟質	2.5Y6/2.5 灰黄	体～底部 2/3	重量 64.8g 南多摩窯
	10	SI69	須恵器 坏	(1.7) 6.2	体部は直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、無調整。	小礫、砂粒	良好	N5/ 灰	底部 7/8	重量 64.2g 底部内面全体に摩耗痕、転用硯。 東金子窯
	11	SI69	須恵器 坏	(1.4) 6.6	体部は直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、無調整。	小礫、砂粒	良好	7.5Y5/1 灰	底部完形	重量 73.6g 東金子窯
	12	SI69・28Q-18・28	須恵器 坏	(1.9) [6.0]	体部は底部から内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、無調整。	砂粒	やや軟質	外面 10YR5/2 灰黄褐 内面 7.5YR5/3 にぶい褐	底部 1/2	重量 37.5g 東金子窯
	13	SI69	須恵器 坏	(3.0) 5.0	体部は底部から内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、無調整。	砂粒、石英	軟質	5YR6/7 橙	底部 2/3	重量 33.4g 南多摩窯
	14	SI69	須恵器 坏	(2.6) [4.6]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、無調整。	小礫、砂粒	軟質	10YR7/3 にぶい黄橙	底部 1/2	重量 18.6g 南多摩窯
第 260 ・ 261 図	15	SI69	須恵器 坏	(1.1) [5.5]	体部は底部から内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、無調整。	砂粒	軟質	10YR6/3 にぶい黄橙	底部 1/3	重量 15.7g 南多摩窯
	16	SI69	須恵器 坏	[16.6] (6.1)	体部は直線的に開く。	ロクロ成形。	小礫、砂粒、白色粒子	良好	5Y5.5/1 灰	口縁～体部 1/6	重量 50.5g 南多摩窯
	17	SI69	須恵器 碗	(1.8) 7.7	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒	良好	外面 5Y5.5/1 灰 内面 2.5Y6/2 灰黄	底部完形	重量 132.6g 東金子窯
	18	SI69	須恵器 高台付皿	[13.1] 3.2 [7.2]	体部は直線的に開く。高台部は短く屈曲して外反する。	ロクロ成形。 底部は回転糸り後、高台部を貼り付ける。	小礫、砂粒、白色粒子	良好	N5/ 灰	口縁部 1/12 以下 高台部 1/2	重量 63.6g 体～底部内面に摩耗痕、転用硯。 東金子窯
	19	SI69・28Q-27	須恵器 蓋	(2.4)		ロクロ成形。 天井部外面は回転ヘラケズリ。	砂粒、白色粒子	良好	N5/ 灰	天井部破片	重量 53.2g 東金子窯
	20	SI69・SK190・SD12・28Q-47	灰釉陶器 皿	[15.1] (1.9)	体部は緩やかに開き、口縁端部は短く外反する。	ロクロ成形。	小礫、黒色粒子	良好	外面 2.5Y7/1 灰白 内面 7.5Y6/2 灰オリーブ	口縁～体部 5/8	重量 67.3g 猿投窯
	21	SI69	土師器 甕	[19.8] 28.3 7.1 胴部最大径 [20.9]	全体的に歪みが大きい。口縁部は直立気味に開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴部は縦位のヘラケズリ、底部はヘラケズリ。 内面のうち、胴上部は横位のヘラナデ。	小礫、砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 10YR6/3 にぶい黄橙 内面 10YR4/1 褐灰	口縁部 1/2 胴部 2/3 底部完形	重量 810.2g

第 41 表 SI69 出土土器観察表 (2)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 260 ・ 261 図	22	SI69	土師器 甕	[18.7] (20.6) 胴部 最大径 [20.8]	口縁部は直線的に開く。全体的に厚手なつくり。胴部最大径は上部にある。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴部は縦位のヘラケズリ主体。内面は横位のヘラナデ主体。	小礫、砂粒	やや軟質	外面 10YR2/1 黒内面 7.5YR4/3 褐断面 5YR5/6 明赤褐	口縁部 1/12 胴部 1/4	重量 411.4g 口縁～胴部破片と胴部破片を図面上で合成。
	23	SI69	土師器 甕	[20.3] (4.8)	頸部はわずかに内傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。「コ」の字状に近い形状を呈する。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、頸部は横位のヘラケズリ。内面は横位のヘラナデ。	砂粒	良好	外面 7.5YR5/4 にぶい褐 内面 7.5YR4/3 褐	口縁部 1/6	重量 43.1g
第 262 ・ 263 図	24	SI69	土師器 甕	(2.9) [4.1]	胴部は底部から直線的に開く。	外面のうち、胴下部は縦位のヘラケズリ、底部はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	小礫、砂粒	良好	外面 7.5YR3/2 黒褐 内面 7.5YR6/4 にぶい橙	底部 1/3	重量 25.4g 武蔵型甕
	25	SI69	土師器 甕	(2.0) [3.6]	胴部は底部から直線的に開く。	外面のうち、胴下部は縦位のヘラケズリ、底部はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	7.5YR6/6 橙	底部 1/2	重量 17.0g 武蔵型甕
	26	SI69	土師器 台付甕	[12.2] (4.4)	頸部はやや内傾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ。内面は横位のヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	7.5YR4/3.5 褐	口縁部 1/4	重量 43.5g
	27	SI69	土師器 台付甕	[13.3] (3.2)	頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は短く外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ。内面は横位のヘラナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	5YR3/2 暗赤褐	口縁部 1/4	重量 29.6g
	28	SI69	土師器 台付甕	(4.5)		胴下部外面は縦位のヘラケズリ、内面はヘラナデ、甕と脚台部との接合部はナデ。	小礫、砂粒	良好	5YR5/6 明赤褐	底部 2/3	重量 54.1g
	29	SI69・ 28Q-36	須恵器 甕	(12.9) 胴部 最大径 [22.2]	胴部最大径は上部にあり、肩が張る器形を呈する。	内面のうち、頸部は指おさえ、胴部は無文の当て具痕。	小礫、砂粒、 黒色粒子	良好	外面 7.5Y3/2 オリーブ黒 内面 2.5Y6/1 黄灰	頸～胴部 破片	重量 139.4g 南多摩窯
	30	SI69	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面は無文の当て具痕。	砂粒	良好	外面 N3/ 灰 内面 N4/ 暗灰 断面 2.5YR4.5/3 にぶい赤褐	胴部破片	重量 142.4g 東金子窯
	31	SI69・ 28Q-16	須恵器 甕	(29.8) [13.9] 胴部 最大径 31.1	胴部最大径は上部にある。底部は平底。	胴部外面は平行叩き、内面は無文の当て具痕。	小礫、砂粒、 海綿骨針	良好	外面 N6/・N4/ 灰 内面 N5.5/ 灰	胴部 3/4	重量 3,336.6g 南比企窯
	32	SI69・ SD12	須恵器 長頸瓶	[13.6] (10.2) 頸部径 [5.9]	頸部は外反して開き、口縁部はほぼ水平に開く。	ロクロ成形。	小礫、砂粒	良好	外面 N4.5/ 灰 内面 2.5Y6/1 黄灰	口縁部 1/4	重量 94.5g 南多摩窯
	33	SI69・ 28Q-16・ 38	灰釉陶器 瓶	(12.6) [6.9] 胴部最大 径 [13.5]	胴部最大径は上部にある。	ロクロ成形。 胴下部は回転ヘラケズリ、高台部は貼り付け。	砂粒、黒色 粒子	良好	外面 2.5Y7/1 灰白 内面 10YR6/1 黄灰	胴部 1/6 高台部 1/2	重量 96.9g 猿投窯あるいは二川窯か。

第 42 表 SI69 出土金属製品観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	器種	素材	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	残存	備考
第 264 図	34	SI69	鎌	鉄	15.3	3.7	0.3	46.8g	完形	刃部は湾曲する形状、基部は直角に折り曲げられている。

SI72 (第 265 ～ 271 図、第 43・45 表)

遺構 本遺構は 2-6 東区の 29P-79・89 グリッドに位置し、SI68 の南側、SI73 の北西に位置する。遺構の一部が近世以降の農事関連遺構群のひとつである SKK1392 に切られている。本遺構周辺の SI68 や SI73 とともに、Ⅲ 2 層上面で検出した。

平面プランは長方形を呈し、規模は長軸（東西）380cm、短軸（南北）295cm である。主軸は N-73°-E を指す。検出面から床面までの深さは 50cm 程度で、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。

床面までの覆土は 14 層に分層した。これらの層位は、黒褐色土をベースにローム粒子やロームブロックが混在する層と、ローム土を含まず基本層序のⅡ層に近い層とに大別される。後者は自然に堆積した土で、前者は人為的な埋土と判断される。壁溝の覆土である 11 層は、その様相から建物壁面等の風化により自然堆積したと推察する。床面直上に堆積する 10 層をはじめ、2・5・6・8・9 層にはローム粒子やロームブロックが混在する。壁際のいわゆる三角堆積と考えられる 7・13 層は黒褐色土主体で、Ⅱ層に近い様相を呈する。5 層あるいは 6 層と 10 層の間に 7・13 層の堆積が見られるため、本遺構廃絶後に埋戻しが行われた際に、途中で自然堆積が生じる状況があったと推察される。

床面は貼床で、多少の凹凸があるもののほぼ水平に造られている。床面を精査したところ、カマド前面を除き全周する壁溝を検出し、その内側で硬化範囲を確認した。柱穴等は認められなかった。

本遺構に伴うカマドは、東壁の中央よりやや南側に設けられていた。カマドのプランの確認中に右袖部の南側において、全体の半分程度が遺存する須恵器蓋が出土した（第 269 図 1）。蓋は内面を上に向けた状態で見つかり、本遺構の埋没過程で意図的に置かれた可能性が考えられよう。土器の遺存状態は異なるものの、SI68 においても須恵器蓋が出土しており、その類似性が指摘できる。

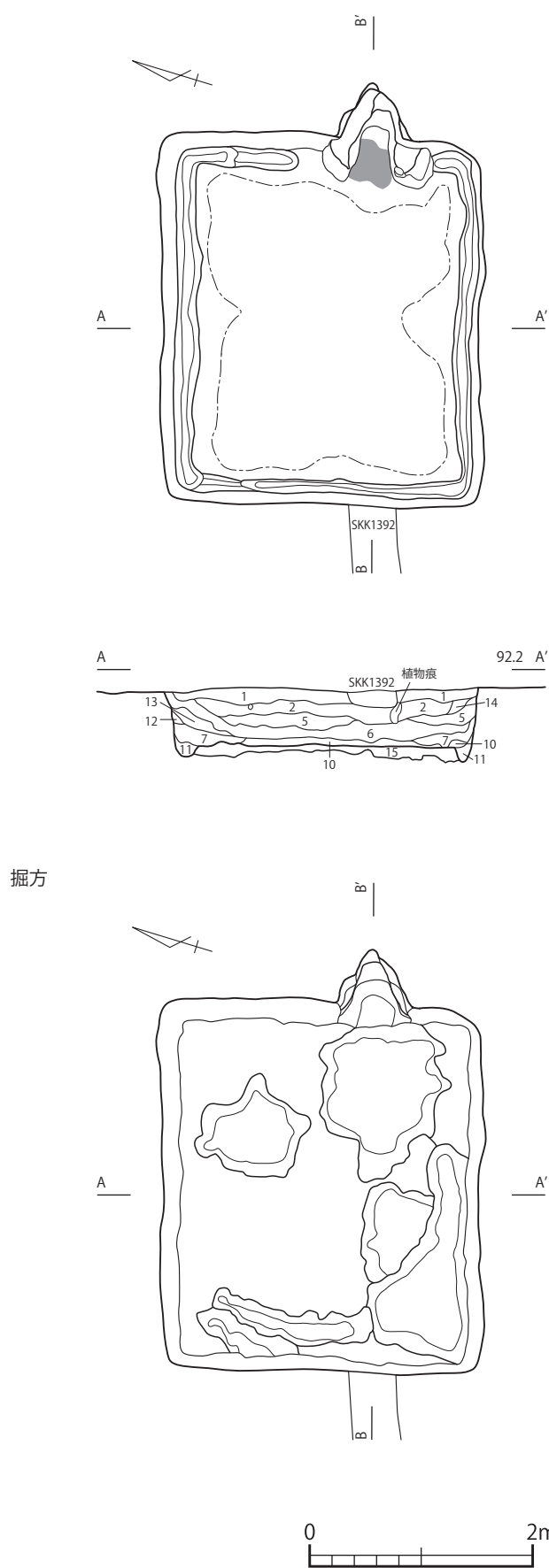
カマドの調査を開始したところで、右袖の芯材として細長い礫が用いられていることが分かった（第 269 図 2）。カマドの断面観察により、火床面直上に砂質粘土を主体とする層（6～8 層）が堆積していることから、本遺構廃絶時にカマドは天井部がある状態あるいは大きく壊されていない状態だったと考えられる。火床部は両袖部の中央にあり、明瞭に焼土が残存していた。火床面は床面と同程度の高さである。

カマド掘方の調査では、左袖も礫が芯材として使われていたことが明らかになり（第 269 図 8）、その構造についても把握することができた。D-D'・E-E' の断面観察で、15 層を袖部の土台とし、芯材となる礫を据え置いたところで裏込めとして 13 層を充填していること、その上に砂質粘土主体の 11 層や 12 層を被せ、カマドの袖としていることを確認した。12 層は砂質粘土主体だが、被熱赤化した粘土がブロック状に混在していた。13 層は焼土と砂質粘土を混ぜ合わせたような様相を呈しており、いずれの状況からも砂質粘土が使い回されている状況が窺える。被熱赤化した粘土ブロックが混在する状況は掘方充填土にも認められた。

建物の掘方は全体的にⅤ層に達しており、南壁から西壁にかけての範囲とカマド前等が深く掘り込まれていた。15・16 層が貼床であり、掘方充填土であると考えられる。掘方面においても柱穴等は検出できなかった。

第 267 図の遺物分布を見ると、大きな偏りは見られずに覆土全体から遺物が出土したことが読み取れる。掲載した遺物に限れば、覆土中層から上層にかけて出土したものが多い。

遺物 本遺構からは、総点数 77 点、総重量 7,540.8g が出土した。種別・機種ごとの内訳は、古

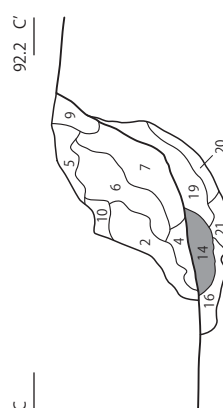
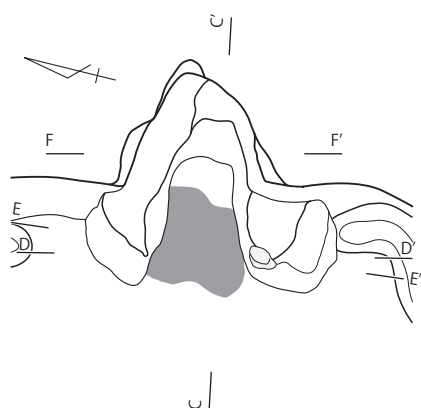


SI72

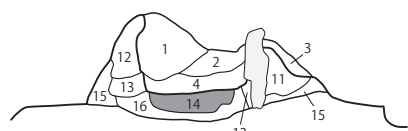
- 10YR2/2 黒褐 黒褐色土主体。粘土粒子を 15%、直径 1mm 前後の橙色スコリアを 7%、ローム粒子を 5% 含む。粘性、締まり弱い。
- 10YR2/2 黒褐 黒褐色土主体。ローム粒子を 20%、粘土粒子を 10%、直径 1mm 前後の橙色スコリアを 7%、粘土粒子を 5% 含む。粘性、締まり弱い。
- 10YR2/3 黒褐 黒褐色土を主体とし、全体的に粘土が斑状に混在する。粘土粒子を 25%、焼土粒子を 7%、直径 1～3mm の橙色スコリアを 3%、被熱赤化した粘土ブロックを 1% 含む。粘性、締まり弱い。
- 10YR3/2～2/2 黒褐 黒褐色土と粘土の混合土。直径 1～3mm の橙色スコリアを 5%、焼土粒子を 3%、被熱赤化した粘土ブロックを 2% 含む。粘性、締まりやや強い。
- 10YR2/2 黒褐 黒褐色土主体。ローム粒子・ブロックを 15%、直径 3mm 前後の黒褐色スコリアを 10%、焼土粒子を 7% 含む。粘性、締まり弱い。
- 10YR2/2 黒褐 黒褐色土主体。ローム粒子・ブロックを 20%、粘土粒子を 10%、焼土粒子や直径 1mm 前後の橙色スコリアを各 5% 含む。粘性、締まり弱い。
- 10YR1.7/1 黒 黒褐色土主体 (II 層由来か)。直径 3mm 前後の黒褐色スコリアを 15%、直径 1～3mm の橙色スコリアを 10%、焼土粒子を 7% 含む。粘性、締まり弱い。
- 10YR2/3 黒褐 黒褐色土を主体とし、部分的に粘土粒子・ブロックが斑状に混在する。粘土粒子・ブロックを 25%、ローム粒子を 15%、焼土粒子を 7%、直径 1～3mm の橙色スコリアを 5%、直径 5mm 前後の炭化粒子を 2% 含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。
- 10YR2/2～2/3 黒褐 黒褐色土を主体とし、部分的にローム土が斑状に混在する。ローム粒子・ブロックを 25%、焼土粒子・ブロックを 10%、粘土粒子を 5%、直径 1～3mm の橙色スコリアや直径 5mm 前後の炭化粒子を各 3% 含む。粘性がやや弱く、締まりは弱い。
- 10YR2/2 黒褐 黒褐色土を主体とし、全体的にローム土が斑状に混在する。ローム粒子を 25%、直径 1～3mm の橙色スコリアを 7%、焼土粒子を 3% 含む。粘性がやや弱く、締まりは弱い。
- 10YR3/4 暗褐 ローム土を主体とし、全体的に 10 層由来の黒褐色土が斑状に混在する。直径 3～7mm の明赤褐 (5YR5/8) 色スコリアを 5% 含む。粘性がやや強く、締まりは非常に弱い。 ※三角堆積
- 10YR3/3 暗褐 III 層土を主体とし、部分的に 14 層由来の黒褐色土が斑状に混在する。直径 1mm 程の橙色スコリアを 5% 含む。粘性がやや強く、締まりはやや弱い。
- 10YR2/2 黒褐 黒褐色土主体。直径 1～3mm の橙色スコリアを 10%、焼土粒子を 7%、直径 3mm 前後の黒褐色スコリアを 5% 含む。粘性、締まり弱い。
- 10YR2/2 黒褐 黒褐色土主体。焼土粒子を 10%、直径 1～3mm の橙色スコリアを 7% 含む。粘性、締まり弱い。
- 10YR3/3～3/4 暗褐 ローム層と黒褐色土の混合土 (両者が斑状に混在)。直径 3～7mm の明赤褐 (5YR5/8) 色スコリアを 20%、直径 5～10mm の炭化粒子を 5%、小礫を 2% 含む。粘性が弱く、締まりはやや強い。 ※貼床
- 10YR3/3～2/3 暗褐～黒褐 黒褐色土を主体とし、全体的にローム土がブロック状に混在する。直径 3～7mm の明赤褐 (5YR5/8) 色スコリアを 15%、焼土粒子を 7%、ロームブロックを 5%、直径 5mm 前後の炭化粒子を 3% 含む。粘性が弱く、締まりは非常に弱い。

第 265 図 SI72(1)(1/60)

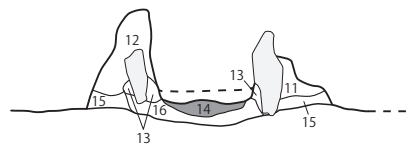
カマド



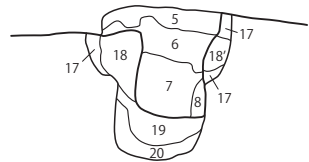
D 92.0 D'



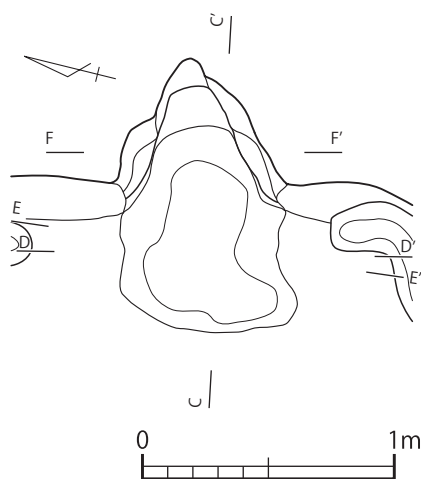
E 92.0 E'



F 92.2 F'



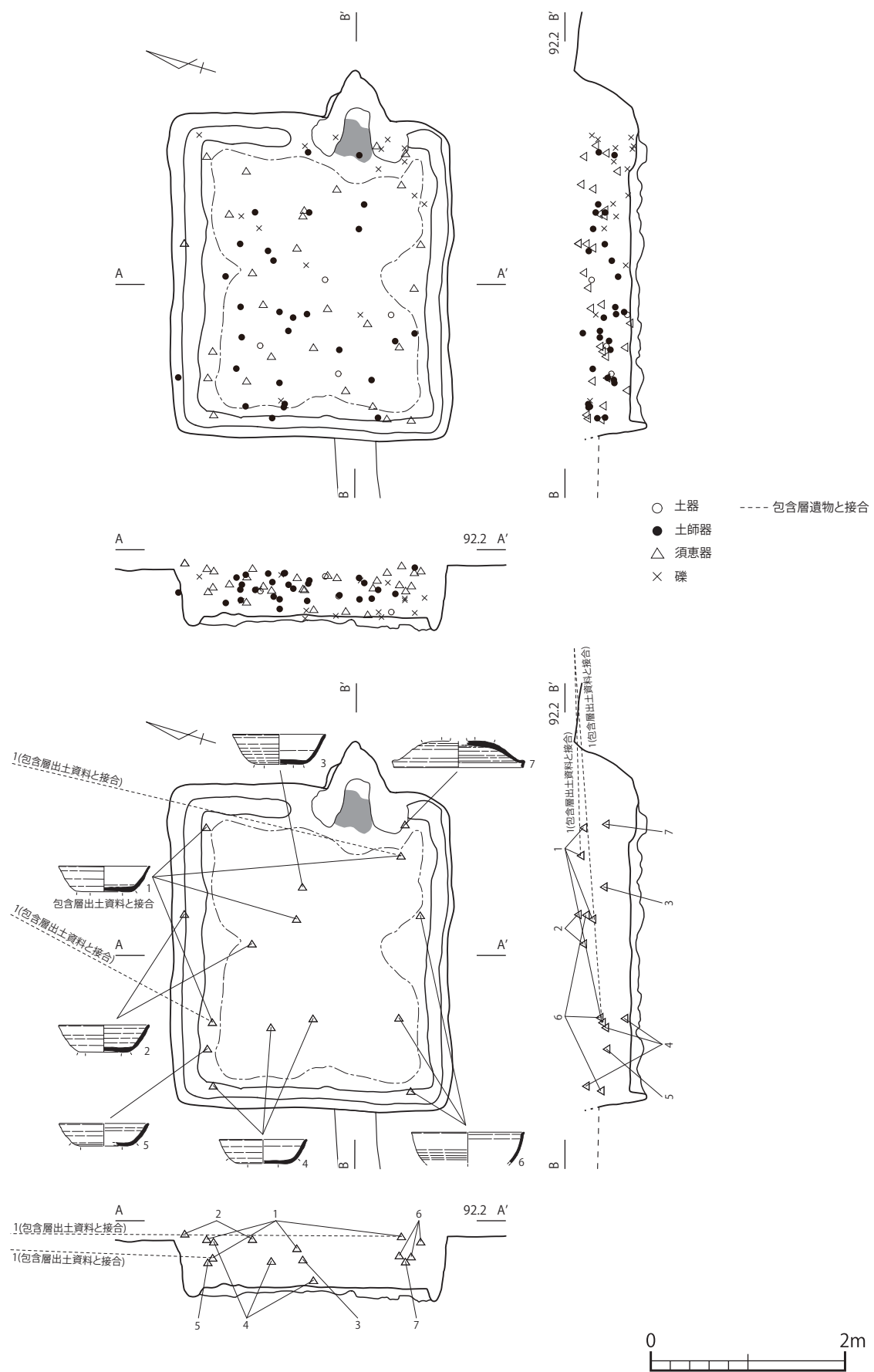
掘方



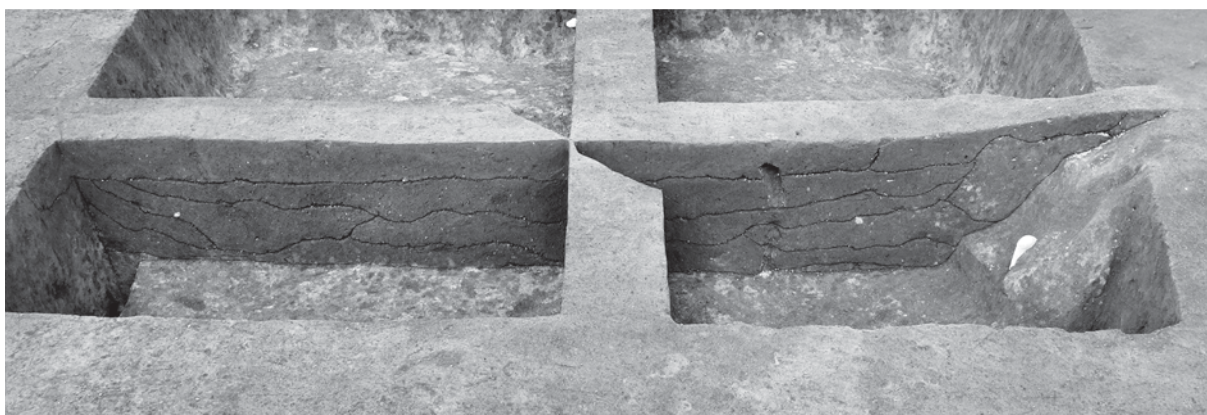
カマド

- 10YR3/3 ~ 3/4 暗褐 粘土を主体とし、全体的に黒褐色土が混在する。直径3 ~ 5mmの炭化粒子を10%、焼土粒子を7%、粘土ブロックを5%含む。粘性が弱く、縮まりは非常に弱い。
- 10YR3/3 ~ 2/3 暗褐~黒褐 黒褐色土を主体とし、全体的に粘土粒子が斑状に混在する。粘土粒子15%、焼土粒子・ブロックを5%、直径1 ~ 3mmの炭化粒子を3%含む。粘性、縮まり弱い。
- 10YR3/3 暗褐 黒褐色土を主体とし、全体的に粘土粒子が斑状に混在する。粘土粒子20%、焼土粒子・ブロックを7%、直径3mm前後の橙色スコリアを3%、直径3 ~ 5mmの炭化粒子を2%、被熱赤化した粘土ブロックを1%含む。粘性、縮まり弱い。
- 7.5YR3/4 暗褐 黒褐色土と粘土の混合土。焼土ブロック・粒子を15%、直径5 ~ 7mmの炭化粒子を3%含む。粘性が弱く、縮まりは非常に弱い。 ※カマド周辺からの流れ込み。
- 10YR2/2 黒褐 黒褐色土を主体とし、全体的に粘土が斑状に混在する。粘土粒子を15%、焼土粒子・ブロックを10%、被熱赤化した粘土ブロックを3%含む。粘性、縮まり弱い。
- 10YR3/3 ~ 3/4 暗褐 粘土を主体とし、部分的に黒褐色土が斑状に混在する。焼土粒子・ブロックを10%、被熱赤化した粘土粒子・ブロックを7%、直径3mm前後の炭化粒子を3%含む。粘性、縮まり弱い。 ※カマド天井部の崩落か。
- 7.5YR3/4 ~ 2/3 暗褐~極暗褐 粘土主体。被熱赤化した粘土ブロックを15%、焼土ブロック・粒子を10%含む。粘性が弱く、縮まりは非常に弱い。 ※カマド奥壁あるいは天井部の崩落か。
- 10YR2/3 黒褐 黒褐色土と粘土の混合土。焼土粒子を7%、褐色土(Ⅲ3層由来)ブロックを2%含む。粘性がやや強く、縮まりは弱い。 ※カマド壁面の崩落か。
- 7.5YR2/2 黒褐 黒褐色土主体。焼土粒子を15%、粘土粒子を10%、被熱赤化した粘土ブロックを3%含む。粘性がやや強く、縮まりはやや弱い。
- 10YR4/4 褐 黒褐色土と粘土の混合土。直径3mm前後の炭化粒子を5%含む。焼土粒子を3%含む。粘性が弱く、縮まりはやや強い。
- 10YR4/4 褐 粘土主体で、全体的に黒褐色土が斑状に混在する。焼土粒子・ブロックを15%、被熱赤化した粘土ブロックを10%、直径3 ~ 5mmの炭化粒子を5%含む。粘性が弱く、縮まりはやや強い。 ※カマド袖部
- 10YR4/4 褐 粘土主体。被熱赤化した粘土ブロックを10%、焼土粒子・ブロックを7%、直径1 ~ 3mmの炭化粒子を5%、ローム粒子を2%含む。粘性がやや強く、縮まりはやや弱い。 ※カマド袖部
- 10YR3/4 暗褐 粘土と焼土の混合土。焼土粒子・ブロックを15%、直径3 ~ 7mmの炭化粒子を5%、被熱赤化した粘土ブロックを3%含む。粘性、縮まり弱い。 ※袖石設置時の裏込めのような土か。
- 7.5YR3/4 暗褐 粘土と焼土の混合土。焼土粒子・ブロックを30%、直径3 ~ 7mmの炭化粒子を10%含む。粘性、縮まり弱い。 ※カマド火床部
- 10YR3/3 暗褐 黒褐色土と粘土の混合土。ローム粒子・ブロックを10%、焼土粒子を7%、直径5mm前後の炭化粒子を5%含む。粘性、縮まりやや弱い。 ※カマド袖の基底部
- 10YR2/2 黒褐 黒褐色土主体。焼土粒子・ブロックを20%、ローム粒子・ブロックを7%、直径5mm前後の炭化粒子を2%含む。粘性、縮まり弱い。 ※カマド掘方充填土
- 10YR2/3 黒褐 黒褐色土(Ⅲ2層由来)を主体とし、全体的に粘土が斑状に混在する。粘土粒子を15%、焼土粒子を5%、直径1mm前後の橙色スコリアを2%含む。粘性、縮まり弱い。
- 10YR4/4 ~ 3/4 褐~暗褐 粘土主体で、部分的に黒褐色土が斑状に混在する。被熱赤化した粘土ブロック・粒子を15%、焼土粒子・ブロックを10%含む。粘性が弱く、縮まりはやや強い。
- 10YR4/4 ~ 3/4 褐~暗褐 18層と近似するが、18層よりも被熱赤化した粘土の含有量が少ない。
- 7.5YR3/4 暗褐 粘土と焼土の混合土。焼土ブロックを15%、直径3 ~ 5mmの炭化粒子を5%、被熱赤化した粘土ブロックを3%含む。粘性が弱く、縮まりは非常に弱い。
- 10YR3/4 暗褐 黄褐色土(Ⅲ3~Ⅳ層由来)を主体とし、部分的にローム土が斑状に混在する。焼土粒子・ブロックを10%、直径1 ~ 3mmの橙色スコリアを7%、直径3 ~ 7mmの炭化粒子を5%含む。粘性がやや強く、縮まりは弱い。 ※カマド掘方充填土
- 10YR3/4 暗褐 黒褐色土を主体とし、全体的にローム土が混在する。焼土粒子・ブロックを7%、直径3 ~ 5mmの橙色スコリアを5%、直径5mm前後の炭化粒子を2%含む。粘性がやや強く、縮まりは弱い。 ※カマド掘方充填土

第266図 SI72(2) カマド (1/30)



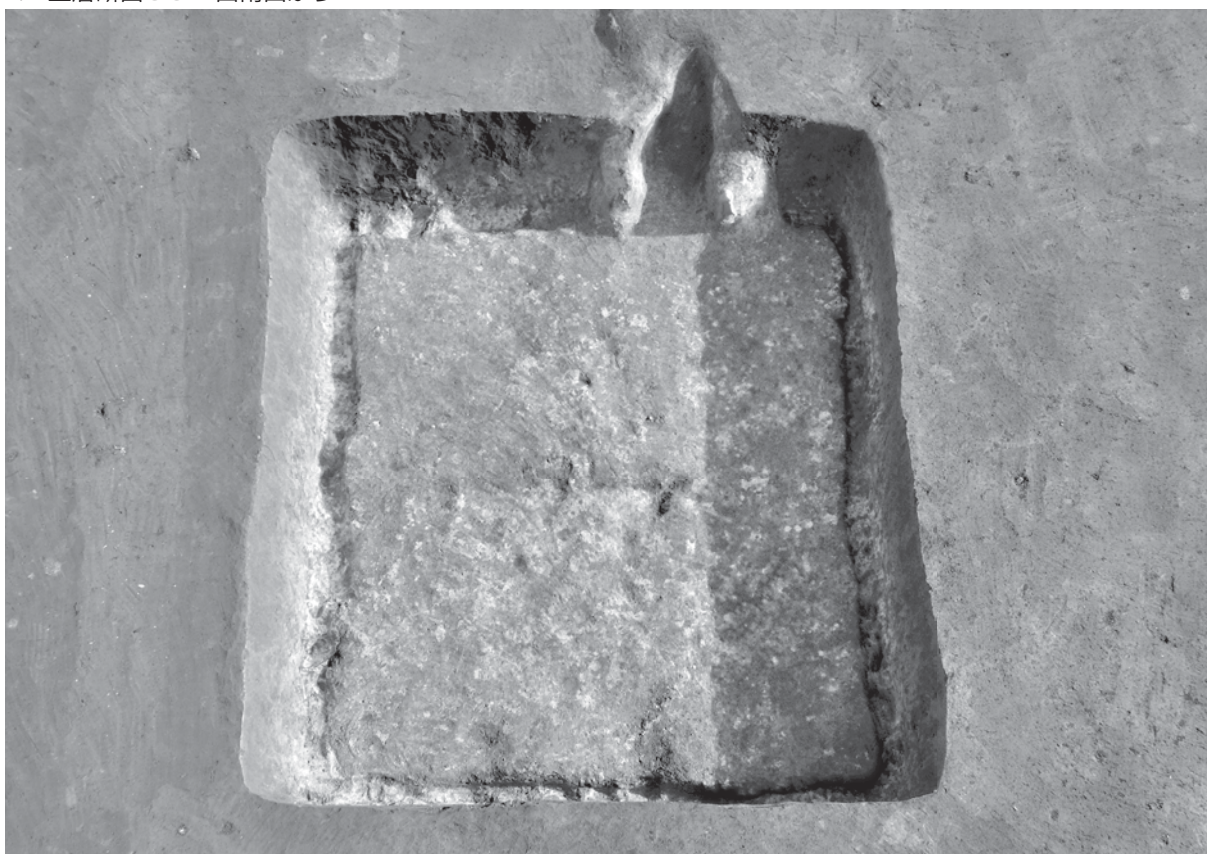
第 267 図 SI72(3) 遺物分布・接合図 (1/60)



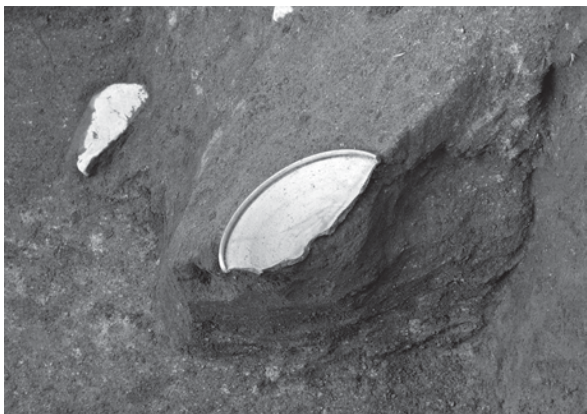
1. 土層断面 A-A' 南南東から



2. 土層断面 B-B' 西南西から



3. 床面全景 西南西から



1. カマド脇須恵器蓋出土状況 南から



2. カマド土層断面 D-D' 西南西から



3. カマド土層断面 F-F' 北半分 西南西から



4. カマド土層断面 F-F' 南半分 西南西から



5. カマド土層断面 C-C' 南南西から



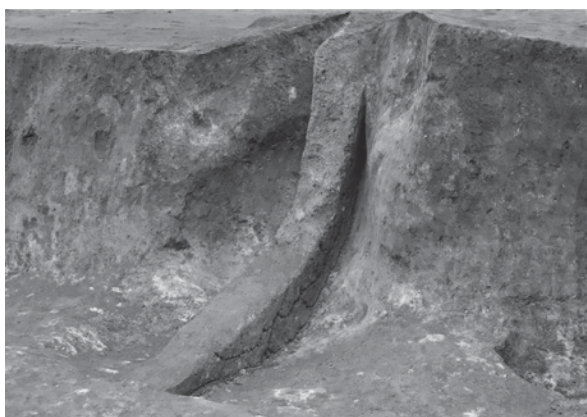
6. カマド火床面 西南西から



7. カマド掘方土層断面 D-D' 西南西から



8. カマド掘方土層断面 E-E' 西南西から



1. カマド掘方土層断面 C-C' 西南西から



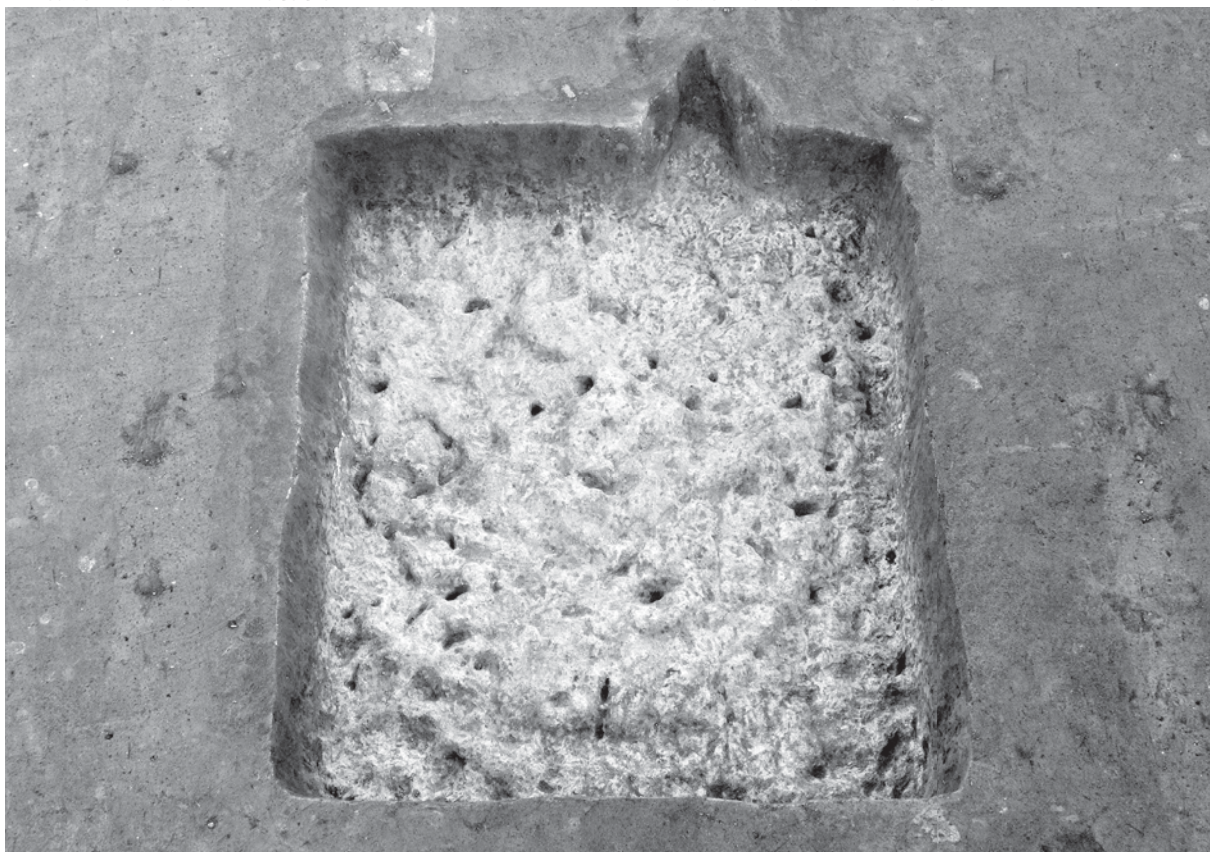
2. カマド掘方 西南西から



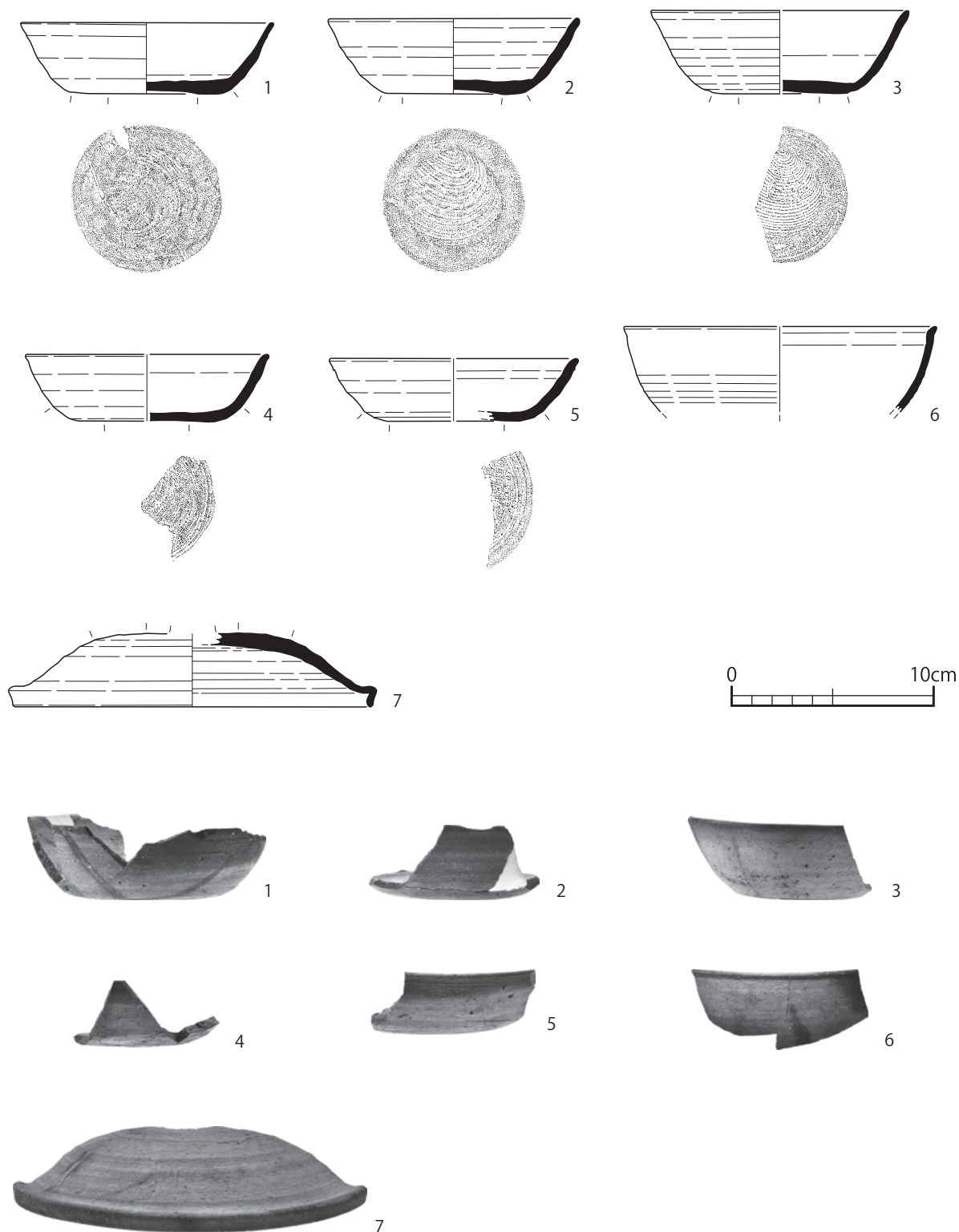
3. 掘方土層断面 A-A' 南南東から



4. 掘方土層断面 B-B' 西南西から



5. 掘方全景 西南西から



第 271 図 SI72 出土遺物 (1/3) ・写真

代の土師器 29 点 101.1g (坏 1 点 5.8g、甕 28 点 95.3g)、古代の須恵器 27 点 406.8g (坏 26 点 284.2g、蓋 1 点 122.6g)、弥生時代後期～古墳時代前期の土器 4 点 24.3g(壺 2 点 10.1g、甕 1 点 2.3g、鉢 1 点 11.9g)、被熱礫を含む礫 17 点 7,008.6g である。礫とした中には、カマドの芯材として用い

第 43 表 SI72 出土土器観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 271 図	1	SI72・ 29P-69	須恵器 坏	[12.3] 3.5 7.4	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、白色 粒子	良好	口縁部 10Y5/1 灰 体～底部 5YR6/6 橙	口縁部 1/3 底部完形	重量 110.4g 外面に火燂痕。 東金子窯
	2	SI72・ 29P-79	須恵器 坏	[12.2] 3.7 7.0	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、白色 粒子	良好	5Y4/1 灰	口縁部 1/10 底部完形	重量 74.6g 東金子窯
	3	SI72	須恵器 坏	[12.6] 4.1 [6.7]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、白色 粒子	良好	口縁部 10YR5.5/1 褐 灰 体～底部 2.5Y7/2 灰黄	口縁部 1/4 底部 1/2	重量 59.2g 内外面に火燂痕。 東金子窯
	4	SI72	須恵器 坏	[11.8] 3.3 [6.7]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、白色 粒子	良好	外面 5Y6/1 灰 内面 5Y5/1 灰 断面 (一部) 7.5YR6/6 橙	口縁部 1/10 以下 底部 1/4	重量 20.2g 東金子窯
	5	SI72	須恵器 坏	[12.2] 3.1 [7.9]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、 白色粒子	良好	外面 5Y6/1 灰 内面 5Y5/1 灰 断面 (一部) 7.5YR6/6 橙	口縁部 1/6 底部 1/4	重量 19.1g 東金子窯
	6	SI72	須恵器 碗	[15.2] (4.2)	体部は内湾気味に開く。	ロクロ成形。	砂粒、石英、 海綿骨針	良好	5Y5/1 灰	口縁部 1/6	重量 29.9g 南比企窯
	7	SI72	須恵器 蓋	[17.5] (3.6)	口縁部は強く屈曲する。	ロクロ成形。 天井部外面は回転ヘラケズリ。	砂粒、白色 粒子、石英	良好	5Y5.5/1 灰	口縁部 1/2	重量 122.6g 東金子窯

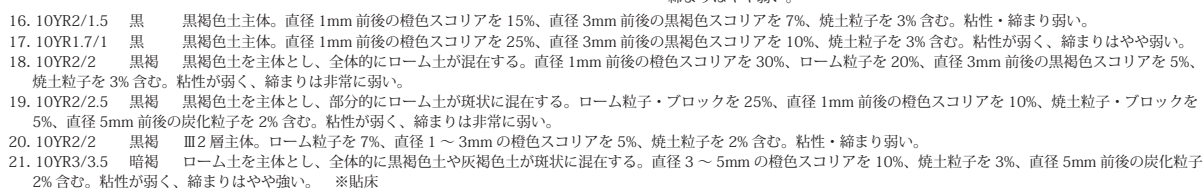
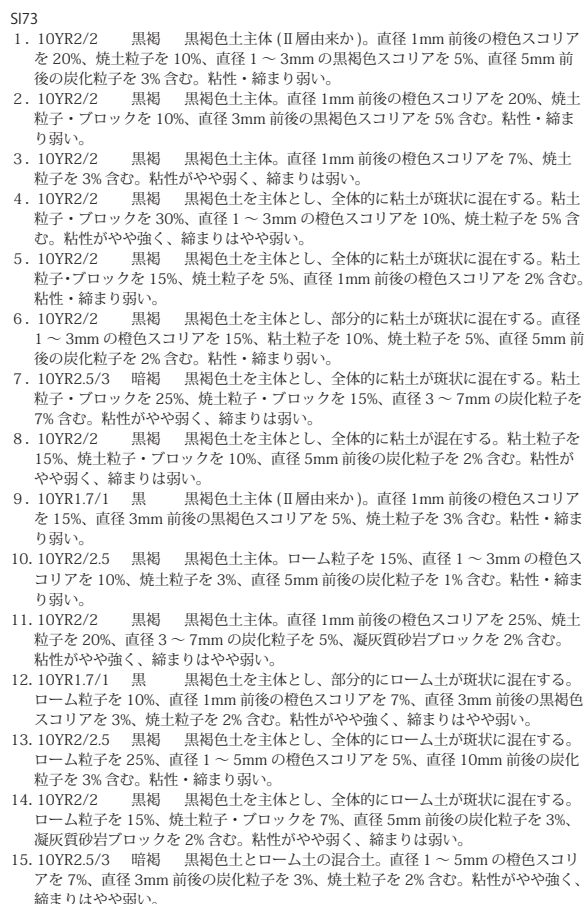
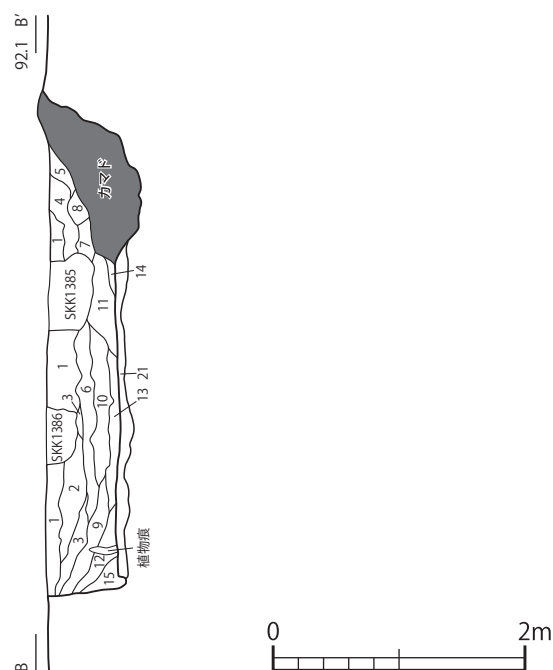
られた礫 2 点 5,337g を含む。

遺構全体を調査したにもかかわらず、遺物出土量が少ないことが本遺構の特徴である。古代の土器の器種に関しても、坏や甕といった一般的な器種が主体である。遺存状態が比較的良好な土器を抽出し、7 点の図化を行った。

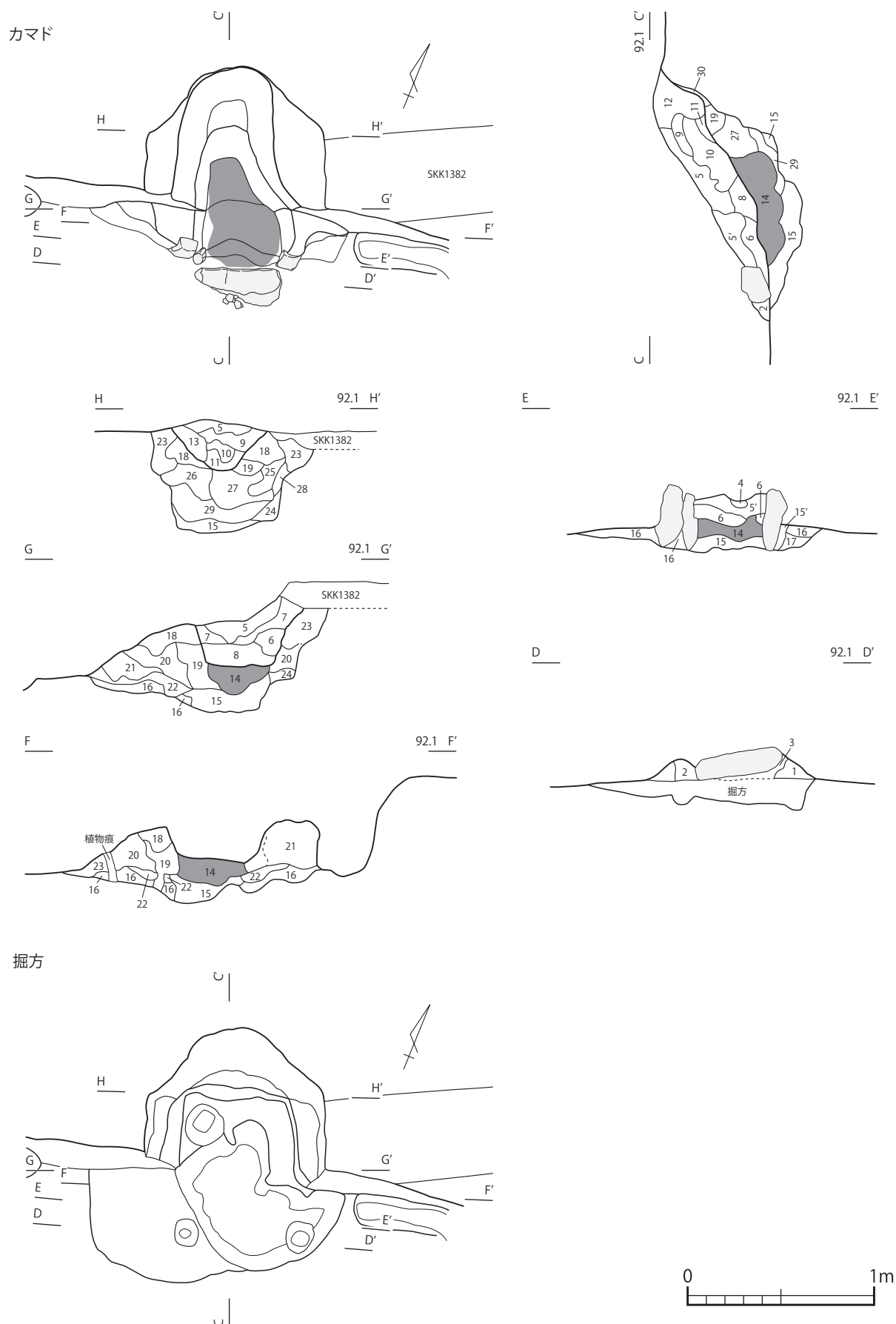
第 271 図 1～5 は須恵器坏である。1～3 は底部が完形あるいは 1/2 程度遺存する破片で、いずれも底部は回転糸切り後、外周に回転ヘラケズリを施す。口径は 12.3~12.6cm、器高は 3.5～4.1cm、底径は 1・2 が 7cm 台、3 が 6.7cm である。体部は直線的に開き、内面の体部と底部との境は比較的明瞭である。3 は 1・2 に比べ、深身と言える。4・5 も体部が底部から直線的に開く器形を呈で、底部調整も 1～3 と同様と考えられる。内面の底部から体部にかけてはなだらかで、その境はあまり目立たない。6 は須恵器碗で、体部は内湾して開き、口縁端部に内傾する面を有する。7 は須恵器蓋で、全周の 1/2 程度が依存するが、つまみを欠損する。天井部は丸みのある形状で、口縁端部は強く屈曲する形状を呈する。

須恵器坏の 1～5 はいずれも南比企窯跡群鳩山編年の H IV 期後半に位置付けられ、時期的な差異は見られない。1～5 のうち、4 の接合した破片 1 点が床面直上から出土したが、それ以外の破片は覆土からの出土である。遺物の年代観や出土状況から、本遺構の廃絶時期は 8 世紀後葉と考えられる。SI73 (第 272～280 図、第 44・45 表)

遺構 本遺構は 2-6 東区の 29P-90・100、30P-81・91 グリッドに所在する。本遺構の北西には SI72 が位置する。本遺構の一部は、近世以降の農事関連遺構群である SKK1382・1385～1387・SDK2762 に切られる。



第 272 図 SI73(1)(1/60)



第 273 図 SI73(2) カマド (1/30)

カマド

1. 10YR2/3 黒褐 黒褐色土を主体とし、全体的に粘土が混在する。粘土粒子を 15%、直径 1～3mm の橙色スコリアを 10%、焼土粒子・ブロックを 7%、直径 3～7mm の炭化粒子を 3% 含む。粘性がやや弱く、締まりは弱い。
2. 10YR3/3 暗褐 黒褐色土を主体とし、全体的に粘土が混在する。粘土粒子を 30%、焼土粒子や凝灰質砂岩ブロックを各 10%、直径 3～10mm の炭化粒子を 7% 含む。粘性・締まり弱い。
3. 10YR2/3 黒褐 黒褐色土主体。焼土粒子を 10%、凝灰質砂岩ブロックを 3%、直径 5mm の炭化粒子を 2% 含む。粘性が弱く、締まりは非常に弱い。
4. 7.5YR4/6 褐 焼土と粘土の混合土。粘性・締まり弱い。 ※ブロック状の堆積
5. 10YR3/3.5 暗褐 黒褐色土を主体とし、全体的に粘土が混在する。粘土粒子を 25%、焼土粒子を 7%、直径 3～7mm の炭化粒子を 5%、凝灰質砂岩ブロックを 3%、ロームブロックを 1% 含む。粘性・締まり弱い。
- 5'. 10YR3/3.5 暗褐 5 層と近いが、焼土の量が多く、ブロック状の焼土も含まれている。
6. 7.5YR4/6 褐 黒褐色土を主体とし、全体的に焼土や粘土が混在する。焼土粒子を 30%、粘土粒子を 15%、直径 3～5mm の炭化粒子を 3%、ロームブロックを 1% 含む。粘性・締まり弱い。
7. 10YR3/3.5 暗褐 黒褐色土を主体とし、全体的に粘土や焼土が斑状に混在する。粘土粒子・ブロックを 25%、焼土粒子を 7%、直径 3～5mm の炭化粒子を 5% 含む。粘性・締まり弱い。
8. 7.5YR3/4 暗褐 粘土を主体とし、全体的に焼土が混在する。焼土粒子・ブロックを 40%、直径 3～7mm の炭化粒子を 10%、被熱赤化した凝灰質砂岩ブロックを 2% 含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。
9. 10YR3/4 暗褐 粘土を主体とし、全体的に黒褐色土が斑状に混在する。焼土粒子を 15%、直径 3～7mm の炭化粒子を 7%、被熱赤化した粘土ブロックを 5% 含む。粘性・締まり弱い。
10. 10YR3.5/4 褐 粘土主体。直径 3～7mm の炭化粒子を 10%、焼土粒子・ブロックを 5%、被熱赤化した粘土ブロックを 3% 含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。
11. 7.5YR3.5/4 褐 被熱赤化した粘土主体。焼土粒子を 10%、直径 3～7mm の炭化粒子を 7% 含む。粘性・締まり弱い。
12. 10YR3/4 暗褐 黒褐色土を主体とし、全体的に焼土や粘土が混在する。粘土粒子・ブロックを 30%、粘土粒子を 15%、直径 3～7mm の炭化粒子を 10% 含む。粘性・締まり弱い。
13. 10YR2/3 黒褐 黒褐色土を主体とし、全体的に粘土が斑状に混在する。粘土粒子を 30%、焼土粒子・ブロックを 10%、直径 3mm 前後の炭化粒子を 7% 含む。粘性・締まり弱い。
14. 7.5YR3.5/4 褐 焼土を主体とし、全体的に粘土が混在する。焼土粒子・ブロックを 40%、直径 3～7mm の炭化粒子を 10%、被熱赤化した凝灰質砂岩ブロックを 2% 含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。 ※カマド火床部
15. 10YR3/4 暗褐 灰褐色土主体。焼土粒子・ブロックを 10%、ローム粒子・ブロックを 7%、直径 3～5mm の炭化粒子を 5% 含む。粘性が非常に弱く、締まりは弱い。 ※被熱により全体的に乾燥している。
- 15'. 10YR3/4 暗褐 灰褐色土主体。焼土粒子・ブロックを 10%、ローム粒子・ブロックを 7%、直径 3～5mm の炭化粒子を 5% 含む。粘性がやや強く、締まりは弱い。
16. 10YR2.5/3 暗褐 黒褐色土とロームの混合土を主体とし、全体的に粘土が斑状に混在する。粘土粒子・ブロックを 10%、焼土粒子を 7%、直径 5mm 前後の炭化粒子を 5%、直径 1～3mm の橙色スコリアを 3% 含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。
17. 10YR3.5/4 褐 ローム土を主体とし、全体的に黒褐色土が斑状に混在する。焼土粒子を 7%、直径 3～5mm の炭化粒子を 3% 含む。粘性がやや強く、締まりは弱い。
18. 10YR3/4 暗褐 粘土を主体とし、全体的に黒褐色土が斑状に混在する。焼土粒子・ブロックを 25%、直径 3～7mm の炭化粒子を 7% 含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。
19. 7.5YR3/4 暗褐 粘土を主体とし、全体的に焼土が混在する。焼土粒子・ブロックを 40%、直径 1～5mm の炭化粒子を 7%、ロームブロックを 5% 含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。 ※粘土を再利用したかのような混ざり方。
20. 10YR3.5/4 褐 粘土を主体とし、全体的に黒褐色土が斑状に混在する。ローム粒子・ブロックを 10%、直径 3～5mm の炭化粒子を 7%、焼土ブロックを 5%、被熱赤化した粘土ブロックを 2% 含む。粘性が弱く、締まりはやや強い。
21. 10YR3.5/4 褐 粘土を主体とし、部分的に黒褐色土が混在する。焼土粒子を 10%、直径 3～5mm の炭化粒子を 7%、凝灰質砂岩ブロックを 3% 含む。粘性がやや弱く、締まりはやや強い。
22. 10YR3/4 暗褐 粘土を主体とし、黒褐色土とローム土が混在する。焼土粒子・ブロックを 15%、直径 3mm 前後の炭化粒子を 5% 含む。粘性がやや弱く、締まりは弱い。
23. 10YR3/3.5 暗褐 黒褐色土と粘土の混合土。焼土粒子・ブロックを 10%、直径 3～5mm の炭化粒子を 5%、褐色土 (Ⅲ3層由来) ブロックを 3% 含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。
24. 10YR4/4 褐 褐色土 (Ⅲ3・Ⅳ層由来) 主体。焼土粒子・ブロックを 7%、直径 3～5mm の橙色スコリアや直径 1～3mm の炭化粒子を各 3% 含む。粘性が弱く、締まりはやや強い。
25. 7.5YR3/3 暗褐 黒褐色土と粘土の混合土。焼土粒子・ブロックを 15%、直径 3～5mm の炭化粒子を 5% 含む。粘性が弱く、締まりは非常に弱い。
26. 10YR4/3 にぶい黄褐 粘土を主体とし、部分的に褐色土 (Ⅲ3層由来) が斑状に混在する。焼土粒子を 10%、直径 3～5mm の炭化粒子を 7%、被熱赤化した粘土ブロックを 1% 含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。
27. 7.5YR3.5/4 褐 粘土を主体とし、部分的に黒褐色土が斑状に混在する。焼土粒子・ブロックを 30%、直径 3～7mm の炭化粒子を 10% 含む。粘性が非常に弱く、締まりは弱い。
28. 10YR3/4 暗褐 褐色土 (Ⅲ3層由来) を主体とし、全体的に粘土が混在する。粘土粒子を 20%、焼土粒子を 10%、直径 3～5mm の炭化粒子を 7% 含む。粘性、締まりやや強い。
29. 7.5YR4/6 褐 粘土とローム土の混合土。焼土粒子・ブロックを 20%、直径 3～5mm の炭化粒子を 10% 含む。粘性が非常に弱く、締まりは弱い。

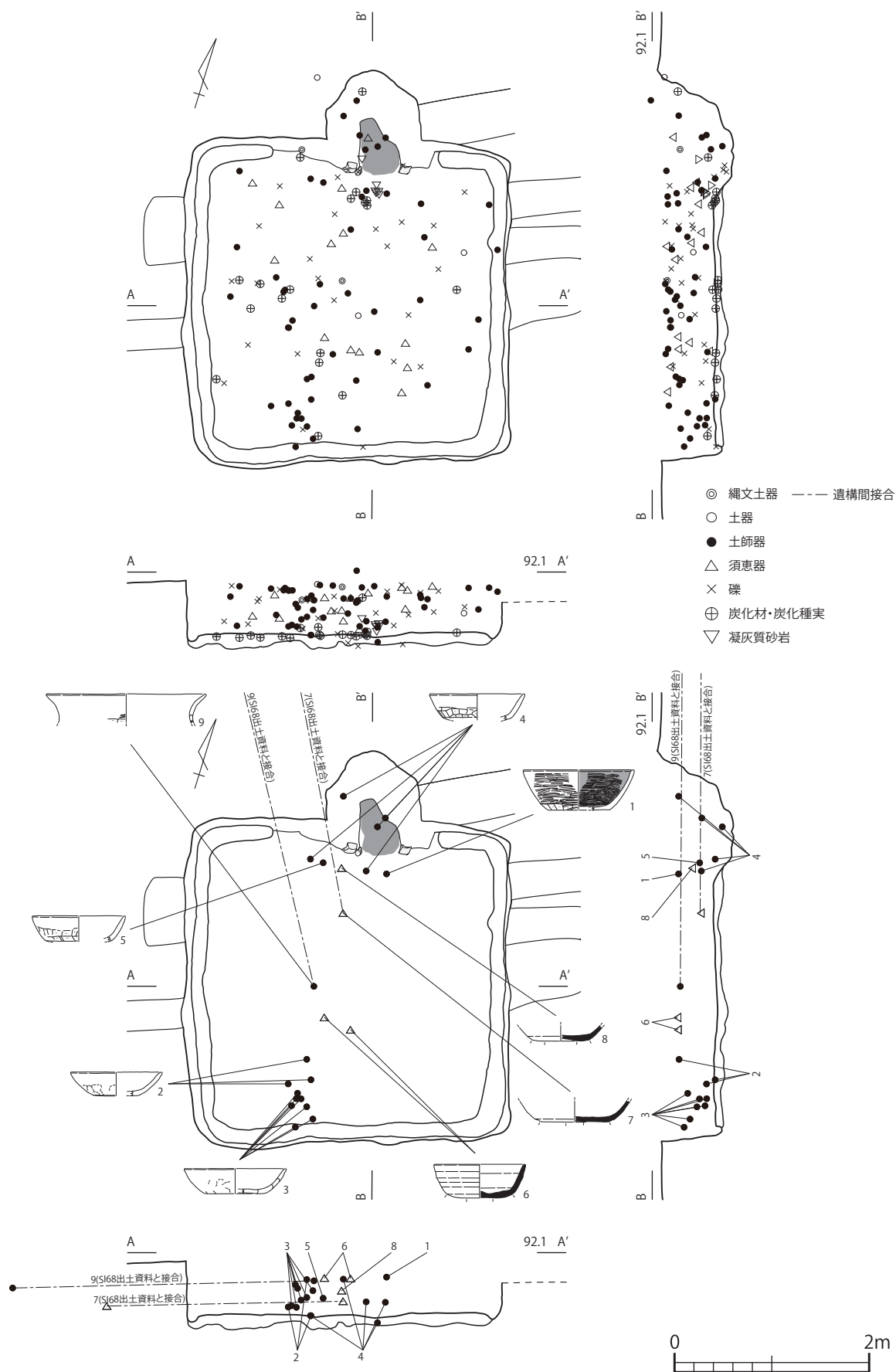
第 274 図 SI73(3) カマド

平面プランは一辺 320～340cm の方形を呈する。検出面はⅢ 2 層上面で、周辺の SI68 や SI72 とともに検出した。主軸は N-16°-W を指す。

床面までの覆土は 20 層に分層した。各層位の様相から、ローム粒子あるいはロームブロックの有無で大別される。ローム粒子やロームブロックを含む層は 10・12～14・18・19 層で、覆土下層、床面直上に堆積する。これよりも上部の層位についてはどれも黒褐色土主体で、主に覆土の上層から中層にかけて堆積する。15 層は壁溝の覆土である。こうした状況から、本遺構廃絶後に多少の人為的な埋戻しあるいはそれに近い行為が行われたが、完全に埋没することはなく、その後は自然堆積により遺構全体が埋没するに至ったと推察される。

床面は貼床で、ローム土をベースとして黒褐色土や灰褐色土が混在する土が用いられている。床面を精査したところ、カマド以外の壁際に壁溝がめぐることを確認したが、柱穴等は認められなかった。壁溝の内側の範囲を硬化範囲として認識した。

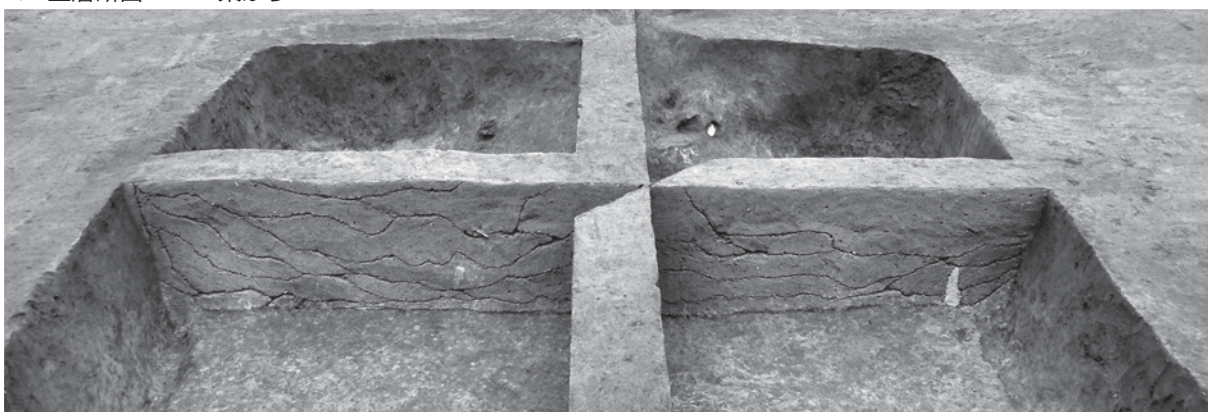
本遺構に伴うカマドは北壁の中央よりわずかに東寄りの位置に造られていた。壁の一部を「U」字形に掘り込み、カマドの掘方としている。カマド焚口を塞ぐようにして、切石状の凝灰質砂岩が出土



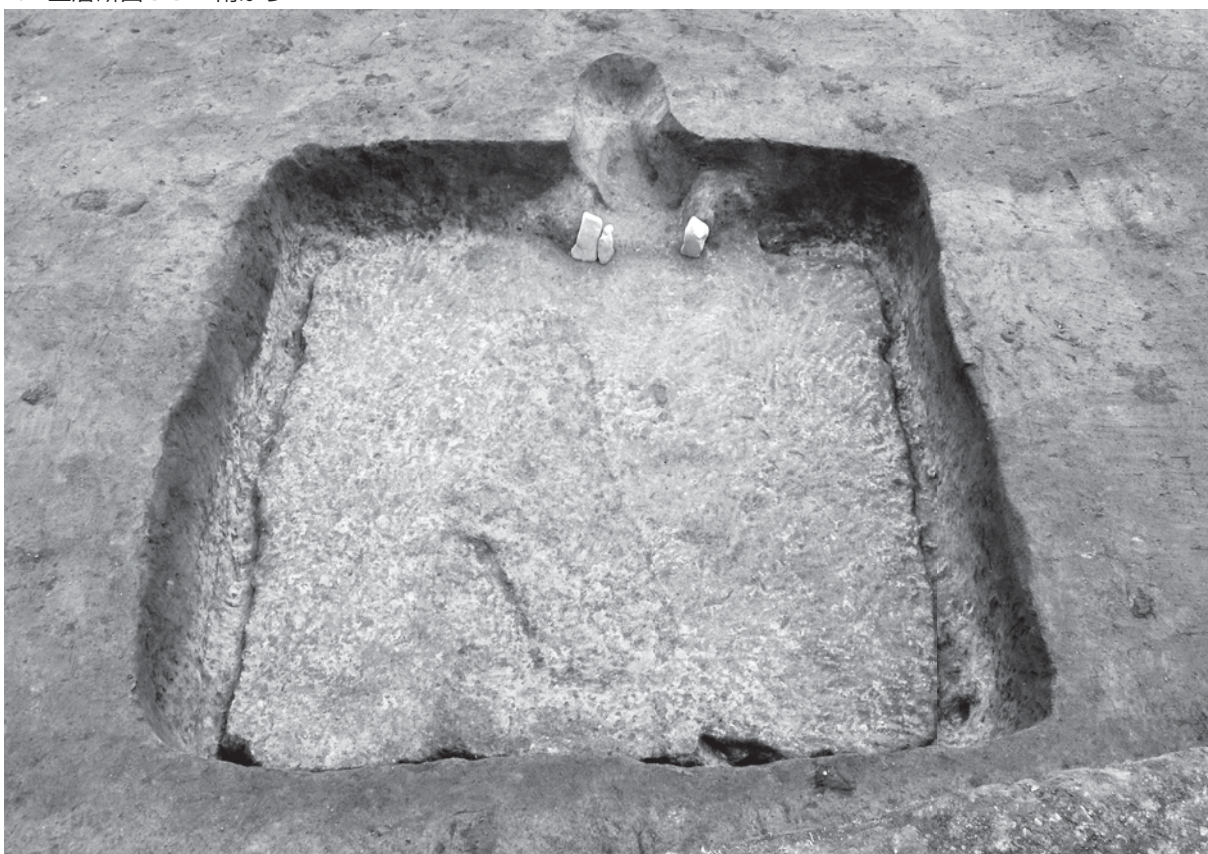
第 275 図 SI73(4) 遺物分布・接合図 (1/60)



1. 土層断面 A-A' 東から



2. 土層断面 B-B' 南から



3. 床面全景 南から



1. 床面直上炭化材出土状況 西北西から



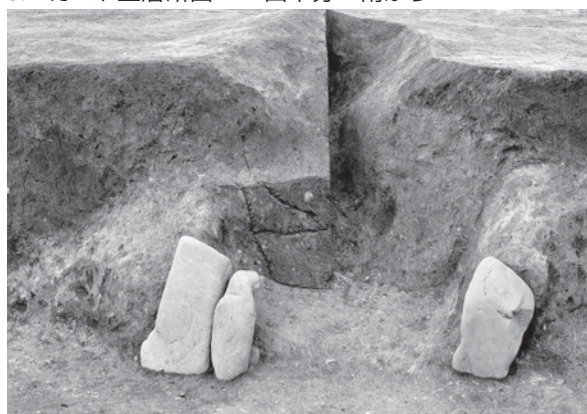
2. カマド凝灰質砂岩・袖石検出状況 南南東から



3. カマド土層断面 E-E' 西半分 南から



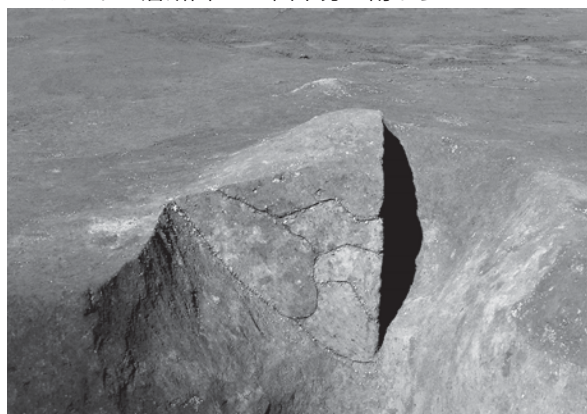
4. カマド土層断面 E-E' 東半分 南から



5. カマド土層断面 G-G' 西半分 南から



6. カマド土層断面 G-G' 東半分 南から



7. カマド土層断面 H-H' 西半分 南から

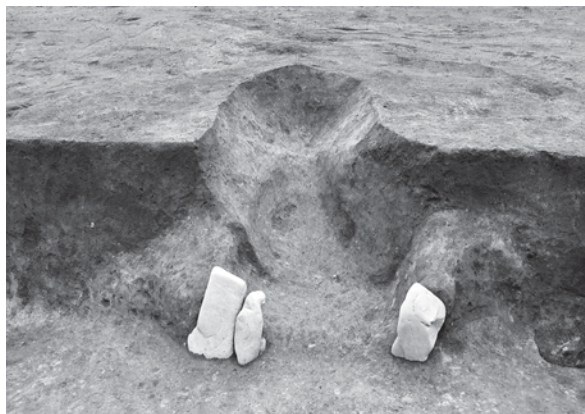


8. カマド土層断面 H-H' 東半分 南から

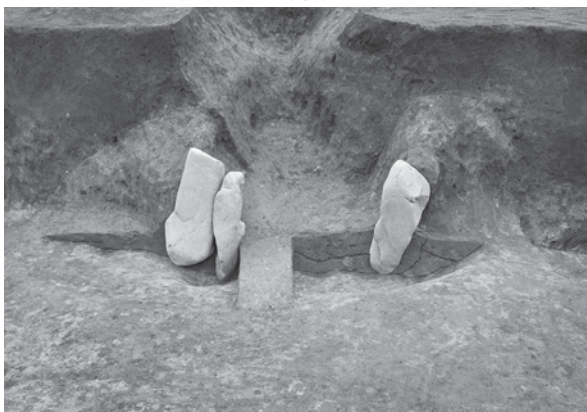
第 277 図 SI73 写真 (2)



1. カマド土層断面 D-D' 南東から



2. カマド火床面 南から



3. カマド掘方土層断面 E-E' 南から



4. カマド掘方土層断面 F-F' 南から



5. カマド掘方土層断面 G-G' 南から



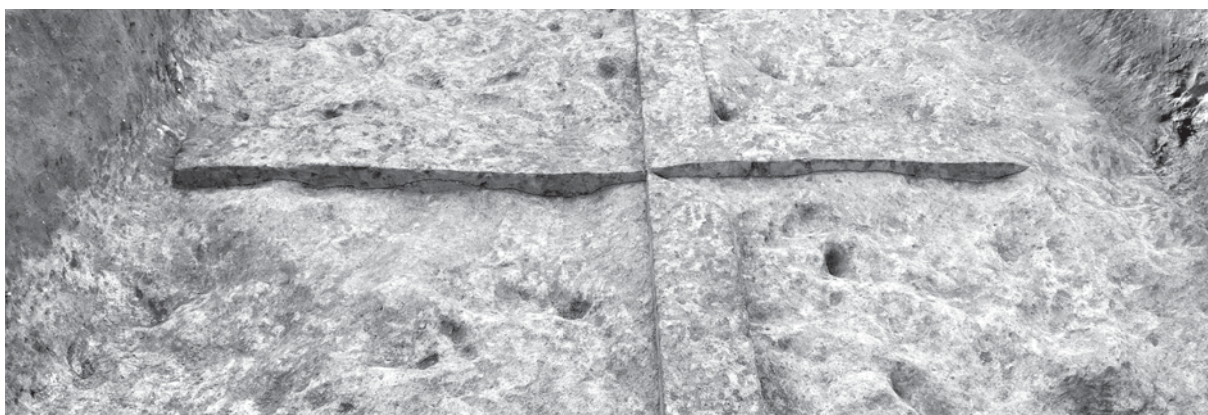
6. カマド掘方土層断面 H-H' 南から



7. カマド掘方土層断面 C-C' 南から



8. カマド掘方 南から



1. 掘方土層断面 A-A' 東から



2. 掘方土層断面 B-B' 南から



3. 掘方全景 南から

した（第 277 図 2）。大きさは長さ約 57cm、最大幅 20cm である。その両脇からは袖部の芯材として用いられた礫が出土しており、この凝灰質砂岩製の切石はカマドの焚口天井部に掛けられていたと考えられる。カマドの調査を進める中で、このカマドは上部構造がかなり壊された状態であることが分かった。天井部が崩落したような砂質粘土主体となる層が部分的にあるのみで、砂質粘土主体の層が火床部全体を覆うような堆積をしていないからである。砂質粘土主体の層は、C-C' や H-H' 土層断面にある 10・11 層のみである。凝灰質砂岩の出土状況を考え合わせると、カマドの粘土を採取する目的等で、天井部付近を大きく破壊したのではないだろうか。

カマド火床部は両袖の中央で検出した。火床部とした 14 層には、焼土主体で全体的に砂質粘土が混在していたほか、被熱赤化した凝灰質砂岩ブロックも微量ながら含まれていた。このカマドでは、右袖部に 1 つ、左袖部には大小 2 つの礫がそれぞれ芯材として据えられていた。E-E' 断面で見ると、右袖の芯材と左袖の大きい方の芯材の上面が揃っていることが分かる。左右の芯材の距離は約 50cm、出土した凝灰質砂岩は遺存する長さが 57cm であることから、焚口天井部に凝灰質砂岩を掛けることは可能である。

カマド掘方の調査では、カマド袖部に用いられた砂質粘土がかなり使い回されてることが分かった。このカマドでは純度の高い砂質粘土はあまり見られず、18・19 層のように全体的に焼土が混在するものや、20 層や 21 層のように被熱赤化した粘土ブロックや凝灰質砂岩ブロックを含むものの方が多かった。

建物の掘方は全面が V 層に達しており、所々に浅く窪む範囲があるものの、大きな凹凸は見られなかった。A-A'・B-B' 土層断面の 21 層が貼床であり、掘方充填土でもある。掘方を精査したが、ここでも柱穴等は見つかっていない。

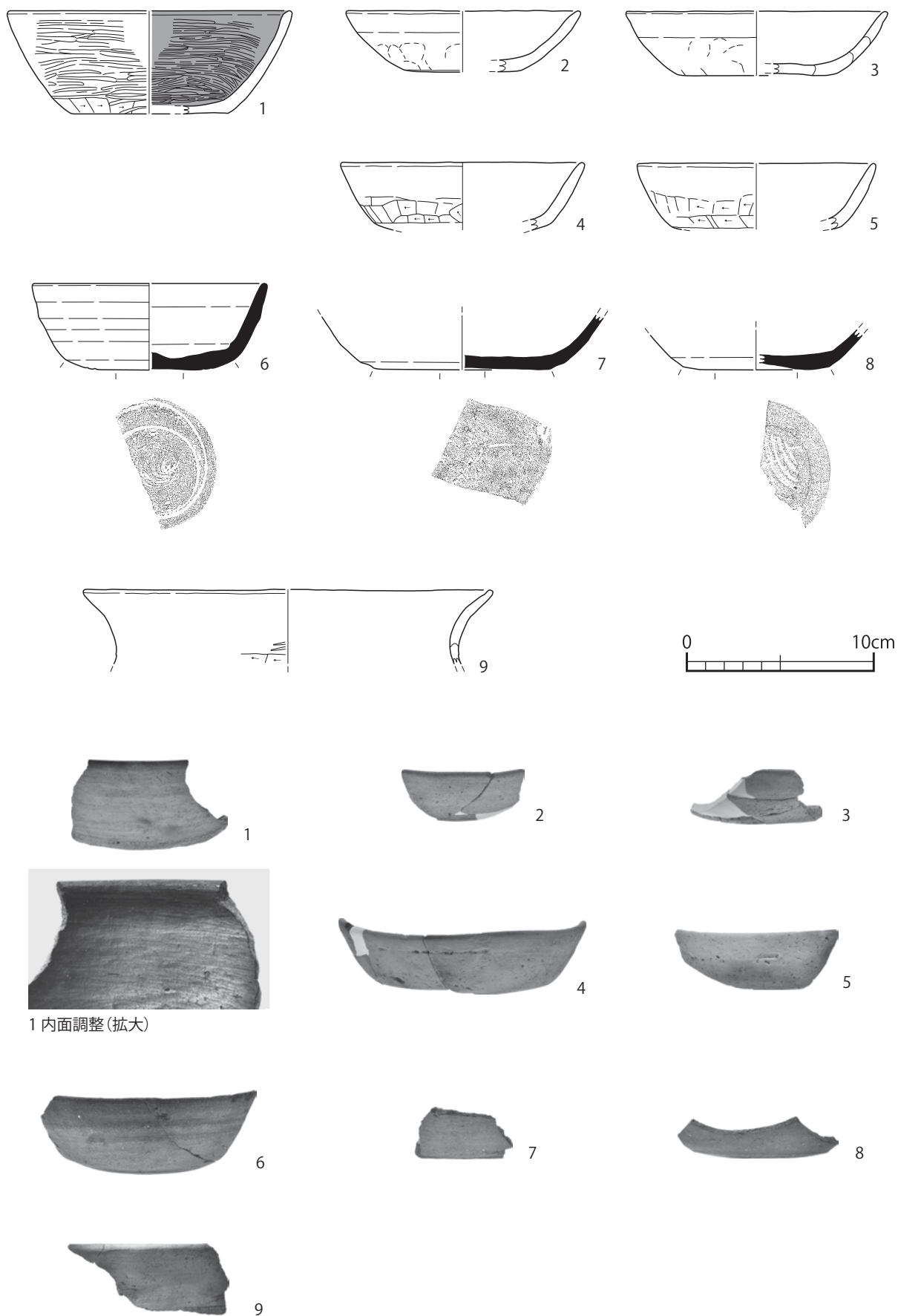
第 275 図の遺物分布図によると、建物全体から遺物が出土している。炭化材の大部分は床面直上から出土しており、覆土中にはほとんど含まれていない。土師器や須恵器については、覆土から出土したものが大半を占め、床面直上から出土した遺物は少数である。

遺物 本遺構からは、総点数 114 点、総重量 27,238.9g が出土した。種別・器種ごとの内訳は、古代の土師器 51 点 302g（坏 20 点 185.9g、甕 31 点 116.1g）、古代の須恵器 14 点 220.1g（坏 12 点 189.7g、甕 1 点 4.4g、瓶あるいは壺 1 点 26g）、縄文土器 2 点 58.1g（諸磯 b 式 1 点 43.6g、勝坂 1 式 1 点 14.5g）、弥生時代後期～古墳時代前期の土器 3 点 12.6g（壺 1 点 4.1g、甕 1 点 2.2g、台付甕 1 点 6.3g）、凝灰質砂岩 15 点 11,263g、被熱礫を含む礫 29 点 15,383.1g である。これら以外に炭化物も出土した。

本遺構の特色として、須恵器よりも土師器の方が多く出土しており、土師器坏が一定量含まれている点が挙げられる。また、凝灰質砂岩はカマド構築材として用いられたもので、その大部分に加工面が認められ、中には切石状の凝灰質砂岩も含まれていた。縄文土器や弥生時代後期～古墳時代前期の土器は、混入したものと考えられる。

古代の土師器や須恵器から、遺存状態が比較的良い個体を選び、図化を行った。本遺構の古代の土器は遺構内で接合した場合が大部分を占めるが、SI68 や遺物包含層から出土した破片と接合したケースが一部含まれている。

第 280 図 1～5 は土師器で、1 は埴、2～5 は坏である。1 は平底の底部で、体部は底部から内



第 280 図 SI73 出土遺物 (1/3) ・写真

湾気味に開く器形を呈する。内面には黒色処理を施し、横位のミガキが認められる。底部調整は手持ちヘラケズリである。2・3は南武蔵型坏で、体部外面には指おさえの痕跡が見られ、底部はヘラケズリによる調整と考えられる。4・5は相模型坏で、体下部には横位にヘラケズリを施す。それぞれを図化したため法量にばらつきがあるが、これらは同一個体の可能性が考えられる。

6～8は須恵器坏である。6は全体的に厚手のつくりで、重量感のある須恵器である。体部は底部から直線的に開く形状で、底部は回転糸切り後、外周に回転ヘラケズリを施す。外面では体部と底部の境が曖昧で、底部のヘラケズリが体部の一部にも及ぶ。7の底部調整は不明瞭だが、8は回転糸切り後、外周に回転ヘラケズリを施す。6は東金子窯、7・8は南比企窯の製品である。9は土師器甕の口縁部である。口縁部は頸部から緩やかに外反する。

相模型坏の4・5は、田尾誠敏による分類のb段階に、須恵器坏の6は南比企窯跡群鳩山編年のHⅣ期後半にそれぞれ比定される。4～6の大部分は覆土中から出土しており、本遺構の廃絶時期は8世紀第4四半期と捉えられる。なお、4の接合した破片のうち数点がカマド掘方から出土していることから、建物の使用時期と廃絶時期にあまり時間差がないと推察する。(小西)

第44表 SI73 出土土器観察表

※法量の()は残存、[]は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 280 図	1	SI73	土師器 坏	[15.0] 5.5 [8.4]	体部は底部からやや内湾気味に開く。	外面のうち、口縁部は横位のナデ、体部は横位のミガキ、底部付近は手持ちヘラケズリ。 内面は横位のミガキ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 10YR6/4 にぶい黄橙 内面 N1.5/ 黒	口縁部 1/8 底部 1/4	重量 58.4g 内面黒色処理
	2	SI73	土師器 坏	[12.3] 3.2 [6.2]	体部は底部から内湾気味に開く。	外面のうち、口縁～体上部は横位のナデ、体下部は指おさえ、底部はヘラケズリか。 内面はナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	7.5YR7/5 にぶい橙	口縁部 1/6	重量 19.5g 南武蔵型
	3	SI73	土師器 坏	[13.9] 3.4 [8.3]	体部はやや内湾気味に開く。	外面のうち、口縁～体上部は横位のナデ、体下部は指おさえ、底部はヘラケズリか。 内面はナデ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	10YR7/6 にぶい黄橙	底部 1/4	重量 28.0g 南武蔵型
	4	SI73	土師器 坏	[12.9] (3.6) [9.5]	体部は直線的に開く。	外面のうち、口縁～体上部は横位のナデ、体下部は横位のヘラケズリ。	砂粒、赤褐色粒子	やや軟質	7.5YR6.5/6 橙	口縁部 1/2	重量 52.4g 相模型坏 第280図5と同一個体か。
	5	SI73	土師器 坏	[12.6] (3.5) [9.0]	体部は直線的に開く。	外面のうち、口縁～体上部は横位のナデ、体下部は横位のヘラケズリ。	砂粒、赤褐色粒子	やや軟質	7.5YR6.5/6 橙	口縁部 1/4	重量 20.5g 相模型坏 第280図4と同一個体か。
	6	SI73	須恵器 坏	[12.3] 4.6 [7.1]	体部は底部から直線的に開く。全体的に厚手のつくり。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。ヘラケズリが体下部におよぶ。	礫、砂粒、白色粒子	良好	口縁部外面 2.5Y5/1 黄灰 体～底部外面 7.5YR6/3 にぶい褐 内面 2.5Y5/2 暗黄灰	口縁部 1/3 底部 2/3	重量 97.1g 東金子窯
	7	SI73・SI68	須恵器 坏	(2.6) [9.5]	体部は底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転ヘラケズリか。	小礫、砂粒、白色粒子、海綿骨針	良好	N5/ 灰	底部 1/6	重量 56.0g 南比企窯
	8	SI73	須恵器 坏	(1.8) [7.9]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、白色粒子、海綿骨針	良好	2.5Y5/1 灰	底部 1/3	重量 32.7g 南比企窯
	9	SI73・SI68	土師器 甕	[21.6] (3.9)	口縁部は緩やかに外反して開く。	頸～胴上部外面は横位のヘラケズリ。	砂粒	良好	5YR5/6 明赤褐	口縁部 1/8	重量 21.7g 武蔵型甕

第 45 表 古代竪穴建物跡一覧表

遺構名	グリッド	挿図番号		平面形態	規模 (cm)			主軸方向	検出面	主柱穴	カマド	壁溝	遺物	備考 (重複関係等)
		図面	写真		長軸	短軸	深さ							
SI58	28Q-45・46・56	第163 ～169図	第170 ～173図	長方形	501	411	76	N-20°-W	II 3	—	北	○	縄文土器 8 点 82.6g、土器82点371.6g、土師器2,045点8,179.3g、須恵器375点2,946.2g、陶器 1 点 2.3g、石器 5 点 50.7g、石製品 1 点 49.8g、金属製品 27 点 55.7g、礫 19 点 4,646.5g、焼礫 157 点 9,121.7g、炭化種実 26 点、炭化材、焼成粘土塊 34 点 273.8g、凝灰質砂岩 215 点 20,211.7g	棚状施設あり。 SI63、SK194・211、SP784・925に切られる。
SI61	27Q-50・60	第181図	第182図	(隅丸長方形) (※)	(187)	(106)	90	(N-24°-W)	II 3	(—)	(—)	○	土師器 11 点 53.5g、須恵器 3 点 122.1g、石器 1 点 1.1g、礫 1 点 109.6g、焼礫5点173.9g	※日野市調査の竪穴建物跡の「張り出し構造」と推定される。 SDK1220・1222、攪乱に切られる。
SI63	28Q-35・36・45・46	第184 ～191図	第192 ～197図	隅丸長方形	623	429	61	N-97°-W	II 3	4 (※)	東 ↓ 北 ↓ 西	—	縄文土器 2 点 16.0g、土器 22 点 128.3g、土師器 1,021 点 3,991.1g、須恵器515点3,694.9g、ロクロ土師器24点107.6g、石器3点470.7g、金属製品 6 点 20.0g、礫 9 点 2,779.2g、焼礫 41 点 4,855.5g、炭化材、焼成粘土塊13点23.9g、凝灰質砂岩21点68.6g	*主柱穴は掘方にて検出。 SI58、SP784・937・939・940・946を切る。SD12、SK207、SKK974に切られる。
SI64	28Q-32・33・42・43	第206 ～211図	第212 ～215図	方形	493	422	79	N-6°-E	II 3	—	北	○	縄文土器14点132.5g、土器17点114.2g、土師器1,180点5,679.9g、須恵器 109 点 2,107.4g、石器 3 点 22.7g、石製品 4 点 4,808.3g、金属製品 8 点 109.3g、礫 14 点 10,693.1g、焼礫 37 点 15,224.3g、炭化材、焼成粘土塊 7 点 23.8g	SI62、SP769を切る。SK217、攪乱に切られる。
SI67	29P-75・84・85・86	第223 ～228図	第229 ～231図	長方形	458	456	73	N-23°-W	III 1	—	北	○	縄文土器 4 点 33.0g、土器 41 点 149.3g、土師器 1,749 点 13,007.5g、須恵器71点541.5g、石製品 2 点 35.1g、礫 11 点 1,256.7g、焼礫 80 点 5,102.5g、炭化材、焼成粘土塊 3 点 7.7g、凝灰質砂岩 25 点 10,597.0g	SKK1486、攪乱に切られる。
SI68	29P-69	第240 ～242図	第243 ～245図	隅丸長方形	382	290	32	N-85°-E	III 2	—	東	○	縄文土器2点21.9g、土器1点1.4g、土師器129点581.0g、須恵器24点265.1g、石製品1点199.4g、礫3点403.6g、焼礫20点2,737.1g、焼成粘土塊 3 点 33.5g	SK232、SP951、SKK1353に切られる。
SI69	28Q-17・27	第247 ～253図	第254 ～257図	隅丸方形	421	338	46	N-17°-W	III 1	—	北	—	縄文土器 3 点 17.6g、土器 19 点 118.8g、土師器 488 点 2,890.4g、須恵器 296 点 6,102.0g、灰釉陶器 28 点 134.4g、石器 1 点 2.2g、金属製品 2 点 48.1g、礫 6 点 254.5g、焼礫 21 点 4,374.1g、炭化材、焼成粘土塊 1 点 10.3g、凝灰質砂岩 5 点 14,090.0g	攪乱に切られる。
SI72	29P-79・89	第265 ～267図	第268 ～270図	長方形	380	295	58	N-73°-E	III 2	—	東	○	土器 4 点 24.3g、土師器 29 点 109.4g、須恵器 27 点 406.8g、礫 1 点 6.8g、焼礫 16 点 7,001.8g	SKK1392に切られる。
SI73	29P-90・100・30P-81・91	第272 ～275図	第276 ～279図	方形	409	337	66	N-16°-W	III 2	—	北	○	縄文土器 2 点 58.1g、土器 3 点 12.6g、土師器 51 点 302.0g、須恵器 14 点 220.1g、礫3点13,690.0g、焼礫26点1,693.1g、炭化材、凝灰質砂岩 6 点 11,263.0g	SDK2762、SKK1382・1385・1386・1387に切られる。

※ () 内は、遺存範囲内での数値・状況を示す。遺物欄で土器としたものは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器を指す。

2) 掘立柱建物跡 (第 282 ～ 291 図、第 46 ・ 50 表)

古代に帰属すると判断したピット 78 基のうち、25 基については掘立柱建物跡 D ～ F を構成するものと判断し、ここで扱う。掘立柱建物跡 D ・ E は調査区中央部付近に並ぶように位置しており、近隣の SI58 及び SI69 と軸方向がほぼ同じである。発掘調査の時点では、このピット群が 1 棟の総柱建物跡である可能性も考えたが、検討の結果、2 棟の掘立柱建物として報告する。

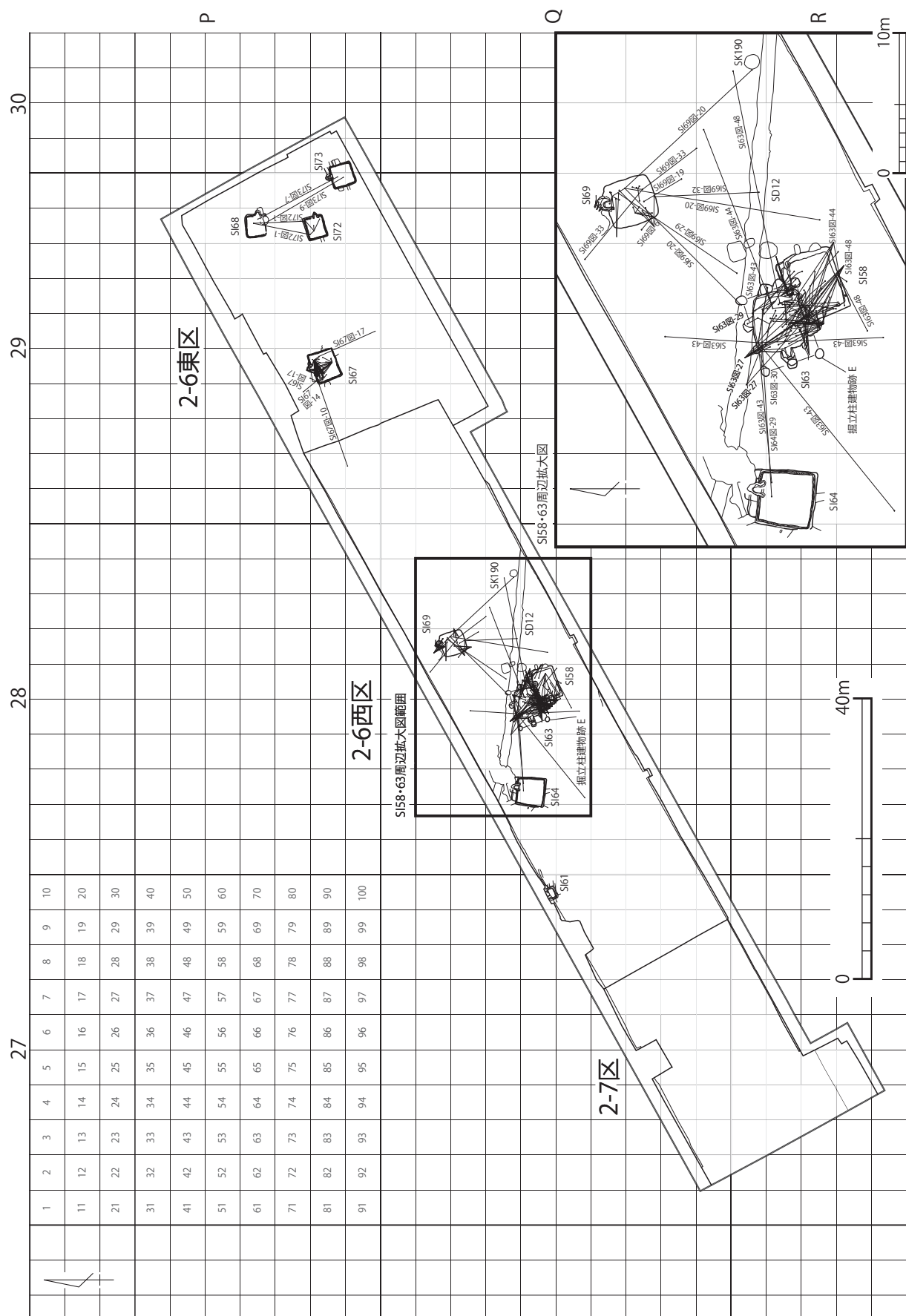
帰属時期については、出土遺物や覆土の様相、他の遺構との切り合い関係から古代と判断した。

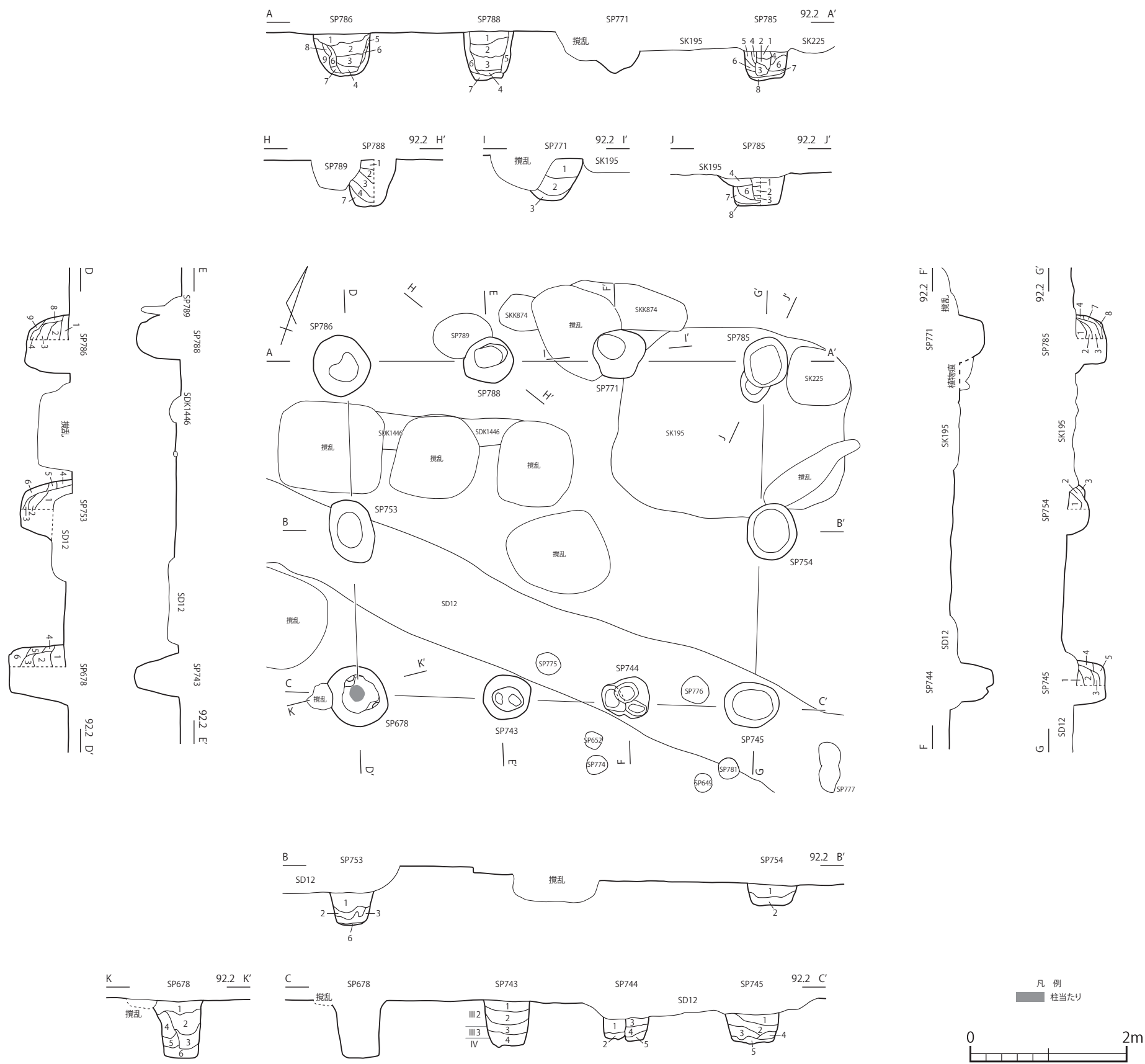
また、各ピットについての発掘調査時の番号 (遺構略号 SP) は個別番号のままとし、掘立柱建物跡としての名称は、2023 ・ 2024 年度報告分からの続きで D ～ F とした。

なお、各ピットの規模等については第 50 表に示している。

掘立柱建物跡 D (第 282 ～ 286 図、第 46 ・ 50 表)

遺構 調査区中央部付近の 28Q-27 ・ 36 ～ 38 ・ 47 グリッドで検出された、SP678 ・ 743 ・ 744 ・ 745 ・ 753 ・ 754 ・ 771 ・ 785 ・ 786 ・ 788 の 10 基のピットからなる掘立柱建物跡である。





第 282 図 掘立柱建物跡 D(1) SP678・743～745・753・754・771・785・786・788(1/60)

掘立柱建物跡 D

SP678

- 10YR2/1 黒色土層 直径 8mm 以下の焼土粒子 7%、直径 3mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)10%、直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)3%、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 10mm 以下の焼土粒子 7%、直径 3mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)5%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)5%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 15mm 以下のロームブロック (10YR5/8)2%、黒色土 (10YR1.7/1) 斑文状に 10% 含む。粘性強、締まりなし、粒子極めて粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)5%、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下のロームブロック (10YR4/4)7%、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子極めて粗い。
- 10YR2/3 黒褐色土層 ローム (10YR5/8)30% 偏在。直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2% 含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子粗い。

SP743

- 10YR2/1 黒色土層 直径 8mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)5%、直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)2%、直径 5mm 以下の黒褐色スコリア 3% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。
- 10YR2/1.5 黒～黒褐色土層 直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)2%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)1%、直径 1mm 以下の黒褐色スコリア 1%、直径 20mm 以下の黒褐色土ブロック (10YR2/2)10% 含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ2 層土由来土層。直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。

SP744

- 10YR1.7/1 黒色土層 やや砂質。直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子やや密。
- 10YR3/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子密。
- 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)3%、直径 3mm 以下の焼土粒子 1%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)1% 含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。
- 10YR3/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。

SP745

- 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)3%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
- 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)3%、直径 5mm 以下の黒褐色スコリア 2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 ローム (10YR4/4)10% 偏在。直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR5/8)2%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/6)2% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子やや密。
- 10YR3/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。

SP753

- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 5%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
- 10YR2/3 黒褐色土層 直径 5mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 10mm 以下のロームブロック (10YR4/4)20%、直径 7mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
- 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2%、直径 2mm 以下の黒色土粒子 (10YR2/1)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
- 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや密。

SP754

- 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)2%、直径 1mm 以下のローム粒子 (2.5Y5/6)1% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)2% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。

SP771

- 10YR2/1 黒色土層 直径 10mm 以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/6)5%、直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)3%、直径 3mm 以下の暗褐色スコリア 2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/6)2%、直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土主体。直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (2.5Y4/8)2% 含む。粘性強、締まり強、粒子密。

SP785

- 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)5%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子極めて粗い。顆粒状を呈する。
- 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 黒褐色土 (10YR2/3) をブロック状に 30% 含む。直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)2%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子極めて粗い。顆粒状を呈する。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 8mm 以下のロームブロック (10YR6/8)5%、長さ 8mm 以下の炭化材片 1% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 直径 8mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや粗い。
- 10YR2/3 黒褐色土層 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)1%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
- 10YR3/2 黒褐色土層 Ⅲ2 層土主体。黒褐色土 (10YR2/2) 斑文状に 20% 偏在。直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。

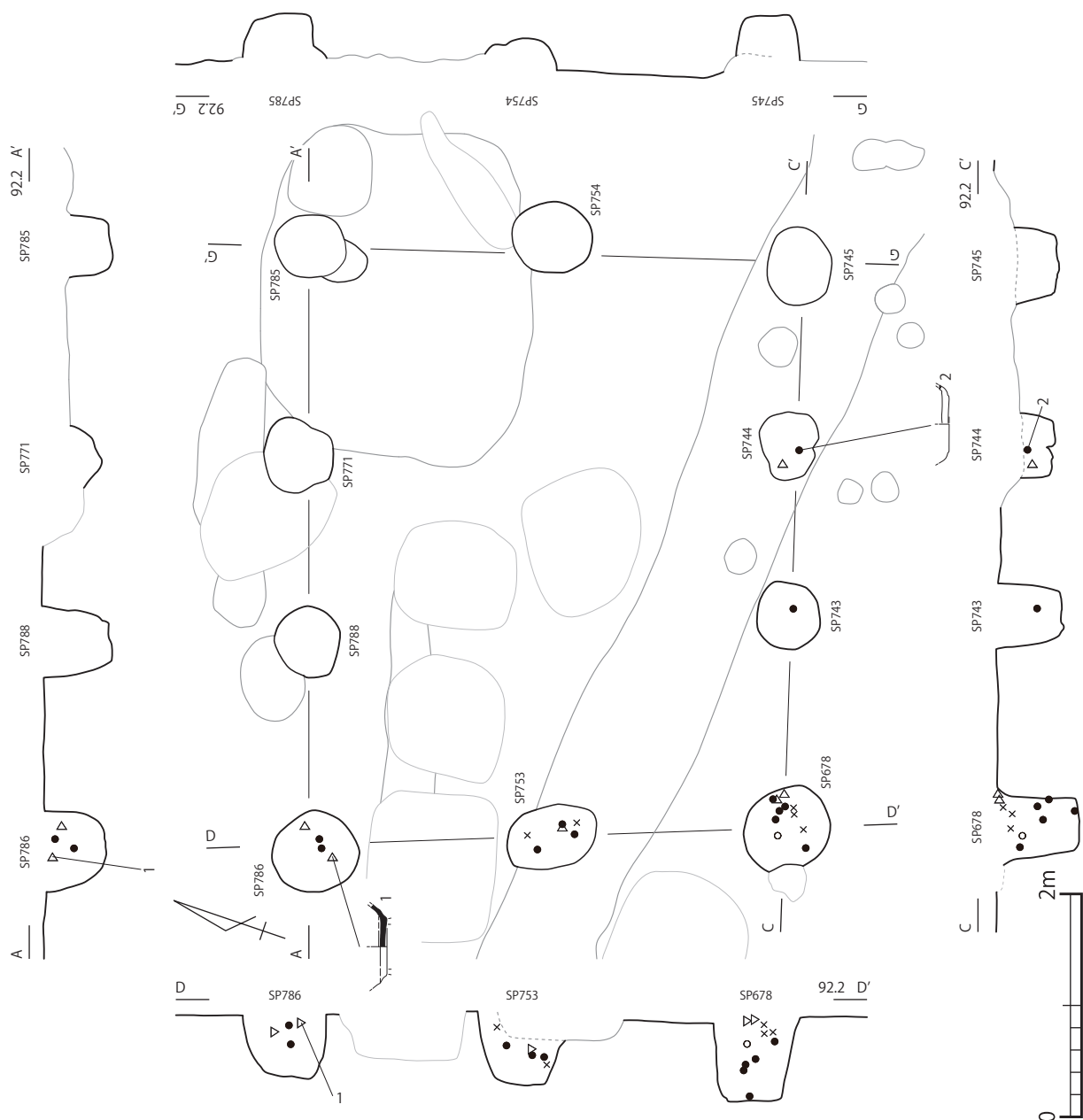
SP786

- 10YR2/1.5 黒～黒褐色土層 直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)5%、直径 3mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)7%、直径 8mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)3%、直径 5mm 以下のローム粒子 (7.5YR4/6)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。顆粒状・ブロック状を呈する。
- 7.5YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)3%、直径 7mm 以下のローム粒子 (7.5YR4/6)1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子極めて粗い。
- 7.5YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)1%、直径 1mm 以下のローム粒子 (7.5YR4/6)3%、直径 2mm 以下の黒褐色土粒子 2% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)7%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)2% 含む。粘性ややあり、締まり強、粒子極めて粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)3%、直径 5mm 以下のローム粒子 (7.5YR4/6)3% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや粗い。
- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土層 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)1%、直径 1mm 以下のローム粒子 (7.5YR4/6)3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。やや粘土質土層。
- 2.5Y2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)2%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 2mm 以下の焼土粒子 1% 含む。粘性強、締まりやや密、粒子やや密。
- 10YR2/1 黒色土層 Ⅲ2 層土主体。直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2% 含む。粘性強、締まり強、粒子密。

SP788

- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 3mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)7%、直径 10mm 以下の小礫 1% 含む。粘性あまりなし、締まりやや強い、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。
- 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5Y4/8)5%、直径 2mm 以下の炭化物粒子 1%、直径 5mm 以下のローム粒子 (7.5YR5/8)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。
- 2.5Y2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5Y4/8)5%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。やや砂質土層。
- 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
- 2.5Y2/1 黒色土層 Ⅲ2 層土主体。直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
- 10YR2/1 黒色土層 Ⅲ層土由来土層。直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
- 10YR2/1 黒色土層 直径 15mm 以下の黒褐色土ブロック (10YR3/2)10%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。

第 283 図 掘立柱建物跡 D(2) SP678・743～745・753・754・771・785・786・788



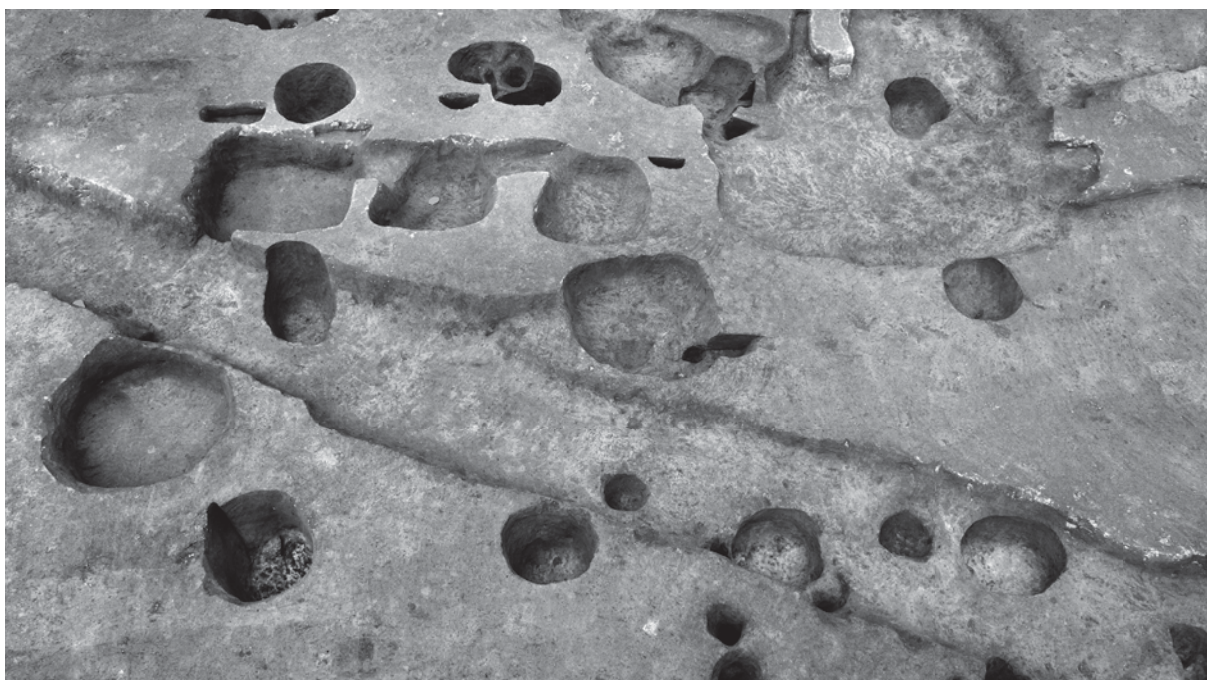
第 284 図 掘立柱建物跡 D(3) SP678・743 ～ 745・753・754・771・785・786・788 遺物分布・接合図 (1/60)

当初、単独のピットとして SP678 の掘削を開始したが、同ピットは比較的規模が大きく、覆土には焼土が多く含まれ、また底面で柱当たりの痕跡が確認された。更に、周辺でも類似のピットが確認されたことから、掘立柱建物跡を構成するピットである可能性を想定し、周辺にある未調査や未検出のピットを精査、検討し、掘立柱建物跡であることを確認した。

各ピットは、SP754・771・785が古代の土坑SK195、SP788が古代のSP789、SP771が古代のSP922、SP744・745・753が中世の溝 SD12 の各遺構に切られる他、SP678、754及び771が攪乱に切られる。

柱間は梁行（南北）二間、桁行（東西）三間で、身舎の間隔は梁行が 209 ～ 218cm で平均 212cm、桁行が 157 ～ 194cm で平均 178cm である。梁行より桁行の方が間隔は狭くなっている。

各ピットの平面形態は、SP744 を除いて円形もしくは楕円形を呈し、また各ピットの長軸は、他



1. 掘立柱建物跡 D 全景 南南東から



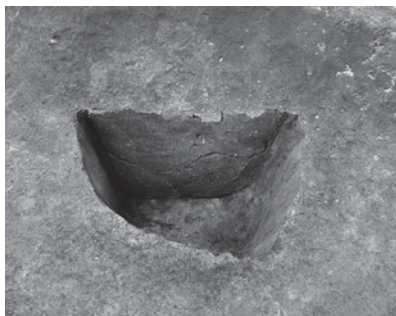
2. SP678 土層断面 南南東から



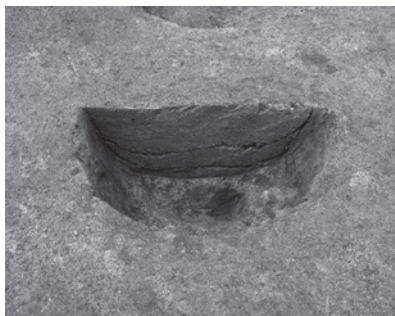
3. SP743 土層断面 南南東から



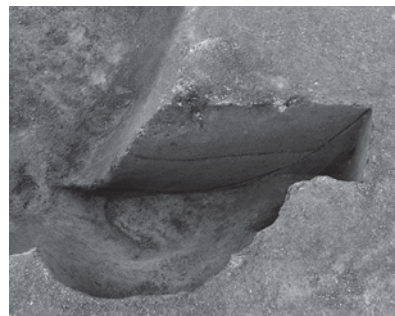
4. SP745 土層断面 東北東から



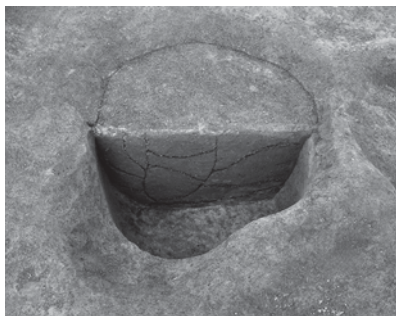
5. SP753 土層断面 南南東から



6. SP754 土層断面 南南東から



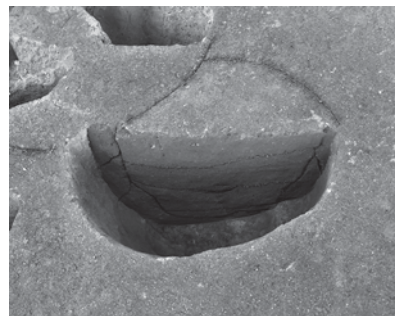
7. SP771 土層断面 南南東から



8. SP785 土層断面 南南東から



9. SP786 土層断面 南南東から



10. SP788 土層断面 南南東から

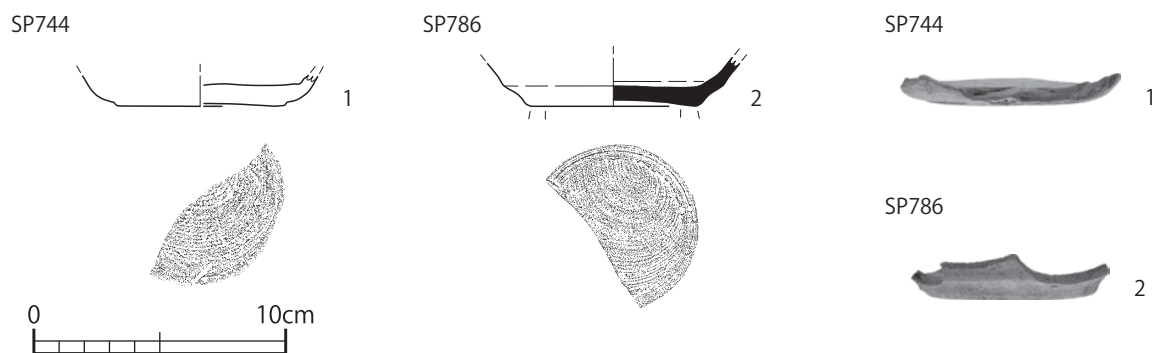
第 285 図 掘立柱建物跡 D 写真

の遺構等に切られているものも含めて、61～86cmである。深さは、SP753 付近の検出面の標高 92.2 m を基準にすると、SP678 が 92cm、SP743 が 77cm、SP744 が 78cm、SP745 が 73cm、SP753 が 77cm、SP754 が 52cm、SP771 が 67cm、SP785 が 75cm、SP786 が 71cm、SP788 が 74cm を測る。南西隅の SP678 が最も深く、SP754 が浅いほかは、顕著な差異は見られない。

各ピットのうち、最も深い SP678 では前述の通り底面で柱当たりを検出し、覆土の 1・2 層に焼土粒子の混入を認めた。また 2・3 層は柱抜き穴覆土、4～6 層は柱穴の掘方覆土とみられる。SP744 は断面で 2 基の切り合い、底面では 3 つの掘り込みが確認され、同一箇所において柱の据え替えが 2 回行われた可能性がある。SP785 は 1～3 層が柱痕跡もしくは柱抜き穴覆土、SP753 の 1～3 層、SP786 の 1～4 層と SP788 の 1～4 層がそれぞれ柱抜き穴覆土とみられる。（相原）
遺物 本遺構を構成する柱穴のうち SP678・743・744・753・786 から遺物が出土し、総点数 61 点、総重量 346.4g である。種別・器種ごとの内訳は、古代の土師器 20 点 76.4g（坏 1 点 30.4g、甕 19 点 46g）、古代の須恵器（坏）6 点 57.5g、弥生時代後期～古墳時代前期の土器（壺）1 点 9.2g で、これら以外に被熱礫 5 点 207.5g がある。

遺物の分布状況を見ると、西側から南側にかけての柱穴から古代の土師器や須恵器等が出土している一方で、それ以外の柱穴からは一切出土していないことが窺える。柱穴からの出土遺物は、本遺構廃絶後に柱穴を埋め戻した際に混入したと推察される。出土遺物のうち、遺存状態が比較的良い遺物を抽出し、図化を行った。

第 286 図 1 は土師器坏で、底部には回転糸切り痕が残る。2 は須恵器坏で、底部は回転糸切り後、外周に回転ヘラケズリを施す。ヘラケズリの幅は狭い。焼成がやや軟質で、色調が黄橙色であることが 2 の特徴である。今回の調査地点では、このような特徴を持つ須恵器（坏や甕）を数点確認した。古代の入間を考える会の根本靖氏からは、多摩ニュータウン No. 107 遺跡の水場遺構出土須恵器と胎土や質感が類似するとの指摘があった。（小西）

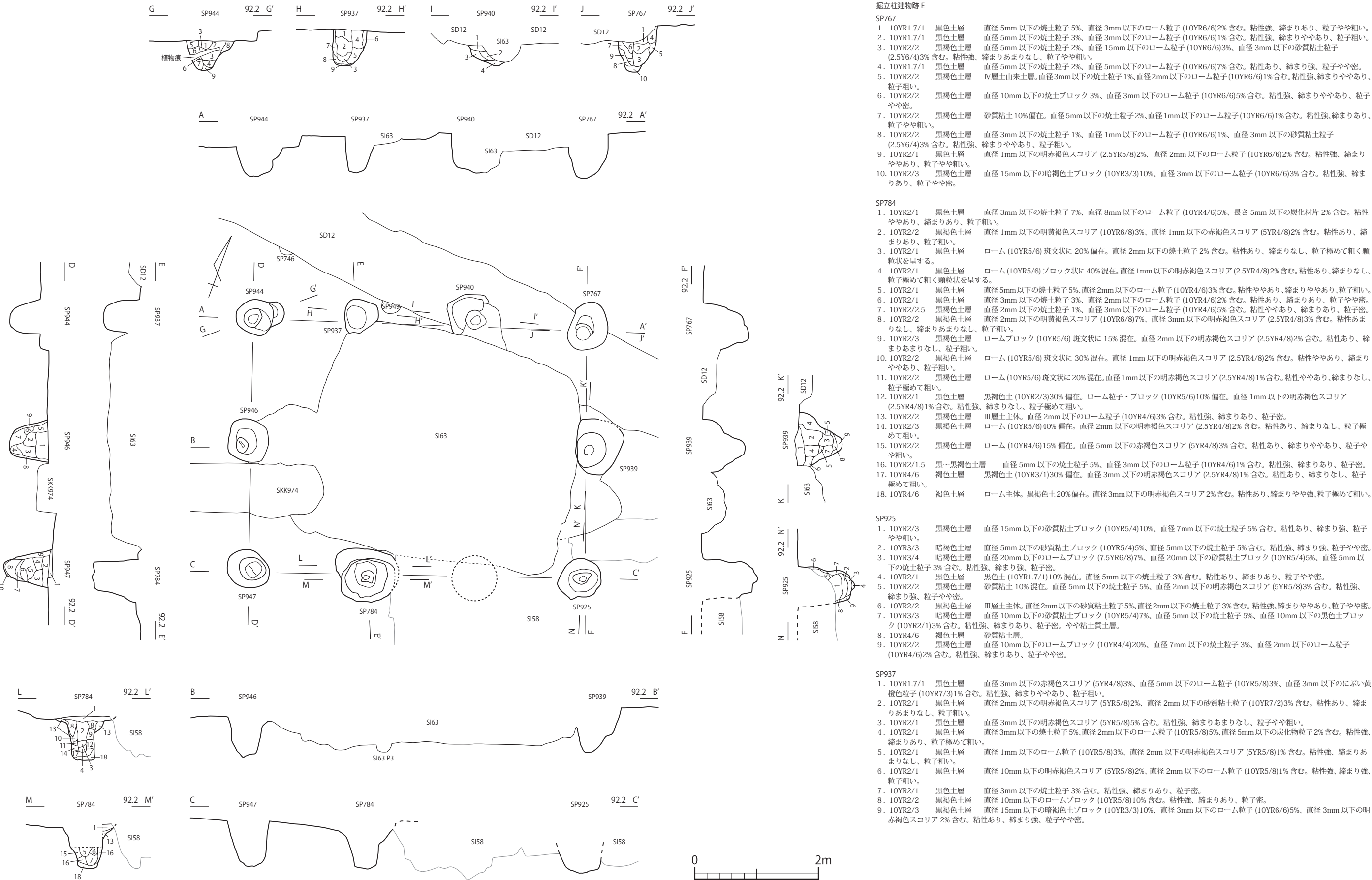


第 286 図 掘立柱建物跡 D 出土遺物 (1/3)・写真

第 46 表 掘立柱建物跡 D 出土土器観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 286 図	1	SP744	土師器 坏	(1.2) [6.7]	体部は底部からやや 内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り。	砂粒	やや軟 質	10YR7/3.5 に ぶい黄橙	底部 1/3	重量 30.4g
	2	SP786	須恵器 坏	(1.7) [6.6]	体部は底部から直線的 に開く。体下部に 稜あり。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回 転ヘラケズリ。	小礫、砂粒	やや軟 質	10YR7/4 にぶ い黄橙	底部 2/3	重量 39.9g 内外面に火澤痕。 南多摩窯



掘立柱建物跡 E

SP767

- | | | |
|--------------|---------------------------|---|
| 1. 10YR1.7/1 | 黒色土層 | 直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR6/6)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。 |
| 2. 10YR1.7/1 | 黒色土層 | 直径 5mm 以下の焼土粒子 3%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR6/6)1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。 |
| 3. 10YR2/2 | 黒褐色土層 (2.5Y6/4)3% 含む。粘性強、 | 直径 5mm 以下の焼土粒子 2%、直径 15mm 以下のローム粒子 (10YR6/6)3%、直径 3mm 以下の砂質粘土粒子 |
| 4. 10YR1.7/1 | 黒色土層 | 締まりあまりなし、粒子やや粗い。 |
| 5. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 直径 5mm 以下の焼土粒子 2%、直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR6/6)7% 含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。 |
| 6. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | IV 層土由来土層。直径 3mm 以下の焼土粒子 1%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR6/6)1% 含む。粘性強、締まりややあり、 |
| 7. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 直径 10mm 以下の焼土ブロック 3%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR6/6)5% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子 |
| 8. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | やや密。 |
| 9. 10YR2/1 | 黒褐色土層 | 砂質粘土 10% 偏在。直径 5mm 以下の焼土粒子 2%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR6/6)1% 含む。粘性強、締まりあり、 |
| 10. 10YR2/3 | 黒褐色土層 | 直径 3mm 以下の焼土粒子 1%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR6/6)1%、直径 3mm 以下の砂質粘土粒子 |
| | | (2.5Y6/4)3% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。 |
| | | 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR6/6)2% 含む。粘性強、締まり |
| | | ややあり、粒子やや粗い。 |
| | | 直径 15mm 以下の暗褐色土ブロック (10YR3/3)10%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR6/6)3% 含む。粘性強、締まり |
| | | あり、粒子やや密。 |

SP784

- | | | |
|---------------|-------|--|
| 1. 10YR2/1 | 黒色土層 | 直径 3mm 以下の焼土粒子 7%、直径 8mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5%、長さ 5mm 以下の炭化材片 2% 含む。粘性 |
| 2. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)3%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性あり、締 |
| 3. 10YR2/1 | 黒色土層 | まわりあり、粒子粗い。 |
| 4. 10YR2/1 | 黒色土層 | ローム (10YR5/6) 斑文状に 20% 偏在。直径 2mm 以下の焼土粒子 2% 含む。粘性あり、締まりなし、粒子極めて粗く顆 |
| 5. 10YR2/1 | 黒色土層 | 粒状を呈する。 |
| 6. 10YR2/1 | 黒色土層 | ローム (10YR5/6) ブロック状に 40% 混在。直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR4/8)2% 含む。粘性あり、締まりなし、 |
| 7. 10YR2/2.5 | 黒褐色土層 | 直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3% 含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。 |
| 8. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 直径 3mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。 |
| 9. 10YR2/3 | 黒褐色土層 | 直径 2mm 以下の焼土粒子 1%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子密。 |
| 10. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)7%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR4/8)3% 含む。粘性あま |
| 11. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | りなし、締まりあまりなし、 |
| 12. 10YR2/1 | 黒褐色土層 | 粒子粗い。 |
| 13. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | ロームブロック (10YR5/6) 斑文状に 15% 混在。直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR4/8)2% 含む。粘性あり、締 |
| 14. 10YR2/3 | 黒褐色土層 | まりあまりなし、粒子粗い。 |
| 15. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | ローム (10YR5/6) 斑文状に 30% 混在。直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR4/8)2% 含む。粘性ややあり、締まり |
| 16. 10YR2/1.5 | 黒褐色土層 | ややあり、粒子粗い。 |
| 17. 10YR4/6 | 褐色土層 | ローム (10YR5/6) 斑文状に 20% 混在。直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR4/8)1% 含む。粘性ややあり、締まりなし、 |
| 18. 10YR4/6 | 褐色土層 | 粒子極めて粗い。 |
| | | 黒褐色土 (10YR2/3)30% 偏在。ローム粒子・ブロック (10YR5/6)10% 偏在。直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア |
| | | (2.5YR4/8)1% 含む。粘性強、締まりなし、粒子極めて粗い。 |
| | | 皿層土主体。直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。 |
| | | ローム (10YR5/6)40% 偏在。直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR4/8)2% 含む。粘性あり、締まりなし、粒子極 |
| | | めて粗い。 |
| | | ローム (10YR4/6)15% 偏在。直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや |
| | | 粗い。 |
| | | 黒～黒褐色土層 |
| | | 直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。 |
| | | 褐色土層 |
| | | 黒褐色土 (10YR3/1)30% 偏在。直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR4/8)1% 含む。粘性あり、締まりなし、粒子 |
| | | 極めて粗い。 |
| | | ローム主体。黒褐色土 20% 偏在。直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア 2% 含む。粘性あり、締まりやや強、粒子極めて粗い。 |

SP925

- | | | |
|------------|-------|--|
| 1. 10YR2/3 | 黒褐色土層 | 直径 15mm 以下の砂質粘土ブロック (10YR5/4)10%、直径 7mm 以下の焼土粒子 5% 含む。粘性あり、締まり強、粒子 |
| 2. 10YR3/3 | 暗褐色土層 | やや粗い。 |
| 3. 10YR3/4 | 暗褐色土層 | 直径 5mm 以下の砂質粘土ブロック (10YR5/4)5%、直径 5mm 以下の焼土粒子 5% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。 |
| 4. 10YR2/1 | 黒色土層 | 直径 20mm 以下のロームブロック (7.5YR6/8)7%、直径 20mm 以下の砂質粘土ブロック (10YR5/4)5%、直径 5mm 以 |
| 5. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 下の焼土粒子 3% 含む。粘性強、締まり強、粒子密。 |
| 6. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 黒色土 (10YR1.7/1)10% 混在。直径 5mm 以下の焼土粒子 3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。 |
| 7. 10YR3/3 | 暗褐色土層 | 砂質粘土 10% 混在。直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3% 含む。粘性強、 |
| 8. 10YR4/6 | 褐色土層 | 締まり強、粒子やや密。 |
| 9. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 皿層土主体。直径 2mm 以下の砂質粘土粒子 5%、直径 2mm 以下の焼土粒子 3% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。 |
| | | 直径 10mm 以下の砂質粘土ブロック (10YR5/4)7%、直径 5mm 以下の焼土粒子 5%、直径 10mm 以下の黒色土ブロッ |
| | | ク (10YR2/1)3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。やや粘土質土層。 |
| | | 砂質粘土層。 |
| | | 直径 10mm 以下のロームブロック (10YR4/4)20%、直径 7mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2mm 以下のローム粒子 |
| | | (10YR4/6)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。 |

SP937

- | | | |
|--------------|-------|--|
| 1. 10YR1.7/1 | 黒色土層 | 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)3%、直径 3mm 以下のにぶい黄 |
| 2. 10YR2/1 | 黒色土層 | 橙色粒子 (10YR7/3)1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。 |
| 3. 10YR2/1 | 黒色土層 | 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2%、直径 2mm 以下の砂質粘土粒子 (10YR7/2)3% 含む。粘性あり、締ま |
| 4. 10YR2/1 | 黒色土層 | りあまりなし、粒子粗い。 |
| 5. 10YR2/1 | 黒色土層 | 直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)5% 含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子やや粗い。 |
| 6. 10YR2/1 | 黒色土層 | 直径 3mm 以下の焼土粒子 5%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)5%、直径 5mm 以下の炭化物粒子 2% 含む。粘性強、 |
| 7. 10YR2/1 | 黒色土層 | 締まりあり、粒子極めて粗い。 |
| 8. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)3%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりあ |
| 9. 10YR2/3 | 黒褐色土層 | まりなし、粒子粗い。 |
| | | 直径 10mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)1% 含む。粘性強、締まり強、 |
| | | 粒子粗い。 |
| | | 直径 3mm 以下の焼土粒子 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。 |
| | | 直径 10mm 以下のロームブロック (10YR5/8)10% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。 |
| | | 直径 15mm 以下の暗褐色土ブロック (10YR3/3)10%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR6/6)5%、直径 3mm 以下の明 |
| | | 赤褐色スコリア 2% 含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。 |

掘立柱建物跡 E (第 287 ～ 289 図、第 49 表)

遺構 調査区中央部付近の28Q-35・36・45・46グリッドに位置する、SP767・784・925・937・939・940・944・946・947の9基のピットからなる掘立柱建物跡で、各ピットの検出面はⅡ3・Ⅲ2層である。

当初、SP767 を掘立柱建物跡 D に関連するピットとして調査をしていたが、SP784 が深い掘方を持つピットであることが分かり、更に SI58 のカマドの掘り込みだと考えていたものが SI58 を切るピット (SP925) であることが判明したため、掘立柱建物跡 D とは別の建物跡が存在するか、もしくは同建物跡が西側まで伸びることが想定された。その後、SI63 の調査の進捗と共に、SI63 を囲むように SI63 より古い複数のピットが検出され、掘立柱建物跡 D とは別の掘立柱建物跡 E と認定した。なお、SP784 と SP925 の中間にもピットが 1 基あったものと考えられるが、SI58 と SI63 の重複部分で検出が困難であったため、確認できなかった。

前述の通り SI63 を取り囲むように各ピットが位置していることから、SP784・937・939・940・946 が SI63 に切られ、また SP784・925 が SI58 を切り、SP767・940 が中世の溝 SD12 に切られている。

柱間は、掘立柱建物跡 D と同じく梁行 (南北) 二間、桁行 (東西) 三間で、身舎の間隔は梁行が 187 ～ 208cm で平均すると 201cm、桁行が欠損部を除くと 166 ～ 192cm で平均すると 180cm である。桁行の方が間隔は狭くなっているが、掘立柱建物跡 D と比べるとその差は小さい。

各ピットの平面形態は、円形・楕円形のもの (SP767・784・925・937・944・947) と隅丸方形・隅丸長方形のもの (SP937・939・940・946) とがあり、一様ではない。また、各ピットの長軸の長さは、残存値も含めて 57 ～ 102cm で大きな開きがある。

各ピットの深さは、SP939 最上部の高さ (92.1 m) を基準にすると、SP767 が 82cm、SP784 が 91cm、SP925 が 97cm、SP937 が 73cm、SP939 が 77cm、SP940 が 73cm、SP944 が 79cm、SP946 が 84cm、SP947 が 89cm を測る。南側の 3 基が深い傾向にある。

土層断面の観察では、SP767・784・937・939・946 で柱痕跡の可能性のある層を確認した。このうち、SP767 は、1 ～ 8 層に焼土を含み、3・7・8 層には砂質粘土粒子を含む。特に 7 の砂質粘土粒子が多い。SP784 も、1 層に焼土粒子の混入が認められた。SP925 は、前述の通り、SI58 の覆土に掘られたピットで、SI58 の発掘調査中に確認され、覆土には SI58 のカマド由来とみられる砂質粘土粒子が含まれていた。SP937 は SI63 の北西隅に位置しており、覆土の一部に焼土粒子や炭化物粒子が含まれていた。SP939 は 9 層のうち 5・9 層を除く各層で焼土の粒子やブロックが混入していた。SP940 は、全 4 層で焼土の粒子やブロックが見られるほか、1 ～ 3 層では凝灰質砂岩ブロックの混入が見られた。SP944 も一部の層で焼土が見られる。SP946 は、全 9 層のうち 5 層で焼土が見られるほか、壁際の 8・9 層はやや粘土質の土壌となっている。SP946 は全 10 層のうち 4 層で焼土が見られ、2・9 層を除く各層でロームの混入が目立つ。

(相原)

遺物 本遺構を構成するすべての柱穴から遺物が出土しており (未検出の柱穴 1 基を除く)、総点数 62 点、総重量 362.8g である。種別・器種ごとの内訳は、古代の土師器 (甕) 43 点 145.1g、古代の須恵器 12 点 142g (坏 9 点 48.1g、甕 3 点 93.9g)、古代の灰釉陶器 (瓶あるいは壺) 1 点 16.4g、縄文土器 (加曽利 E3 式) 1 点 15.9g で、これらの他に被熱礫 5 点 43.4g がある。SP993 から出土した須恵器甕 3 点は、SI63 出土の甕と接合している。

各柱穴から出土した遺物は、掘立柱建物としての機能が失われ、柱穴を埋め戻した際に混入したと

SP939		
1. 2.5Y3/1	黒褐色土層	直径 3mm以下の焼土粒子 7%、直径 2mm以下の黄褐色スコリア (10YR5/6)5%、直径 5mm以下の小礫 2%含む。粘性強、締まり強、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。
2. 10YR2/1	黒色土層	直径 10mm 以下の焼土ブロック 5%、直径 3mm 以下の粘土粒子 (10YR7/2)7%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)2% 含む。粘性強、締まり強、粒子極めて粗い。
3. 2.5Y2/1	黒色土層	直径 5mm 以下の焼土粒子 3%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まり強、粒子粗い。
4. 10YR2/1	黒色土層	直径 7mm 以下の焼土ブロック 3%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)3% 含む。粘性強、締まり強、粒子粗い。
5. 2.5Y2/1	黒色土層	直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2%、直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)5% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。
6. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 1mm 以下の焼土粒子 1%、直径 15mm 以下のロームブロック (10YR46/4)3% 含む。粘性強、締まり強、粒子極めて粗い。
7. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 3mm 以下の焼土粒子 5%、直径 3mm 以下の粘土粒子 (10YR7/2)7% 含む。粘性強、締まり強、粒子極めて粗い。
8. 10YR2/1	黒色土層	直径 8mm 以下の焼土ブロック 5%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)3% 含む。粘性強、締まり強、粒子粗い。
9. 10YR2/1	黒色土層	直径 20mm 以下の暗褐色土ブロック (10YR3/3)20%、直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
SP940		
1. 10YR2/2	黒褐色土層	焼土粒子・ブロック 20%、粘土粒子 10%、直径 1mm 前後の赤褐色スコリア (5YR4/6)2%、凝灰質砂岩ブロック 1% 含む。粘性・締まり弱い。
2. 10YR2/2	黒褐色土層	焼土粒子 3%、直径 1mm 前後の赤褐色スコリア (5YR4/6)2%、凝灰質砂岩ブロック 1% 含む。粘性強く、締まり弱い。
3. 10YR2/2	黒褐色土層	焼土粒子 10%、粘土粒子 7%、凝灰質砂岩ブロック 1% 含む。粘性弱く、締まり弱い。
4. 10YR2/2～3	黒褐色土層	Ⅲ2 層土主体。部分的にⅢ3 層が斑文状に混在する。直径 1mm 前後の赤褐色スコリア (5YR4/6)3%、焼土粒子 1% 含む。粘性弱く、締まり強い。
SP944		
1. 10YR1.7/1	黒色土層	直径 3mm 以下のロームブロック (7.5YR5/8)1%、直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR5/6)3%、直径 3mm 以下の焼土粒子 2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
2. 7.5YR1.7/1	黒色土層	直径 2mm 以下のロームブロック 2%、直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR5/6)3% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子極めて粗い。
3. 10YR2/1	黒色土層	直径 5mm 以下のロームブロック (10YR4/4)3%、直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR5/6)2%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/6)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
4. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 20mm 以下の暗褐色土ブロック (10YR3/4)30%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
5. 10YR1.7/1	黒色土層	直径 3mm 以下の焼土粒子 2%、直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR5/6)3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。
6. 10YR1.7/1	黒色土層	直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1%、直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR5/6)3% 含む。粘性あり、締まり強、粒子極めて粗く顆粒状及びブロック状を呈する。
7. 10YR2/2	黒褐色土層	黒褐色土 (10YR2/3)30% 偏在。直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2%、直径 2mm 以下の焼土粒子 1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
8. 10YR2/1	黒色土層	直径 3mm 以下の焼土粒子 2%、直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR5/6)5% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。
9. 10YR2/3	黒褐色土層	黒色土 (10YR2/1)20% 混在。粘性あり、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
SP946		
1. 7.5YR1.7/1	黒色土層	直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)5%、直径 3mm 以下の焼土粒子 2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
2. 10YR2/1	黒色土層	直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/6)3%、直径 1mm 以下の焼土粒子 1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子極めて粗い。
3. 10YR2/1	黒色土層	直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)1%、直径 2mm 以下の焼土粒子 1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
4. 10YR2/3	黒褐色土層	直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)2%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
5. 2.5Y2/1	黒色土層	直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1%、直径 3mm 以下の焼土粒子 1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子極めて粗い。
6. 10YR1.7/1	黒色土層	直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)2% 含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
7. 2.5Y3/3	暗オリーブ褐色土層	直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)5%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子極めて粗い。
8. 2.5Y2/1	黒色土層	直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)2% 含む。粘性極めて強、締まりあり、粒子粗い。粘土質土層。
9. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 3mm 以下の焼土粒子 2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。やや粘土質土層。
SP947		
1. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)3%、直径 2mm 以下の焼土粒子 1% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。
2. 10YR2/1	黒色土層	直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)2%、直径 3mm 以下の焼土粒子 2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
3. 10YR1.7/1	黒色土層	直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)2%、直径 1mm 以下の焼土粒子 1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
4. 10YR1.7～2/1	黒色土層	直径 5mm 以下のロームブロック (10YR5/8)2%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。
5. 10YR2/3	黒褐色土層	直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)2%、直径 3mm 以下の焼土粒子 1% 含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。
6. 10YR1.7/1	黒色土層	直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)3% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
7. 7.5YR2/3	極暗褐色土層	直径 15mm 以下のロームブロック (10YR4/6)10%、直径 5mm 以下の黒色土粒子 (10YR2/1)2%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
8. 7.5YR2/1	黒色土層	ローム (10YR5/8)10% 混在。直径 3mm 以下の焼土粒子 2%、直径 5mm 以下のロームブロック (10YR4/6)5%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
9. 10YR2/2	黒褐色土層	直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
10. 10YR2/3	黒褐色土層	ローム (10YR5/8)30% 混在。直径 3mm 以下の黒色土粒子 (10YR2/1)5%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。

第 288 図 掘立柱建物跡 E(2) SP767・784・925・937・939・940・944・946・947

推察される。出土遺物はどれも細片だったため、図化は行っていない。(小西)

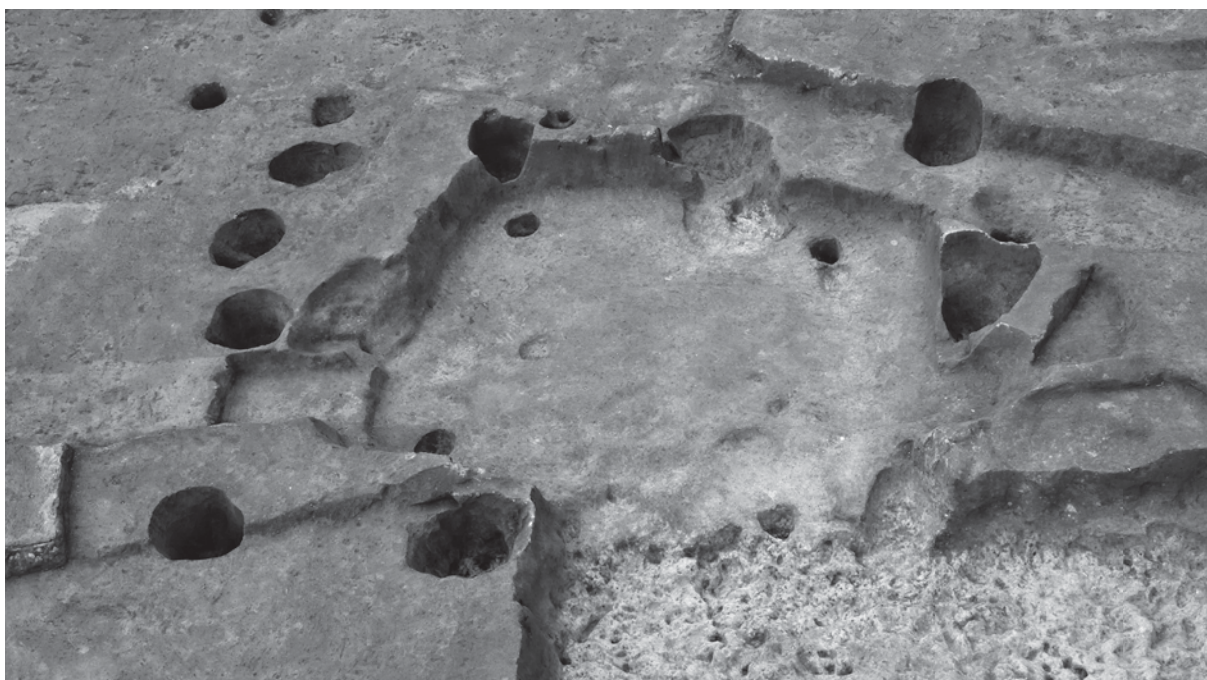
掘立柱建物跡 F (第 290 ～ 291 図、第 49 表)

遺構 2-6 西区北東部の 28P-100、29P-91 グリッドに位置する。掘立柱建物跡 D・E とはやや離れた位置にあり、各ピットの規模も両建物跡より小さい。調査範囲内では SP755・756・757・758・759 の 5 基を検出した。各ピットの検出面はⅢ1～2 層である。

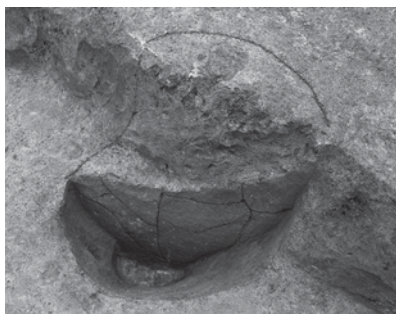
建物跡は北側の掘削範囲外へと続くと想定され、規模は、柱間は梁行（東西）二間、桁行（南北）三間以上である。調査範囲内では、身舎の間隔は梁行が158～172cm、桁行が167～182cmを測る。

各ピットの平面形態は、円形もしくは楕円形で、長軸の長さは 25 ～ 44cm、短軸は 21 ～ 41cm である。また、検出面（92.0m とする）からの深さは SP755 が 32cm、SP756 が 27cm、SP757 が 39cm、SP758 が 16cm、SP759 が 20cm、SP760 が 24cm を測り、隅の 2 基がやや深くなっている。

各ピットの覆土は黒色又は黒褐色で 1 ～ 3 層に分けられ、概ね上層に黒褐色スコリアを含み粒子は粗く、中・下層はⅢ層由来の土壌からなる。炭化物粒子はほぼ含まず、焼土は含まない。(相原) 遺物 本遺構を構成する柱穴のうち、南東隅の柱穴である SP757 から古代の須恵器甕 1 点 3.7g が出土したが、細片だったため、図化は行わなかった。(小西)



1. 掘立柱建物跡 E 全景 南南東から



2. SP767 土層断面 南南東から



3. SP784 土層断面 南南東から



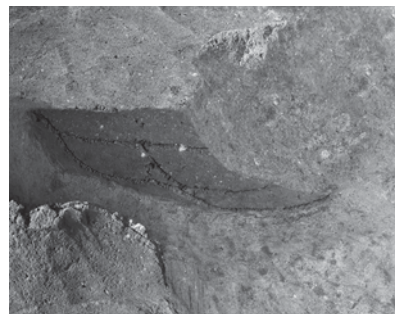
4. SP925 土層断面 東北東から



5. SP937 土層断面 南南東から



6. SP939 土層断面 西南西から



7. SP940 土層断面 南南東から



8. SP944 土層断面 南東から

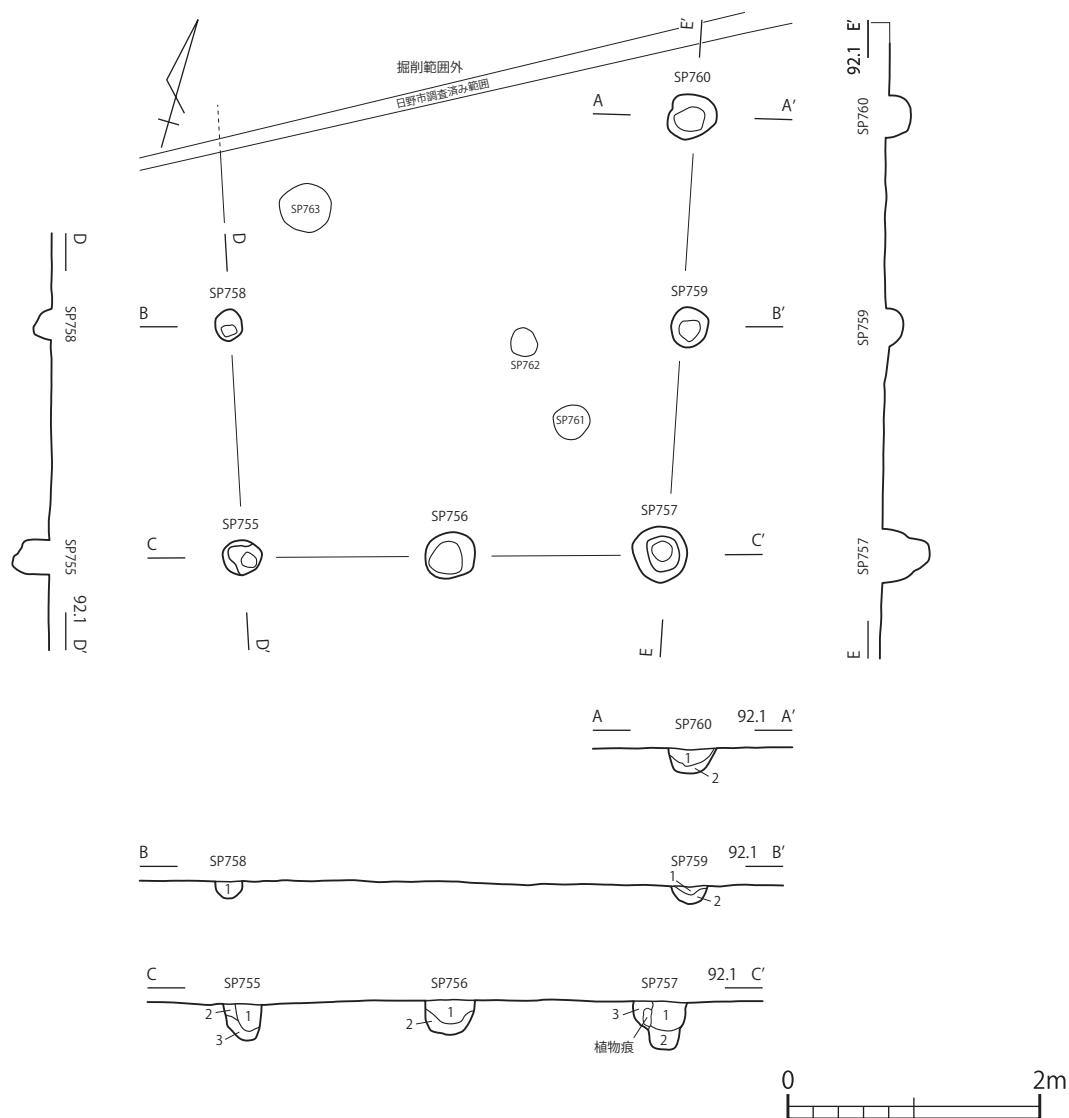


9. SP946 土層断面 西南西から



10. SP947 土層断面 西南西から

第 289 図 掘立柱建物跡 E 写真



掘立柱建物跡 F

SP755

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%、直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)5% 含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)3%、直径 1mm の炭化物粒子 1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土由来。直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。

SP756

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%、直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)5% 含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土由来。直径 1mm の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)1%、直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。

SP757

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)7% 含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土由来。直径 3mm 以下のローム粒子 (7.5YR5/8)3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2%、直径 1mm のローム粒子 (7.5YR4/6)5% 含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子粗い。

SP758

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%、直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)5% 含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや粗い。

SP759

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%、直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)5% 含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土由来。直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2%、直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。

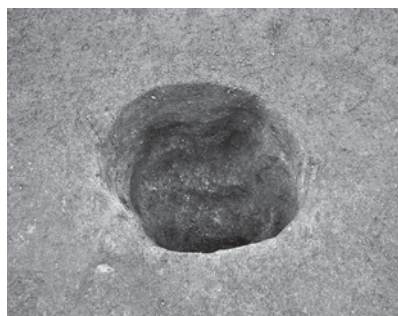
SP760

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%、直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)5% 含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土由来。直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。

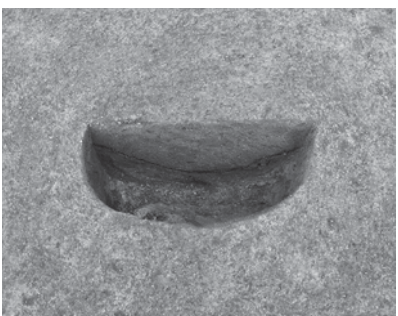
第 290 図 掘立柱建物跡 F SP755 ～ 760(1/60)



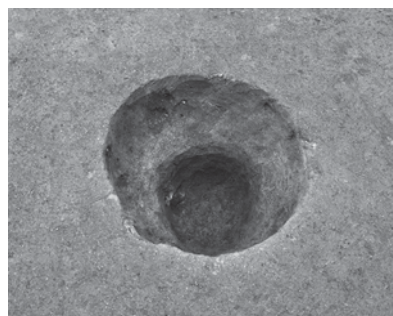
1. 掘立柱建物跡 F 全景 南南東から



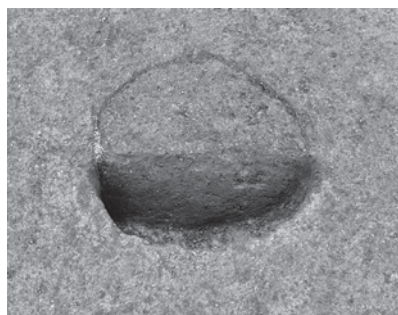
2. SP755 全景 南南東から



3. SP756 土層断面 南南東から



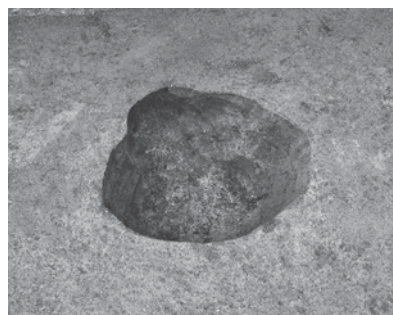
4. SP757 全景 南南東から



5. SP758 土層断面 南南東から

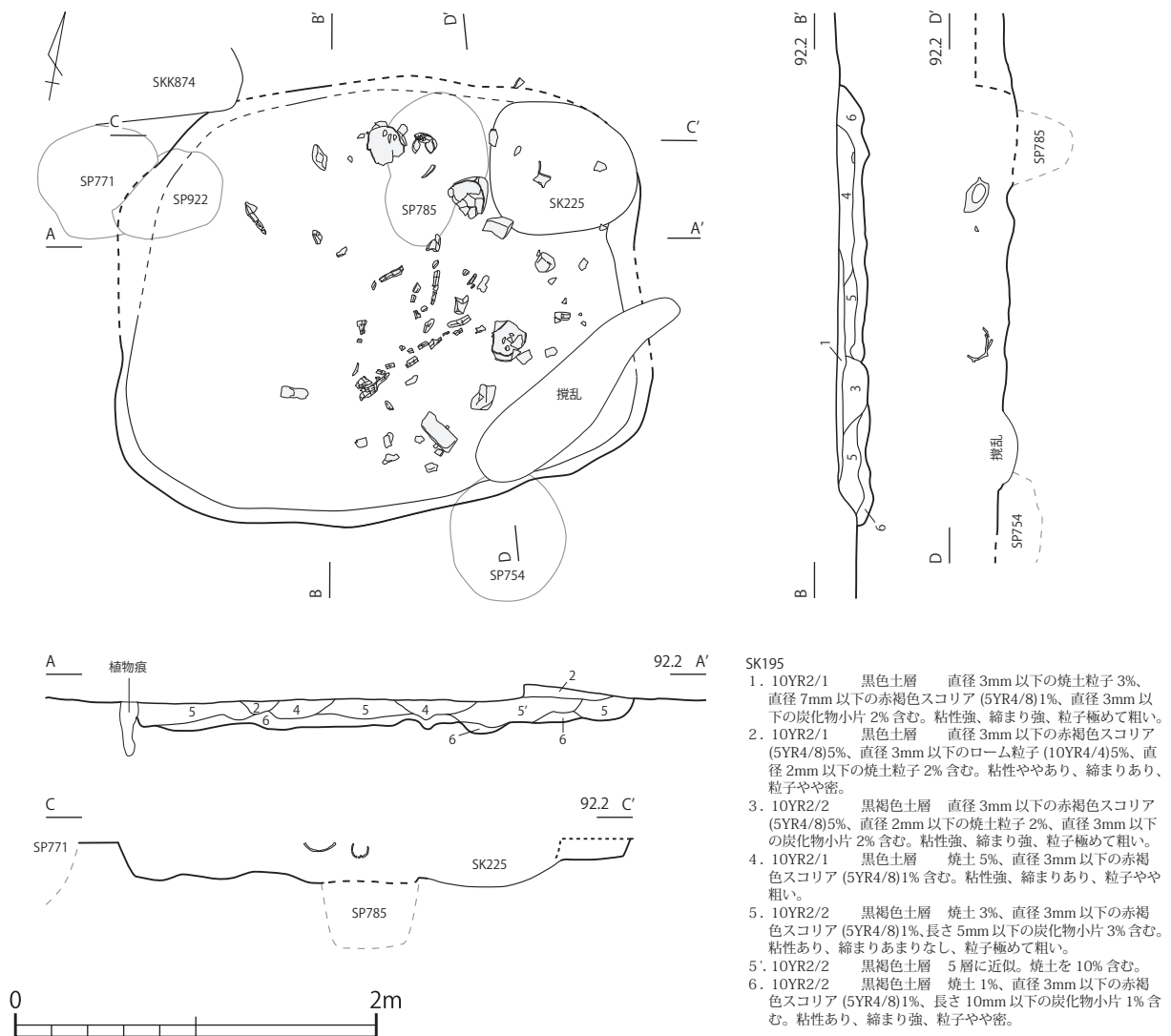


6. SP759 土層断面 南南東から



7. SP760 全景 南南東から

第 291 図 掘立柱建物跡 F 写真



第 292 図 SK195(1)(1/40)

3) 土坑（第 160、292～303 図、第 47・48 表）

土坑（遺構略号はSK）は、調査区内の各所に 19 基が散在している。

一部を除いて出土遺物数は少なく、そこから帰属時期を判断することが困難であるため、黒色スコリアを多く含む等、覆土が古代の竪穴建物跡と類似するものを中心に古代の土坑として抽出した。

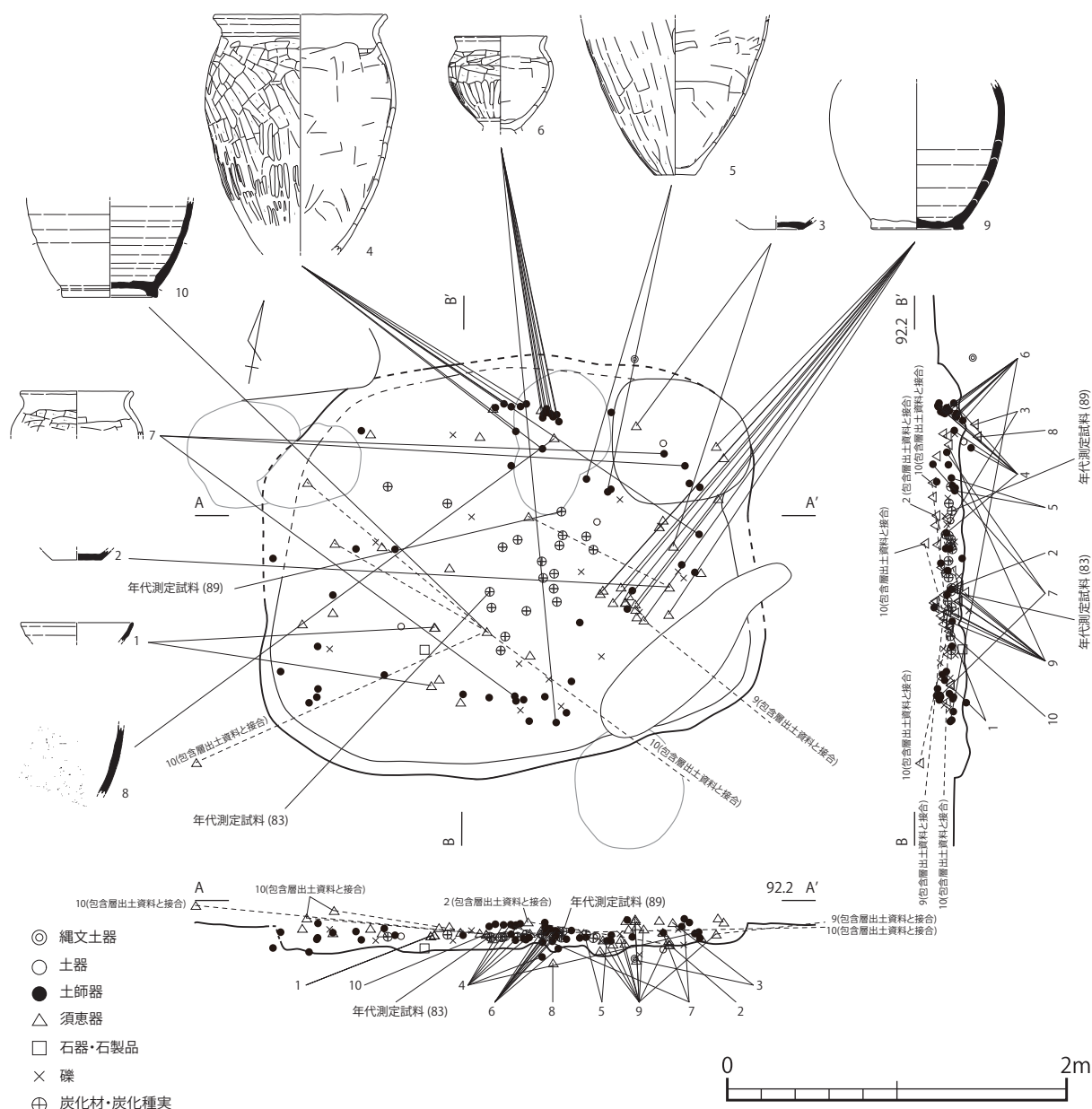
土坑のうち、SK195 は竪穴状遺構としても差し支えない規模と形状で、土師器、須恵器、炭化材、大型の礫が複数出土している。それ以外はSK195 と比べると小形で、平面形態も規模も様々ではない。

なお、一部の遺構は個別図を割愛し、全土坑に関する情報は第 48 表の一覧表に記載した。

SK195（第 292～296 図、第 47・48 表）

2-6 西区中央付近の 28Q-27・28・37・38 グリッドで検出された。土坑として扱っているが、形状的には竪穴状遺構に近い。

発掘調査開始時の遺構検出の際、調査区東西ベルトの南側で焼土を含む遺構の一部を検出した。同



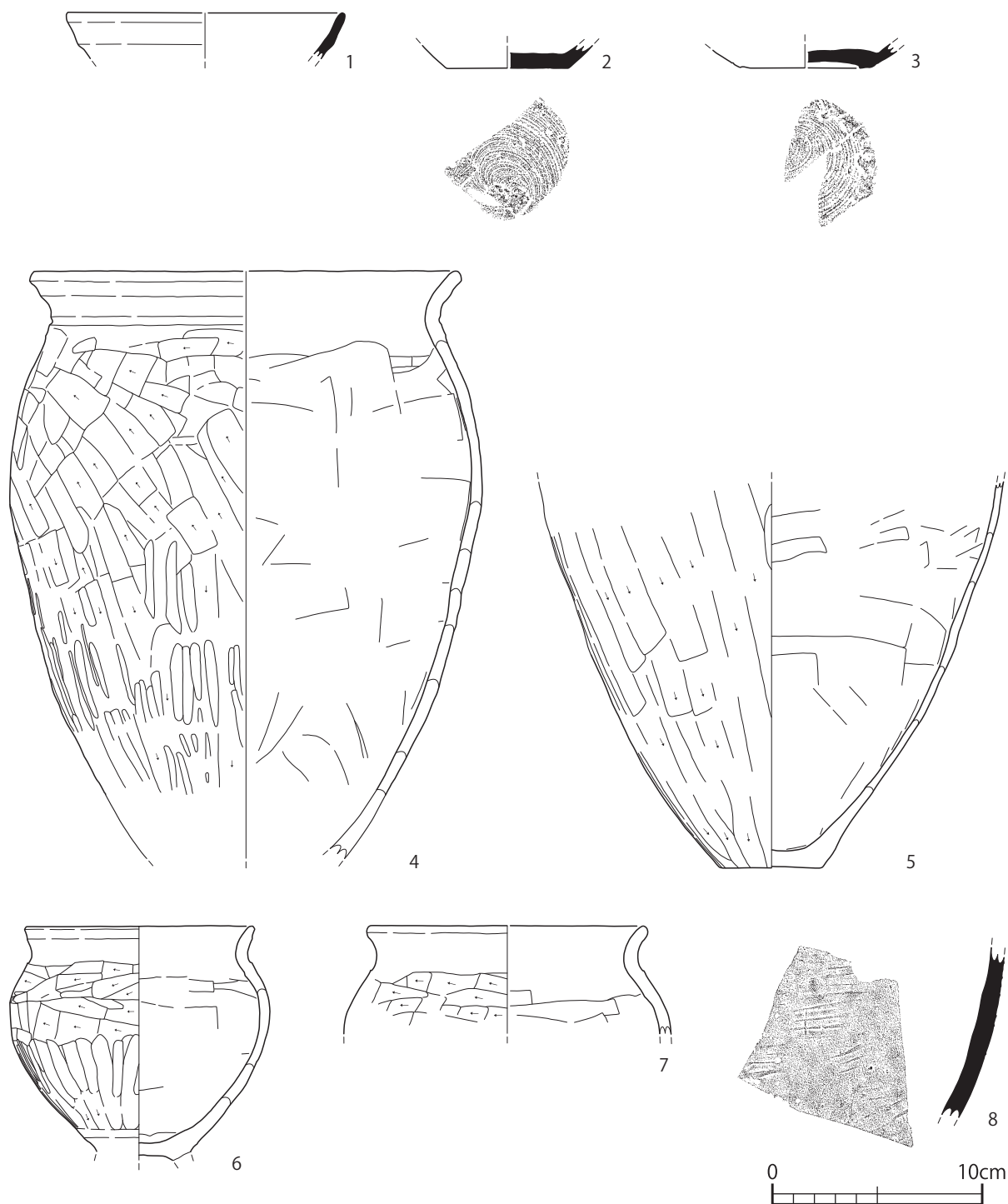
第 293 図 SK195(2) 遺物分布・接合図 (1/40)

ベルト除去後に精査をしたところ、土師器や須恵器、炭化材、焼土が広く分布していることを確認した。しかし表面の観察では遺構の範囲が確認できず、トレンチを入れてようやく範囲を確定した。検出面は、調査区東西ベルト上がⅡ3層、それ以外がⅢ2層である。

遺構は、掘立柱建物跡 D (SP754・771・785)、SP922 を切っており、また SK225 及び攪乱に一部を切られている。

長軸 309cm、短軸 248cm の東西に長い歪な隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは 31cm を測る。底面には貼床は確認されず、凹凸がある。壁は内湾して立ち上がる。

覆土は 6 層に分けられた。いずれの層にも焼土粒子が含まれ、2 層と 4 層を除く層では炭化物粒子も確認された。また、堆積状況の観察から、この SK195 は、数度に亘って掘り返されながら使用

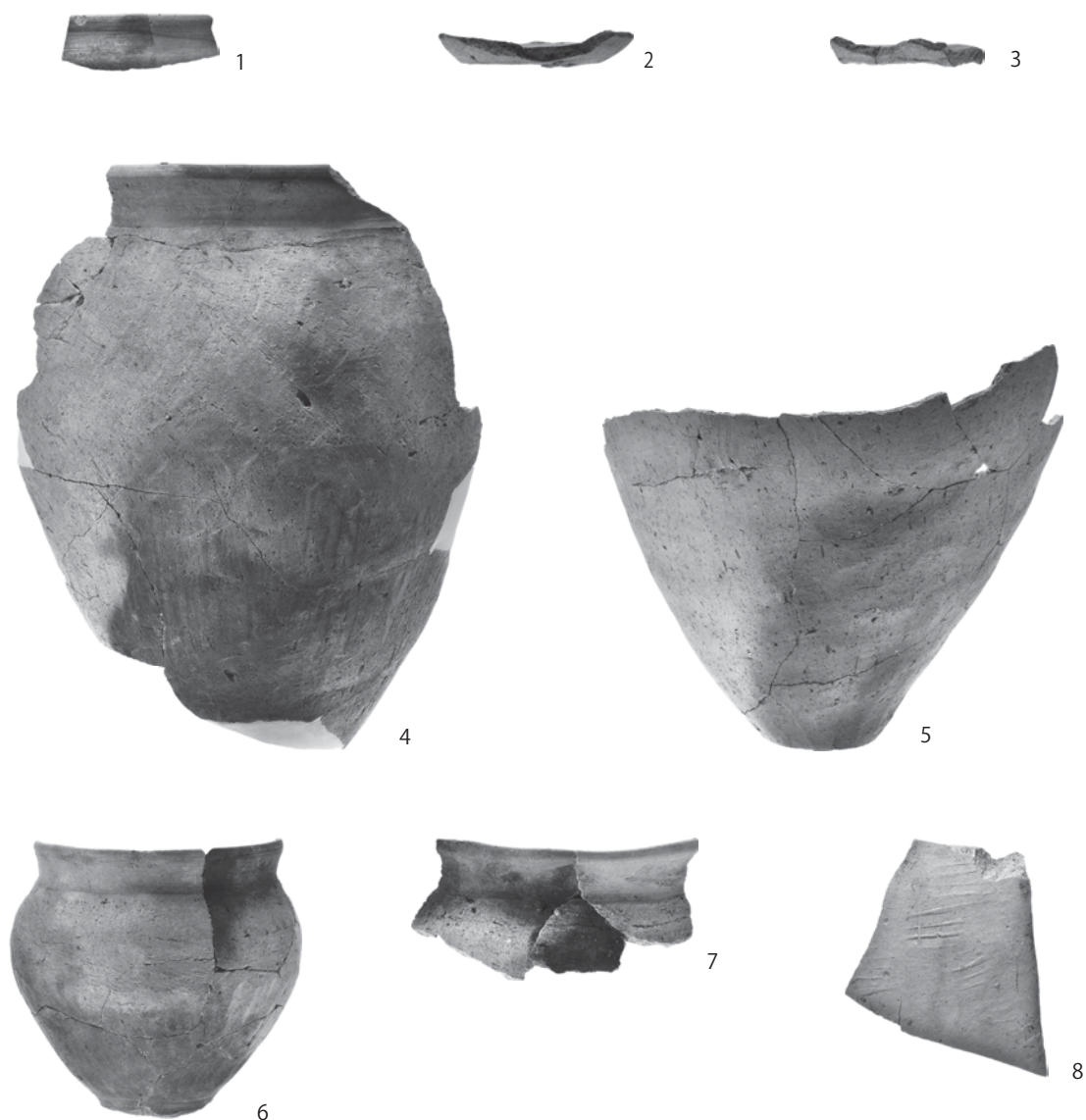


第 294 図 SK195 出土遺物 (1)(1/3)

されたものと考えられる。別遺構とした SK225 も、この掘り返しの痕跡とも考えられる。

遺物は、主に覆土の中層以上から出土している。遺構の中央部付近には炭化材が多くみられ、その東側を囲むように土師器や須恵器、大型の礫が検出されている。(相原)

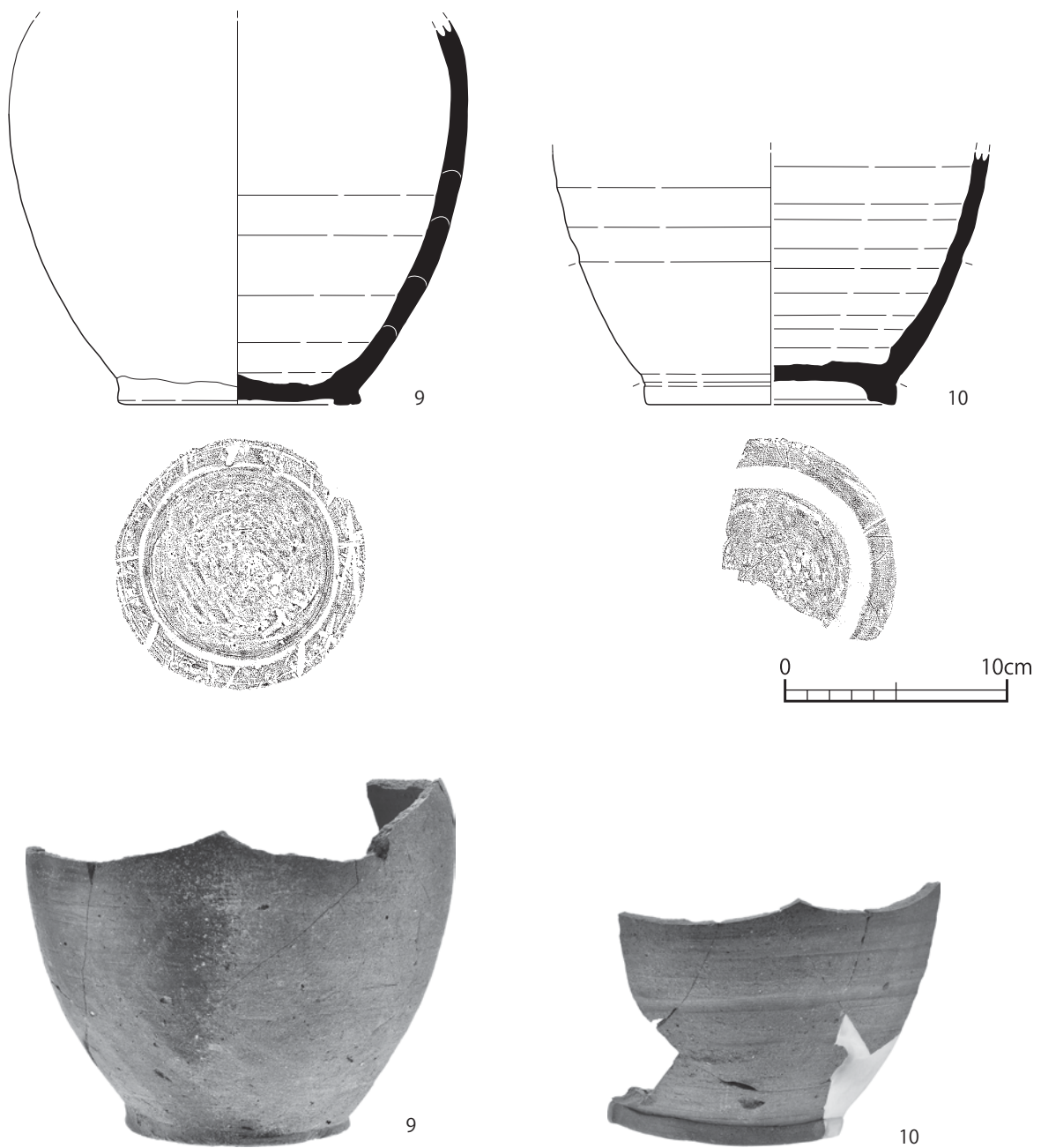
本遺構からは、総点数 159 点、総重量 20,318.5g が出土した。種別・器種ごとの内訳は、土師器 84 点 1,373.1g (甕 55 点 1,003.6g、台付甕 29 点 369.5g)、須恵器 36 点 1,300g (坏 22 点



第 295 図 SK195 出土遺物 (1) 写真

134.5g、甕 2 点 68.1g、瓶あるいは壺 11 点 1,096.6g、器種不明 1 点 0.8g)、縄文土器 (加曽利 E3 式) 2 点 30.9g、縄文時代の石器 (打製石斧) 1 点 300g、弥生時代後期～古墳時代前期の土器 3 点 20.9g (壺 2 点 11.5g、高坏 1 点 9.4g) で、これら以外に被熱礫を含む礫 16 点 8,642.1g がある。土師器や須恵器は古代の所産であり、それ以外の土器や石器は本遺構に伴う遺物ではないと判断した。古代の遺物の中から、遺存状態が良い土器を選び、図化を行った。

第 294・295 図 1～3 は須恵器坏である。1 は口縁部から体部破片だが、2・3 は底部が遺存しており、底部は回転糸切り後無調整である。4・5 は土師器甕、6・7 は土師器台付甕である。4 は口縁から胴下部にかけての破片で、全周のうち 1/3 程度が遺存する。全体的に器壁が厚く、頸部の屈曲は緩やかである。5 は胴部から底部にかけて遺存し、器壁は薄い。6 は土坑内出土の破片 22 点が接合しているが、隣り合う破片と色調が大きく異なる破片があり、二次被熱等の可能性を示唆している。8 は須恵器甕の胴部破片である。外面には平行叩きが認められるが、その痕跡は散漫である。8 は焼成が



第 296 図 SK195 出土遺物 (2)(1/3)・写真

やや軟質で、黄橙色の色調が特徴的である。これと同一個体と考えられる破片が遺物包含層からも複数点出土している。こうした特徴を持つ須恵器について、古代の入間を考える会の根本靖氏は、多摩ニュータウンNo. 107 遺跡の水場遺構出土須恵器と胎土や質感が類似すると指摘している。

第 296 図 9・10 は長頸瓶のような器形が想定されるが、いずれも胴上部より上を欠損している。断面形が方形状の高台が貼り付けられ、高台部は外方へ開かず直立気味の形状を呈する。

須恵器坏（第 294・295 図 2・3）は南比企窯跡群鳩山編年のⅧ期に比定され、土師器甕の様相を含めて考えると、これらの土器は 9 世紀末～10 世紀初頭に位置付けられよう。（小西）

第 47 表 SK195 出土土器観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 294 ・ 295 図	1	SK195	須恵器 坏	[13.1] (2.2)	体部は直線的に開く。	ロクロ成形。	砂粒	やや軟質	2.5Y6/2 灰黄	口縁部 1/6	重量 9.9g 東金子窯
	2	SK195・ 28Q-37	須恵器 坏	(1.1) [5.8]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 回転糸切り後、無調整。	砂粒	良好	2.5Y5/1 黄灰	底部 1/2	重量 33.5g 南多摩窯
	3	SK195	須恵器 坏	(0.8) [6.7]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 回転糸切り後、無調整。	砂粒	良好	N5/ 灰	底部 1/3	重量 22.1g 南多摩窯
	4	SK195	土師器 甕	[20.1] (28.0) 胴部最大 径 [22.4]	口縁部は緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ、胴中央～下部は斜位から縦位のヘラケズリ、胴下部は縦位のヘラケズリのちヘラナデ。 内面は横位のヘラナデ主体。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 10YR6/4 にぶい黄橙 内面 10YR4/2 灰黄褐	口縁部 1/6 胴部 1/3	重量 444.0g
	5	SK195	土師器 甕	4.9 (18.3)	胴部は底部から内湾気味に開く。	胴中央～下部外面は縦位のヘラケズリ、内面は横位のヘラナデ。	小礫、砂粒、赤褐色粒子	良好	7.5YR6/6 橙	胴部 2/3 底部完形	重量 439.9g
	6	SK195	土師器 台付甕	[10.9] (11.0) 底部径 4.6	口縁部は緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上～中央部は横位のヘラケズリ、胴中央～下部は縦位のヘラケズリのちヘラナデ。 内面は横位のヘラナデ。	砂粒	良好	10YR3/2 黒褐・2.5YR5/4 にぶい赤褐	口縁部 1/2 胴～底部 完形	重量 260.2g 破片ごとの色調の違いが顕著。
	7	SK195	土師器 台付甕	[12.9] (5.1)	口縁部は緩やかに外反して開く。	外面のうち、口縁～頸部は横位のナデ、胴上部は横位のヘラケズリ。 内面は横位のヘラナデ。	砂粒	良好	10YR3/2 黒褐・7.5YR6/6 橙	口縁部 1/4	重量 49.7g
	8	SK195	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面は無文の当て具。	小礫、砂粒、赤褐色粒子	やや軟質	外面 10YR6/2 灰黄褐 内面 10YR6/4 にぶい黄橙	胴部破片	重量 66.1g 南多摩窯
第 296 図	9	SK195・ 28Q-38	須恵器 瓶 / 壺	(17.2) 10.8 胴部 最大径 20.7	最大径は胴上部にある。	ロクロ成形。 貼り付け高台、胴部内面はナデ。	小礫、砂粒	良好	外面 N6/ 灰・N3/ 暗灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	胴部 3/4 底部完形	重量 1,064.0g 外面に自然釉、底部内面に降灰。 南多摩窯
	10	SK195・ 28Q-37・ 49	須恵器 瓶 / 壺	(11.2) [11.1]		ロクロ成形。 胴下部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ、高台部は貼り付け。	小礫、砂粒	良好	N5.5/ 灰	胴～底部 1/3	重量 274.0g 底部内面に降灰。 南多摩窯

SK208 (第 297・301 図、第 48 表)

長軸 148cm、短軸 96cm、検出面からの深さ 91cm を測るやや大型の土坑である。検出時にはピット (SP663) としていたが、半裁して掘削したところ、長円形のやや深い遺構であることが分かり、種別を土坑に変更 (SK208) して調査を続けた。掘削を続けると、検出面からの深さ 50cm 付近で硬化面が検出され、東側がオーバーハングするように掘ることができるようであった。検討の結果、オーバーハングとしていた部分は別遺構の覆土であり、その別遺構は弥生時代終末期～古墳時代前期の竪穴建物跡 (SI65) であることが明らかとなった。また、当初検出した硬化面も SI65 のものであると判断した。

平面形態はやや歪な小判形で、底面は比較的平坦である。壁は内湾して立ち上がったのち、直立気味に検出面に達する。

覆土は 14 層に分けたが、このうち 1～5 層が柱痕跡、6～14 層が柱掘方覆土のような状態で堆積しており、柱穴であった可能性も考えられる。

遺物は土器 4 点、焼礫 1 点が出土した。土器は SI65 に伴っていたものとみられ、そのうち甕の破片 2 点は SI65 出土の破片と接合した。

SK210 (第 297・301 図、第 48 表)

2-6 西区の西寄りに位置する土坑である。西側には古代の竪穴建物跡 SI61 が位置している。不整楕円形を呈し、深さは 16cm と浅い。底面は凹凸があり、北西部には段差を有し 1 段低くなっている。

SK213 (第 160・301 図、第 48 表)

縄文時代の集石 SS15 の発掘調査中に検出された。植物痕等による破壊が激しく、明瞭なプランは検出できなかった。覆土には焼土や炭化物の粒子を含む。

SK214 (第 160・301 図、第 48 表)

SK213 と同じく、SS15 の発掘調査時に検出された。西側は植物痕により攪乱されている。覆土は 2 層からなり、そのうち上層は黒色土で顆粒状を呈する。

SK215 (第 297・301 図、第 48 表)

包含層掘削時に検出されたため、北側の一部が湮滅している。卵形もしくは楕円形を呈すると思われる。2 層からなる覆土のうち、上層は粒子が極めて粗い。

SK217 (第 298・302 図、第 48 表)

SI64 のカマドを切る形で構築された土坑である。当初はカマドの一部との認識で調査していたが、途中から別遺構と判断した。そのため、南側は SI64 の一部として掘削してしまい、また複数の攪乱により上部を破壊されていたため、平面形態は不明瞭であるが、円形を呈していたものと想定している。底面は比較的平坦で、中心部が窪んでいる。

覆土は 6 層に分けられ、それぞれ SI64 のカマド由来と思われる焼土や砂質粘土、炭化物の粒子が混入している。また、最下層に薄く堆積する 6 層は締まりが強い。

遺物は土師器のみ計 32 点が出土している。全て甕の破片であり、恐らく本来 SI64 に伴っていたもので、カマドや煙道の構築材であった可能性も考えられる。

SK224 (第 297・302 図、第 48 表)

南側を SKK874 や攪乱に切られているが、円形を呈するものと思われる。底面は比較的平坦だが、西側がやや下がっている。壁は内湾して立ち上がる。

遺物は土師器 9 点、須恵器 6 点が出土しており、隣接する SK195 や掘立柱建物跡 D との関連性が窺える。

SK225 (第 298・302 図、第 48 表)

SK195 の掘削中に、覆土内で検出された土坑。断面観察から、SK195 は何度か掘り返されていることが想定され、SK225 に関しても SK195 の覆土の一部の可能性も考えられたが、平面でも範囲が確認できたことから、別遺構の SK225 として扱った。

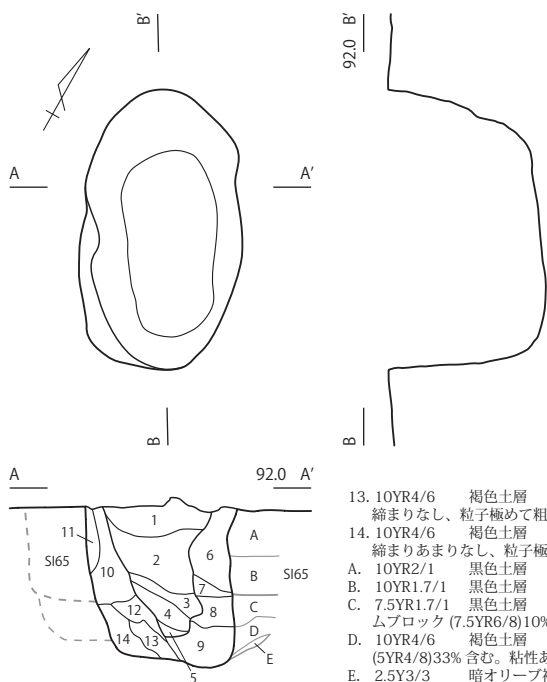
検出時、覆土の北半分は SK195 の覆土と共に掘削してしまっていたが、平面形態は楕円形を呈するものと思われる。壁は内湾して立ち上がっている。覆土は、3 層のうち上の 2 層に焼土の他、1 層には炭化材片も認められ、SK195 との関連性が窺える。遺物は出土しなかった。

SK227 (第 298・302 図、第 48 表)

2-6 東区のⅢ1 層で検出された。北側の大部分が SKK1337 に切られているが、平面形態は不整楕円形を呈しているとみられる。底面は凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる。

遺物は、須恵器片と釘とみられる金属製品が各 1 点出土している。

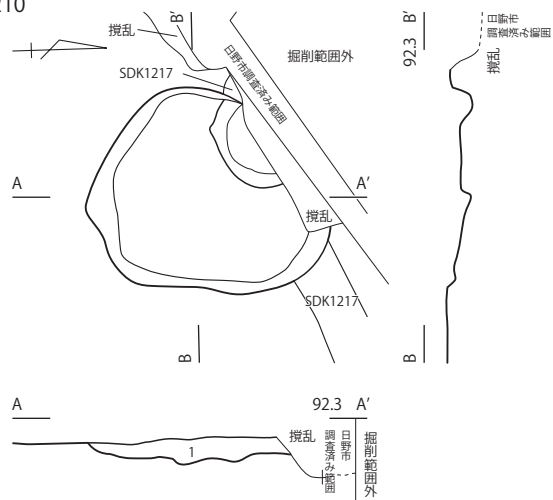
SK208



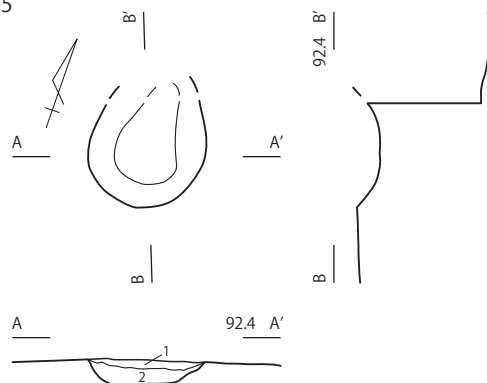
SK208

- 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子(7.5YR6/8)15%、直径2mm以下の焼土粒子3%、直径2mm以下の黒褐色スコリア2%含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子極めて粗い。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径10mm以下のロームブロック・粒子(7.5YR6/8)15%、直径1mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)1%、直径3mm以下の黒褐色スコリア3%含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径5mm以下のロームブロック・粒子(7.5YR6/8)5%、直径2mm以下の黒褐色スコリア2%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子粗い。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径20mm以下のロームブロック・粒子(7.5YR6/8)20%、直径2mm以下の黒褐色スコリア3%含む。粘性強、締まりなし、粒子極めて粗い。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土層 ローム主体。黒色土(10YR2/1)40%混在。直径2mm以下の黒褐色スコリア2%含む。粘性強、締まりなし、粒子極めて粗い。
 - 7.5YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子(7.5YR5/8)10%、直径1mm以下の明赤褐色スコリア(2.5YR5/6)3%、直径2mm以下の黒褐色スコリア2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
 - 7.5YR2/1 黒色土層 直径2mm以下のローム粒子(7.5YR5/8)5%含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。
 - 7.5YR1.7/1 黒色土層 黒褐色土ブロック(10YR2/2)30%混在。直径10mm以下のロームブロック(7.5YR6/8)10%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)2%含む。上部20mm程度が硬化する。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下のロームブロック(7.5YR5/8)7%、直径5mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)3%含む。粘性強、締まりなし、粒子粗い。
 - 7.5YR2/1 黒色土層 6層に似る。直径15mm以下のローム粒子(7.5YR5/8)15%、直径1mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)1%、直径2mm以下の黒褐色スコリア1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子(7.5YR5/8)10%、直径1mm以下の明赤褐色スコリア(2.5YR5/6)1%含む。粘性強、締まり強、粒子粗い。
 - 10YR2/1 黒色土層 ローム粒子・ブロック(10YR4/6)主体。直径15mm以下の黒色土ブロック(10YR2/1)40%含む。粘性強、締まりなし、粒子極めて粗い。
 - 10YR4/6 褐色土層 ローム主体。黒色土(10YR2/1)40%偏在。直径3mm以下の褐色スコリア(7.5YR4/6)2%含む。粘性強、締まりなし、粒子極めて粗い。
 - 10YR4/6 褐色土層 ローム主体。黒色土(10YR2/1)20%偏在。直径3mm以下の褐色スコリア(7.5YR4/6)3%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
- A. 10YR2/1 黒色土層 SI65 覆土。第122図1層に同じ。
 B. 10YR1.7/1 黒色土層 SI65 覆土。第122図10層に同じ。
 C. 7.5YR1.7/1 黒色土層 SI65 貼床土。第122図28層に類似。黒褐色土ブロック(10YR2/2)30%混在。直径10mm以下のロームブロック(7.5YR6/8)10%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)2%含む。粘性あり、締まり強、粒子やや粗い。
 D. 10YR4/6 褐色土層 SI65 貼床土。ローム主体。黒色土(10YR2/1)20%偏在。直径5mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)33%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
 E. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土層 SI65 貼床土。ローム・黒色土各30%混在。直径5mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)3%、直径3mm以下の褐色スコリア(7.5YR4/6)1%含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。

SK210



SK215



SK215

- 10YR2/1 黒色土層 小ブロックと微粒子が混在した層。直径3mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)15%、直径3mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/6)5%含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子極めて粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mmの赤褐色スコリア(2.5YR4/8)5%、直径1mmの黄褐色スコリア(10YR5/6)3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。

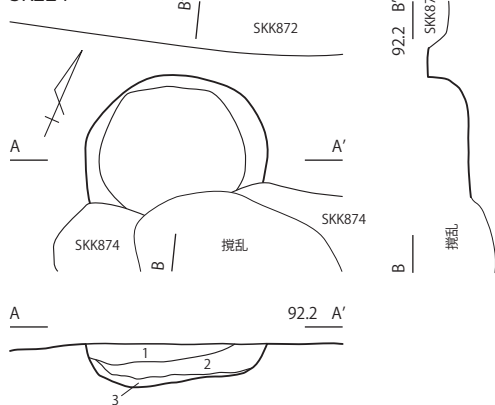
SK210

- 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/6)7%、直径6mm以下の明赤褐色スコリア(2.5YR5/6)3%偏在。粘性あり、締まり強、粒子粗い。

SK224

- 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の焼土粒子5%、直径1mmの明赤褐色スコリア(2.5YR5/8)3%、直径5mm以下のローム粒子(10YR4/6)2%含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の焼土粒子3%、直径1mmの明赤褐色スコリア(2.5YR5/8)2%、直径3mm以下の黒褐色スコリア1%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子極めて粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mmの明赤褐色スコリア(2.5YR5/8)2%、直径1mmのローム粒子(10YR4/6)1%含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。

SK224



第297図 SK208・210・215・224(1/40)

SK228 (第 298・302 図、第 48 表)

SKK1317 に大きく切られているが、楕円形を呈するものと思われる。底面は平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は黒褐色の単層で、締まりが強い。遺物は出土していない。

SK229 (第 299・302 図、第 48 表)

2-6 西区の北西側で検出された土坑である。東側半分近くを中世の溝 SD13 に切られるが、小判形を呈するものと思われる。底面には凹凸を有する。

覆土は 3 層に分けられた。そのうち、2 層の上部に据えたような状態で、大型の砂岩が検出された。重さは 3,400.0g を量り、平坦な面を上下にして、礎石のような状態で検出された。

遺物は、上記のものも含めて礫 5 点（いずれも砂岩）の他、土師器 1 点、須恵器 3 点等が出土した。

SK230 (第 298・303 図、第 48 表)

中世の溝 SD13 に西側を切られるが、小判形を呈していたものと思われる。底面はやや凹凸が目立ち、壁は内湾気味に立ち上がる。覆土は 2 層に分けられ、上層は粒子の極めて粗い黒色土、下層はⅢ層土由来の黒褐色土である。

SK239 (第 299・303 図、第 48 表)

覆土に焼土を多く含む楕円形の土坑である。焼土粒子の多寡によって覆土は 6 層に分けられた。炭化物は 1 層と 3 層に粒子がわずかに含まれる程度である。また、断面の観察から、数次にわたって掘り返されたことが想定される。

遺物は、焼礫が 1 点のみである。

SK244 (第 160・303 図、第 48 表)

2-6 西区北東部に位置する土坑で、北側は日野市調査済み範囲へと続いている。Ⅲ2 層で検出され、平面形態は円形を呈すると思われる。遺物は出土しなかった。

SK247 (第 299・303 図、第 48 表)

2-7 区の南西部で検出された土坑で、南側は日野市調査済み範囲へと続いている。平面形態は小判形を呈するものと思われるが、近世以降の SDK2740、SKK1581 に切られており不明瞭である。遺物は出土しなかった。

SK248 (第 299・303 図、第 48 表)

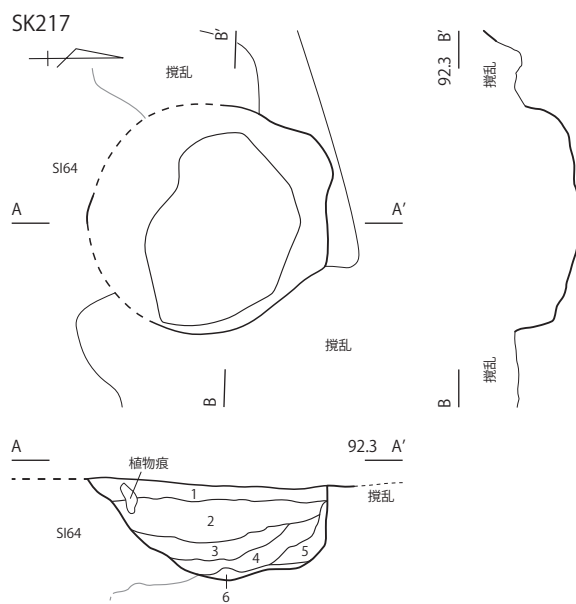
2-7 区南東部で検出された土坑だが、東西に伸びる複数の近世以降の遺構や攪乱に切られ、平面形態は不明である。検出面からの深さも 9cm と非常に浅い。確認された覆土は 1 層で、粒子が極めて粗く顆粒状を呈する黒色土である。

SK250 (第 299・303 図、第 48 表)

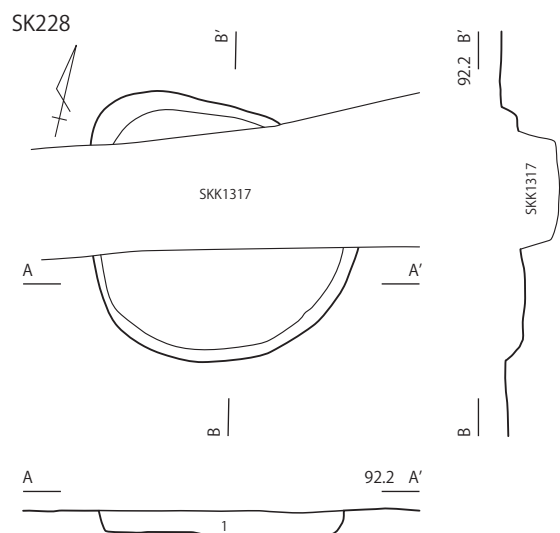
2-6 東区で検出された小型で隅丸長方形を呈する土坑である。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は 2 層からなり、上層の 1 層はスコリアを非常に多く含んでいるほか、焼土粒子も多く含んでいた。遺物は出土しなかった。

SK280 (第 160・303 図、第 48 表)

Ⅲ2 層で検出された土坑である。上端の一部を古代末～中世の土坑 SK240 に切られている他、植物痕の影響により、平面形態は不明確である。覆土には黄橙色や橙色のスコリアをやや多く含んでいる。遺物は土師器片が 1 点出土した。

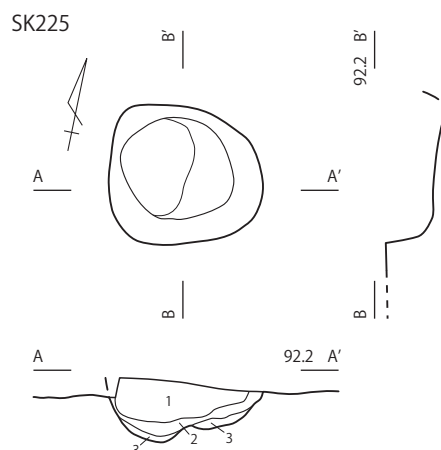


- SK217
1. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の焼土粒子10%、直径2mm以下のローム粒子(2.5Y5/6)5%、直径5mm以下の炭化物粒子2%含む。粘性あまりなし、締まりややあり、粒子やや密。
 2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径5mm以下の焼土粒子15%、直径3mm以下の砂質粘土粒子(2.5Y6/4)3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
 3. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の焼土粒子7%、直径2mm以下の砂質粘土粒子(2.5Y6/4)2%、直径2mm以下の黒褐色スコリア1%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。
 4. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の焼土粒子10%、直径3mm以下のローム粒子(2.5Y5/6)5%、直径2mm以下の砂質粘土粒子(2.5Y6/4)1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
 5. 10YR2/1 黒色土層 直径7mm以下の焼土粒子5%、直径2mm以下の砂質粘土粒子(2.5Y6/4)3%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。
 6. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm以下の焼土粒子1%、直径5mm以下の砂質粘土粒子(2.5Y6/4)1%含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。

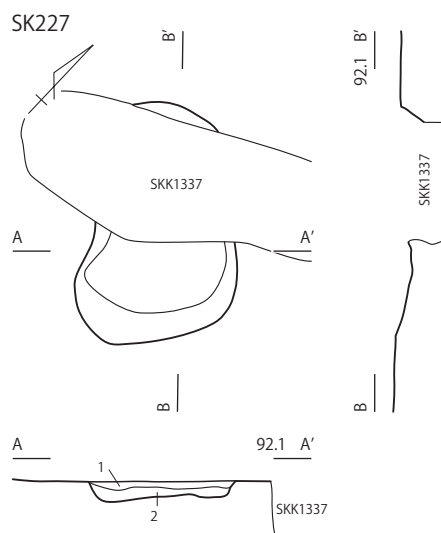


- SK228
1. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)10%、直径2mm以下の黄褐色スコリア(10YR8/8)7%含む。締まり硬緻、粘性やや弱い。

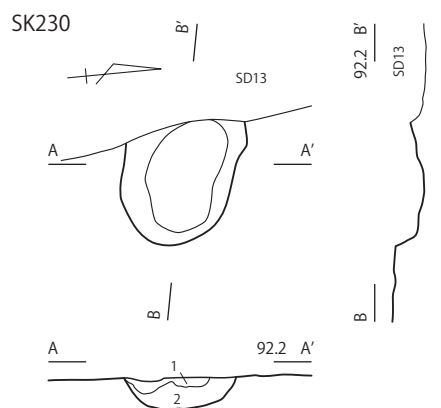
- SK230
1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の褐色スコリア(10YR4/4)5%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)3%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。
 2. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土由来。直径2mm以下のローム粒子(10YR4/6)2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。



- SK225
1. 10YR2/1 黒色土層 直径8mm以下の焼土ブロック2%、直径3mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/8)7%含む。長さ20mm以下の炭化材片あり。粘性あり、締まり強、粒子極めて粗い。
 2. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の焼土粒子1%、直径1mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/8)1%、直径2mm以下のローム粒子(10YR4/6)2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
 3. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土主体。直径1mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/8)1%、直径1mm以下のローム粒子(10YR4/6)1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。

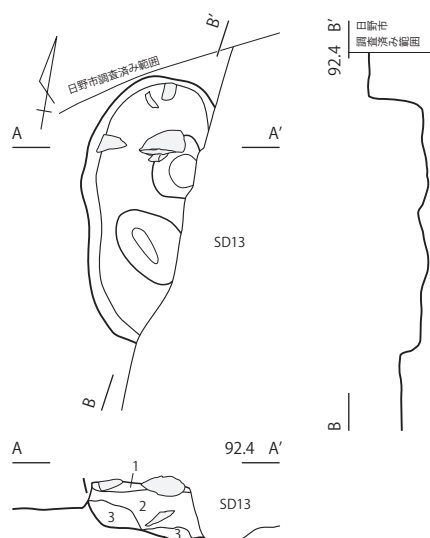


- SK227
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)5%、直径2mm以下の黄褐色スコリア(10YR8/8)5%含む。締まり硬緻、粘性弱い。
 2. 10YR2/3 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア(10YR8/8)5%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)3%含む。締まりやや弱い、粘性ややあり。



第 298 図 SK217・225・227・228・230(1/40)

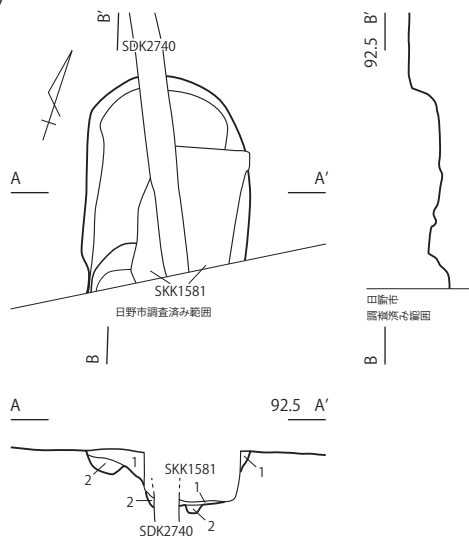
SK229



SK229

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)3%、直径3mm以下の褐色スコリア(10YR4/4)2%、直径1mm以下の黒褐色スコリア1%含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや密。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)5%、直径2mm以下の褐色スコリア(10YR4/4)2%、直径5mm以下の黒褐色スコリア3%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
3. 2.5Y2/1 黒色土層 直径2mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)3%、直径2mm以下の褐色スコリア(10YR4/4)2%、直径3mm以下の黒褐色スコリア2%含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや密。

SK247



SK247

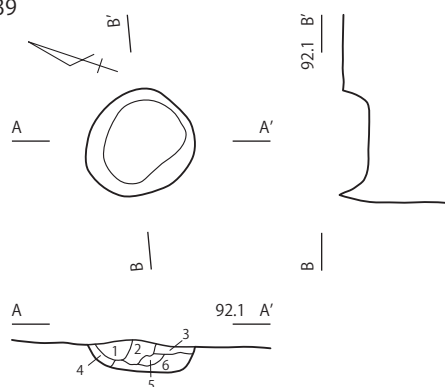
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径5mm以下の黄褐色スコリア(2.5Y5/6)7%、直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%、直径5mm以下の黒褐色スコリア3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
2. 10YR2/3 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。

SK250

1. 10YR2/2 黒褐色土層 II層・III層主体。スコリア質。直径1～3mmの橙色スコリアを25%、焼土粒子を7%含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 III層主体とし、全体的にI層が斑状に混在する。直径1～3mmの橙色スコリアを7%含む。粘性、締まり弱い。



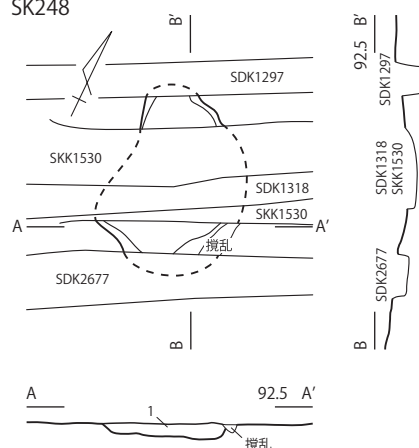
SK239



SK239

1. 7.5YR1.7/1 黒色土層 被熱して強く硬化した層。直径3mm以下の焼土粒子斑文状に40%偏在。直径3mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。
2. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の焼土粒子5%、直径1mm以下の黒褐色スコリア1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の焼土粒子斑文状に10%偏在。直径2mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm以下の焼土粒子10%混在。粘性あまりなし、締まりあり、粒子密。
5. 7.5YR2/1 黒色土層 直径1mm以下の焼土粒子10%混在。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや密。
6. 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm以下の焼土粒子2%、直径3mm以下の褐色スコリア(10YR4/4)1%含む。粘性あまりなし、締まりなし、粒子やや密。

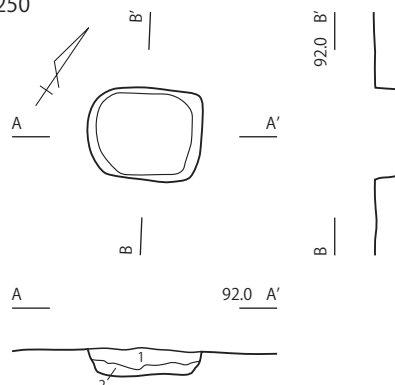
SK248



SK248

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の褐色スコリア(10YR4/4)5%、直径2mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。

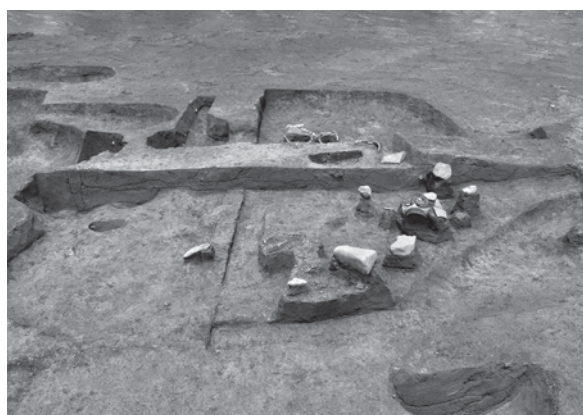
SK250



第 299 図 SK229・239・247・248・250(1/40)



1. 土層断面 A-A' 東北東から



2. 土層断面 B-B' 南南東から



3. 遺物出土状況 南南東から



4. 遺物出土状況 北北西から



5. 遺物出土状況 南から



6. 遺物出土状況 北東から

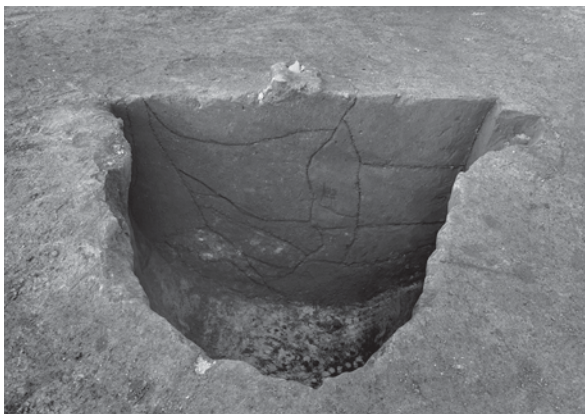


7. 遺物出土状況 南南東から

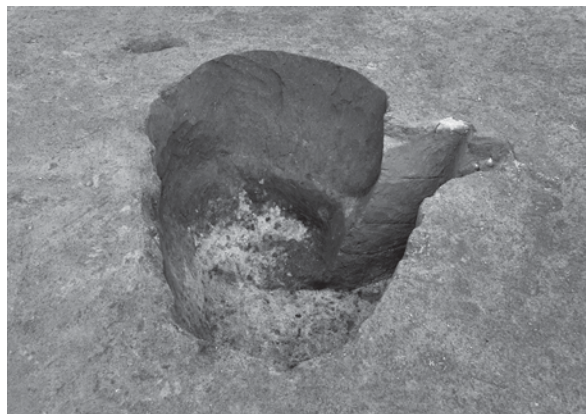


8. 全景 南南東から

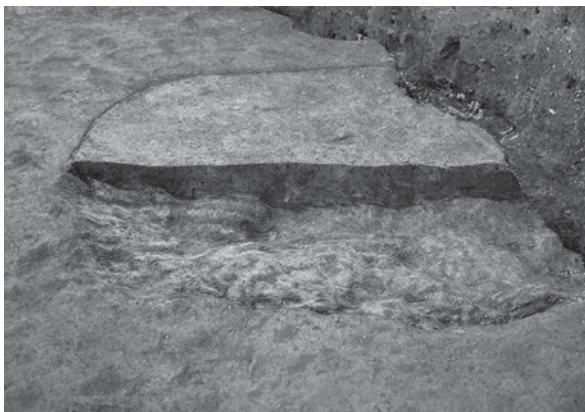
第 300 図 SK195 写真



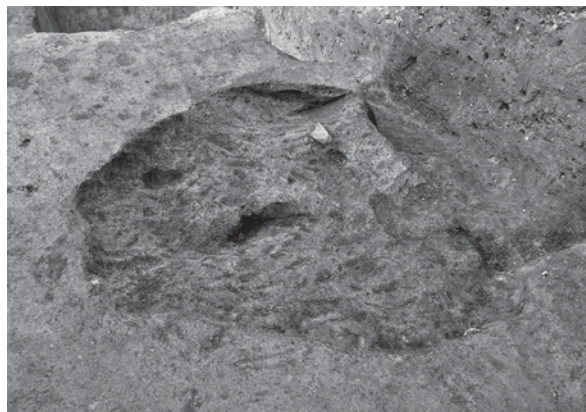
1. SK208 土層断面 南南東から



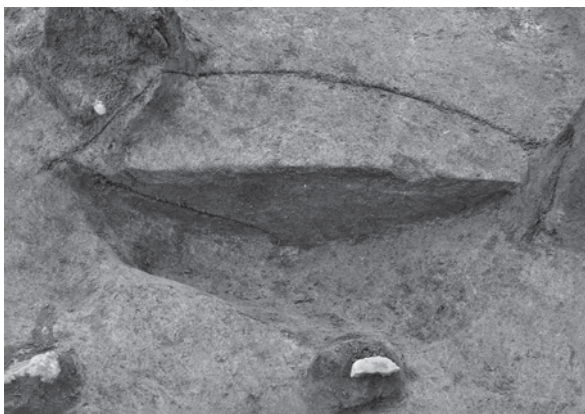
2. SK208 全景 南南東から



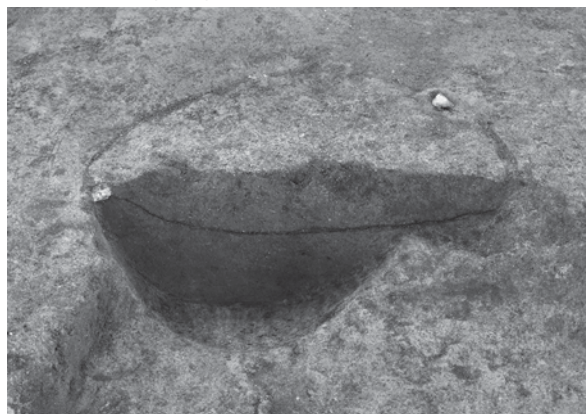
3. SK210 土層断面 東から



4. SK210 全景 東から



5. SK213 土層断面 南南西から



6. SK214 土層断面 北北西から



7. SK215 土層断面 南南東から

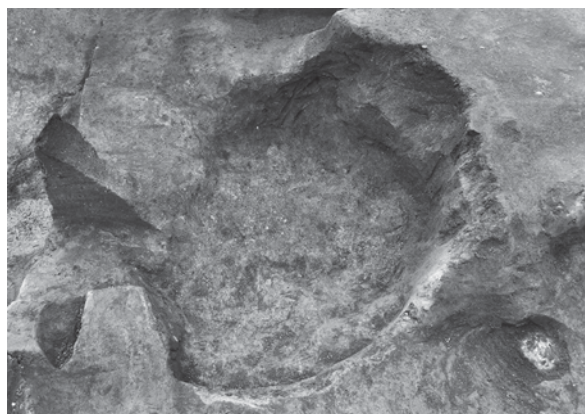


8. SK215 全景 南南東から

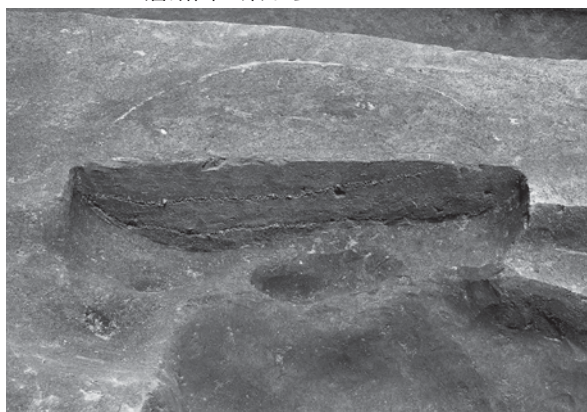
第 301 図 SK208・210・213～215 写真



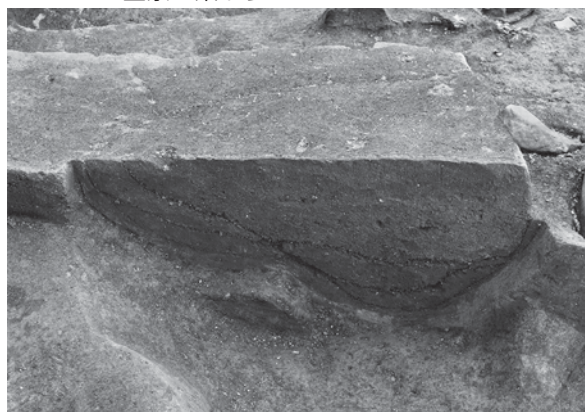
1. SK217 土層断面 東から



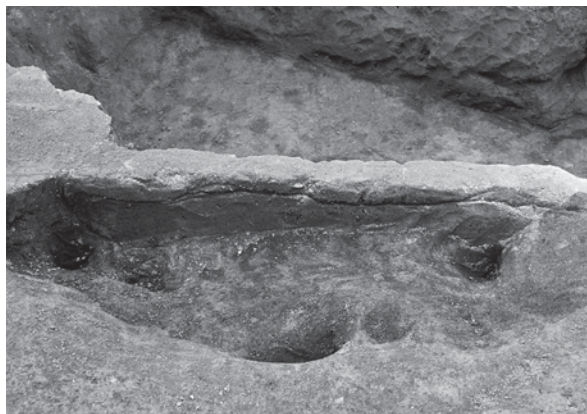
2. SK217 全景 東から



3. SK224 土層断面 南南東から



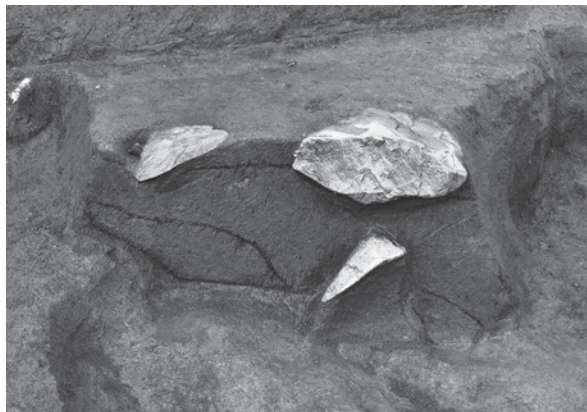
4. SK225 土層断面 北北西から



5. SK227 土層断面 南東から



6. SK228 土層断面 南から

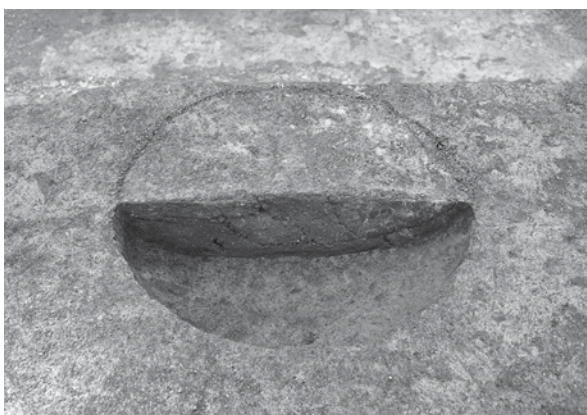


7. SK229 土層断面 南から

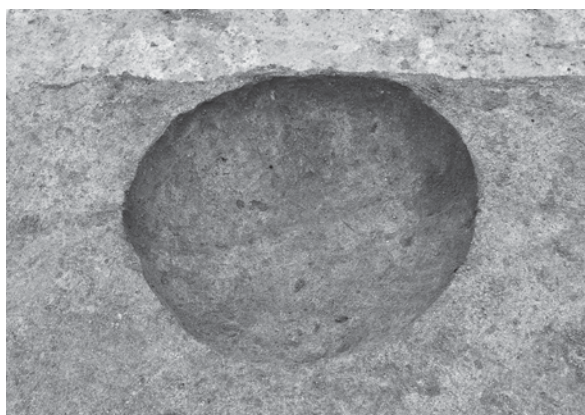


8. SK229 全景 東北東から

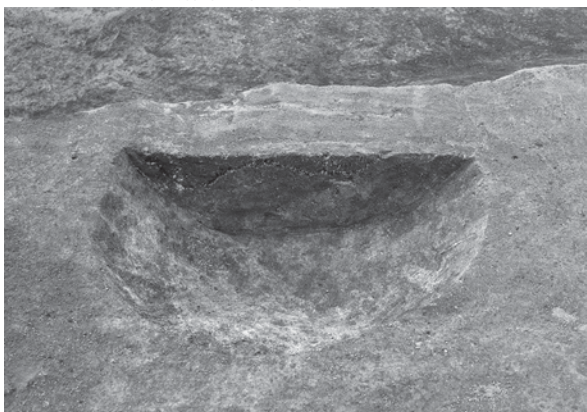
第 302 図 SK217・224・225・227～229 写真



1. SK239 土層断面 東北東から



2. SK239 全景 東北東から



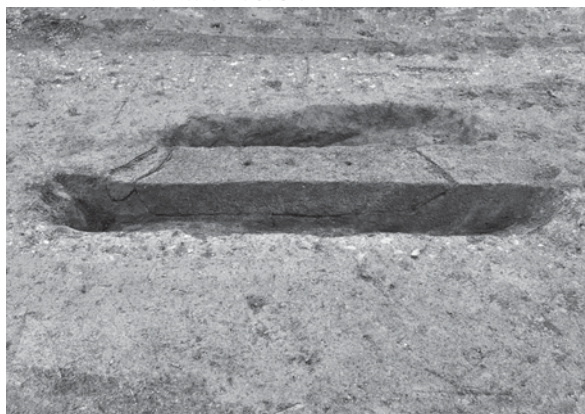
3. SK230 土層断面 東南東から



4. SK244 土層断面 南南東から



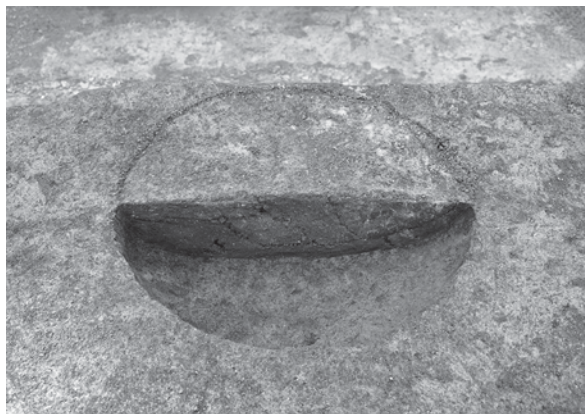
5. SK247 全景 東から



6. SK248 土層断面 北北西から



7. SK250 土層断面 南南東から



8. SK280 土層断面 南南西から

第 303 図 SK230・239・244・247・248・250・280 写真

第 48 表 古代土坑一覧表

遺構名	グリッド	挿図番号		形態		規模 (cm)			検出面	遺物	備考 (重複関係等)
		図面	写真	平面	断面	長軸	短軸	深さ			
SK195	28Q-27・28・37・38	第 292・293 図	第 300 図	(隅丸長方形)	C	309	248	31	Ⅱ 3	縄文土器 2 点 30.9g、土器 3 点 20.9g、土師器 84 点 1,373.2g、須恵器 36 点 1,299.9g、石器 1 点 300.0g、礫 1 点 24.8g、焼礫 15 点 8,617.3g、炭化材	SP754・771・785・922 を切る。SK225、攪乱に切られる。
SK208	28Q-18・19・28・29	第 297 図	第 301 図	小判形	C	148	96	91	Ⅱ 3	土器 4 点 35.5g、焼礫 1 点 283.6g	SI65 を切る。
SK210	27Q-50	第 297 図	第 301 図	(不整楕円形)	C	(118)	(86)	16	Ⅲ 2	焼礫 2 点 195.5g	SDK1217、攪乱に切られる。
SK213	28Q-62	第 160 図	第 301 図	不整長方形	C	67	53	30	Ⅲ 2	—	SS15 を切る。
SK214	28Q-72・82	第 160 図	第 301 図	楕円形	A	(49)	(43)	24	Ⅲ 2	焼礫 1 点 195.5g	SKK968 に切られる。
SK215	27Q-70	第 297 図	第 301 図	(卵形)	C	(62)	(55)	14	Ⅲ 2	—	—
SK217	28Q-33	第 298 図	第 302 図	(不整円形)	C	(87)	(14)	55	Ⅱ 3	土師器 32 点 134.0g	SI64 カマドを切る。攪乱に切られる。
SK224	28Q-27・37	第 297 図	第 302 図	(円形)	C	(96)	(61)	24	Ⅱ 3	土師器 9 点 19.1g、須恵器 6 点 23.9g、礫 1 点 46.0g	SKK874、攪乱に切られる。
SK225	28Q-27・28・37・38	第 298 図	第 302 図	楕円形	D	88	76	35	SK195 覆土	—	SK195 を切る。
SK227	29P-58・68	第 298 図	第 302 図	(不整楕円形)	C	125	87	12	Ⅲ 1	須恵器 1 点 16.4g、金属製品 1 点 0.7g	SKK1337 に切られる。
SK228	29P-66・76	第 298 図	第 302 図	(楕円形)	C	158	132	15	Ⅲ 1	—	SKK1317 に切られる。
SK229	28Q-41	第 299 図	第 302 図	(小判形)	C	(141)	(71)	32	Ⅲ 2	土器 1 点 11.0g、土師器 1 点 1.6g、須恵器 3 点 22.2g、礫 1 点 3,400.0g、焼礫 4 点 1,862.0g	SD13 に切られる。
SK230	28Q-52	第 298 図	第 303 図	(小判形)	A	(71)	(63)	18	Ⅲ 2	焼礫 1 点 60.0g	SD13 に切られる。
SK239	28Q-34	第 299 図	第 303 図	楕円形	C	58	54	18	Ⅲ 2	焼礫 1 点 9.3g	—
SK244	29P-81	第 160 図	第 303 図	(円形)	C	111	105	42	Ⅲ 2	—	—
SK247	27R-25	第 299 図	第 303 図	(小判形)	E	(115)	(89)	35	Ⅲ 2	—	SDK2740、SKK1581 に切られる。
SK248	27Q-99・27R-9	第 299 図	第 303 図	不明	C	(84)	(70)	9	Ⅱ 3	—	SDK1297・1318・2677、SKK1530、攪乱に切られる。
SK250	29P-95	第 299 図	第 303 図	隅丸長方形	C	64	48	16	Ⅲ 1	—	—
SK280	29P-84	第 160 図	第 303 図	(不整形)	D	87	60	20	Ⅲ 2	土師器 1 点 2.5g	SK240 に切られる。

※ () 内は、遺存範囲内での数値・状況を示す。遺物欄で土器としたものは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器を指す。

4) ピット (第 160～162、304～314 図、第 49・50 表)

土坑と同様、ピットの多くは出土遺物が無く、遺物から帰属時期が検討できないため、黒色スコリアを多く含む等、覆土が古代の竪穴建物跡と類似するものを中心に、52 基を古代のピットとして抽出した (掘立柱建物跡を構成する 25 基を除く)。遺構略号は SP である。

分布は、2-6 西区の中央部から西寄りにかけて、同時期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡が集中する範囲に多く見られる。

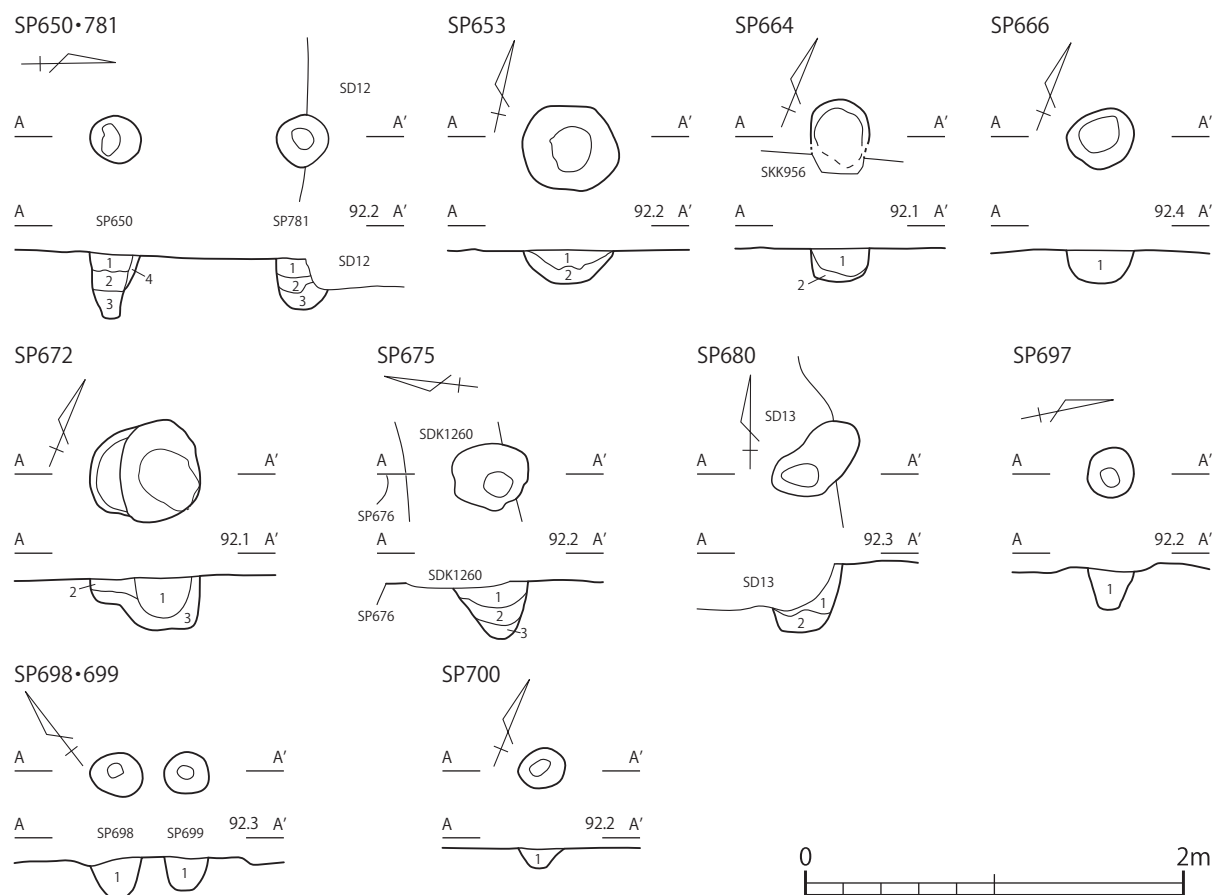
以下に、特徴的なピットについてのみ概略を記述する。これらを含む全ピットについては第 49 表に概要を示している。

SP672 西側に段差を有する。日野市教育委員会調査区で検出された掘立柱建物跡の続きの可能性はある。

SP680 大部分を SD13 に切られる。土師器甕胴部の小片が出土した。

SP698・699 隣接して位置する 2 基の小ピットである。覆土がほぼ同じであることから、同時期に穿たれたものとみられる。

SP769 SI64 の調査中に検出され、SI64 の古いカマドの可能性も考えたが、別遺構と判断した。調査では切合い関係は確認できなかったが、SI64 より古いものと思われる。覆土のうち 2～5 層が柱抜き穴覆土、6～9 層が柱穴掘方充填土であるとみられる。9 層に分けられた全ての層で、焼土と砂質粘土の粒子が確認された。遺物は土師器甕の破片 5 点、須恵器環の体部～底部 1 点が出土した。



SP650

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明褐色スコリア (7.5YR5/8)3%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1% 含む。粘性ややあり、締まり強、粒子やや密。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2% 含む。粘性ややあり、締まりなし、粒子やや粗い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)1% 含む。粘性ややあり、締まりなし、粒子粗い。
4. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2%、直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子密。

SP653

1. 7.5YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)10%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 10%、直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/8)3% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/8)3%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 3% 含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや密。

SP664

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)10%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)10%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 7% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
2. 7.5YR1.7/1 黒色土層 III 2 層土主体。直径 1mm の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3% 含む。粘性あり、締まり強、粒子粗い。

SP666

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm のぶい黄色スコリア粒子 (2.5Y6/4)10%、直径 3mm 以下の黒褐色土粒子 (7.5YR2/1)10%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (2.5YR5/8)7% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。

SP672

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)7%、直径 1mm の黄褐色スコリア (2.5Y5/6)2%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 5% 含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 1 層に近似。直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 1mm の黄褐色スコリア (2.5Y5/6)1%、直径 1mm の赤褐色スコリア (5YR4/8)1%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 5% 含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子粗い。
3. 7.5YR2/2 黒褐色土層 III 2 層土主体。直径 2mm 以下の黒色スコリア 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。

SP675

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 5mm 以下の黄褐色スコリア (10YR5/8)15%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)7%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 3% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや粗い。
2. 5YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm の黄褐色スコリア (10YR5/8)3%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
3. 7.5YR2/2 黒褐色土層 III 2 層土主体。直径 2mm 以下の黒色スコリア 3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。

SP680

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)7%、直径 1mm の明黄褐色スコリア (10YR6/6)5%、直径 3mm 以下の赤色スコリア (10R4/8)3%、直径 2mm 以下の黒色土粒子 10% 含む。粘性あり、締まりなし、粒子粗い。
2. 7.5YR1.7/1 黒色土層 III 2 層土由来土層。直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR6/6)3%、直径 1mm の赤色スコリア (10R4/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。

SP697

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 (7.5YR4/1)5%、直径 2mm 以下の赤色スコリア (10R4/8)3%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 2% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。

SP698

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の褐色スコリア (7.5YR4/6)2%、直径 1mm のローム粒子 1%、直径 2mm 以下の黒褐色土粒子 (10YR2/1) 混在。粘性あり、締まりなし、粒子粗い。

SP699

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の褐色スコリア (7.5YR4/6)2%、直径 1mm のローム粒子 1%、直径 2mm 以下の黒褐色土粒子 (10YR2/1) 混在。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。SP698 とほぼ同じ。

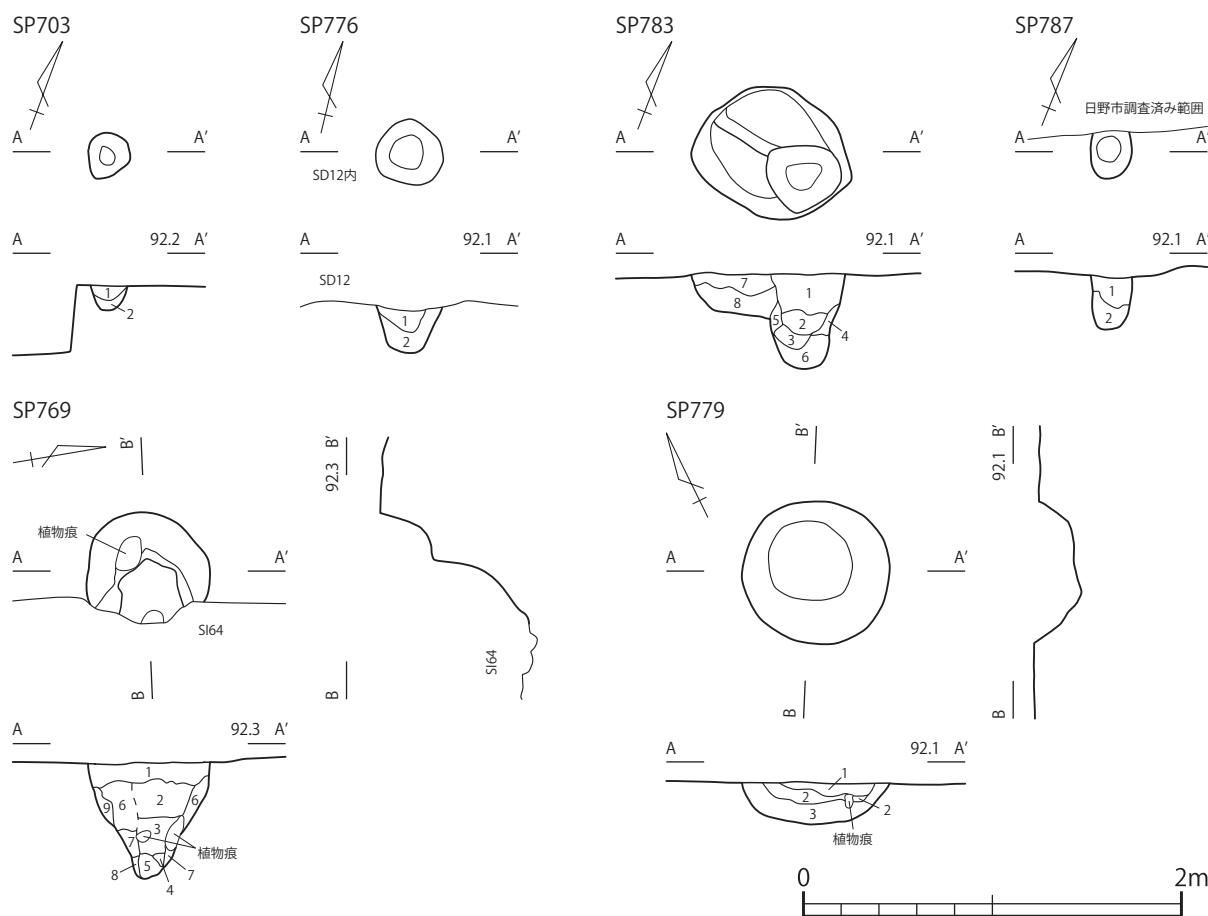
SP700

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm の赤色スコリア (10R4/8)3%、直径 1mm のローム粒子 (7.5YR4/1)3% 含む。粘性あまりなし、締まりなし、粒子粗い。

SP781

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)3%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2% 含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子粗い。
2. 2.5Y2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)3% 含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。

第 304 図 SP650・653・664・666・672・675・680・697～700・781(1/40)



SP703

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)5%、直径2mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/6)2%含む。直径1mmの黒色土ブロック30%偏在。粘性あまりなし、締まりなし、粒子極めて粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 III層土主体。直径1mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。

SP769

1. 7.5YR2/1 黒色土層 直径5mm以下の焼土粒子3%、直径3mm以下の粘土粒子(2.5Y6/4)3%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア(2.5YR5/8)2%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
2. 7.5YR2/2 黒褐色土層 直径8mm以下の焼土粒子7%、直径5mm以下の粘土粒子(2.5Y6/4)15%、直径5mm以下の黒色土粒子(10YR2/1)3%含む。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
3. 7.5YR2/1 黒色土層 直径5mm以下の焼土粒子3%、直径15mm以下の粘土粒子(2.5Y6/4)10%、直径3mm以下の黒色土粒子(10YR2/1)1%含む。粘性強、締まりややあり、粒子極めて粗い。
4. 10YR3/3 暗褐色土層 ロームブロック。
5. 7.5YR2/2 黒褐色土層 直径10mm以下の焼土粒子5%、直径10mm以下の粘土粒子(2.5Y6/4)15%、直径5mm以下の黒色土粒子(10YR2/1)5%含む。粘性強、締まりややあり、粒子極めて粗い。
6. 7.5YR2/2 黒褐色土層 直径5mm以下の焼土粒子5%、直径15mm以下の粘土粒子(2.5Y6/4)20%、直径5mm以下の黒色土粒子(10YR2/1)5%含む。粘性強、締まりややあり、粒子極めて粗い。
7. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の焼土粒子2%、直径5mm以下の粘土粒子(2.5Y6/4)5%、直径2mm以下の炭化物粒子(10YR2/1)2%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子粗い。
8. 7.5YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の焼土粒子3%、直径3mm以下の粘土粒子(2.5Y6/4)3%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子粗い。
9. 10YR2/2 黒褐色土層 直径5mm以下の焼土粒子2%、直径5mm以下の粘土粒子(2.5Y6/4)3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。

SP776

1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%、直径2mm以下のローム粒子(10YR5/8)2%、直径5mm以下の焼土粒子1%、直径1mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)2%、直径2mm以下のローム粒子(10YR5/8)1%含む。III2層相当土20%混在。粘性強、締まりあり、粒子やや密。

SP779

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径10mm以下の焼土ブロック10%偏在。直径5mm以下の炭化物粒子1%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)2%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径10mm以下の焼土ブロック3%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の焼土粒子1%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)1%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。

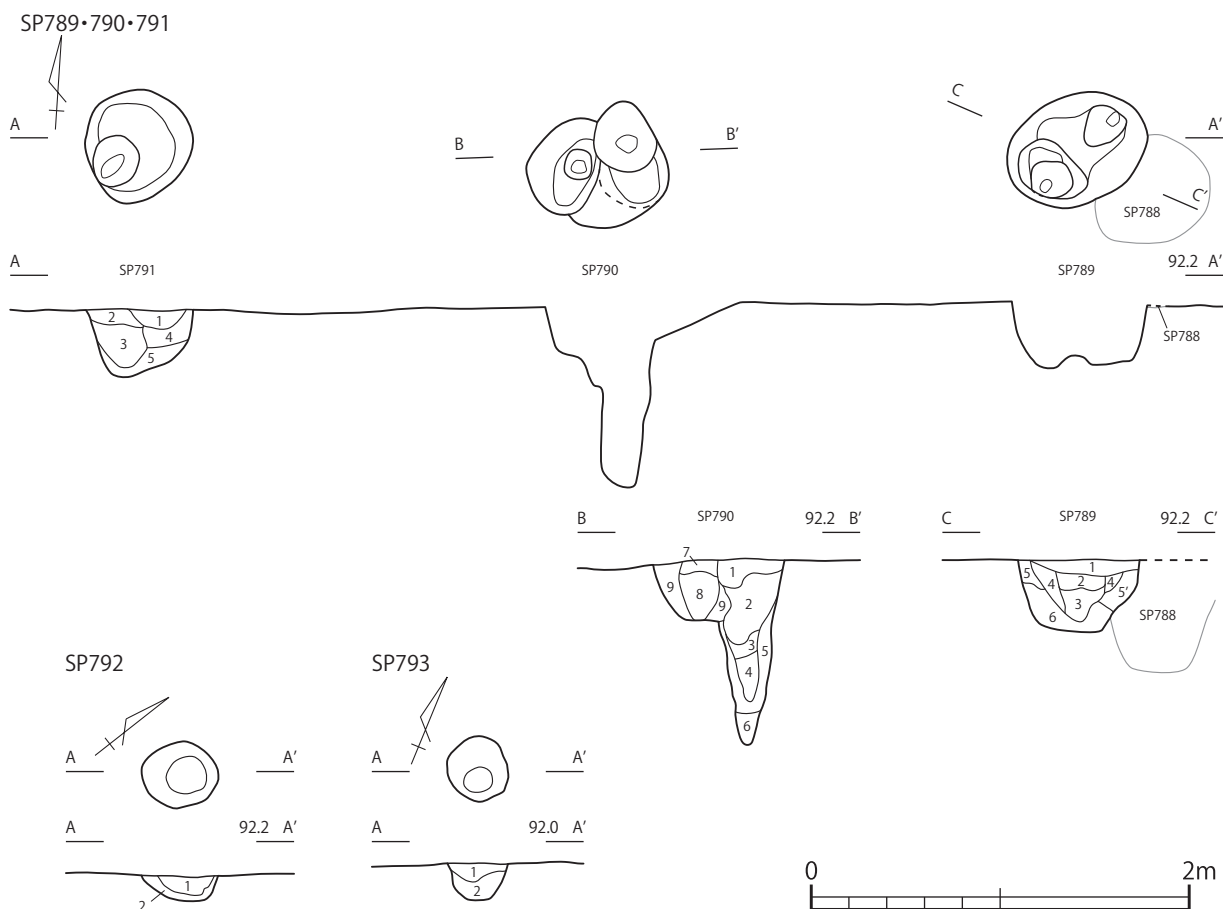
SP783

1. 2.5Y2/1 黒色土層 直径5mm以下の焼土粒子5%、直径3mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/6)7%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子極めて粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)5%、直径3mm以下のローム粒子(10YR5/8)2%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。
3. 10YR2/3 黒褐色土層 暗褐色土(10YR3/4)斑文状に30%偏在。直径2mm以下の明赤褐色スコリア(2.5YR5/8)2%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の明赤褐色スコリア(2.5YR5/8)3%、直径1mm以下のローム粒子(10YR4/6)3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
5. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直径5mm以下の褐色スコリア(7.5YR4/6)2%含む。粘性あり、締まり強、粒子密。
6. 10YR4/6 褐色土層 ローム主体。黒褐色土(10YR2/2)40%偏在。直径1mm以下の明赤褐色スコリア(2.5YR5/8)2%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
7. 2.5Y2/1 黒色土層 直径5mm以下の明赤褐色スコリア(2.5YR4/8)5%、直径3mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/6)7%、長さ5mm以下の炭化材片1%含む。粘性あまりなし、締まり強、粒子やや密。
8. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の明赤褐色スコリア(2.5YR4/8)3%、直径2mm以下のローム粒子(10YR4/6)2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。

SP787

1. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子(10YR5/8)5%、直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%含む。粘性あまりなし、締まりあまりなし、粒子粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm以下のローム粒子(10YR5/8)2%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや粗い。

第305図 SP703・769・776・779・783・787(1/40)



SP789

- 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の焼土粒子5%、直径2mm以下の明黄褐色スコリア(10YR6/8)2%、直径5mm以下のロームブロック(10YR4/6)1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径7mm以下のロームブロック(10YR4/6)3%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)2%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗く、直径20mm以下のブロックが5%混在。
- 10YR2/1.5 黒～黒褐色土層 直径5mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/6)3%、直径5mm以下のロームブロック・粒子(10YR4/6)5%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)2%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
- 10YR2/1.5 黒～黒褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/6)3%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)2%含む。粘性強、締まり強、粒子粗く、ブロック状の覆土を20%含む。
- 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子(10YR4/6)5%、直径5mm以下の黒褐色スコリア(10YR2/2)2%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
- 10YR2/1 黒色土層 5層に似るが直径5mm以下の焼土粒子3%含む。SP788からの流入か。
- 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子(10YR4/6)3%、直径1mm以下の赤褐色スコリア(2.5Y4/8)1%含む。粘性強、締まり強、粒子密。

SP790

- 10YR1.7/1 黒色土層 直径1mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)3%、直径1mm以下の粘土粒子(10YR4/6)2%含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
- 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の焼土粒子5%、直径10mm以下の粘土ブロック(10YR5/8)5%、直径3mm以下の黒色土粒子(10YR1.7/1)2%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。
- 10YR1.7/1 黒色土層 直径5mm以下のロームブロック(10YR4/4)3%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子(10YR4/4)3%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
- 10YR3/3 暗褐色土層 ローム(10YR5/6)30%、直径5mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)3%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 直径7mm以下の焼土粒子5%、直径3mm以下のローム粒子(10YR5/4)3%、直径3mm以下の黒色土粒子(10YR1.7/1)2%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。
- 10YR2/1 黒色土層 直径10mm以下のローム粒子(10YR5/8)3%、直径5mm以下の焼土粒子1%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
- 2.5Y2/1 黒色土層 直径2mm以下の焼土粒子1%、直径2mm以下の明黄褐色スコリア2%、直径3mm以下のローム粒子(10YR4/4)3%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子やや密。

SP791

- 10YR2/1 黒色土層 直径7mm以下の焼土粒子15%、直径1mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/6)3%、直径3mm以下の黒色スコリア2%、直径1mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あまりなし、締まりややあり、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。
- 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下のローム粒子(10YR5/6)3%、直径3mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)1%含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
- 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)2%、直径1mm以下のローム粒子(10YR5/6)1%含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
- 10YR2/1 黒色土層 直径1mm以下の褐色スコリア(10YR5/6)2%含む。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 直径1mm以下の褐色スコリア(10YR5/6)1%含む。粘性強、締まり強、粒子密。

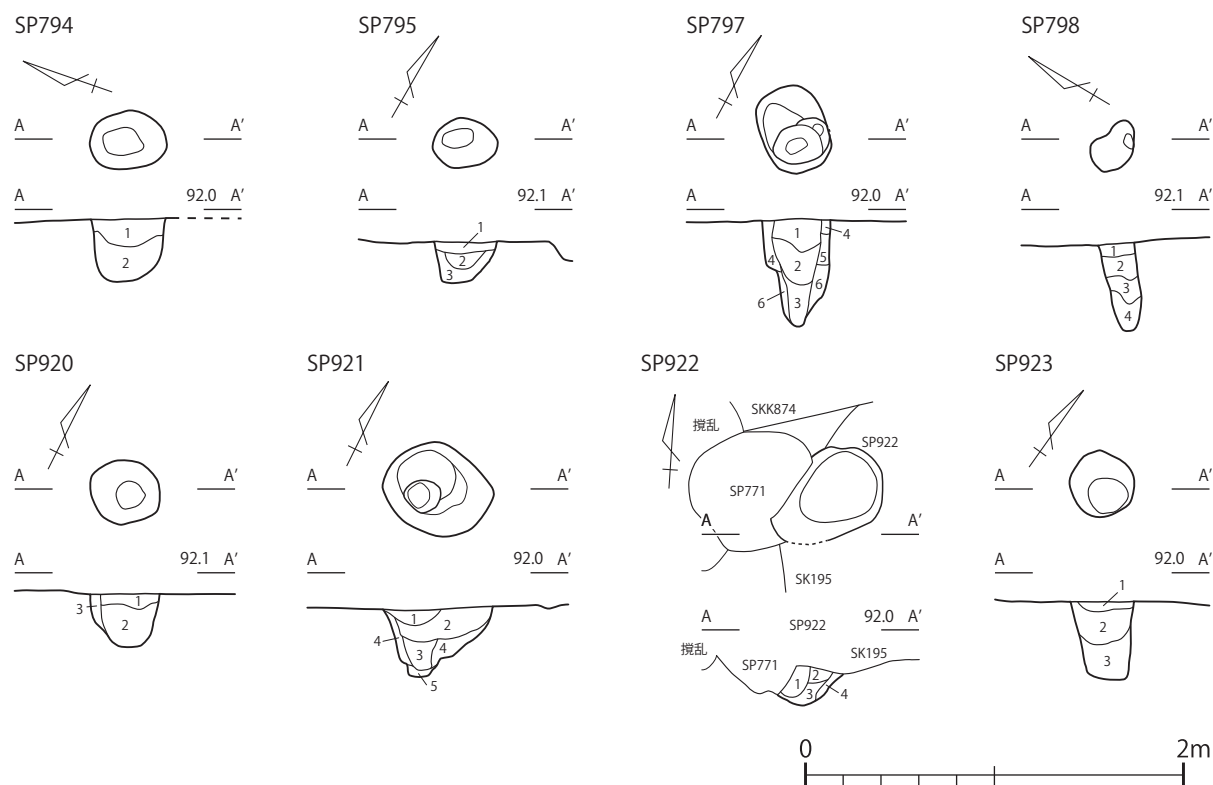
SP792

- 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)5%、直径2mm以下の明黄褐色スコリア(10YR6/6)2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗く、顆粒状を呈する。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)2%、直径1mm以下の明黄褐色スコリア(10YR6/6)1%含む。粘性あり、締まり強、粒子密。

SP793

- 10YR2/1 黒色土層 直径5mm以下の明黄褐色スコリア(10YR6/8)7%、直径3mm以下の明赤褐色スコリア(2.5YR5/8)2%含む。粘性あり、締まり強、粒子粗く、やや顆粒状を呈する。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm以下の明黄褐色スコリア(10YR6/8)2%、直径1mm以下の明赤褐色スコリア(2.5YR5/8)1%含む。ローム(10YR4/6)10%偏在。粘性強、締まり強、粒子密。

第306図 SP789～793(1/40)



SP794

- 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)3%、直径5mm以下の焼土粒子2%、直径3mm以下のローム粒子 (10YR4/6)2%、直径1mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。
- 10YR2/3 黒褐色土層 直径1mm以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)1%、直径2mm以下のローム粒子 (10YR4/6)1%含む。暗褐色土斑文状に10%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。Ⅲ層土由来土層。

SP795

- 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)5%、直径5mm以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径3mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まり強、粒子極めて粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 直径1mm以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)2%含む。粘性強、締まりなし、粒子極めて粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)1%、直径1mm以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)1%含む。粘性強あり、締まり強、粒子やや密。Ⅲ層土由来土層。

SP797

- 10YR1.7/1 黒色土層 直径5mm以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)5%、直径5mm以下のローム粒子 (10YR5/4)5%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 直径1mm以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1%、直径3mm以下のローム粒子 (10YR4/6)5%含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
- 10YR3/3 暗褐色土層 直径3mm以下のローム粒子 (10YR4/6)7%、直径2mm以下の黒褐色土粒子 (10YR2/2)2%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
- 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径1mm以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2%、直径3mm以下のローム粒子 (10YR4/6)5%含む。粘性あり、締まり強、粒子やや粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下のローム粒子 (10YR4/6)3%含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2%、直径3mm以下のローム粒子 (10YR4/6)3%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。

SP798

- 10YR2/3 黒褐色土層 直径1mm以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)5%、直径1mm以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3%含む。粘性ややあり、締まり強、粒子粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm以下のローム粒子 (10YR5/6)2%含む。粘性あり、締まりなし、粒子極めて粗い。顆粒状を呈する。
- 10YR2/1 黒色土層 直径1mm以下のローム粒子 (10YR5/6)2%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径10mm以下のローム粒子・ブロック (10YR4/6)10%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子極めて粗い。顆粒状を呈する。

SP920

- 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径1mm以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。
- 7.5YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径2mm以下のローム粒子 (10YR4/6)2%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 Ⅲ層土主体。粘性強、締まりあり、粒子やや密。

SP921

- 10YR2/1 黒色土層 直径1mm以下のローム粒子 (10YR5/6)3%、直径1mm以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1%、直径3mm以下の黒褐色スコリア3%、直径1mm以下の炭化物粒子1%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm以下の黄褐色スコリア (10YR5/6)2%、直径1mm以下のローム粒子 (10YR5/6)1%、直径1mm以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
- 10YR3/3 暗褐色土層 ローム (10YR4/4)30%、黒色土 (10YR2/1)15%混在。直径1mm以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子粗い。
- 10YR2/3 黒褐色土層 Ⅲ2層土ブロック主体。直径5mm以下のローム粒子 (10YR5/6)10%、直径3mm以下の黒色土粒子 (10YR2/1)3%、直径1mm以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
- 10YR5/6 黄褐色土層 暗褐色土 (10YR3/3) 斑文状に20%含む。直径1mm以下の赤褐色スコリア2%含む。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。

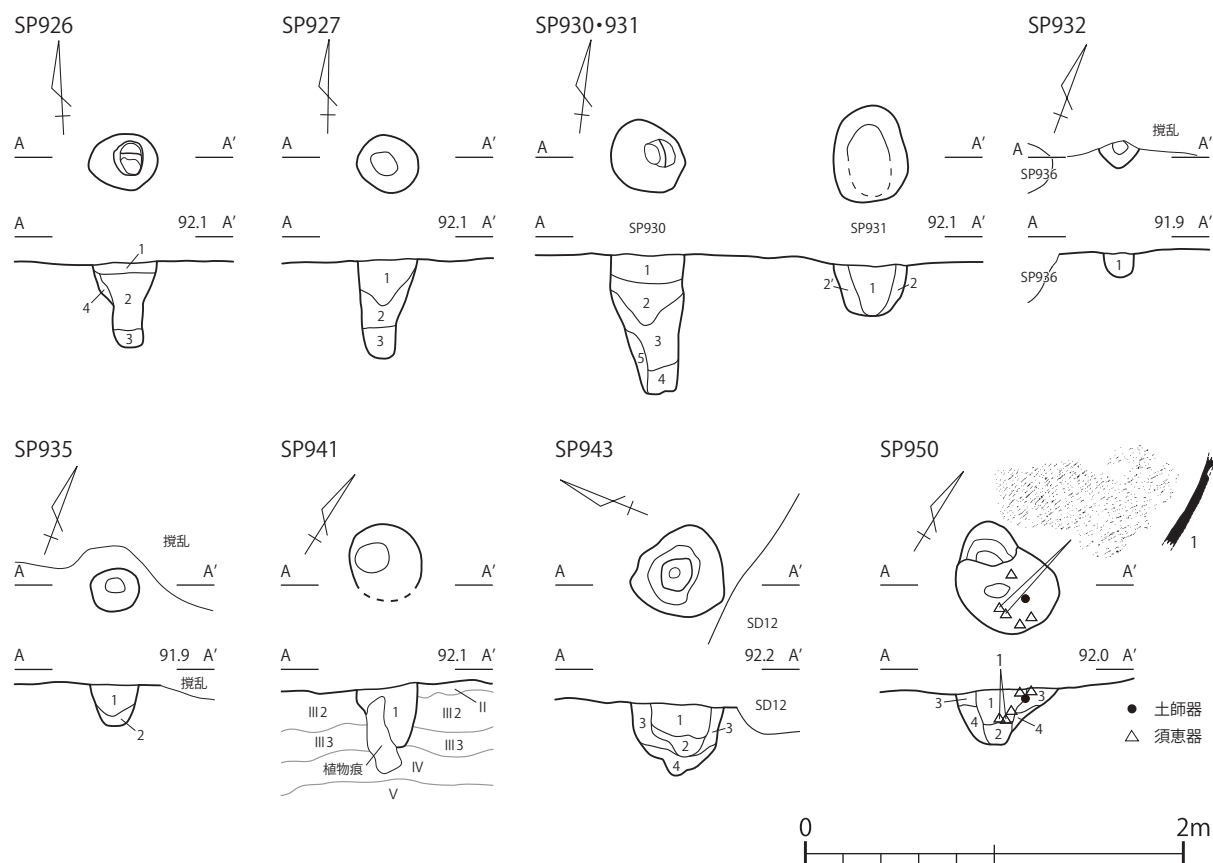
SP922

- 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)2%、直径3mm以下のローム粒子 (10YR4/6)1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径1mm以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)2%、直径3mm以下の焼土粒子1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。粘土質土層。
- 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)3%、直径1mm以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
- 2.5Y2/1 黒色土層 直径1mm以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)2%、直径1mm以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。

SP923

- 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)3%、直径5mm以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/8)1%、直径3mm以下のローム粒子 (10YR4/4)5%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 ローム (10YR5/8)30%偏在。直径3mm以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
- 10YR3/3 暗褐色土層 ロームブロック・粒子 (10YR5/8)40%混在。直径7mm以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/8)3%含む。粘性強、締まりなし、粒子粗い。

第307図 SP794・795・797・798・920～923(1/40)



- SP926**
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。締まりやや硬緻、粘性やや弱い。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)5%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。締まり硬緻、粘性ややあり。
 - 10YR3/4 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。直径 2mm 前後のローム粒子やや多量混入。締まりやや硬緻、粘性あり。
 - 10YR3/3 暗褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)2%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)1% 含む。直径 3mm 前後のローム粒子少量混入。締まり硬緻、粘性ややあり。
- SP927**
- 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)5%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 2mm 前後の焼土粒子少量混入。締まり硬緻、粘性ややあり。
 - 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)6%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。締まりやや硬緻、粘性ややあり。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。直径 2mm 前後のローム粒子が直径約 40mm の円状にやや多量混入。締まり硬緻、粘性ややあり。
- SP930**
- 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)2% 含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径 5mm 以下のロームブロック (10YR5/8)1% 含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下のロームブロック (10YR5/8)2% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。
 - 10YR2/3 黒褐色土層 直径 3mm 以下の黒色土ブロック (2.5Y2/1)5%、直径 2mm 以下のロームブロック (10YR5/8)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
 - 10YR3/3 暗褐色土層 直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
- SP931**
- 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)7%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3% 含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 2 層に似るが、粒子がやや粗い。
- SP932**
- 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の焼土粒子 3%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
- SP935**
- 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR4/4)3%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 直径 10mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 1mm 以下の焼土粒子 1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
- SP941**
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)2%、直径 3mm 以下のローム粒子 (2.5Y4/6)1% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
- SP943**
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5%、直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2%、直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
 - 10YR2/3 黒褐色土層 直径 15mm 以下の暗褐色土ブロック (10YR3/3) 下部に 20% 偏在。直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2% 含む。粘性あり、締まり強、粒子やや粗い。
- SP950**
- 10YR1.7/1 黒色土層 直径 5mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)7%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子極めて粗く、顆粒状及びブロック状を呈する。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)5%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。

第 308 図 SP926・927・930～932・935・941・943・950(1/40)

SP776 SD12 の底面で検出した。掘立柱建物跡 D の SP744 と SP745 の間に位置する。2 層の覆土のうち上層の 1 層に焼土と炭化物の粒子を含む。

SP779 3 層からなる覆土の各層に、焼土の粒子やブロックを含む。特に 1 層では焼土のブロックを多く含む。その他、1 層には炭化物粒子も含む。

SP783 浅い大きな掘り込みの南東部に、小さく深いピットを有する。1 層のみ焼土粒子を含む。土師器 3 点、須恵器 1 点等が出土した。

SP789・790・791 3 基のピットが約 240cm の間隔で 1 列に並んだ状態で検出されたピット列である。発掘調査時、掘立柱建物跡の一部であると想定して他のピットの検出を試みたが発見できなかった。SP789 が掘立柱建物跡 D の SP788 の切っていることから、同建物跡より新しいことが分かる。SP789 は楕円形を呈する。底面の状況から、同一ピット内において柱の据え替えが行われたものと思われる。覆土は 6 層に分けられ、2・3 層は柱拔取り穴の覆土とみられる。SP790 は 2 回程度の据え替えが行われたものと思われる。SP791 は円形を呈する。据え替えの有無は不明である。覆土は、SP789 の 1 層と 5 層、SP790 の 2・7～9 層、SP791 の 1 層に焼土粒子を含む。特に SP791 の 1 層で顕著である。遺物は、SP789 と 790 で須恵器片各 1 点等が出土している。

SP797 深さ 58cm のピットである。1～3 層は柱痕跡もしくは柱拔取り穴覆土とみられる。

SP798 調査区東西ベルト南側のサブトレンチを掘削している際に検出された。覆土は 4 層に分けられ、いずれも粒子が粗い。

SP920 日野市調査済み範囲に近接するやや小型のピットで、土師器甕の破片 8 点が出土した。

SP921 底面中央部付近が一段低くなっている。この部分の覆土 5 層が柱当たりに相当するものとみられる。

SP922 掘立柱建物跡 D の SP771 及び SK195 に切られているため、遺存状況は悪い。覆土は 4 層まで確認され、そのうち 1 層は柱痕跡の可能性がある。

SP932 規模は小さく、北側の大部分が攪乱によって破壊されるが、覆土上層から須恵器甕の破片が出土した。

SP943 4 層の覆土のうち、1・2 層は柱痕跡、3・4 層は掘方充填とみられる。

SP950 SI69 に隣接したピットで、1・2 層は柱痕跡もしくは柱拔取り穴覆土、3・4 層は掘方充填土とみられる。(相原)

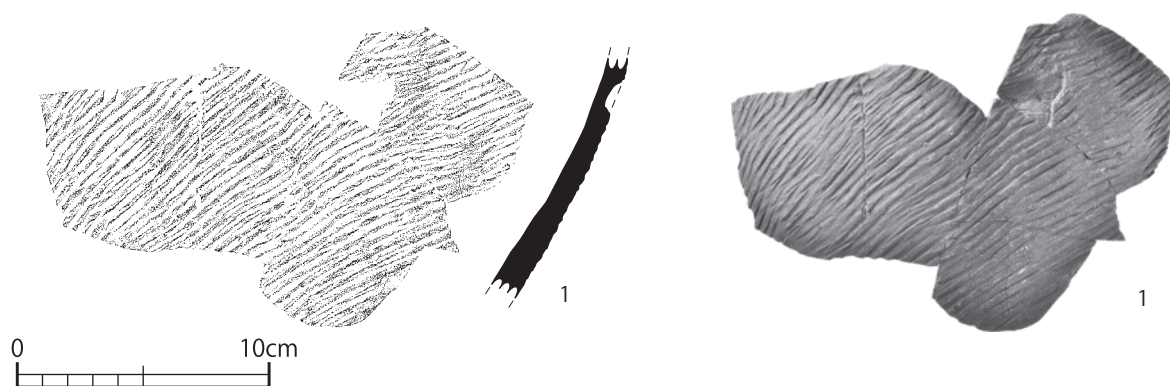
本遺構からは 6 点 170.7g の遺物が出土し、その内訳は土師器（甕）1 点 0.8g、須恵器 5 点 170g（坏 1 点 3.1g、甕 4 点 166.8g）である。これらのうち 1 点を図化し、掲載した。

第 309 図 1 は須恵器甕の胴部破片である。ピット内から出土した破片 2 点が接合した。外面には平行叩きが密に施されている。東金子窯の製品である。(小西)

SP951 SI68 の調査中に検出した。SP951 が SI68 を切っていると思われる。覆土に焼土粒子を少量含む。

SP958 2-7 区で検出した。4 層の覆土のうち、1・2 層は柱痕跡もしくは柱拔取り穴覆土とみられる。3・4 層は含有物が少なく、締まっている。

SP963 比較的平坦な底面を持つ円形のピットである。3 層の覆土のうち、1 層には粘土粒子を多く含んでいる。(相原)

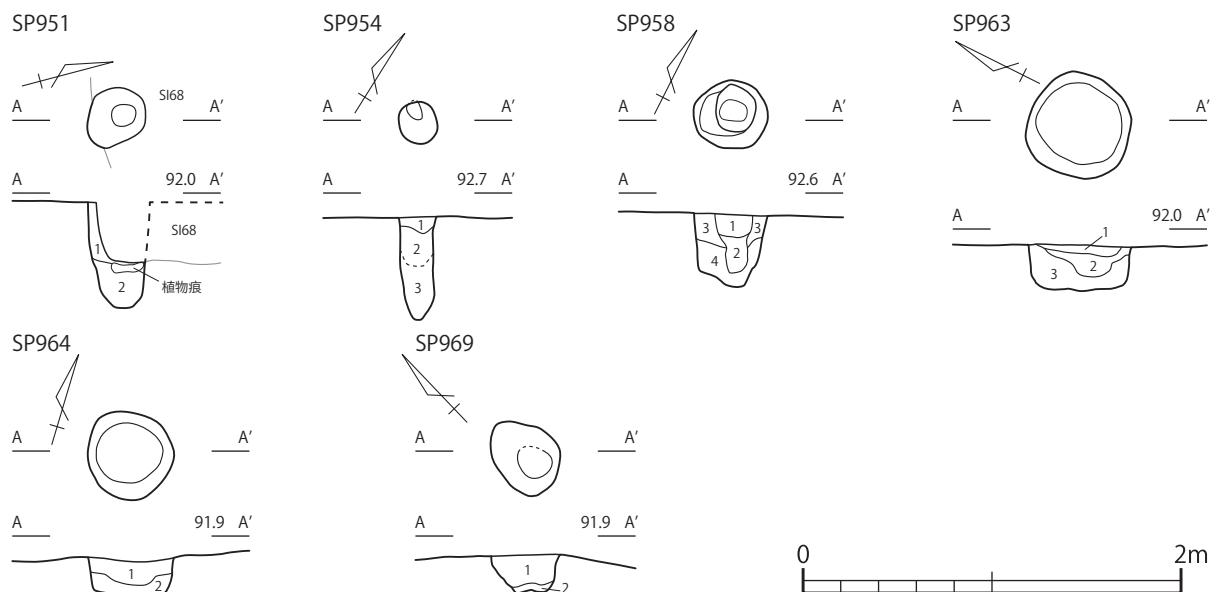


第 309 図 SP950 出土遺物 (1/3) ・写真

第 49 表 SP950 出土土器観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第309図	1	SP950	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面はナデ。	小礫、砂粒	良好	N4.5/ 灰	胴部破片	重量 234.9g 東金子窯



SP951

- 10YR2/2 黒褐色土層 II層主体。直径3mm以下の橙色スコリアを10%、同径の黒褐色スコリアを7%、焼土粒子を3%含む。粘性が弱く、締まりは非常に弱い。
- 10YR2/2.5 黒褐色土層 1層とⅢ3層の混合土。直径3mm前後の橙色スコリアを5%含む。粘性が弱く、締まりは非常に弱い。

SP954

- 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の褐色スコリア(10YR4/6)5%、直径1mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)1%含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm以下の褐色スコリア(10YR4/6)2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
- 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子(7.5YR4/1)5%、直径2mm以下の赤色スコリア(10R4/8)3%、直径2mm以下の黒褐色スコリア2%含む。粘性あり、締まりありなし、粒子やや粗い。

SP958

- 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下のローム粒子(10YR5/8)3%、直径1mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)1%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
- 10YR2/1.5 黒～黒褐色土層 直径5mm以下のロームブロック(10YR5/8)3%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。
- 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%、直径2mm以下のローム粒子(10YR5/8)1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
- 10YR2/1 黒色土層 ローム(10YR5/8)ブロック状に5%偏在。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。

SP963

- 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の橙色スコリアを15%、粘土粒子を10%含む。粘性・締まり弱い。
- 10YR2/1 黒色土層 直径3mm前後の黒褐色スコリアを15%、直径3mm以下の橙色スコリアを5%、粘土粒子を3%含む。粘性・締まり弱い。
- 10YR2/1 黒色土層 II層を主体とし、全体的にⅢ1層が混在する。直径3mm前後の黒色スコリアを7%、直径1mm前後の橙色スコリアを5%含む。粘性・締まり弱い。

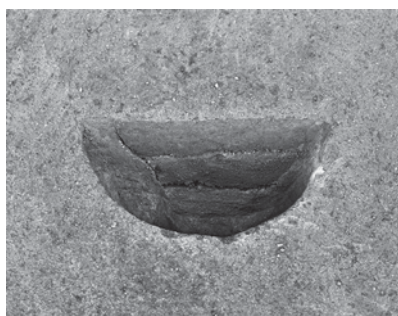
SP964

- 10YR2/2 黒褐色土層 黒褐色土(II層由来)を主体とし、部分的にⅢ3層がブロック状に混在する。直径3mm前後の黒褐色スコリアを15%、粘土粒子・ブロックを7%、直径3mm以下の橙色スコリアを5%含む。粘性・締まり弱い。
- 10YR2/2.5 黒褐色土層 Ⅲ2層を主体とし、部分的に黒褐色土(II層由来)が斑状に混在する。直径1mmの橙色スコリアを3%含む。粘性がやや弱く、締まりは弱い。

SP969

- 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア(10YR8/8)6%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)4%含む。直径3mm以下の焼土粒子微量混入。締まりややあり、粘性ややあり。
- 10YR2/3 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア(10YR8/8)4%、直径2mm以下の橙色スコリア(7.5YR6/8)2%含む。締まりあり、粘性あり。

第 310 図 SP951・954・958・963・964・969(1/40)



1. SP650 土層断面 西から



2. SP653 土層断面 南南東から



3. SP662 土層断面 南南東から



4. SP664 土層断面 南南東から



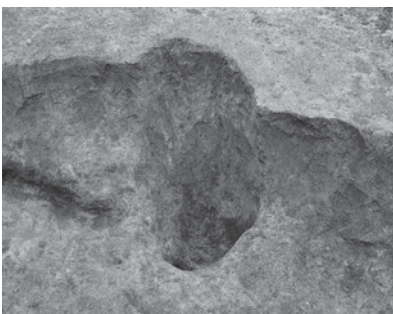
5. SP666 土層断面 南南東から



6. SP672 土層断面 北北西から



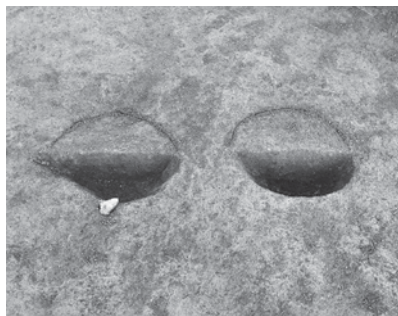
7. SP675 土層断面 東から



8. SP680 全景 西から



9. SP697 土層断面 東から



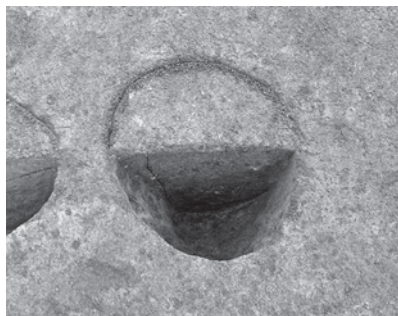
10. SP698(左)・699土層断面 南西から



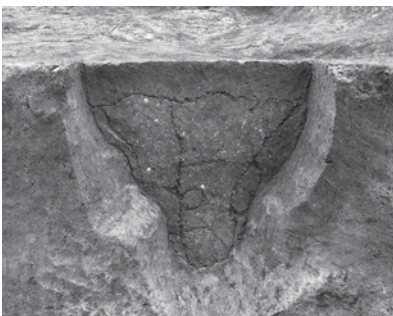
11. (左から)SP698・699・700全景 西南西から



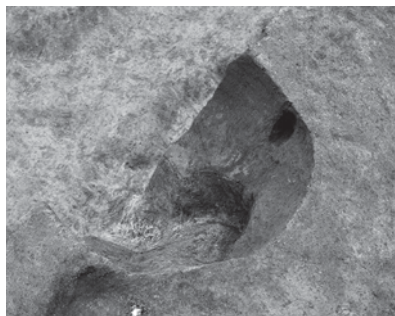
12. SP703 土層断面 南南東から



13. SP707 土層断面 東から



14. SP769 土層断面 東から



15. SP769 全景 北北西から

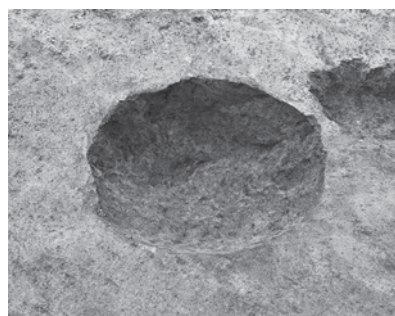
第 311 図 SP650・653・662・664・666・672・675・680・697～700・703・707・769 写真



1. SP776 土層断面 南から



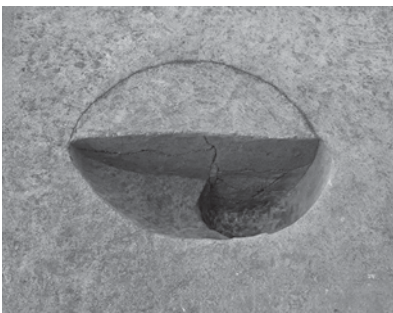
2. SP779 土層断面 南西から



3. SP779 全景 北東から



4. SP781 土層断面 西から



5. SP783 土層断面 南南東から



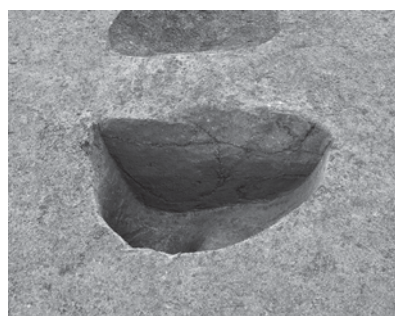
6. SP787 土層断面 南南東から



7. SP789(左)・788(右・掘立柱建物跡D) 土層断面 南南西から



8. SP790 土層断面 北から

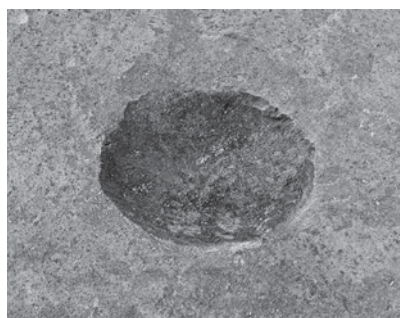


9. SP791 土層断面 南から

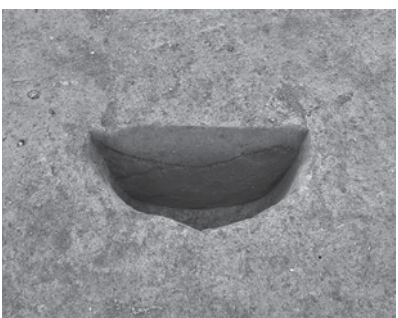


10. (右から)SP789・790・791 全景 南から

第 312 図 SP776・779・781・783・787～791 写真



1. SP792 全景 南東から



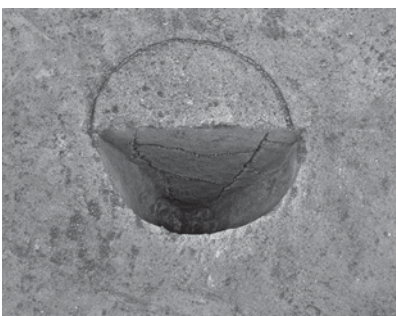
2. SP793 土層断面 南南東から



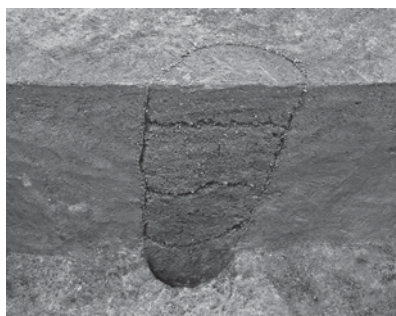
3. SP794 全景 西南西から



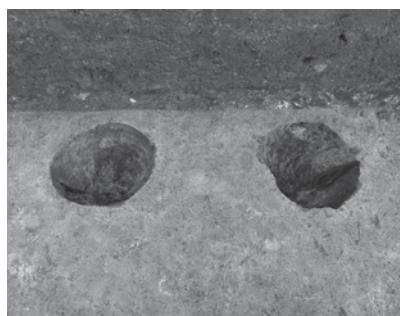
4. SP795 土層断面 南南東から



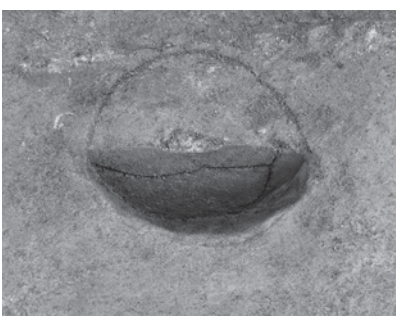
5. SP797 土層断面 南南東から



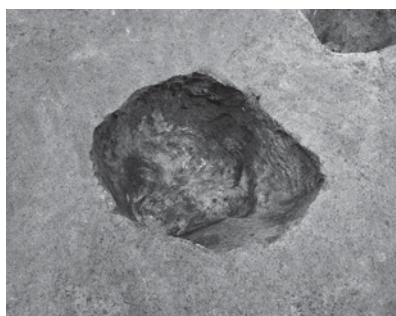
6. SP798 土層断面 東北東から



7. SP799(左)・800全景 北北西から



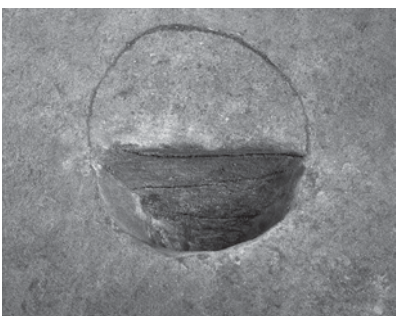
8. SP920 土層断面 北北西から



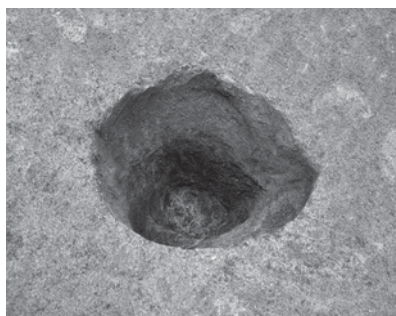
9. SP921 全景 南南東から



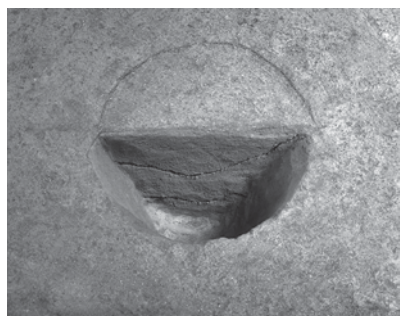
10. SP922土層断面(左はSP771) 南から



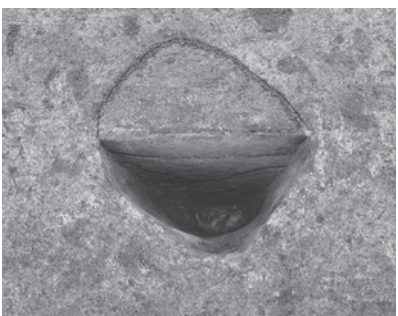
11. SP923 土層断面 南南東から



12. SP926 全景 北北西から



13. SP927 土層断面 南南西から



14. SP930 土層断面 南から



15. SP930(左)・931全景 南南東から

第 313 図 SP792 ～ 795 ・ 797 ～ 800 ・ 920 ～ 923 ・ 926 ・ 927 ・ 930 ・ 931 写真



1. SP932 土層断面 北北西から



2. SP935 土層断面 南から



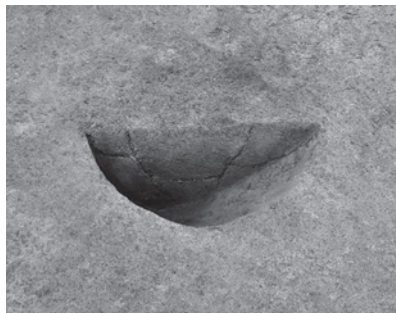
3. SP941 土層断面 南南東から



4. SP943 土層断面 東北東から



5. SP943 全景 東北東から



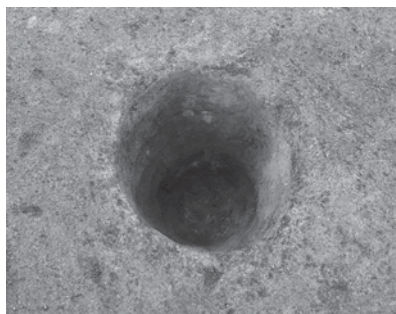
6. SP950 土層断面 南南東から



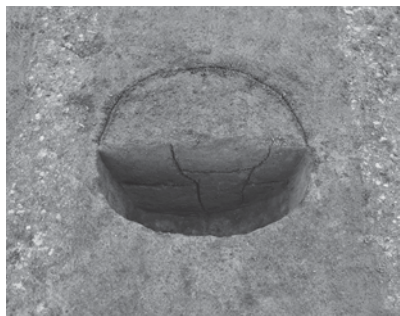
7. SP951 土層断面 西北西から



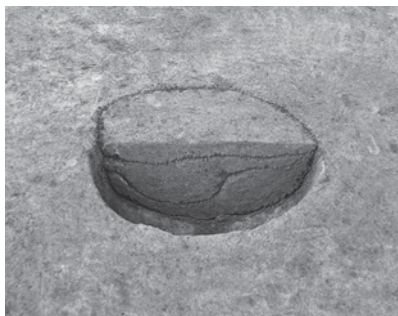
8. SP951 全景 西北西から



9. SP954 全景 南南東から



10. SP958 土層断面 南南東から



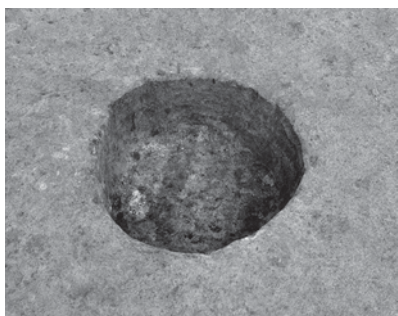
11. SP963 土層断面 東北東から



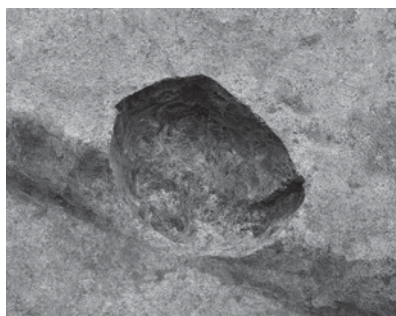
12. SP963 全景 東北東から



13. SP964 土層断面 南南東から



14. SP964 全景 南南東から



15. SP969 全景 北東から

第 314 図 SP932・935・941・943・950・951・954・958・963・964・969 写真

第 50 表 古代ピット一覧表 (1)

遺構名	グリッド	挿図番号		形態		規模 (cm)			検出面	遺物	備考 (重複関係等)
		図面	写真	平面	断面	長軸	短軸	深さ			
SP650	28Q-48	第 304 図	第 311 図	卵形	B	27	24	36	Ⅲ2	—	
SP653	28Q-47	第 304 図	第 311 図	楕円形	A	52	44	18	Ⅱ3	—	
SP662	28Q-39	第 161・162 図	第 311 図	円形	C	40	38	9	Ⅲ2	—	
SP664	28Q-55	第 304 図	第 311 図	(卵形)	C	(38)	31	18	Ⅲ2	—	SKK956 に切られる。
SP666	28Q-82	第 304 図	第 311 図	楕円形	A	35	29	18	Ⅲ2	—	
SP671	28Q-45	第 161・162 図	—	(円形)	A	(18)	(13)	23	Ⅱ3	—	東西ベルトにかかる。
SP672	28Q-65	第 304 図	第 311 図	不整楕円形	D	60	54	29	Ⅲ2	土師器 1 点 2.0g	
SP675	28Q-65・66	第 304 図	第 311 図	不整楕円形	B	(40)	(36)	31	Ⅲ2	—	SDK1260 に切られる。
SP678	28Q-47	第 282～284 図	第 285 図	楕円形	C	81	71	76	Ⅲ2	土器 1 点 9.2g、土師器 10 点 20.8g、須恵器 2 点 6.5g、 礫 3 点 57.0g	掘立柱建物跡 D 柱当たり検出。 攪乱に切られる。
SP680	28Q-62	第 304 図	第 311 図	不整楕円形	A	53	30	37	Ⅲ2	土師器 1 点 1.8g	SD13 に切られる。
SP697	27Q-60	第 304 図	第 311 図	円形	B	26	24	25	Ⅲ2	—	
SP698	28Q-41	第 304 図	第 311 図	卵形	A	28	23	22	Ⅲ2	土器 1 点 11.4g	
SP699	28Q-41	第 304 図	第 311 図	円形	A	23	22	18	Ⅲ2	—	
SP700	28Q-41	第 304 図	第 311 図	楕円形	B	25	20	11	Ⅲ2	—	
SP703	27Q-60	第 305 図	第 311 図	卵形	B	25	22	14	Ⅲ2	—	
SP707	27Q-80	第 161 図	第 311 図	楕円形	B	41	31	45	Ⅲ2	—	
SP743	28Q-37・47	第 282～284 図	第 285 図	円形	C	63	59	61	Ⅲ2	土師器 1 点 6.9g	掘立柱建物跡 D
SP744	28Q-37	第 282～284 図	第 285 図	不整円形	D	(61)	(53)	(42)	SD12 底面 (Ⅲ2)	土師器 1 点 30.4g、 須恵器 1 点 3.0g	掘立柱建物跡 D SD12 に切られる。
SP745	28Q-38	第 282～284 図	第 285 図	楕円形	C	(70)	(58)	(41)	SD12 底面 (Ⅲ2)	—	掘立柱建物跡 D SD12 に切られる。
SP753	28Q-36・37	第 282～284 図	第 285 図	楕円形	C	(83)	(56)	66	Ⅱ3	土師器 6 点 8.6g、須恵器 1 点 5.3g、 焼礫 2 点 150.4g	掘立柱建物跡 D SD12 に切られる。
SP754	28Q-37・38	第 282～284 図	第 285 図	楕円形	C	(72)	64	29	Ⅲ2	—	掘立柱建物跡 D SK195 に切られる。
SP755	28P-100	第 290 図	第 291 図	円形	D	31	28	30	Ⅲ1	—	掘立柱建物跡 F
SP756	28P-100	第 290 図	第 291 図	円形	A	38	38	28	Ⅲ1	—	掘立柱建物跡 F
SP757	29P-91	第 290 図	第 291 図	円形	E	44	41	38	Ⅲ1	須恵器 1 点 3.7 g	掘立柱建物跡 F
SP758	28P-100	第 290 図	第 291 図	楕円形	A	25	21	14	Ⅲ1	—	掘立柱建物跡 F
SP759	29P-91	第 290 図	第 291 図	円形	A	32	30	14	Ⅲ1～2	—	掘立柱建物跡 F
SP760	28P-100・29P-91	第 290 図	第 291 図	不整楕円形	A	40	36	19	Ⅲ1～2	—	掘立柱建物跡 F
SP767	28Q-36	第 287・288 図	第 289 図	楕円形	A	81	62	76	Ⅲ2	土師器 9 点 40.7g、 須恵器 3 点 9.5g	掘立柱建物跡 E SD12 に切られる。
SP769	28Q-42	第 305 図	第 311 図	(円形)	E	(65)	(59)	87	Ⅱ3	土師器 5 点 44.9g、 須恵器 1 点 19.0g	SI64 に切られる。
SP771	28Q-37	第 282～284 図	第 285 図	(円形)	C	(68)	(62)	54	Ⅱ3 ～Ⅲ2	—	掘立柱建物跡 D SP922 を切る。 SK195、攪乱に切られる。
SP776	28Q-37・38	第 305 図	第 312 図	円形	A	35	33	25	SD12 底面 (Ⅲ2)	—	SD12 に切られる。
SP779	29P-93	第 305 図	第 312 図	円形	A	78	75	26	Ⅲ1	土器 1 点 3.6g、 土師器 1 点 0.8g	
SP781	28Q-38・48	第 304 図	第 312 図	(円形)	A	(28)	(28)	27	Ⅲ2	—	SD12 に切られる。
SP783	28Q-39	第 305 図	第 312 図	隅丸長方形	D	85	66	54	Ⅲ2	土師器 3 点 6.7g、須恵器 1 点 7.8g、 焼礫 1 点 414.0g	
SP784	28Q-45	第 287・288 図	第 289 図	不整楕円形	C	(102)	89	74	Ⅱ3 ～Ⅲ2	土師器 4 点 7.7g、 須恵器 3 点 26.6g、 焼礫 1 点 2.2g	掘立柱建物跡 E SI58 を切る。SI63 に切られる。
SP785	28Q-27・37	第 282～284 図	第 285 図	楕円形	C	(86)	(59)	(41)	SK195 底面 (Ⅲ2)	—	掘立柱建物跡 D SK195 に切られる。
SP786	28Q-36	第 282～284 図	第 285 図	円形	A	77	72	58	Ⅲ2	土師器 2 点 9.7g、 須恵器 2 点 42.6g	掘立柱建物跡 D
SP787	28Q-41	第 305 図	第 312 図	楕円形	A	(25)	(21)	29	Ⅲ2	—	
SP788	28Q-37	第 282～284 図	第 285 図	円形	A	64	(59)	63	Ⅲ2	—	掘立柱建物跡 D SP789 に切られる。
SP789	28Q-37	第 306 図	第 312 図	楕円形	D	76	58	39	Ⅲ2	土器 1 点 2.0g、須恵器 1 点 8.9g、 焼礫 1 点 774.0g	SP788 を切る。
SP790	28Q-36	第 306 図	第 312 図	不整形	E	76	68	98	Ⅲ2	須恵器 1 点 2.1g	
SP791	28Q-36	第 306 図	第 312 図	円形	D	60	56	46	Ⅲ2	—	

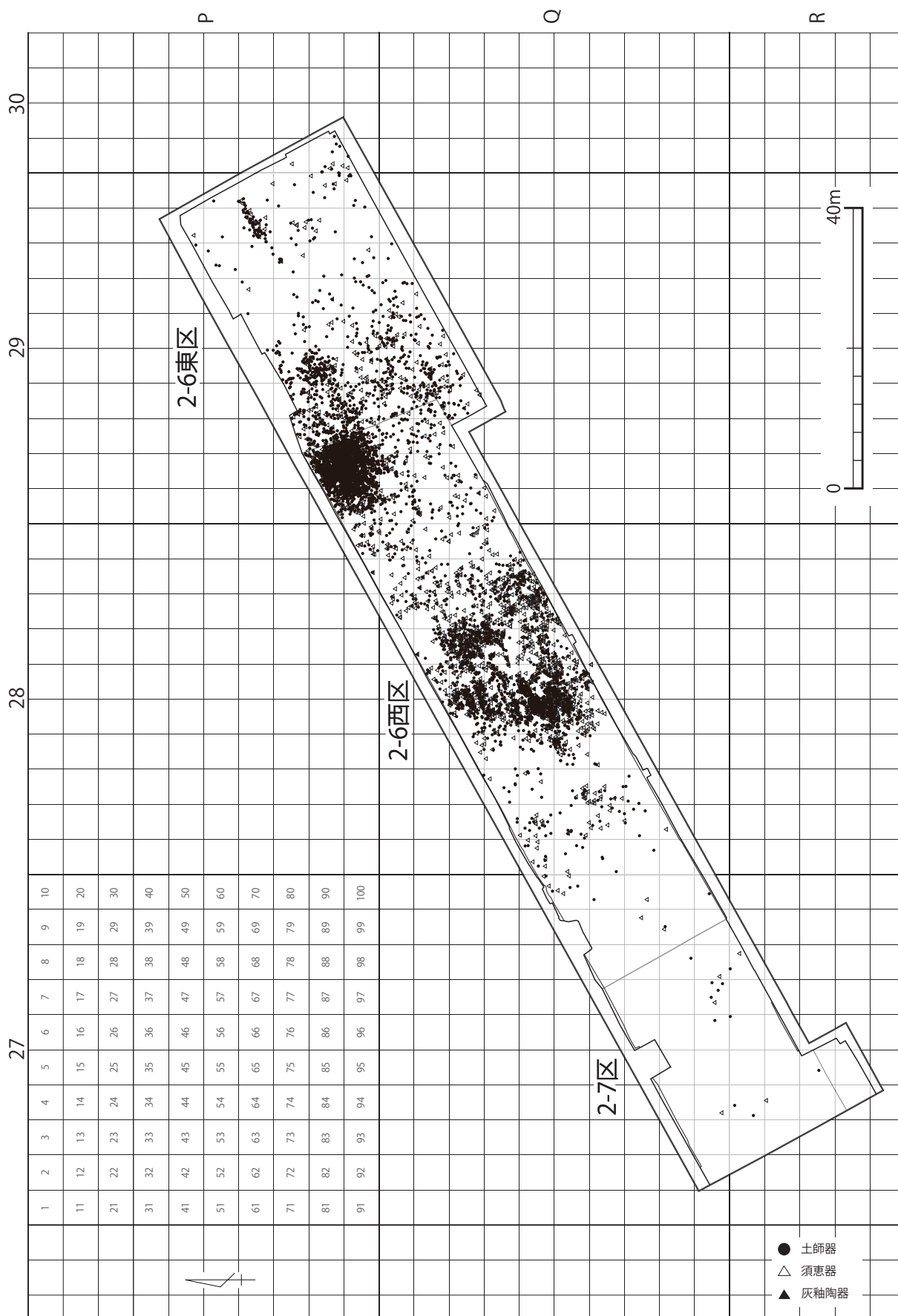
第 50 表 古代ピット一覧表 (2)

遺構名	グリッド	挿図番号		形態		規模 (cm)			検出面	遺物	備考 (重複関係等)
		図面	写真	平面	断面	長軸	短軸	深さ			
SP792	28Q-52	第 306 図	第 313 図	楕円形	A	40	33	14	Ⅲ2	—	
SP793	28Q-33	第 306 図	第 313 図	円形	A	34	32	20	Ⅲ2	—	
SP794	28Q-54	第 307 図	第 313 図	楕円形	A	40	30	34	Ⅲ2	—	
SP795	28Q-33	第 307 図	第 313 図	楕円形	B	34	24	22	Ⅲ2	土師器 1 点 1.7g	SD12 に切られる。
SP797	28Q-29	第 307 図	第 313 図	隅丸長方形	E	46	34	58	Ⅲ2	—	
SP798	28Q-29	第 307 図	第 313 図	楕円形	A	29	21	47	Ⅲ2	—	
SP799	28Q-49	第 160・161 図	第 313 図	円形	A	34	32	25	Ⅲ3	—	
SP800	28Q-49	第 160・161 図	第 313 図	楕円形	D	35	31	28	Ⅲ3	—	
SP920	28Q-48・49	第 307 図	第 313 図	円形	A	38	33	29	Ⅲ2	土師器 8 点 28.2g	
SP921	29Q-22	第 307 図	第 313 図	楕円形	E	58	46	38	Ⅲ2	—	
SP922	28Q-37	第 307 図	第 313 図	(楕円形)	A	64	46	(26)	Ⅲ2	焼礫 1 点 44.6g	SK195、SP771 に切られる。
SP923	29Q-22	第 307 図	第 313 図	円形	C	35	34	42	Ⅲ2	—	
SP925	28Q-46	第 287・288 図	第 289 図	円形	A	(69)	(66)	90	SI58 覆土	土師器 10 点 34.9g、 須恵器 1 点 1.4g	掘立柱建物跡 E SI58 を切る。
SP926	29P-78	第 308 図	第 313 図	卵形	C	36	29	46	Ⅲ2	—	
SP927	29P-79	第 308 図	第 313 図	楕円形	C	32	28	53	Ⅲ2	—	
SP930	28Q-34	第 308 図	第 313 図	円形	C	41	36	75	Ⅲ1～2	—	
SP931	28Q-35	第 308 図	第 313 図	楕円形	C	51	39	28	Ⅲ1～2	土師器 1 点 0.9g、 須恵器 1 点 15.2g	
SP932	28Q-25	第 308 図	第 314 図	(方形)	A	(21)	(15)	14	Ⅲ3	須恵器 1 点 21.8g	攪乱に切られる。
SP935	28Q-25	第 308 図	第 314 図	円形	A	25	22	22	Ⅲ3	—	
SP937	28Q-35	第 287・288 図	第 289 図	隅丸方形	A	(57)	(55)	61	Ⅲ2	土師器 7 点 13.9g、 須恵器 1 点 8.9g	掘立柱建物跡 E SI63 に切られる。
SP939	28Q-36・46	第 287・288 図	第 289 図	(隅丸長方形)	A	(87)	77	76	Ⅲ2	土師器 9 点 26.7g、 須恵器 4 点 95.6g	掘立柱建物跡 E SI63 に切られる。
SP940	28Q-35	第 287・288 図	第 289 図	(隅丸長方形)	A	(70)	(56)	63	SD12 底面 (Ⅲ3)	土師器 2 点 7.6g、 灰釉陶器 1 点 16.4g	掘立柱建物跡 E SI63、SD12 に切られる。
SP941	28Q-28・29	第 308 図	第 314 図	(円形)	A	(37)	(37)	59	Ⅲ2	—	東西ベルトにかかる。
SP943	28Q-38	第 308 図	第 314 図	楕円形	E	50	45	39	Ⅲ2	—	
SP944	28Q-35・45	第 287・288 図	第 289 図	楕円形	A	78	59	49	Ⅲ2	縄文土器 1 点 15.9g、 焼礫 2 点 16.9g	掘立柱建物跡 E
SP946	28Q-45	第 287・288 図	第 289 図	隅丸方形	A	68	(65)	67	Ⅲ2	土師器 1 点 8.9g、 焼礫 3 点 24.2g	掘立柱建物跡 E SI63 に切られる。
SP947	28Q-45	第 287・288 図	第 289 図	楕円形	A	71	61	79	Ⅲ2	土師器 1 点 4.7g	掘立柱建物跡 E 東西ベルトにかかる。
SP950	28Q-28	第 308 図	第 314 図	不整楕円形	D	61	42	31	Ⅲ2	土師器 1 点 0.8g、 須恵器 5 点 170.0g	
SP951	29P-69	第 310 図	第 314 図	楕円形	A	(34)	(30)	56	Ⅲ2	—	SI68 を切る。
SP954	27Q-94	第 310 図	第 314 図	楕円形	A	22	19	57	Ⅲ2	—	
SP958	27R-14	第 310 図	第 314 図	円形	E	39	36	42	Ⅲ2	—	
SP963	29P-87	第 310 図	第 314 図	円形	C	57	53	25	Ⅲ2	—	
SP964	29P-96	第 310 図	第 314 図	円形	C	48	44	22	Ⅲ2	—	
SP969	29P-49・59	第 310 図	第 314 図	卵形	C	40	32	21	Ⅲ2	—	
SP1057	29Q-17・18	第 161 図	—	—	(C)	—	—	(26)	南壁断面 (Ⅲ1)	—	

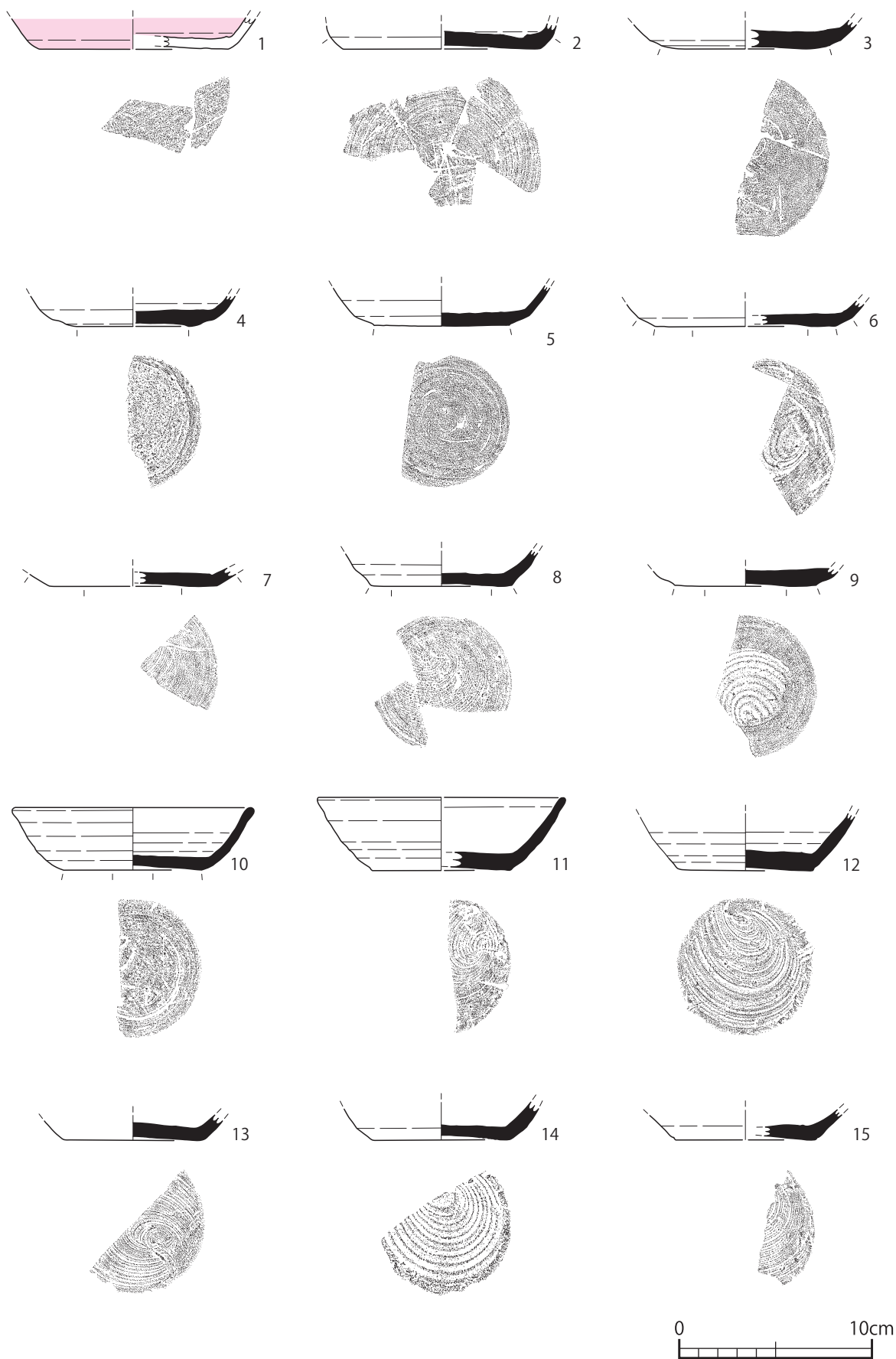
※ () 内は、遺存範囲内での数値・状況を示す。遺物欄で土器としたものは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器を指す。

5) 遺構外出土遺物 (第 315 ～ 327 図、第 51・52 表)

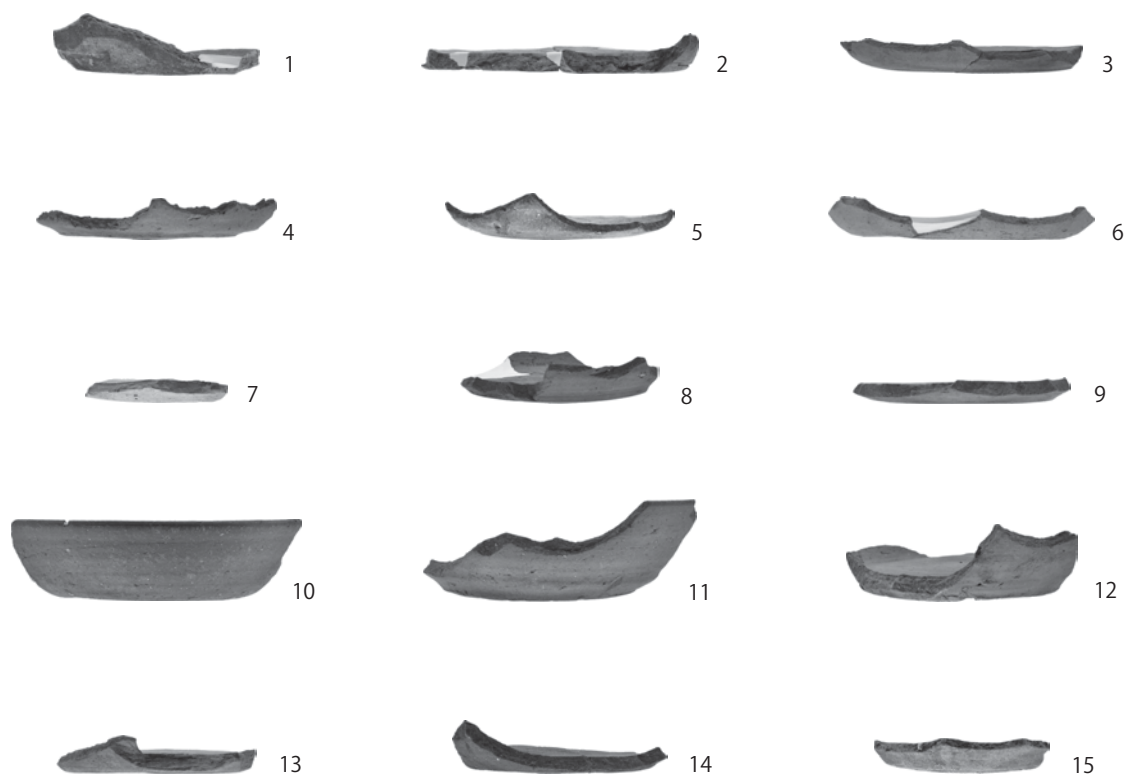
遺構外から出土した古代の遺物は、総点数 8,764 点、総重量 48,613.2g である。種別・器種ごとの内訳は、土師器 6,270 点 23,282.2g (坏 237 点 1,063.5g、盤状坏 42 点 171.8g、甕 5,830 点 20,779.8g、台付甕 68 点 566.3g、甗 2 点 10.4g、甕あるいは甗 67 点 622.4g、鉢 2 点 35.2g、器種不明 22 点 32.8g)、須恵器 2,426 点 23,996.3g (坏 1,733 点 10,146.7g、埴 54 点 831.6g、蓋 78 点 882.4g、鉢 3 点 58.5g、甕 285 点 7,208.3g、壺 3 点 162.7g、長頸瓶 41 点 702.4g、瓶あるいは壺 214 点 3,930.7g、コップ形須恵器 1 点 18g、鉄鉢形土器 1 点 7.2g、耳皿 1 点 2.9g、ミニチュア土器 1 点 24.1g、器種不明 10 点 20.8g)、ロクロ土師器 (坏) 1 点 2.8g、灰釉陶器 34 点 483.4g (埴 5 点 52.1g、皿 1 点 17.3g、長頸瓶 13 点 232.2g、瓶あるいは壺 15 点 181.8g)、瓦 7 点 739g (丸瓦 5 点 717.8g、平瓦? 2 点 21.2g)、金属製品 19 点 98.5g (刀子 5 点 12.9g、鉄鏃 6 点 12.2g、鋌 1 点 4.2g、



第 315 図 包含層出土古代土師器・須恵器・灰釉陶器分布図 (1/800)



第 316 図 古代遺構外出土遺物 (1)(1/3)



第 317 図 古代遺構外出土遺物 (1) 写真

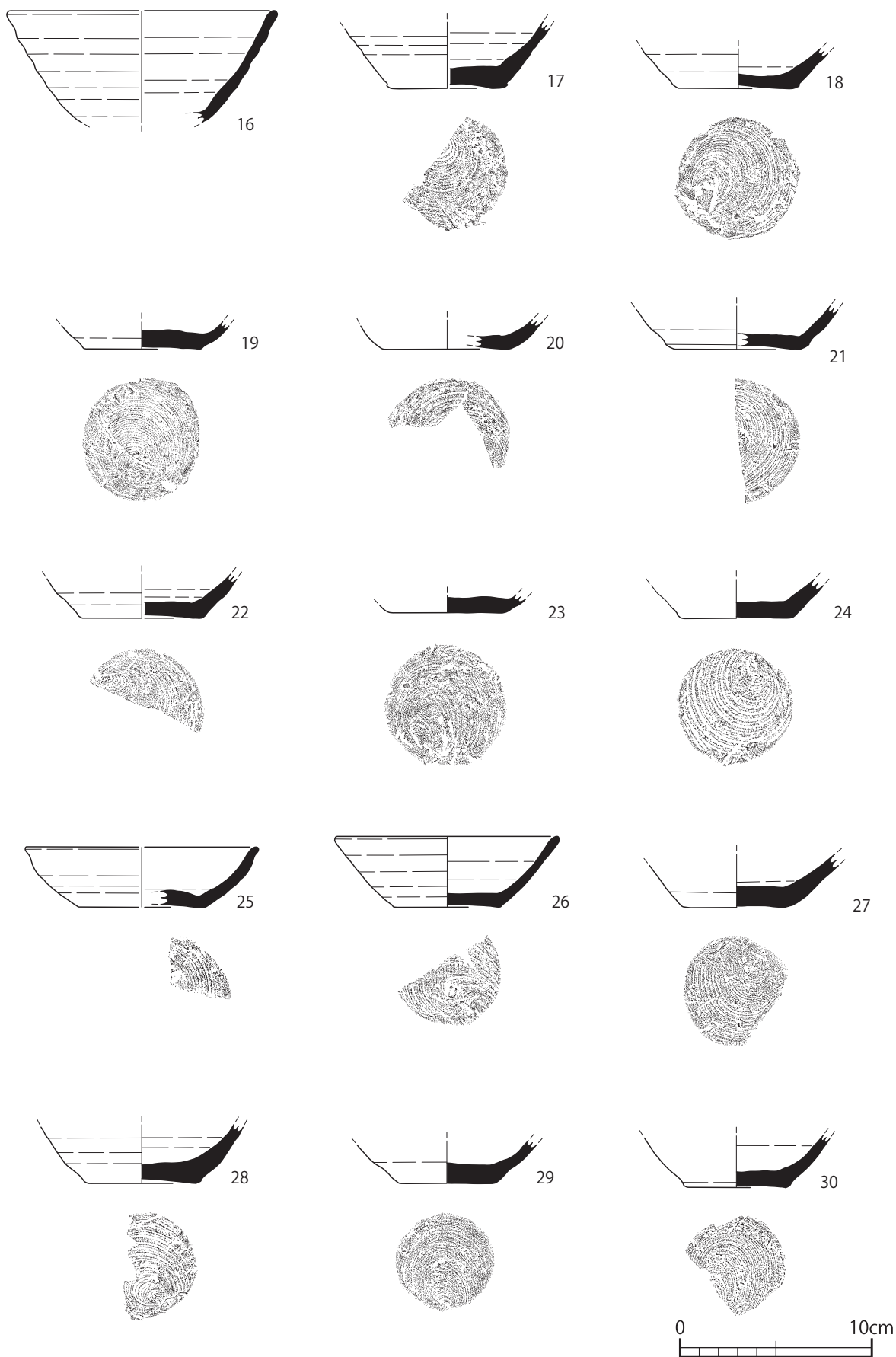
鎌 1 点 28.6g、器種不明 6 点 40.6g)、凝灰質砂岩 7 点 11g である。

土師器では、甕が最多で、次いで坏、台付甕が多い。このほかに、少量ではあるが盤状坏も出土している。須恵器では、坏や埴、蓋、甕、瓶類等一般的な器種が見られる一方で、鉄鉢形土器や耳皿といったこれまでの発掘調査では確認されていない器種が含まれている。また、壺とした器種には突帯付四耳壺の破片 2 点が含まれている。いずれも突帯がめぐる部位だったために突帯付四耳壺と認識できたが、それ以外の部位ならば甕や瓶と区別できていない可能性がある。

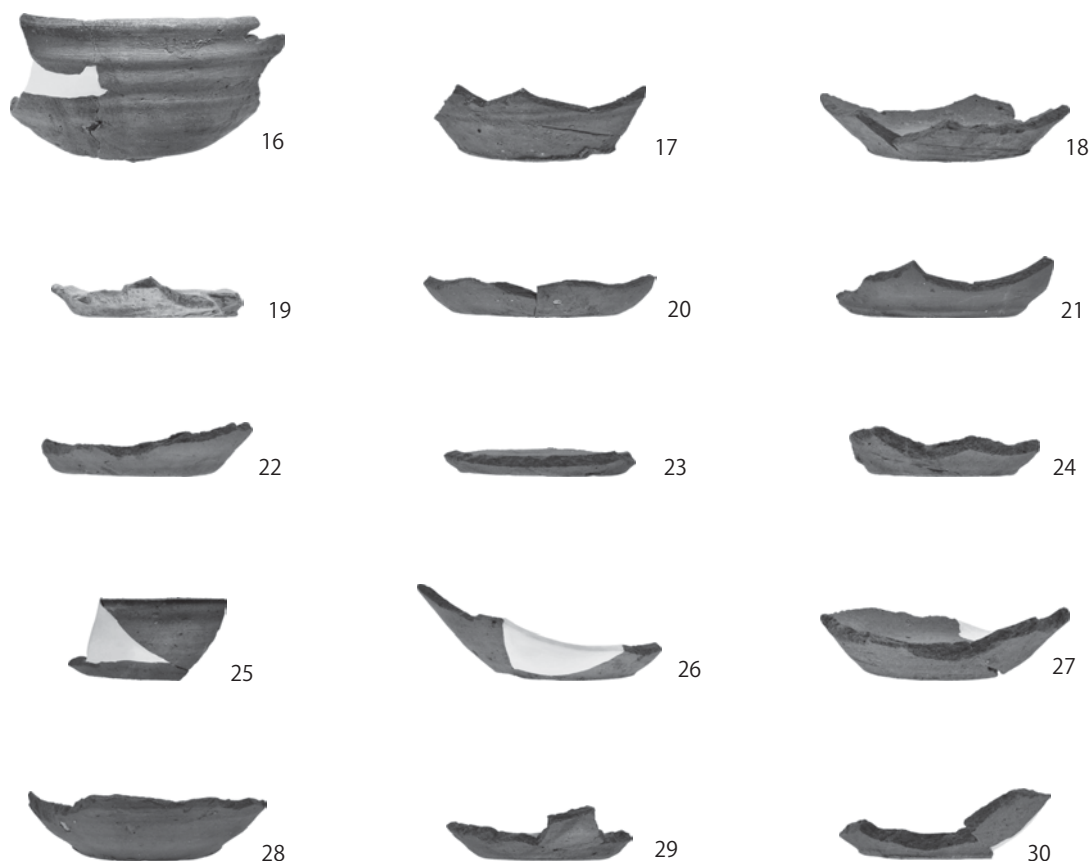
瓦については、表土や遺物包含層から出土した。古代の瓦はこれまでの平山遺跡の発掘調査でほとんど確認されていないため、小さな破片といえども出土した意義は大きい。これらの瓦については、SK191 出土瓦と合わせて EDX による元素組成分析を実施した（第 V 章第 3 節参照）。

第 315 図には、古代の土師器・須恵器・ロクロ土師器・灰釉陶器の分布状況を示した。特に集中的に分布するのが、2-6 西区の東端から 2-6 東区にかけてと、2-6 西区の中央部である。後者は、竪穴建物跡と掘立柱建物跡等の古代の遺構が最も密集する範囲であり、それらの遺構と重なるように遺物が分布する状況は符合している。一方、前者の範囲には竪穴建物跡はなく、掘立柱建物跡と土坑等がある程度であり、遺構の分布状況と整合していない。遺物の分布密度では 2-6 西区よりも濃い様相を呈しており、非常に特徴的である。この辺りには竪穴建物跡は分布していないことから、集落の中で廃棄場のように認識されていたのだろうか。

また、遺物分布が集中する上記の範囲以外ではやや散漫な分布状況だが、2-6 西区の西端辺りから



第 318 図 古代遺構外出土遺物 (2)(1/3)



第 319 図 古代遺構外出土遺物 (2) 写真

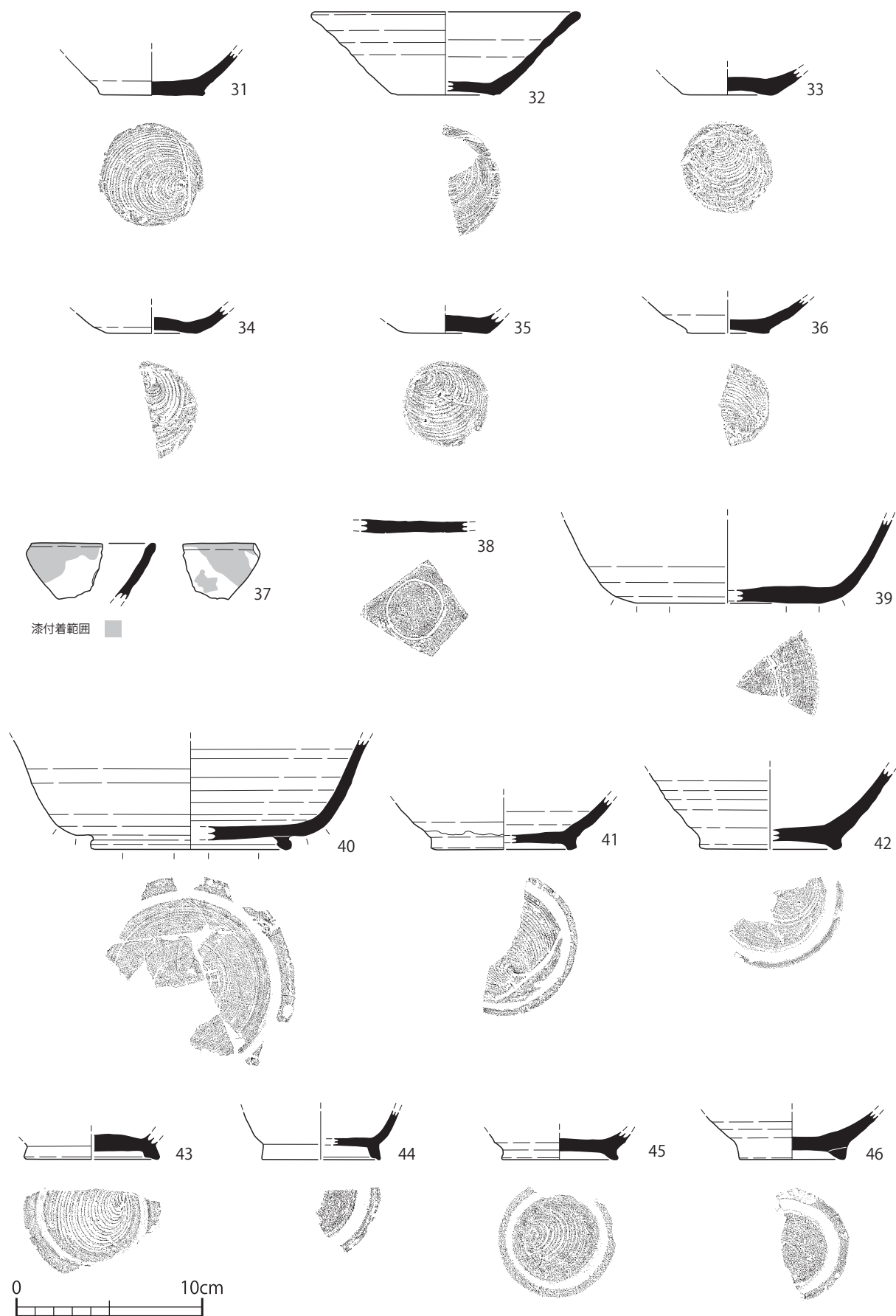
遺物の分布が急激に減り、2-7 区では非常に希薄な状況へと変化する。古代の遺構分布を見ても、同様の傾向が見られる。

遺構外出土遺物のうち、遺存状態が比較的良好な土器を選び、図化を行った。

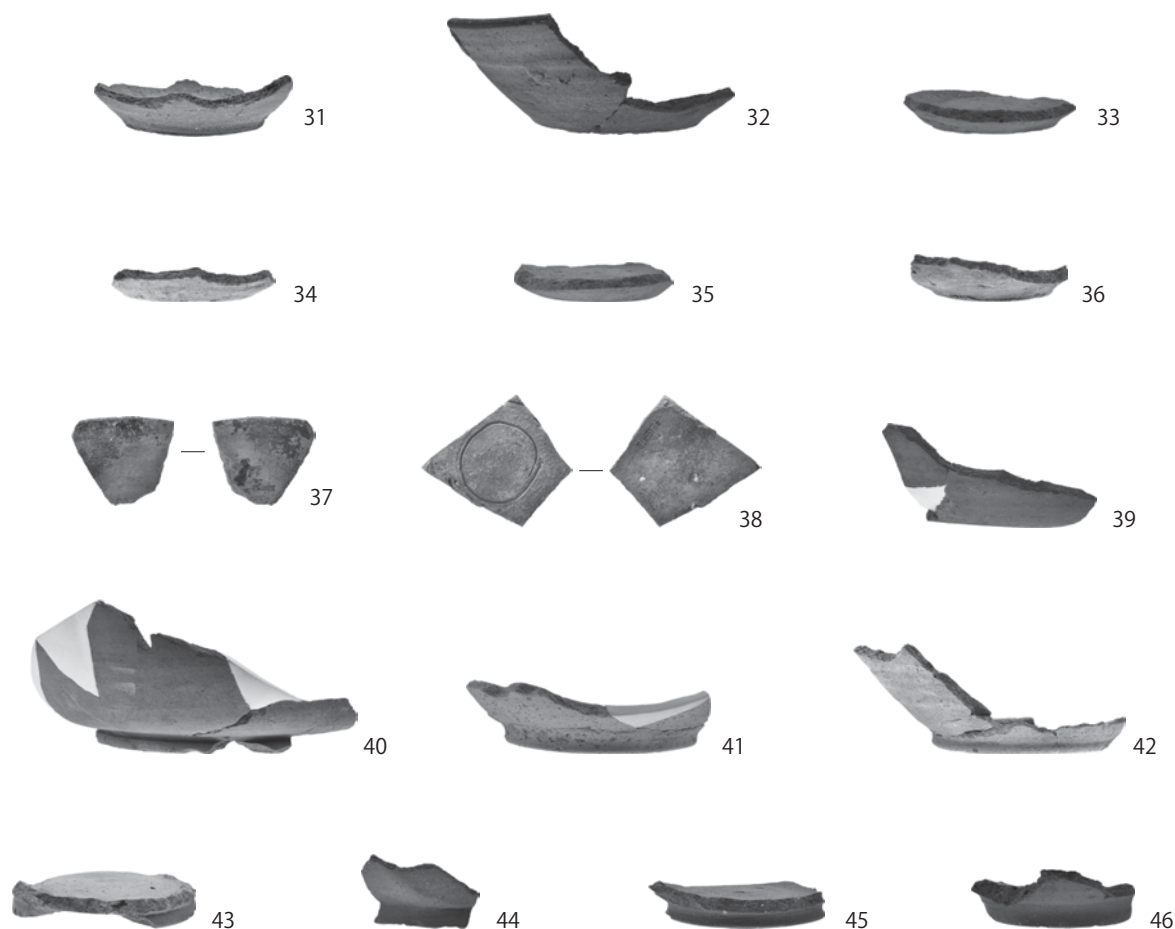
第 316・317 図 1 は土師器盤状坏で、体下部から底部にかけて遺存する。底部調整は手持ちヘラケズリで、内外面に赤彩が認められる。

2～第 320・321 図 38 は須恵器坏である。2 は底径が 10cm を越える大ぶりの坏で、おそらく箱型を呈すると考えられる。底部は全面回転ヘラケズリで、底部中央に「×」あるいは「井」状の線刻が見られる。3～5 は底部に全面回転ヘラケズリを施す坏である。体部は底部からやや内湾気味に開く形状を呈する。底径は、3 は 8.7cm、4・5 は 7.0cm である。6・7 は底径が 8～9cm 台の大ぶりの坏で、底部は回転糸切り後、外周に回転ヘラケズリを施す。6 の体部下端にはヘラケズリが認められる。8～15 は底径が 7cm 台の坏である。体部は底部から直線的に開くもの（8・12・13・15）と、やや内湾気味に開くもの（10・11・14）がある。10 は口縁部がやや肥厚する。底部調整は、8～10 が回転糸切り後、外周に回転ヘラケズリを施し、11～15 は回転糸切り後、無調整である。

第 318 図 16 は口縁部から体部にかけての破片で、体部はわずかに内湾し、口縁部は丸く収める。内外面ともにロクロ目がよく残る。17～23 は底径が 6cm 台の坏である。17～19・21・22 のように、体部が底部から直線的に開く。底部はどれも回転糸切り後、無調整である。24～第 320 図 31 は底径が 5cm 台の坏である。体部の形状は、底部から直線的に開くもの（24・26～31）と、25 のよう



第 320 図 古代遺構外出土遺物 (3)(1/3)

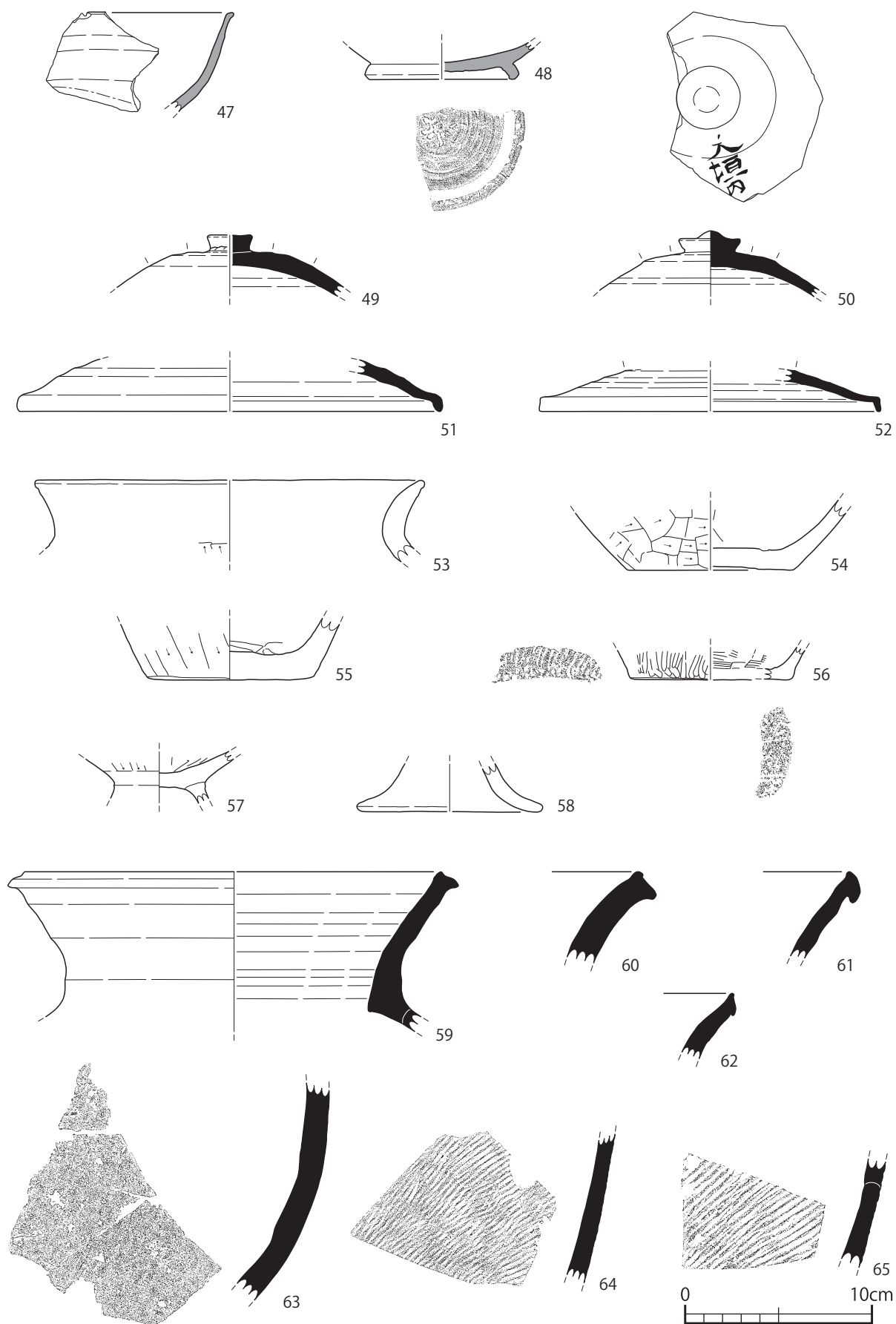


第 321 図 古代遺構外出土遺物 (3) 写真

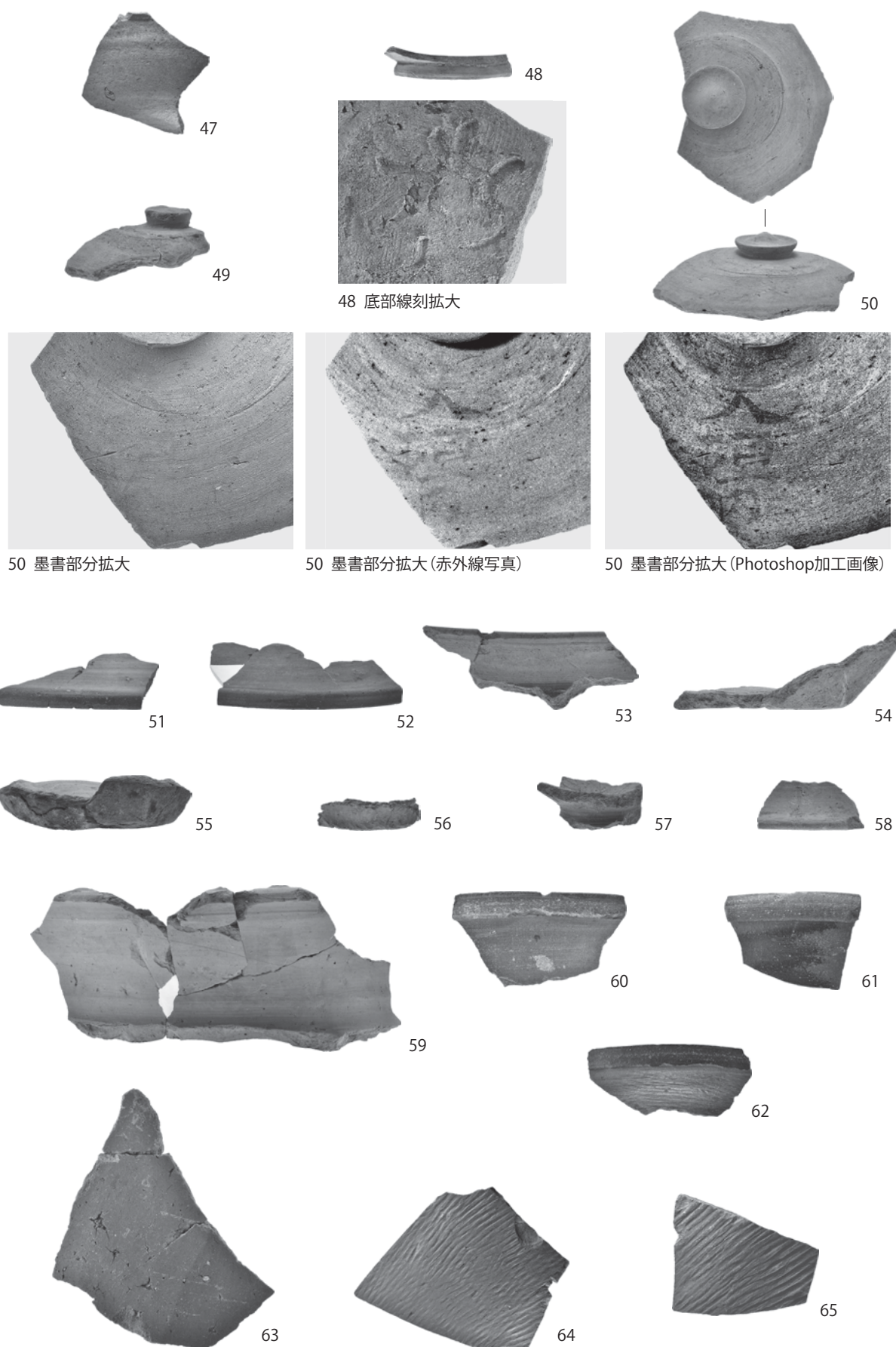
にやや内湾気味に開くものがある。26 は口縁部がやや肥厚する。底部は回転糸切り後、無調整である。32 ～ 36 は底径が 4cm 台の坏で、底部は回転糸切り後、無調整である。35 以外は、体部が底部から直線的に開く形状を呈する。32 は口縁部が丸みを帯びて肥厚する。37 は坏の口縁部から体部の破片で、内外面に漆の付着が認められる。漆が付着した土器はこの 1 点のみである。38 は坏の底部で、底部外面には「○」の線刻が施されている。

これらの須恵器坏は、2・4・5・10・19・38 が胎土に海綿骨針を含み、南比企窯の製品である。3・7 ～ 9・11 ～ 15・17・18・20 ～ 23・25・28 が東金子窯の製品で、7 については前内出窯の製品である。6・16・24・26・27・29 ～ 34・36・37 は南多摩窯の製品である。35 は南多摩窯の製品と考えられるが、断定はできない。

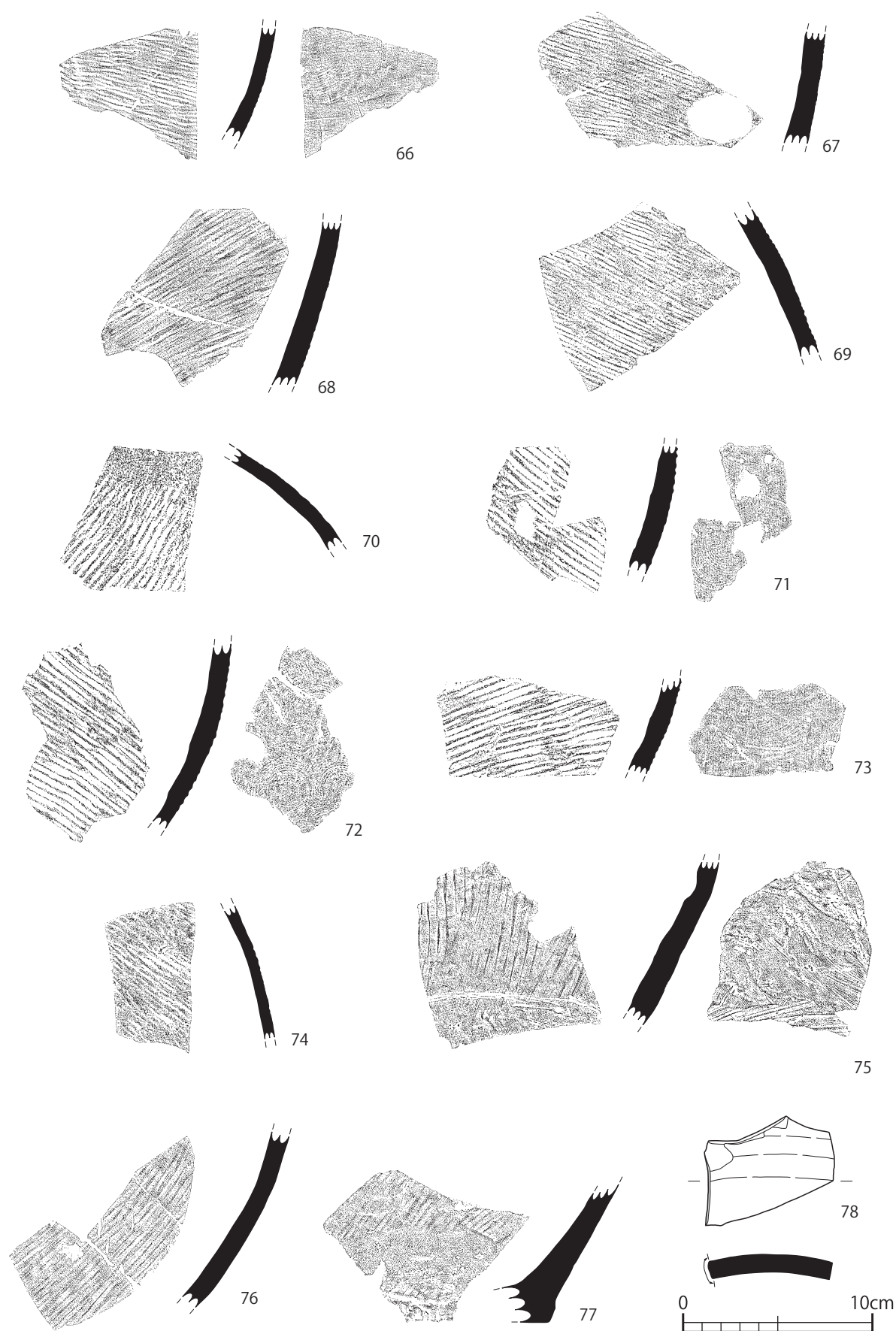
39 ～ 46 は須恵器碗を一括した。39 は無高台の碗で、体部下端に丸みを持つ器形である。40 は、39 と同形の体部に低めの高台が付く。いずれも体部下端にヘラケズリが見られ、底径が 9 ～ 10cm 台と大形の碗である。41・42 は、断面形が方形を呈し、直線的に開く高台が付く。42 の外面にはロクロ目が良く残る。43・44 は高台外端部が接地するタイプの高台で、高台内側は斜めにせり上がる。45・46 は高台の断面形が三角形形状を呈する。45 は高台が「ハ」の字状に開き、46 は直立気味に立ち上がる。39・40・43 は東金子窯、41・42・44 ～ 46 は南多摩窯の製品である。



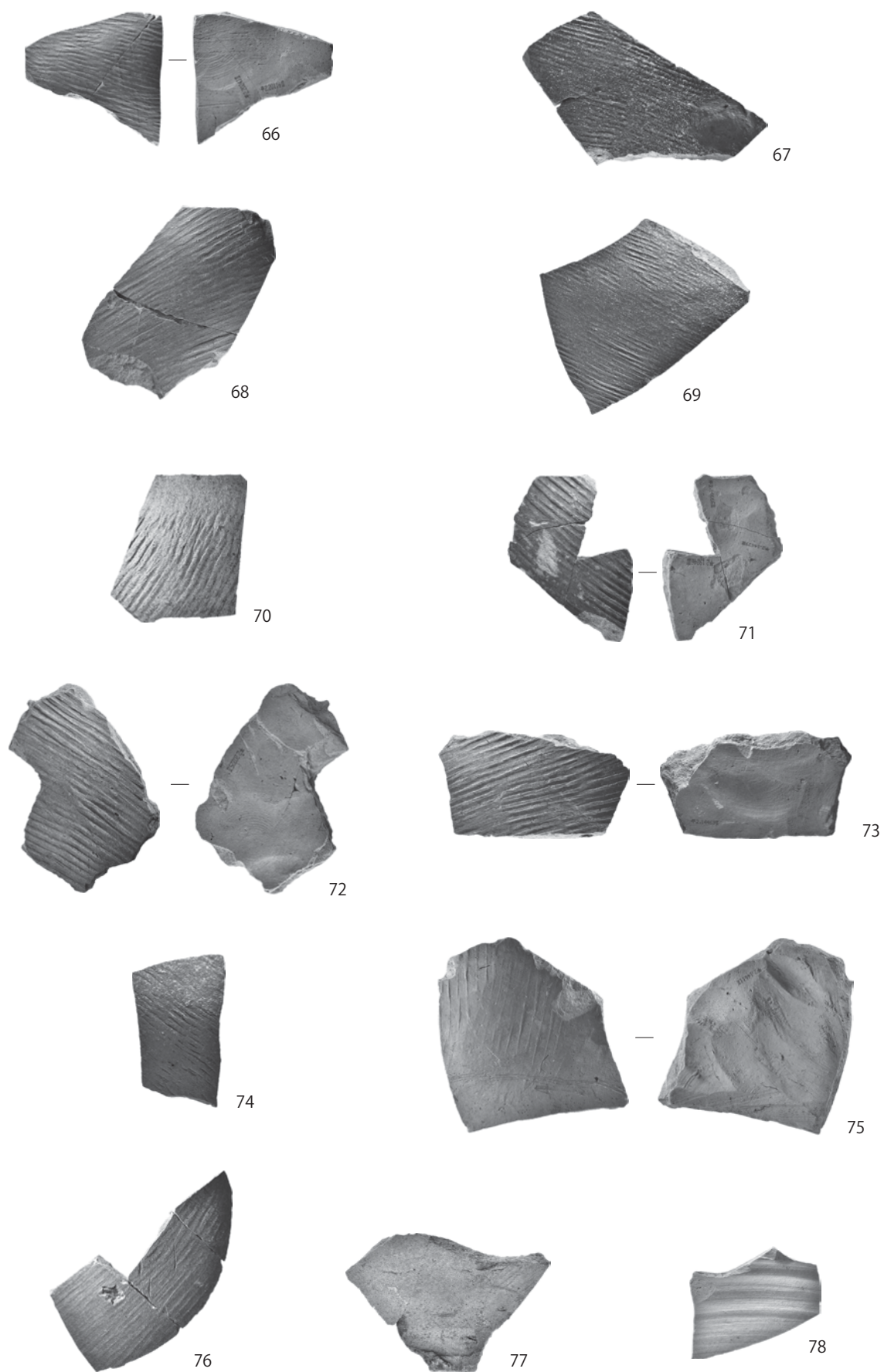
第 322 図 古代遺構外出土遺物 (4)(1/3)



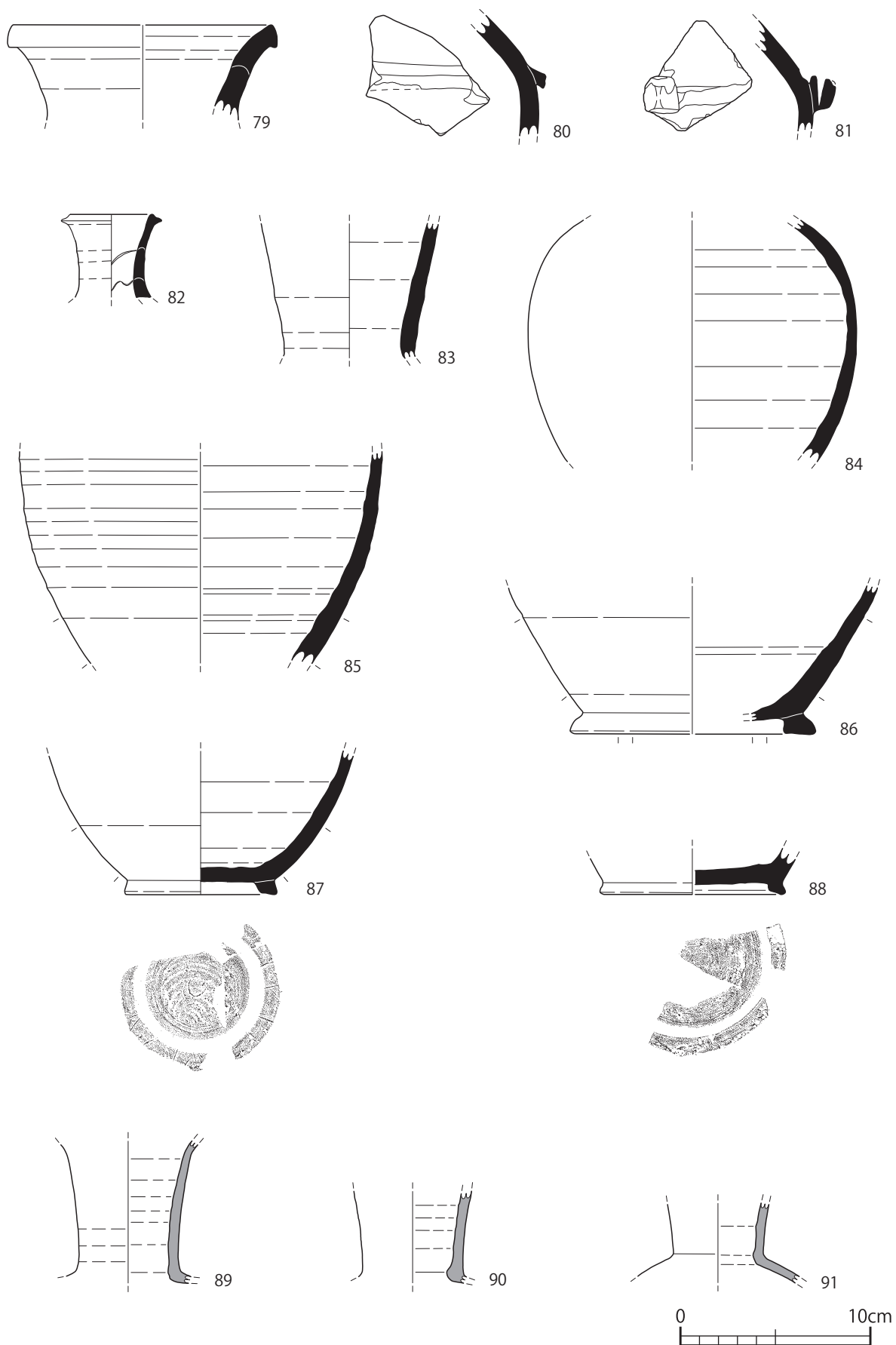
第 323 図 古代遺構外出土遺物 (4) 写真



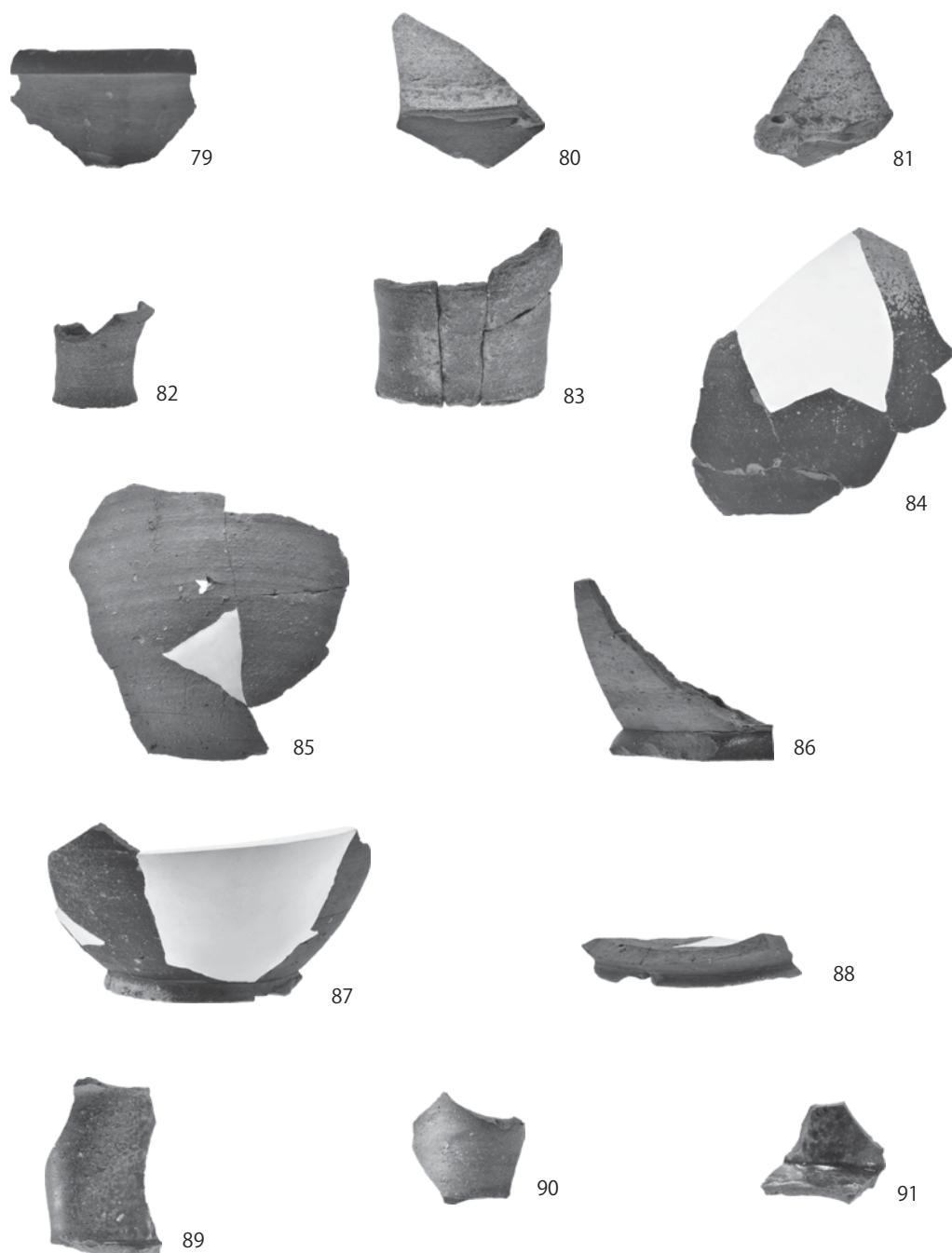
第 324 図 古代遺構外出土遺物 (5)(1/3)



第 325 図 古代遺構外出土遺物 (5) 写真



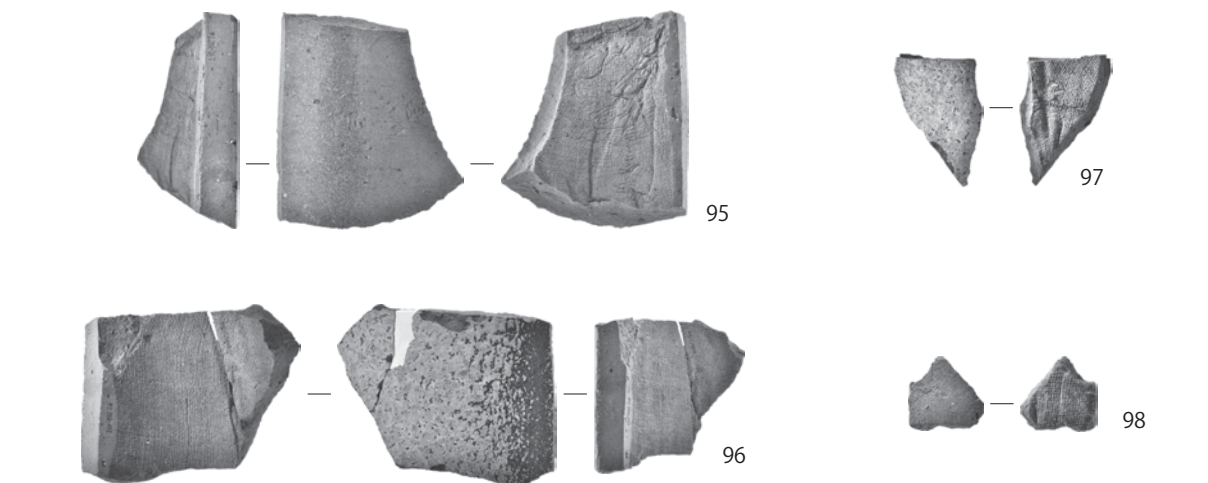
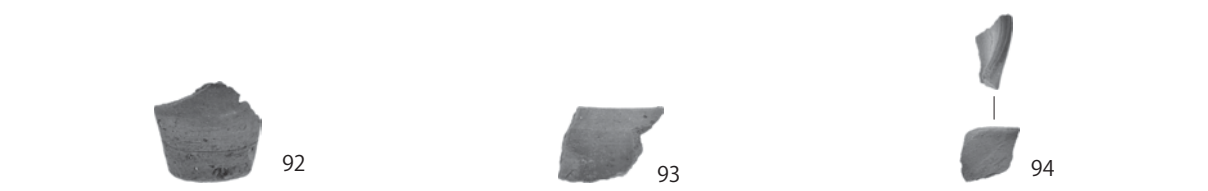
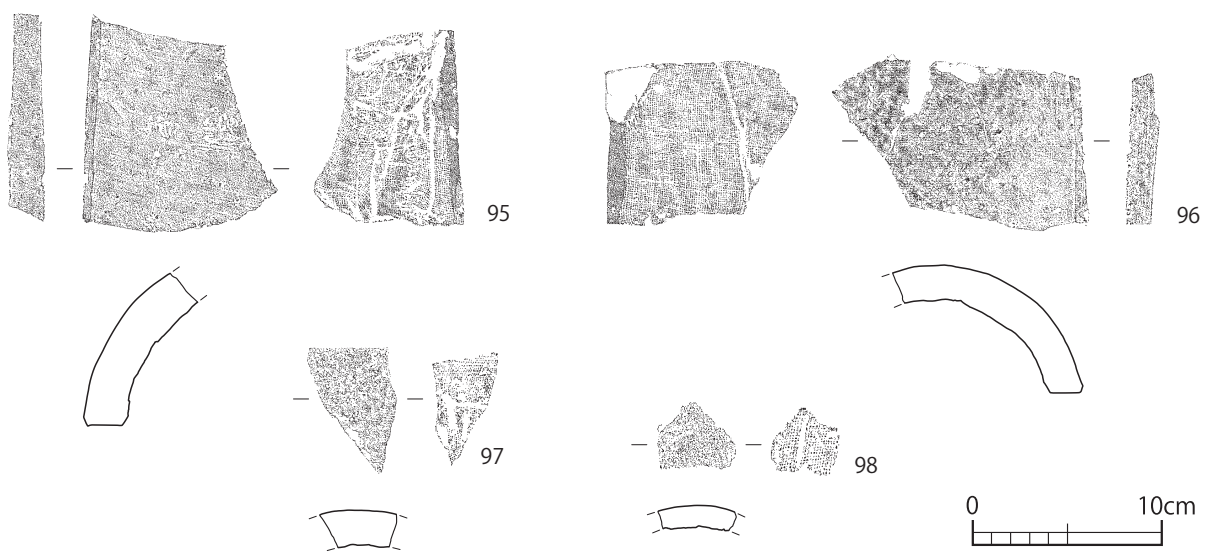
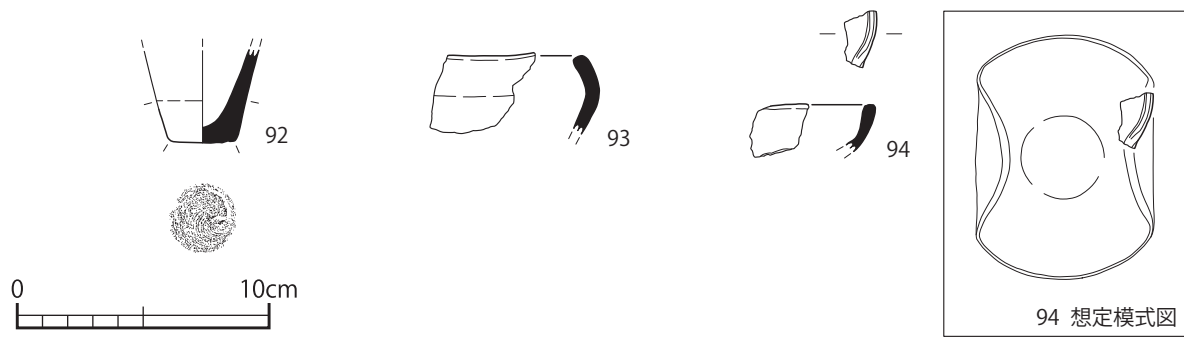
第 326 図 古代遺構外出土遺物 (6)(1/3)



第 327 図 古代遺構外出土遺物 (6) 写真

第 322・323 図 47・48 は灰釉陶器碗である。47 は口縁部から体部にかけての破片で、内湾する体部から口縁部は短く外反する。48 は体下部から高台部にかけて遺存する。底部は弧状を呈し、丸みを帯びた高台が付く。底部外面には文字のように見える線刻が施されているが、中央部分がつぶれており、判読はできなかった。いずれも猿投窯の製品である。

49～52 は須恵器蓋である。49 はつまみを含めた天井部が遺存し、ボタン状のつまみを有する。50 は扁平な宝珠形のつまみが付く。天井部外面に薄く墨書の痕跡が認められた。肉眼では墨書を判読することができず、赤外線撮影を行ったところ、墨書が淡く映し出され、三文字の墨書である可能



第 328 図 古代遺構外出土遺物 (7)(1/3・1/4)・写真

性が明らかになった。赤外線撮影に加え、通常の状態では撮影した画像をフォトショップで彩度や色相を調整し、墨書部分を強調することを試みた。その結果、三文字の墨書が「大垣内」と解釈できると想定した。51・52 はいずれも口縁部の破片で、口縁端部は屈曲する。51 は口縁部全体が丸みを帯びるが、52 は屈曲が強く、シャープな印象である。49～51 は東金子窯、52 は胎土に海綿骨針を含み、南比企窯の製品である。

53～56 は土師器甕である。53 は口縁部が直線的に開く形状を呈する。54・55 は胴下部から底部にかけての破片で、54 は胴部が底部から開きながら立ち上がり、55 は広がらずに立ち上がる。いずれも厚手のつくりの甕である。56 は金雲母を多く含む胎土と、外面の荒いハケ目が特徴の甲斐型甕である。なお、SI63 からも甲斐型甕の口縁部から胴上部にかけての破片が出土しており、同一個体の可能性が考えられる。57・58 は土師器台付甕である。

59～第324図77は須恵器甕を一括して掲載した。59～62 は口頸部の破片で、いずれも口縁端部は外傾する面を有する。59 は軟質な焼成で、橙色の色調が特徴的である。63～76 は胴部破片である。63 は外面に叩きの痕跡は認められず、無文である。64～76 は外面に平行叩きを有する。内面に同心円の当て具痕が残る66・71～73 以外は、無文の当て具痕が見られる。74 は胎土に海綿骨針を含む。75 は胴部でも底部に近い破片であり、下端部には平行叩きを施していない。内面は無文の当て具痕が残るが、さらに指等でなでつけたような痕跡が見られる。75 は他の須恵器甕と比べると、明らかに軟質な焼成で、色調もにぶい黄橙色を呈する。こうした特徴の須恵器甕の破片は、掲載した75 以外にも遺物包含層から複数出土したほか、SK195 からも出土している(第294・295図8)。これらの甕と同様の特徴を持ち、同一個体と考えられるのが59 の口頸部破片である。77 は胴下部から底部にかけて遺存する。78 は頸部の破片を再利用した研磨した須恵器破片で、破断面の1箇所が顕著に摩耗している。これらの須恵器甕は、59・60・62・75 が南多摩窯、61・63・65・67～70・76・77 が東金子窯、64・66・72・73・78 が湖西窯、74 が南比企窯の製品である。71 は湖西窯の製品だと考えられるが、断定はできない。なお、59・75 の須恵器については、古代の入間を考える会の根本靖氏から、多摩ニュータウンNo.107 遺跡の水場遺構出土須恵器と胎土や質感が類似するとの指摘があった。

第326・327図79～81は須恵器壺である。79 は口縁部の破片で、口縁部が緩やかに外反して開き、口縁端部には外傾する面を有する。短頸壺のような器形を想定している。79 は内外面が暗灰色で、断面はにぶい赤褐色という特徴的な色調を呈する。80・81 は突帯付四耳壺である。いずれも胴上部にめぐる突帯が付く破片で、81 には丸い突起が付属する。79～81 は東金子窯の製品である。

82～88 は須恵器長頸瓶と瓶類である。82 は小形の長頸瓶で、口縁端部は外傾する面を有する。83 は長頸瓶の頸部である。84 は丸胴形、85 は倒卵形の胴部で、おそらくは長頸瓶になるのだろう。86～88 は胴下部から高台部が遺存する。86 は胴部が底部から直線的に開く形状で、外面はにぶい光沢のある褐色を呈するのが特徴的である。87 は丸みを帯びた器形で、84 のような丸胴形と想定する。88 の高台は、高台の外端部が接地面になる形状である。82～84・86 は南多摩窯、85・87・88 は東金子窯の製品である。

89～91 は灰釉陶器の長頸瓶で、頸部の破片である。89・91 は猿投窯の製品で、90 は二川窯の製品である可能性が考えられる。

第 328 図 92 は須恵器ミニチュア土器で、コップ形のような器形である。体部下端にヘラケズリが見られ、底部は回転糸切り後、無調整である。93 は須恵器鉄鉢形土器の口縁部である。丸く肥厚した口縁部が内傾する形状から、鉄鉢形土器と判断した。94 は須恵器耳皿の口縁部である。細片のため、推測の域を出ないが、耳皿の折り曲げられた部位に相当すると考えられる。生産地は断定できないが、それぞれ 92 は東金子窯、93 は南比企窯、94 は南多摩窯の可能性はある。

95 ～ 98 は瓦で、いずれも丸瓦である。95 ～ 97 は硬質な焼成と重量感が特徴で、凸面はヘラナデ、凹面には布目が残る。95・96 の左右端部には凸面側に 1 面の面取りを施す。98 は須恵質だが、95 ～ 97 のような硬質さと重量感は見られない。凹面には布目、凸面はヘラナデと思われるが不明瞭である。これらの瓦は、SK191 から出土した瓦とともに、EDX による元素組成分析を行い、第 V 章第 3 節に分析結果を掲載した。

須恵器坏の年代観については、南比企窯跡群鳩山編年の編年に依拠し、記載する。第 316・317 図 4・6・9 は H III 期に比定され、9 は H III 期末に位置付けられる。3 は H IV 期、10 は H IV 期中頃、8・11・12・14 は H VI 期、第 318・319 図 20・21 は H VII 期、18 は H VIII～IX 期、17・24・22・26・第 320・321 図 32 は H IX 期、第 318・319 図 28 は H X 期に比定される。また、灰釉陶器では、第 322・323 図 47 が K-90 窯式、48 が O-53 窯式にそれぞれ位置付けられる。(小西)

第 51 表 古代遺構外出土土器観察表 (1)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	出土 層位	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 316・ 317 図	1	29Q-2・ 16	II 層	土師器 盤状坏	(1.5) [9.8]	体部は底部から直線的に開く。平底。	ロクロ成形。 底部は手持ちヘラケズリ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	2.5YR4/6 赤褐	底部 1/8z	重量 17.0g 内外面に赤彩。
	2	29P-84・ 95・96・ 29Q-13	II 層	須恵器 坏	(1.2) [10.3]	体部は底部から内湾気味に開く。平底。	ロクロ成形。 体部下端にヘラケズリ、底部は回転ヘラケズリ。	砂粒、赤褐色粒子、 海綿骨針	良好	7.5YR6.5/6 橙	底部 1/2 以下	重量 52.9g 底部外面に線刻あり。 南比企窯
	3	29P-84・ 29Q-13	II 層	須恵器 坏	(1.2) [8.7]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、全面回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒	良好	2.5Y5.5/1 黄灰	底部 1/3	重量 59.3g 東金子窯
	4	28Q-54	II 層	須恵器 坏	(1.5) [7.0]	体部は底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、全面回転ヘラケズリ。	砂粒、黒色粒子、 海綿骨針	良好	内外面 N6/ 灰 断面 7.5YR5/4 に ぶい黄橙	底部 1/3	重量 40.8g 底部外面に火罨痕。 南比企窯
	5	SD13	—	須恵器 坏	(2.0) [7.0]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は全面回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、海綿骨針	良好	5Y5/1 灰	底部 3/4	重量 42.4g 南比企窯
	6	29P-82・ 83	II 層	須恵器 坏	(1.2) [9.4]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。ヘラケズリが体下部におよぶ。	小礫、砂粒	軟質	7.5YR6.5/4 に ぶい橙	底部 1/3	重量 30.7g 南多摩窯
	7	SD12	—	須恵器 坏	(0.7) [8.7]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	赤褐色粒子	軟質	外面 2.5Y7/2 灰黄 内面 10YR7/2 に ぶい黄橙	底部 1/6	重量 16.2g 東金子窯 (前内出窯)
	8	28Q-56	II 層	須恵器 坏	(1.7) 7.3	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、白色粒子	良好	N4.5/ 灰	底部 1/2	重量 43.3g 東金子窯
	9	28Q-48	I 層	須恵器 坏	(0.7) [7.3]		ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、黒色粒子	良好	2.5Y5/1 黄灰	底部 1/2	重量 48.6g 東金子窯
	10	28Q-45	II 層	須恵器 坏	[12.3] 3.2 [7.1]	体部は底部からやや内湾気味に開き、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、海綿骨針	良好	5Y5/1 灰	口縁部 1/3 底部 1/2	重量 68.2g 南比企窯

第 51 表 古代遺構外出土土器観察表 (2)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	出土 層位	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 316 ・ 317 図	11	28Q-43	I 層	須恵器 坏	[12.6] 3.8 [7.1]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	小礫、砂粒	良好	5Y5/1 灰	口縁部 1/12 底部 1/2	重量 56.6g 東金子窯
	12	28Q-29	Ⅲ層	須恵器 坏	(2.8) 7.0	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	砂粒、黒色粒子	良好	5Y5.5/1 灰	底部完形	重量 84.7g 東金子窯
	13	28Q-46	—	須恵器 坏	(1.0) [7.3]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	砂粒、赤褐色粒子	軟質	外面 2.5Y6/1.5 灰黄 内面 5Y5.5/1 灰	底部 1/2	重量 33.3g 東金子窯
	14	28Q-18・ 29Q-31	Ⅱ・Ⅲ層	須恵器 坏	(1.6) [7.1]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	砂粒	良好	N3.5/ 暗灰	底部 1/2	重量 37.9g 東金子窯
	15	SD12	—	須恵器 坏	(1.3) [7.2]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	小礫、砂粒	軟質	2.5Y7/1.5 灰黄	底部 1/4	重量 22.8g 東金子窯
第 318 ・ 319 図	16	28Q-25・ 26	Ⅱ・Ⅲ層	須恵器 坏	[13.7] (5.8)	体部は直線的に開く。	ロクロ成形。	砂粒、赤褐色粒子	軟質	口縁部 5YR6/6 橙 体部 2.5Y6/2 灰黄	口縁～体部 1/6	重量 43.1g 南多摩窯
	17	28Q-57	Ⅱ層	須恵器 坏	(3.1) [6.3]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	小礫、砂粒、白色粒子	良好	10YR4/1 褐灰	底部 1/3	重量 61.5g 東金子窯
	18	28Q-26・ 38	Ⅱ・Ⅲ層	須恵器 坏	(1.8) 6.3	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	砂粒、黒色粒子	良好	外面 N4.5/ 灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	底部完形	重量 70.3g 東金子窯
	19	SD12	—	須恵器 坏	(1.7) 6.1	体部は底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	小礫、砂粒、海綿骨針	軟質	外面 5Y6/1 灰 内面 5Y7/1 灰白	底部完形	重量 64.0g 南比企窯
	20	27Q-59・ 28Q-55	I・Ⅱ層	須恵器 坏	(1.4) [6.5]	体部は底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	小礫、砂粒	良好	7.5Y4.5/1 灰	体～底部 1/2	重量 41.1g 東金子窯
	21	28Q-45	Ⅱ層	須恵器 坏	(2.1) [6.5]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	小礫、砂粒	良好	底部外面 5YR5/3 にぶい赤褐 それ以外 2.5Y4.5/1 黄灰	底部 1/2	重量 37.1g 東金子窯
	22	28Q-38	Ⅱ層	須恵器 坏	(2.1) [6.3]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	砂粒、白色粒子、黒色粒子	やや軟質	2.5Y5/2 暗灰黄	底部 1/3	重量 33.3g 東金子窯
	23	28Q-52	Ⅱ層	須恵器 坏	(1.2) 6.0		ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	小礫、砂粒、石英	良好	外面 N5/ 灰 内面 7.5Y5/1 灰	底部完形	重量 53.3g 東金子窯
	24	28Q-39	Ⅱ層	須恵器 坏	(1.7) 5.9	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	砂粒	やや軟質	2.5Y5/2 暗灰黄	底部完形	重量 58.4g 南多摩窯
	25	28Q-26・ 45	I・Ⅱ層	須恵器 坏	[11.9] 3.1 [6.5]	体部は底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	小礫、砂粒	良好	N5.5/ 灰	口縁部 1/8 底部 1/6	重量 24.2g 東金子窯
	26	28Q-45・ 66	Ⅱ層	須恵器 坏	[11.5] 3.7 [5.5]	体部は底部から直線的に開き、口縁端部はわずかに肥厚する。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	砂粒、赤褐色粒子	軟質	口縁部 10YR5/1.5 褐灰 それ以外 7.5YR5/4 にぶい褐	底部 1/2	重量 33.7g 南多摩窯
	27	28Q-37	Ⅱ・Ⅲ層	須恵器 坏	(2.1) 5.5	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	小礫、砂粒	良好	2.5Y5/1 灰	底部 3/4	重量 85.5g 南多摩窯
	28	28Q-37	—	須恵器 坏	(2.9) [5.6]	体部底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	小礫、砂粒、黒色粒子	良好	N4/ 灰	体～底部 1/2	重量 72.8g 東金子窯
	29	28Q-48	Ⅱ層	須恵器 坏	(2.0) 5.0	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	砂粒、白色粒子	良好	2.5Y4/1 黄灰	底部完形	重量 49.0g 南多摩窯
	30	28Q-55	Ⅱ層	須恵器 坏	(2.6) [5.4]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	小礫、砂粒、黒色粒子	良好	2.5Y5/1 灰	底部 1/2	重量 38.4g 南多摩窯
第 320 ・ 321 図	31	SD13	—	須恵器 坏	(2.1) 5.5	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	砂粒	良好	5Y4.5/1 灰	底部完形	重量 57.0g 南多摩窯
	32	28Q-27・ 47	Ⅱ層	須恵器 坏	[14.2] 4.5 [5.9]	体部は底部から直線的に開き、口縁端部は肥厚する。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	砂粒、白色粒子	良好	N5.5/ 灰	口縁部 1/8 底部 1/3	重量 43.2g 南多摩窯
	33	28Q-48	I 層	須恵器 坏	(1.5) 4.8	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転系切り後、無調整。	小礫、砂粒、石英、黒色粒子	良好	10YR5/1 褐灰	底部完形	重量 41.7g 南多摩窯

第 51 表 古代遺構外出土土器観察表 (3)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	出土 層位	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 320 ・ 321 図	34	SD12	—	須恵器 坏	(1.1) [4.9]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒	やや軟質	5Y7/1 灰白	底部 1/2	重量 20.1g 南多摩窯
	35	28Q-26	—	須恵器 坏	(0.8) 4.5	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	小礫、砂粒	軟質	7.5YR6/4 にぶい橙・5Y5.5/1 灰	底部完形	重量 34.5g 南多摩窯か
	36	SD12	—	須恵器 坏	(1.6) [4.3]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、無調整。	砂粒	良好	5Y5.5/1 灰	底部 1/2	重量 21.7g 南多摩窯
	37	28Q-41	Ⅲ層	須恵器 坏		体部は直線的に開く。	ロクロ成形。	砂粒	軟質	2.5Y6/1 黄灰	口縁部破片	重量 8.6g 内外面に漆付着。 南多摩窯
	38	29P-83	Ⅱ層	須恵器 坏			ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	小礫、砂粒、黒色粒子、海綿骨針	良好	2.5Y5.5/1 灰	底部破片	重量 14.4g 底部外面に「〇」線刻。 南比企窯
	39	29Q-13・22	Ⅱ層	須恵器 壺	(2.6) [9.8]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、外周回転ヘラケズリ。	砂粒、白色粒子	やや軟質	内外面 5YR4/4 にぶい赤褐 断面中心部 N5.5/ 灰	底部 1/8	重量 49.3g 東金子窯
	40	29P-82・83・92・93	I・Ⅱ層	須恵器 壺	(5.8) [10.8]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転ヘラケズリ後、高台部を貼り付け。ヘラケズリは体下部におよぶ。	小礫、砂粒	良好	5Y5.5/1 灰	高台部 1/2	重量 127.4g 東金子窯
	41	28Q-46・57	Ⅱ層	須恵器 壺	(2.5) [7.8]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、高台部を貼り付け。	砂粒	軟質	10YR8/3 浅黄橙	高台部 1/3	重量 44.8g 外面は器面の荒れが顕著。 南多摩窯
	42	SD12・28Q-45	Ⅱ層	須恵器 壺	(4.0) [7.5]	体部は底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、高台部を貼り付け。	砂粒	やや軟質	外面 2.5Y6.5/2 灰黄 内面 10YR6/2 灰黄褐	高台部 1/3	重量 45.8g 南多摩窯
	43	28Q-39	Ⅱ層	須恵器 壺	(0.9) [7.1]		ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、高台部を貼り付け。	砂粒、石英	軟質	外面 10YR7/2 にぶい黄橙 内面 2.5Y7/2 灰黄	高台部 1/3	重量 34.3g 東金子窯
	44	28Q-55	Ⅱ層	須恵器 壺	(2.5) [6.3]	体部は底部からやや内湾気味に開く。	ロクロ成形。 高台部貼り付け。	小礫、砂粒	良好	外面 10YR4/2 灰黄褐 内面 7.5YR4/2 灰褐	高台部 1/6	重量 12.8g 体部外面に自然釉。 南多摩窯
	45	28Q-49	Ⅱ層	須恵器 壺	(1.3) 6.1		ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、高台部を貼り付け。	砂粒、石英	良好	N4.5/ 灰	高台部 3/4	重量 42.1g 南多摩窯
	46	28Q-39	Ⅱ層	須恵器 壺	(2.3) [5.6]	体部は底部から直線的に開く。高台部断面は鈍い三角形状を呈する。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、高台部を貼り付け。	砂粒	良好	10YR4/1 褐灰	高台部 1/2	重量 35.7g 南多摩窯
第 322 ・ 323 図	47	28Q-35	Ⅲ層	灰釉陶器 碗		体部は緩やかに外反する。	ロクロ成形。	砂粒、黒色粒子	良好	2.5Y7/1 灰白	口縁～体部破片	重量 17.1g 猿投窯
	48	28Q-48	Ⅱ層	灰釉陶器 碗	(1.7) [7.8]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、高台部を貼り付け。	砂粒	良好	外面 2.5Y6/1 黄灰 内面 2.5Y7/1 灰白	高台部 1/4	重量 27.5g 底部外面に線刻。 猿投窯
	49	28Q-26・48	I・Ⅲ層	須恵器 蓋	(2.8)	ボタン状のつまみ。	ロクロ成形。 天井部は回転ヘラケズリ、つまみ接合部はナデ。	小礫、砂粒	やや軟質	2.5Y7/1.5 灰白	天井部 1/6	重量 44.1g 東金子窯
	50	28Q-44	I 層	須恵器 蓋	(3.2)	宝珠形のつまみ。	ロクロ成形。 天井部は回転ヘラケズリ、つまみ接合部はナデ。	砂粒、石英、黒色粒子	良好	2.5Y5.5/1 黄灰	天井部 1/2	重量 84.0g 天井部外面に「大垣内」墨書。 東金子窯
	51	28Q-38	Ⅱ層	須恵器 蓋	[22.5] (2.7)	口縁部は丸く肥厚し、屈曲は鈍い。	ロクロ成形。	小礫、砂粒	良好	N6/ 灰	口縁部 1/8	重量 29.0g 東金子窯
	52	28Q-25・35・56	I・Ⅱ・Ⅲ層	須恵器 蓋	[18.1] (2.2)	口縁部は屈曲する。	ロクロ成形。 天井部は回転ヘラケズリ。	砂粒、海綿骨針	良好	5Y4/1 灰	口縁部 1/6	重量 27.5g 南比企窯
	53	29P-82・92	Ⅱ層	土師器 甕	[20.5] (3.6)	頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する。	外面のうち、口縁部は縦位のナデ、頸部以下は縦位のヘラケズリ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	10YR7/4 にぶい黄橙	口縁部 1/6	重量 58.0g

第 51 表 古代遺構外出土土器観察表 (4)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	出土 層位	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 322 ・ 323 図	54	29P-83・ 93	Ⅱ層	土師器 甕	(3.0) [8.8]	胴部は底部から直線的に開く。	胴下部外面は横位のヘラケズリ、内面はナデ、底部はヘラケズリ。	砂粒、赤褐色粒子	良好	外面 7.5YR6/5 にぶい橙 内面 10YR7/4 にぶい黄橙	底部 1/6	重量 94.1g
	55	29P-82	Ⅲ層	土師器 甕	(3.0) [8.9]	胴部は底部から直線的に開く。	胴下部外面は縦位のヘラケズリ、内面はヘラナデ、底部はヘラケズリ。	砂粒	良好	外面 10YR3/2 黒褐 内面 5YR6/6 橙	底部 1/2	重量 137.2g
	56	28Q-37	Ⅲ層	土師器 甕	(1.5) [8.6]	胴部は底部から直線的に開く。	胴下部外面は縦位のハケ目、内面は横位のハケ目、底部に木葉痕。	小礫、砂粒、金雲母	良好	5YR4/4 にぶい赤褐	底部破片	重量 15.5g 甲斐型甕
	57	28Q-36	Ⅱ層	土師器 台付甕	(2.1)		甕胴部外面は縦位のヘラケズリ、胴部・脚台部内面はヘラナデ、甕と脚台部との接合部外面は縦位のナデ。	砂粒、石英	良好	5YR5/6 明赤褐	底部完形	重量 51.7g
	58	28Q-54	Ⅱ層	土師器 台付甕	(2.5) [9.8]	脚台部はハの字状に開く。	脚台部内外面ともにナデ。	砂粒	良好	7.5YR5/4 にぶい褐	脚台部 1/6	重量 20.9g
	59	28Q-9・ 19・29	Ⅱ層	須恵器 甕	[22.2] (7.7) 頸部径 [18.0]	口縁部は緩やかに外反し、口縁端部は肥厚し、外傾する面を持つ。	口縁部内外面ともにナデ。	小礫、砂粒、赤褐色粒子	軟質	7.5YR6/6 橙	頸部 1/4	重量 288.4g 南多摩窯
	60	29P-92	Ⅱ層	須恵器 甕		口縁部は緩やかに外反し、口縁端部は外傾する面を持つ。	口縁部内外面ともにナデ。	砂粒	良好	外面 5Y6/1 灰 内面 5Y7/1.5 灰白	口縁部破片	重量 106.3g 口縁部外面に自然釉、口縁部内面に降灰。 南多摩窯
	61	29P-92	Ⅱ層	須恵器 甕		口縁部は緩やかに外反し、口縁端部は外傾する面を持つ。	口縁部内外面ともにナデ。	砂粒	良好	外面 N2/ 黒 内面 7.5Y4/1 灰 断面 2.5YR4/2 灰赤	口縁部破片	重量 51.0g 口縁部外面に自然釉、口縁部内面に降灰。 東金子窯
	62	28Q-35	Ⅱ層	須恵器 甕		口縁部は緩やかに外反し、口縁端部は外傾する面を持つ。	口縁部外面に平行叩き、口縁部内外面ともにナデ。	砂粒	良好	外面 N3.5/ 暗灰 内面 2.5Y6/1.5 黄灰	口縁部破片	重量 47.0g 口縁部内面に降灰。 南多摩窯
	63	29P-96・ 29Q-6	Ⅱ・Ⅲ層	須恵器 甕			胴部外面はナデ、内面は無文の当て具痕。	礫、砂粒	やや軟質	外面 N5.5/ 灰 内面 2.5Y6/1 黄灰	胴部破片	重量 153.7g 東金子窯
第 324 ・ 325 図	64	28P- 100・ 28Q-48	Ⅱ層	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面はナデ。	砂粒、石英	良好	外面 N5.5/ 灰 内面 5Y6/1 灰	胴部破片	重量 90.7g 湖西窯
	65	28Q-65	Ⅱ層	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面はナデ。	砂粒	良好	7.5Y4.5/1 灰	胴部破片	重量 69.6g 東金子窯
	66	29Q-4・ 14	Ⅱ層	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面は同心円の当て具痕。	砂粒	やや軟質	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 2.5Y7/1 灰白	胴部破片	重量 47.6g 湖西窯
	67	29P-73	Ⅱ層	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面は同心円の当て具痕。	小礫、砂粒、石英、黒色粒子	良好	外面 N3/ 灰 内面 N4/ 灰 断面 5YR4.5/2 灰褐	胴部破片	重量 110.6g 69 と類似 東金子窯
	68	28Q-27・ 37	Ⅱ層	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面はナデ。	砂粒	良好	5Y5.5/1 灰	胴部破片	重量 114.0g 東金子窯
	69	29P-84	Ⅱ層	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面は無文の当て具痕。	砂粒、石英、黒色粒子	良好	外面 N4.5/ 灰 内面 5YR4/2.5 にぶい赤褐	胴部破片	重量 127.4g 67 と類似 東金子窯
	70	28Q-48	Ⅱ層	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面はナデ。	小礫、砂粒	良好	外面 2.5Y7/2 灰黄 内面 N4.5/ 灰	胴部破片	重量 69.0g 東金子窯

第 51 表 古代遺構外出土土器観察表 (5)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	出土 層位	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 324 ・ 325 図	71	28Q-27・ 37	Ⅲ層	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面は 同心円の当て具痕。	砂粒	軟質	外面 N4/ 灰 内面 2.5Y7/1 灰白	胴部破片	重量 42.3g 湖西窯か
	72	29Q-24	Ⅱ層	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面は 同心円状の当て具痕。	小礫、砂 粒、石英	やや軟 質	外面 N5.5/ 灰 内面 5Y6/1 灰	胴部破片	重量 68.5g 第 324・325 図 73 と同一個体。 湖西窯
	73	28Q-19	Ⅱ層	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面は 同心円状の当て具痕。	小礫、砂 粒、石英	やや軟 質	外面 N5.5/ 灰 内面 5Y6/1 灰	胴部破片	重量 66.0g 第 324・325 図 72 と同一個体。 湖西窯
	74	28Q-38	Ⅱ層	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き、内面は ナデ。	小礫、砂 粒、海綿 骨針	良好	N4/ 灰	胴部破片	重量 33.0g 南比企窯
	75	28Q-27	Ⅱ層	須恵器 壺			胴部外面は平行叩き、内面は 無文の当て具痕。	砂粒、赤 褐色粒子	軟質	外面 10YR5/1 に ぶい黄橙・ 10YR5/1 褐灰 内面 10YR7/2.5 に ぶい黄橙	胴部破片	重量 129.0g 南多摩窯
	76	SD12・ 28Q-19・ 56	Ⅱ層	須恵器 甕			胴部外面は平行叩き。	礫、黒色 粒子	良好	外面 2.5Y6/1 灰 内面 N5.5/ 灰	胴部破片	重量 86.6g 東金子窯
	77	SD12	－	須恵器 甕	(7.2)	底部は平底。	胴部外面は平行叩き。	小礫、砂 粒	良好	2.5Y6/1 灰	胴～底部 破片	重量 122.4g 東金子窯
	78	SD13	－	須恵器 甕	最大幅 6.6 最大長 4.5 最大厚 0.9		頸部内外面ともにナデ。	砂粒	良好	外面 N6.5/ 灰白 内面 2.5Y6/1 黄灰	頸部破片	重量 37.5g 研磨須恵器片 一側面に研磨痕。 湖西窯
第 326 ・ 327 図	79	28Q-10	Ⅱ層	須恵器 壺	[13.6] (5.0)	口縁部は緩やかに 外反し、口縁端部は 外傾する面を持つ。	口縁部内外面ともにナデ。	砂粒	良好	内外面 N3.5/ 暗灰断 面 5YR4/3.5 にぶ い赤褐	口縁部 1/6	重量 75.1g 東金子窯
	80	28Q-47	Ⅱ層	須恵器 突帯付四 耳壺		胴上部に突帯がめ ぐる。	胴部内外面ともにナデ。	砂粒	良好	N6/ 灰	胴部破片	重量 47.3g 第 326・327 図 81 と同一個体。 東金子窯
	81	28Q-26	Ⅱ層	須恵器 突帯付四 耳壺		胴上部に突帯がめ ぐり、突起が付属す る。	胴部内外面ともにナデ。	砂粒	良好	N6/ 灰	胴部破片	重量 40.4g 第 326・327 図 80 と同一個体。 東金子窯
	82	28Q-44	Ⅱ層	須恵器 長頸瓶	[4.3] (4.3) 頸部径 4.0	口頸部は緩やかに 外反し、口縁端部は 外傾する面を持つ。	ロクロ成形。 口縁部はナデ。	砂粒、石 英	良好	N6/ 灰	口縁部 1/6 頸部完形	重量 36.4g 南多摩窯
	83	28Q-26・ 27・45・ 55	I・Ⅱ 層	須恵器 長頸瓶	(7.9) 頸部径 [6.9]	頸部は直立気味に 立ち上がる。	ロクロ成形。	小礫、砂 粒	良好	外面 2.5Y5/1 黄灰・ N6/ 灰 内面 2.5Y5.5/1 黄 灰	頸部 1/2	重量 65.1g 頸部外面に自然 釉。 南多摩窯
	84	27Q-26・ 28Q-38・ 48	Ⅱ層	須恵器 瓶 / 壺	(12.7) 胴部最 大径 [17.7]		ロクロ成形。	小礫、砂 粒、黒色 粒子	良好	外面 2.5Y2/1 黒 内面 7.5Y4.5/1 灰	胴部破片	重量 94.4g 胴部外面に降灰。 南多摩窯
	85	28Q-27・ 47	Ⅱ・Ⅲ 層	須恵器 瓶 / 壺	(11.1) 胴部最 大径 [19.0]		ロクロ成形。 胴下部外面は回転ヘラケズ リ。	小礫、砂 粒	良好	外面 N5/ 灰 内面 N4.5/ 灰	胴部破片	重量 146.8g 東金子窯
	86	28Q-30	Ⅱ層	須恵器 瓶 / 壺	(7.7) [12.6]	胴部は底部から直 線的に開く。	ロクロ成形。 体下部は回転ヘラケズリ。底 部は回転系切り後、高台部貼 り付け。	砂粒、石 英	良好	外面 7.5YR5/3 にぶ い褐 内面 10YR5/1 褐灰	高台部 1/4	重量 89.8g 外面に鈍い光沢 あり。 南多摩窯

第 51 表 古代遺構外出土土器観察表 (6)

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	出土 層位	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 326 ・ 327 図	87	28Q-47 ～ 49	一	須恵器 瓶 / 壺	(7.2) [7.9]	胴部は底部から内 湾気味に開く。	ロクロ成形。 体下部は回転ヘラケズリ。底 部は回転糸切り後、高台部貼 り付け。	小礫、砂 粒	良好	外面 5Y5/1 黄灰 内面 N5.5/ 灰	高台部 3/4	重量 171.6g 東金子窯
	88	28Q-28・ 48	Ⅱ層	須恵器 瓶 / 壺	(1.8) [9.3]	胴部は底部から直 線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、高台部 を貼り付け。	小礫、砂 粒	良好	外面 N4/ 灰 内面 N5/ 灰	高台部 1/3	重量 61.2g 東金子窯
	89	28Q-45・ 55	Ⅱ層	灰釉陶器 長頸瓶	(6.9) 頸部径 [5.5]		ロクロ成形。	小礫、砂 粒	良好	外面 5Y6/2 灰オ リープ 内面 2.5Y6/2 灰黄	頸部 1/4	重量 32.2g 猿投窯
	90	28Q-46	Ⅱ層	灰釉陶器 長頸瓶	(4.5) 頸部径 [5.4]	頸部は直立気味に 立ち上がる。	ロクロ成形。	砂粒	良好	2.5Y6.5/2 灰 黄	頸部 1/6	重量 18.2g 二川窯か
	91	28Q-8	Ⅱ層	灰釉陶器 長頸瓶	(3.7) 頸部径 [4.7]	頸部は直立気味に 立ち上がる。	ロクロ成形。	砂粒、黒 色粒子	良好	外面 5Y5/2 灰オ リープ 内面 2.5Y7/1 灰白	頸部 1/4	重量 17.7g 猿投窯
第 328 図	92	28Q-55	Ⅱ層	須恵器 ミニチュ ア	(3.6) 2.6	体部は底部から直 立気味に立ち上る。 口縁部は内湾する。	ロクロ成形。 体下部は回転ヘラケズリか。 底部は回転糸切り後、無調整。	小礫、砂 粒、石英	軟質	10YR6.5/4 に ぶい黄橙	底部完形	重量 24.1g 東金子窯か
	93	28Q-56	Ⅱ層	須恵器 鉄鉢形		口縁部は内湾する。	ロクロ成形。	砂粒、石 英	軟質	2.5Y6.5/2 灰 黄	口縁部破 片	重量 7.2g 南比企窯か
	94	28Q-45	Ⅱ層	須恵器耳 皿		口縁端部は丸く肥 厚する。	ロクロ成形。	砂粒	軟質	2.5Y6/1.5 黄 灰	口縁部破 片	重量 2.9g 南多摩窯か

第 52 表 古代遺構外出土瓦観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別	法量 cm	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 328 図	95	28Q-36	丸瓦	幅 (9.8) 長さ (11.3) 厚さ 2.4	凸面はヘラナデ、一部に自然軸。凹面は布目。 左側面はヘラケズリ、凸面、凹面に面取り。	小礫、砂粒、 赤褐色粒子	良好	凸・凹面 5Y5/1 灰 断面 5YR4/1 褐灰	破片	重量 325.2g 第 354 図 5 と同 一個体の可能性が 高い。
	96	28Q-29・ 49	丸瓦	幅 (12.0) 長さ (8.8) 厚さ 2.0	凸面は全面に自然軸、凹面は布目。右側面はヘ ラケズリ、凸面、凹面に面取り。	砂粒、赤褐 色粒子	良好	凸面 2.5Y8/3 浅黄 凹面 7.5Y5/1 灰断 面 2.5YR4/1 赤灰	破片	重量 309.2g 97 と同一個体の 可能性が高い。
	97	28Q-47	丸瓦	幅 (4.7) 長さ (6.8) 厚さ 1.9	凸面は全面に自然軸、凹面は布目。	小礫、砂粒	良好	凸面 2.5Y8/3 浅黄 凹面 N4.5/ 灰 断面 2.5YR4/1 赤灰	破片	重量 62.8g 96 と同一個体の 可能性が高い
	98	28Q-10	丸瓦	幅 (4.1) 長さ (4.1) 厚さ 1.1	凸面はヘラナデか、凹面は布目。全体的に薄い つくり。	砂粒	良好	N5/ 灰	破片	重量 20.6g

5 古代末～中世

古代末～中世に帰属するものとして扱う遺構は、溝 3 条、掘立柱建物跡 1 棟、土坑 31 基、ピット 139 基である。溝 SD12・13 については、覆土の様相及び SD12 出土炭化材の年代測定の結果（第 V 章第 1 節参照）から、中世に帰属するものと判断した。それ以外の遺構は、いわゆる「円形土坑」に見られる黒褐色スコリアを多く含む基本層序Ⅱ層をベースとする覆土やそれに類する覆土を有するものについて、古代末～中世に帰属すると判断した。

各遺構は、調査区全体に分布しているが、2-6 東区の南側と 2-7 区中央部付近はやや散漫である。

遺物は、遺構から出土するもののほとんどが縄文時代～古代のもので、他の遺構や遺物包含層等から流れ込んだものと思われる。中世の遺物は全て遺構外から出土したもので、陶器 16 点、磁器 2 点で、磁器の 2 点はいずれも中国（南宋）龍泉窯産の青磁である。

1) 溝（第 332～340 図、第 53 表）

溝は、古代末以降に帰属する SD12～15 の 4 条を検出した。そのうち SD15 については、近世以降に帰属する道路跡と判断し、本報告では SFK1 として近世以降の項で扱うこととした。

SD12（第 332～335 図、第 53 表）

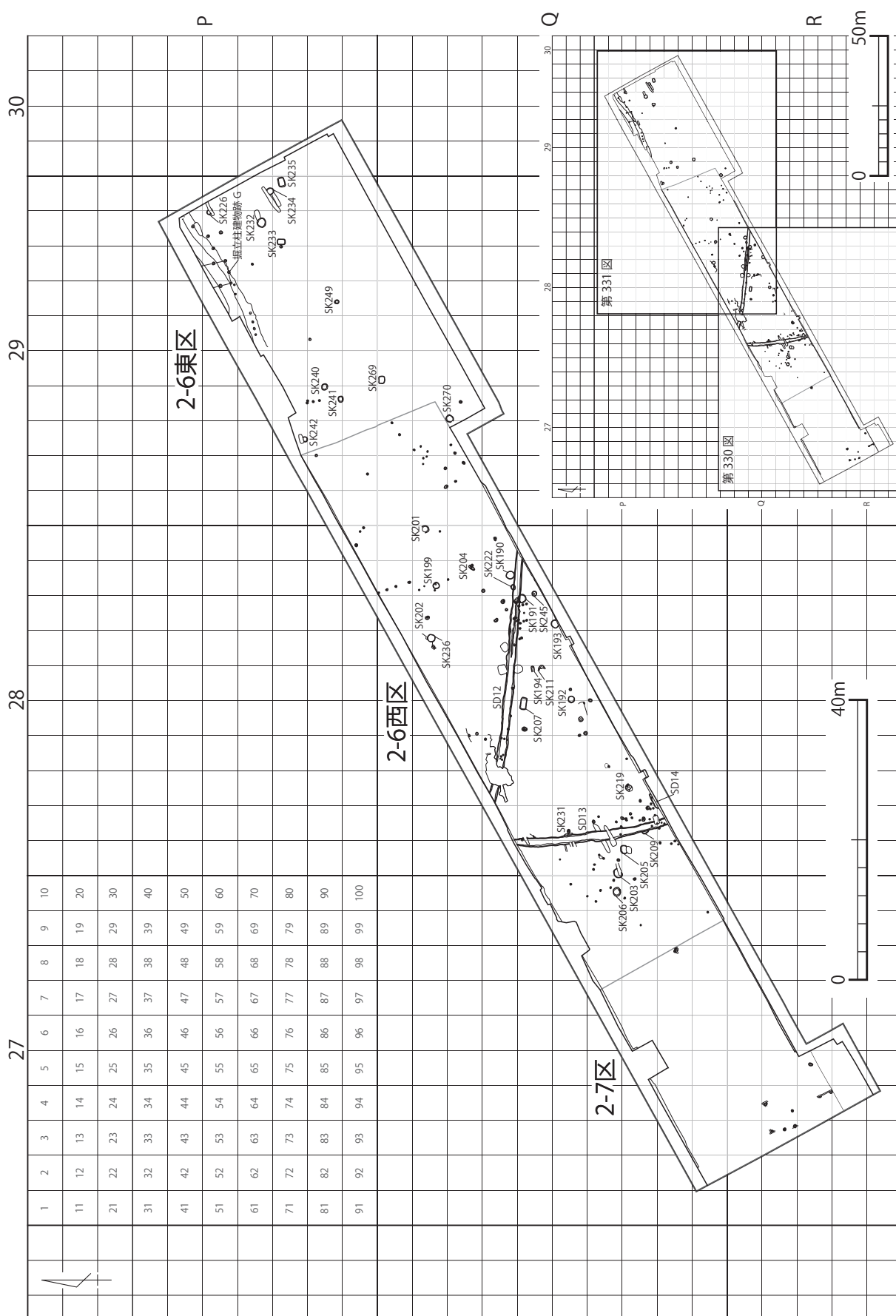
2-6 西区の中央付近をほぼ東西に横断する溝で、28Q-33～40・47～50 グリッドに位置する。検出面はⅡ3～Ⅲ2 層で、遺構の検出時には、既に覆土の上面から複数の礫が出土する状況であった。遺構 他 の遺構との切り合い関係は、SI60・63、掘立柱建物跡 D（SP744・745・753）・SK191・222、SP642・738・746・767・770・773・775・776・777・781・795・940・949 の各遺構を切っており、西端部付近等は攪乱に切られている。溝の東端、西端共に掘削範囲外へと続いている。

調査範囲内での規模は、長さ 35.47 m、最大幅 135cm、深さ 35cm を測る。断面形態は逆台形状を呈している。主軸方向は N-87°-W を指す。調査範囲内の東側部分は比較的直線を保っているが、西側は北を内側にしてわずかな弧を描く。東端と西端の比高差は 9cm で、東がわずかに低いが、ほぼ平坦と言える。底面は、西側が比較的平坦なのに対して、東側では途中から南北で段差が生じていて、南側がわずかに低くなっている。

底面にはピット状の掘り込みが複数確認され、SD12 に帰属すると考えられたものについては P1～7 の番号を付した。溝に伴う何らかの施設が構築されていた可能性を示している。

覆土は 3 か所でベルトを設けて観察し、それぞれ 3～6 層に分層した。いずれも、下層にⅢ層土を主体とする層が確認された。また、中～上層では、土層断面 D-D' では 3 層、F-F' では 3 層、G-G' では 1 層の各層上部もしくは全体が硬化していることが確認された。溝の埋没過程で、これらの面が一定の間、道路状に使用された事が想定される。なお、この硬化面は、面的には明瞭な範囲として捉えることはできなかった。

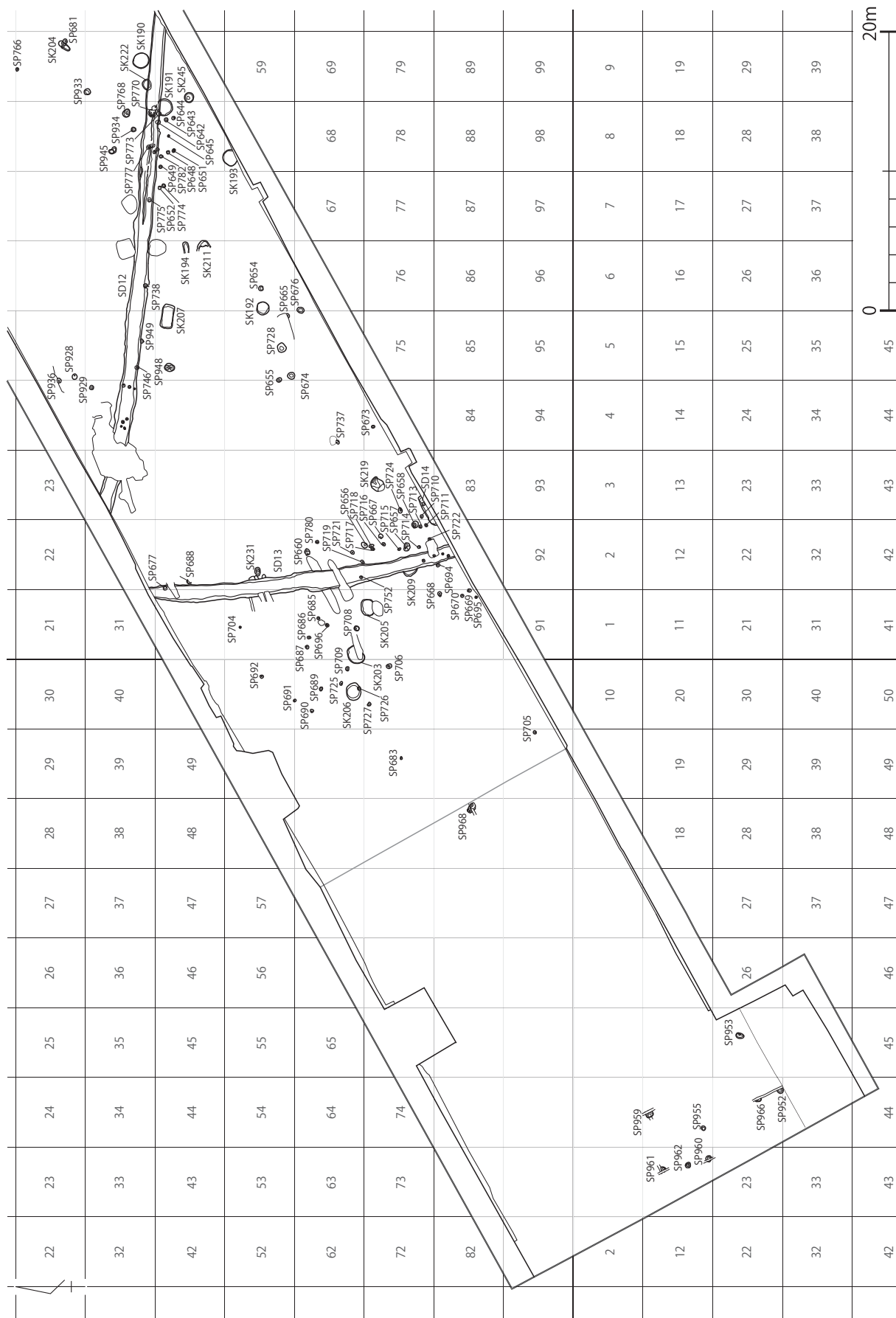
遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、金属製品、礫・焼礫、炭化物、焼成粘土塊等が出土している。これらの中には、SD12 に切られる SI63 や、SI63 に隣接する SI58、近接する SI69 との接合が確認された資料もあることから、土師器、須恵器、灰釉陶器、金属製品（刀子）については、それらの遺構に伴っていたものが多く含まれていると考えられる。



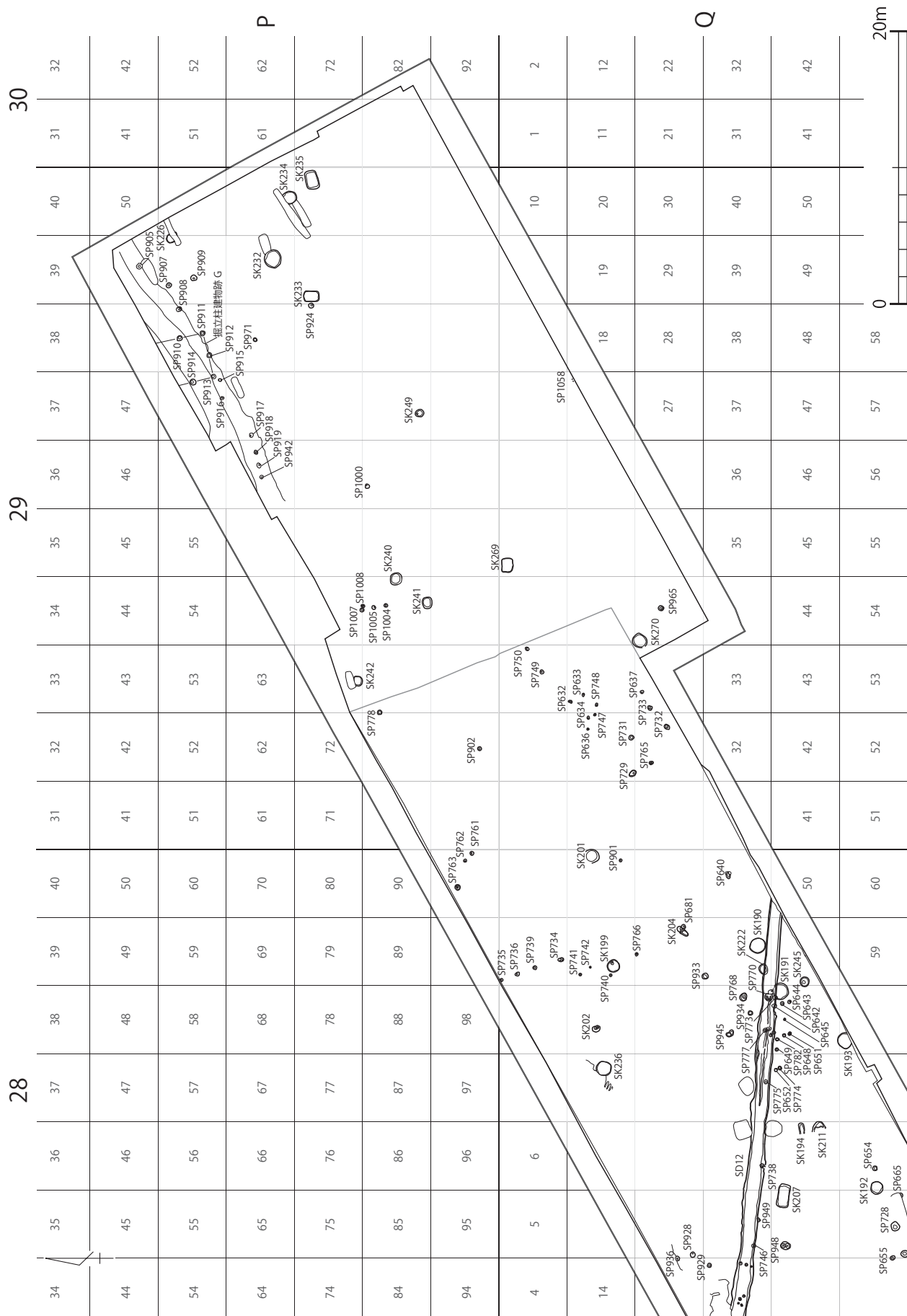
第 329 図 古代末～中世遺構分布図・区割図 (1/800・1/2,000)

27

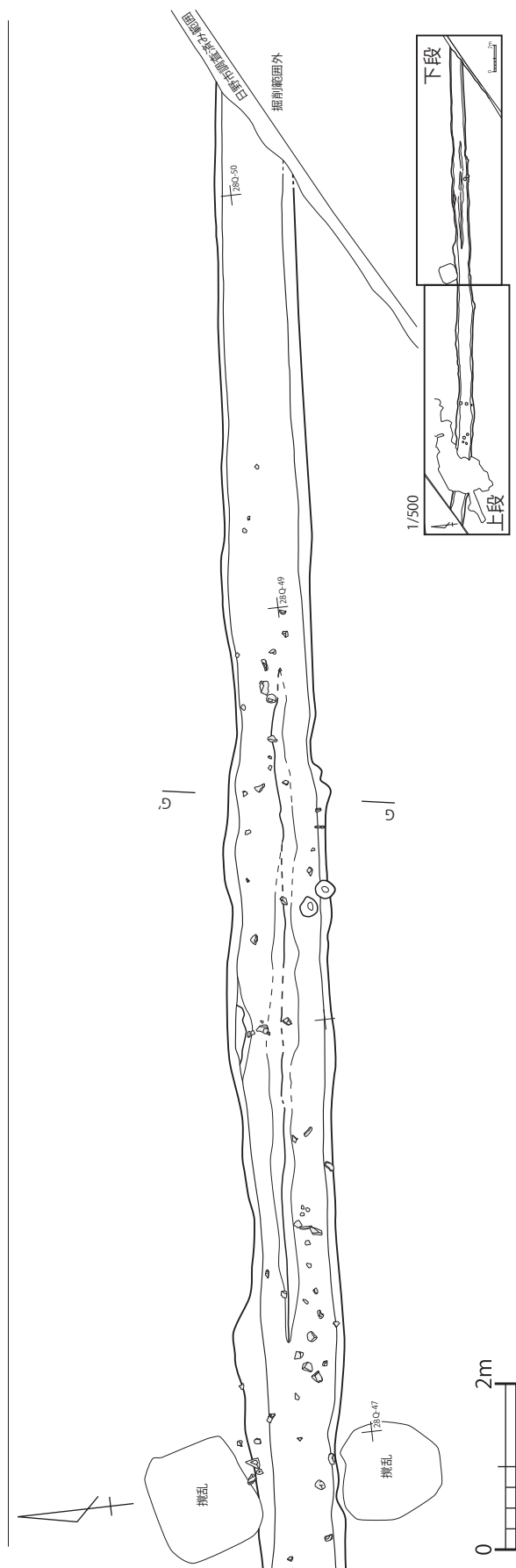
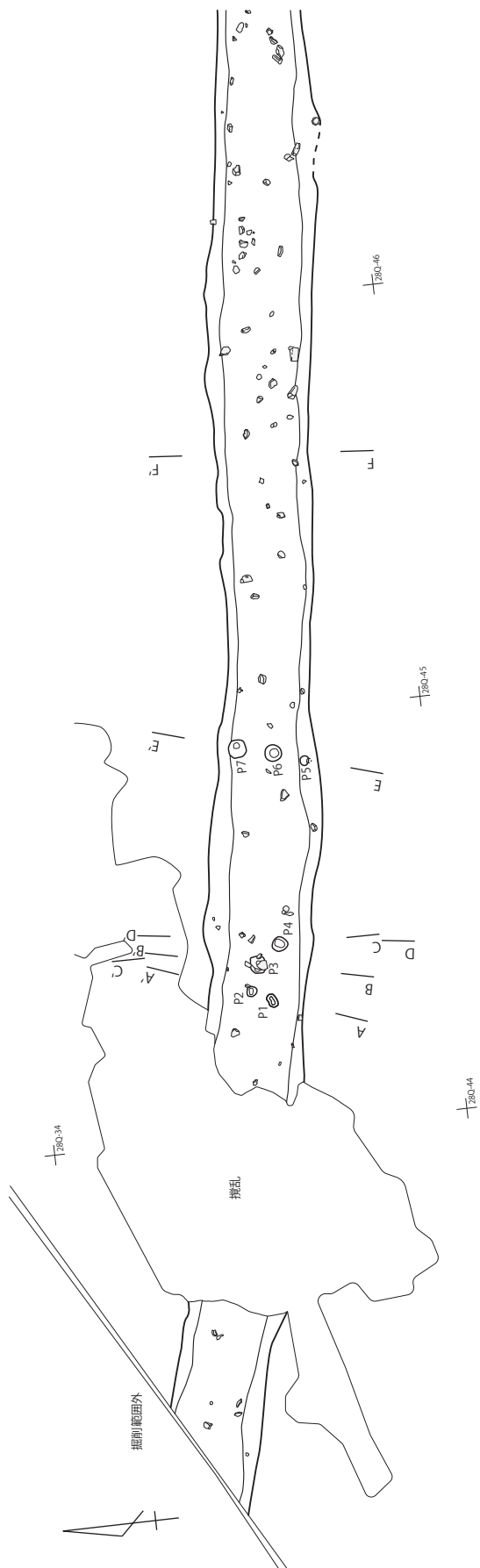
28



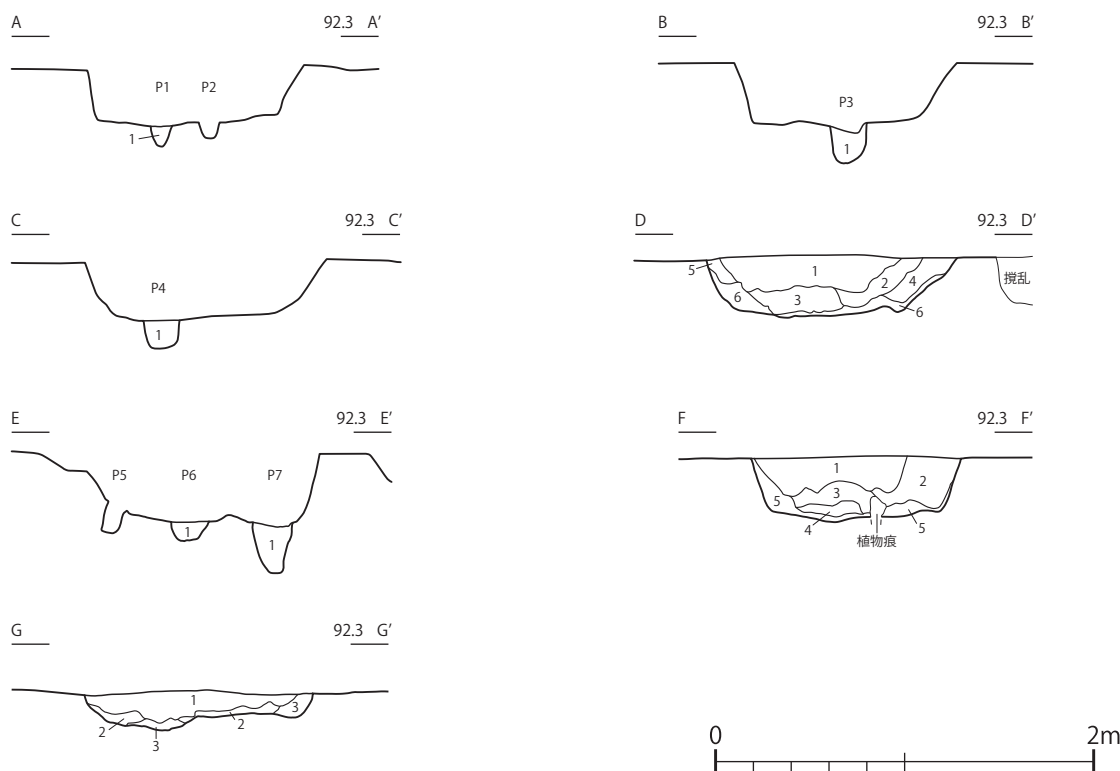
第 330 図 古代末～中世遺構分布図割図 (1)(1/400)



第 331 図 古代末～中世遺構分布図割図 (2)(1/400)



第 332 図 SD12(1)(1/80・1/500)



D-D'

1. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/6)5%、直径1mmの赤褐色スコリア(2.5YR4/8)1%、直径2mm以下のローム粒子(7.5YR4/6)7%、直径3mm以下の黒色スコリア5%含む。直径15mm以下の黒褐色土ブロック(7.5YR3/1)下部に10%偏在。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/6)3%、直径2mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)2%、直径2mm以下のローム粒子(7.5YR4/6)5%、直径3mm以下の黒色スコリア5%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
3. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径3mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/6)5%、直径3mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)2%、直径5mm以下の黒色スコリア3%含む。上部が硬化している。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
4. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径1mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/6)10%、直径5mm以下の黒色スコリア10%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
5. 7.5YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土主体。直径2mm以下の明黄褐色スコリア(10YR6/6)3%、直径5mm以下の黒色スコリア10%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
6. 7.5YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土主体。5層に似るが、黒色スコリアは含まない。直径1mmの明黄褐色スコリア(10YR6/6)2%含む。粘性強、締まり強、粒子密。

F-F'

1. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/6)7%、直径3mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)3%含む。直径2～30mmの黒褐色土ブロック(7.5YR3/1)下部に20%偏在。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
2. 7.5YR2/1 黒色土層 直径5mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/6)5%、直径1mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)1%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや密。
3. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径2mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/6)3%、直径2mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)2%含む。上部が硬化している。粘性あまりなし、締まり強、粒子やや密。
4. 7.5YR3/1 黒褐色土層 3層より暗い。直径2mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/6)3%、直径1mmの赤褐色スコリア(2.5YR4/8)1%含む。全体的に硬化している。粘性あり、締まり極めて強、粒子密。
5. 7.5YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土主体。直径2mm以下の明黄褐色スコリア(10YR6/6)1%、直径2mm以下の赤褐色スコリア(2.5YR4/8)1%、直径2mm以下の黒色スコリア3%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。

G-G'

1. 7.5YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の明黄褐色スコリア(10YR6/6)5%、直径1mmの明赤褐色スコリア(5YR5/6)7%、直径3mm以下の黒色スコリア5%含む。全体的に硬化している。粘性あり、締まり強、粒子やや粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土由来土層。直径5mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/6)3%、直径1mm以下の明黄褐色スコリア(10YR6/6)2%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
3. 7.5YR3/1 黒褐色土層 Ⅲ層土主体。直径1mmの明黄褐色スコリア(10YR6/6)1%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。

P1

1. 7.5YR1.7/1 黒色土層 ローム(7.5YR5/6)20%混在。粘性ややあり、締まりややあり、粒子密。

P3

1. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径1mmの暗赤褐色スコリア(5YR3/2)3%含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子粗い。

P4

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/6)5%、直径2mm以下の赤色スコリア(10R4/8)3%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。

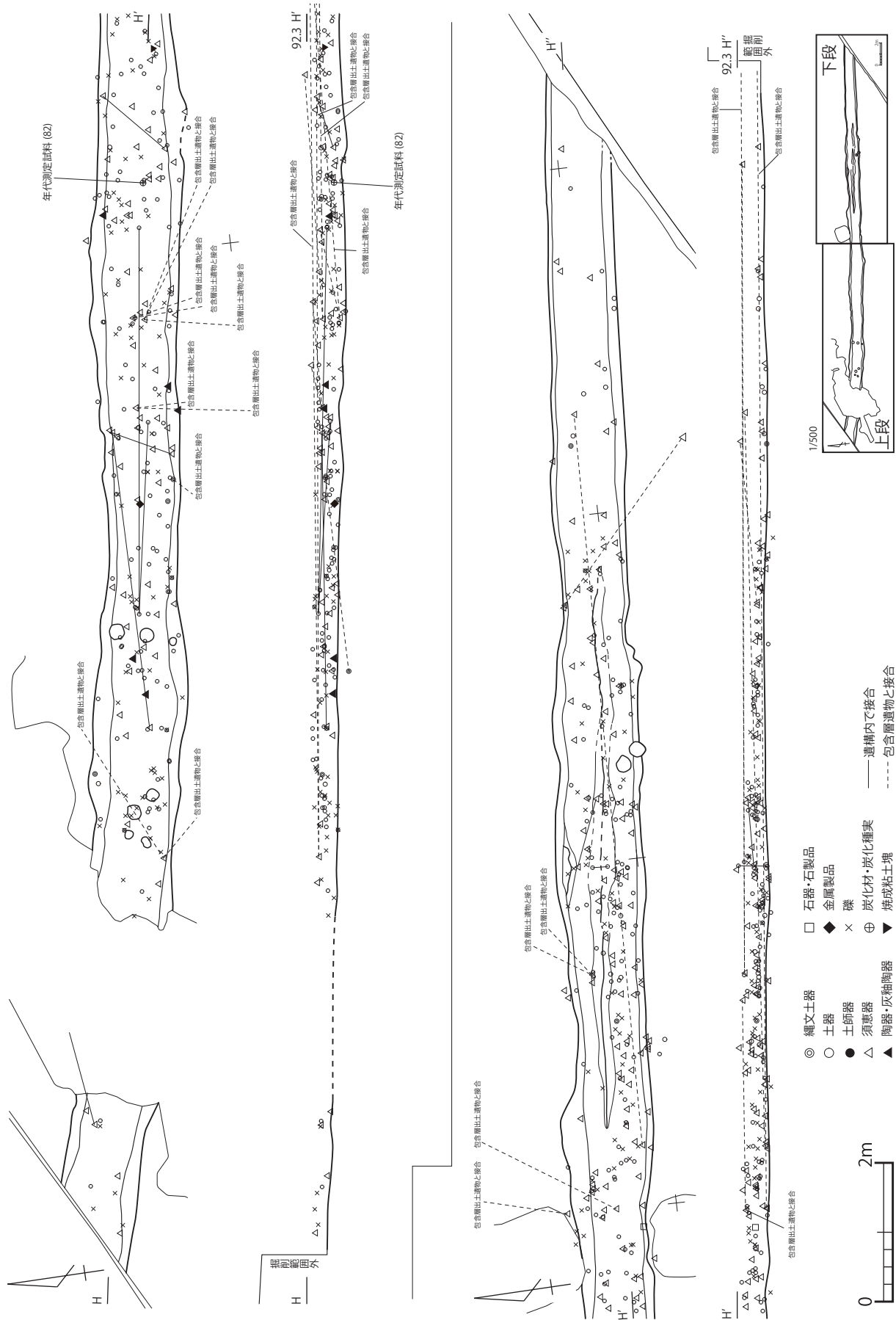
P6

1. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径1mmの明黄褐色スコリア(10YR6/8)3%、直径1mmの明赤褐色スコリア(5YR5/8)1%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや密。

P7

1. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の明黄褐色スコリア(10YR6/8)5%、直径3mm以下の黒色土粒子15%含む。粘性あまりなし、締まりなし、粒子極めて粗い。

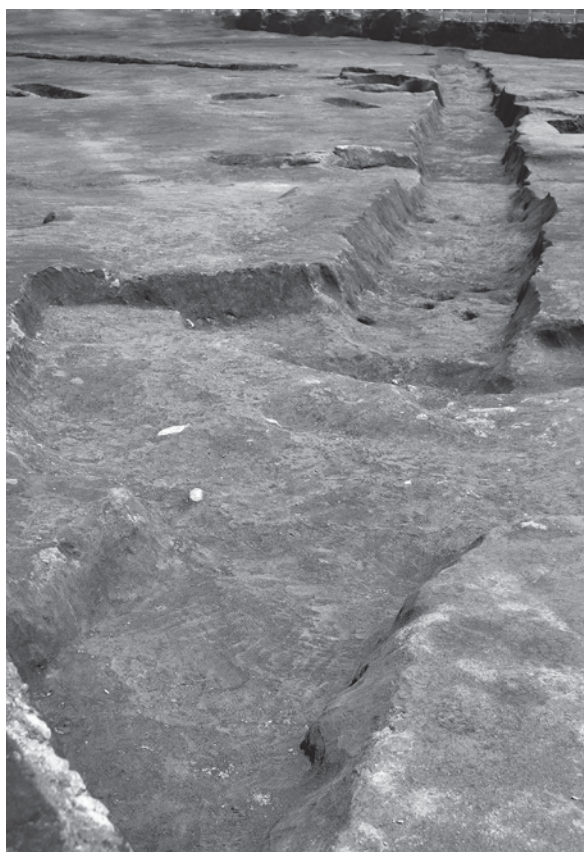
第333図 SD12(2)(1/40)



第 334 図 SD12(3) 遺物分布・接合図 (1/80・1/500)



1. 全景 東から



2. 全景 西から



3. 遺物出土状況 東から



4. 土層断面 B-B' 東から



5. 土層断面 C-C' 東から



6. P1～4全景 東から

また遺物は、礫を中心に、層位的には覆土の中層から上層で多くみられる傾向がある。覆土の中層に硬化面が見られることとの関連が考えられる。

礫・焼礫計 143 点の石材は砂岩が 120 点 (83.9%) と最も多く、次いで片状砂岩 6 点 (4.2%)、頁岩 5 点 (3.5%)、礫岩 3 点 (2.1%)、チャート 2 点 (1.4%)、石英、中粒緑色凝灰岩、粘板岩、変質玄武岩、ホルンフェルス、流紋岩、軽石が各 1 点 (各 0.7%) である。

炭化物については、樹種同定と放射性炭素年代測定を実施した。樹種はカバノキ属で、放射性炭素年代測定の結果、13 世紀代の暦年代範囲を示した (第 V 章第 1 節参照)。

発掘調査の時点で、覆土の様相や遺構の形態から帰属時期を中世と想定していたが、炭化物の年代想定の結果から、中世という帰属時期が再確認できた。 (相原)

遺物 本遺構からは、総点数 546 点、総重量 37,235.6g が出土した。種別・器種ごとの内訳は、縄文土器 5 点 83.2g (諸磯 c 式 1 点 24.2g、五領ヶ台 II 式 1 点 30.9g、中期型式不明 1 点 11.3g、堀之内 1 式 1 点 12.2g、型式不明 1 点 4.7g)、縄文時代の石器 (磨石) 1 点 663g、弥生時代後期～古墳時代前期の土器 12 点 75.5g (壺 7 点 57g、甕 5 点 18.5g)、古墳時代後期の須恵器 (坏) 1 点 6.8g、古代の土師器 211 点 604.4g (坏 6 点 26g、甕 201 点 565.7g、台付甕 4 点 12.7g)、古代の須恵器 166 点 1,227g (坏 129 点 556.4g、埴 3 点 43.2g、蓋 3 点 8.1g、甕 16 点 360.2g、長頸瓶 3 点 59.5g、瓶あるいは壺 12 点 199.5g)、古代の灰釉陶器 5 点 12.7g (埴 4 点 10.7g、皿 1 点 2g)、古代の金属製品 (刀子) 1 点 4g、焼成粘土塊 1 点 4.6g、被熱礫を含む礫 143 点 34,554.6g で、これら以外に炭化材が出土した。

本遺構の帰属時期は上述のとおり、中世と判断した。出土遺物に当該時期の遺物は含まれていないことから、本遺構に伴う出土遺物は掲載していない。なお、遺構の帰属時期ではない遺物のうち一部は、各時代の遺構外出土遺物として掲載したものもある。 (小西)

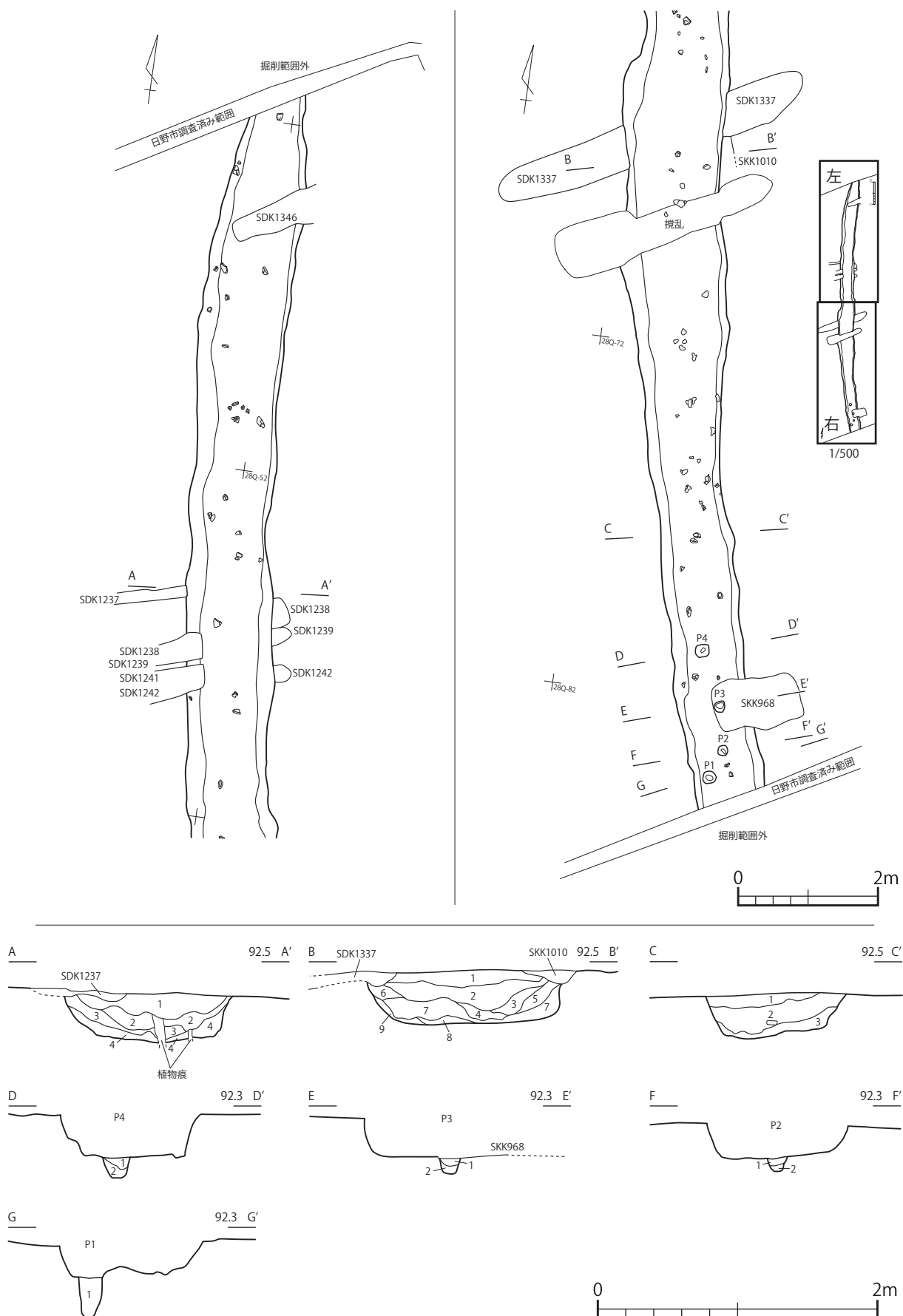
SD13 (第 336～338 図、第 53 表)

遺構 2-6 西区の西寄りを南北に貫く溝である。検出当初は調査区の南端から調査区東西ベルト付近までの短い溝と想定されていたが、精査したところ、北側も掘削範囲外へと続くことが判明した。28Q-31・32・41・42・51・52・61・62・72・82 の各グリッドに位置している。他の遺構との切合いは、SI62、SS15、SK209・229・230、SP677・680 を切っており、SDK1237・1238・1239・1241・1242・1337・1346、SKK968・1010、攪乱他に切られている。前述の通り南、北端共に掘削範囲外へと伸びる。

検出面はⅡ3・Ⅲ2 層で、調査範囲内での規模は長さ 21.71 m、最大幅 154cm、深さ 38cm を測る。主軸方向は N-8°-W を指す。おおそ南北方向に伸びているが、直線ではなく、わずかに西側に張り出すように弧を描いている。南端と北端の比高差は 7cm で南がわずかに低い、ほぼ平坦である。断面形態は概ね逆台形状を呈している。底面には凹凸は少ないが、南端部付近にはピット状の掘り込みが複数確認され、P1～4 の番号を付した。

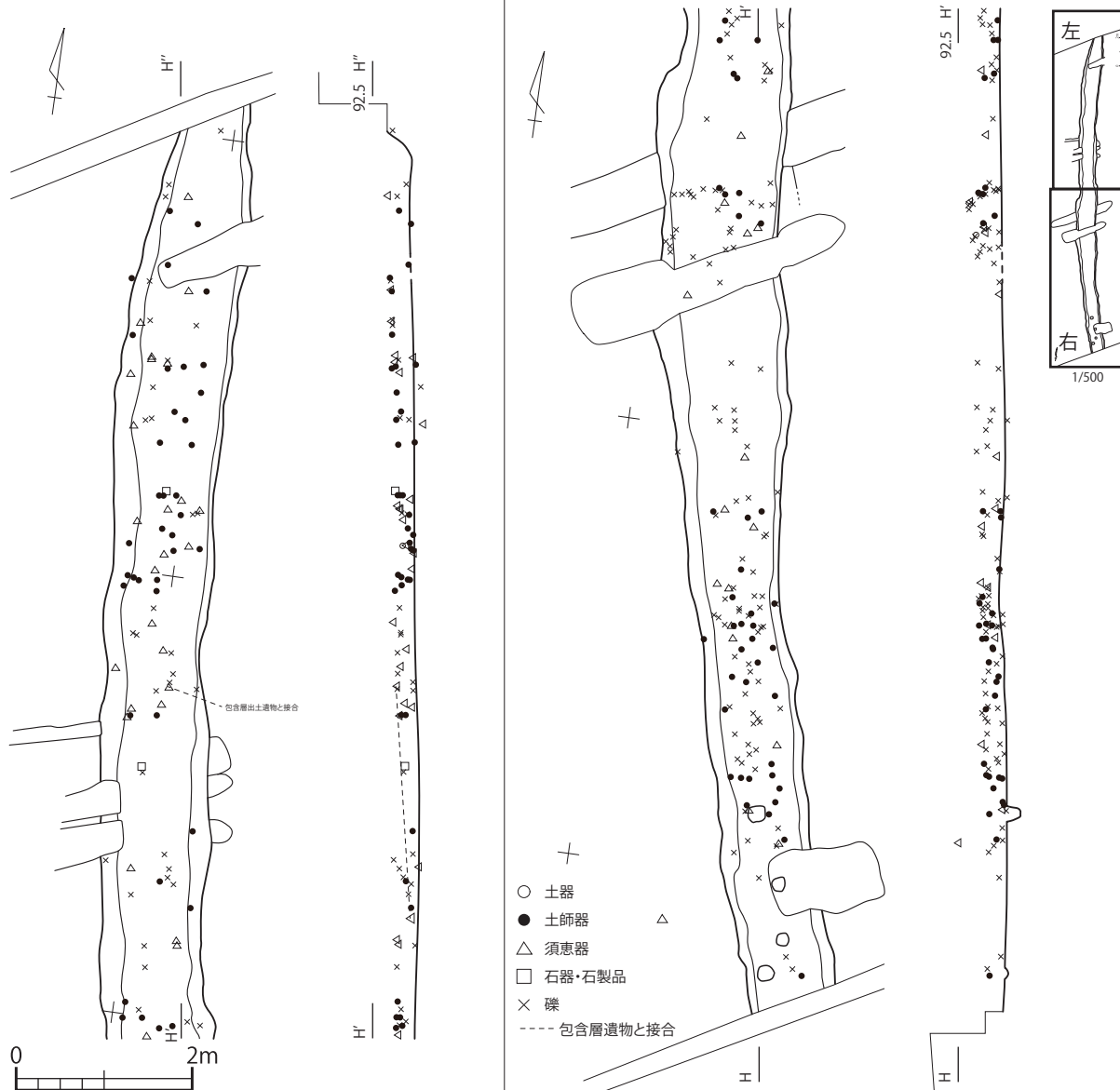
覆土の堆積状況は 3 か所で確認し、それぞれ 3～9 層に分けられた。硬化面は土層断面 B-B' の 7 層の上部でのみ確認された。また、同じく B-B' の 2 層で焼土粒子が、C-C' の 1 層で炭化物粒子がそれぞれ微量確認されている。また、各所とも、最下層にはⅢ層土を主体とした土壌が堆積していた。

遺物は、土師器、須恵器、礫・焼礫等が出土している。層位的には、中層から上層にかけてやや多い。礫・焼礫は合計 127 点で、石材別では砂岩が 115 点 (90.6%) と最も多く、粘板岩 3 点 (2.4%)、片状砂



第 336 図 SD13(1)(1/40・1/80・1/500)

- SD13
- A-A'
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm以下のローム粒子(10YR4/6)7%、直径1mm以下の黒色スコリア3%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径1mm以下のローム粒子5%、直径2mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%、直径1mm以下の黒色スコリア1%含む。粘性あり、締まりややあり、やや砂質。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mm以下のオリーブ褐色スコリア(2.5Y4/4)5%、直径1mm以下の赤褐色スコリア1%、直径1mm以下の黒色スコリア3%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや粗い。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土主体。直径1mm以下の赤褐色スコリア2%、直径1mm以下のオリーブ褐色スコリア1%含む。粘性強、締まり強、粒子密。
- B-B'
- 5Y2/2 オリーブ黒色土層 直径1mmの黄褐色スコリア(2.5Y5/6)5%、直径3mm以下の黒色スコリア5%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや密。
 - 2.5Y2/1 黒色土層 直径1mmの黄褐色スコリア(2.5Y5/6)7%、直径5mm以下の焼土粒子(5YR5/8)1%、直径7mm以下の黒褐色スコリア7%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径1mmのローム粒子(10YR5/8)3%、直径3mm以下の黒色スコリア5%含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。
 - 2.5Y2/1 黒色土層 直径1mm以下の赤褐色スコリア(5YR5/8)1%、直径2mm以下のローム粒子(10YR5/8)2%、直径3mm以下の黒色スコリア3%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや密。
 - 2.5Y2/1 黒色土層 直径1mmのローム粒子(10YR5/8)5%、直径1mmの赤褐色スコリア(5YR5/8)5%、直径1mmの黒色スコリア1%含む。粘性あり、締まり強、粒子粗い。
 - 5Y2/1 黒色土層 直径1mmの明黄褐色スコリア(2.5Y6/6)7%、直径3mm以下の黒色スコリア5%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや粗い。
 - 2.5Y2/1 黒色土層 直径2mm以下のローム粒子(10YR5/8)5%、直径3mm以下の黒色スコリア3%含む。上部が硬化している。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土由来土層。直径2mm以下のローム粒子(10YR5/8)3%、直径1mmの黒色スコリア1%含む。粘性強、締まり強、粒子やや密。
 - 2.5Y2/1 黒褐色土層 Ⅲ層土主体。直径1mmのローム粒子(10YR5/8)3%、直径1mm以下の赤褐色スコリア(5YR5/8)1%含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。
- C-C'
- 2.5Y3/1 黒褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア(2.5Y4/8)1%、直径1mm以下のローム粒子(10YR6/6)3%、直径2mm以下の炭化物粒子2%、直径2～3mmの黒色スコリア3%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや粗い。
 - 2.5Y2/1 黒色土層 直径2mm以下の黒色スコリア3%、直径3mm以下の赤褐色スコリア2%、直径1mm以下のローム粒子(10YR5/6)2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土主体。直径1mm以下の明黄褐色スコリア(10YR6/6)1%含む。粘性強、締まりややあり、粒子密。
- P1
- 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子(10YR5/8)7%、直径5mm以下の黒色土粒子5%、直径3mm以下の赤色スコリア(10R4/8)3%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
- P2
- 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子(10YR5/8)7%、直径5mm以下の黒色土粒子5%、直径3mm以下の赤色スコリア(10R4/8)3%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
- P3
- 7.5YR3/4 暗褐色土層 ローム主体。直径4mm以下の赤色スコリア(10R4/8)3%含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子(10YR5/8)7%、直径5mm以下の黒色土粒子5%、直径3mm以下の赤色スコリア(10R4/8)3%含む。ローム(7.5YR3/4)10%偏在。粘性あり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
- P4
- 7.5YR3/4 暗褐色土層 ローム主体。直径4mm以下の赤色スコリア3%含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子(10YR5/8)7%、直径5mm以下の黒色土粒子5%、直径3mm以下の赤色スコリア(10R4/8)3%含む。ローム(7.5YR3/4)10%偏在。粘性あり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
 - 7.5YR3/4 暗褐色土層 ローム主体。直径4mm以下の赤色スコリア3%含む。黒色土(10YR2/1)5%偏在。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。



第 337 図 SD13(2) 遺物分布・接合図 (1/80・1/500)



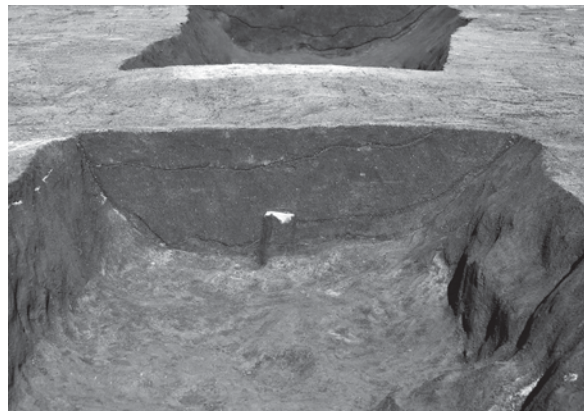
1. 全景 北から



2. 全景 南から



3. 遺物出土状況 南から



4. 土層断面 A-A' 南南東から



5. 土層断面 B-B' 東から



6. 土層断面 C-C' 東から

第 338 図 SD13 写真

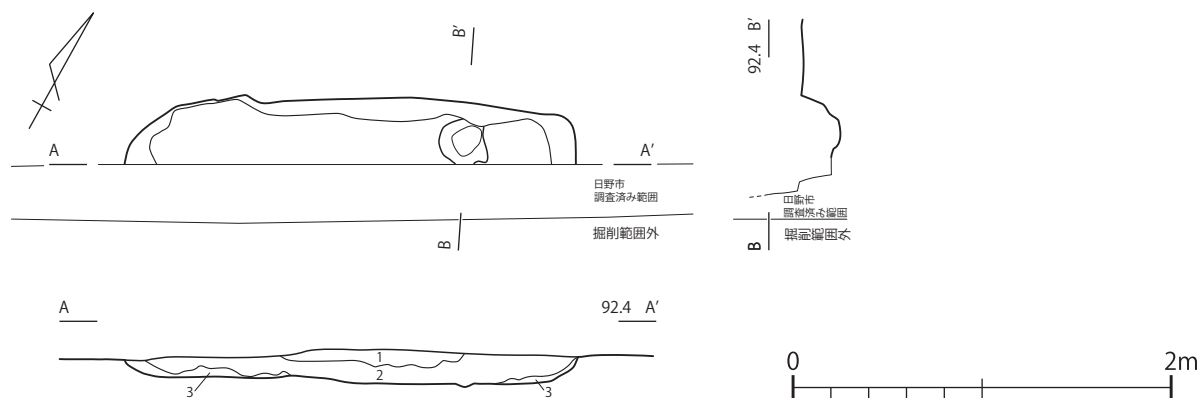
岩、礫岩、ホルンフェルス各 2 点(各 1.6%)、頁岩、粗粒緑色凝灰岩、チャート各 1 点(各 0.8%)と続く。
(相原)

遺物 本遺構からは、総点数 255 点、総重量 18,304.2g が出土した。種別・器種ごとの内訳は、弥生時代後期～古墳時代前期の土器（壺）2 点 2.8g、古墳時代後期の土師器（坏）1 点 7.7g、古墳時代の須恵器（甕）1 点 38g、古代の土師器 80 点 168.4g（坏 4 点 26.3g、甕 73 点 133.8g、台付甕 3 点 8.3g）、古代の須恵器 41 点 294.8g（坏 37 点 202g、埴 1 点 11.3g、蓋 1 点 9.9g、甕 2 点 71.7g）、被熱礫を含む礫 130 点 17,792.5g である。これらの出土遺物はどれも本遺構の帰属時期に該当するものではないため、本遺構に伴う遺物として掲載していない。一部の遺物に関しては、各時代の遺構外出土遺物として掲載したものがある。
(小西)

帰属時期は、覆土の状況等、SD12 との類似性から中世と判断した。

SD14（第 339～340 図、第 53 表）

2-6 西区の南西部、28Q-72・73・82・83 グリッドに位置する浅く短い溝である。東西端部の形状から、



SD14

1. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)7%、直径 2～10mm の明褐色スコリア (7.5YR5/6)1%、直径 2mm 以下の小礫 5% 含む。粘性あまりなし、締まりあまりなし、粒子粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)3%、直径 2mm 以下の明褐色スコリア (7.5YR5/6)1%、直径 3mm 以下の小礫 3% 含む。粘性あまりなし、締まりなし、粒子やや粗い。砂質土。
3. 2.5Y2/1 黒色土層 直径 1mm の明褐色スコリア (7.5YR5/6)1% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや密。

第 339 図 SD14(1/40)



1. 土層断面 北北西から



2. 全景 北北西から

第 340 図 SD14 写真

第 53 表 古代末～中世溝一覧表

遺構名	グリッド	挿図番号		規模 (cm)			検出面	時代	遺物	備考 (重複関係等)
		図面	写真	長さ	幅	深さ				
SD12	28Q-33～40・47～50	第332～334図	第335図	(3,547)	135	35	Ⅱ3・Ⅲ2	中世	縄文土器 5 点 83.2g、土器 12 点 75.5g、土師器 211 点 604.4g、須恵器 167 点 1,233.8g、灰釉陶器 5 点 12.7g、石器 1 点 663.0g、金属製品 1 点 4.0g、礫 59 点 13,067.1g、焼礫 84 点 21,487.4g、炭化材、焼成粘土塊 1 点 4.6g	炭化材の年代測定実施。 SI60・63、SK191・222、SP642・738・744・745・746・753・767・770・773・775・776・777・781・795・940・949を切る。攪乱に切られる。
SD13	28Q-31・32・41・42・51・52・61・62・72・82	第336・337図	第338図	(2,171)	154	38	Ⅱ3・Ⅲ2	中世	土器 2 点 2.8g、土師器 81 点 176.0g、須恵器 42 点 332.9g、石器 2 点 804.8g、礫 47 点 3,455.6g、焼礫 83 点 14,336.9g	SI62、SS15、SK209・229・230、SP677・680を切る。SDK1237・1238・1239・1241・1242・1337・1346、SKK968・1010、攪乱他に切られる。
SD14	28Q-72・73・82・83	第339図	第340図	(239)	(37)	(23)	Ⅲ2	古代末～中世	—	

※ () 内は、遺存範囲内での数値・状況を示す。遺物欄で土器としたものは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器を指す。

溝として扱うこととした。検出面はⅢ2層で、縄文時代の集石 SS15 の範囲内の南側にあたり、更に南側は日野市調査範囲に及んでいる。調査範囲内での規模は長さ 239cm、幅 37cm、深さ 23cm を測り、東西に長い。

底面は比較的平坦だが、東側に長軸 29cm、短軸 25cm の遺物な円形を呈する浅いピット状の窪みがある。壁は内湾して立ち上がる。

覆土は 3 層に分けられ、そのうち 1・2 層はローム粒子や小礫を含み締まりが弱く、2 層は砂質土である。最下層の 3 層は黒色土で締まりがある。

遺物は出土しなかった。

2) 掘立柱建物跡 (第 341～342 図、第 57 表)

古代末～中世に帰属する掘立柱建物跡は、掘立柱建物跡 G の 1 棟である。遺物が焼礫 1 点のみであるため、覆土の様相から帰属時期を判断した。

掘立柱建物跡 G (第 341～342 図、第 57 表)

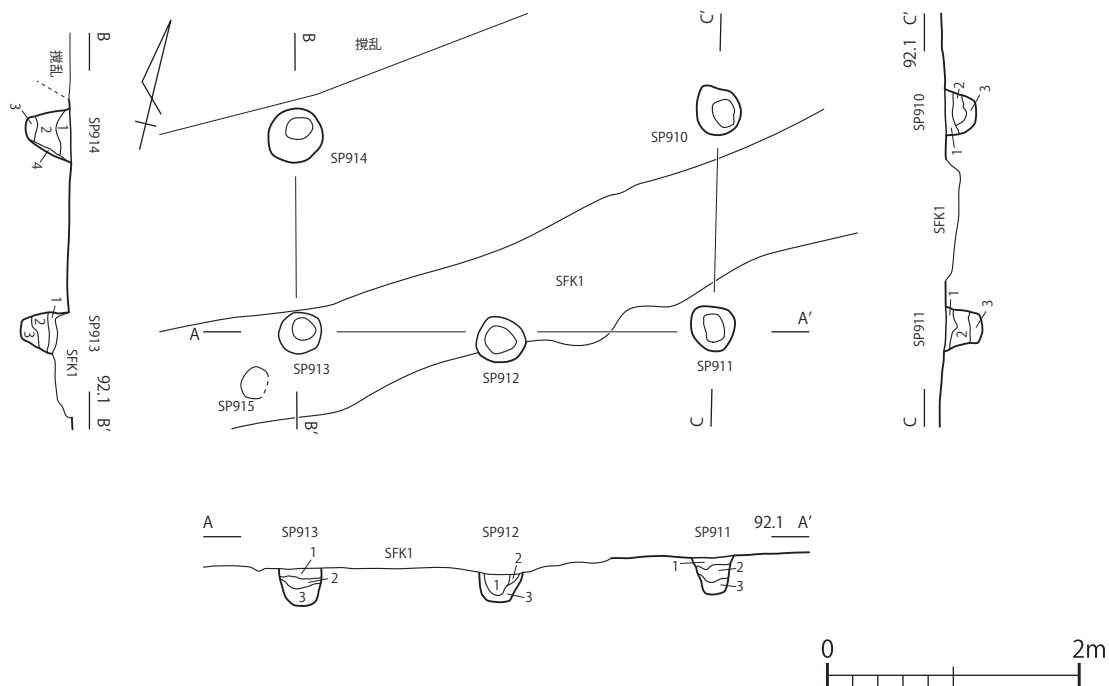
2-6 東区北東部の 29P-57・58 グリッドに位置する、SP910・911・912・913・914 の 5 基のピットからなる掘立柱建物跡である。

構成する各ピットのうち、SP912・913 が近世以降の道路跡 SFK1 に上部の一部を削平されている。確認された範囲内での規模は、柱間は梁行 (東西) 二間、桁行 (南北) 一間であるが、SP910・914 の間にピットが確認されないことから、北側は掘削範囲外へと続いていると想定され、桁行は二間以上になるものと思われる。掘削範囲内においては、身舎の間隔は梁行が 155～171cm、桁行が 161～174cm である。各ピットの検出面はⅢ1～2層である。

ピットの平面形態は、円形もしくは楕円形で、平面規模は、長軸短軸とも 22～29cm で、南西隅の SP913 が最小である。また、検出面 (91.95m とする) からの深さは SP910 が 25cm、SP911 が 31cm、SP912 が 37cm、SP913 が 40cm、SP914 が 35cm を測る。

覆土は、各ピットとも黒褐色もしくは暗褐色の土壌が主体で、スコリア以外の含有物は、一部の層でロームの粒子やブロックが見られる程度である。

遺物は、SP911 から焼礫が 1 点出土したのみである。



掘立柱建物跡 G

SP910

- | | | |
|------------|-------|--|
| 1. 10YR3/2 | 黒褐色土層 | 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。締まりやや硬緻、粘性やや弱い。 |
| 2. 10YR3/2 | 黒褐色土層 | 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。直径 2mm 以下のローム粒子混入。締まりやや硬緻、粘性ややあり。 |
| 3. 10YR3/3 | 暗褐色土層 | 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)2%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)1% 含む。締まりやや硬緻、粘性やや弱い。 |

SP911

- | | | |
|------------|--------|--|
| 1. 10YR4/2 | 灰黄褐色土層 | 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。締まりやや硬緻、粘性ややあり。 |
| 2. 10YR3/1 | 黒褐色土層 | 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。締まりやや硬緻、粘性ややあり。 |
| 3. 10YR3/1 | 黒褐色土層 | 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)4%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。直径 2mm 以下のローム粒子少量混入。締まりやや硬緻、粘性弱い。 |

SP912

- | | | |
|------------|-------|--|
| 1. 10YR3/1 | 黒褐色土層 | 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。直径 2mm 前後のローム粒子 5% 混入。締まりやや硬緻、粘性ややあり。 |
| 2. 10YR3/2 | 黒褐色土層 | 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)2%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)2% 含む。締まりやや硬緻、粘性ややあり。 |
| 3. 10YR3/3 | 暗褐色土層 | 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。締まりやや硬緻、粘性ややあり。 |

SP913

- | | | |
|------------|-------|--|
| 1. 10YR3/1 | 黒褐色土層 | 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。直径 2mm 前後のローム粒子 5% 混入。締まりやや硬緻、粘性ややあり。 |
| 2. 10YR3/1 | 黒褐色土層 | 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)4%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。直径 2mm 以下のローム粒子少量混入。締まりやや硬緻、粘性ややあり。 |
| 3. 10YR2/3 | 黒褐色土層 | 暗褐色土 (10YR4/3) 斑状に 30% 含む。直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。締まりやや硬緻、粘性あり。 |

SP914

- | | | |
|------------|-------|---|
| 1. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)7%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)7% 含む。締まり硬緻、粘性弱い。 |
| 2. 10YR2/1 | 黒色土層 | 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)6%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)7% 含む。直径 10mm 前後のロームブロック 10% 含む。締まり硬緻、粘性やや弱い。 |
| 3. 10YR2/2 | 黒褐色土層 | 直径 2mm 前後の黄橙色スコリア (10YR8/8)1%、直径 2mm 以下の橙色スコリア 7.5YR6/8)2% 含む。締まりやや硬緻、粘性ややあり。 |
| 4. 10YR3/3 | 暗褐色土層 | 暗褐色土 (10YR4/4)10% 斑状に含む。直径 3mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 2mm 前後のローム粒子やや多量に混入。締まりやや硬緻、粘性あり。 |

第 341 図 掘立柱建物跡 G SP910 ～ 914(1/60)



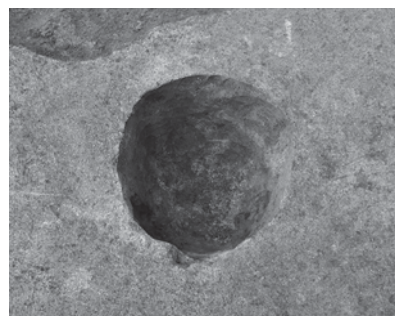
1. 掘立柱建物跡 G 全景 南南東から



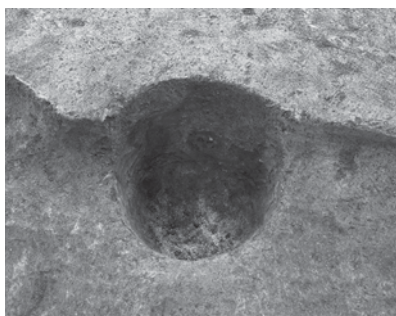
2. SP910 土層断面 東北東から



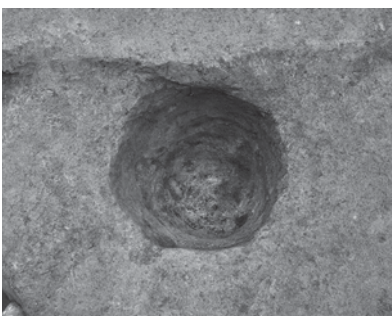
3. SP911 土層断面 東南東から



4. SP911 全景 南南東から



5. SP912 全景 北北東から



6. SP913 全景 南南東から



7. SP914 土層断面 西南西から

第 342 図 掘立柱建物跡 G 写真

3) 土坑 (第 343 ～ 354 図、第 54 ～ 56 表)

古代末～中世に帰属する土坑(遺構略号 SK)は、2-6 西区から 2-6 東区にかけて 31 基が検出された。平面形態別では、いわゆる「円形土坑」とされる円形の土坑の他、楕円形や小判形、隅丸長方形のもの等がある。

出土する遺物は土師器や須恵器、灰釉陶器等、古代の遺物が主体で、遺構との時期差があるものと思われる。特筆すべきは、SK191 から瓦が 2 点出土していることが挙げられる。

以下に各遺構の概略を示す。規模や形状等、全土坑に関する基本情報については第 56 表に記載した。SK190 (第 343・350 図、第 54・55 表)

円形土坑である。弥生時代終末期の SI60 の覆土上面で検出された。深さは 12cm と浅く、覆土は単一層で粒子が粗い。 (相原)

本遺構からは、総点数 16 点、総重量 278.3g の遺物が出土した。種別・器種ごとの内訳は、土師器(甕) 3 点 32.4g、須恵器 11 点 193.3g (坏 8 点 89.7g、甕 1 点 21g、長頸瓶 1 点 29.3g、瓶あるいは壺 1 点 53.3g)、灰釉陶器 1 点 6.5g、礫(被熱礫) 1 点 46.1g である。なお、灰釉陶器については、SI69 から出土した破片と接合した。これらのうち須恵器 1 点の図化を行った。

第 354 図 1 は須恵器坏の体下部から底部の破片、全体的に歪みが目立つ。底部調整は手持ちヘラケズリと考えられるが、判然としない。南多摩窯跡 G37 窯式に比定されよう。 (小西)

SK191 (第 343・350 図、第 54 ～ 56 表)

円形土坑である。北側を SD12、SP770・773 に切られる。底面は平坦で壁はやや開き気味に立ち上がり、深さは 20cm を測る。覆土は 3 層からなり、1 層には焼土粒子がわずかに含まれている。遺物が多く包含されており、瓦も 2 点出土した。 (相原)

本遺構からは、総点数 57 点、総重量 832.5g の遺物が出土した。種別・器種ごとの内訳は、土師器(甕) 23 点 74g、須恵器 25 点 188.9g (坏 18 点 78g、瓶あるいは壺 7 点 110.9g)、瓦(丸瓦) 2 点 191g、被熱礫 7 点 378.6g である。これらの中から 3 点を図化し、掲載した。

第 354 図 2 は須恵器瓶あるいは壺の頸部から胴部にかけての破片である。復元した図によると、頸部径が広いため、短頸壺のような器形と想定される。4・5 は丸瓦、凸面はヘラナデ、凹面には布目が認められる。いずれも須恵器のような硬質な焼成が特徴的で、重量感がある。4・5 と類似する瓦が遺物包含層からも出土している(第 328 図 95 ～ 97)。

なお、4・5 については、遺物包含層から出土した他の瓦とともに EDX による元素分析を実施し、その内容を第 VI 章第 3 節に掲載した。 (小西)

SK192 (第 344・350 図、第 54 表)

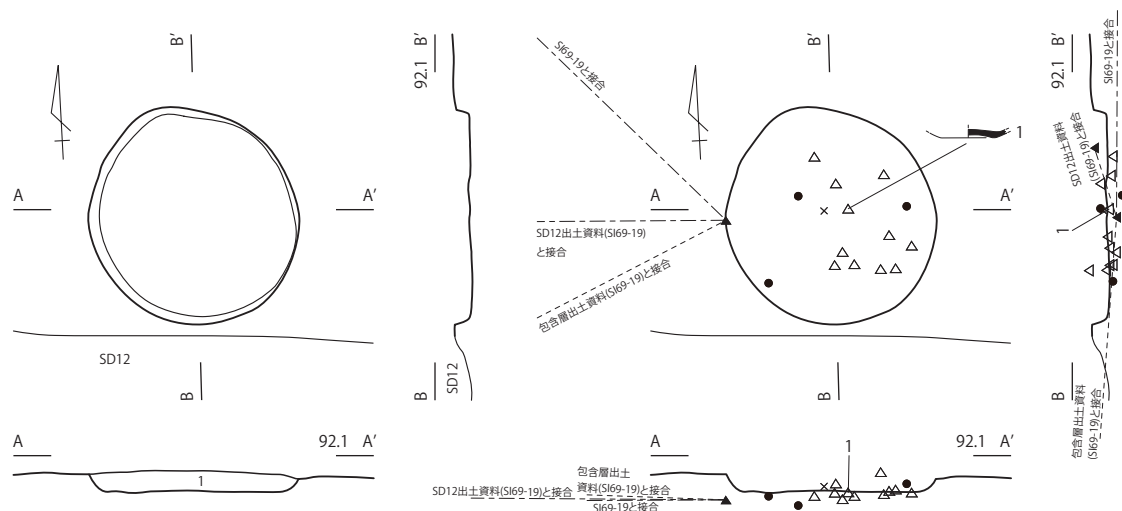
円形土坑と思われるが、上部の削平が激しい。検出範囲内での長軸は 92cm、検出面からの深さは 11cm を測り、底面はやや凹凸があり、壁は内湾気味に立ち上がる。覆土は 2 層に分けられ、1 層は粒子が粗い。

遺物は、土師器甕胴部、口縁部の破片 5 点、須恵器坏の破片 2 点他が出土した。

SK193 (第 344・350 図、第 54 表)

やや歪な円形を呈する土坑で、南側の一部は日野市調査範囲に及んでいる。深さはわずか 8cm で、底面は細かな凹凸を有する。検出された覆土は 1 層で、黒色スコリアを多く含んでおり粗い。

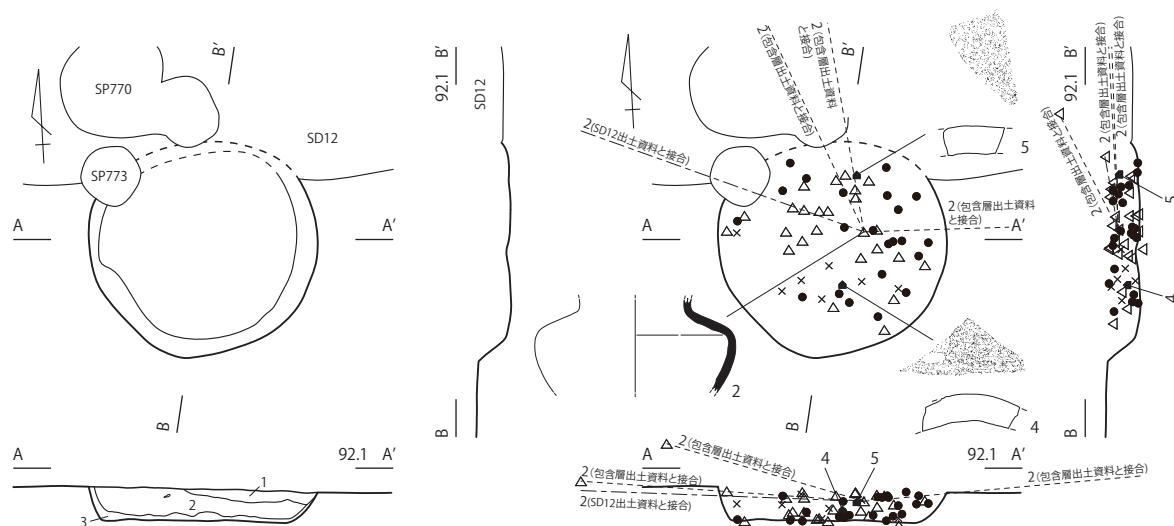
SK190



SK190

1. 10YR2.5/1 黒～黒褐色土層 直径1mmの明褐色スコリア(7.5YR5/6)5%、直径5mm以下の赤褐色スコリア(10YR4/8)5%、直径3mm以下の黒色スコリア10%、直径2～5mmの黒褐色土ブロック(10YR2/2)5%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。

SK191



SK191

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下の褐色スコリア(10YR4/6)3%、直径2mm以下の赤褐色スコリア(10YR4/8)2%、直径3mm以下の焼土粒子1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
 2. 2.5Y2/1 黒色土層 直径2mm以下の褐色スコリア(10YR4/6)3%、直径3mm以下の赤褐色スコリア(10YR4/8)2%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
 3. 10YR2/2 黒褐色土層 III2層・ブロック主体。直径1mmの明赤褐色スコリア(2.5YR5/6)2%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。

- 土師器
 △ 須恵器
 ▲ 灰釉陶器
 ■ 瓦
 × 礫
- 遺構間接合
 - - - 包含層遺物と接合

0 2m

第 343 図 SK190・191(1/40)

SK194 (第 344・350 図、第 54 表)

小判形を呈する土坑である。西側は SI58 の掘削時に湮滅してしまったが、覆土に SI58 に由来すると思われる焼土を含んでいることかが、SI58 より新しい土坑と判断した。短軸の断面は U 字状を呈し、底面は凹凸がある。

SK199 (第 344・350 図、第 54 表)

やや小型の円形土坑である。SI65 の覆土上面にあり、半截時、SI65 の覆土である SK199 の底面を掘り過ぎてしまった。底面東寄りに小ピットを有している。遺物は土師器 4 点、須恵器 2 点が出土した。

SK201 (第 344・350 図、第 54 表)

円形土坑だが、調査区東西ベルト上に位置しており、検出時には北側部分は包含層掘削により湮滅していた。やや小型だが、深さは 24cm を確認した。覆土は 3 層に分けられ、1 層はスコリアが多くて粗く、3 層はやや砂質であった。

SK202 (第 345・350 図、第 54 表)

小判形を呈する小型の土坑である。短軸の断面は U 字状を呈し、底面には段差があって北側が深い。覆土は顆粒状を呈しており極めて粗い。土師器の小片が 2 点出土した。

SK203 (第 345・351 図、第 54 表)

楕円形を呈する。南東部分を近世以降の SDK1334 に切られている。深さは浅く 16cm である。覆土は単層で、黒色スコリアを多く含む砂質の黒色土層である。遺物は土師器坏の小片と礫が 1 点ずつ出土した。

SK204 (第 345・351 図、第 54 表)

細長い楕円形を呈する土坑で、南東側の一部を SP681 に切られている。底面は、長軸断面で見ると中央付近が盛り上がっている。壁は開いて立ち上がる。遺物は、土師器が 1 点出土した。

SK205 (第 345・351 図、第 54 表)

南側の一部が攪乱に切られているが、隅丸長方形を呈すると思われる。底面はやや凹凸が目立ち、壁は開き気味に立ち上がっている。覆土は 2 層に分けられ、1 層は黒色スコリアを多く含んでいる。

SK206 (第 345・351 図、第 54 表)

楕円形を呈する土坑である。SP726 と重複しており、SK206 は SP726 より古いとみられる。底面は凹凸があり、壁は開きながら立ち上がる。覆土は 2 層に分層した。1 層は黒色スコリアを多く含む。遺物は土師器甕の小片 2 点と縄文土器 1 点が出土した。

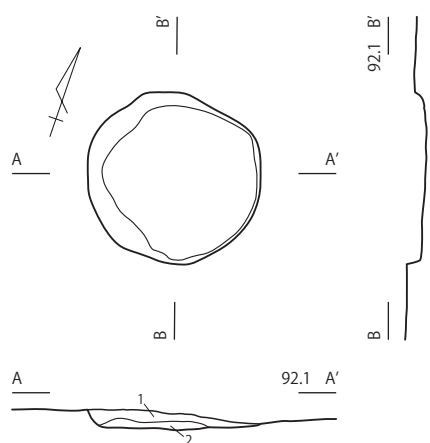
SK207 (第 346・351 図、第 54 表)

古代の竪穴建物跡 SI63 の覆土上面で検出された土坑で、北側には中世の溝 SD12 が隣接する。隅丸長方形を呈し、長軸 170cm、短軸 88cm、深さ 28cm を測る。底面は比較的平坦で、壁は、南北は直立し、東西は内湾気味に立ち上がっている。

覆土は 3 層に分けられた。上層の 1 層は、黒色スコリアや焼土粒子を少量含む黒色土、続く 2 層は、含有物の少ない黒褐色土層で、1・2 層ともやや砂質である。下層の 3 層は炭化物粒子をわずかに含む黒色土で、締まりは強く、硬化面を形成している。

遺物は、土師器と須恵器が各 1 点出土した。

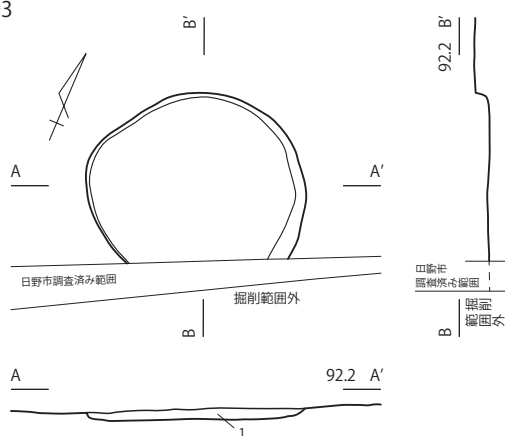
SK192



SK192

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm のローム粒子 (10YR5/8)3%、直径 12mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)7%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ層土由来土層。直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)1%、直径 1mm の明黄褐色スコリア (10YR6/8)5%、直径 1mm の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。

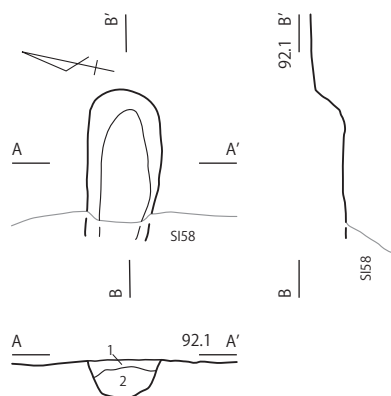
SK193



SK193

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の明褐色スコリア (7.5YR5/6)7%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/8)3%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 10% 含む。粘性あまりなし、締まりあまりなし、粒子粗い。

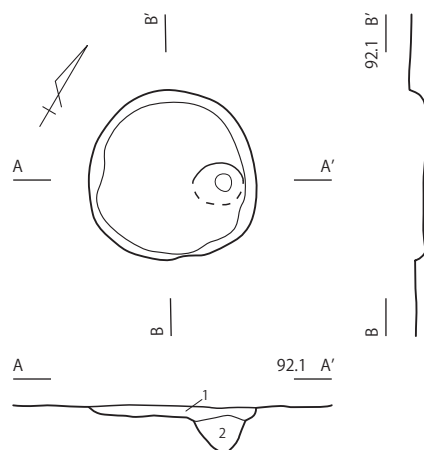
SK194



SK194

1. 7.5YR2/1 黒色土層 直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/6)3%、直径 5mm 以下の焼土粒子 2%、直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)5% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子極めて粗い。
2. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)3%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/6)1% 含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。

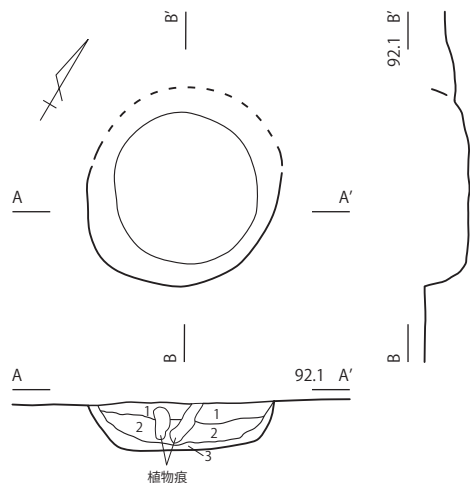
SK199



SK199

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)7%、直径 3mm 以下の黒色スコリア (10YR2/1)5%、直径 5mm 以下の黒色土粒子 (10YR1.7/1)5%、直径 1mm の赤褐色スコリア (2.5YR4/8)2% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
2. 7.5YR2/1 黒色土層 Ⅲ層土由来土層。直径 5mm 以下の黒褐色土粒子 5%、直径 1mm の黄褐色スコリア (2.5Y5/6)2% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや密。

SK201



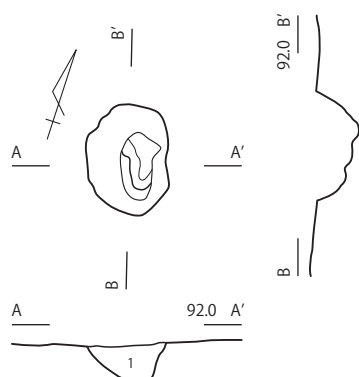
SK201

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)3%、直径 1mm の明黄褐色スコリア (2.5Y6/6)2%、直径 1mm の黒褐色スコリア 5% 含む。粘性あまりなし、締まりややあり、粒子やや粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の赤褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径 1mm の明黄褐色スコリア (2.5Y6/6)1%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 3% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや密。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm のローム粒子 (10YR5/6)2%、直径 3mm 以下の明褐色スコリア (7.5YR5/8)3%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 2% 含む。やや砂質土層。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや密。



第 344 図 SK192 ~ 194・199・201(1/40)

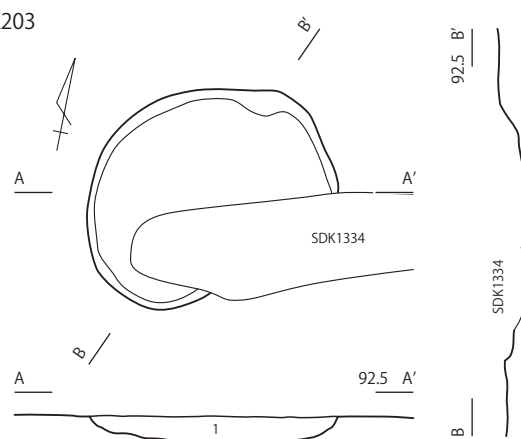
SK202



SK202

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径5mm以下の黒色土(10YR2/2)粒子20%、直径3mm以下のローム粒子(10YR5/6)5%含む。粘性なし、締まりなし、粒子極めて粗い。

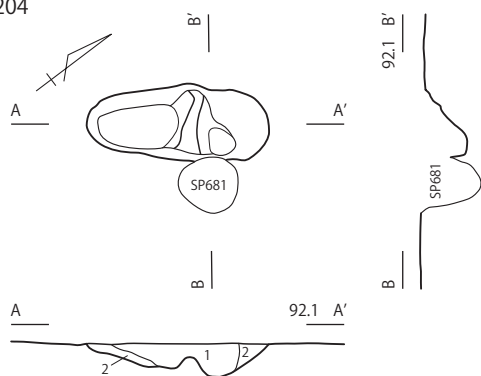
SK203



SK203

1. 2.5Y2/1 黒色土層 やや砂質土層。直径2mm以下の黒色スコリア10%、直径2mm以下のローム粒子(7.5YR5/8)7%、直径10mm以下の焼土粒子(2.5YR5/8)1%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや粗い。

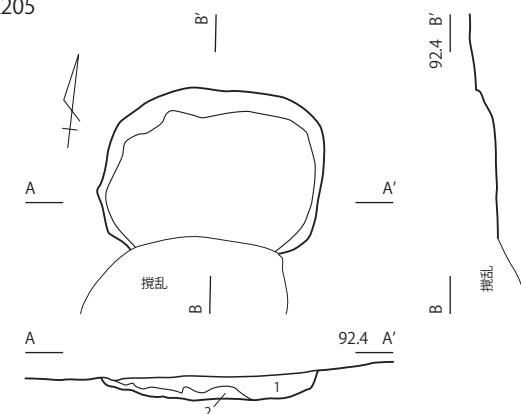
SK204



SK204

1. 10YR2/1 黒色土層 直径1mmのローム粒子(10YR5/6)3%、直径1mmの赤褐色スコリア(5YR4/8)1%、直径2mm以下の黒褐色スコリア5%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mmのローム粒子(10YR5/6)5%、直径1mmの赤褐色スコリア(5YR4/8)1%含む。粘性ややあり、締まり強、粒子やや密。

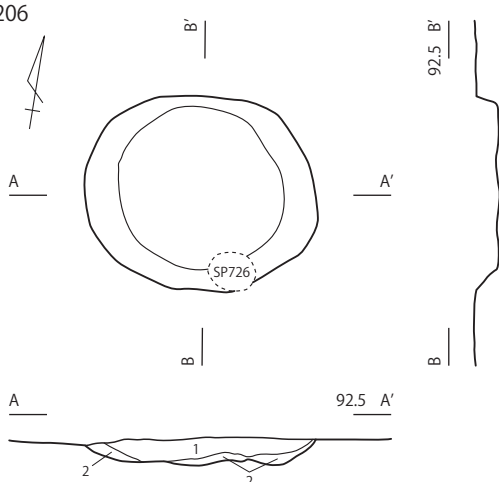
SK205



SK205

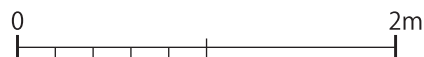
1. 2.5Y3/2 黒褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア(2.5Y5/4)7%、直径2mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/2)3%、直径7mm以下の黒色スコリア10%含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子粗い。
2. 2.5Y2/1 黒色土層 Ⅰ層とⅢ2層の混合土。直径2mm以下の黄褐色スコリア(2.5Y5/4)3%、直径1mmの赤褐色スコリア(5YR4/2)1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。

SK206



SK206

1. 2.5Y3/2 黒褐色土層 直径3mm以下のローム粒子(7.5YR5/8)10%、直径3mm以下の黒色スコリア10%、直径2mm以下の橙色スコリア(10Y4/8)2%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや密。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 Ⅲ2層土主体。直径3mmローム粒子(10YR5/6)5%、直径2mm以下の黒色スコリア3%、直径1mm以下の橙色スコリア(10Y4/8)1%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。



第 345 図 SK202 ～ 206(1/40)

SK209 (第 346・351 図、第 54 表)

SD13 に西側の大半を切られているが、本来は楕円形を呈していたものと推定される。底面は凹凸が目立ち、壁は開いて立ち上がる。覆土は、粒子のやや粗い黒褐色土である。遺物は出土していない。

SK211 (第 346・351 図、第 54 表)

検出時はピット (SP693) としていたが、後に土坑に種別を変更した。また、古代の SI58 の掘削が進んだ後に当ピットを調査しているが、遺物と焼土粒子の含有量から、本来は SI58 よりも新しい遺構であったと判断した。

残存部は楕円形を呈する。底面は段差を有し、西側が低くなっている。壁は内湾気味に立ち上がる。覆土は 3 層に分けられた。1 層は焼土粒子を多く含んでおり、SI58 由来の土層と推定される。2・3 層も焼土を少量含み、3 層はⅢ2 層土を主体とする。

遺物は、本来 SI58 に帰属していたと思われる土師器甕の小片 5 点他が出土した。

SK219 (第 329・352 図、第 54 表)

縄文時代の集石 SS15 調査時に検出された土坑である。西側に攪乱があり、全体の平面形態は不明だが、残存部は不整楕円形を呈する。覆土は 3 層に分けられた。礫が 3 点出土した。

SK222 (第 346・352 図、第 54 表)

SI60 の覆土上面で検出された。南半分は SD12 に切られており、かろうじて底面が残っている状態であった。平面形態は楕円形で、深さは 9cm を測る。覆土は単層で、黒色土に焼土粒子をわずかに含む。

SK226 (第 346・352 図、第 54 表)

2-6 東区の北東部で検出された土坑である。南側の大部分が近世以降の SKK1347 に切られており、形状は残存部からの推定では不整楕円形である。覆土は 2 層に分けられ、特に 1 層はスコリアを多く含んでいる。

SK231 (第 347・352 図、第 54 表)

2-6 西区で検出された、歪な楕円形を呈する小型の土坑である。底面には段差があり、西側が一段深くなっている。壁は開き気味に立ち上がる。覆土は 2 層からなり、いずれも黒色土で、また締まりがなく砂質である。

SK232 (第 347・352 図、第 54 表)

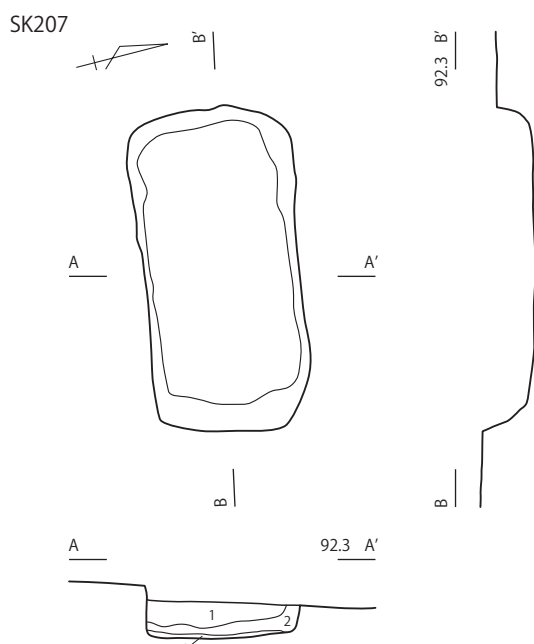
2-6 東区の東部で検出された円形土坑である。古代の SI68 の南壁を切って構築されており、底面のが SI68 の覆土であることから、検出が困難であった。また、東側の上部は SKK1353 に切られている。

壁は概ね垂直に立ち上がる。覆土は 4 層に分けられ、最下層の 4 層は炭化物粒子を少量含むほか、上部の硬化が顕著であった点が特筆される。

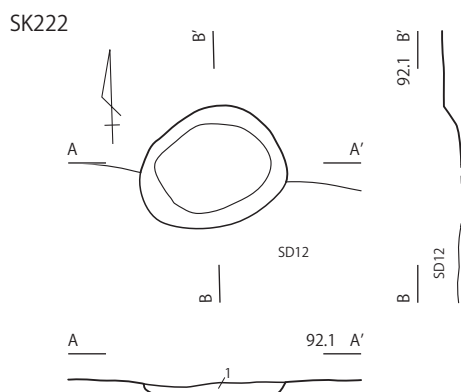
遺物は、土師器甕・坏 10 点、須恵器坏 2 点等が出土した。いずれも破片だが、本来は SI68 に帰属していたと思われる。

SK233 (第 347・352 図、第 54 表)

隅丸長方形を呈する土坑である。規模は長軸 117cm、短軸 75cm、深さ 19cm を測り、長軸はほぼ南北方向を指している。底面は比較的平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。覆土は黒褐色土の単一層である。遺物は焼礫 1 点のみである。

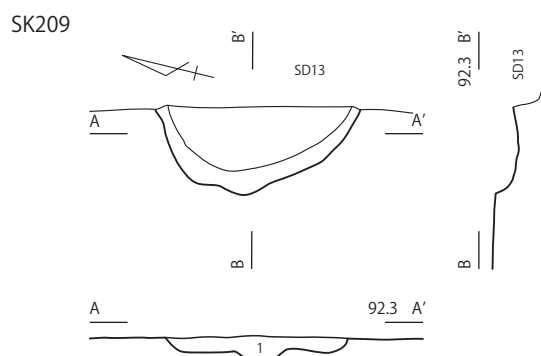


- SK207
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径1mmの赤褐色スコリア (2.5YR4/8)1%、直径2mm以下のローム粒子 (7.5YR5/6)3%、直径5mm以下の焼土粒子 (5YR5/6)1%、直径3mm以下の黒色スコリア 3% 含む。粘性あまりなし、締まりややあり、粒子やや粗い。やや砂質土層。
 2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mmの赤褐色スコリア (2.5YR4/8)1%、直径1mm以下のローム粒子 2% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや密。やや砂質土層。
 3. 10YR2/1 黒色土層 硬化面。直径1mmのローム粒子 1%、直径5mm以下の炭化物粒子 1% 含む。粘性あり、締まり強、粒子密。

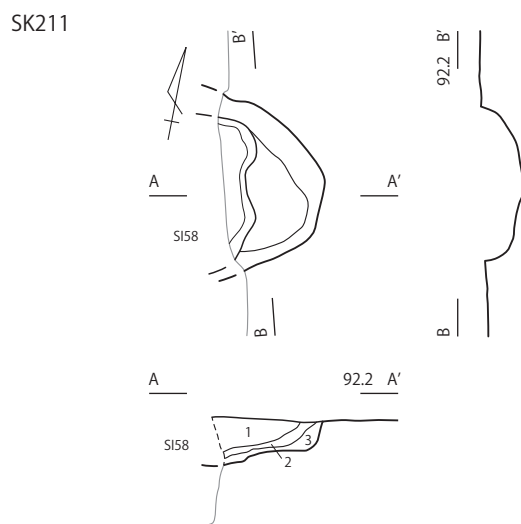


- SK222
1. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR5/6)7%、直径1mmの明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径3mm以下の焼土粒子 1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。

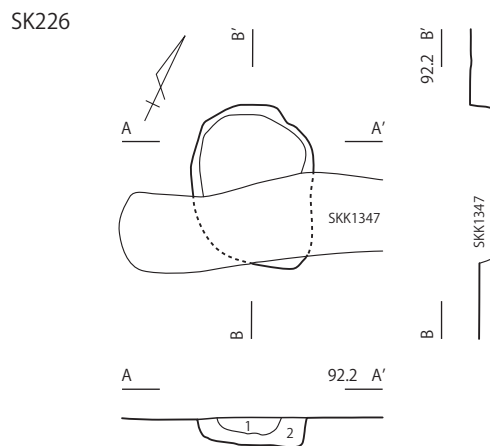
- SK226
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)1%、直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)10% 含む。締まりやや硬緻、粘性ややあり。
 2. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3%、直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)5% 含む。締まりやや硬緻、粘性ややあり。



- SK209
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下のローム粒子 3%、直径1mmの赤褐色スコリア (2.5YR4/6)2%、直径2mm以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。



- SK211
1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径5mm以下の焼土粒子 10%、直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR5/6)5%、直径3mm以下の黒色スコリア 1% 含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや粗い。SI58の覆土由来土層。
 2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の焼土粒子 3%、直径1mm以下の黄褐色スコリア (10YR5/6)2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
 3. 10YR2/2 黒褐色土層 III2層土主体。直径3mm以下の焼土粒子 3%、直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR5/6)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。



第 346 図 SK207・209・211・222・226(1/40)

SK234 (第 347・352 図、第 54 表)

楕円形を呈すると思われる土坑である。北西部は SKK1362 によって切られて湮滅し、南西部の上端は SKK1363 に切られている。底面は比較的平坦で、中央部がやや窪んでいる。壁は内湾気味に立ち上がる。覆土は単層で、スコリアを多く含んでいる。

遺物は、土師器甕の小片が 1 点出土した。

SK235 (第 347・352 図、第 54 表)

隅丸長方形を呈する土坑で、規模は長軸 145cm、短軸 85cm、深さ 43cm を測る。底面は平坦で、壁は、東西は開き気味に、南北は垂直気味に立ち上がる。覆土は黒褐色で、スコリアやロームのブロック・粒子を多く含んでいる。遺物は土師器 2 点、須恵器 2 点等が出土した。

SK236 (第 348・353 図、第 54 表)

2-6 西区で検出された円形土坑で、北西部の上端を攪乱に切られている。底面は比較的平坦で、壁は垂直気味に立ち上がるが、西壁や南壁の下部の一部がオーバーハングしている。覆土は 2 層からなり、上層の 1 層は全体的に顆粒状を呈している。

遺物は、土師器 3 点、須恵器 2 点等が出土した。

SK240 (第 348・353 図、第 54 表)

楕円形を呈する土坑である。底面は、凹凸は少ないが、南東部がやや低くなっている。壁は内湾して立ち上がる。覆土は 2 層に分けられ、いずれも黒色スコリアをやや多く含んでいる他、1 層には焼土や炭化物の粒子が微量含まれている。

遺物は土師器 5 点、須恵器 2 点等が出土した。

SK241 (第 348・353 図、第 54 表)

楕円形を呈する土坑で、底面は中央がややレンズ状に窪んでいる。壁は内湾しながら立ち上がる。覆土は 2 層に分層され、1 層は黒褐色スコリアを多く含み、また炭化物の小片も微量に含む。遺物は土師器 3 点、須恵器 1 点他が出土した。

SK242 (第 348・353 図、第 54 表)

北側の一部が SKK1050 に切られるが、隅丸方形を呈していたと思われる。底面は凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は 2 層に分けられ、いずれもスコリアを多く含み、特に 1 層は締まりが非常に弱い。

(相原)

本遺構から出土したのは須恵器甕 1 点 52.8g のみで、それを第 354 図に掲載した。3 は甕胴部破片で、外面には平行叩きが認められる。

(小西)

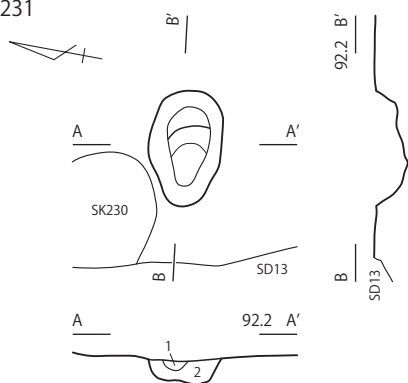
SK245 (第 349・353 図、第 54 表)

2-6 西区で検出された円形の土坑である。検出面からの深さは 18cm で浅い。底面はレンズ状に窪み、そのまま壁を経て検出面に至る。覆土は 2 層からなり、そのうち 1 層の粒子は粗い。遺物は出土していない。

SK249 (第 349・353 図、第 54 表)

2-6 東区で検出された、やや歪な卵形を呈する土坑である。底面は比較的平坦で、壁は、東西は垂直気味に、南北壁は内湾気味に立ち上がる。覆土は 4 層に分けられ、1・2 層に黒褐色スコリアを多く含む他、1 層には粘土粒子やブロックも含んでいる。遺物は出土しなかった。

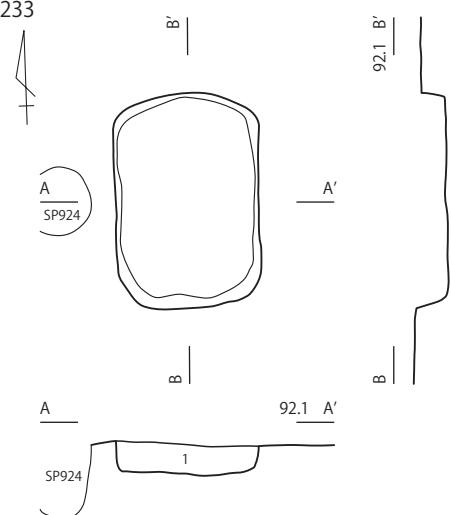
SK231



SK231

1. 10YR2/1 黒色土層 直径1mm以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)5%、直径3mm以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径5mm以下の褐色スコリア (10YR4/4)5% 含む。粘性なし、締まりなし、粒子極めて粗い。砂質土層。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径1mm以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3% 含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子粗い。やや砂質土層。

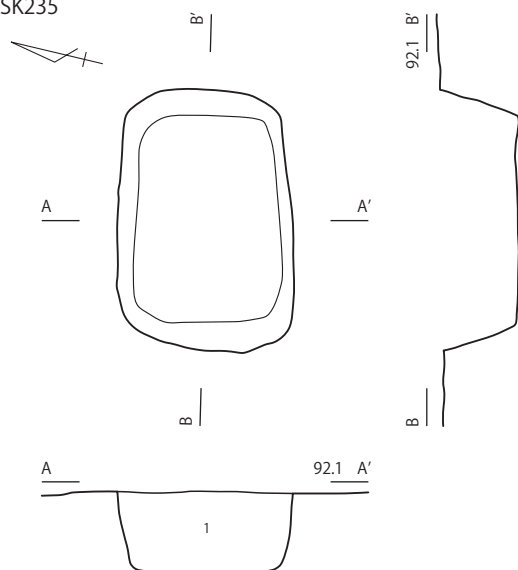
SK233



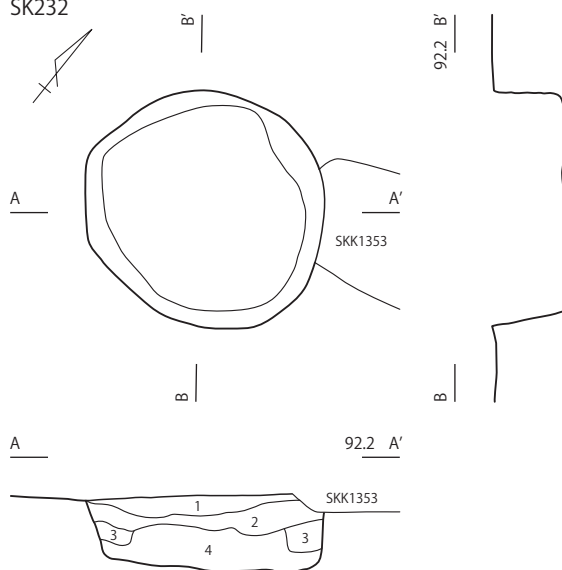
SK233

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径3mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。締まりやや硬緻、粘性やや弱い。

SK235



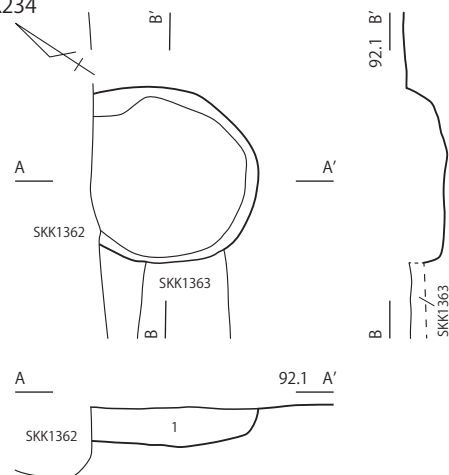
SK232



SK232

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径3mm以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径3mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)7% 含む。締まりやや硬緻、粘性ややあり。
2. 10YR3/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径3mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5%、直径2mm以下のローム粒子3% 含む。直径5mmのロームブロック偏在。締まりやや硬緻、粘性ややあり。
3. 10YR3/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5%、直径2mm以下のローム粒子5% 含む。直径5mmのロームブロック偏在。締まりやや硬緻、粘性ややあり。
4. 10YR3/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)7%、直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5%、直径2mm以下のローム粒子5%、直径2mm以下の炭化物粒子3% 含む。直径5mmのロームブロック偏在。層の上部を中心に締まり硬緻、粘性やや弱い。

SK234



SK234

1. 10YR2/3 黒褐色土層 直径2mm以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)10%、直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)8% 含む。締まり硬緻、粘性やや弱い。

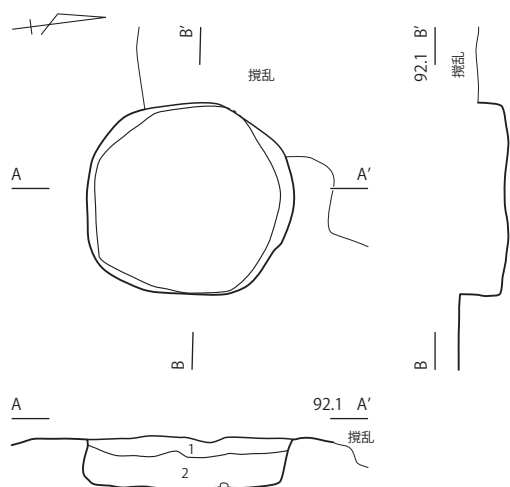
SK235

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)10%、直径3mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)10% 含む。層の上部を中心に、直径20mm以下のロームブロック、直径3mm以下のローム粒子やや多量に混入。締まりやや硬緻、粘性やや弱い。



第 347 図 SK231 ～ 235(1/40)

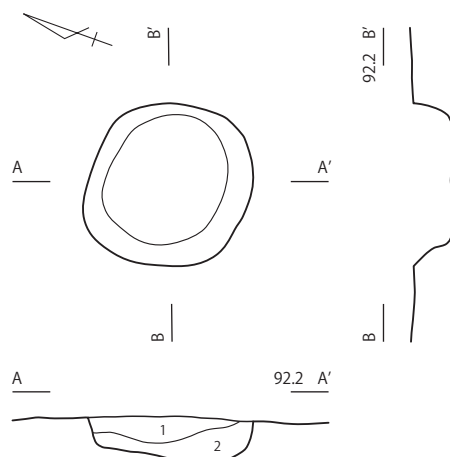
SK236



SK236

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下のローム粒子を 3% 含む。全体にやや果粒状を呈する。粘性なし。締まりあり。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm のローム粒子を微量含む。粘性なし。締まりややあり。

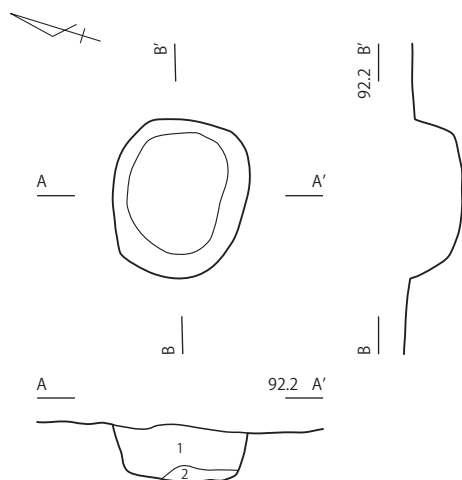
SK240



SK240

1. 10YR2/1 ~ 2/2 黒~黒褐色土層 II 層主体。全体的にスコリア質。直径 1 ~ 3mm の黒褐色スコリアを 7%、直径 1mm 程の橙色スコリアを 5% 含む。直径 3 ~ 5mm の炭化物が 2%、焼土粒子が 1% 混在する。粘性が弱く、締まりは非常に弱い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 II 層主体で全体的に III 1 層が混在する。直径 3mm 前後の黒褐色スコリアを 5%、直径 1 ~ 3mm の橙色スコリアを 2% 含む。粘性がやや弱く、締まりは弱い。

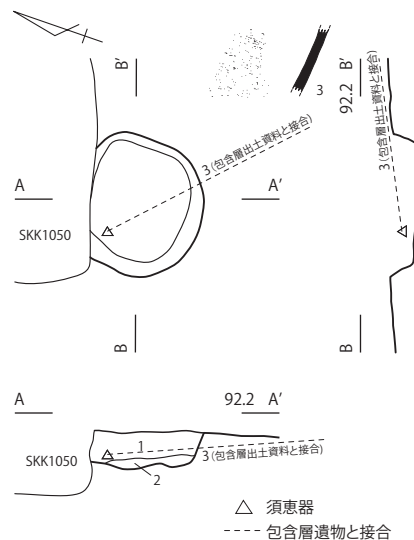
SK241



SK241

1. 10YR2/1 黒色土層 II 層主体。全体的にスコリア質。直径 1 ~ 3mm の黒褐色スコリアを 10%、直径 3mm 前後の橙色スコリアを 7% 含む。直径 5mm 前後の炭化物が 1% 混在する。粘性、締まりは弱い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 III 2 層暗褐色土主体で 1 層が斑状に混在する。直径 1mm 前後の橙色スコリアを 5% 含む。粘性がやや弱く、締まりは弱い。

SK242



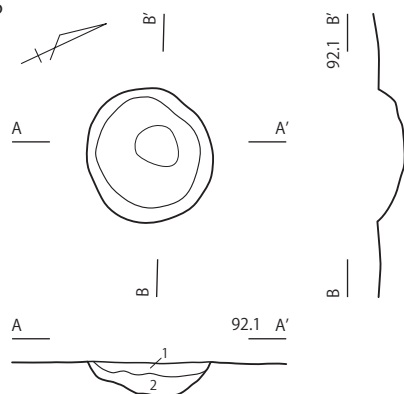
SK242

1. 10YR2/1 ~ 2/2 黒~黒褐色土層 II 層主体。直径 1 ~ 3mm の黒褐色スコリアや橙色スコリアを各 7% 含む。粘性が弱く、締まりは非常に弱い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 II 層主体で、全体的に III 1 層が混在する。直径 3mm 前後の黒褐色スコリアを 5%、直径 1 ~ 3mm の橙色スコリアを 2% 含む。粘性がやや弱く、締まりは弱い。



第 348 図 SK236・240 ~ 242(1/40)

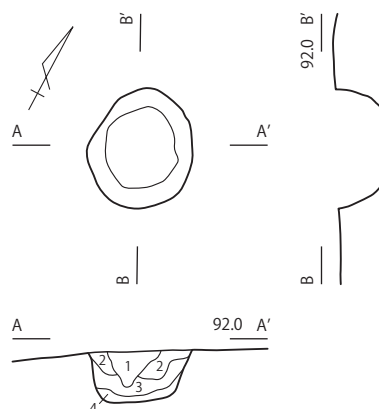
SK245



SK245

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 5mm 以下のロームブロック (10YR4/4)7%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)3%、直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/4)2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下のロームブロック (10YR4/4)3%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1%、直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/4)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。

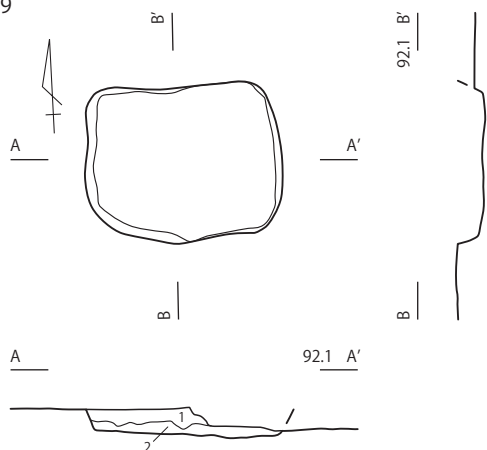
SK249



SK249

1. 10YR2/2 黒褐色土層 黒褐色土 (II層由来) を主体とし、部分的にIII層がブロック状に混在する。直径 3mm 前後の黒褐色スコリアを 15%、粘土粒子・ブロックを 7%、直径 1～3mm の橙色スコリアを 5% 含む。粘性、締まり弱い。
2. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 3mm 前後の黒褐色スコリアを 10%、直径 1～3mm の橙色スコリアを 7% 含む。粘性、締まり弱い。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 III層主体とし、全体的に 2層が斑状に混在する。直径 1～3mm の橙色スコリアを 5% 含む。粘性、締まり弱い。
4. 10YR2/3 黒褐色土層 III層主体。直径 1～3mm の橙色スコリアを 3% 含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。

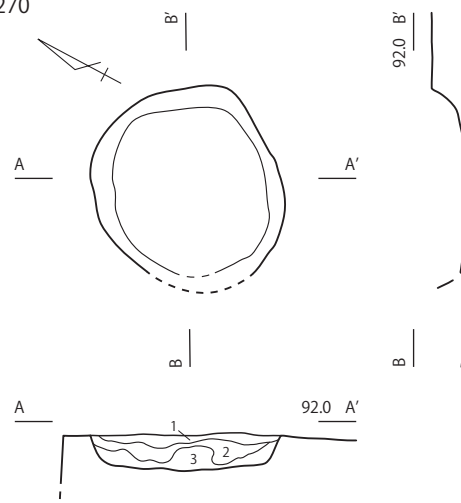
SK269



SK269

1. 10YR2/2 黒褐色土層 II層主体。スコリア質。直径 1～3mm の橙色スコリアを 30%、直径 3mm 前後の黒褐色スコリアを 10%、直径 3～7mm の炭化物を 3% 含む。粘性、締まり弱い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 III層を主体とし、部分的に 1層が斑状に混在する。直径 1～3mm の橙色スコリアを 7%、焼土粒子を 3% 含む。粘性、締まり弱い。

SK270



SK270

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1～3mm の橙色スコリアを 25%、褐色土ブロック (III層由来) や焼土粒子を各 3%、ローム粒子・ブロックを 2% 含む。粘性、締まり弱い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 前後の黒褐色スコリアを 15%、直径 1mm 程の橙色スコリアを 5%、焼土粒子を 2% 含む。粘性が弱く、締まりは非常に弱い。
3. 10YR2/1 黒色土層 III層を主体とし、全体的に 2層が斑状に混在する。直径 1～3mm の黒褐色スコリアを 7%、直径 1mm 程の橙色スコリアを 5%、焼土粒子を 2% 含む。粘性が弱く、締まりは非常に弱い。



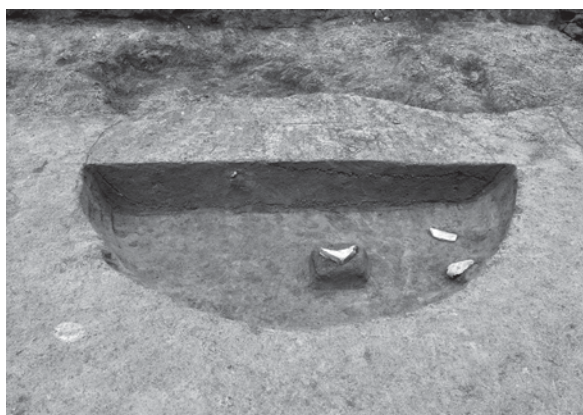
第 349 図 SK245・249・269・270(1/40)

SK269 (第 349・353 図、第 54 表)

やや歪な隅丸長方形を呈する。また、包含層掘削中に検出されたため、東側の上部が削平されている。底面は比較的平坦で、壁は垂直気味に直線的に立ち上がる。覆土は、II層を主体とする 1層とIII層を主体とする 2層からなり、1層はスコリアを非常に多く含む。遺物は土師器甕の破片 2点等が出土している。



1. SK190 全景 南から



2. SK191 土層断面 南から



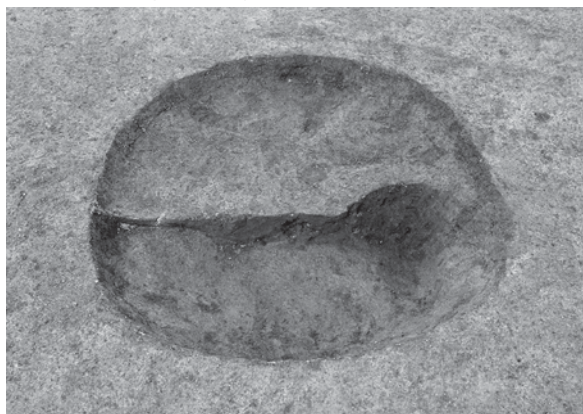
3. SK192 土層断面 北北東から



4. SK193 全景 北北西から



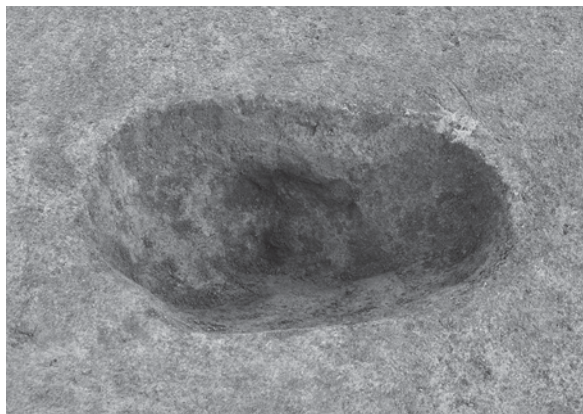
5. SK194 土層断面 東北東から



6. SK199 全景 南南東から



7. SK201 土層断面 南南西から



8. SK202 全景 西南西から

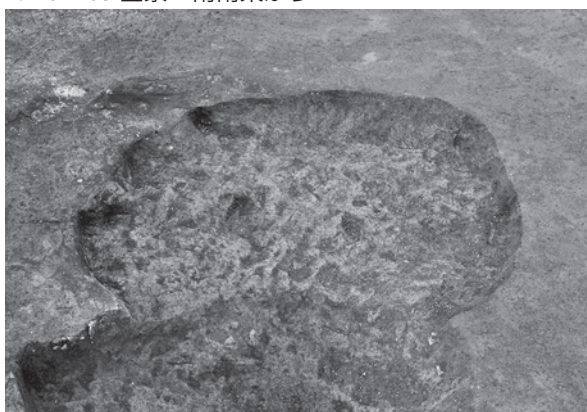
第 350 図 SK190～194・199・201・202 写真



1. SK203 全景 南南東から



2. SK204 土層断面 南東から



3. SK205 全景 南から



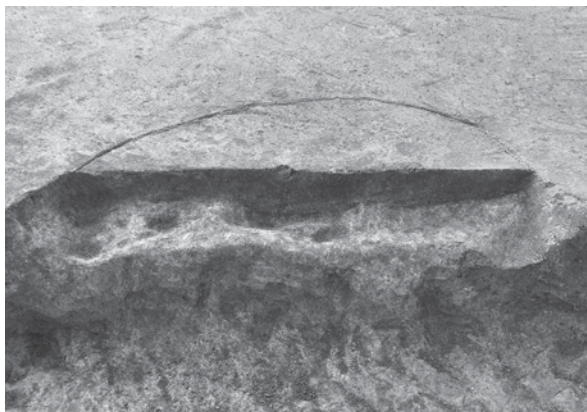
4. SK206 全景 南南東から



5. SK207 土層断面 東から



6. SK207 全景 南から



7. SK209 土層断面 東北東から



8. SK211 土層断面 南南東から

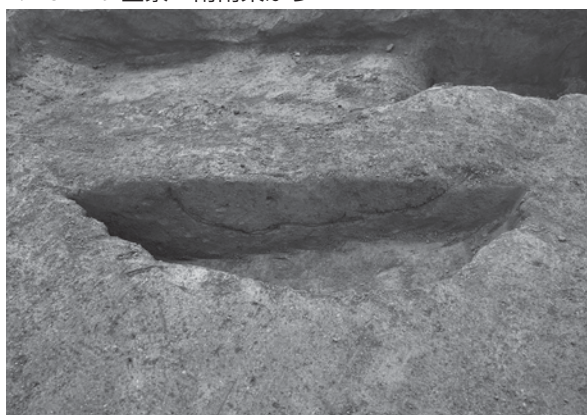
第 351 図 SK203 ～ 207 ・ 209 ・ 211 写真



1. SK219 全景 南南東から



2. SK222 全景 南から



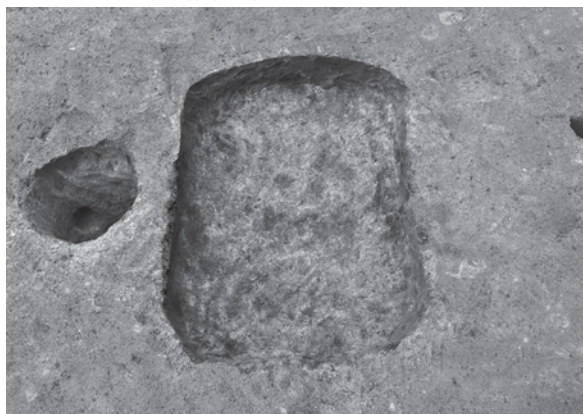
3. SK226 土層断面 北北西から



4. SK231 土層断面 東北東から



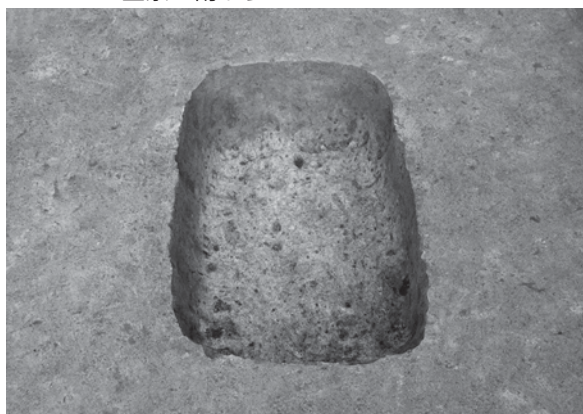
5. SK232 土層断面 南南東から



6. SK233 全景 南から



7. SK234 土層断面 南西から

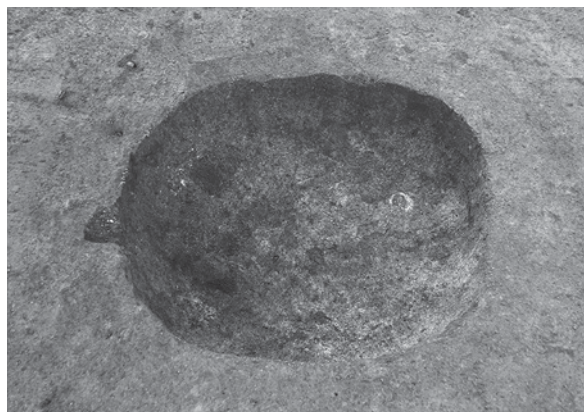


8. SK235 全景 西南西から

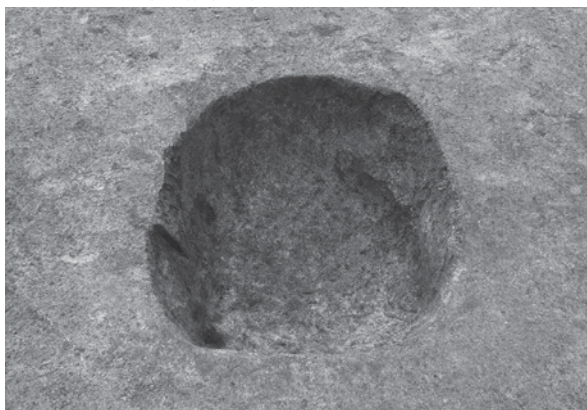
第 352 図 SK219・222・226・231～235 写真



1. SK236 土層断面 東から



2. SK240 全景 東北東から



3. SK241 全景 東北東から



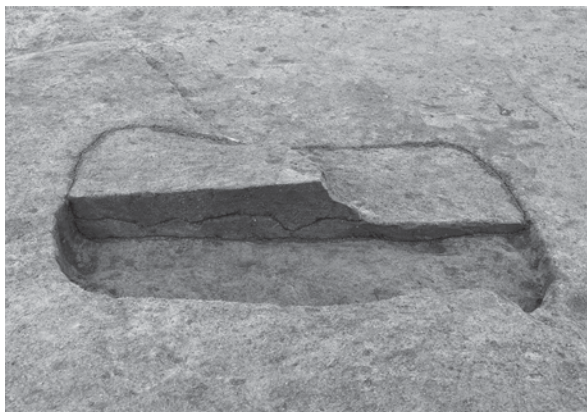
4. SK242 土層断面 東北東から



5. SK245 土層断面 南東から



6. SK249 土層断面 南南東から



7. SK269 土層断面 南南西から



8. SK270 土層断面 東北東から

第 353 図 SK236・240～242・245・249・269・270 写真

第 54 表 古代末～中世土坑一覧表

遺構名	グリッド	挿図番号		形態		規模 (cm)			検出面	遺物	備考 (重複関係等)
		図面	写真	平面	断面	長軸	短軸	深さ			
SK190	28Q-39	第 343 図	第 350 図	円形	C	119	111	12	SI60 覆土	土師器 3 点 32.4g、須恵器 11 点 193.3g、灰釉陶器 1 点 6.5g、焼礫 1 点 46.1g	SI60 を切る。
SK191	28Q-48・49	第 343 図	第 350 図	(円形)	C	(120)	(88)	20	Ⅲ2	土師器 23 点 74.0g、須恵 器 25 点 188.9g、瓦 2 点 191.0g、焼礫 7 点 378.6g	SD12、SP770・773 に切られる。
SK192	28Q-55・56	第 344 図	第 350 図	円形	C	92	88	11	Ⅲ2	土器 1 点 11.0g、 土師器 5 点 9.2g、 須恵器 2 点 19.5g	
SK193	28Q-48・58	第 344 図	第 350 図	(円形)	C	(116)	(88)	8	Ⅲ1	—	
SK194	28Q-46	第 344 図	第 350 図	(小判形)	A	(64)	(39)	21	Ⅱ3	—	SI58 を切る。
SK199	28Q-19	第 344 図	第 350 図	円形	E	90	89	26	SI65 覆土	土師器 4 点 3.2g、 須恵器 2 点 8.2g	SI65 を切る。
SK201	28Q-20	第 344 図	第 350 図	(円形)	C	(101)	(62)	24	Ⅱ3	—	
SK202	28Q-18	第 345 図	第 350 図	小判形	D	59	50	23	Ⅱ3	土師器 2 点 1.7g	
SK203	27Q-70・80・ 28-Q61・71	第 345 図	第 351 図	(楕円形)	C	(139)	(98)	16	Ⅲ2	土師器 1 点 2.5g、 礫 1 点 20.9g	SDK1334 に切られる。
SK204	28Q-29	第 345 図	第 351 図	楕円形	D	(96)	(37)	23	Ⅲ2	土師器 1 点 2.5g	SP681 に切られる。
SK205	28Q-61・71	第 345 図	第 351 図	(隅丸長方形)	C	(119)	(85)	16	Ⅲ2	—	攪乱に切られる。 東西ベルトにかかる。
SK206	27Q-70	第 345 図	第 351 図	楕円形	C	125	104	15	Ⅲ2	縄文土器 1 点 4.4g、 土師器 2 点 2.6g	SP726 に切られる。
SK207	28Q-45・46	第 346 図	第 351 図	隅丸長方形	C	170	88	28	SI63 覆土	土師器 1 点 3.5g、 須恵器 1 点 4.0g	SI63 を切る。
SK209	28Q-72	第 346 図	第 351 図	(楕円形)	C	(108)	(40)	14	Ⅲ2	—	SD13 に切られる。
SK211	28Q-46・47	第 346 図	第 351 図	(楕円形)	(D)	(94)	(40)	24	Ⅱ3	土器 1 点 5.2g、 土師器 5 点 7.8g	SI58 を切る。
SK219	28Q-73	第 329 図	第 352 図	不整楕円形	D	(90)	(86)	49	Ⅲ3	焼礫 3 点 412.7g	SS15 を切る。 攪乱に切られる。
SK222	28Q-39	第 346 図	第 352 図	楕円形	C	(77)	(38)	9	SI60 覆土	—	SI60 を切る。 SD12 に切られる。
SK226	29P-59・60	第 346 図	第 352 図	不整楕円形	C	(87)	(65)	(16)	Ⅲ1	—	SKK1347 に切られる。
SK231	28Q-52	第 347 図	第 352 図	楕円形	D	61	38	17	Ⅲ2	—	
SK232	29P-69	第 347 図	第 352 図	円形	C	(125)	(123)	43	Ⅲ2	土器 1 点 1.2g、土師器 10 点 32.0g、須恵器 2 点 8.3g、 焼礫 3 点 209.9g	SI68 を切る。 SKK1353 に切られる。
SK233	29P-79	第 347 図	第 352 図	隅丸長方形	C	117	75	19	Ⅲ2	焼礫 1 点 42.6g	
SK234	29P-70・80	第 347 図	第 352 図	(楕円形)	C	(107)	(43)	22	Ⅲ2	土師器 1 点 1.9g	SKK1362・1363 に 切られる。
SK235	29P-80	第 347 図	第 352 図	隅丸長方形	C	145	85	43	Ⅲ2	土器 2 点 6.1g、 土師器 2 点 7.9g、 須恵器 2 点 21.2g	
SK236	28Q-17	第 348 図	第 353 図	円形	C	(109)	(84)	28	Ⅲ1	土器 1 点 0.7g、土師器 3 点 16.7g、須恵器 2 点 7.7g、 焼礫 3 点 59.2g	攪乱に切られる。
SK240	29P-84・85	第 348 図	第 353 図	楕円形	C	94	84	24	Ⅲ1	土師器 5 点 21.1g、 須恵器 2 点 6.1g	
SK241	29P-84・94	第 348 図	第 353 図	楕円形	C	87	72	31	Ⅲ1	土器 1 点 8.4g、土師器 3 点 13.3g、須恵器 1 点 5.2g	
SK242	29P-73	第 348 図	第 353 図	(隅丸方形)	C	(72)	(65)	21	Ⅲ1	須恵器 1 点 52.8g	SKK1050 に切られる。
SK245	28Q-48・49	第 349 図	第 353 図	円形	A	71	67	18	Ⅲ2	—	
SK249	29P-87	第 349 図	第 353 図	卵形	C	63	55	28	Ⅲ2	—	
SK269	29Q-5	第 349 図	第 353 図	隅丸長方形	C	114	101	17	Ⅲ1	土器 1 点 2.3g、 土師器 2 点 11.1g	
SK270	29Q-13・14・ 23・24	第 349 図	第 353 図	(楕円形)	C	(105)	56	21	Ⅲ2	土師器 1 点 2.4g、 須恵器 1 点 4.5g	

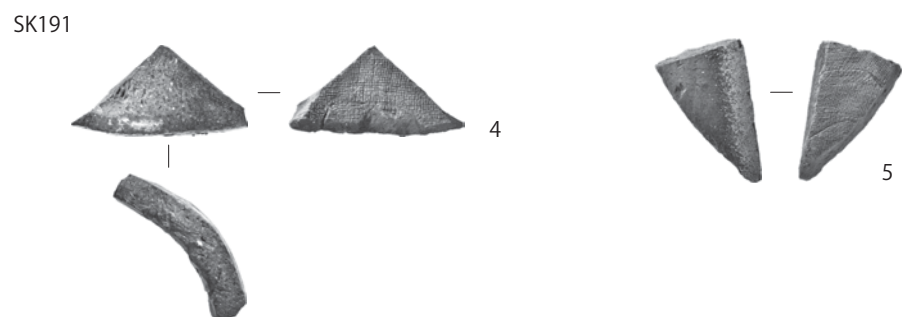
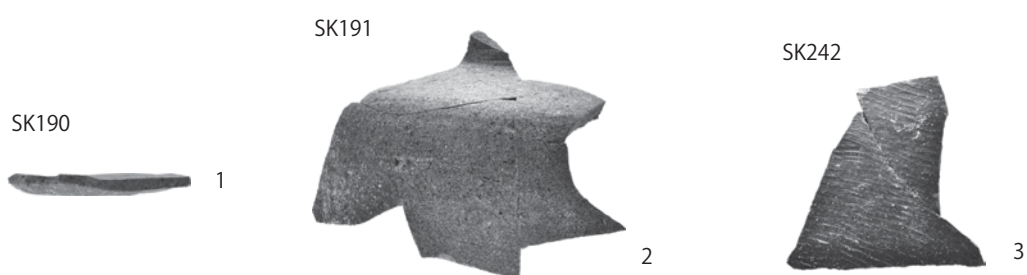
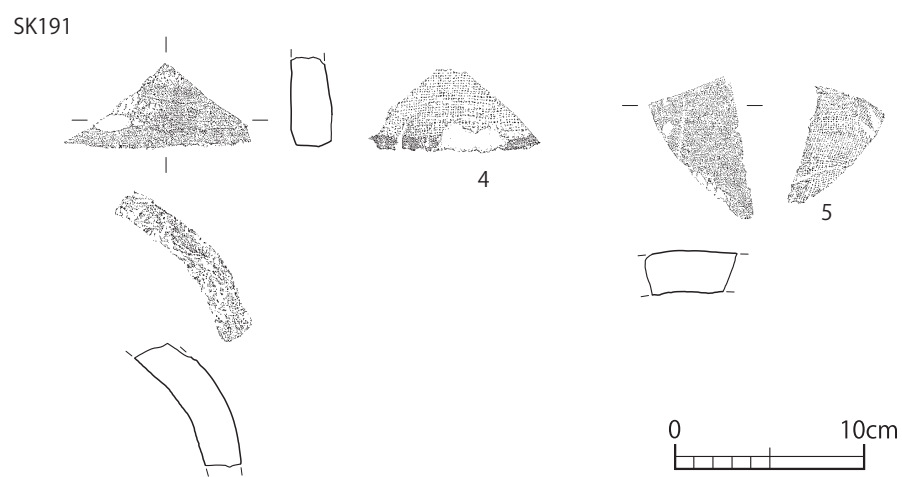
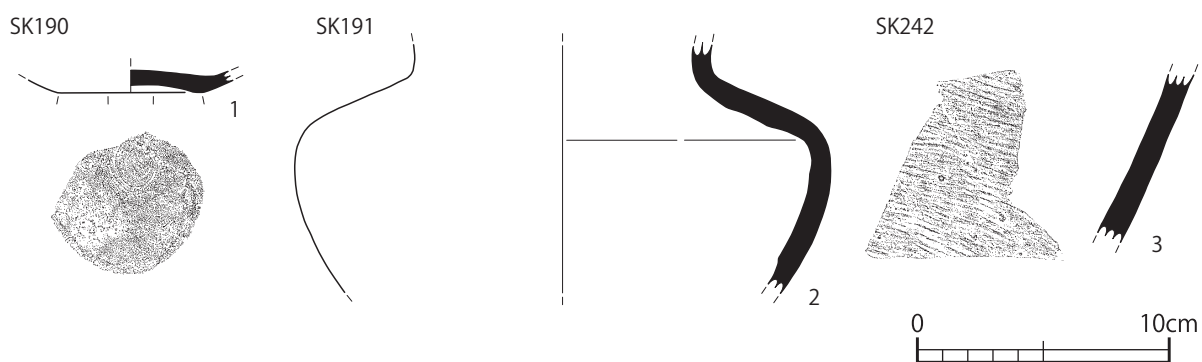
※ () 内は、遺存範囲内での数値・状況を示す。遺物欄で土器としたものは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器を指す。

SK270 (第 349・353 図、第 54 表)

平面形態は楕円形を呈する。2-6 東区の南西端で包含層のトレンチ掘削中に検出されたため、南西部の一部が湮滅している。底面は緩やかな凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は 3 層に分けられ、いずれも締まりは弱い。1・2 層はスコリアを多く含み、1～3 の各層に焼土粒子を少量含んでいる。

遺物は土師器甕、須恵器坏の小片各 1 点が出土した。

(相原)



第 354 図 SK190・191・242 出土遺物 (1/3・1/4)・写真

第 55 表 SK190・191・242 出土土器観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別 器種	法量	器形の特徴	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 354 図	1	SK190	須恵器 坏	(0.8) [5.7]	体部は底部から直線的に開く。	ロクロ成形。 底部は回転糸切り後、手持ちヘラケズリか。	砂粒	良好	N5.5/ 灰	底部 3/4	重量 40.9g 体～底部外面に自然釉。 南多摩窯
	2	SK191・ 28Q-28・ 38・49	須恵器 瓶 / 壺	(9.8) 胴部 最大径 [21.2]	肩が張る器形、短頸壺か。	ロクロ成形。	小礫、砂粒、 黒色粒子	良好	外面 5Y4/2 灰オリーブ 内面 2.5Y5/1 黄灰	頸～胴部 破片	重量 136.8g 胴部外面に降灰、 自然釉。 東金子窯
	3	SK242	須恵器 甕			外面は平行叩き。	砂粒	良好	外面 N3/ 暗灰 内面 N4/ 灰 断面 5YR4/3 に近い赤褐	胴部破片	重量 78.1g 東金子窯

第 56 表 SK191 出土瓦観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	種別	法量 cm	製作技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
第 354 図	4	SK191	丸瓦	幅 (9.3) 長さ (4.6) 厚さ 2.1	凸面は横位のヘラナデ、全面に自然釉。凹面は布目。広端面はヘラケズリ、凸面、凹面に面取り。	小礫、砂粒	良好	凸面 2.5Y5/2 暗灰黄 凹面 5Y4/1 灰	破片	重量 100.1g 東金子窯
	5	SK191	丸瓦	幅 (5.8) 長さ (7.8) 厚さ 2.2	凸面は横位のヘラナデ、一部に自然釉。凹面は布目。	砂粒、赤褐色粒子	良好	2.5Y4/1 黄灰	破片	重量 90.9g 東金子窯

4) ピット（第 355～371 図、第 57 表）

古代末～中世に帰属するものと判断して抽出したピットは 134 基を数える（掘立柱建物跡 G を構成する 5 基を除く）。遺構略号は SP である。

いずれも時期決定に耐えうる遺物の出土が少ないため、原則として、「円形土坑」に見られるような黒色・黒褐色スコリアを多く含む基本層序Ⅱ層の土壌をベースとする覆土を持つものを中心に抽出した。

分布は、2-6 東区の南部に分布が見られない範囲があるほかは、ある程度のまとまりを持ちつつも広範に検出された。なお、2-6 西区西端から 2-7 区東側にかけては、攪乱により湮滅したものもあると見られる。

以下、特徴的なピットについてのみ概略を記述し、全ピットの概要は第 57 表に示した。

SP642 検出面からの深さ 59cm を測るやや深いピットである。北側上部を SD12 に切られている。3 層の覆土のうち、上部の 2 層は粒子が粗い砂質土である。

SP660 5 層に分層される覆土のうち、1～3 層は柱痕跡と考えられる。

SP677 SD13 に切られる。検出された 2 層の覆土のうち、Ⅲ層土主体の 2 層は硬化が認められた。

SP688 SI62 の発掘調査中、同遺構の土層観察用のベルト上面で検出された。大部分は湮滅してしまっており全容は不明であるが、3 点の礫が積み重なるように置かれているのが確認できた。礫はいずれも砂岩である。礎石の可能性が考えられる。

SP708 深さ 68cm のやや深いピットで、2 層の覆土のうち下層にはローム粒子が偏在する。

SP734・735・736・739 南から順に SP734-739-736-735 の順に直線状に並ぶピット列。北側の 3 基は等間隔に並ぶが、南端の SP734 はやや開きがある。

SP738 SD12 に切られるピットで、北から南へ斜めに穿たれている。SD12 との関係性は不明である。

SP740・741・742 SI65 の覆土掘削中に検出された小ピット群であり、SI65 より新しい。

SP763 1・2 層は柱痕跡もしくは柱拔取り穴覆土、3 層は掘方充填土とみられる。

SP770 西側の浅い土坑状の掘り込みと、東側の深さ 65cm のピット状の部分で構成される。

SP773 SK191 を切るピットである。覆土は 3 層からなり、そのうち 1 層はローム主体である。

SP777 2 基のピットが切り合うような状況で検出された。大型の焼礫（砂岩）が 1 点出土した。

SP778 5 層からなる覆土は全般的に粒子が粗いが、柱痕跡とみられる 1・2 層が特に粗い。

SP902 SI66 の覆土で検出されたピットである。小型だが柱痕跡が確認できた。

SP917・918・919・942 西から SP942-919-918-918 の順に直線状に並ぶ。SFK1 内に位置し、SFK1 の底面からの深さは 42～62cm を測る。

SP924 円形を呈するピットである。同時代の SK233 に隣接している。須恵器甕の破片が 1 点出土した。

SP929 小形で円形を呈するピットである。2 層からなる覆土は、いずれも焼土粒子を含む。

SP934 3 層の覆土のうち 1・2 層は柱拔取り穴とみられ、下層の 2 層にはブロック状のロームを多く含んでいる。

SP945 2 基のピットが切り合うような状態で検出された。断面観察によると、南側の浅い部分の方が新しい。

SP948 底面に 2 つの窪みがあり、柱の据え替えが行われた可能性がある。土師器 1 点、焼礫 10 点が出土した。

SP949 SD12 に切られるピットである。北から南へわずかに斜めに穿たれており、締まりのない砂質土を覆土に持つ。

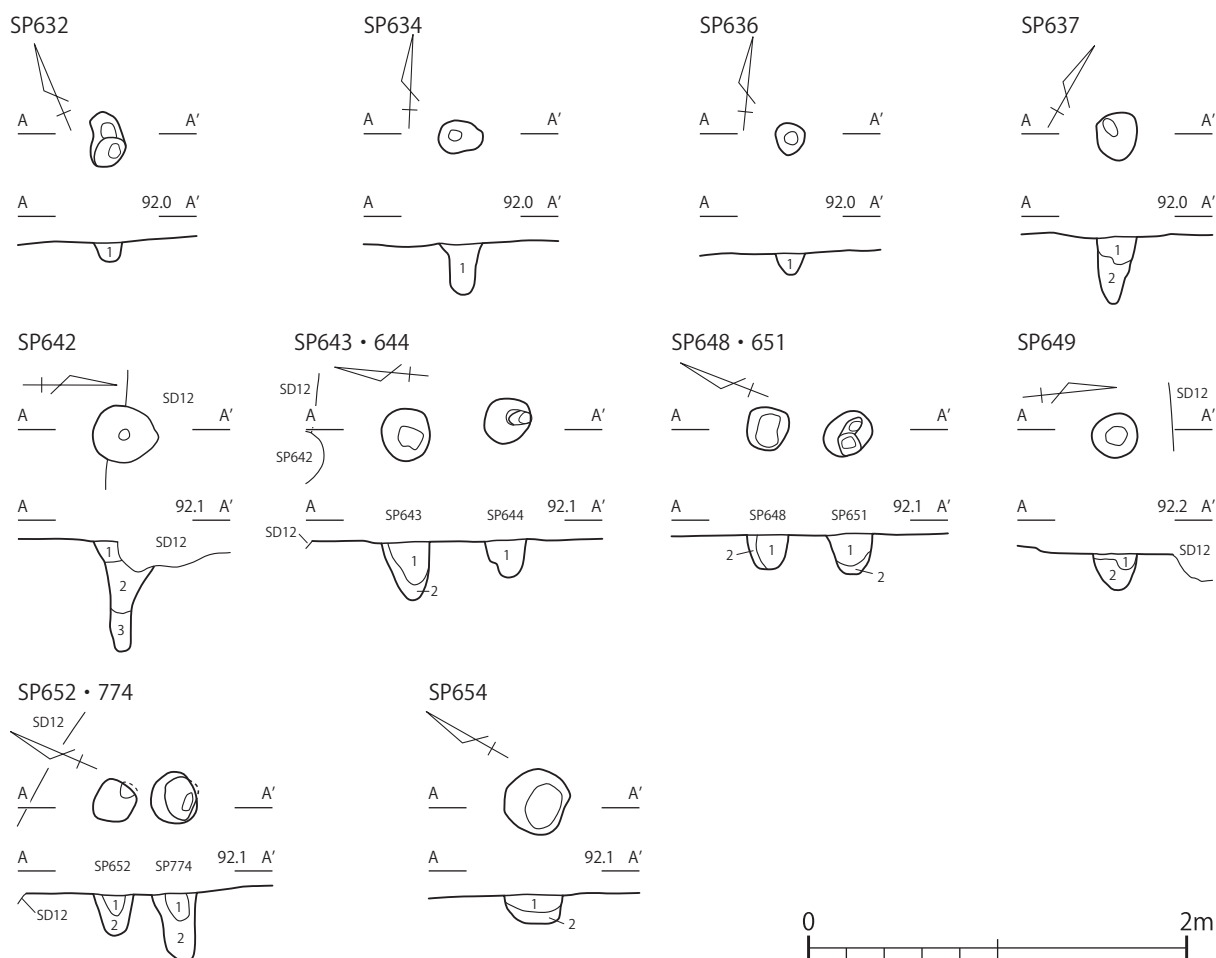
SP952 2-7 区で検出されたピット。断面の観察で柱痕跡とみられる層を確認したほか、底面で柱当たりを検出した。

SP953 底面に 2 つの窪みがあり、柱の据え替えが行われた可能性がある。

SP960 近世以降の溝で攪乱されているが、断面観察で 1～3 層の柱痕跡、4・5 層の柱掘方充填土を確認した。

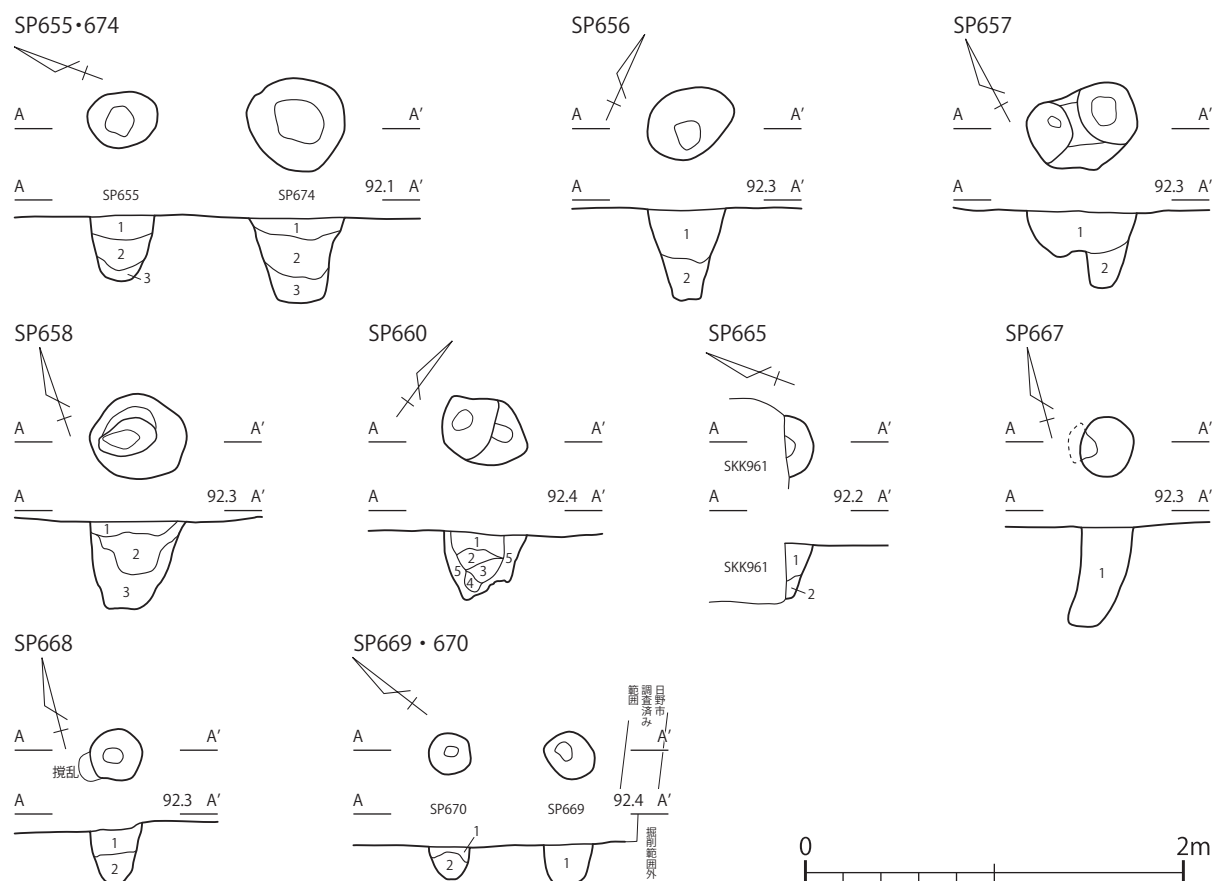
SP965 楕円形を呈する、深さ 73cm とやや深いピットである。覆土のうち 1・3 層は柱拔取り穴覆土とみられる。

SP968 2-7 区東端で検出されたやや大きなピットで、深さは 106cm を測る。覆土は 13 層まで確認され、そのうち 2～5 層と 7・8 層はそれぞれ別個の柱痕跡で、柱の据え替えが行われたものとみられる。
(相原)



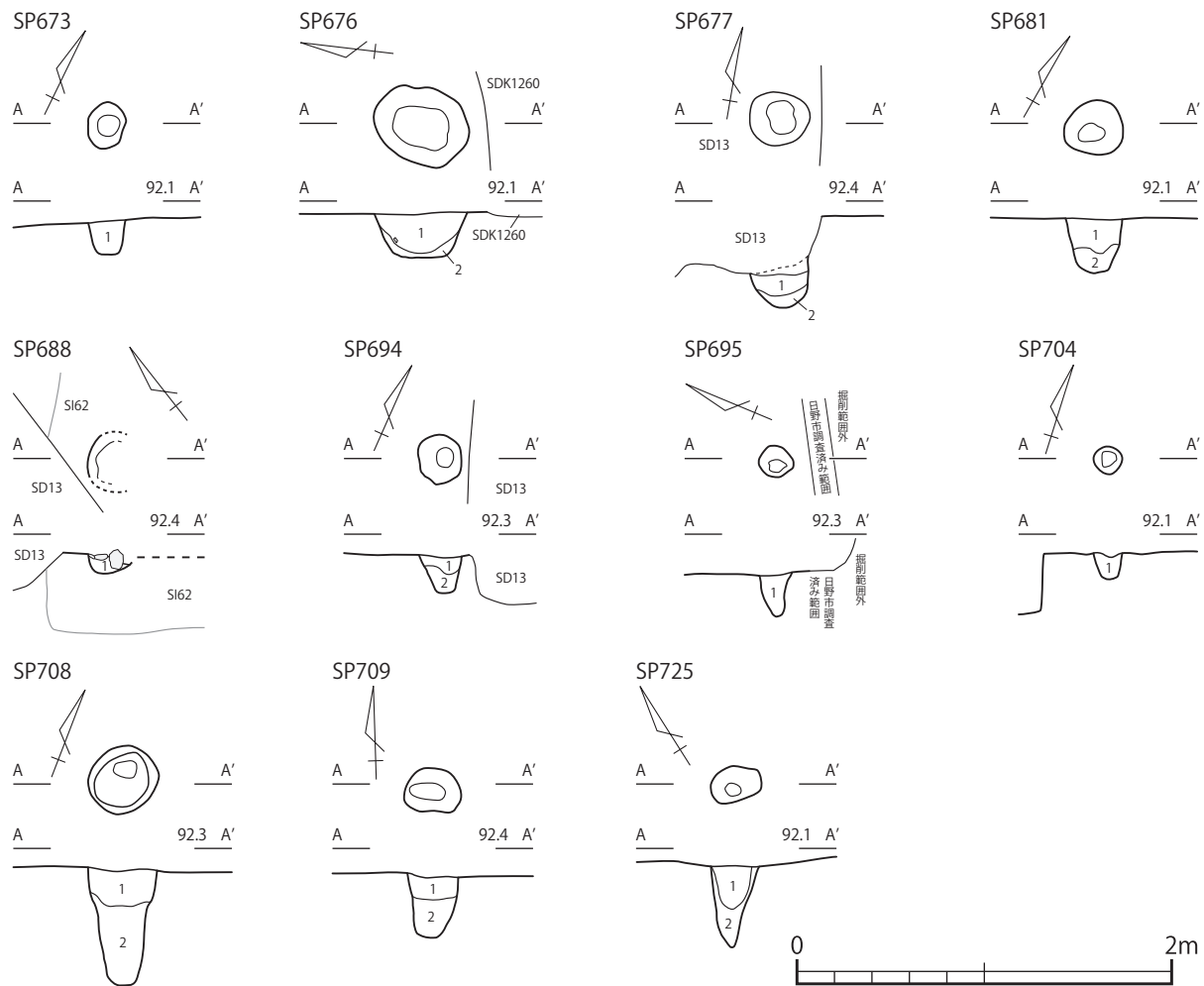
SP632	1. 10YR2/1 黒色土層	直径 1mm の明赤褐色スコリア (5YR5/6)3%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや密。
SP634	1. 10YR1.7/1 黒色土層	直径 1mm の明赤褐色スコリア (5YR5/6)2%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
SP636	1. 10YR2/1 黒色土層 粒子粗い。	直径 1mm の明赤褐色スコリア (5YR5/6)1%、直径 1mm のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。
SP637	1. 10YR1.7/1 黒色土層 締まりあり、粒子やや粗い。 2. 10YR2/1 黒色土層 締まりあり、粒子粗い。	直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/6)2%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 2% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。 直径 1mm の明赤褐色スコリア (5YR5/6)1%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5% 含む。下部にロームブロック (10YR4/6)5% 偏在。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
SP642	1. 10YR1.7/1 黒色土層 2. 10YR2/1 黒色土層 3. 10YR2/2 黒褐色土層	直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)1% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。やや砂質。 直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。やや砂質土層。 ローム (10YR4/6)20% 混在。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。
SP643	1. 10YR2/1 黒色土層 締まりあり、粒子やや密。 2. 10YR2/2 黒褐色土層	直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 5mm 以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。 Ⅲ2 層土由来土層。直径 1mm の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。
SP644	1. 2.5Y2/1 黒色土層	直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや密。
SP648	1. 10YR2/1 黒色土層 2. 10YR2/1 黒色土層	直径 3mm 以下のローム粒子 (7.5YR6/8)2%、直径 5mm 以下の黄褐色スコリア (2.5Y5/6)3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。 直径 1mm 以下のローム粒子 (7.5YR6/8)1%、直径 3mm 以下の黄褐色スコリア (2.5Y5/6)2% 含む。Ⅲ2 層土 20% 混在。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
SP649	1. 10YR2/1 黒色土層 2. 10YR2/2 黒褐色土層	直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5% 含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子密。 直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3% 含む。粘性あまりなし、締まりややあり、粒子やや密。
SP651	1. 10YR2/1 黒色土層 2. 10YR2/2 黒褐色土層	直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)2%、直径 1mm 以下の橙色スコリア (5YR6/8)1% 含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや粗い。 直径 2mm 以下の橙色スコリア (5YR6/8)2% 含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子粗い。
SP652	1. 10YR2/1 黒色土層 や砂質土層。 2. 10YR2/1 黒色土層	直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2% 含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや密。や 1 層に似るがⅢ2 層土が 20% 混在。粘性あり、締まりややあり、粒子やや粗い。
SP654	1. 10YR2/1 黒色土層 締まりややあり、粒子やや粗い。 2. 7.5YR2/1 黒色土層	直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (2.5Y5/6)7%、直径 1～3mm の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)5%、直径 5mm 以下の黒色スコリア 7% 含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや粗い。 Ⅲ2 層土主体。直径 1mm 以下の黄褐色スコリア (2.5Y5/6)2%、直径 1mm の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
SP774	1. 10YR2/1 黒色土層 粒子やや密。 2. 10YR2/2 黒褐色土層	直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2% 含む。Ⅲ2 層土 10% 混在。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや密。 1 層に似るがⅢ2 層土が 40% 混在。粘性あり、締まりややあり、粒子やや粗い。

第 355 図 SP632・634・636・637・642～644・648・649・651・652・654・774(1/40)



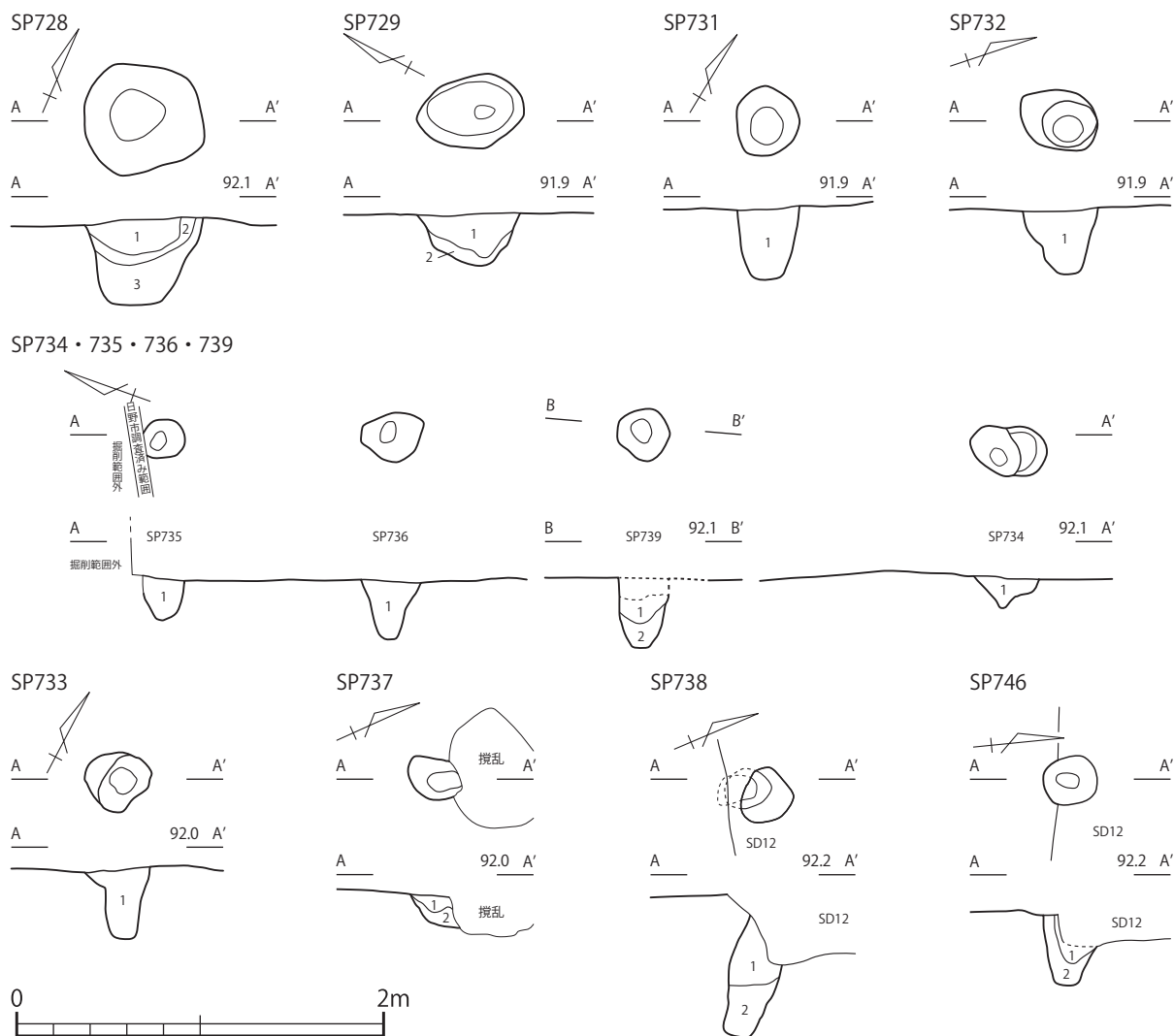
SP655 1. 10YR2/1 黒色土層 まりなし、粒子粗い。 2. 10YR2/1 黒色土層 3. 7.5YR2/2 黒褐色土層	直径1mmのローム粒子(10YR4/6)3%、直径1mm以下の黄褐色スコリア(2.5Y5/6)2%、直径2mm以下の黒色スコリア5%含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。 1層にほぼ同じだが、ローム粒子は直径2mm以下で5%含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。 Ⅲ2層土主体。直径2mm以下の黒色スコリア3%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。
SP656 1. 7.5YR1.7/1 黒色土層 2. 10YR2/2 黒褐色土層	直径3mm以下のローム粒子(10YR6/8)5%、直径2mm以下の黒色スコリア10%含む。粘性ややあり、締まりなし、粒子粗い。 直径1mm以下のローム粒子(10YR6/8)1%、直径1mmの黒色スコリア10%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。
SP657 1. 10YR2/2 黒褐色土層 5mmの黒色スコリア2%含む。 2. 10YR3/1 黒褐色土層	直径2mm以下のローム粒子(10YR4/6)3%、直径1mmの明黄褐色スコリア(2.5Y6/8)5%、直径3mm以下の赤褐色スコリア(2.5Y4/8)3%、直径2～5mmの黒色スコリア2%含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子粗い。 締まり弱、粘性弱、Ⅱ1層土基調、明褐色スコリア(7.5YR5/8)3%、粒子やや粗い。
SP658 1. 10YR2/1 黒色土層 締まりあまりなし、粒子粗い。 2. 7.5YR2/1 黒色土層 3. 10YR2/2 黒褐色土層	直径3mm以下のローム粒子(10YR4/6)7%、直径1mmの赤褐色スコリア(2.5Y4/8)3%、直径2～5mmの黒色スコリア10%含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子粗い。 直径1mm以下の黄褐色スコリア(2.5Y5/6)2%、直径1mmの黒色スコリア3%含む。粘性あまりなし、締まりなし、粒子やや粗い。やや砂質土層。 直径1mm以下の黄褐色スコリア(2.5Y5/6)5%含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
SP660 1. 5YR2/1 黒褐色土層 2. 2.5YR3/1 暗赤灰色土層 粒子やや粗い。 3. 5YR2/1 黒褐色土層 4. 2.5YR3/1 暗赤灰色土層 5. 10YR2/2 黒褐色土層	直径1mmの黒色スコリア5%、直径1mm以下のローム粒子(10YR4/6)3%、直径1mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)1%含む。粘性なし、締まりなし、粒子粗い。 直径1mm以下のローム粒子(10YR4/6)1%、直径1mmの赤褐色スコリア(5YR4/8)2%含む。Ⅲ2層相当土40%偏在。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。 1層とほぼ同じ。Ⅲ2層相当土が10%偏在。 2層に近似。Ⅲ2層相当土40%偏在。粘性あり、締まりややあり、粒子やや密。 Ⅲ2層土主体。直径1mmのローム粒子(10YR5/6)1%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや密。
SP665 1. 10YR1.7/1 黒色土層 以下の黒色スコリア7%含む。 2. 2.5Y2/1 黒色土層 締まりあり、粒子やや粗い。	直径3mm以下のローム粒子(10YR4/4)5%、直径1mmの黄褐色スコリア粒子(10YR5/6)5%、直径1mmの赤褐色スコリア(5YR4/8)1%、直径2mm以下の黒色スコリア7%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや粗い。 直径1mm以下のローム粒子(10YR4/4)2%、直径1mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)1%、直径3mm以下の黒色スコリア10%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
SP667 1. 10YR2/2 黒褐色土層 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。	直径1mmのにぶい黄色スコリア粒子(2.5Y6/4)10%、直径3mm以下の黒褐色土粒子(7.5YR2/1)10%、直径3mm以下の橙色スコリア(2.5YR5/8)7%含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。
SP668 1. 10YR2/2 黒褐色土層 まりなし、粒子粗い。 2. 2.5Y3/2 黒褐色土層	直径1mmの黄褐色スコリア(10YR5/6)3%、直径1mmの赤褐色スコリア(5YR4/8)2%、直径2mm以下の黒色スコリア1%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。 直径1mmのローム粒子(10YR4/6)2%、直径3mm以下の黒色スコリア3%含む。粘性強、締まりなし、粒子やや粗い。
SP669 1. 10YR2/2 黒褐色土層 まりなし、粒子粗い。	直径1mmの黄褐色スコリア(10YR5/6)5%、直径1mmの赤褐色スコリア(5YR4/8)2%、直径2mm以下の黒色スコリア5%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。
SP670 1. 10YR2/2 黒褐色土層 まりなし、粒子粗い。 2. 2.5Y3/2 黒褐色土層	直径1mmの黄褐色スコリア(10YR5/6)5%、直径1mmの赤褐色スコリア(5YR4/8)2%、直径2mm以下の黒色スコリア7%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。 直径1mmのローム粒子(10YR4/6)3%、直径3mm以下の黒色スコリア5%含む。粘性強、締まりなし、粒子やや粗い。
SP674 1. 7.5YR1.7/1 黒色土層 りややあり、粒子粗い。 2. 7.5YR2/1 黒色土層 粒子やや粗い。 3. 2.5YR1.7/1 赤黒色土層	直径2mm以下のローム粒子(10YR5/6)15%、直径1mmの赤褐色スコリア(5YR4/8)3%、直径3mm以下の黒色スコリア10%含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。 直径1mmのローム粒子(10YR5/6)5%、直径5mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)3%、直径2mm以下の黒色スコリア5%含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。 直径1mm以下のローム粒子(7.5YR4/6)3%、直径1mmの赤褐色スコリア(5YR4/8)1%、Ⅲ層由来土20%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。

第356図 SP655～658・660・665・667～669・670・674(1/40)



- SP673**
 1. 10YR2/1 黒色土層 直径1mmのローム粒子(10YR4/6)5%、直径1mmの赤褐色スコリア(2.5YR4/8)1%、直径2mm以下の黒色スコリア5%含む。粘性あまりなし、締まりあまりなし、粒子粗い。
- SP676**
 1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/6)15%、直径1mmの赤褐色スコリア(5YR4/8)2%、直径2mm以下の黒色スコリア7%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや粗い。
 2. 7.5YR2/2 黒褐色土層 III2層土主体。直径2mm以下の黒色スコリア3%含む。粘性強、締まりあり、粒子密。SP675の3層と同じ。
- SP677**
 1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黒褐色土粒子7%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア(2.5YR5/8)3%、直径1mmのローム粒子(10YR5/6)5%含む。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
 2. 10YR2/1 黒色土層 III層土主体。やや硬化。直径2mm以下の黒褐色土粒子5%、直径1mmの明赤褐色スコリア(2.5YR5/8)1%含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。
- SP681**
 1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下の明褐色スコリア(7.5YR5/8)10%、直径5mm以下のローム粒子(7.5YR4/6)5%、直径3mm以下の黒褐色土粒子7%含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子極めて粗い。
 2. 10YR2/2 黒褐色土層 III2層土主体。直径1mmの黄褐色スコリア(10YR6/6)2%含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。
- SP688**
 1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径1mm以下の黄褐色スコリア(10YR5/6)2%、直径1mm以下の明赤褐色スコリア(5YR5/8)1%含む。黒色土(10YR2/2)5%下部に偏在。粘性なし、締まりややあり、粒子やや粗い。やや砂質土層。
- SP694**
 1. 10YR2/1 黒色土層 直径1mmの黒褐色スコリア3%、直径1mmのローム粒子2%、直径1mmの赤褐色スコリア(2.5YR4/8)1%、小石1%含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
 2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径1mmのローム粒子1%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや密。
- SP695**
 1. 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子(10YR5/8)7%偏在、直径1mmの赤褐色スコリア(2.5YR4/8)1%含む。粘性あまりなし、締まりなし、粒子粗い。
- SP704**
 1. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の赤色スコリア(10R4/8)2%、直径1mmのローム粒子(10YR4/6)5%、直径1mmの黒褐色スコリア2%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや粗い。
- SP708**
 1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子(10YR4/4)15%、直径3mm以下の赤褐色スコリア7%、直径5mm以下の黒褐色スコリア3%含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや粗い。
 2. 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下のローム粒子(10YR4/4)5%含む。直径1mm以下のローム(10YR4/6)10%偏在。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
- SP709**
 1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径5mm以下の焼土粒子5%、直径1mmの赤色スコリア(10R4/8)2%、直径2mm以下の黒褐色土粒子1%含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや粗い。
 2. 10YR1.7/1 黒色土層 直径1mmの赤色スコリア(10R4/8)1%含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
- SP725**
 1. 10YR2/1 黒色土層 直径5mm以下のローム粒子(10YR5/8)3%、直径1mmの明赤褐色スコリア(2.5YR5/8)1%含む。粘性なし、締まりなし、粒子極めて粗い。
 2. 10YR3/4 暗褐色土層 直径3mm以下の明黄褐色スコリア(10YR6/8)2%含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。

第357図 SP673・676・677・681・688・694・695・704・708・709・725(1/40)



SP728

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/6)5%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)3%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 5% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (2.5YR4/6)2%、直径 1mm のローム粒子 (10YR5/6)1%、直径 1mm の黒褐色スコリア 2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm の赤褐色スコリア (2.5YR4/6)3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。

SP729

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の黄褐色スコリア (10YR5/6)3%、直径 1mm の炭化物粒子 1% 含む。締まり・粘性あり、粒子やや粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の黄褐色スコリア 1% 含む。締まり・粘性あり、粒子は細かい。

SP731

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 5mm のロームブロック 1%、直径 2mm 以下の焼土粒子 3% 含む。締まり・粘性あり、粒子やや粗い。下部はやや粘性強く緻密。

SP732

1. 10YR2/1 黒色土層 黄褐色スコリア (10YR7/8)1%、直径 1mm の焼土粒子 3% 含む。締まり・粘性あり、粒子細かい。

SP733

1. 10YR2/1 黒色土層 黄褐色スコリア (10YR7/8)3%、直径 2mm 以下の焼土粒子 5% 含む。締まり・粘性あり、粒子やや粗い。

SP734

1. 10YR3/1 黒褐色土層 黄褐色スコリア 5% 含む。締まり・粘性弱、粒子はやや粗い。

SP735

1. 10YR2/1 黒色土層 黄褐色スコリア (7.5YR6/8)1%、直径 5mm のロームブロック 1%、直径 2mm 以下の焼土粒子 1% 含む。締まり・粘性あり、粒子は細かい。

SP736

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 2mm の焼土粒子 1%、黄褐色スコリア 10% 含む。締まり・粘性弱、粒子はやや粗い。

SP737

1. 10YR2/2 黒褐色土層 明褐色土粒子 (7.5YR5/6)3%、直径 2mm の灰黄褐色ブロック (10YR6/2)1% 含む。締まり弱、粘性あり、顆粒状で粒子は粗い。
2. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 0.5mm の焼土粒子 1% 含む。締まり・粘性やや強、粒子は細かい。

SP738

1. 10YR1.7/1 黒色土層 やや砂質土層。直径 1mm のローム粒子 (10YR6/8)1% 含む。粘性あまりなし、締まりなし、粒子やや密。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 やや砂質土層だが 1 層より締まる。直径 10mm 以下のローム粒子 (7.5YR5/6)5% 含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。

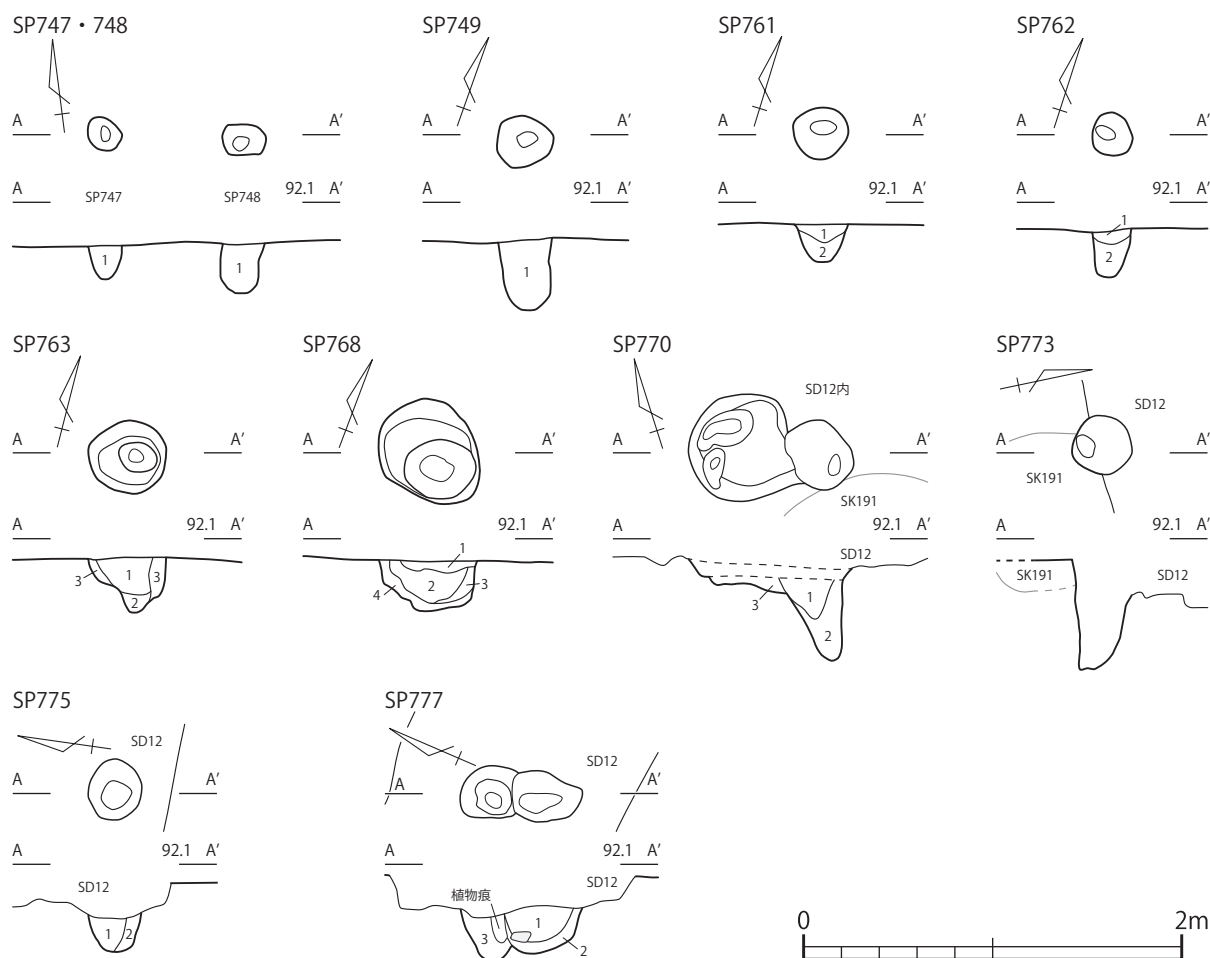
SP739

1. 10YR2/1.5 黒～黒褐色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2% 含む。やや砂質土層。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 III 2 層土主体。直径 12mm の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや粗い。

SP746

1. 10YR2/1 黒色土層 砂質土層。直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2% 含む。粘性なし、締まりなし、粒子やや粗い。
2. 10YR1.7/1 黒色土層 やや砂質土層。直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2% 含む。粘性あまりなし、締まりあまりなし、粒子やや粗い。

第 358 図 SP728・729・731～739・746(1/40)



SP747

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の明赤褐色スコリア (5YR5/6)2%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性あまりなし、締まりややあり、粒子やや粗い。

SP748

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm の明赤褐色スコリア (5YR5/6)2%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性あまりなし、締まりややあり、粒子やや粗い。

SP749

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/6)3%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR5/6)2% 含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。

SP761

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%、直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)5% 含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 III 層土由来土層。直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。

SP762

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%、直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)5% 含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 III 層土由来土層。直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。

SP763

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3%、直径 3mm 以下の黒褐色スコリア 2%、直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)5% 含む。粘性あまりなし、締まり強、粒子やや粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 III 層土由来土層。直径 1mm のローム粒子 (10YR4/4)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子密。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm のローム粒子 (7.10YR4/6)5%、直径 1mm の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性あまりなし、締まりあり、粒子やや粗い。

SP768

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)7%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)5%、直径 5mm 以下の炭化材片 2% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子密。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)5%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)3%、直径 7mm 以下の炭化材片 1% 含む。暗褐色土 (10YR3/3)10% 偏在。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
3. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)10%、直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)3% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
4. 10YR3/1 黒褐色土層 III 層土由来土層。直径 1mm の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)3% 含む。粘性あり、締まり強、粒子密。

SP770

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3% 含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
2. 10YR3/4 暗褐色土層 ローム粒子主体。黒褐色土 (10YR2/1)10% 混在。粘性あり、締まりややあり、粒子極めて粗い。
3. 10YR2/1.5 黒～黒褐色土層 ローム粒子 (10YR4/6)30% 偏在。直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子粗い。

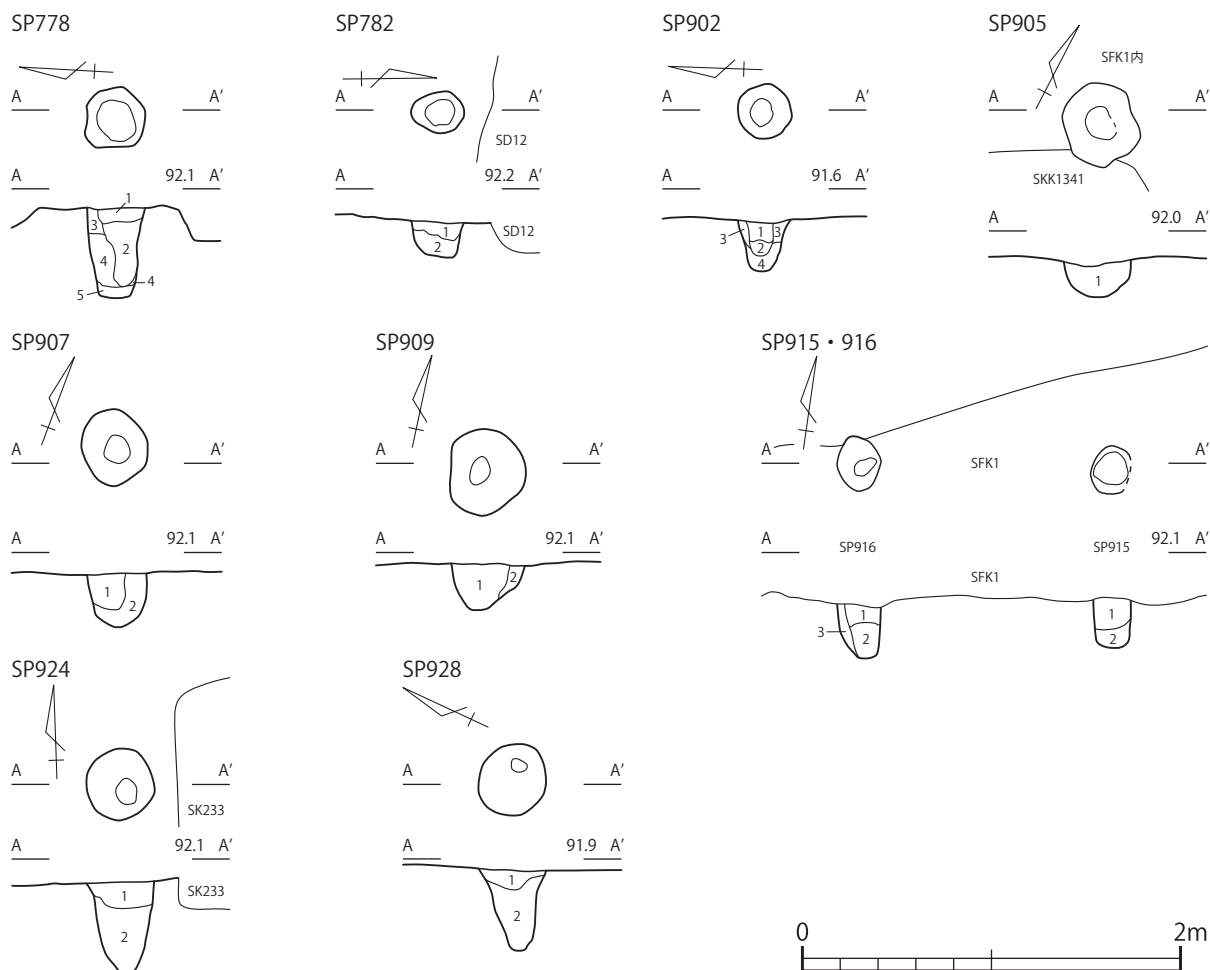
SP775

1. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 1 層に似るが III 2 層土が 20% 混在。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや密。

SP777

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明褐色スコリア (7.5YR5/6)7%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)2%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。
3. 10YR2/1.5 黒～黒褐色土層 直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子粗い。

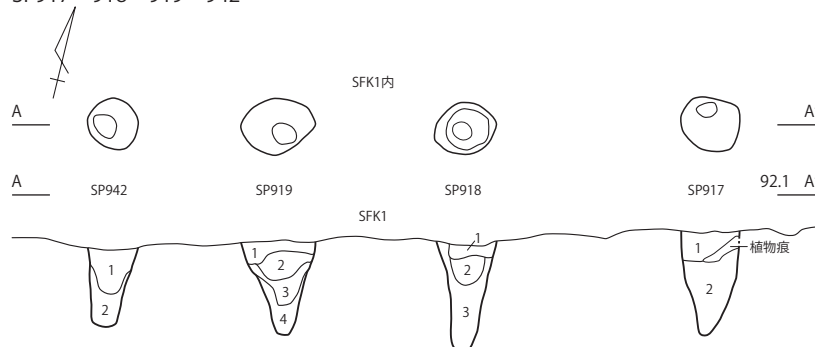
第 359 図 SP747～749・761～763・768・770・773・775・777(1/40)



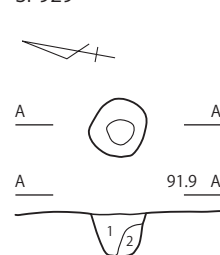
- SP778**
- 10YR1.7/1 黒色土層 直径3mm以下のにぶい黄褐色スコリア (10YR5/4)3%、直径2mm以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子極めて粗い。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下のにぶい黄褐色スコリア (10YR5/4)2%、直径1mm以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径2mm以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3% 含む。粘性あまりなし、締まりあまりなし、粒子粗い。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 直径1mm以下のローム粒子 (10YR4/6)2%、直径1mm以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性ややあり、締まりあまりなし、粒子やや粗い。
 - 2.5Y3/1 黒褐色土層 直径20mm以下の暗褐色土ブロック (10YR3/3)10%、直径1mm以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径1mm以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性ややあり、締まり強、粒子やや粗い。
- SP782**
- 10YR1.7/1 黒色土層 直径5mm以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)5%、直径3mm以下のローム粒子 (10YR4/6)3% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや粗い。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の明赤褐色スコリア (2.5YR5/8)2%、直径1mm以下のローム粒子 (10YR4/6)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
- SP902**
- 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下のローム粒子 (10YR4/6)3% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。顆粒状を呈する。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径3mm以下のローム粒子 (10YR4/6)5% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。やや粘土質土層。
 - 10YR2/1.5 黒～黒褐色土層 直径2mm以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)3% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
 - 10YR2/3 黒褐色土層 ローム主体。黒色土 (10YR2/1)20% 混在。粘性強、締まり強、粒子やや粗い。
- SP905**
- 10YR3/1 黒褐色土層 直径3mm以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)7%、直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。締まりやや弱い、粘性ややあり。
- SP907**
- 10YR3/1 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)5%、直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。締まりやや硬緻、粘性ややあり。
 - 10YR3/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)3%、直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。締まり硬緻、粘性やや弱い。
- SP909**
- 10YR3/1 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)5%、直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。締まり硬緻、粘性やや弱い。
 - 10YR3/1 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)3%、直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。締まりやや硬緻、粘性ややあり。
- SP915**
- 10YR2/3 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)7%、直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。直径3mm前後の炭化物粒子微量混入。締まりやや硬緻、粘性ややあり。
 - 10YR4/4 暗褐色土層 黒褐色土 30% 含む。直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)5%、直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。締まり硬緻、粘性ややあり。
- SP916**
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)5%、直径3mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。締まりやや硬緻、粘性やや弱い。
 - 10YR2/3 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)7%、直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。直径3mm前後の炭化物粒子微量混入。締まりやや硬緻、粘性ややあり。
 - 10YR4/4 褐色土層 黒褐色土 30% 含む。直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)5%、直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。締まり硬緻、粘性ややあり。
- SP924**
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)4%、直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)2% 含む。直径2mm前後のローム粒子少量混入。締まり硬緻、粘性ややあり。
 - 10YR2/3 黒褐色土層 直径2mm以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)5%、直径2mm以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。直径3mm前後のローム粒子やや多量混入。締まり硬緻、粘性ややあり。
- SP928**
- 10YR3/2 黒褐色土層 微細なローム粒子を微量含む。粘性ややあり、締まりあまりなし。
 - 10YR2/1 黒色土層 微細なローム粒子を微量含む。粘性・締まりともあまりなし。

第 360 図 SP778・782・902・905・907・909・915・916・924・928(1/40)

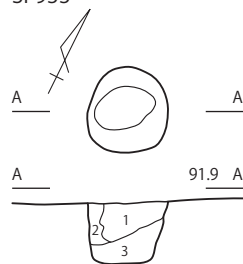
SP917・918・919・942



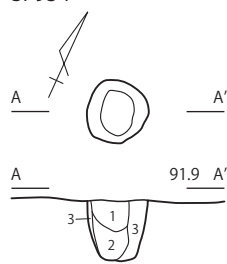
SP929



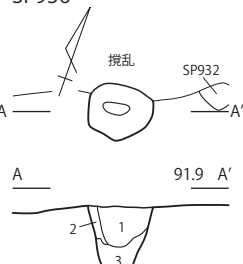
SP933



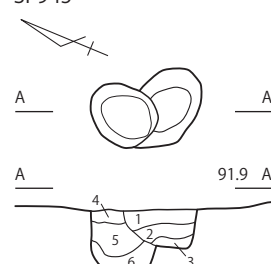
SP934



SP936



SP945



SP917

1. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。締まりやや硬緻、粘性やや弱い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)4%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 2mm 前後のローム粒子やや多量に混入。締まり硬緻、粘性やや弱い。

SP918

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。締まり硬緻、粘性やや弱い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。締まりやや硬緻、粘性ややあり。1 層に近似。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)4%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 2mm 前後のローム粒子やや多量に混入。締まり硬緻、粘性やや弱い。

SP919

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。締まり硬緻、粘性やや弱い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。締まりやや硬緻、粘性ややあり。1 層に近似。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)4%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 2mm 前後のローム粒子やや多量に混入。締まり硬緻、粘性やや弱い。
4. 10YR3/3 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)4%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)2% 含む。直径 3mm 前後のローム粒子やや多量に混入。締まりやや硬緻、粘性ややあり。

SP929

1. 10YR2/1 黒色土層 微細な焼土粒子を 3%、微細なローム粒子を微量含む。粘性ややあり、締まりあまりなし。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 微細な焼土粒子を微量含む。粘性あまりなし、締まりややあり。

SP933

1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 5mm 以下のぶい黄褐色スコリア (10YR5/4)5%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子やや密。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
3. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 20mm 以下のロームブロック (10YR4/6)10% 含む。粘性強、締まり強、粒子密。

SP934

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 7mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)5%、直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)3%、長さ 5mm 以下の炭化材料 1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや粗い。
2. 10YR2/3 黒褐色土層 ローム (10YR4/6) ブロック状に 30%、直径 3mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)2%、直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子やや密。
3. 10YR2/1 黒色土層 Ⅲ層土主体。直径 2mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。

SP936

1. 10YR1.7/1 黒色土層 ローム粒子 (10YR3/3)20% 偏在。直径 5mm 以下の焼土粒子 3%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
2. 2.5Y2/1 黒色土層 直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
3. 2.5Y3/1 黒褐色土層 直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性強、締まりあり、粒子密。粘土質土層。

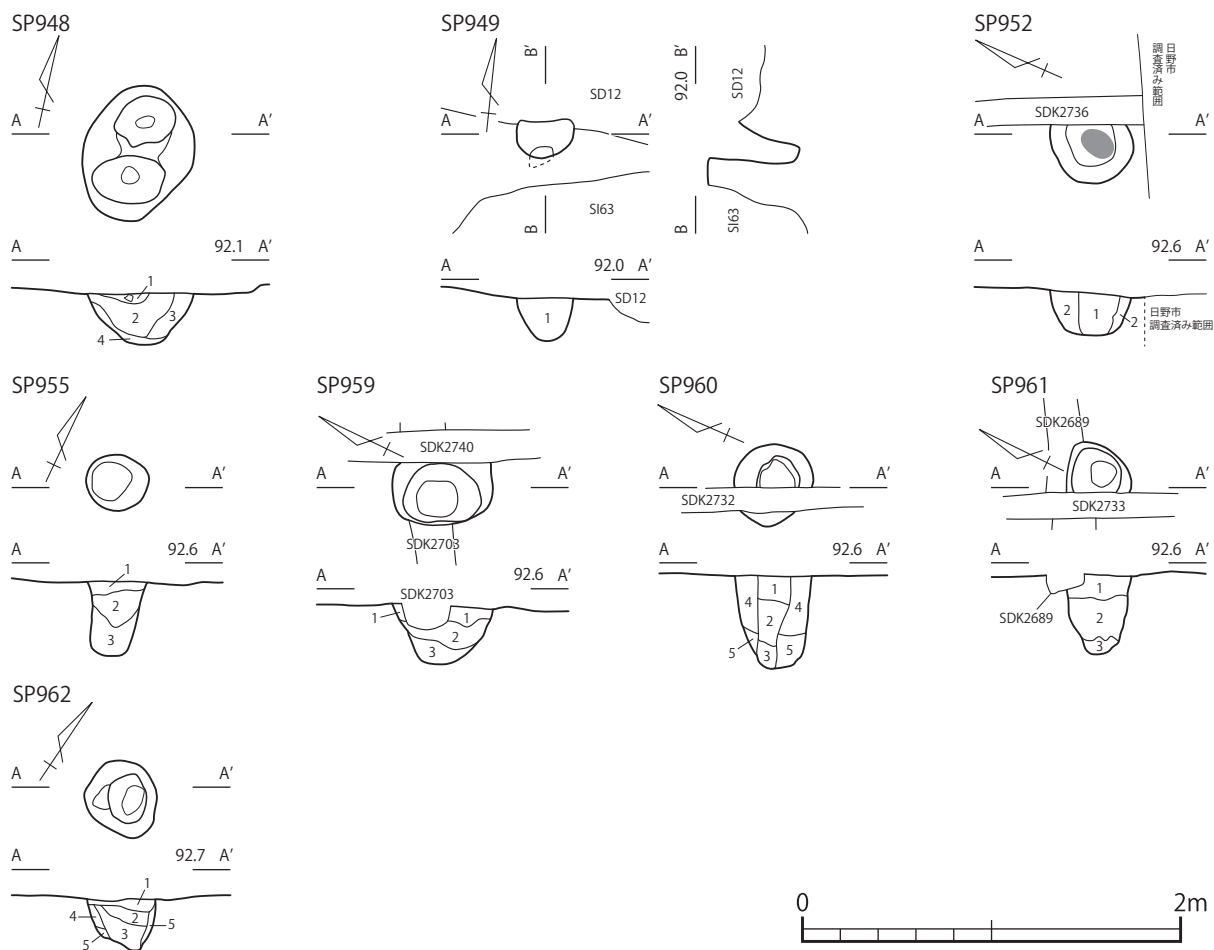
SP942

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)5% 含む。締まり硬緻、粘性やや弱い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)4%、直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。直径 2mm 前後のローム粒子やや多量に混入。締まり硬緻、粘性やや弱い。

SP945

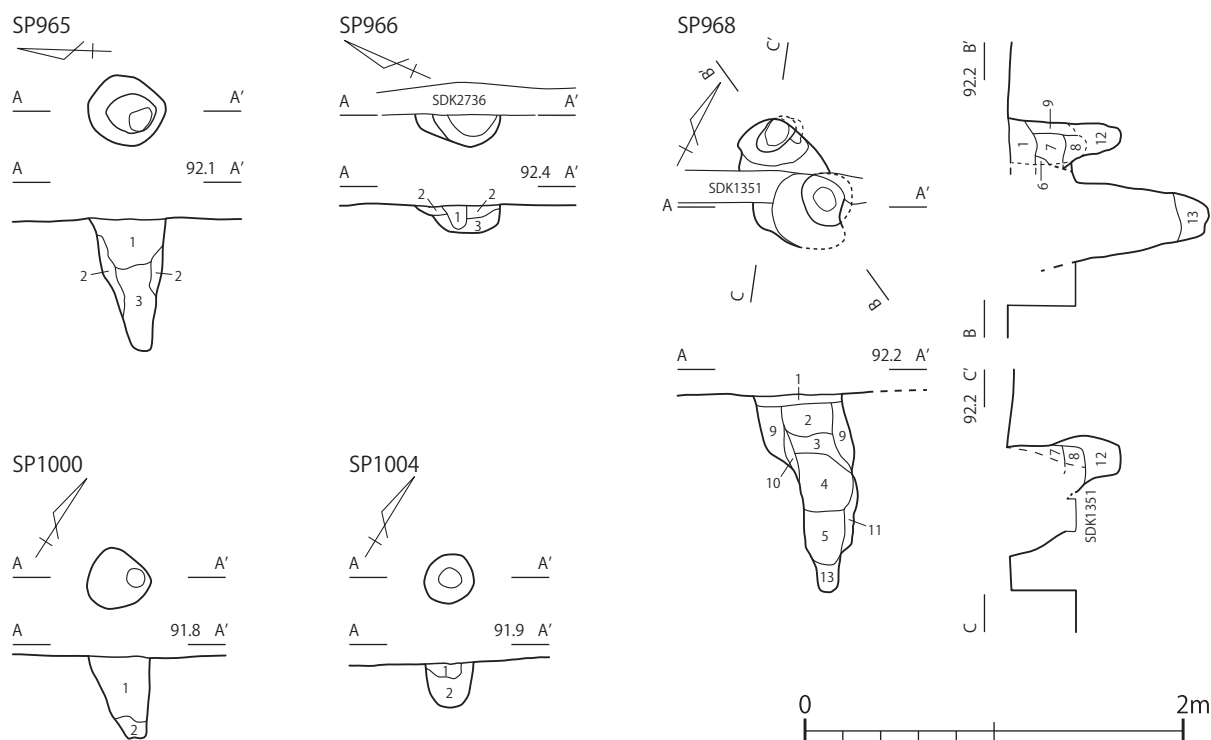
1. 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5%、直径 3mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
2. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5%、直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 15mm 以下のロームブロック (10YR4/6)20%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/6)1% 含む。粘性あり、締まり強、粒子やや密。
4. 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5%、直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
5. 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 3mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
6. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2%、直径 10mm 以下のロームブロック (10YR5/8)10% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。

第 361 図 SP917～919・929・933・934・936・942・945(1/40)



- SP948**
- 10YR2/2 黒褐色土層 砂質土 (10YR4/6)10% 混在。直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗く、かつ砂質。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径 5mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子極めて粗く、かつ砂質。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子極めて粗く、かつ砂質。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
- SP949**
- 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)2% 含む。粘性あまりなし、締まりなし、粒子粗い。砂質土層。
- SP952**
- 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)5%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子粗い。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)5%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2%、直径 5mm 以下の黒褐色スコリア 2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
- SP955**
- 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/4)3%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)5% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗く、顆粒状を呈する。
 - 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)2%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
- SP959**
- 7.5YR1.7/1 黒色土層 黒色土 (10YR2/1) 斑文状に 20% 混在。直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)5%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3% 含む。粘性ややあり、締まり強、粒子極めて粗く、顆粒状を呈する。
 - 10YR1.7/1 黒色土層 直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3%、直径 1mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
 - 10YR2/3 黒褐色土層 黒色土 (10YR1.7/1)30% 偏在。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
- SP960**
- 10YR2/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)7%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子極めて粗い。
 - 10YR1.7/1 黒色土層 直径 5mm 以下のロームブロック (10YR5/8)3%、直径 5mm 以下の焼土粒子 1% 含む。粘性あり、締まりなし、粒子粗い。
 - 10YR2/3 黒褐色土層 ローム粒子 (10YR5/8)30% 偏在。粘性強、締まりあり、粒子粗い。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR5/8)3%、直径 5mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子極めて粗い。
 - 10YR3/4 暗褐色土層 黒色土 (10YR2/1)30% 偏在。粘性あり、締まりなし、粒子極めて粗い。
- SP961**
- 10YR2/1 黒色土層 直径 5mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)5%、直径 3mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)3%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子極めて粗い。
 - 10YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)5%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性強、締まりややあり、粒子粗い。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性強、締まりあまりなし、粒子粗い。
- SP962**
- 10YR1.7/1 黒色土層 直径 3mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)5%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/4)2%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子極めて粗く、顆粒状を呈する。
 - 10YR2/1 黒色土層 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)3%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 (5YR5/8)3% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
 - 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/6)3%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや粗い。

第 362 図 SP948・949・952・955・959～962(1/40)



SP965

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の橙色スコリアを 15%、直径 3mm 前後の黒褐色スコリアを 7%、焼土粒子を 3% 含む。粘性、締まり弱い。
2. 10YR2/1 黒褐色土層 Ⅲ2 層土を主体とし、部分的にⅢ3 層土が斑状に混在する。直径 1mm 程の橙色スコリアを 5% 含む。粘性がやや弱く、締まりは弱い。
3. 10YR2/3 黒褐色土層 Ⅲ2 層土を主体とし、全体的にⅢ3 層土やⅣ層土が斑状に混在する。直径 1mm 程の橙色スコリアを 7% 含む。粘性がやや強く、締まりは弱い。

SP966

1. 7.5YR2/1 黒色土層 ローム粒子 (10YR5/8)10% 偏在。直径 1mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)2% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。
2. 7.5YR1.7/1 黒色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 3mm 以下の明黄褐色スコリア (10YR6/8)3%、直径 1mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性あり、締まりややあり、粒子極めて粗い。
3. 10YR2/1 黒色土層 直径 20mm 以下のロームブロック (10YR4/6)10%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。

SP968

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)3%、直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)1% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子粗い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1%、直径 2mm 以下の黒褐色スコリア 1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子粗い。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)5% 含む。粘性強、締まりなし、粒子粗い。
5. 10YR3/3 暗褐色土層 ローム粒子 (10YR4/6)20% 混在。直径 1mm 以下の明赤褐色スコリア (5YR5/8)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや粗い。
6. 10YR2/1 黒色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)2% 含む。粘性ややあり、締まりややあり、粒子やや粗い。
7. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 1mm 以下の褐色スコリア (10YR4/6)1%、直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)2%、直径 2mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性あり、締まりあり、粒子やや密。
8. 10YR2/3 黒褐色土層 ローム粒子 (10YR4/6)20% 混在。直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性強、締まりあり、粒子やや密。
9. 10YR2/3 黒褐色土層 直径 2mm 以下のローム粒子 (10YR4/6)3%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)1% 含む。粘性ややあり、締まりあり、粒子やや粗い。やや砂質土層。
10. 10YR2/3 黒褐色土層 ローム粒子 (10YR4/6)30% 混在。粘性あり、締まりややあり、粒子粗い。
11. 10YR2/3 黒褐色土層 ローム粒子 (10YR4/6)40% 混在。直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)3% 含む。粘性あり、締まりあまりなし、粒子極めて粗い。
12. 10YR5/8 黄褐色土層 ローム粒子・ブロック混合土層。黒褐色土 (10YR2/3) 偏在。粘性強、締まりあり、粒子極めて粗い。
13. 10YR4/6 褐色土層 ローム主体。直径 5mm 以下の黒褐色土粒子 (10YR2/2)7%、直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/8)2% 含む。粘性強、締まりなし、粒子極めて粗く顆粒状を呈する。

SP1000

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)5%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)4% 含む。締まりあり、粘性あり。直径 2mm 前後のローム粒子少量混入。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 1 層と類似。直径 2mm 前後のローム粒子が多量に混入。直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)2%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)2% 含む。締まりあり、粘性あり。

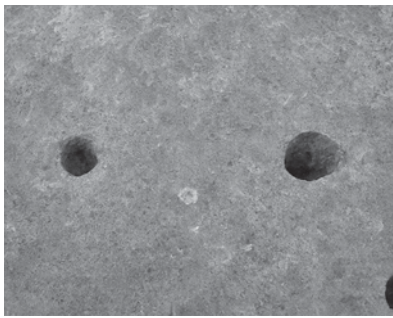
SP1004

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)2% 含む。締まりややあり、粘性ややあり。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 2mm 以下の黄褐色スコリア (10YR8/8)3%、直径 2mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)3% 含む。締まりあり、粘性あり。

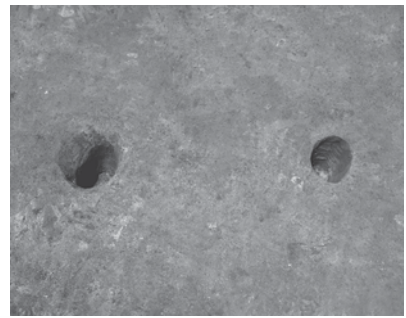
第 363 図 SP965・966・968・1000・1004(1/40)



1. SP632(左)・633 全景 西南西から



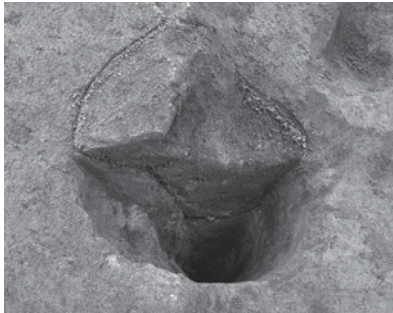
2. SP634(右)・636 全景 南から



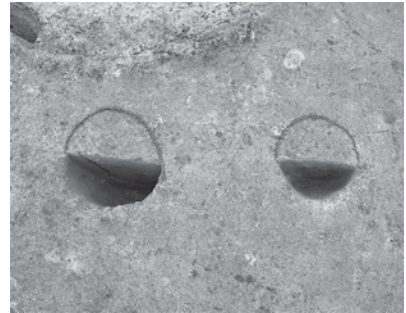
3. SP637(右)・733 全景 南南東から



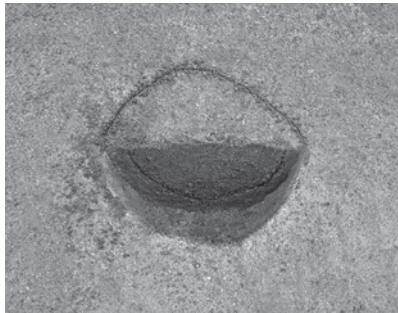
4. SP640 土層断面 西南西から



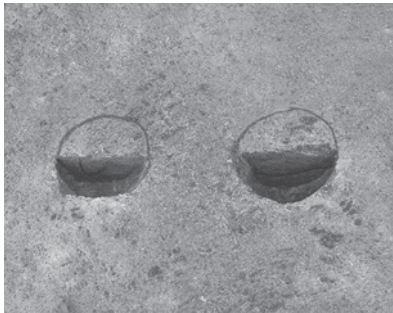
5. SP642 土層断面 東から



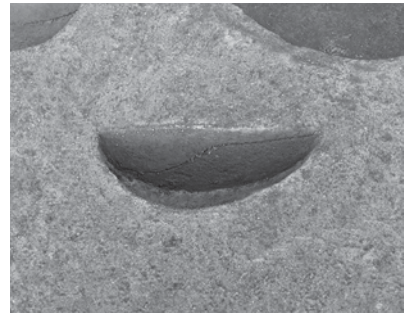
6. SP643(左)・644土層断面 西南西から



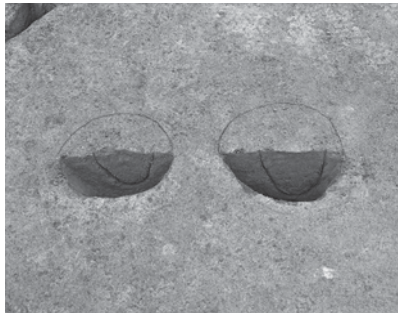
7. SP645 土層断面 南から



8. SP648(左)・651土層断面 西南西から



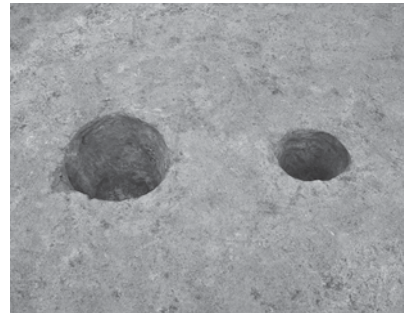
9. SP649 土層断面 西から



10. SP652(左)・774土層断面 南西から



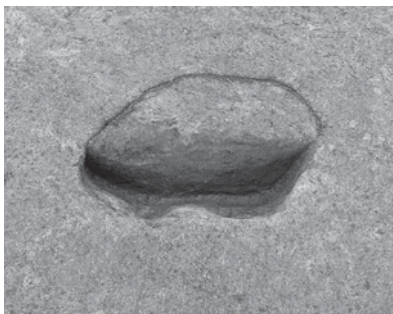
11. SP654 土層断面 東北東から



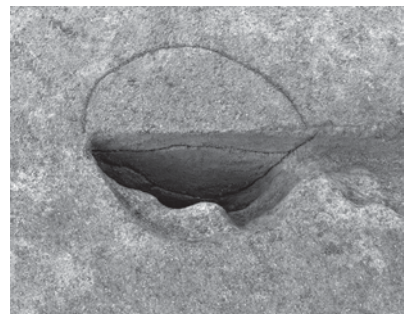
12. SP655(右)・674 全景 東北東から



13. SP656(右)・667 全景 東北東から



14. SP657 土層断面 南南西から



15. SP658 全景 南南西から

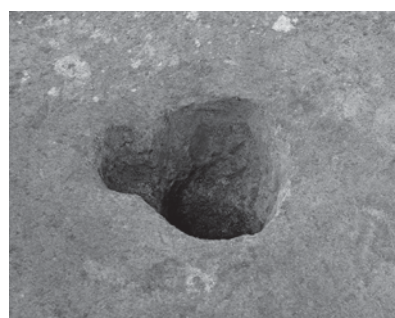
第364図 SP632～634・636・637・640・642～645・648・649・651・652・654～658・667・674・733・774写真



1. SP660 土層断面 北北西から



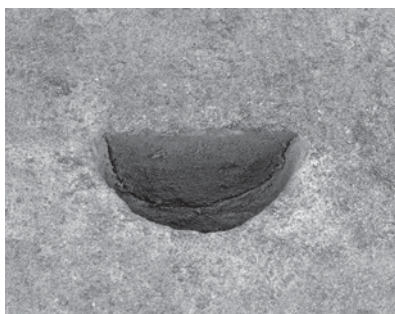
2. SP665 土層断面 東北東から



3. SP668 全景 南から



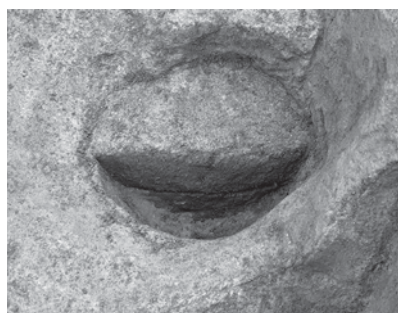
4. SP669(左)・670土層断面 東北東から



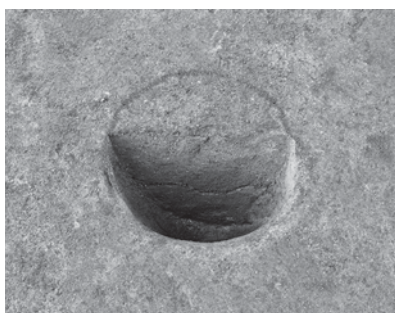
5. SP673 土層断面 北北西から



6. SP676 土層断面 東から



7. SP677 土層断面 南から



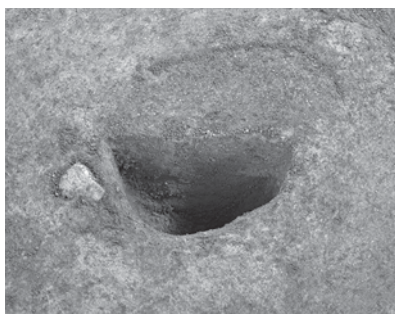
8. SP681 土層断面 南東から



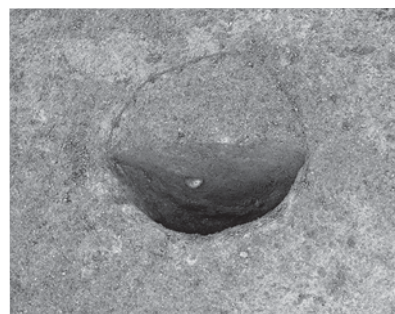
9. SP683 土層断面 南から



10. SP685 土層断面 南南東から



11. SP686 土層断面 南南東から



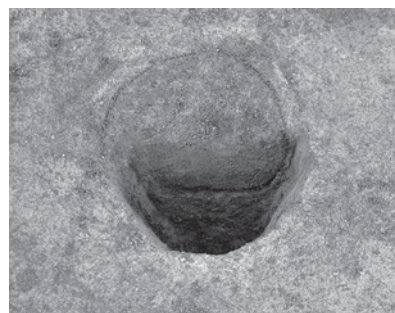
12. SP687 土層断面 南南東から



13. SP688 遺物出土状況 南東から

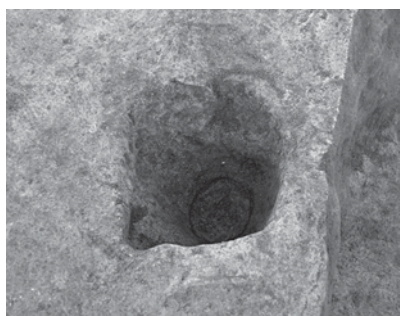


14. SP689(右)・690(左手前)・691 全景 南南西から



15. SP692 土層断面 南南東から

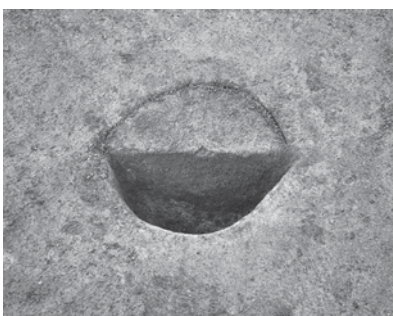
第 365 図 SP660・665・668～670・673・676・677・681・683・685・686～692 写真



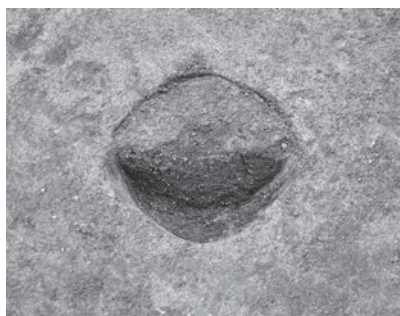
1. SP694 全景 南南東から



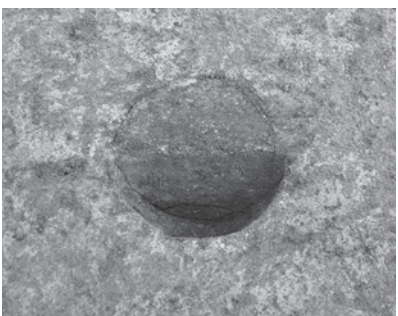
2. SP695 全景 西南西から



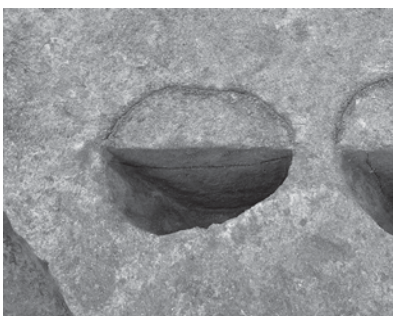
3. SP696 土層断面 南南東から



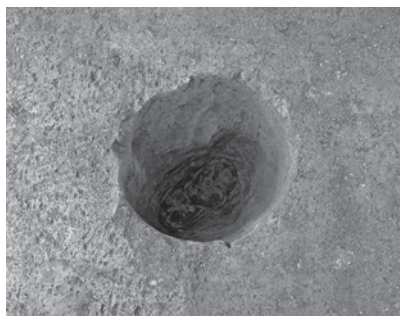
4. SP704 土層断面 南南東から



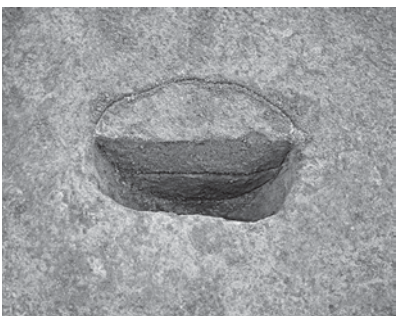
5. SP705 土層断面 南南東から



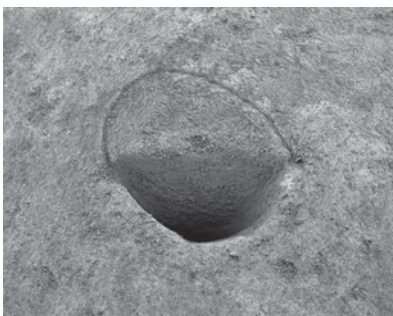
6. SP706 土層断面 東から



7. SP708 全景 南南東から



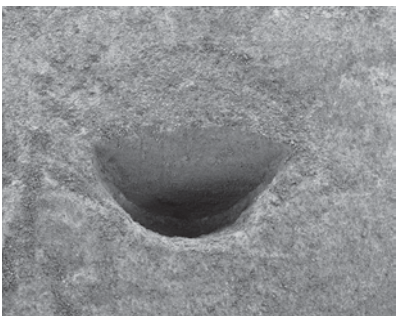
8. SP709 土層断面 南から



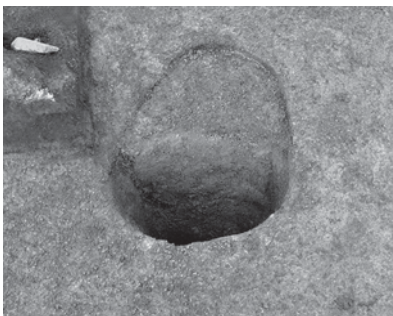
9. SP710 土層断面 南南東から



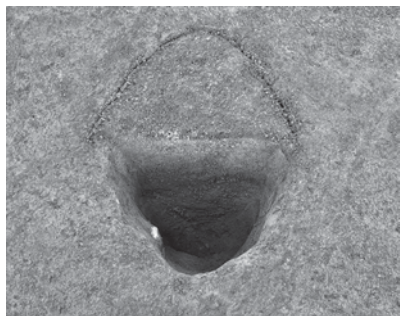
10. SP711 土層断面 南南東から



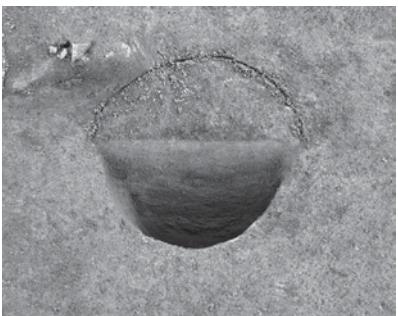
11. SP713 土層断面 南南東から



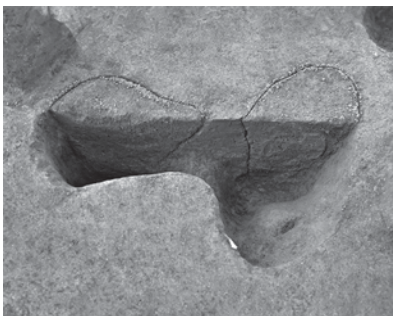
12. SP714 土層断面 南南東から



13. SP715 土層断面 南南東から

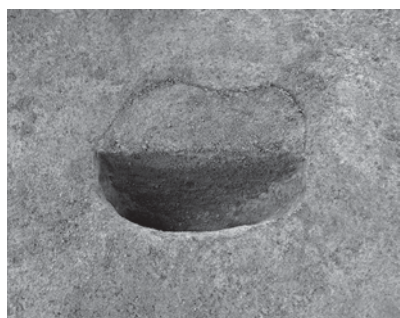


14. SP716 土層断面 北北西から



15. SP717(左)・718土層断面 南東から

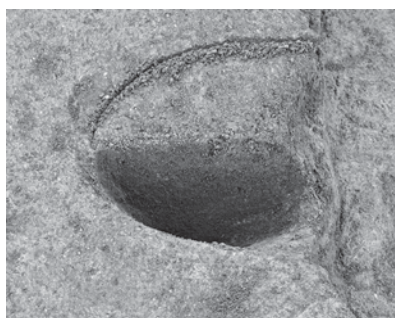
第 366 図 SP694 ～ 696 ・ 704 ～ 706 ・ 708 ～ 711 ・ 713 ～ 718 写真



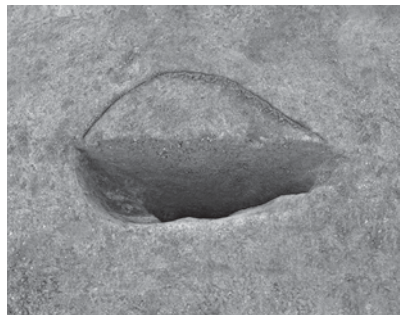
1. SP719 土層断面 南西から



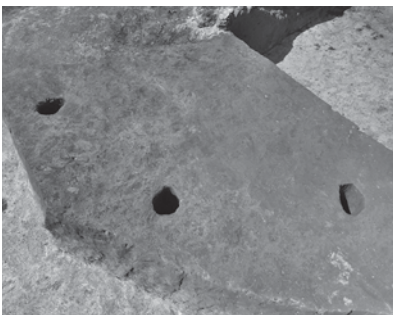
2. SP721 土層断面 北東から



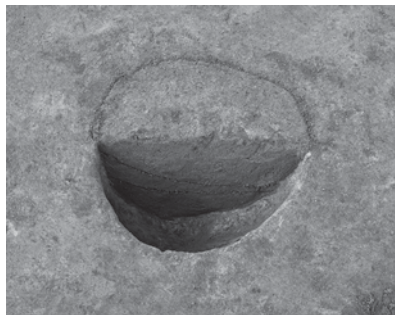
3. SP722 土層断面 北北西から



4. SP724 土層断面 南南東から



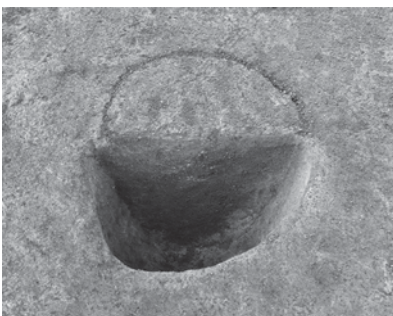
5. (右から)SP725・726・727全景 東から



6. SP728 土層断面 南南東から



7. SP729 土層断面 東北東から



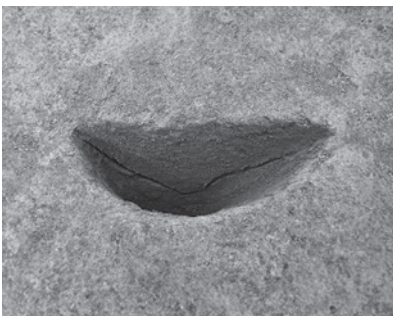
8. SP731 土層断面 南南東から



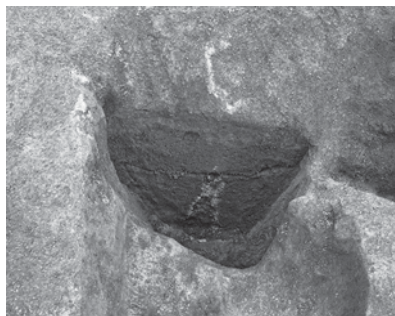
9. SP732 土層断面 南東から



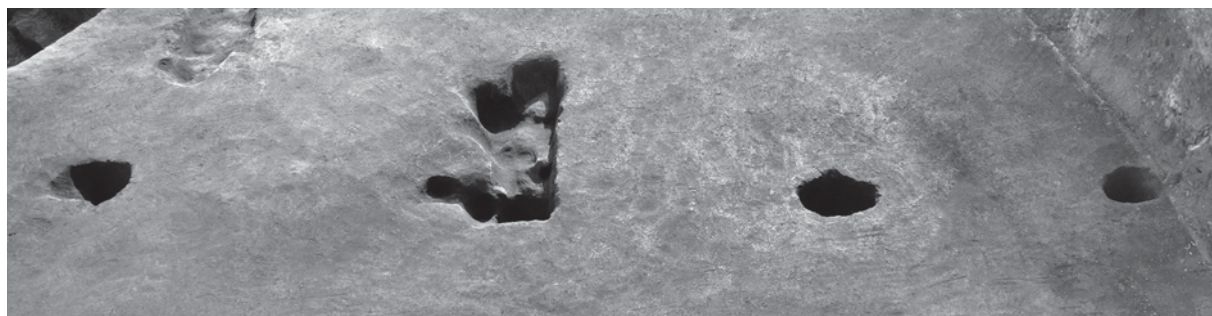
10. SP735 土層断面 南西から



11. SP736 土層断面 南西から

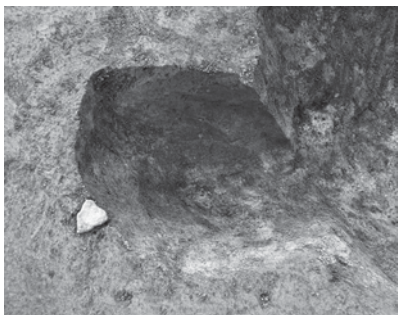


12. SP739 土層断面 西南西から

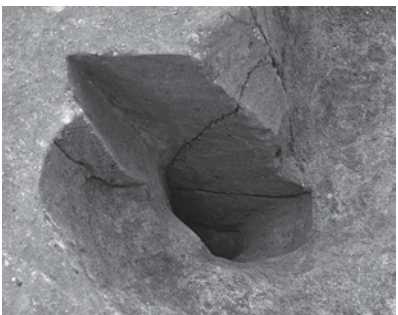


13. (左から)SP734・739・736・735全景 東北東から

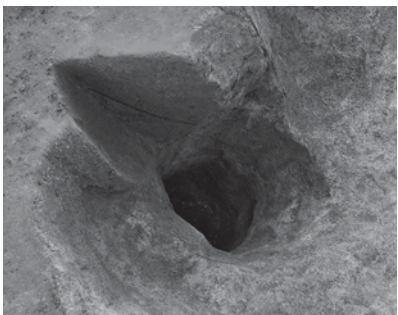
第 367 図 SP719・721・722・724～729・731・732・734～736・739 写真



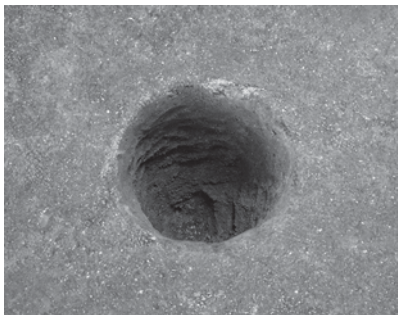
1. SP737 全景 南東から



2. SP738 土層断面 東南東から



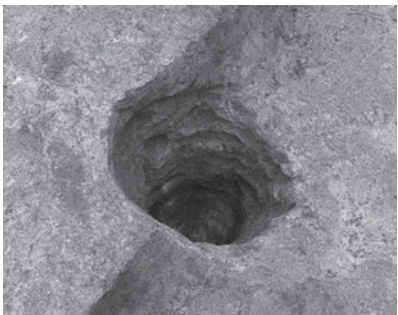
3. SP738 全景 東南東から



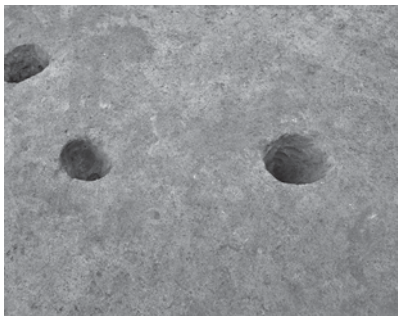
4. SP740 全景 南南西から



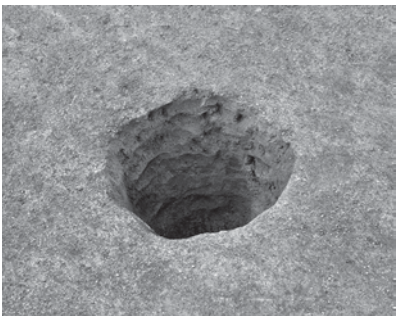
5. SP741(左)・742 全景 南南西から



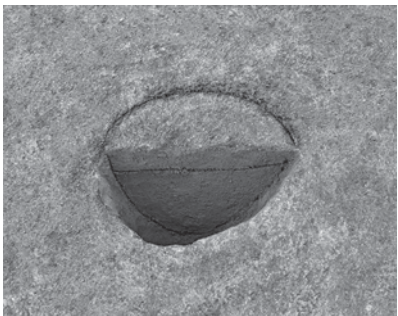
6. SP746 全景 東から



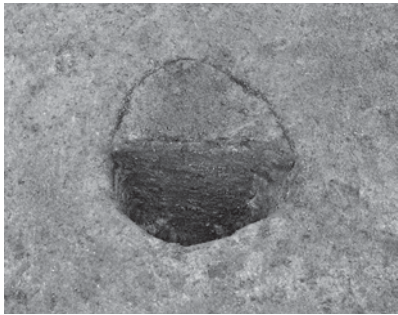
7. SP747(左)・748 全景 南南西から



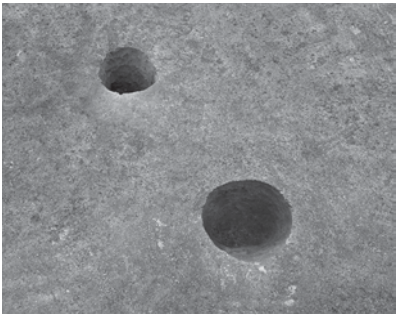
8. SP749 全景 南南東から



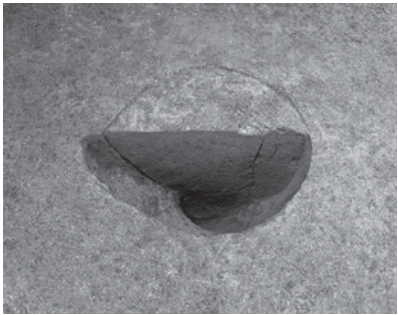
9. SP750 土層断面 南南東から



10. SP752 土層断面 南南東から



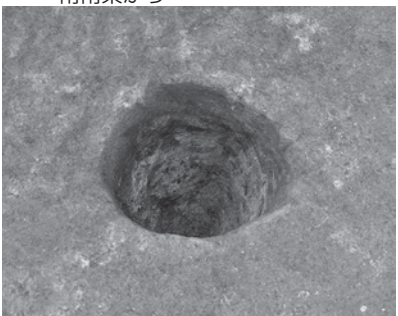
11. SP761(手前)・762 全景 南南東から



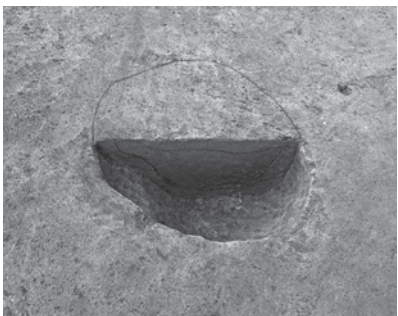
12. SP763 土層断面 南南東から



13. SP765 全景 南南東から

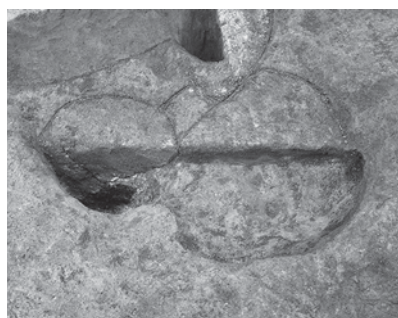


14. SP766 全景 北北東から



15. SP768 土層断面 南南東から

第 368 図 SP737・738・740～742・746～750・752・761～763・765・766・768 写真



1. SP770 土層断面 北から



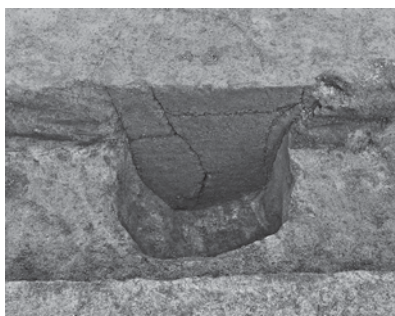
2. SP773 土層断面 東から



3. SP775 土層断面 東北東から



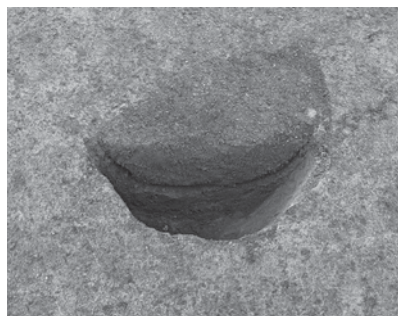
4. SP777 土層断面 西南西から



5. SP778 土層断面 西から



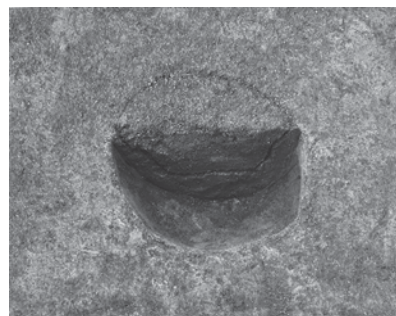
6. SP778 全景 西から



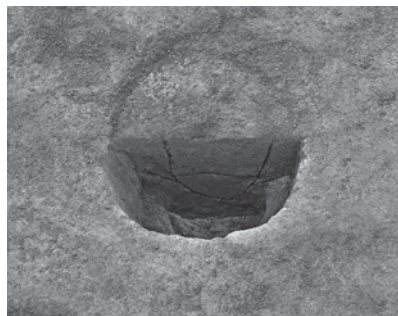
7. SP780 土層断面 南南東から



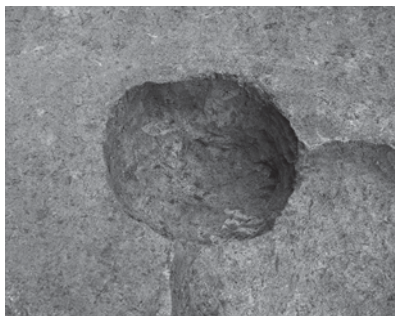
8. SP782 土層断面 西から



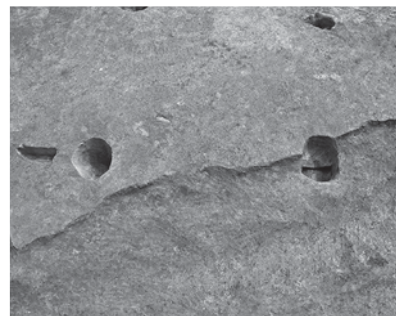
9. SP901 土層断面 南南東から



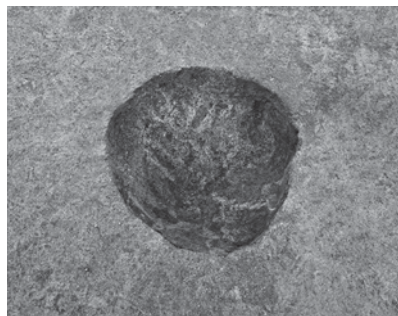
10. SP902 土層断面 東から



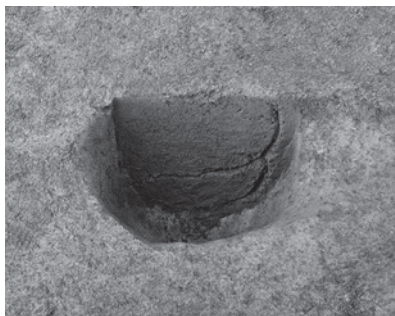
11. SP905 全景 西南西から



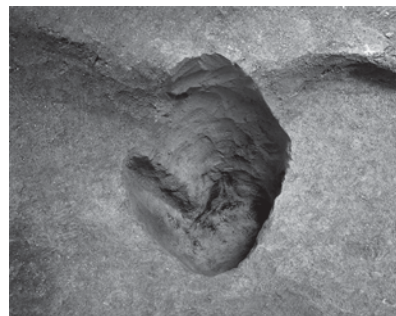
12. SP907(左)・908 全景 北から



13. SP909 全景 南南西から

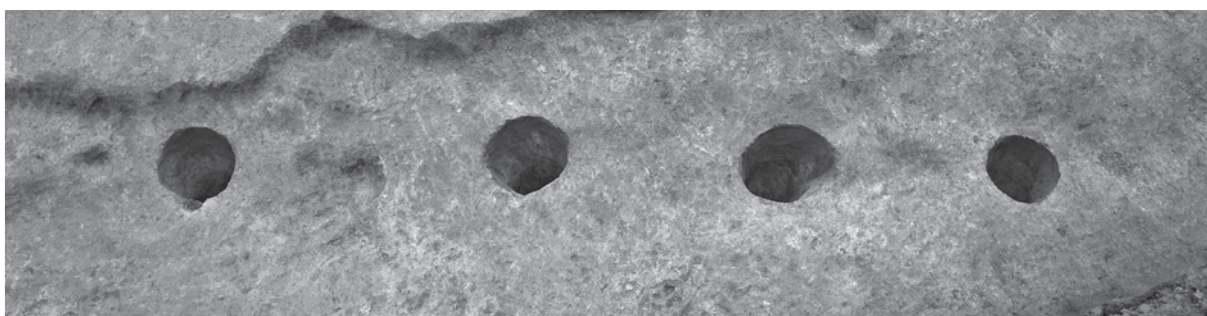


14. SP915 土層断面 南南東から

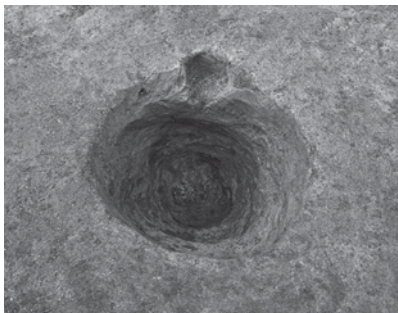


15. SP916 全景 南南東から

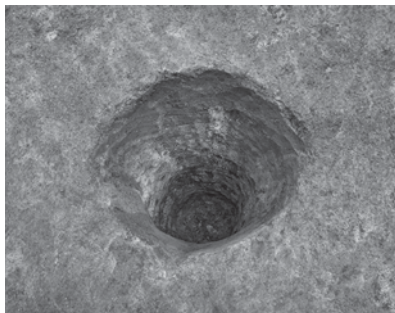
第 369 図 SP770・773・775・777・778・780・782・901・902・905・907～909・915・916 写真



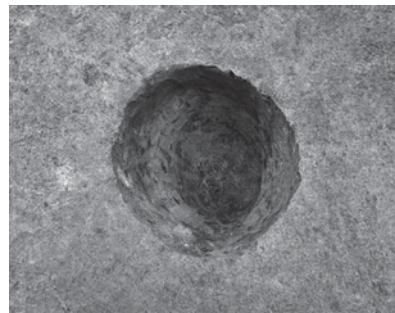
1. (左から)SP917・918・919・942 全景 北北西から



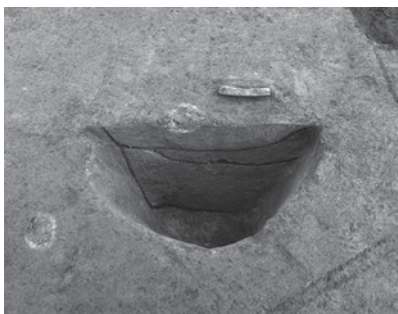
2. SP917 全景 南南東から



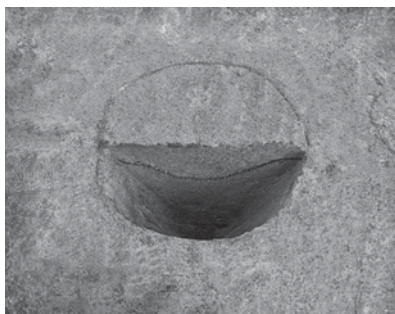
3. SP918 全景 北北西から



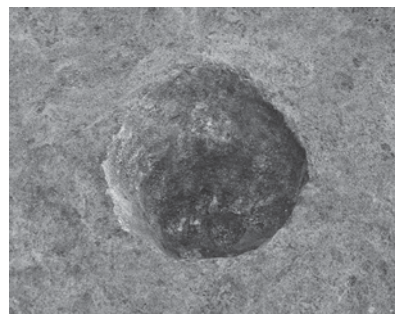
4. SP942 全景 北北西から



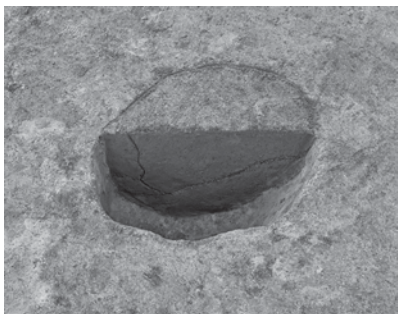
5. SP924 土層断面 南南西から



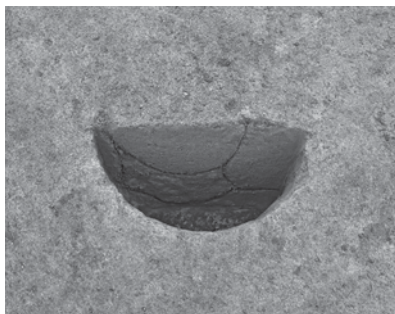
6. SP928 土層断面 南西から



7. SP929 全景 南西から



8. SP933 土層断面 南南東から



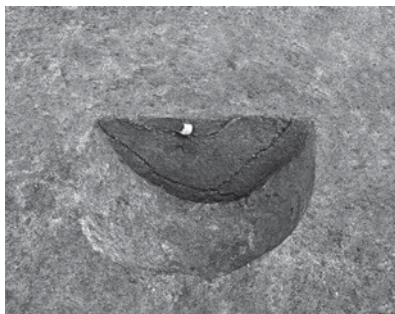
9. SP934 土層断面 南南東から



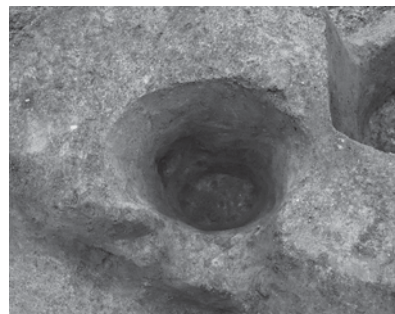
10. SP936 土層断面 北から



11. SP945 土層断面 東北東から



12. SP948 土層断面 南南東から

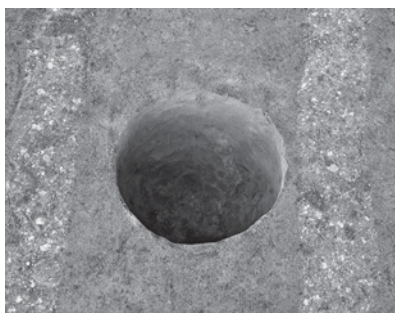


13. SP949 全景 北から

第 370 図 SP917・918・919・924・928・929・933・934・936・942・945・948・949 写真



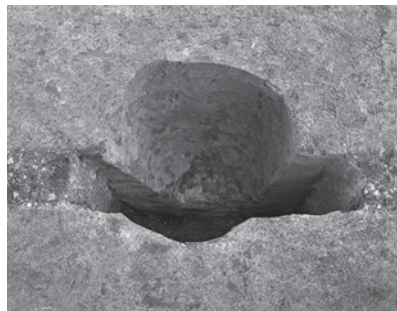
1. SP952 土層断面 西南西から



2. SP955 全景 南南東から



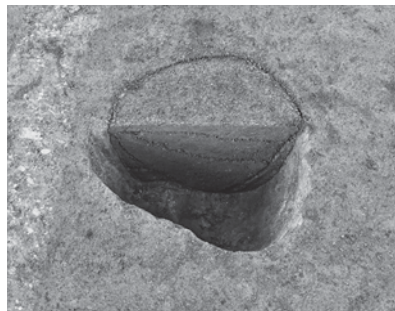
3. SP959 土層断面 東北東から



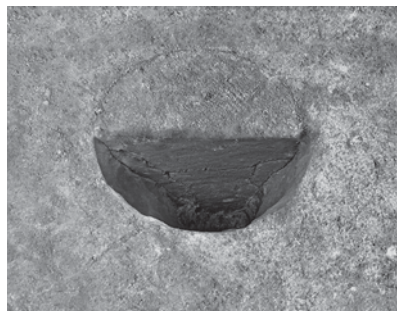
4. SP960 全景 西南西から



5. SP961 全景 西南西から



6. SP962 土層断面 南南東から



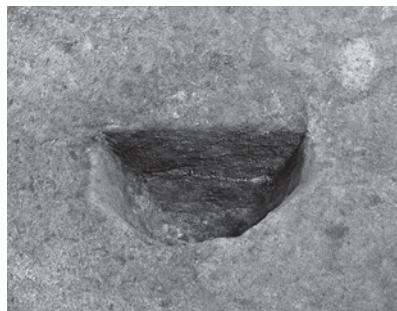
7. SP965 土層断面 西南西から



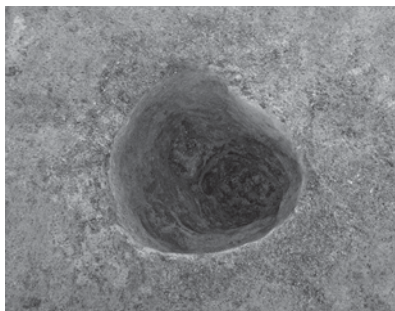
8. SP966 土層断面 東北東から



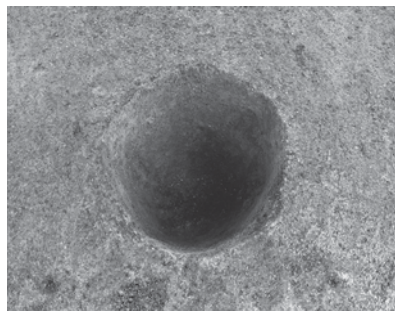
9. SP968 土層断面 北北西から



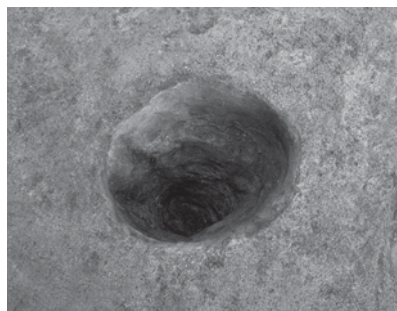
10. SP971 土層断面 南南東から



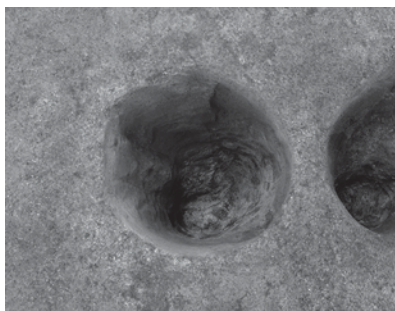
11. SP1000 全景 南南東から



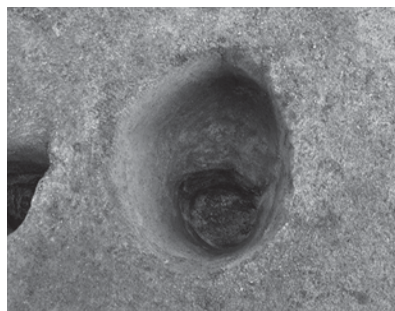
12. SP1004 全景 南南西から



13. SP1005 全景 南南東から



14. SP1007 全景 南南西から



15. SP1008 全景 南南西から

第 371 図 SP952・955・959～962・965・966・968・971・1000・1004・1005・1007・1008 写真

第 57 表 古代末～中世ピット一覧表 (1)

遺構名	グリッド	挿図番号		形態		規模 (cm)			検出面	遺物	備考 (重複関係等)
		図面	写真	平面	断面	長軸	短軸	深さ			
SP632	29Q-13	第 355 図	第 364 図	不整楕円形	D	28	14	18	Ⅲ2	—	
SP633	29Q-13	第 331 図	第 364 図	不整楕円形	B	24	17	22	Ⅲ2	—	
SP634	29Q-12	第 355 図	第 364 図	不整楕円形	A	23	15	28	Ⅲ2	—	
SP636	29Q-12	第 355 図	第 364 図	卵形	B	16	15	12	Ⅲ2	—	
SP637	29Q-23	第 355 図	第 364 図	円形	B	25	21	36	Ⅲ2	—	
SP640	28Q-40	第 331 図	第 364 図	楕円形	A	50	(33)	12	Ⅲ2	—	
SP642	28Q-48	第 355 図	第 364 図	(円形)	B	(29)	(11)	59	Ⅲ2	—	SD12 に切られる。
SP643	28Q-48	第 355 図	第 364 図	円形	A	27	26	31	Ⅲ2	—	
SP644	28Q-48	第 355 図	第 364 図	円形	D	25	23	30	Ⅲ2	土師器 1 点 1.2g	
SP645	28Q-48	第 330・331 図	第 364 図	卵形	B	17	15	16	Ⅲ2	—	
SP648	28Q-48	第 355 図	第 364 図	隅丸方形	C	23	22	19	Ⅲ2	—	
SP649	28Q-48	第 355 図	第 364 図	円形	B	23	22	20	Ⅲ2	—	
SP651	28Q-48	第 355 図	第 364 図	楕円形	A	26	23	23	Ⅲ2	焼礫 1 点 32.7g	
SP652	28Q-47	第 355 図	第 364 図	隅丸方形	A	23	22	41	Ⅲ2	—	
SP654	28Q-56	第 355 図	第 364 図	円形	C	35	34	16	Ⅲ2	—	
SP655	28Q-54・55	第 356 図	第 364 図	楕円形	A	36	29	35	Ⅲ2	—	
SP656	28Q-62・72	第 356 図	第 364 図	楕円形	C	48	35	49	Ⅲ2	礫 2 点 629.0g	SS15 を切る。
SP657	28Q-72	第 356 図	第 364 図	不整楕円形	D	58	44	41	Ⅲ2	—	SS15 を切る。
SP658	28Q-72	第 356 図	第 364 図	楕円形	C	51	46	47	Ⅲ2	—	SS15 を切る。
SP660	28Q-62	第 356 図	第 365 図	不整楕円形	D	48	45	37	Ⅱ3	—	
SP665	28Q-55	第 356 図	第 365 図	(円形)	(B)	(32)	(13)	30	Ⅲ2	—	SKK961 に切られる。
SP667	28Q-72	第 356 図	第 364 図	円形	C	31	26	53	Ⅲ2	—	SS15 を切る。
SP668	28Q-81	第 356 図	第 365 図	(円形)	A	(27)	(27)	33	Ⅲ2	—	
SP669	28Q-81	第 356 図	第 365 図	円形	A	22	21	23	Ⅲ2	—	
SP670	28Q-81	第 356 図	第 365 図	隅丸長方形	A	28	22	18	Ⅲ2	—	
SP673	28Q-74	第 357 図	第 365 図	卵形	A	24	19	19	Ⅲ2	—	
SP674	28Q-55・65	第 356 図	第 364 図	円形	C	50	48	45	Ⅲ2	—	
SP676	28Q-65・66	第 357 図	第 365 図	楕円形	C	52	40	25	Ⅲ2	須恵器 1 点 2.1g	
SP677	28Q-41・42	第 357 図	第 365 図	円形	A	32	28	28	SD13 底面 (Ⅲ2)	土師器 2 点 1.7g	SD13 に切られる。
SP681	28Q-29	第 357 図	第 365 図	卵形	A	31	29	30	Ⅲ2	—	SK204 を切る。
SP683	27Q-79	第 330 図	第 365 図	卵形	D	21	15	20	Ⅳ	焼礫 1 点 99.5g	
SP685	28Q-61	第 330 図	第 365 図	円形	A	21	20	15	Ⅲ2	—	
SP686	28Q-61	第 330 図	第 365 図	隅丸長方形	A	25	18	35	Ⅲ2	—	
SP687	28Q-61	第 330 図	第 365 図	円形	A	26	25	25	Ⅲ2	—	
SP688	28Q-42	第 357 図	第 365 図	(円形)	A	(22)	(22)	11	SI62 覆土	焼礫 3 点 1,473.0g	SI62 を切る。
SP689	27Q-70	第 330 図	第 365 図	卵形	C	29	21	17	Ⅲ2	—	
SP690	27Q-70	第 330 図	第 365 図	卵形	B	24	22	43	Ⅲ2	—	
SP691	27Q-60・70	第 330 図	第 365 図	楕円形	A	21	17	20	Ⅲ2	—	
SP692	27Q-60	第 330 図	第 365 図	楕円形	C	25	22	25	Ⅲ2	—	
SP694	28Q-82	第 357 図	第 366 図	楕円形	C	26	22	21	Ⅲ2	—	
SP695	28Q-81	第 357 図	第 366 図	円形	A	18	16	30	Ⅲ2	—	
SP696	28Q-61	第 330 図	第 366 図	楕円形	D	27	23	18	Ⅲ2	—	
SP704	28Q-51	第 357 図	第 366 図	円形	A	14	14	15	Ⅲ2	—	
SP705	27Q-99	第 330 図	第 366 図	円形	A	25	22	22	ⅤS	—	
SP706	27Q-80	第 330 図	第 366 図	楕円形	D	39	31	34	Ⅲ2	—	
SP708	28Q-61	第 357 図	第 366 図	楕円形	A	37	33	68	Ⅲ2	—	
SP709	27Q-70	第 357 図	第 366 図	不整楕円形	C	30	23	35	Ⅲ2	須恵器 1 点 4.1g	
SP710	28Q-73	第 330 図	第 366 図	卵形	B	25	20	35	Ⅲ2	土師器 1 点 7.8g	SS15 を切る。
SP711	28Q-72	第 330 図	第 366 図	楕円形	C	24	19	28	Ⅲ2	—	SS15 を切る。
SP713	28Q-72	第 330 図	第 366 図	円形	B	22	21	47	Ⅲ2	—	SS15 を切る。
SP714	28Q-72	第 330 図	第 366 図	円形	A	21	19	24	Ⅲ2	—	SS15 を切る。
SP715	28Q-72	第 330 図	第 366 図	卵形	B	24	16	24	Ⅲ2	土師器 1 点 0.7g	SS15 を切る。
SP716	28Q-72	第 330 図	第 366 図	卵形	B	27	21	40	Ⅲ2	—	SS15 を切る。
SP717	28Q-72	第 330 図	第 366 図	(楕円形)	B	26	(18)	32	Ⅲ2	—	SS15 を切る。
SP718	28Q-72	第 330 図	第 366 図	(小判形)	C	36	(20)	26	Ⅲ2	土師器 1 点 2.9g	SS15 を切る。
SP719	28Q-62・72	第 330 図	第 367 図	楕円形	B	29	19	21	Ⅲ2	—	SS15 を切る。
SP721	28Q-62	第 330 図	第 367 図	卵形	A	28	24	42	Ⅲ2	土師器 1 点 2.1g	SS15 を切る。
SP722	28Q-72	第 330 図	第 367 図	(円形)	B	(20)	(19)	14	Ⅲ2	—	SS15 を切る。 SKK968 に切られる。
SP724	28Q-73	第 330 図	第 367 図	卵形	E	39	28	31	Ⅲ2	—	SS15 を切る。
SP725	27Q-70	第 357 図	第 367 図	楕円形	B	27	21	44	Ⅲ2	—	
SP726	27Q-70	第 330 図	第 367 図	楕円形	C	25	20	32	Ⅲ2	—	SK206 を切る。
SP727	27Q-80	第 330 図	第 367 図	楕円形	C	28	22	28	Ⅲ2	—	
SP728	28Q-55	第 358 図	第 367 図	隅丸方形	C	66	60	48	Ⅲ2	—	
SP729	29Q-12・22	第 358 図	第 367 図	卵形	C	58	40	41	Ⅲ2	—	SI59 を切る。
SP731	29Q-12	第 358 図	第 367 図	円形	C	38	33	41	Ⅲ2	—	
SP732	29Q-22	第 358 図	第 367 図	楕円形	D	44	32	37	Ⅲ2	土師器 1 点 4.3g	
SP733	29Q-23	第 358 図	第 364 図	隅丸方形	C	36	32	40	Ⅲ2	—	

第 57 表 古代末～中世ピット一覧表 (2)

遺構名	グリッド	挿図番号		形態		規模 (cm)			検出面	遺物	備考 (重複関係等)
		図面	写真	平面	断面	長軸	短軸	深さ			
SP734	28Q-9	第 358 図	第 367 図	不整楕円形	D	42	30	26	Ⅲ1～2	—	
SP735	28Q-9	第 358 図	第 367 図	(円形)	A	(22)	(20)	25	Ⅲ1～2	—	
SP736	28Q-9	第 358 図	第 367 図	不整楕円形	B	35	32	33	Ⅲ1～2	焼礫 1 点 5.9g	
SP737	28Q-64	第 358 図	第 368 図	(楕円形)	A	(25)	(22)	19	Ⅲ2	縄文土器 1 点 8.0g	撓乱に切られる。
SP738	28Q-36	第 358 図	第 368 図	円形	C	(29)	(24)	67	SD12 側面 (Ⅲ2)	土器 1 点 10.7g、須恵器 1 点 9.4g	SD12 に切られる。
SP739	28Q-9	第 358 図	第 367 図	隅丸方形	C	28	27	39	Ⅲ1～2	—	
SP740	28Q-19	第 331 図	第 368 図	円形	B	20	19	41	SI65 覆土下層	—	SI65 を切る。
SP741	28Q-19	第 331 図	第 368 図	円形	B	19	19	45	SI65 覆土下層	—	SI65 を切る。
SP742	28Q-19	第 331 図	第 368 図	円形	C	14	13	36	SI65 覆土下層	—	SI65 を切る。
SP746	28Q-35	第 358 図	第 368 図	(円形)	C	(29)	(26)	39	Ⅲ2	—	SD12 に切られる。
SP747	29Q-12	第 359 図	第 368 図	楕円形	B	19	16	18	Ⅲ2	—	
SP748	29Q-13	第 359 図	第 368 図	楕円形	A	23	16	30	Ⅲ2	—	
SP749	29Q-3	第 359 図	第 368 図	楕円形	A	30	28	36	Ⅲ1～2	—	
SP750	29Q-3	第 331 図	第 368 図	卵形	D	30	23	32	Ⅲ1～2	—	
SP752	28Q-62	第 330 図	第 368 図	多角形	B	21	20	30	Ⅳ	—	
SP761	28P-100	第 359 図	第 368 図	円形	A	29	27	20	Ⅲ1～2	—	
SP762	28P-100	第 359 図	第 368 図	円形	C	22	21	26	Ⅲ1～2	—	
SP763	28P-100	第 359 図	第 368 図	不整楕円形	E	41	38	30	Ⅲ1～2	土器 1 点 2.9g、須恵器 1 点 11.2g	
SP765	29Q-22	第 331 図	第 368 図	楕円形	C	31	24	35	Ⅲ2	—	
SP766	28Q-29	第 330・ 331 図	第 368 図	卵形	A	26	21	38	SI65 床面	—	SI65 を切る。
SP768	28Q-38	第 359 図	第 368 図	楕円形	D	60	51	31	Ⅲ2	—	
SP770	28Q-38・48	第 359 図	第 369 図	不整楕円形	D	87	62	65	SD12 底面 (Ⅲ2)	土師器 1 点 2.2g	SK191 を切る。 SD12 に切られる。
SP773	28Q-48	第 359 図	第 369 図	(円形)	C	(32)	(32)	58	SD12 底面 (Ⅲ2)	—	SK191 を切る。 SD12 に切られる。
SP774	28Q-47	第 356 図	第 364 図	円形	B	27	24	37	Ⅲ2	—	
SP775	28Q-37	第 359 図	第 369 図	楕円形	A	32	28	21	SD12 底面 (Ⅲ2)	—	SD12 に切られる。
SP777	28Q-38	第 359 図	第 369 図	不整楕円形	D	64	28	29	SD12 底面 (Ⅲ2)	土師器 1 点 0.6g、焼礫 1 点 1.021.0g	SD12 に切られる。
SP778	29P-82・83	第 360 図	第 369 図	隅丸方形	C	34	31	48	Ⅲ1	縄文土器 1 点 5.2g、土師器 1 点 2.7g	
SP780	28Q-62	第 330 図	第 369 図	卵形	A	24	22	22	Ⅲ2	—	
SP782	28Q-48	第 360 図	第 369 図	卵形	C	28	24	20	Ⅲ2	—	
SP901	28Q-20	第 331 図	第 369 図	円形	A	21	19	20	Ⅲ3	—	
SP902	29P-92	第 360 図	第 369 図	円形	A	29	28	28	SI66 覆土	—	SI66 を切る。
SP905	29P-49	第 360 図	第 369 図	隅丸方形	A	44	39	20	SFK1底面 (Ⅲ2)	—	SFK1、SKK1341 に切られる。
SP907	29P-59	第 360 図	第 369 図	楕円形	A	40	34	35	Ⅲ1	—	
SP908	29P-58	第 331 図	第 369 図	小判形	C	40	33	33	Ⅲ1	—	SFK1 に切られる。
SP909	29P-59	第 360 図	第 369 図	楕円形	A	45	43	25	Ⅲ1	—	
SP910	29P-58	第 341 図	第 342 図	楕円形	A	28	24	16	Ⅲ2	—	掘立柱建物跡 G
SP911	29P-58	第 341 図	第 342 図	円形	A	26	23	21	Ⅲ2	焼礫 1 点 65.9g	掘立柱建物跡 G
SP912	29P-58	第 341 図	第 342 図	円形	A	26	24	26	Ⅲ2	—	掘立柱建物跡 G SFK1 に切られる。
SP913	29P-57	第 341 図	第 342 図	円形	A	22	22	20	SFK1底面 (Ⅲ2)	—	掘立柱建物跡 G SFK1 に切られる。
SP914	29P-57	第 341 図	第 342 図	円形	C	29	29	33	Ⅲ2	—	掘立柱建物跡 G
SP915	29P-57	第 360 図	第 369 図	楕円形	C	25	(18)	27	SFK1底面 (Ⅲ2)	—	SFK1 に切られる。
SP916	29P-57	第 360 図	第 369 図	卵形	C	(29)	(23)	29	Ⅲ2	—	SFK1 に切られる。
SP917	29P-67	第 361 図	第 370 図	楕円形	B	32	27	62	SFK1底面 (Ⅲ2)	—	SFK1 に切られる。
SP918	29P-66	第 361 図	第 370 図	卵形	B	33	28	58	SFK1底面 (Ⅲ2)	—	SFK1 に切られる。
SP919	29P-66	第 361 図	第 370 図	楕円形	B	39	29	50	SFK1底面 (Ⅲ2)	—	SFK1 に切られる。
SP924	29P-78・79	第 360 図	第 369 図	円形	B	37	35	49	Ⅲ2	須恵器 1 点 81.6g	
SP928	28Q-25	第 360 図	第 369 図	円形	B	39	36	47	Ⅲ2	—	
SP929	28Q-34	第 361 図	第 370 図	円形	C	30	27	23	Ⅲ2	—	
SP933	28Q-29・39	第 361 図	第 370 図	円形	C	46	42	33	Ⅲ3	—	

第 57 表 古代末～中世ピット一覧表 (3)

遺構名	グリッド	挿図番号		形態		規模 (cm)			検出面	遺物	備考 (重複関係等)
		図面	写真	平面	断面	長軸	短軸	深さ			
SP934	28Q-38	第 361 図	第 370 図	円形	C	34	32	33	Ⅲ2	—	
SP936	28Q-24・25	第 361 図	第 370 図	(円形)	C	(34)	(20)	37	Ⅲ3	—	攪乱に切られる。
SP942	29P-66	第 361 図	第 370 図	円形	C	27	25	42	SFK1底面 (Ⅲ2)	—	SFK1 に切られる。
SP945	28Q-38	第 361 図	第 370 図	不整形	D	59	29	33	Ⅲ2	—	
SP948	28Q-45	第 362 図	第 370 図	楕円形	D	72	61	40	Ⅲ2	土師器1点3.3g、焼礫 10点 380.4g	
SP949	28Q-35	第 362 図	第 370 図	(円形)	C	(30)	(21)	47	Ⅲ2	—	SD12 に切られる。
SP952	27R-24・34	第 362 図	第 371 図	(円形)	C	(44)	(30)	24	Ⅲ2	—	柱当たり検出。 SDK2736 に切られる。
SP953	27R-25	第 329 図	第 371 図	卵形	C	58	39	14	Ⅲ2	—	
SP955	27R-14	第 362 図	第 371 図	円形	C	33	30	40	Ⅲ2	—	
SP959	27R-14	第 362 図	第 371 図	(隅丸長方形)	A	(53)	(33)	33	Ⅲ2	—	SDK2703・2740 に 切られる。
SP960	27R-13	第 362 図	第 371 図	(卵形)	C	44	(42)	50	Ⅲ2	—	SDK2732 に切られる。
SP961	27R-13	第 362 図	第 371 図	(円形)	C	(34)	(28)	45	Ⅲ2	—	SDK2689・2733 に 切られる。
SP962	27R-13	第 362 図	第 371 図	(隅丸方形)	E	42	38	28	Ⅲ2	—	
SP965	29Q-24	第 363 図	第 371 図	楕円形	B	41	37	73	Ⅲ2	土師器1点2.1g、須恵器1点 19.8g、焼礫 1 点 36.6g	
SP966	27R-24	第 363 図	第 371 図	(隅丸長方形)	C	(44)	(21)	15	Ⅲ2	—	SDK2736 に切られる。
SP968	27Q-88	第 363 図	第 371 図	(不整楕円形)	E	(77)	(47)	106	Ⅲ2	—	SS16 を切る。 SDK1351 に切られる。
SP971	29P-68	第 331 図	第 371 図	円形	C	28	27	41	Ⅲ3	—	
SP1000	29P-86	第 363 図	第 371 図	卵形	B	33	32	44	Ⅲ2～3	—	
SP1004	29P-84	第 363 図	第 371 図	円形	A	27	25	24	Ⅲ2	—	
SP1005	29P-84	第 331 図	第 371 図	円形	C	30	26	70	Ⅲ2	—	
SP1007	29P-74・84	第 331 図	第 371 図	円形	C	30	28	63	Ⅲ2	—	
SP1008	29P-74・84	第 331 図	第 371 図	卵形	C	27	21	48	Ⅲ2	—	
SP1058	29Q-17	第 331 図	—	—	(A)	—	—	(38)	南壁断面 (Ⅲ3)	—	SDK2608 に切られる。

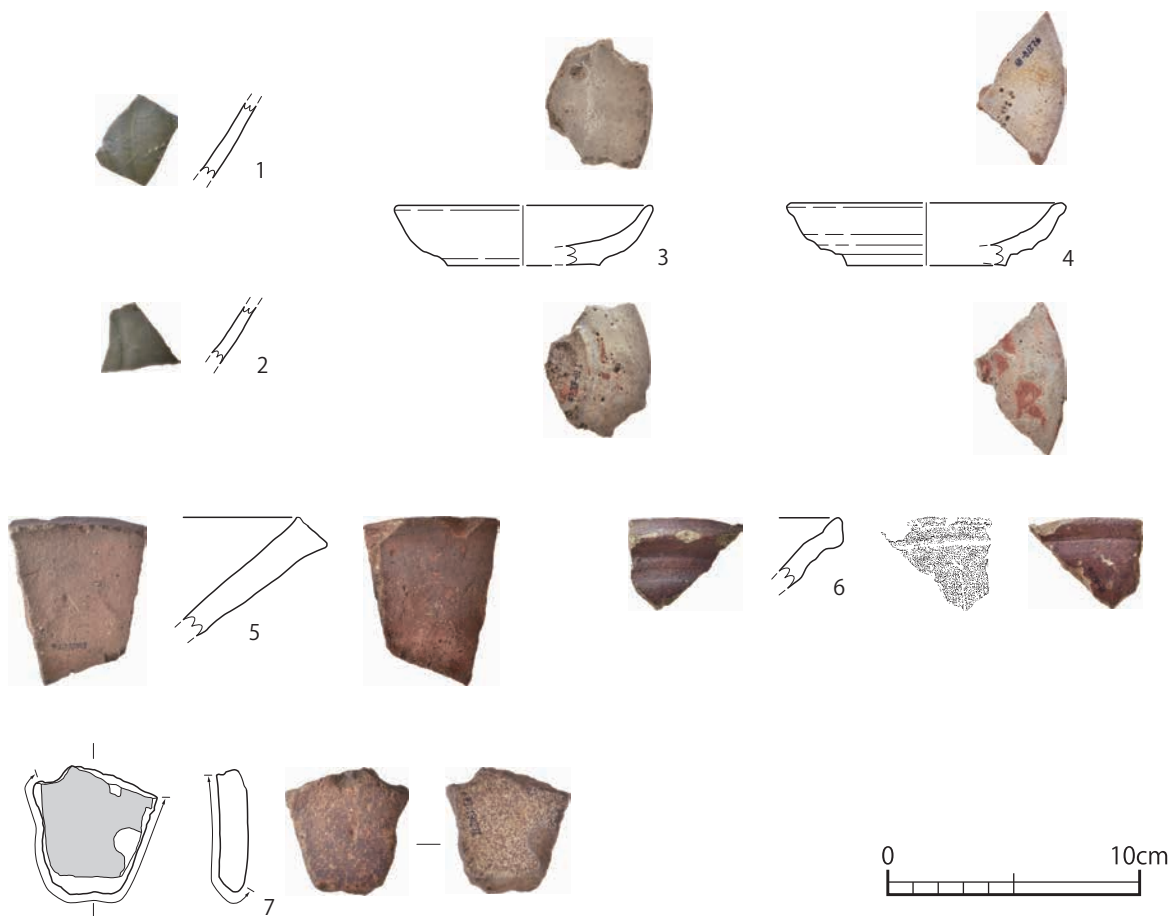
※ () 内は、遺存範囲内での数値・状況を示す。遺物欄で土器としたものは、弥生時代後期～古墳時代前期の土器を指す。

5) 遺構外出土遺物 (第 372 図、第 58 表)

中世の遺物は遺構に伴うものではなく、全て遺構外から出土した。総点数 18 点、総重量 412.9g で、磁器 2 点 12 g、陶器 16 点 400.9g である。産地別の内訳は、舶載品としては中国 (南宋) 龍泉窯産青磁 2 点 12g、国内産では、瀬戸・美濃産陶器 5 点 71.2g、常滑産陶器 10 点 312g、渥美産陶器 1 点 17.6g である。瀬戸・美濃産には、大窯期の遺物も含まれている。器種別では、碗 2 点 12g、皿 2 点 47.9g、鉢 1 点 10.3g、片口鉢 1 点 55.5g、擂鉢 1 点 13g、甕 7 点 195.8g、壺 2 点 42.9g、転用砥 1 点 35.4g である。当該期の遺物はどれも細片が多いが、比較的遺存状態の良い破片を図化し、掲載した。

第 372 図 1・2 は龍泉窯産の鎬蓮弁文の碗である。いずれも蓮弁文の一部が確認できる。3 は瀬戸・美濃産の丸皿で、高台内面を除く全面に長石釉が施される。内面には重ね焼きの痕跡であるピン跡が残るほか、高台内部には砂目が認められる。4 は瀬戸・美濃産の丸皿で、いわゆる志野皿である。全面に長石釉が施されている。5 は常滑産の片口鉢の破片である。6 は瀬戸・美濃産の擂鉢である。内面には櫛目が施されている。大窯期の製品で、15 世紀末～16 世紀前半の所産と考えられる。7 は転用砥である。常滑産の陶器甕の胴部破片を転用しており、片面と一部を除く側縁部に摩耗痕が認められる。

(小西)



第 372 図 中世遺構外出土遺物 (1/3) ・写真

第 58 表 中世遺構外出土陶磁器類観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	出土 層位	種別 器種	口径	器高	底径	特徴	残存	推定産地	備考
第 372 図	1	28Q-56	I 層	青磁 碗		(2.8)		鎚蓮弁文。	体部破片	中国 (南宋) 龍泉窯	重量 7.4g
	2	28P-100	—	青磁 碗		(2.2)		鎚蓮弁文。	体部破片	中国 (南宋) 龍泉窯	重量 4.7g
	3	30P-81	I 層	陶器 皿	[10.0]	(2.4)	[6.0]	全面に長石釉、高台風の張り出し、 内面見込み部にピン痕、底部外面に 砂目。	口縁部 1/6	瀬戸・美濃	重量 19.8g 大窯期
	4	27Q-89	—	陶器 皿	[10.7]	(2.5)	[6.3]	全面長石釉。	口縁部破 片	瀬戸・美濃	重量 14.1g 志野皿
	5	28Q-47	II 層	陶器 片口鉢		(4.6)		ロクロ成形。	口縁部破 片	常滑	重量 55.5g 15c 前半
	6	29P-68	—	陶器 掻鉢		(2.8)		内面に櫛目。	口縁部破 片	瀬戸・美濃	重量 13.0g 大窯期
	7	29P-84	II 層	陶器 甕 (転用底)	最大長 5.1	最大幅 4.9	最大厚 1.1	破断面 3 面+内面に磨り面。	胴部破片	常滑	重量 35.4g 胴部破片を転用。

6 近世以降

近世以降の遺構は、道路跡 1 条と農事関連遺構群とした溝、土坑、ピットである。これらの遺構は、覆土が基本層序Ⅰ層をベースとすること、中世に帰属する溝 SD13 を切っていること、出土遺物等から帰属時期を近世以降と判断した。

遺物は、上記の各遺構や包含層から陶磁器、土製品、石製品（砥石他）、金属製品等が出土したが、いずれも細片が主体である。

1) 道路跡

道路跡は、SFK1 の 1 条を調査した。発掘調査当初は中世頃の遺構とみなし SD15 としていた。しかし、覆土の様相や、曲線の描き方が近年の区画整理直前まで存在していた道路の曲線に沿っていること等から近世以降の遺構と判断し、また、覆土中に硬化層を検出したことから種別を道路跡として、整理調査時に種別と名称を変更した。

SFK1（第 378・379 図）

遺構 2-6 東区の北東寄り、29P-49・56～59・65～67 グリッドで検出された。掘立柱建物跡 G (SP912・913)、SP905・908・915・916・917・918・919・942 の各ピットを切っており、SKK1087・1341 及び SDK2627 の各農事関連遺構に切られている。

検出面はⅡ層～Ⅲ1層上で、概ね北東から南西に向かって、南を外側とする緩やかな曲線を描いて伸びている。北東側は現道下へと続いており、また南西側は電柱が立っているため掘削できなかったが、更にその先の日野市調査済み範囲へと延びているものと思われる。

調査範囲内での規模は長さ 23.68m、最大幅 145cm、検出面から底面までの深さは 25cm を測る。

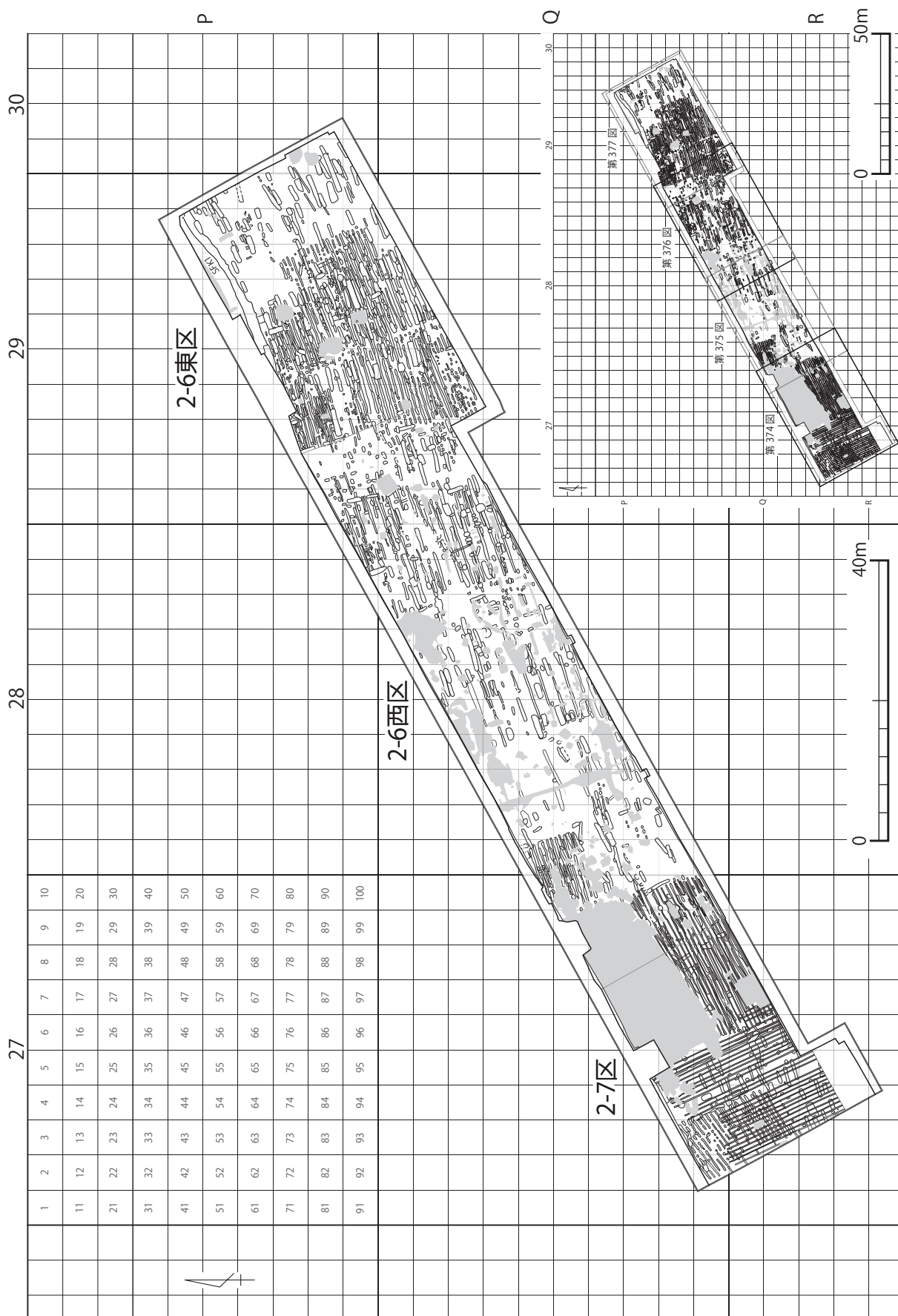
断面形態は逆台形状を呈し、全体的に南側が広く開いている。底面は比較的平坦だが、部分的にピット状の浅い窪みを有している。

覆土の堆積は 4 箇所を観察し、各所とも 3～4 層に分層した。最上部を覆う灰黄褐色の 1 層や下層の 3 層がやや硬く締まっており、また 5 層は上部が硬化していることから、埋没していく過程で、数次にわたって道として使用されていたことが窺える。また、部分的にみられる最下層の 5 層には、炭化物や焼土の粒子が混入している。（相原）

遺物 本遺構からは、近世の瀬戸・美濃産陶器（鉢）1 点 9.8g、縄文土器（加曾利 E4～5 式）1 点 5.9g、古代の土師器（甕）4 点 12.8g、古代の須恵器 3 点 67.7g（甕 2 点 62.9g、長頸瓶 1 点 4.8g）、礫（被熱礫を含む）19 点 723.6g が出土した。近世の陶器を除き、出土遺物の大部分は周辺等からの混入品と考えられる。ただし、近世の陶器についても覆土の比較的高い位置から出土しており、本遺構に伴う遺物と断定はしがたい。本遺構出土遺物は細片だったため、図化は行っていない。（小西）

2) 農事関連遺構群（第 374～377・380 図）

近世以降の遺構としたもののうち、道路跡 SFK1 を除く遺構群を扱う。溝（略号 SDK）726 条、土坑（同 SKK）636 基、ピット（同 SPK）124 基が該当する。複数条が並走する溝は畑作に伴う畝間溝、比較的群集する土坑は野菜の貯蔵用等の土坑とみられることから、2024 年度報告地点と同様、これ



第 373 図 近世以降の遺構分布図・区割図 (1/800・1/2,000)

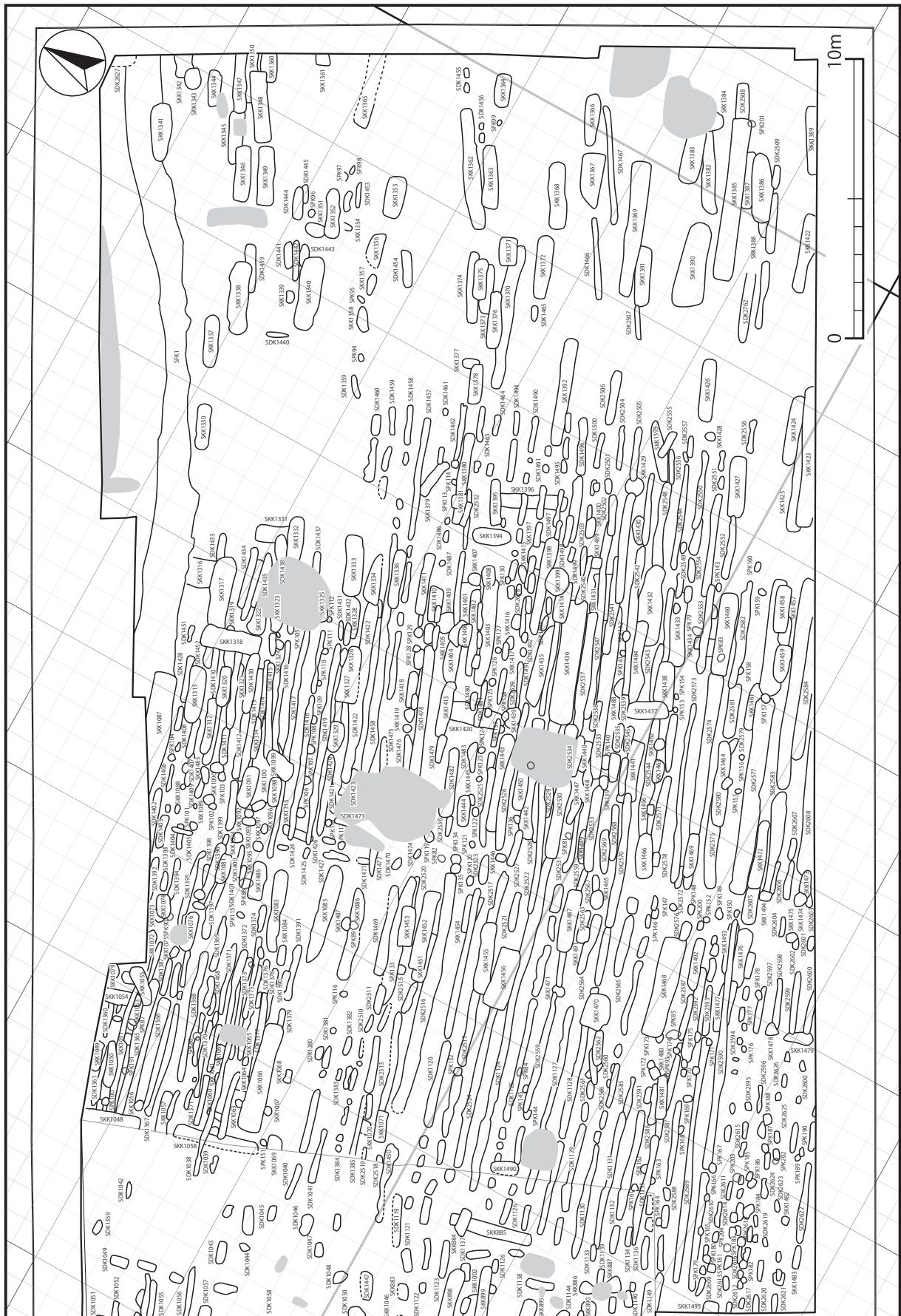


第 374 図 近世以降の遺構分布図割図 (1)(1/200)

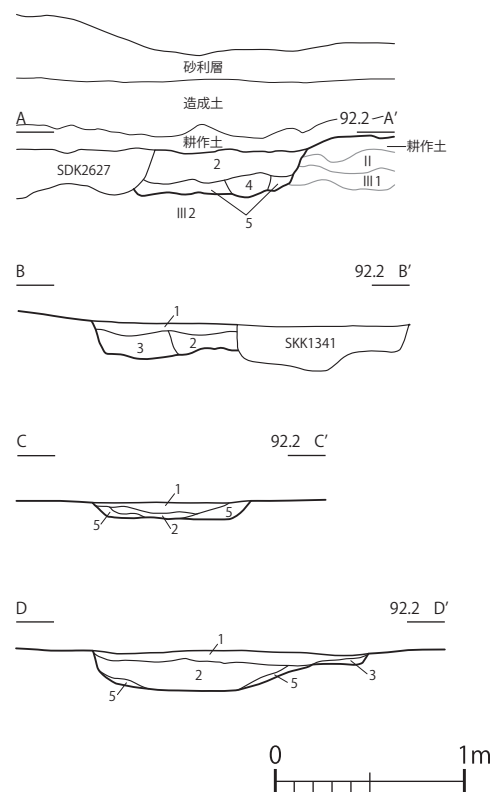
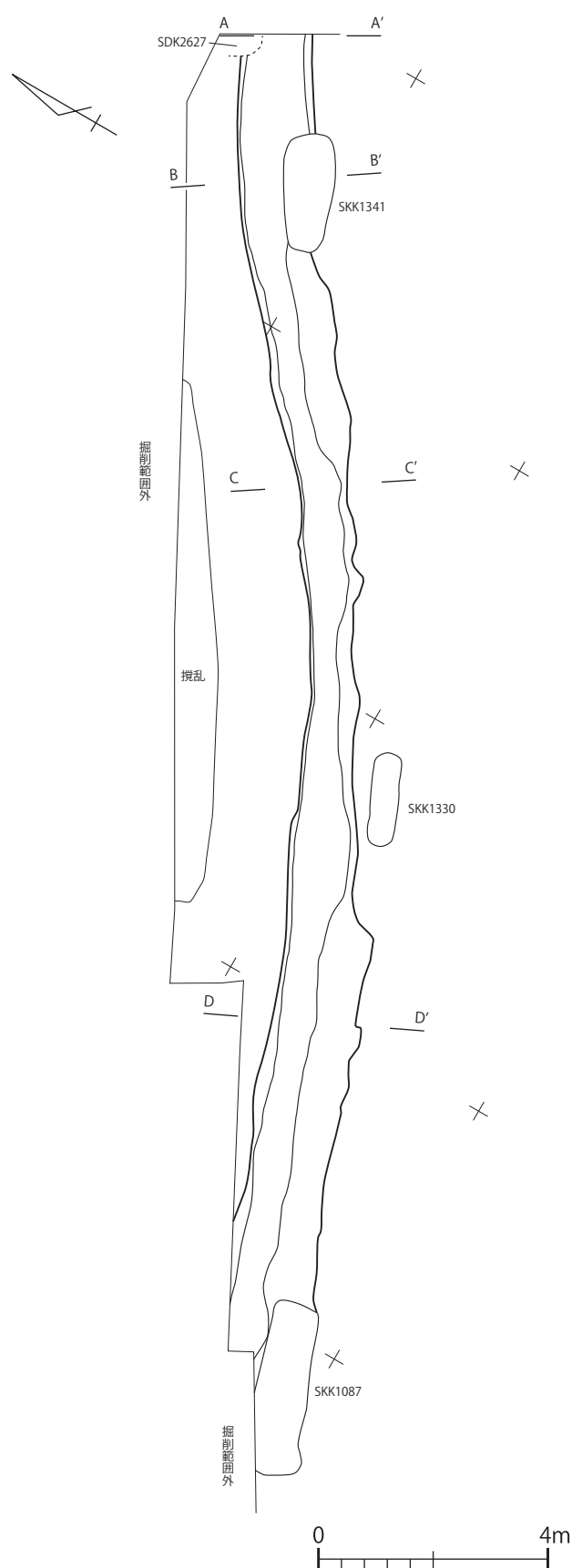




第 376 図 近世以降の遺構分布図割図 (3)(1/200)



第 377 図 近世以降の遺構分布図割図 (4)(1/200)



SFK1

1. 10YR4/2 灰黄褐色土層 直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)7%、直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)7%含む。締まりやや硬緻、粘性やや弱い。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 耕作土主体。直径 3mm 以下の赤褐色スコリア (5YR4/6)を 7%、直径 3mm 前後の黒褐色スコリア (10YR2/2)を 5%、小礫・直径 5mm の炭化物粒子を各 1%含む。粘性が弱く、締まりはやや弱い。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 3mm 以下の橙色スコリア (7.5YR6/8)7%、直径 2mm 以下の黄橙色スコリア (10YR8/8)5%含む。締まりやや硬緻、粘性ややあり。
4. 10YR2/2 黒褐色土層 耕作土主体。直径 1mm の赤褐色スコリア (5YR4/6)を 5%、直径 3mm 前後の黒褐色スコリア (10YR2/2)を 3%含む。粘性・締まり弱い。
5. 10YR3/1 黒褐色土層 直径 1mm 前後の赤褐色スコリア (5YR4/6)を 5%、直径 3mm の炭化物粒子や焼土粒子を各 1%含む。粘性が弱く、締まりはやや強く、上部が硬化している。

第 378 図 SFK1(1/40・1/120)



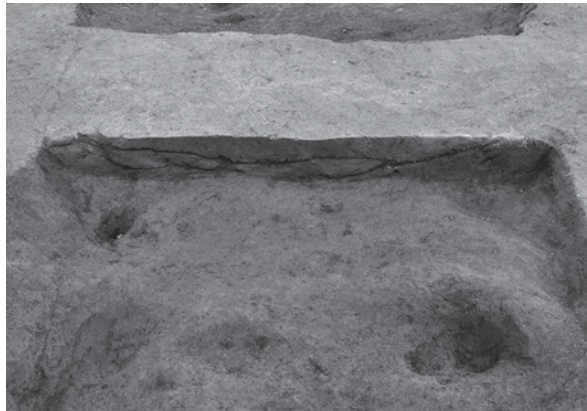
1. 遺構検出状況 西南西から



2. 硬化面検出状況 西南西から



3. 全景 西南西から



4. 土層断面 C-C' 西南西から



5. 土層断面 D-D' 西南西から

第 379 図 SFK1 写真

らを農事関連遺構とした。

溝

溝は、調査区内全域において 726 条が検出された。幅や主軸方位、長さ等が比較的揃った溝が並行して複数条検出されたものは、畑の畝間溝と考えられる。掘り込みは全般的に浅く、断面形状は逆台形であることが多い。覆土はⅠ層土をベースとしたものが主体である。

これらは分布状況から複数の群に分けられ、この群は、当時の区画を示しているものとみられる。また、各群の間にある遺構の空白地帯は通路や区画境と考えられる。



1. 2-6 西区 北西部近世以降遺構検出状況 西南西から



2. 2-6 西区 北東部近世以降遺構検出状況 東北東から



3. 2-6 西区 南東部近世以降遺構検出状況 西南西から



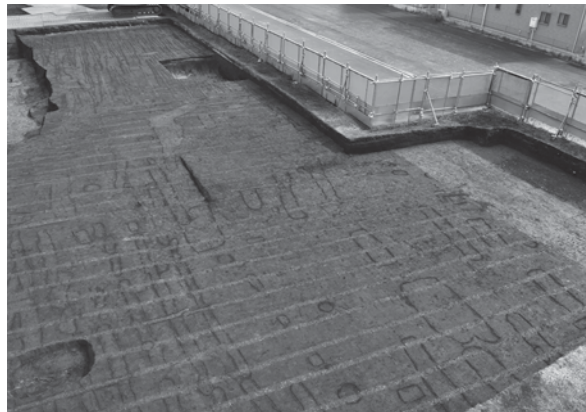
4. 2-6 西区 南西部近世以降遺構検出状況 東北東から



5. 2-6 東区 北部近世以降遺構検出状況 南南東から



6. 2-6 東区 南部近世以降遺構検出状況 西南西から



7. 2-7 区 南部近世以降遺構検出状況 西から

第 380 図 近世以降の遺構全景写真

なお、2-6 西区西端部から 2-7 区の広範囲にかけて見られる、幅 15cm 程度の一定幅で、深くローム層まで掘り込まれている直線的な溝は、根菜類を栽培する際に用いられるトレンチャーによるもので、近～現代のものであろう。

土坑

土坑は 636 基が検調査範囲内の各所で検出された。その多くは、主軸が上記の溝に平行するが、直交するものもみられる。平面形態は概ね長方形、底面は比較的平坦で、壁は垂直に立ち上がるものが主体である。覆土は概ね I 層土をベースとしている。

これらは、作物の貯蔵用の「イモ穴」や、廃棄用のごみ穴等として用いられたものが多いと想定される。

ピット

近世以降のピットは 124 基を検出した。2-6 東区が中心で、2-7 区にも見られる。これらの多くは単独のものが散在しており、用途等は不明であるが、2-6 東区では、数基のピットが比較的等間隔で並ぶ箇所もあることから、一部は柵等の柱穴であった可能性も考えられる。

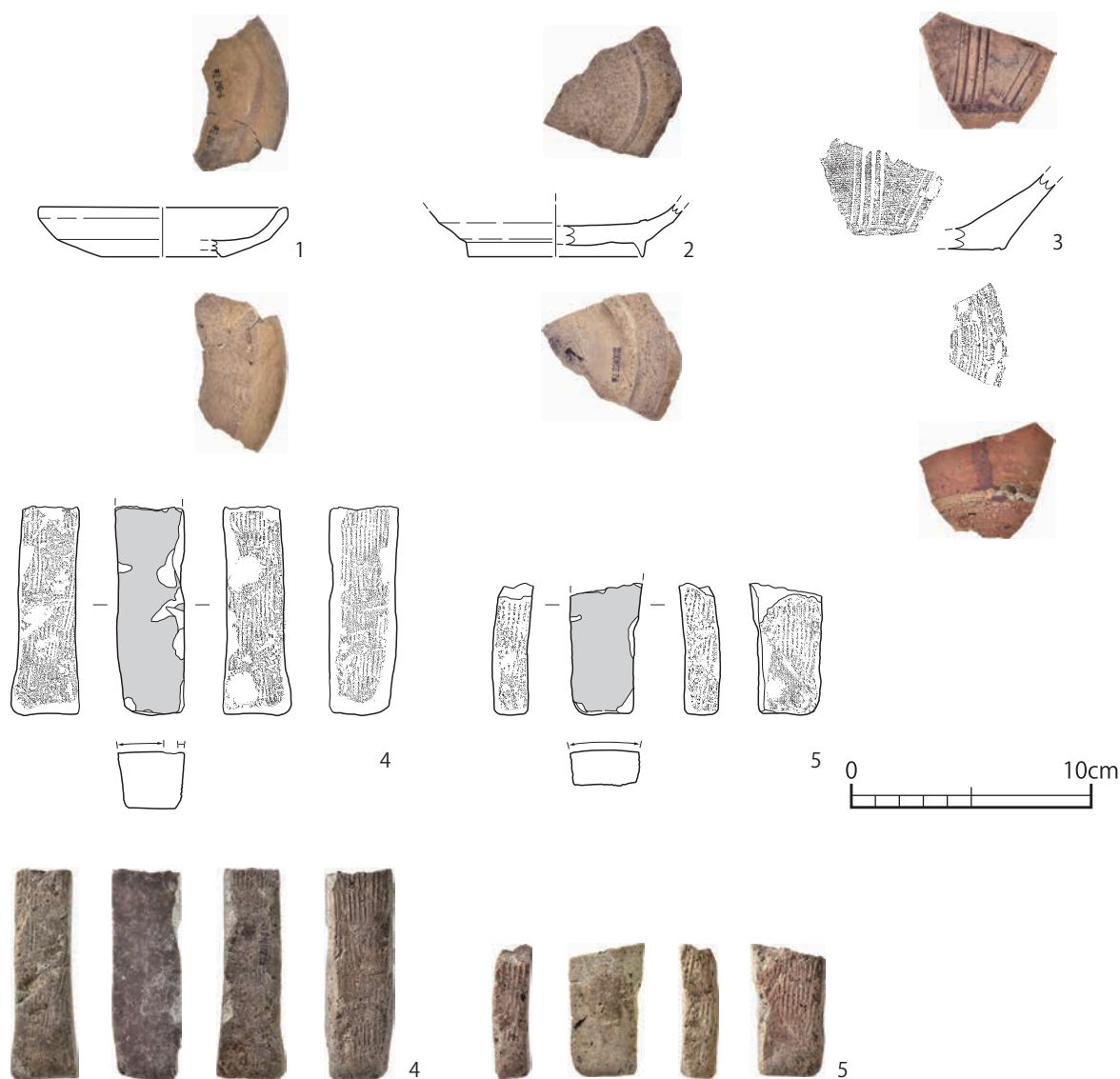
これらの農事関連遺構は、近世以降の帰属としているが、明治時代初期の切絵図に見られる区画が一部は戦後まで維持されていて、各区画が耕地として使用されていたことから、近代やそれ以降のものも少なからず含まれていることが想定される（第 VI 章第 6 節参照）。（相原）

3) 遺構外出土遺物（第 381 図、第 59・60 表）

近世の遺構外出土遺物の大半は、グリッド一括として取り上げたものである。総点数 69 点、総重量 629.2g で、その内訳は、磁器 10 点 38.1g（瀬戸・美濃産 1 点 3.5g、肥前産 8 点 33.9g、産地不明 1 点 0.7g）、陶器 54 点 433.9g（瀬戸・美濃産 43 点 354.7g、肥前産 4 点 27.6g、丹波産 1 点 9.8g、常滑産 1 点 14.3g、産地不明 5 点 27.5g）、石製品 3 点 155.3g、土製品 1 点 1.4g、金属製品（銭貨）1 点 0.4g である。機種別では、碗 18 点 86.6g、皿 15 点 63.2g、蓋 1 点 7.6g、鉢 13 点 188g、擂鉢 2 点 46.7g 甕 2 点 18.2g、火入れ 2 点 13.7g、徳利 1 点 9.1g、土瓶 1 点 11.5g、器種不明 9 点 27.6g である。銭貨については、状態が悪く、銭銘の判読も難しい。

遺物の分布状況を見ると、2-6 東区では比較的濃い密度で分布している一方で、2-6 西区や 2-7 区では散漫な分布になっている。当該期の遺物の大部分は細片だが、比較的遺存状態の良い破片を選び、図化を行った。

第 381 図 1 は瀬戸・美濃産陶器皿である。口縁部外面から内面にかけて灰釉が施され、挟り込み高台を有する。2 は瀬戸・美濃産陶器鉢で、内面には重ね焼きの痕跡が残る。3 は瀬戸・美濃産陶器擂鉢である。内面には 4 条 1 単位の櫛目が見られ、底部には回転糸切り痕が残る。4・5 はいずれも変質流紋岩製の砥石で、3 面に製作時の加工痕が見られる。（小西）



第 381 図 近世以降遺構外出土遺物 (1/3)・写真

第 59 表 近世以降遺構外出土陶磁器類観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	出土 層位	種別 器種	口径	器高	底径	特徴	残存	推定産地	備考
第 381 図	1	29P-98・ 29Q-6	—	陶器 皿	[10.2]	(2.1)	[5.0]	轆轤整形、内外面に灰釉、挟り込み 高台。	口縁～体 部 1/6	瀬戸・美濃	重量 16.6g
	2	29P-97	Ⅲ層	陶器 鉢		(1.9)	高台部 [7.2]	轆轤整形、内外面に灰釉、内面見込 み部分に重ね焼きの痕跡。	高台部 1/6	瀬戸・美濃	重量 27.8g
	3	29P-69	—	陶器 播鉢		(2.7)		轆轤整形、櫛目 5 本 1 単位、底部 に糸切り痕。	体～底部 破片	瀬戸・美濃	重量 36.9g

第 60 表 近世以降遺構外出土石製品観察表

※法量の () は残存、[] は復元の値を示す。

挿図 番号	遺物 番号	出土 位置	器種	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	重量 [g]	残存	石材	備考
第 381 図	4	29P-77	砥石	(8.6)	(2.8)	(2.8)	112.5g	約 2/3	変質流紋岩	片面に磨面、3 面に櫛刃タガネ痕。
	5	29P-69	砥石	(5.3)	(2.9)	(1.5)	39.4g	約 1/4	変質流紋岩	片面に磨面、3 面に櫛刃タガネ痕。

V 自然科学分析

1 平山遺跡 2-6・2-7 区の種実同定・樹種同定・放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

平山遺跡（東京都日野市西平山地内）は、浅川下流域左岸に分布する日野台地の南縁に付随する低位段丘上に位置する。平山遺跡は、これまでの発掘調査の結果、縄文時代から平安時代の遺跡であることが明らかとされている。

本分析調査では、平山遺跡 2-6・2-7 区の発掘調査において検出された遺構から出土した炭化種実・炭化材の同定および遺構の年代の検討を目的として、種実同定、樹種同定および放射性炭素年代測定を実施した。

1) 種実同定

A 試料

試料は、発掘調査所見から弥生時代後期から古墳時代前期とされる住居跡（SI59、SI60、SI65、SI66）、奈良・平安時代とされる住居跡（SI58）の炉やカマド等覆土の水洗選別により回収（抽出）された炭化種実 81 点（試料 1～81）である。試料の詳細は、同定結果とともに第 61 表に示す。

B 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、同定が可能な炭化種実をピンセット等で抽出する。炭化種実の同定は、現生標本や椿坂（1993）、中山ほか（2010）、鈴木ほか（2018）等を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて結果を一覧表で示す。また、各分類群の写真を添付して同定根拠とする。保存状態が良好な炭化種実は、デジタルノギスを用いて長さ、幅、厚さを計測し、結果を一覧表に併記する。分析後は、炭化種実を分類群別に容器に入れて返却する。

C 結果

結果を第 61 表に示す。81 試料を通じて、被子植物 7 分類群（オニグルミ、モモ、ブドウ属、ブドウ科、ヒエ属？、アワ、イネ）79 個の炭化種実が同定された。12 個は同定ができなかったが、うち 1 個（試料 28；SI66）は双子葉類の種子と考えられる。炭化種実以外は、不明炭化物 1 個、炭化材 1 個、木材 1 個（一部炭化）、非炭化種実（草本のアカザ属種子）1 個、スギナ類地下茎 4 個、昆虫類 3 個、岩片 1 個が確認された。非炭化種実（草本のアカザ属種子）、スギナ類地下茎、昆虫類は、保存状態が極めて良好であることから、後代の混入と判断される。

炭化種実群（不明を除く）は、木本 4 分類群（オニグルミ、モモ、ブドウ属、ブドウ科）55 個、草本 3 分類群（ヒエ属？、アワ、イネ）24 個から成る。栽培植物は、モモが 18 試料 31 個（試料 64～81）、モモ？が 1 個（試料 52）、アワが 3 個（試料 8・15・56）、アワ？が 1 個（試料 18）、イネが 15 個（試料 10・17・23～25・29・33・35・38・40・42・45・55・61・62）、イネ？が 4 個（試料 2・21・49・57）の、計 56 個の他、栽培の可能性のあるヒエ属？が 1 個（試料 12）確認された。

第 61 表 種実同定結果

試料 番号	遺構名	土壌 サンプル名	時期	分類群	部位	状態	個数	大きさ (mm)			図版 番号	備考	
								長さ	幅	厚さ			
1	SI60	炉	弥生時代終末期	ブドウ科?	種子?	破片	炭化	1	2.38 +	-	-	-	断面平滑
2	SI60	炉	弥生時代終末期	イネ?	穎果	完形未満	炭化	1	3.66 +	1.71 +	1.75 +	-	状態不良
3	SI60	炉	弥生時代終末期	ブドウ属	種子	完形	炭化	1	3.07	2.66	2.21	2	
4	SI60	炉 2/2	弥生時代終末期	ブドウ科	種子	破片	炭化	1	-	-	-	-	ブドウ属?
5	SI59	炉③ 1/2	弥生時代終末期	不明炭化物		完形	炭化	1	2.89	1.89	-	-	
6	SI58	炉⑤ ③ 3/3	奈良・平安	ブドウ科?	種子?	完形	炭化	1	2.58	2.06	-	-	
7	SI58	炉⑤ 2/3	奈良・平安	不明	不明	破片	炭化	1	1.21 +	-	-	-	
8	SI58	炉⑤ 1/3	奈良・平安	アワ	穎果	完形	炭化	1	-	-	-	8	
9	SI58	炉⑤ ④ 3/3	奈良・平安	昆虫類		破片		2	-	-	-	-	
10	SI58	炉⑤ ③ 3/3	奈良・平安	イネ	穎果	完形未満	炭化	1	3.10 +	1.70 +	1.18 +	-	基部欠損
11	SI58	炉⑤ ② 3/3	奈良・平安	炭化材		破片	炭化	1	-	-	-	-	
12	SI58	炉⑤ ② 3/3	奈良・平安	ヒエ属?	穎果	完形	炭化	1	-	-	-	6	
13	SI58	炉⑤ ② 3/3	奈良・平安	不明	不明	破片	炭化	1	0.87 +	-	-	-	
14	SI62	赤砂 4/4	弥生時代後期	昆虫類		破片		1	-	-	-	-	
15	SI62	炉 4/5	弥生時代後期	アワ	穎果	完形未満	炭化	1	-	-	-	-	
16	SI66	焼粘土	弥生時代後期	不明	不明	完形	炭化?	1	-	0.97	-	-	球体, 一端尖る
17	SI66	炉①	弥生時代後期	イネ	穎果	破片	炭化	1	2.16 +	-	-	-	頂部
18	SI66	炉 1/4	弥生時代後期	アワ?	穎果	破片	炭化	1	-	-	-	-	発泡, 状態不良
19	SI66	炉 1/4	弥生時代後期	木材		破片	一部炭化	1	-	-	-	-	
20	SI66	炉 1/4	弥生時代後期	不明	不明	破片	炭化	1	2.74 +	-	-	-	
21	SI66	炉 1/4	弥生時代後期	イネ?	穎果	破片	炭化	1	0.83 +	-	-	-	
22	SI66	炉焼粘土③	弥生時代後期	スギナ類	地下茎	破片		1	-	-	-	-	
23	SI66	炉焼粘土③	弥生時代後期	イネ	初・穎果	完形未満	炭化	1	4.33	2.42 +	1.51	9	
24	SI66	炉 2/4	弥生時代後期	イネ	穎果	完形	炭化	1	4.68	2.72	2.04	-	粒大 12.73, 粒形 1.72
25	SI66	炉 2/4	弥生時代後期	イネ	穎果	完形	炭化	1	4.27	2.58	1.81	-	粒大 11.02, 粒形 1.66
26	SI66	炉 2/4	弥生時代後期	不明	不明	完形	炭化?	1	1.26	-	-	-	球体, 一端尖る
27	SI66	炉焼粘土 2/3	弥生時代後期	岩片		破片		1	-	-	-	-	
28	SI66	炉焼粘土①	弥生時代後期	双子葉類	種子?	完形未満	炭化	1	2.50	2.01	1.94	12	腹面一部欠損
29	SI66	炉焼粘土 3/3	弥生時代後期	イネ	穎果	完形未満	炭化	1	3.39 +	2.38	1.87	-	頂部欠損
30	SI66	炉焼粘土 3/3	弥生時代後期	ブドウ科?	種子?	破片	炭化	1	1.52 +	-	-	-	内面微細縦長網目模様
31	SI65	炉 1/12	弥生時代後期	ブドウ科	種子	破片	炭化	1	-	-	-	-	腹面
32	SI65	炉 11/12	弥生時代後期	ブドウ属	種子	完形	炭化	1	3.44	2.39	2.01	-	
33	SI65	赤砂△ 3/4	弥生時代後期	イネ	穎果	完形未満	炭化	1	3.98 +	2.56	1.92	-	基部欠損
34	SI65	炉 7/12	弥生時代後期	不明	不明	完形未満	炭化	1	4.20	2.54	-	-	内部発泡
35	SI65	赤砂△ 1/4	弥生時代後期	イネ	穎果	完形未満	炭化	1	3.41	1.61	1.13	11	基部欠損, 粒大 5.49, 粒形 2.12
36	SI65	炉 3/12	弥生時代後期	ブドウ属	種子	破片	炭化	1	-	-	-	-	背面
37	SI65	炉 4/12	弥生時代後期	ブドウ科?	種子?	破片	炭化	1	1.99 +	-	-	-	
38	SI65	炉 2/2	弥生時代後期	イネ	穎果	完形	炭化	1	4.47	2.69	2.10	10	粒大 12.02, 粒形 1.66
39	SI65	炉 2/2	弥生時代後期	ブドウ科?	種子?	破片	炭化	1	1.77 +	-	-	-	
40	SI65	炉 2/2	弥生時代後期	イネ	穎果	完形未満	炭化	1	3.86	2.54	1.44	-	粒大 9.08, 粒形 1.52
41	SI65	炉 3/3	弥生時代後期	ブドウ属	種子	破片	炭化	1	2.25 +	-	-	-	背面
42	SI65	炉 3/3	弥生時代後期	イネ	穎果	破片	炭化	1	3.04 +	-	-	-	
43	SI65	炉 1/2	弥生時代後期	オニグルミ?	核?	破片	炭化	1	-	5.54 +	-	-	
44	SI65	炉 2/3	弥生時代後期	オニグルミ	核	破片	炭化	1	4.61 +	-	-	1	
45	SI65	炉 2/3	弥生時代後期	イネ	穎果	破片	炭化	1	1.84 +	-	-	-	頂部
46	SI65	炉 1/3	弥生時代後期	スギナ類	地下茎	破片		1	-	-	-	-	
47	SI65	炉 1/3	弥生時代後期	不明	果実?	破片	炭化	1	2.01 +	-	-	-	皮一部断面櫛状
48	SI65	炉 1/3	弥生時代後期	不明	不明	完形未満	炭化	1	1.62 +	-	-	-	
49	SI65	炉内 1/4	弥生時代後期	イネ?	穎果?	破片	炭化	1	1.99 +	-	-	-	
50	SI65	炉内 1/4	弥生時代後期	不明	果実?	破片	炭化	1	3.15 +	-	-	-	皮一部断面櫛状
51	SI65	炉内 2/4	弥生時代後期	不明	不明	破片	炭化	1	3.15 +	-	-	-	
52	SI65	炉内 2/4	弥生時代後期	モモ?	核?	破片	炭化	1	3.25 +	-	-	-	
53	SI65	炉内 4/4	弥生時代後期	スギナ類	地下茎	破片		1	-	-	-	-	
54	SI65	炉内 3/4	弥生時代後期	不明	果実?	破片	炭化	1	2.36 +	-	-	-	
55	SI65	炉内 2/4	弥生時代後期	イネ	穎果	完形未満	炭化	1	3.23	1.95	1.36	-	粒大 6.30, 粒形 1.66
56	SI65	炉内 4/4	弥生時代後期	アワ	果実・穎果	完形	炭化	1	-	-	-	7	
57	SI65	炉 2/6	弥生時代後期	イネ?	穎果?	完形未満	炭化	1	4.63	2.48	1.84	-	変形している
58	SI65	炉 1/6	弥生時代後期	スギナ類	地下茎	破片		3	-	-	-	-	
59	SI65	炉 5/6	弥生時代後期	ブドウ属	種子	破片	炭化	9	-	-	-	-	合計 1 個体分
60	SI65	赤砂 3/5	弥生時代後期	ブドウ科	種子	破片	炭化	1	-	-	-	-	
61	SI65	赤砂△ 2/4	弥生時代後期	イネ	穎果	完形未満	炭化	1	4.21	2.26	1.41	-	粒大 9.51, 粒形 1.86
62	SI65	赤砂△ 2/4	弥生時代後期	イネ	穎果	完形未満	炭化	1	3.49	2.22	1.57 +	-	粒大 7.75, 粒形 1.57
63	SI65	赤砂□ 3/4	弥生時代後期	アカザ属	種子	完形		1	-	-	-	-	
64	SI58-221		奈良・平安	モモ	核	完形未満	炭化	1	19.27	14.79 +	14.92	-	
65	SI58-227		奈良・平安	モモ	核	破片	炭化	1	-	-	-	-	食痕
66	SI58-246		奈良・平安	モモ	核	完形未満	炭化	1	20.17 +	17.85	13.22 +	-	
67	SI58-247		奈良・平安	モモ	核	完形未満	炭化	1	16.98	15.41	13.52	4	
68	SI58-248		奈良・平安	モモ	核	破片	炭化	6	-	-	-	-	
69	SI58-249		奈良・平安	モモ	核	完形未満	炭化	1	18.76	14.07 +	12.48	-	
70	SI58-250		奈良・平安	モモ	核	破片	炭化	3	-	-	-	-	
71	SI58-251		奈良・平安	モモ	核	破片	炭化	2	-	-	-	-	
72	SI58-310		奈良・平安	モモ	核	破片	炭化	3	-	-	-	-	
73	SI58-498		奈良・平安	モモ	核	破片	炭化	1	-	-	-	-	
74	SI58-568		奈良・平安	モモ	核	破片	炭化	1	-	-	-	-	
75	SI58-576		奈良・平安	モモ	核	破片	炭化	1	-	-	-	-	
76	SI58-1419		奈良・平安	モモ	核	完形未満	炭化	1	17.69 +	15.17	12.12	-	
77	SI58-1595		奈良・平安	モモ	核	完形	炭化	1	21.43	17.33	13.93	3	
78	SI58-1982		奈良・平安	モモ	核	破片	炭化	1	-	-	-	-	
79	SI58-1983		奈良・平安	モモ	核・種子	破片	炭化	2	16.21 +	14.23 +	13.16 +	5	接合し完形未満, 食痕
80	SI58-2194		奈良・平安	モモ	核	破片	炭化	3	-	-	-	-	1 個食痕
81	SI58-2199		奈良・平安	モモ	核	破片	炭化	1	-	-	-	-	

注) 計測はデジタルノギスを使用し、欠損等は残存値に「+」で示す。

栽培植物と栽培の可能性を除いた分類群は、木本類のみから成り、落葉広葉樹で高木のオニグルミが1個（試料44）、オニグルミ？が1個（試料43）、籐本のブドウ属が5試料13個（試料3・32・36・41・59）、ブドウ科が3個（試料4・31・60）、ブドウ科？が5個（試料1・6・30・37・39）の、計23個が確認された。

以下、炭化種実各分類群の形態的特徴等を記す。学名は佐竹ほか編（1982,1989a・b）に依拠した。
 ・オニグルミ（*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) Kitamura)

クルミ科クルミ属

核は径2.5～4cmの広卵体。頂部が尖り、1本の明瞭な縦の縫合線がある。核は硬く緻密で、表面には縦方向の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。出土核は破片で、残存長4.6mm程度。

・モモ（*Prunus persica* Batsch）バラ科サクラ属

核（内果皮）は長さ1.6～2.2cm、幅1.5～1.8cm、厚さ1.2～1.5cmのやや偏平な広楕円体、頂部は丸い～やや尖る。基部は切形で、中央部に湾入した臍がある。背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。一部の核にはネズミ類による食痕と考えられる円形状欠損がみられる（試料79）。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。

核内に1個入る種子は、偏平な広卵状楕円体を呈し、表面はやや平滑で細く浅い縦筋状模様がある。欠損のない炭化核の計測値は、最大で長さ21.43mm、幅17.33mm、厚さ13.93mm（試料77）、最小で長さ16.98mm、幅15.41mm、厚さ13.52mm（試料67）を測る。

・ブドウ属（*Vitis*）ブドウ科

種子は長さ3.1～3.4mm、幅2.4～2.7mm、厚さ2.0～2.2mmの広倒卵体、側面観は半広倒卵形で基部は細く嘴状に尖る核嘴がある。背面正中線の頂部から長さ0.7～0.9mmに、径1.0mmの卵形の合点があり、細く浅い溝に囲まれる。腹面正中線は（鈍）稜をなし、細い筋が走る。正中線の左右には、各1個の長さ1.7～2.0mm、幅0.5mm程度の倒皮針形で深く窪む核窪がある。種皮は薄く硬く、断面は柵状、表面は粗面。なお、背面が欠損した破片をブドウ科（Vitaceae）としている。

・ヒエ属（*Echinochloa*）？ イネ科

穎果は長さ1.3mm、幅1.3mm程度の半偏球体。背面は丸みがあり腹面はやや平ら。胚乳基部正中線上は、背面に長さ0.7mm、幅0.6mm程度の馬蹄形、腹面に径0.5mm程度の半円形の胚の窪みがある。表面は粗面。

穎果のサイズ（長さ×幅；那須,2018）は 1.69mm^2 であり、現在の野生種の上限值（ 2.6mm^2 ）よりも小型である。

・アワ（*Setaria italica* (L.) P.Beauv.）イネ科エノコログサ属

果実・穎果は、長さ1.2～1.3mm、幅1.2～1.3mm程度の半偏球体で背面は丸みがあり腹面は平ら。穎果は基部正中線上に馬蹄形の胚の凹みがある。表面に残る果皮は薄く、表面には横方向に目立つ微細な顆粒状突起が配列する。

・イネ（*Oryza sativa* L.）イネ科イネ属

粳（内外穎）は、長さ6～7.5mm、幅3～4mm、厚さ2～3mm程度の偏平な長楕円体。基部

に大きさ 1mm 程度の斜切状円柱形の果実序柄（小穂軸）と 1 対の護穎を有し、その上に外穎（護穎と言う場合もある）と内穎がある。外穎は 5 脈、内穎は 3 脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稲粃を構成する。果皮は薄く、表面には顆粒状突起が縦列する。出土粃は基部の小穂軸で、残存長 1.0mm を測る。

粃内に 1 個入る玄米（穎果）は、長さ 3.2 ～ 4.7mm、幅 1.6 ～ 2.7mm、厚さ 1.4 ～ 2.1mm の偏平な長楕円体。基部一端に胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面は粗面で内外穎の縫合部痕の縦隆条がある。

長さと幅が欠損のない炭化米 8 個の計測値をもとに、粒形（長さ / 幅）・粒大（長さ×幅）（佐藤,1988）を求めた結果、短粒で極々小型が 2 個、極小型が 3 個、小型が 2 個（試料 38）、長粒で極々小型が 1 個（試料 35）であった。

D 考察

炭化種実同定の結果、栽培植物のモモ、アワ、イネの他、栽培の可能性があるヒエ属？が確認された。

奈良・平安時代とされる SI58 より確認された果樹のモモは、中国で栽培化され、日本に渡来したと考えられており、果実が食用、薬用、呪術・祭祀用の他、観賞用としての利用が想定されている。一部の出土炭化核にはネズミ類による食痕が確認されることから、食害を受けた後に火を受けたと推測される。

弥生時代後期あるいは終末期とされる SI62、SI65、SI66 の炉、奈良・平安時代とされる SI58 のカマドより確認された雑穀類のアワ、弥生時代後期あるいは終末期とされる SI60、SI65、SI66 の炉、奈良・平安時代とされる SI58 のカマドより確認された穀類のイネは、当時利用された植物質食糧と示唆され、火を受けたとみなされる。一部のイネやアワの炭化穀粒表面に果皮（粃）が残ることから、脱粃（だっぴ；粃殻を取り去る）前の段階で火を受けたと推測される。奈良・平安時代とされる SI58 のカマドより確認されたヒエ属？は、現在の野生種の上限值（那須,2018）よりも小さいサイズに該当した。雑穀類のヒエに由来する場合、アワやイネとともに利用された畑作物と推測される。

栽培植物と栽培の可能性を除いた分類群は、落葉広葉樹のオニグルミ、ブドウ属（科）が確認された。弥生時代後期～古墳時代前期とされる SI65 の炉より確認された堅果類のオニグルミは、河畔林要素の高木であり、核内部の子葉が食用可能で、古くから利用され、遺跡出土例も多い（渡辺,1975 など）。周辺の落葉樹林から持ち込まれ、利用された植物質食料残滓と推測される。弥生時代後期あるいは終末期とされる SI60、SI65、SI66 の炉、奈良・平安時代とされる SI58 のカマドより確認されたブドウ属（科）は、河畔や林縁などの明るく開けた場所に生育する籐本であり、果実が食用可能である。出土炭化種子に人為的な利用痕跡は認められないが、遺跡周辺域の森林より採取・利用可能な環境であったと推測される。

（松元美由紀）

2) 樹種同定

A 試料

試料は、発掘調査所見から、縄文時代とされる集石（SS17）、弥生時代終末期とされる竪穴建物跡（SI59）、奈良時代とされる竪穴建物跡（SI67）および奈良・平安時代とされる竪穴建物跡（SI58）、平安時代とされる土坑（SK195）、古代末～中世とされる溝跡（SD12）等から出土した炭化材（炭化

物) 30 点(試料 82 ~ 111) である。試料の詳細および観察所見は、結果とともに第 62 表に示す。

B 分析方法

炭化材(炭化物)試料は、自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler 他(1998)、Richter 他(2006)を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

C 結果

樹種同定結果を第 62 表に示す。炭化材(炭化物)試料からは、針葉樹 3 種類(モミ属、マツ属複雑維管束亜属、カヤ)、広葉樹 6 種類(オニグルミ、カバノキ属、アカガシ亜属、クリ、ケヤキ、クスノキ科)とイネ科草本類が検出された。以下に検出された種類(分類群)の解剖学的特徴を述べる。

・モミ属(*Abies*) マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で 1 分野に 1 ~ 4 個。放射組織は単列、1 ~ 20 細胞高。

・マツ属複雑維管束亜属(*Pinus* subgen. *Diploxylon*) マツ科

軸方向組織をみると、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや緩やかで、垂直樹脂道が晩材部に

第 62 表 樹種同定結果

試料番号	測点名 / 遺構名	PT	時期	取り上げ日	樹種 (分類群)	観察所見
82	SD12-152		古代末 - 中世	2019/11/18	カバノキ属*	板状(柾目)
83	SK195-15		平安	2020/6/29	クリ*	半裁状(直径>30mm)
84	SK195-16		平安	2020/6/29	クリ?	分割材(芯持材、ミカン割状、半径≒25mm)
85	SK195-21		平安	2020/6/29	クリ?	本体は板状(板目)、破片と接合ならば分割材(半裁~ミカン割材、半径=13mm)と推定される。
86	SK195-22		平安	2020/6/29	クリ(根材)	雁股部(芯持材)
87	SK195-24		平安	2020/6/29	クリ	板状(板目)
88	SK195-81		平安	2020/7/31	クリ	細片化、分割材状(ミカン割、半径=15mm)
89	SK195-83		平安	2020/7/31	クリ(根材)*	芯持材か? 直径=22mm
90	SI58-2392	YC	奈良・平安		イネ科(草本類)	中空円筒状の植物遺体主体
91	SI58-2394		奈良・平安		クリ	分割材状
92	SI58-2398	YC	奈良・平安		アカガシ亜属	分割材状(角棒?)
93	SI58-2399	YC	奈良・平安		イネ科(草本類)	中空円筒状の植物遺体主体
94	SI58-2400	YC	奈良・平安		モミ属	板状(追柾)
95	SI58-2411		奈良・平安		クリ	板状(板目)
96	SI58-2412		奈良・平安		クリ	分割材(芯持材? 半裁~ミカン割状、半径>24mm)
97	SI59-132		弥生時代終末期		クスノキ科	最大片: 板状(板目)
98	SI59-135		弥生時代終末期		クスノキ科	破片: 広い面が板目
99	SI59-140		弥生時代終末期		クスノキ科	分割材(芯持材、板状、半径>20mm)
100	SI59-143		弥生時代終末期		ケヤキ	細片化、小破片は板目多い
101	SI67-1902	YC	奈良		クリ	分割材(芯持材、ミカン割に近い)
102	SI67-1905-2	YC	奈良		クリ*	分割材(芯持材、半径=27mm)
103	SI67-1906	YC	奈良		オニグルミ	分割材?(半裁状、半径≧10mm)
104	SI67-1923	YC	奈良		ケヤキ	芯持丸木?(直径=40mm)
105	SI67-1926	YC	奈良		アカガシ亜属	芯持丸木?(直径=20mm)
106	SI67-1927-1	YC	奈良		クリ	状態悪い、芯持丸木?(直径=28mm)
107	SI67-1929-1	YC	奈良		クリ	分割材状(芯持材?)
108	SI67-1932	YC	奈良		カヤ	杭先様の破片混じる(対象外)。分析は同一試料内の破片(分割材(ミカン割状)、半径>10mm)
109	SI67-1939	YC	奈良		カヤ*	芯持丸木(直径: 30 × 27mm)
110	SI67-1940	YC	奈良		ケヤキ	分割材(芯持材、ミカン割?、半径=20mm)
111	SS17-273		縄文	2020/12/7	マツ属複雑維管束亜属*	破片(広い面が柾目)

*放射性炭素年代測定試料

認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道と、樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高。

・カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁には2本が対をなしたらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に1-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または2-3個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、1-3細胞幅、1-40細胞高。

・カバノキ属 (*Betula* sp.) カバノキ科

散孔材で、管孔は放射方向に2～4個が複合、横断面では楕円形、管壁は薄い。道管は階段穿孔を有し、段 (bar) 数は20～30、壁孔は密に対列状～交互状に配列する。放射組織は同性、1～4細胞幅、1～30細胞高であり目立たない。柔組織はターミナル状および散在状～短接線状。年輪界はやや不明瞭。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。根材は、やや放射孔材で、放射組織は1～2列になる。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・クスノキ科 (Lauraceae)

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2-3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

・イネ科草本類 (Gramineae)

推定される葉鞘 (桿に癒着し、周囲を取り巻いている葉の一部) を含む桿の直径は4mm前後。桿の中心は中空で周囲に組織が残る。原生木部の小径の道管の左右に1対の大型の道管があり、その外側に師部細胞がある。これらを繊維細胞 (維管束鞘) が囲んで維管束を形成する。試料が脆弱で、

細胞壁が薄く、繊維細胞が薄いため、タケ・ササではなく草本類（grass）と思われる。

D 考察

炭化材の樹種同定の結果、針葉樹のモミ属、マツ属複維管束亜属、カヤ、広葉樹のオニグルミ、カバノキ属、アカガシ亜属、クリ、ケヤキ、クスノキ科などの9分類群とイネ科草本類が確認された。

検出された種類は、林縁や河川沿いなどに明るい林地を構成するものが多く、伐採や粗朶の収奪など人為的な作用によって作られる里山林（薪炭林や農用林）にみられる種類も含まれている。当時はこのような森林が近くに存在し、入手が可能であったと考えられる。

検出された種類のうち、マツ属複維管束亜属、オニグルミ、カバノキ属、アカガシ亜属、クリ、ケヤキ、クスノキ科は、強度は中庸～重硬なものを含むが、いずれも比較的成長が早く、大きな材が得やすい傾向がある。モミ属はこれらに比べると軽軟であるが、加工が容易で、太くまっすぐな材が得やすいことから、住居構築材等に用いられることがある。カヤは成長が遅く年輪が緻密である。強度が高い木材ではあるが、大きな木材が得難い。なお、強靱であることから、弓の用材としての利用が認められる。検出されたイネ科は、鞘細胞の厚さからみてタケではなく、草本類の茅である。茅は、軽く、水はけが良いことから、屋根材や壁材をはじめ、建築用途に用いられることが多い。

なお、今回の分析に供された炭化材は、古代の竪穴住居跡や土坑から出土した試料がおおよそ8割を占めている。樹種同定結果では、SI67やSI58では複数の樹種から構成され、その中ではクリが多いという傾向を示す一方、SK195では樹種がクリのみで構成されるという特徴が明らかとなった。クリは重硬な木材であり建築構造材として優れていることから、利用された可能性がある。SK195については、遺構の性格を踏まえた検討が必要と考えられる。（東澤 翔・田中義文）

3) 放射性炭素年代測定

A 試料

試料は、第2項で分析対象とされた炭化材のうち、担当者により選択された6点（試料82・83・89・102・109・111）である。

B 分析方法

試料は、塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lである。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラフアイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラフアイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C -AMS専用装置（NEC社製）を用いて、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）、 ^{14}C 濃度（ $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-II）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。 $\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の ^{13}C 濃度（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表す。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点と

した年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma;68%) に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う (Stuiver & Polach,1977)。暦年較正に用いるソフトウェアは、Oxcal4.4 (Bronk,2009)、較正曲線は IntCal20 (Reimer et al.,2020) である。

暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期 (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することによって、暦年代に近づける手法である。

C 結果および考察

結果を第 63 表、第 382 図に示す。同位体補正を行った放射性炭素年代測定結果は、SD12-152 (試料 82) が $755 \pm 20\text{BP}$ 、SK195-15 (試料 83) が $1175 \pm 20\text{BP}$ 、SK195-83 (試料 89) が $1190 \pm 20\text{BP}$ 、SI67-1905-2 (試料 102) が $1320 \pm 20\text{BP}$ 、SI67-1939 (試料 109) が $1285 \pm 20\text{BP}$ 、SS17-273 (試料 111) が modern であった。

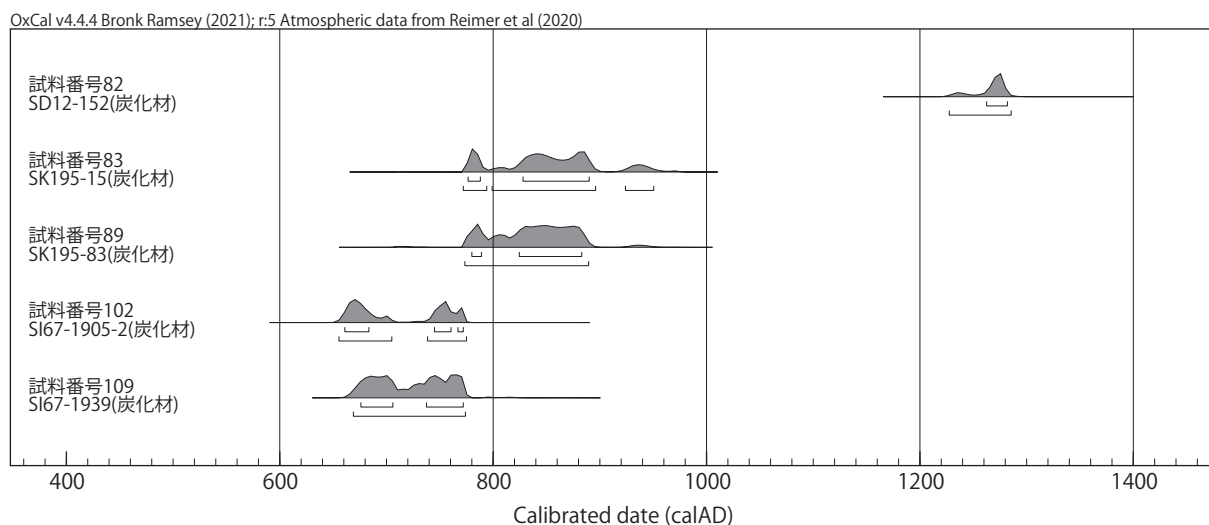
暦年較正結果 (2 σ) は、SD12-152 (試料 82) が calAD 1227 ~ 1285、SK195-15 (試料 83) が calAD 772 ~ 950、SK195-83 (試料 89) が calAD 773 ~ 889、SI67-1905-2 (試料 102) が calAD 655 ~ 775、SI67-1939 (試料 109) が calAD 669 ~ 774 である。

発掘調査所見と暦年較正結果とを比較すると、古代末~中世とされる SD12 (試料 82) は 13 世紀代の暦年代範囲が得られており、後述する SI67 や SK195 よりも新しい遺構である可能性が高い。平安時代と推定される SK195 (試料 83,89) は 8 世紀後半~9 世紀後半および 10 世紀半ば頃、奈良時代と推定される SI67 (試料 102,109) は 7 世紀中ば~8 世紀後半頃までの暦年代範囲を示しており、いずれも発掘調査所見を支持する結果と言える。一方、縄文時代の集石とされる SS17 (試料 111) は modern であったことから、出土炭化材は現代のものと判断される。(田中義文)

第 63 表 放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果

試料番号	出土地点 など	性状	処理 方法	補正年代 BP (暦年較正用)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正年代								Code No.	
						年代値							確率 %		
82	SD12 -152	炭化材 (カバノキ属)	AAA (1M)	755 ± 20 (753 ± 21)	-26.88 ± 0.24	σ	cal AD 1262	-	cal AD 1282	688	-	669	calBP 68.3	IAAA- 240729	pal- 15398
						2 σ	cal AD 1227	-	cal AD 1285	723	-	665	calBP 95.4		
83	SK195 -15	炭化材 (クリ)	AAA (1M)	1175 ± 20 (1175 ± 21)	-28.17 ± 0.22	σ	cal AD 776	-	cal AD 788	1174	-	1163	calBP 12.0	IAAA- 240730	pal- 15399
							cal AD 828	-	cal AD 890	1123	-	1061	calBP 56.2		
						2 σ	cal AD 772	-	cal AD 794	1179	-	1157	calBP 16.5		
							cal AD 799	-	cal AD 896	1152	-	1055	calBP 70.0		
							cal AD 924	-	cal AD 950	1027	-	1000	calBP 8.9		
89	SK195 -83	炭化材 (クリ)	AAA (1M)	1190 ± 20 (1192 ± 21)	-29.28 ± 0.17	σ	cal AD 780	-	cal AD 789	1171	-	1162	calBP 8.8	IAAA- 240731	pal- 15400
						2 σ	cal AD 824	-	cal AD 883	1126	-	1068	calBP 59.5		
102	SI67 -1905-2	炭化材 (クリ)	AAA (1M)	1320 ± 20 (1321 ± 21)	-27.77 ± 0.17	σ	cal AD 773	-	cal AD 889	1177	-	1061	calBP 95.4	IAAA- 240732	pal- 15401
							cal AD 661	-	cal AD 683	1290	-	1267	calBP 38.3		
							cal AD 745	-	cal AD 760	1206	-	1190	calBP 24.0		
							cal AD 767	-	cal AD 772	1184	-	1179	calBP 6.0		
						2 σ	cal AD 655	-	cal AD 705	1295	-	1246	calBP 53.8		
							cal AD 738	-	cal AD 775	1212	-	1176	calBP 41.7		
109	SI67 -1939	炭化材 (カヤ)	AAA (1M)	1285 ± 20 (1287 ± 21)	-24.54 ± 0.24	σ	cal AD 676	-	cal AD 706	1275	-	1245	calBP 32.4	IAAA- 240733	pal- 15402
						2 σ	cal AD 737	-	cal AD 772	1213	-	1179	calBP 35.9		
							cal AD 669	-	cal AD 774	1282	-	1177	calBP 95.4		
111	SS17 -273	炭化材 (マツ属複雑 管束亜属)	AAA (1M)	modern	-30.66 ± 0.19	σ								IAAA- 240734	pal- 15403
						2 σ									

- 1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
- 2) BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の 68.2% が入る範囲) を年代値に換算した値。
- 4) HCl は酸処理、AAA は、酸・アルカリ・酸処理、AaA はアルカリ濃度を薄くした処理を示す。
- 5) 暦年の計算には、Oxcal v4.4、較正データセットは IntCal20 を使用。
- 6) 暦年の計算には 1 桁目まで示した年代値を使用。
- 7) 較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
- 8) 統計的に真の値が入る確率は、 σ が 68.2%、2 σ が 95.4% である。



第 382 図 暦年較正結果

引用文献

Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51, 337-360.

林 昭三,1991,日本産木材顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑(2010年改訂版).東北大学出版会,678p.

那須浩郎,2018,縄文時代の植物のドメスティケーション.第四紀研究,57,109-126.

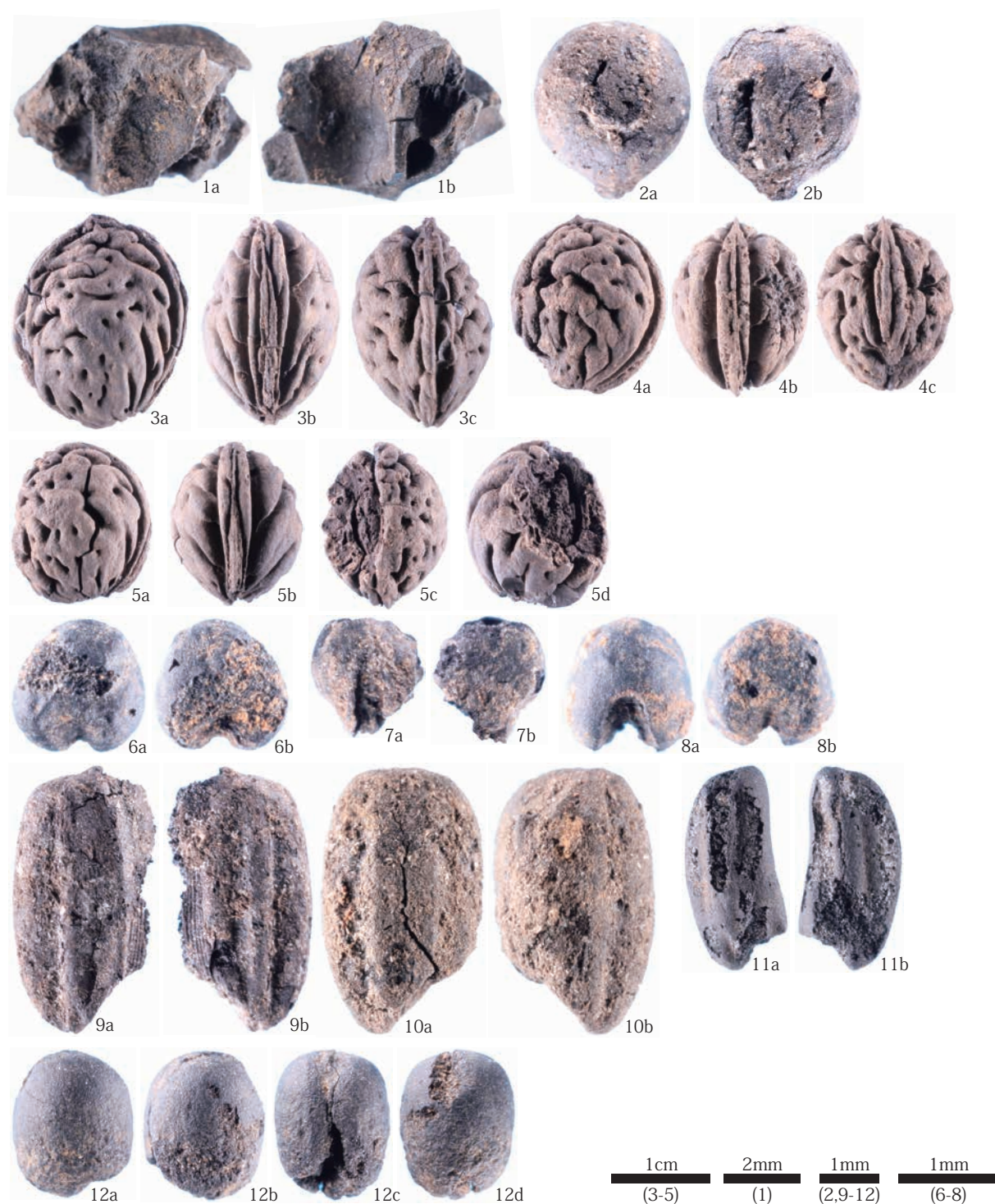
Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk R. C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon J., Turney C., Wacker L., Adolphi F., Büntgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Köhler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A. and Talamo S., 2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62(4), 725-757.

Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E., 2004, IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫, 1982, 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類. 平凡社, 305p.

佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫編, 1989a, 日本の野生植物 木本Ⅰ, 平凡社, 321p.

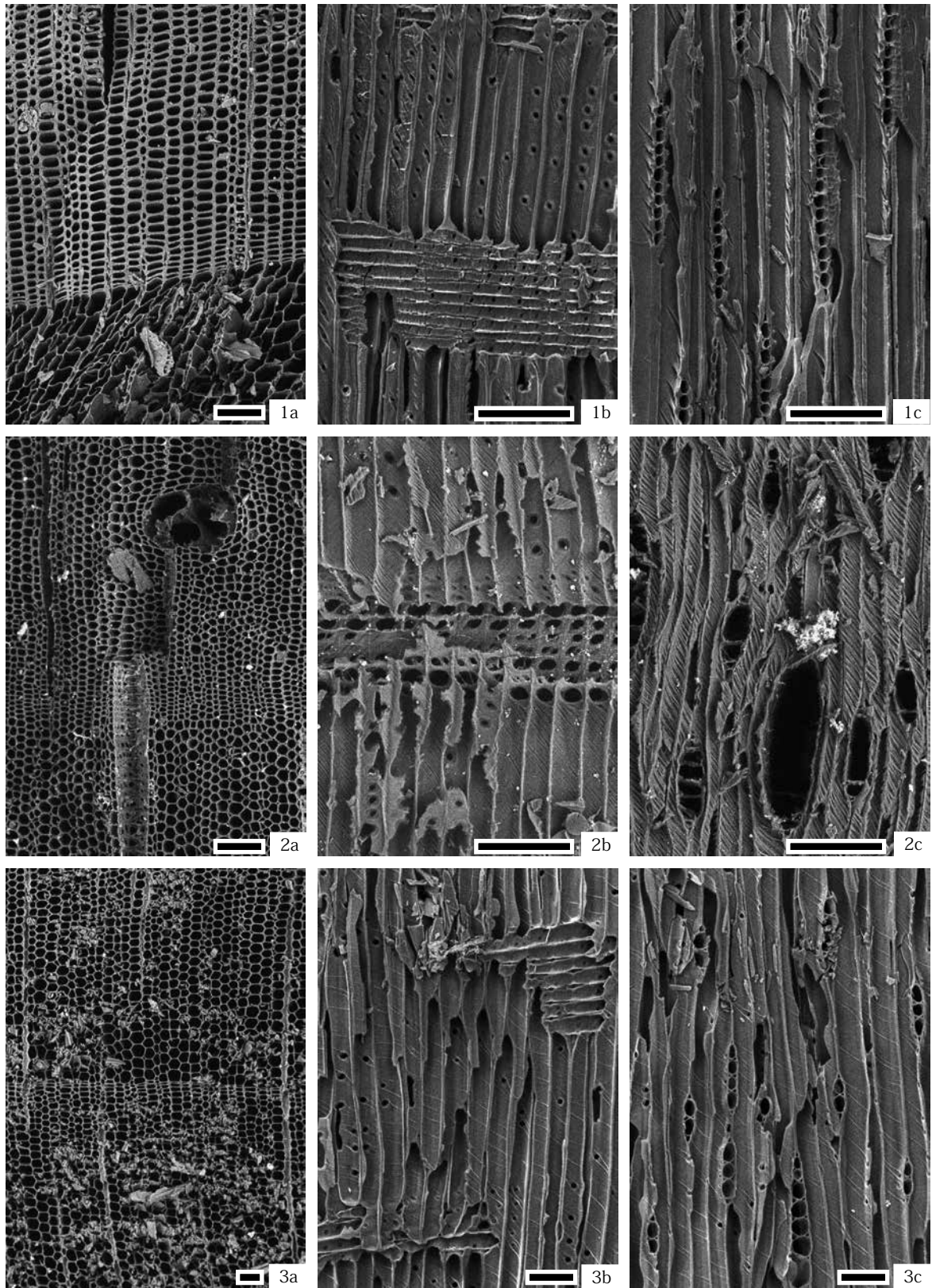
- 佐竹義輔・原 寛・亙野俊次・富成忠夫編,1989b,日本の野生植物 木本Ⅱ,平凡社,305p.
- 佐藤敏也,1988,弥生のイネ. 弥生文化の研究 2 生業,金関 怨・佐原 真編,雄山閣,97-111.
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織. 地球社,176p.
- Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of ^{14}C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.
- 鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文,2018,草木の種子と果実 ―形態や大きさが一目でわかる 734 種 増補改訂―. ネイチャーウォッチングガイドブック,誠文堂新光社,303p.
- 椿坂恭代,1993,アワ・ヒエ・キビの同定. 吉崎昌一先生還暦記念論集「先史学と関連科学」,261-281.
- 渡辺 誠,1975,縄文時代の植物食. 雄山閣出版,187p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E., 1989, IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .



- 1.オニグルミ 核(試料44;SI65 炉2/3)
 3.モモ 核(試料77;SI58-1595)
 5.モモ 核・種子(試料79;SI58-1983)
 7.アワ 果実・穎果(試料56;SI65 炉内4/4)
 9.イネ 粃・穎果(試料23;SI66 炉焼粘土③)
 11.イネ 穎果(試料35;SI65 赤砂△1/4)

- 2.ブドウ属 種子(試料3;SI60 炉)
 4.モモ 核(試料67;SI58-247)
 6.ヒエ属? 穎果(試料12;SI58 カト* ②3/3)
 8.アワ 穎果(試料8;SI58 カト* 1/3)
 10.イネ 穎果(試料38;SI65 炉2/2)
 12.双子葉類 種子?(試料28;SI66 炉焼粘土①)

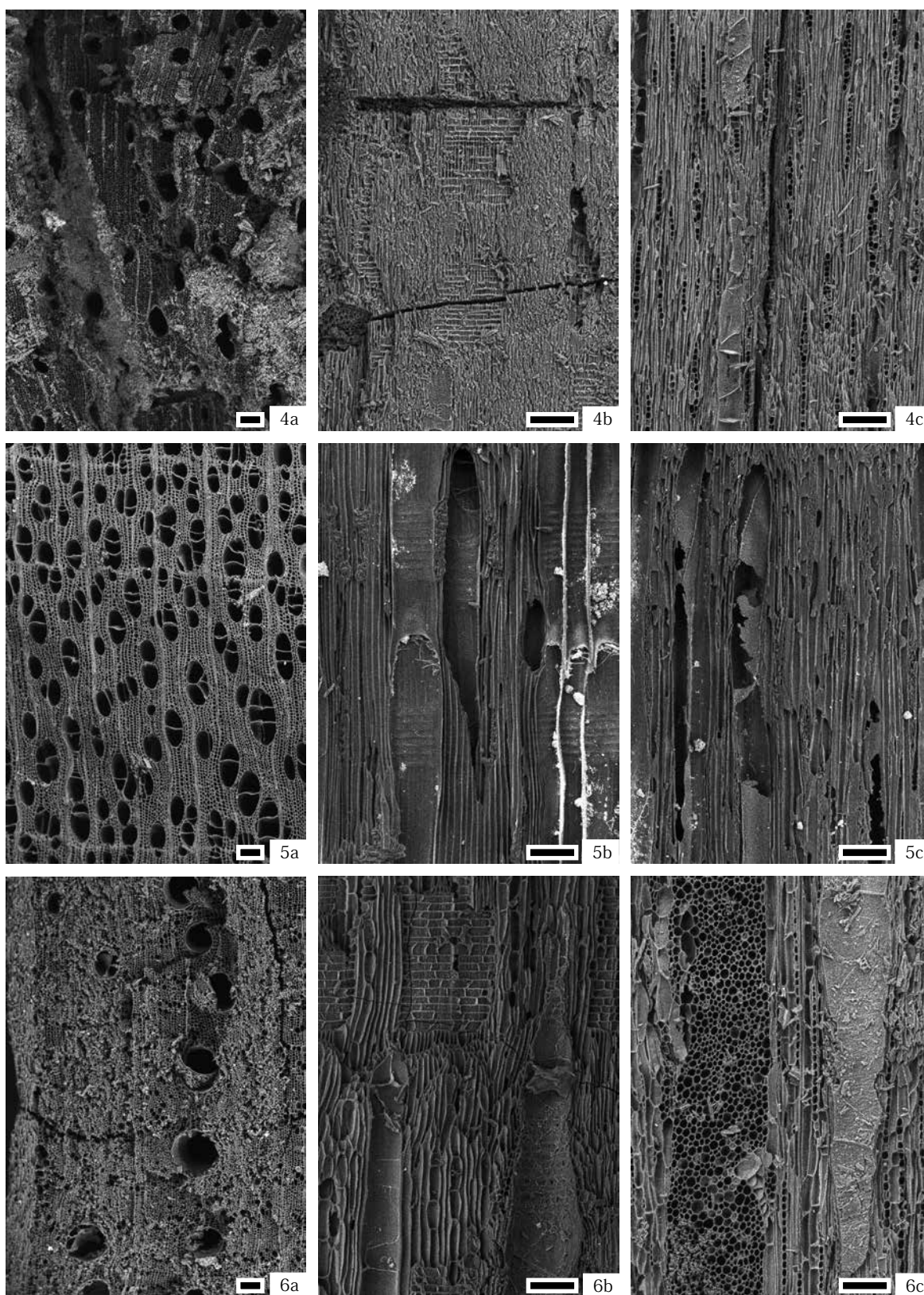
第 383 図 炭化種実



1.モミ属(試料94)
2.マツ属複維管束亜属(試料111)
3.カヤ(試料109)

a:木口 b:柁目 c:板目
スケールは100 μ m

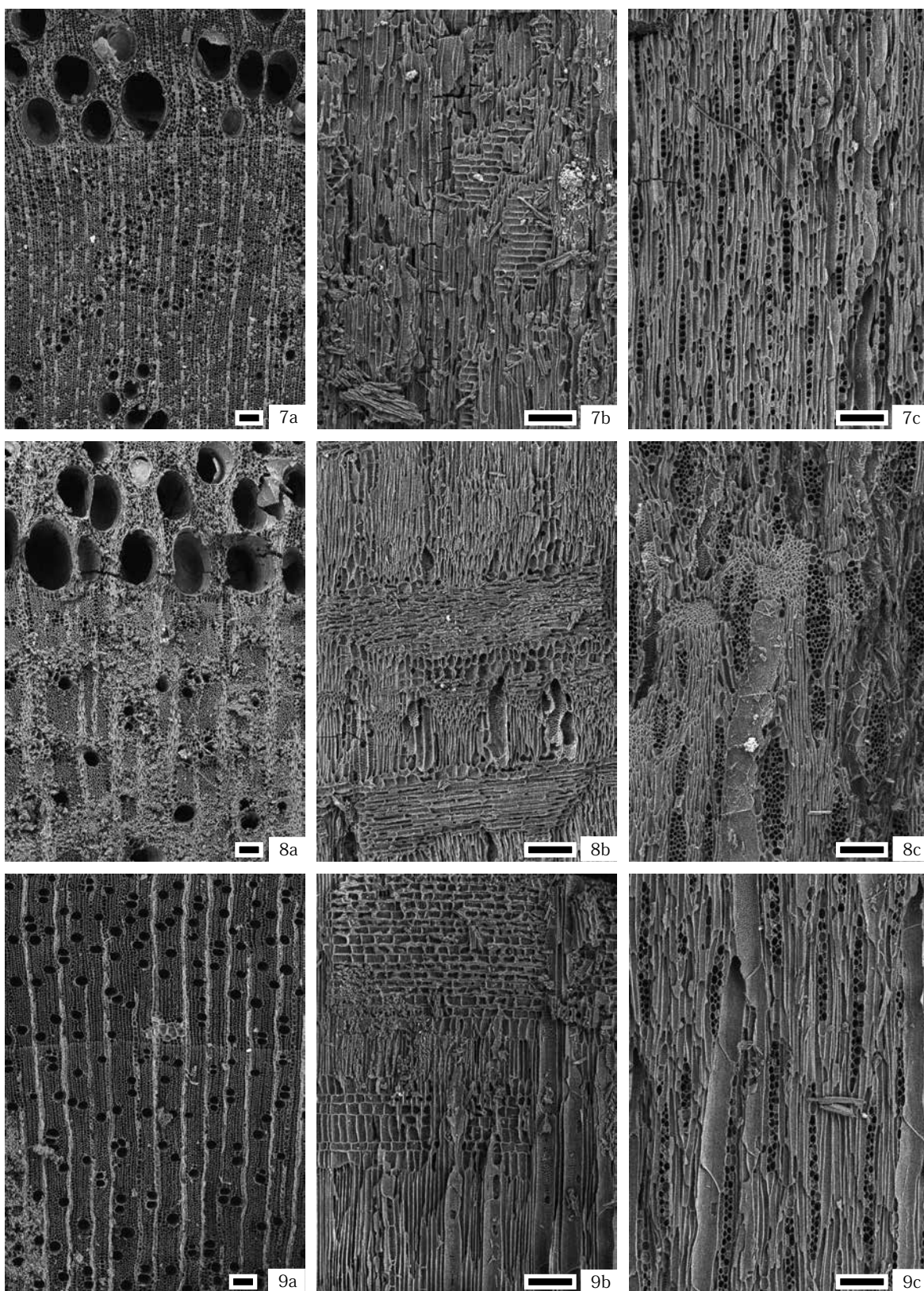
第 384 図 炭化材 (1)



4.オニグルミ(試料103)
5.カバノキ属(試料82)
6.アカガシ亜属(試料92)

a:木口 b:柁目 c:板目
スケールは100 μ m

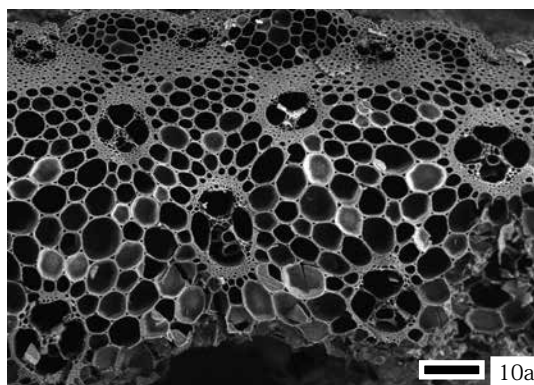
第 385 図 炭化材 (2)



7.クリ(試料83)
8.ケヤキ(試料104)
9.クスノキ科(試料99)

a:木口 b:柃目 c:板目
スケールは100 μ m

第 386 図 炭化材 (3)



10.イネ科草本類(試料93) a:横断面 スケールは100 μ m

第 387 図 炭化材 (4)

2 平山遺跡 2-6 東区・2-7 区の土壌分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

平山遺跡（東京都日野市西平山地内）は、浅川下流域左岸に分布する日野台地の南縁に付随する低位段丘上に位置する。日野台地本体は中期更新世末に堆積した日野段丘堆積物により構成されている日野面に区分されているが、平山遺跡の位置する段丘は、それよりも低位の立川 2 面（Tc2）に区分されている（植木ほか,2013）。

平山遺跡 2-6 東区および 2-7 区の発掘調査では、厚いローム層の土層断面が作成されたが、層位的な色調の変化に乏しいため、武蔵野台地のローム層の基本層序との対比が困難とされた。本報告では、調査区で確認されたローム層について、テフラ分析（重鉱物組成、火山ガラス比分析、屈折率測定）を実施し、基本層序との対比を行った。

1) 試料

試料は、2-6 東区および 2-7 区の試掘坑 2 箇所で作成された土層断面より採取されている。各試掘坑の平面位置を第 388 図に、各試掘坑の土層断面および試料採取位置を第 389 図に示す。以下に各地点の概要を述べる。

A 2-6 東区 試掘坑 4 東壁

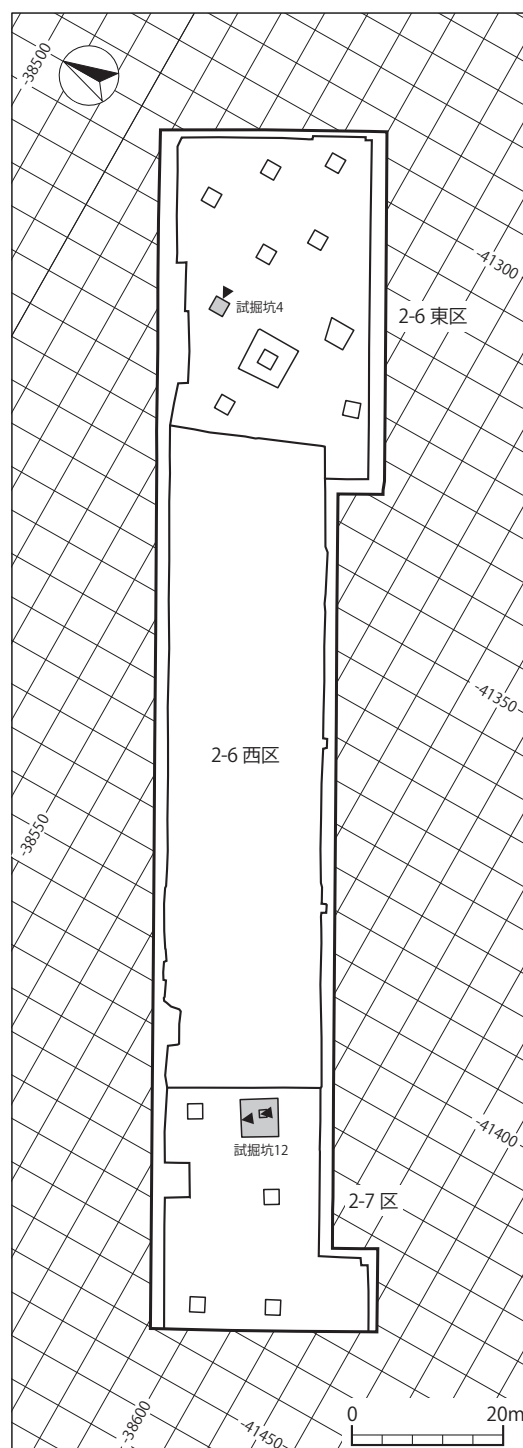
本地点では、検出面から深度約 1.5m までのローム層断面が作成された。土層は褐色を呈する火山灰土いわゆるロームである。発掘調査所見により、検出面のローム層は V 層とされ、いわゆるソフトローム層に相当する。その下位は順に A 層から E 層までの分層がなされている。

試料は、V 層上面より E 層の上部まで、厚さ 5cm で連続に 30 点採取されており、上位より試料番号 1 ～ 30 が付されている。

テフラ分析には、V 層以下の各層 1 点ずつにわたるよう選択された土壌試料 6 点（試料番号 2・5・9・14・22・29）を供している。

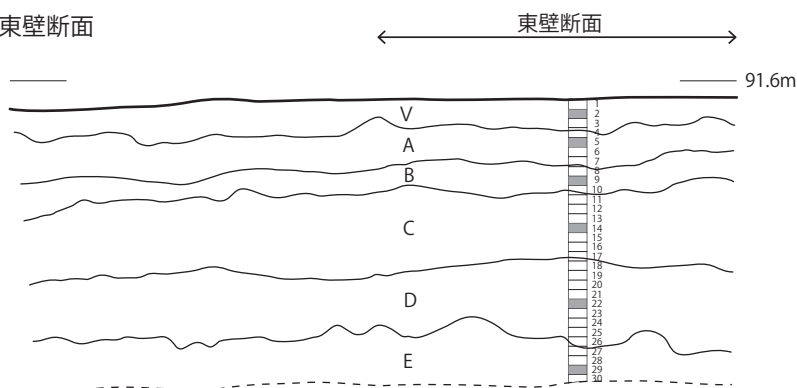
B 2-7 区 試掘坑 12 北壁

本地点では、検出面から深度約 2m までのローム層

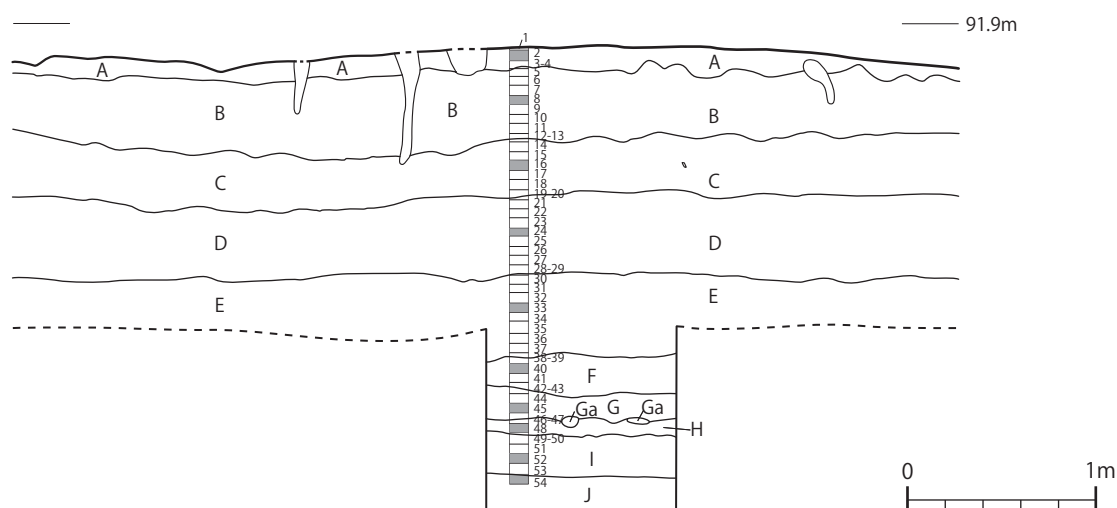


第 388 図 試料採取位置 (1)(1/1,000)

2-6東区試掘4北壁・東壁断面



2-7区試掘坑12北壁



第 389 図 試料採取位置 (2)(1/40)

断面が作成された。土層のほとんどは褐色を呈する火山灰土いわゆるロームであるが、断面の下部は砂層および砂礫層である。発掘調査所見により、検出面のローム層の1層がいわゆるソフトロームとされ、上位より順にA層からJ層までの分層がなされている。このうち、A層～F層まではロームであり、I層は砂礫層、G・H・Jの各層は砂層である。

試料は、A層上面よりJ層の最上部まで、厚さ5cm連続で採取されているが、層界に跨る場合には、層界の上下で番号が付されている。そのため採取された試料は、試料番号1～54までの合計54点になる。

テフラ分析には、1層以下の各層1点ずつにわたるよう選択された土壌試料10点（試料番号2・8・16・24・33・40・45・48・52・54）を供している。

2) 分析方法

A テフラ分析（重鉍物組成、火山ガラス比分析、屈折率測定）

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径

1/16mm 以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径 1/4mm-1/8mm の砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約 2.96 に調整）により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて 250 粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

火山ガラス比は、重液分離した軽鉱物分における砂粒を 250 粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスの形態分類は、バブル型・中間型・軽石型の 3 タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。また、火山ガラスにおける「その他」とは、軽鉱物分における火山ガラス以外の粒子（石英や長石類などの鉱物粒子および風化変質粒など）である。

火山ガラスの屈折率測定は、古澤（1995）の MAIOT を使用した温度変化法を用いた。

3) 結果

A 2-6 東区試掘坑 4 東壁

結果を第 64 表、第 390 図に示す。重鉱物組成は、全層位にわたってカンラン石が非常に多く、60 ～ 80% を占める。他に少量の斜方輝石と単斜輝石および不透明鉱物が含まれる。C 層以下の層位では、両輝石は少量ながらも下位ほど多くなる傾向が窺える。

火山ガラス比では、試料番号 2 に中間型火山ガラスの明瞭な濃集層準が示されている。A 層や B 層にも中間型火山ガラスが少量含まれるが、C 層以下には火山ガラスはほとんど含まれない。

火山ガラスの屈折率を第 392 図に示す。選択した試料のうち、試料番号 22 については、火山ガラスが全く検出されなかったため、屈折率の測定は不能であった。測定した 5 点の試料のうち、火

第 64 表 重鉱物・火山ガラス比分析結果

地点名	層名	試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	緑閃石	ジルコン	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
2-6 東区 試掘坑 4 東壁	V	2	201	11	4	0	0	0	0	9	25	250	0	61	0	189	250
	A	5	206	11	3	0	0	0	0	3	27	250	0	15	2	233	250
	B	9	201	7	11	0	0	0	0	7	24	250	0	9	1	240	250
	C	14	204	15	20	0	0	0	0	4	7	250	0	0	0	250	250
	D	22	197	25	15	1	0	0	0	4	8	250	0	0	0	250	250
	E	29	162	28	15	0	0	0	0	20	25	250	1	0	0	249	250
2-7 区 試掘坑 12 北壁	A	2	191	30	12	0	0	0	0	5	12	250	0	87	7	156	250
	B	8	213	16	6	0	0	0	0	4	11	250	1	21	0	228	250
	C	16	216	13	8	0	0	0	0	5	8	250	0	6	0	244	250
	D	24	208	12	12	0	0	0	0	5	13	250	0	5	0	245	250
	E	33	186	23	12	1	0	0	0	4	24	250	0	0	0	250	250
	F	40	162	35	22	0	0	0	0	14	17	250	0	0	0	250	250
	G	45	145	59	21	4	0	0	0	6	15	250	1	0	0	249	250
	H	48	146	52	16	0	0	0	0	14	22	250	0	0	0	250	250
	I	52	110	58	10	1	0	0	0	54	17	250	0	0	0	250	250
	J	54	144	46	21	2	0	0	0	22	15	250	0	0	0	250	250

山ガラスが少量以上含まれる試料番号 2・5・9 の 3 点は明瞭な屈折率のレンジが示された。いずれも同様の値を示し、レンジの下限は n1.500、上限は n1.503 であった。モードは n1.501 から 1.503 の間にある。試料番号 14・29 は、検出された火山ガラスは極めて微量であったため、そのレンジも不明瞭である。試料番号 14 では、n1.499 から n1.504 までの値が認められ、試料番号 29 では、n1.500 前後、n1.507 前後、n1.513 付近の値が認められた。

B 2-7 区試掘坑 12 北壁

結果を第 64 表、第 391 図に示す。重鉱物組成は、全層位にわたってカンラン石が非常に多く、6 層（試料番号 40）以上では 60～80% を占める。その中でも C 層（試料番号 16）で最も多く、その上位と下位では減少傾向が窺える。カンラン石の減少傾向が窺える層位では、負の相関で斜方輝石の増加傾向が窺える。特に D 層（試料番号 24）以下において顕著であり、G 層（試料番号 45）から I 層（試料番号 52）までの層位では斜方輝石の量比は 20% を超える。

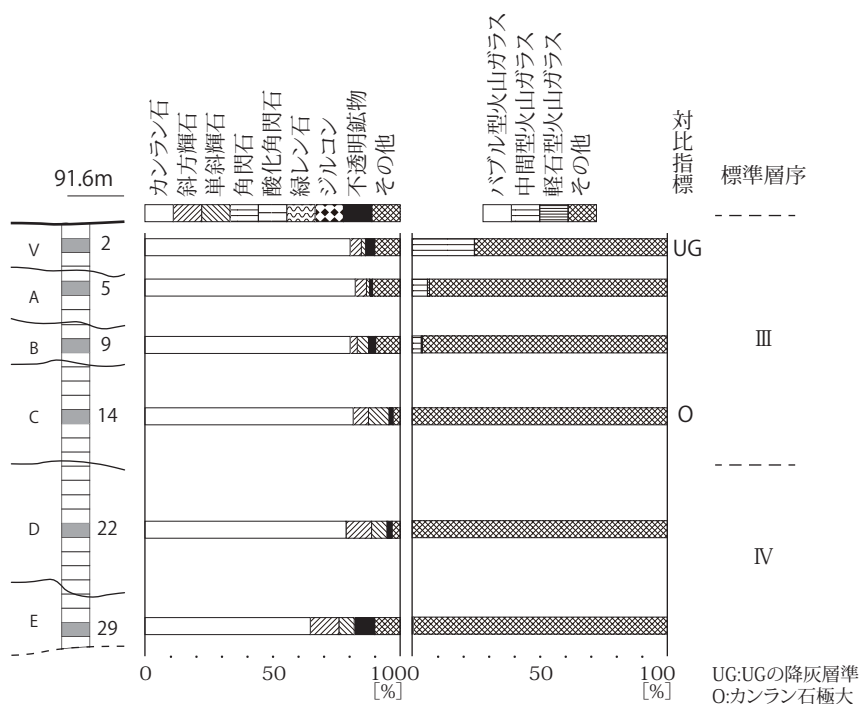
火山ガラス比では、A 層（試料番号 2）に中間型火山ガラスの明瞭な濃集層準が示されている。B～D 層にも中間型火山ガラスは少量または微量含まれるが、E 層以下には火山ガラスはほとんど含まれない。

火山ガラスの屈折率を第 393 図に示す。測定した 10 点の試料のうち、火山ガラスが微量以上含まれる試料番号 16 以上の 3 点は明瞭な屈折率のレンジが示された。いずれもほぼ同様の値を示し、レンジの下限は n1.500 または 1.501、上限は n1.503 または 1.504 であった。モードは n1.502 付近にある。試料番号 24 は火山ガラスは微量であるが、そのレンジの値とモードの値は、上記 3 点の試料とほぼ同様である。試料番号 33 以下は、検出された火山ガラスは極めて微量であったため、そのレンジも不明瞭である。試料番号 33 では n1.500 付近の値が認められ、試料番号 40 と 45 では n1.497 から 1.500 付近の値が認められ、試料番号 48 では n1.499～1.501 付近と n1.508 付近および n1.512～1.515 付近の値が認められ、試料番号 52 では n1.514～1.516 付近、さらに試料番号 54 では n1.512～1.516 付近の値が示された。

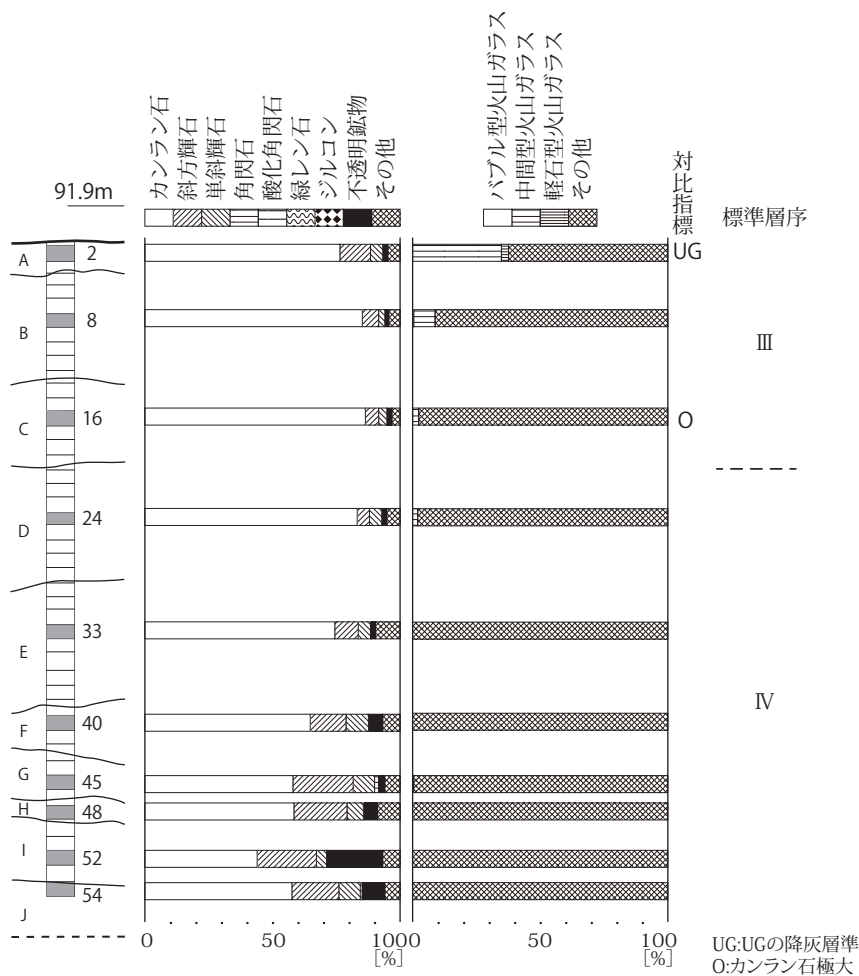
4) 考察

A 2-6 東区試掘坑 4 東壁

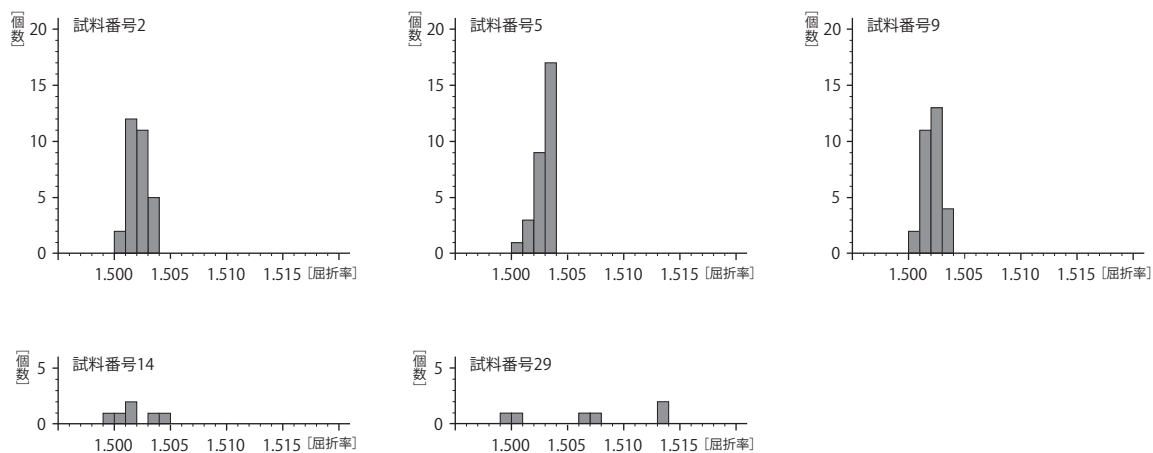
本地点における最も有効な対比指標は、V 層に認められた中間型火山ガラスの濃集層準である。この火山ガラスは産出層位と形態および屈折率の特徴から、立川ローム層上部ガラス質テフラ（UG: 山崎, 1978）に由来する。本地点における UG の火山ガラスは、A 層や B 層にも及んでいるが、V 層の火山ガラスの量比との差が特に明瞭なため、V 層がテフラ最濃集部の下限に相当すると考えられる。テフラ最濃集部の下限は、そのテフラの降灰層準にほぼ一致すると言われている（早津, 1988）から、本地点における UG の降灰層準は V 層の試料番号 2 付近に推定される。これまでの武蔵野台地の立川ローム層の分析例からは、UG の降灰層準は、標準層序のⅢ層上部に推定されることが多い。したがって、本地点の V 層は、標準層序のⅢ層上部に対比されると考えられる。UG の噴出年代については、UG の由来と考えられている浅間火山の軽石流期のテフラの年代が暦年では 1.5～1.6 万年前とされている（町田・新井, 2003）から、これを UG の年代と考えて良い。したがって、本地点の V 層は暦年で 1.5～1.6 万年前頃の形成年代が推定される。なお、火山ガラスの屈折率から、本地点では、



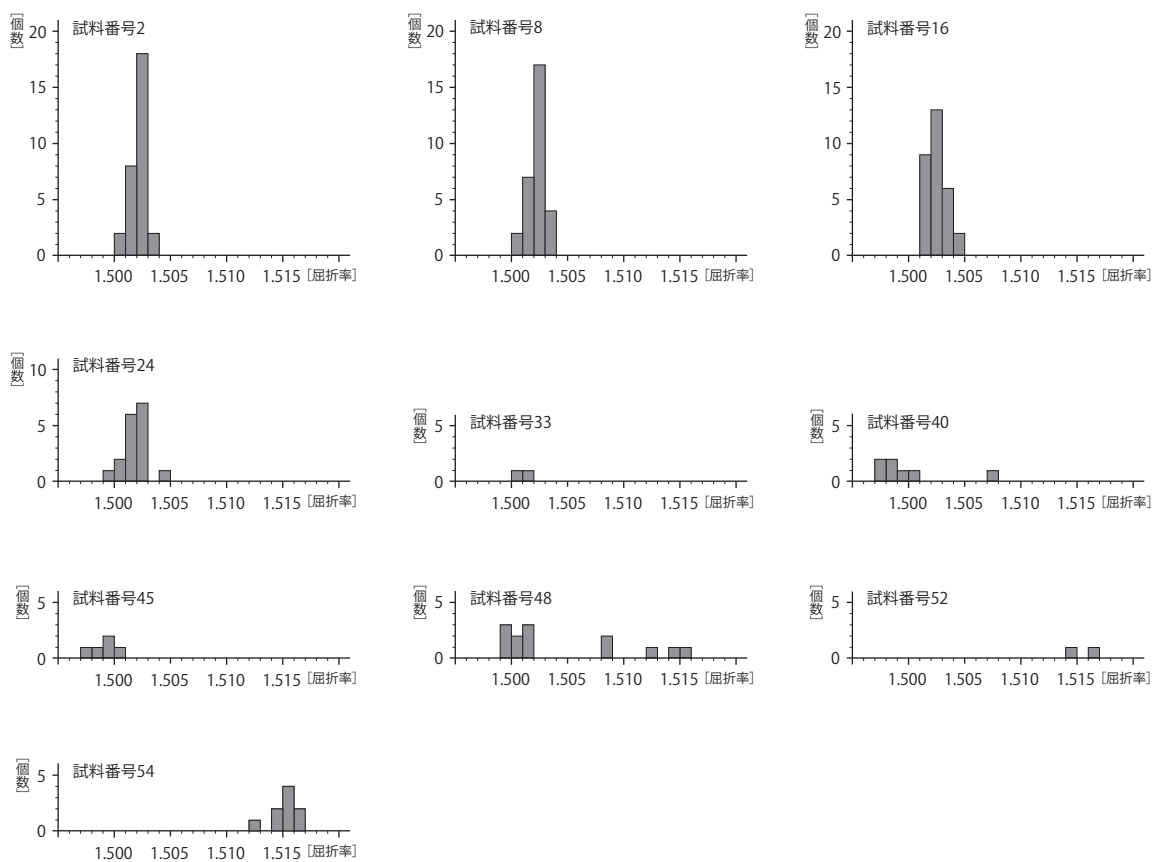
第 390 図 2-6 東区試掘坑 4 東壁の重鉱物組成および火山ガラス比



第 391 図 2-7 区試掘坑 12 北壁の重鉱物組成および火山ガラス比



第 392 図 2-6 東区試掘坑 4 東壁の火山ガラスの屈折率



第 393 図 2-7 区試掘坑 12 北壁の火山ガラスの屈折率

A層やB層に少量含まれる中間型火山ガラスもUGに由来するものと判断され、さらにはC層に極めて微量検出された火山ガラスもUGに由来すると考えられる。こうしたテフラ由来の碎屑物の降灰層準よりも下位の層位への落ち込みは、降灰後の土壌化作用における動植物による活動や土壌の凍結融解の繰り返しなどが要因となっていると考えられる。

これまでの分析事例の特に多い武蔵野台地の立川ローム層については、暗色帯を基準とした分層が古くより行われており、標準層序ともいえるべき共通した層名が用いられている。矢作・橋本(2012)は、武蔵野台地各地における立川ローム層の重鉱物組成の層位的な変化を調べ、共通した層位で認められる特定の鉱物の量比の極大層準が対比指標となることを見出した。具体的には、上位より順に、Ⅲ層下部～Ⅳ層上部のカンラン石の極大層準、Ⅴ層直上および直下の輝石の極大層準、Ⅶ層下部のカンラン石の極大層準、Ⅸ層中部～下部の輝石の極大層準およびⅩ層のカンラン石の極大層準が挙げられる。これらのうち、Ⅴ層直上の輝石の極大層準は、小林ほか(1971)における羽鳥の分析例以来多くの分析例で指摘されている。

平山遺跡の位置する日野台地は、多摩川を挟んで武蔵野台地に隣接する地理的位置にあり、ローム層の形成環境はほぼ同様であると考えられるから、上述した武蔵野台地の立川ローム層の標準層序における重鉱物組成の層位的な変化は本地点でも適用されと考えてよい。本地点のローム層においては、上述したUGの降灰層準を考慮すると、C層の試料番号14付近のカンラン石の多い重鉱物組成が、Ⅲ層下部～Ⅳ層上部のカンラン石の極大層準に対比される。また、標準層序におけるⅤ層直上の輝石の極大層準は、E層の試料番号29よりもさらに下位にあることが推定される。したがって、本地点の層序と標準層序との対比では、本地点のⅤ層からC層までが概ね標準層序のⅢ層に対比され、本地点のD層からE層までは標準層序のⅣ層に対比されることが考えられる。

B 2-7区試掘坑12北壁

2-6東区試掘坑4東壁と同様に本地点においてもA層(試料番号2)に認められる中間型火山ガラスの濃集層準は、UGの降灰層準に対比される。また、C層(試料番号16)の重鉱物組成は、標準層序のⅢ層下部～Ⅳ層上部のカンラン石の極大層準に対比される。したがって、本地点のA層～C層までが概ね標準層序のⅢ層に対比され、本地点のD層以下が標準層序のⅣ層以下に対比される。なお、火山ガラスの屈折率から、本地点ではE層上部(試料番号33)付近までUGの火山ガラスの落ち込みが推定される。火山ガラスの落ち込みについては、2-6東区試掘坑4東壁の項で述べた通りである。

本地点のG層～J層にかけての層位は、砂層または砂礫層であるため、風成塵の累積を前提とする重鉱物組成の層位的変化による層序対比を適用することはできない。実際に本地点でも、武蔵野台地の立川ローム層にはほとんど含まれることない角閃石が微量ながらも含まれている。本地点のG層以下は、上述したD層以下の対比から、概ね標準層序のⅣ層下部以下に対比される可能性があると考えられる。

ところで、今回分析を行った試掘坑2箇所のローム層では、武蔵野台地の立川ローム層上半部に拡散して含まれている始良Tnテフラ(AT:町田・新井,1976)に由来する火山ガラスの含有は明瞭ではない。おそらく、本地点の6層(試料番号40)～8層(試料番号48)に認められるn1.499以下の低屈折率の火山ガラスがATに由来する可能性のあることを指摘できるに過ぎない。このことは、

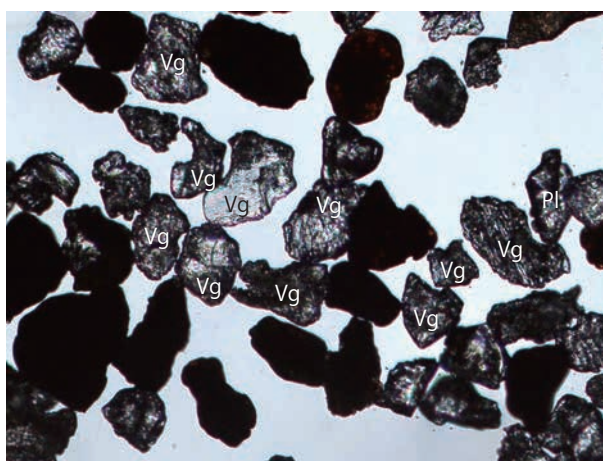
本遺跡の立地する段丘の離水が、ATの降灰以後であったことを示唆している。本地点では、その層相から、G層までは主に河川による堆積により形成されたと考えられる。おそらくATの降灰は、G層以下の層位形成時にあったと考えられ、降下堆積したATの碎屑物は、ほとんど流失してしまったために離水後のローム層であるF層以上の土層形成時の風成塵中にはほとんど混在することがなかったと考えられる。

前述したように本遺跡の立地する段丘はTc2面に区分されているが、離水した年代は、ATの降灰した3万年前よりも後であったと考えられる。武蔵野台地のTc2面はATの降灰直前や直後の離水とされることが多いが、日野台地のTc2面は、武蔵野台地のTc2面よりも離水の遅れた段丘であったと考えられる。

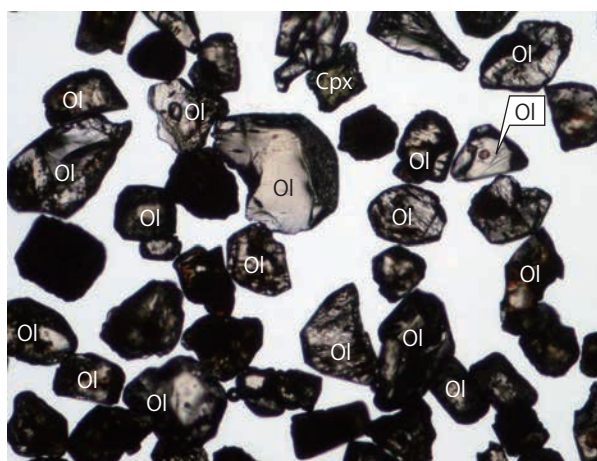
なお、本地点の火山ガラスの屈折率測定では、H層（試料番号48）以下の試料でn1.515付近の高屈折率を示す火山ガラスが微量ながら含まれている。この火山ガラスは、その値(町田・新井,2003)から、6～6.5万年前に箱根火山より噴出した箱根東京テフラ(Hk-TP)に由来する可能性がある。もちろん本地点のH層以下はHk-TPの降灰層準とは無関係であり、おそらくH層以下の砂層形成時の碎屑物の中にHk-TP由来の碎屑物が混入していることを示すものと考えられる。

引用文献

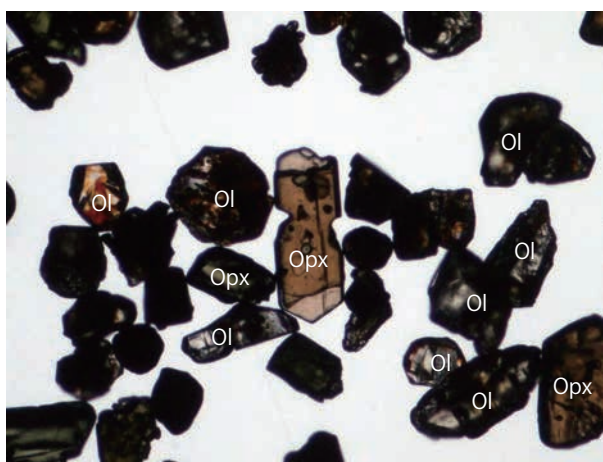
- 古澤 明,1995,火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別.地質学雑誌,101,123-133.
- 早津賢治,1988,テフラおよびテフラ性土壌の堆積機構とテフロクロロジー—ATにまつわる議論に関係して—.考古学研究,34,18-32.
- 小林達雄・小田静夫・羽鳥謙三・鈴木正男,1971,野川先土器時代遺跡の研究.第四紀研究,10,231-252.
- 町田 洋・新井房夫,1976,広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—.科学,46,339-347.
- 町田 洋・新井房夫,2003,新編 火山灰アトラス.東京大学出版会,336p.
- 植木岳雪・原 英俊・尾崎正紀,2013,八王子地域の地質.地域地質研究報告(5万分の1図幅),産総研地質調査総合センター,137p.
- 矢作健二・橋本真紀夫,2012,重鉱物組成と火山ガラス比による武蔵野台地の立川ローム層層序対比.新西郊文化,2,7-18.
- 山崎晴雄,1978,立川断層とその第四紀後期の運動.第四紀研究,16,231-246.



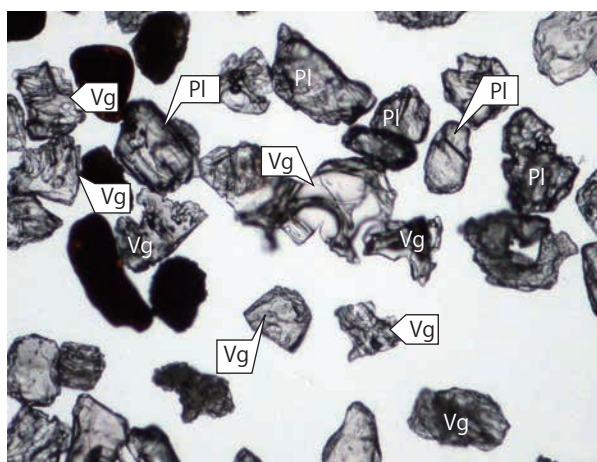
1.火山ガラス(2-6東区試掘坑4東壁 V層;2)



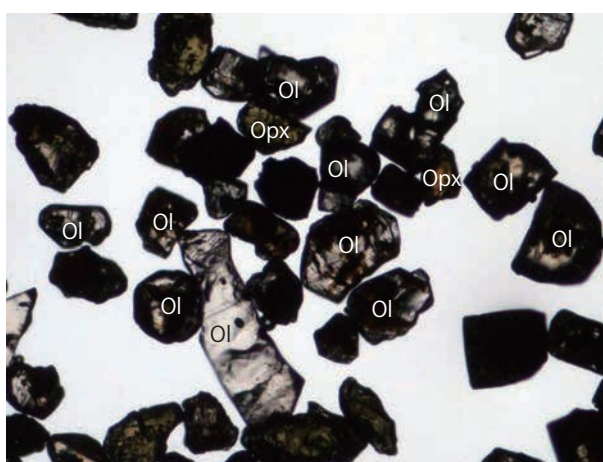
2.重鉱物(2-6東区試掘坑4東壁 A層;5)



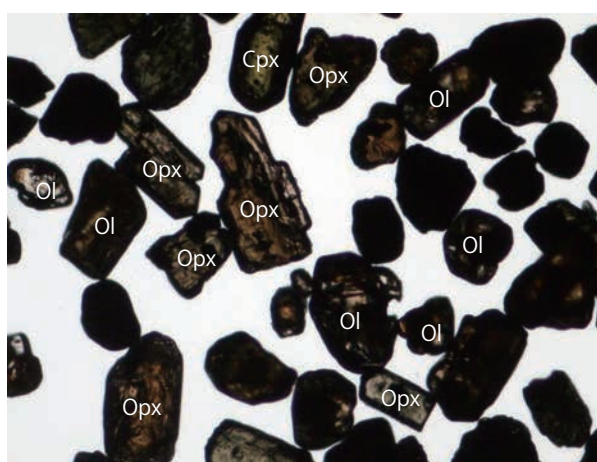
3.重鉱物(2-6東区試掘坑4東壁 E層;29)



4.火山ガラス(2-7区試掘坑12北壁 A層;2)



5.重鉱物(2-7区試掘坑12北壁 C層;16)



6.重鉱物(2-7区試掘坑12北壁 I層;52)

Ol:カンラン石. Opx:直方輝石. Cpx:単斜輝石. Vg:火山ガラス. Pl:斜長石.

0.5mm

(1-6)

第 394 図 重鉱物・火山ガラス

3 平山遺跡その3出土瓦の元素組成分析

長佐古 真也（東京都埋蔵文化財センター）

緒言

調査担当からの依頼を受け、平山遺跡その3出土瓦のEDXを用いた元素組成分析を実施した。現状では、比較対象とすべき窯跡出土資料の分析例が不足していることから、基礎データの蓄積を第一の目的としたが、当初の依頼目的である当該資料の生産地同定に向けた展望を得るため、多摩ニュータウン（以下、TNと省略）遺跡内窯跡出土瓦等の分析事例（長佐古 2024）との比較も試みた。

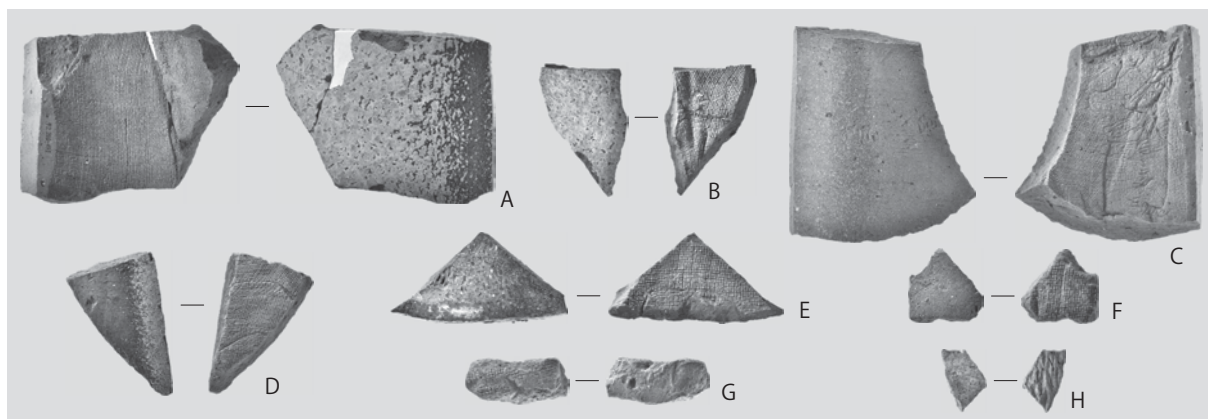
1 分析対象資料と分析の方法

分析対象とした瓦は、挿図未掲載資料を含む8点である（第395図）。各試料にはA～Hの仮符号を、分析値には順にH3RT_1～8の番号を付した。各試料の詳細については、報告書本文を参照されたい。

分析は、非破壊を原則とし、汚染の少ないと思われる破断面を測定面とした。元素分析に先立って、まず測定面に選択した破断面の実体顕微鏡画像を撮影した。撮像には、OLMPUS製デジタル実体顕微鏡DSX-110（東京都埋蔵文化財センター）を用いた。

分析には島津製卓上型エネルギー分散蛍光X線分析装置（EDX）EDX-8100（東京都埋蔵文化財センター）を用いた。分析条件は、Rhターゲット、真空環境、分析対象Al—U（4.00～35.00eV）の領域は50kV／240 μ A-Autoの条件で、C—Sc（0.00～4.40eV）の領域は15kV／1000 μ A-Auto、さらにS・K・Caの精密定量を意図して設けたS—Ca（2.10～4.10eV）の領域については15kV／1000 μ A-Autoで#2のフィルタを使用し、計3つの領域を60秒ずつ測定した。コリメータ（測定範囲の絞り）は10mmとしたが、表面のコンタミネーションが懸念されるF・Hについては5mmとした。

分析値の算出には、FP法による定性定量メニューを設定し、岩石・土壌に含まれる可能性のある10種の主成分元素〔珪素（Si）・アルミニウム（Al）・鉄（Fe）・チタン（Ti）・ナトリウム（Na）・カリウム（K）・マグネシウム（Mg）・カルシウム（Ca）・リン（P）・硫黄（S）〕に加え、微量元素9種〔バナジウム（V）・クロム（Cr）・マンガン（Mn）・亜鉛（Zn）・ガリウム（Ga）・ヒ素（As）・ルビジウム（Rb）・ストロンチウム（Sr）・イットリウム（Y）・ジルコニウム（Zr）〕の計19元素を固定し、定性的に検出された元素も加えて存在比を算出した。

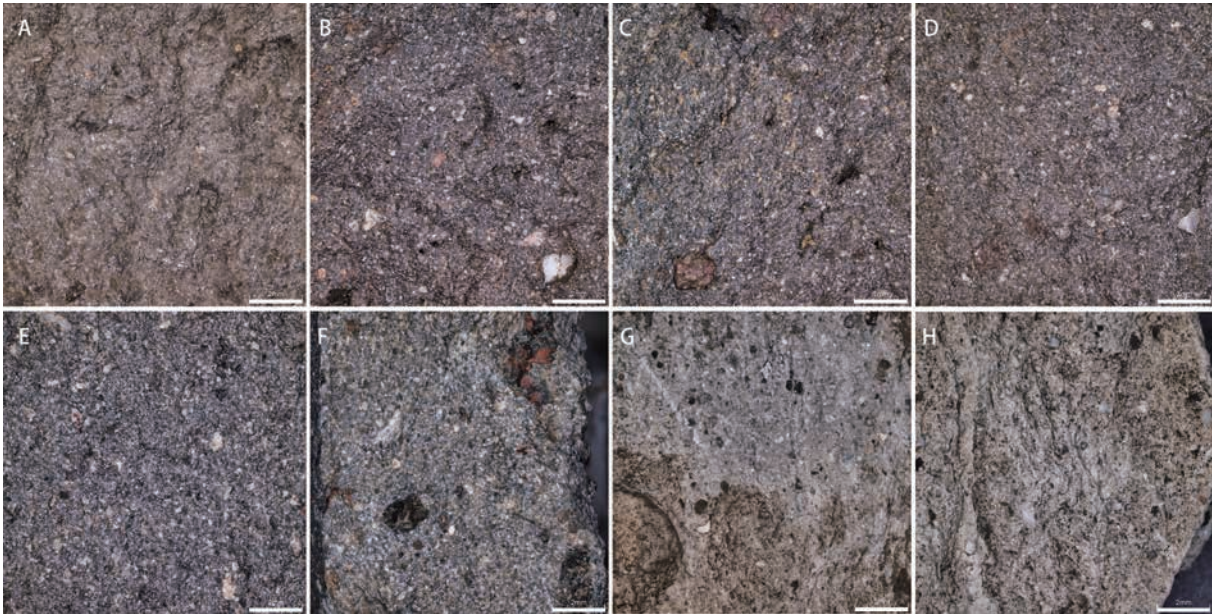


第395図 分析対象

第 65 表 元素組成分析結果

分析番号	遺構・Grid	層位	器種	略号	SiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	TiO ₂	Na ₂ O	MgO	K ₂ O	CaO	P ₂ O ₃	SO ₃
					%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
H3RT_1	28Q-49	I	丸瓦	A	64.1	22.3	6.45	0.98	0.89	0.89	2.96	0.62	0.31	0.29
H3RT_2	13454	II	丸瓦	B	64.6	22.1	6.03	0.96	0.50	0.99	3.69	0.56	0.22	0.19
H3RT_3	28Q-36	I	丸瓦	C	63.5	23.0	6.25	0.96	0.94	0.93	2.90	0.63	0.27	0.30
H3RT_4	SK191-41	—	丸瓦	D	63.3	23.5	5.93	1.01	0.83	0.92	3.04	0.64	0.34	0.27
H3RT_5	SK191-91	—	丸瓦	E	66.8	21.4	5.00	0.95	1.01	0.85	2.94	0.53	0.20	0.15
H3RT_6	28Q-10	—	丸瓦	F	66.3	21.9	5.23	0.93	0.73	0.84	3.05	0.47	0.18	0.15
H3RT_7	29P-85	—	平瓦か	G	62.1	26.3	5.26	1.12	0.61	0.92	2.48	0.47	0.22	0.27
H3RT_8	19438	II	平瓦か	H	62.0	25.5	5.82	1.21	0.76	0.90	2.61	0.52	0.17	0.21

分析番号	略号	Rb ₂ O	SrO	Cr ₂ O ₃	ZnO	MnO	V ₂ O ₅	ZrO ₂	Y ₂ O ₃	Ga ₂ O ₃	Ag ₂ O
		ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm
H3RT_1	A	26	112	152	177	682	429	323	59	45	
H3RT_2	B	58	118	176	182	631	503	309	60	42	
H3RT_3	C	48	115	159	186	1308	466	325	63	54	
H3RT_4	D	43	110	155	192	585	431	300	59	43	
H3RT_5	E	153	112	164	190	585	428	304	39	44	
H3RT_6	F	152	106	163	184	548	403	306	40	42	
H3RT_7	G	137	129	171	187	535	447	337	36	51	135
H3RT_8	H	154	149	176	196	768	493	384	39	48	197



(約 3.5 倍／撮影時 24×、右下スケールバー 2mm)

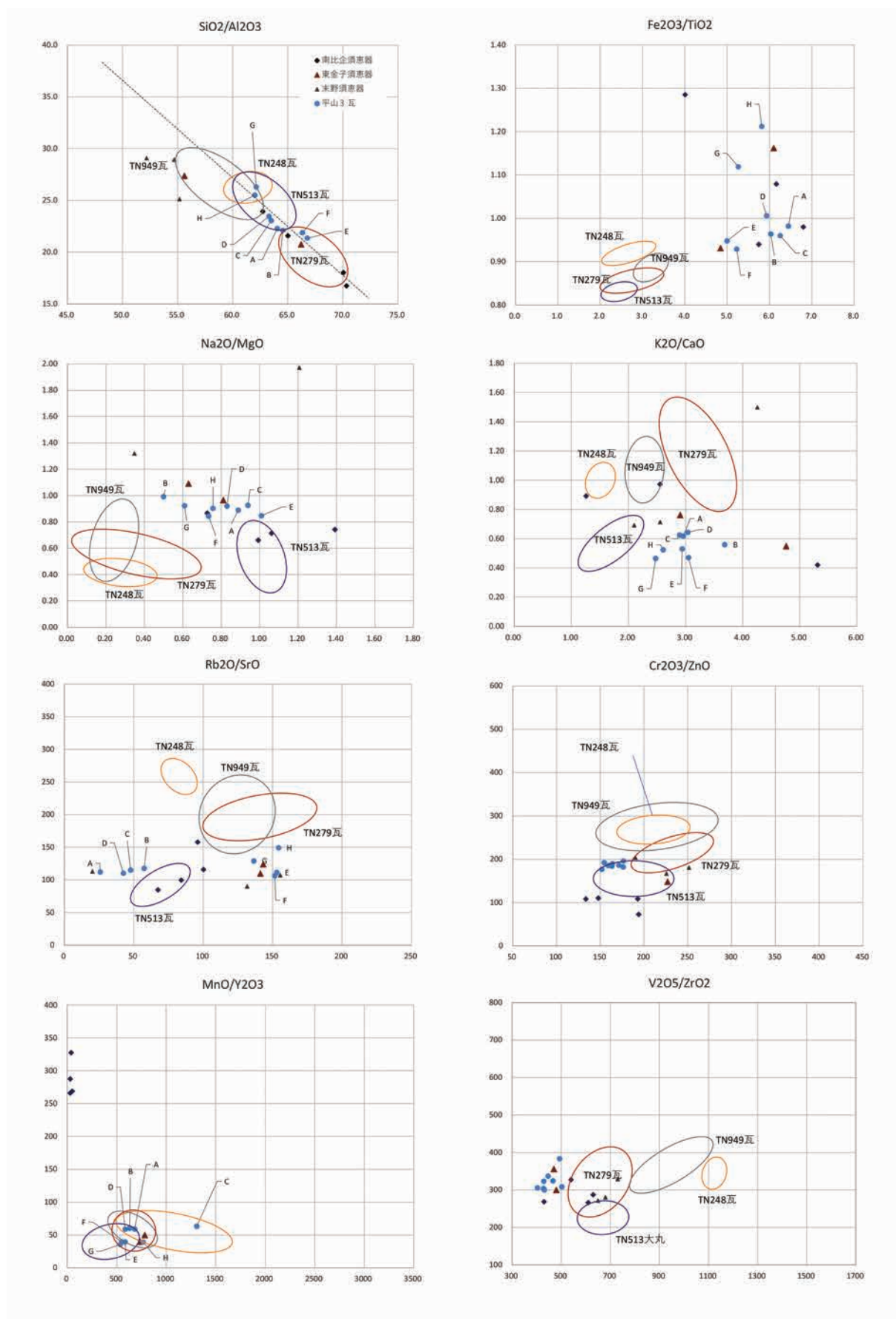
第 396 図 平山遺跡その 3 出土瓦試料測定断面の拡大画像

2 分析結果

元素組成分析の結果を第 65 表に示す。主成分元素については％単位、その他の微量元素は ppm 単位で示した。分析値は、岩石学の習慣に倣って全て酸化物として算出してある。また、鉄については、すべて 3 価と仮定して算出した。これにより、FP 法でも、検量線法に近い精度の分析値が得られることが確認できている（長佐古 2024）。

3 考察

まず、測定面の実体顕微鏡による拡大画像（図 396）で、各試料胎土の肉眼的特徴を把握しておく。B・C・D の 3 点は、径 0.1 ～ 0.5mm ほどの角のある長石粒子を多く含み、0.5mm 以上の長石お



第 397 図 平山遺跡その 3 出土瓦各試料元素分析値の二元分布図

よびスコリア粒子を含む点で酷似している。また、E・Fは前者よりも若干砂粒の量が多いような印象を受けるが、構成粒子の組成等に大きな差異は認められない。この視覚的差異は焼成状態に起因している可能性がある。逆に、Aは砂粒がやや少ない印象を与えるが、焼成があまいためか、表面への土壌の付着が多いようで、構成粒子の組成自体に大きな相違を認めるものではない。最も異なった印象を与えるG・Hも、焼成状況の相違によるマトリクス層の色調の影響もあり、構成粒子には大きな相違を認めない。

次に、測定19元素のうち、コンタミネーションの値を含む可能性のあるリン・硫黄、およびガリウムを除いた16元素を用いて対象試料の特徴を伺う。第397図に示した二元分布図8種には、前掲長佐古論文で把握したTN遺跡内の窯跡出土古代瓦分析値の分布領域を示した他、末野窯跡群（第1・3・13支群甕片各1点）、南比企窯跡群（将軍沢・泉井・赤沼・奥田各支群甕片各1点）、東金子窯跡群（八坂前窯坏2点）出土陶片の分析値もプロットしてある。

今回対象とした瓦試料の各元素分析値は、ルビジウムを除き、いずれもほぼまとまる傾向を示しており、バラつきに多少の差異はあるものの、いずれの分布図においてもまとまった領域を形成している。また、ルビジウムに関しては、近代期の煉瓦において、同一生産地内の胎土に多寡の異なる二つのグループが存在する事例も報告されている（長佐古2022）。また、実体顕微鏡画像の結果も勘案すると、対象試料は複数産地が混在している可能性よりも、単一地域の製品で占められている可能性の方により高い蓋然性を認めることができよう。

これを踏まえて、TN遺跡内の古代瓦窯（TN513：大丸瓦窯〔稲城市〕、TN279遺跡：瓦尾根瓦窯・TN248遺跡：セイカチクボ瓦窯・TN949遺跡〔町田市〕）、すなわち南多摩窯跡群出土古代瓦試料分析値の分布範囲と比較してみると、鉄・チタン・マグネシウム・カルシウム・ストロンチウム・亜鉛・バナジウムなどに顕著な傾向差が認められ、多くの二元分布図において互いに排他的な領域にプロットされていることが判る。南多摩窯跡群最大の支群である御殿山地区および他の主要造瓦窯である南比企・東金子窯跡群の瓦試料を欠いている段階なので断定は避けるが、御殿山地区の須恵器坏とも異なる特徴を有することも勘案して、南多摩窯跡群以外の所産である可能性がより高いことを指摘しておく。

そこで、参考としてプロットしておいた南比企窯跡群須恵器と平山遺跡その3出土試料を比較してみると、カルシウム、ルビジウム、亜鉛、イットリウム、バナジウムに異なる傾向を認めることができる。平山遺跡その3出土試料と最も近い傾向を示したのは東金子窯跡群の坏2点で、バナジウムがやや高めの値を示している他は、ほぼ重複もしくは近接した領域にプロットされている。須恵器と瓦とでは混和材等の調整方法の相違から分析値の傾向も異なる可能性に留意すべきであることから、これに関しても断定は避けるが、今後は、東金子窯跡群に帰属する可能性について、まず検討を加えていくべきであろう。

結語

武蔵国内の古代瓦に関しては、既に瓦当文様や制作技法に着目した精緻な研究が数多く蓄積されており、近年では、これを根拠とした消費遺跡出土瓦の生産窯比定も行われている。しかし、瓦当文様や特徴的な製作技法を認めることのできない多くの資料については、その検討の埒外に置かれている

というのもまた現状である。特に、竈構築材や砥材への転用が顕著な集落跡出土の瓦に関しては、出土量も少なく、小破片の事例も多い。遺構外出土ともなれば、尚のことであろう。これらを検討の俎上に載せるためには、胎土分析による元素組成の把握が不可欠であることは疑いない。また、これを推し進める上で必要な非破壊分析の可能性についても既に評価が進んでいるのである。今後、分析による検討を進めていく環境は整いつつあると言えよう。

以上を踏まえれば、今回の分析も、一先ず当初の目的を達成できたと評することができようが、さらに東金子窯跡群との関連の模索という方向性が得られたことも大きい。今後、より精緻な比定が進めば、瓦の帰属時期の推定にもつながる可能性もある。そして、さらに多くの事例を積み上げることによって統計学的手法を用いた産地同定が可能となれば、古代窯業製品の流通・消費の解明に大きく寄与することになるはずである。

引用参考文献

長佐古真也 2022 「胎土の元素組成からみた近代多摩地域煉瓦の特徴」『ふるさと文化財課紀要』第1号 日野市ふるさと文化財課

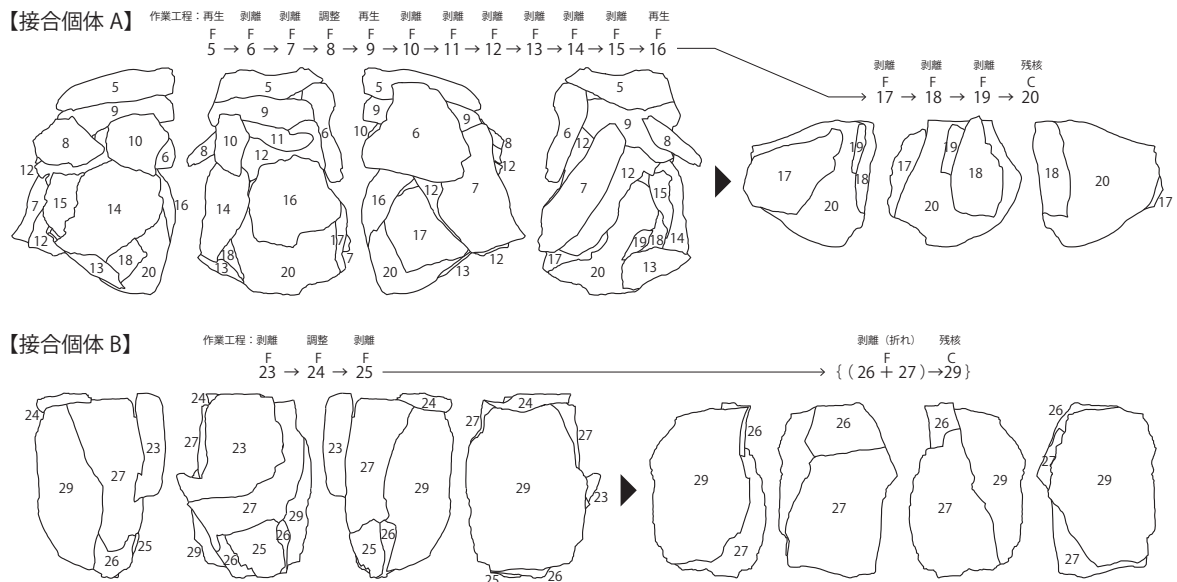
閲覧 URL https://www.city.hino.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/023/982/hino2022nagasako1.pdf

長佐古真也 2024 「EDX を用いた古代須恵器・瓦の非破壊分析に関する覚書―試料の前処理に関する留意点と生産地同定に向けた展望―」『研究論集』XXXVIII 東京都埋蔵文化財センター

VI 調査の成果と課題

1 旧石器時代

旧石器時代の遺物は、2-7 区試掘坑 12 において遺物集中部 1 箇所と 2-6 西区で遺構外の細石刃 1 点が検出された。遺物集中部では合計 35 点と多くはないが、その内半数以上で接合関係が認められ、2 個体の良好な個別別資料が得られた。第 398 図は、接合個体 A 及び B の剥片剥離工程を示したものである。2 個体共に打面再生あるいは打面調整を介し、連続的に剥片を生産する技術を読み取る事ができる。その過程の中で作出した剥片を、共に出土したナイフ形石器のような素材にしていたのだろう。ただし、そうした技術をもつものの、接合個体 A では頻繁な打面転位を繰り返し、結果的には目的とする剥片が得られていない状況である。また、接合個体 B も A と比べ両設打面による対向剥離が行われていることから剥離は安定しているが、やはり目的とする剥片はこの最終段階である接合個体からは得られていない。おそらく、この前段階の剥離で得られた剥片が、本来目的とされていたサイズ・形状のものであり、製品等の素材として利用され、遺跡外へ持ち運ばれたものと推察される。こうした当該期の剥片剥離の技術基盤を窺い知れる接合資料は、これまでの市内遺跡の調査報告の中では稀な事例である。また、黒曜石を主体とする石器群の事例が多い中で、今回の集中部は、黒曜石を伴わず細粒凝灰岩及び黒色チャートを主体とする石器群ということも特徴である。地域あるいは当該時期の集団の性格を考える上で有用な資料となろう。



第 398 図 剥片剥離工程

一方、細石刃資料は 1 号遺物集中部に続く 2 例目となる検出であったが、出土位置が不明な遺構外として僅か 1 点のみのため踏み込んだ解釈は難しい。ただし、1 号遺物集中部から約 300m 離れた場所でも存在するということは、1 号遺物集中部と同様に同時期の痕跡がスポット的に点在することが予想され、当該時期の浅川沿岸における行動分布を読み解くための事例となろう。今後、本地域の調査事例が増加するにつれ、当時の動態が明らかになってくるものと考えられる。(塚田)

2 縄文時代

今回の調査地点においては竪穴建物跡・竪穴状遺構は検出されず、遺構は集石 3 基、土坑 28 基、ピット 75 基が検出された。このうち集石については、いずれも土坑ないしは掘り込みは伴わず、浅川で採取できる砂岩を主体とする焼礫が広く平面的に分布する状況であった。

また、比較的丁寧に縄文時代の調査を行った 2-6 東区においては、南へ向かって傾斜する埋没谷と、その谷を取り囲むかのように分布する陥し穴を含む土坑及びピット群が検出された。また、この谷底面のⅢ層土中からは、前期を中心とする多数の土器も出土し、谷地形の利用の一端を垣間見ることができた。

遺物は、前期から中期を中心として上記の埋没谷を含む調査範囲全域に分布しているが、小片が主体であり、接合、復元できる個体も少なかった。

このような状況から、当調査地点は集落本体ではないものの、集落に近接する生業を行う場であったと言えるであろう。なお集落については、当調査地点の東南東に位置する調査地点で検出された 9 軒の竪穴建物跡や（東京西線及び北八王子変電所遺跡調査会 1974）、その北側で調査された 3 軒の竪穴建物跡（トキオ文化財株式会社 2023）がいずれも中期に帰属しており、位置的に今回の当該期出土土器との関連が窺えそうである。

なお遺物については、日野市やその周辺でも出土例の少ない晩期前葉の安行 3a～3b 式併行、晩期後葉の大洞 A 式・A' 式併行期の土器が少数ながら出土した点が特筆されよう。

3 弥生時代終末期～古墳時代前期

今回の調査地点では、『平山遺跡』その 2 収載調査地点と比べると少数ではあるが、当該期の竪穴建物跡 6 軒、土坑・ピット各 1 基が検出された。このうち、SI74 を除く 5 軒の竪穴建物跡について、『平山遺跡』その 2 と同様、形態や付帯施設等の有無等を分類したうえで、集落の様相を概観することとする。

1) 竪穴建物跡の形態・規模・付帯施設等について

平面形態 長軸が短軸の 1.1 倍以上のものを長方形、以下のものを方形とすると、隅丸長方形が 2 軒（SI65・66）、隅丸方形が 3 軒（SI59・60・62）となる。

規模 便宜上、長軸長 2～3m 台を小型、4～5m を中型、6m 以上を大型とすると、小型が 1 軒（SI59）、中型が 4 軒（SI60・62・65・66）で、大型は該当なしである。中型の中では SI65 が長軸 579cm で、他と比べると大きさが目立つ。

主軸方向 5 軒全てが西方向で、平山遺跡その 2 調査地点と同様な傾向にある。

主柱穴 主柱穴が 4 本のものは SI65 のみである。

壁溝 壁溝は検出されなかった。

炉 炉は 5 軒全てで検出された。SI66 を除く 4 軒が地床炉で、枕石があるものが 3 軒（SI59・60・65）、無いものが 1 軒（SI62）であった。枕石の無い SI62 の炉は、火床面は無いが、検出位置と覆土に焼土が少量含まれることから、炉と判断した。

SI66 は枕石を伴う粘土床炉で、炉の火床面に厚さ 3cm 程度シルト質の粘土を敷き詰めており、粘

土は被熱により硬化している。

貯蔵穴 貯蔵穴とみられるピットは5軒全てで確認された。このうちSI66の貯蔵穴は規模の縮小が行われている。5軒とも梯子穴とされるピットがある出入口から入って右側に位置している。

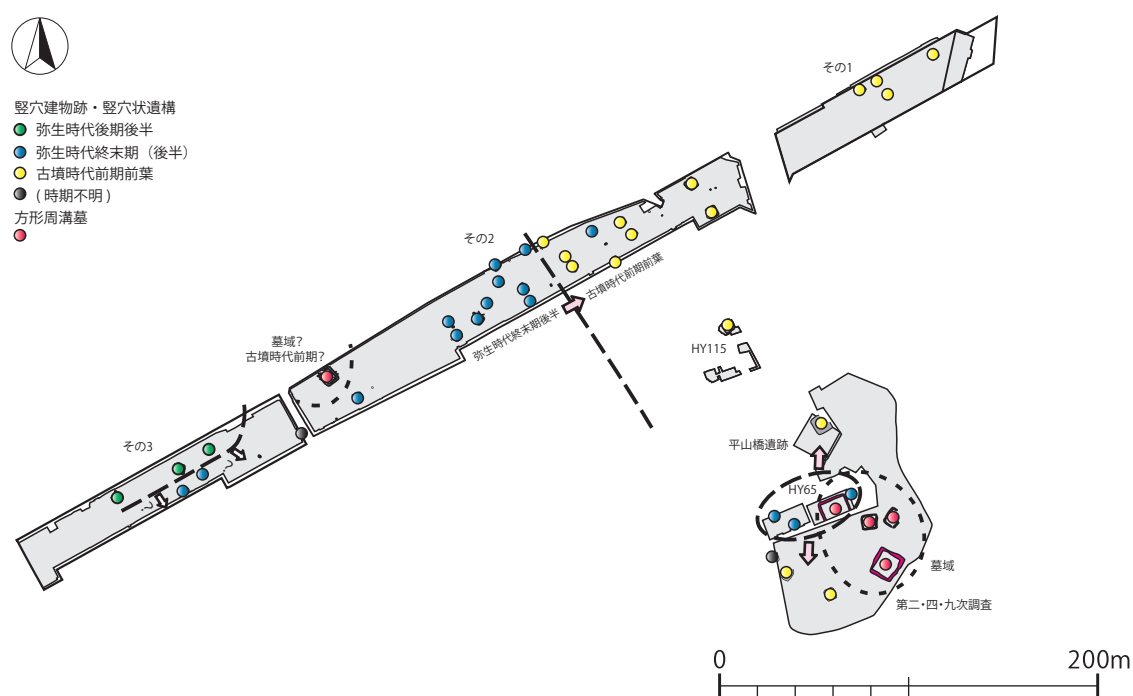
梯子穴 5軒全てで検出された。SI60・62は南壁寄りに位置しているが、他の3軒では東壁である。SI66の梯子穴は新旧2基が切り合っており、据え替えが想定される。

土堤 土堤は、SI62を除く4軒で検出された。SI59・65・66では貯蔵穴に隣接もしくは貯蔵穴の一部を囲むように構築されているが、SI60では梯子穴と考えられるピットを囲むように構築されている。

赤砂 SI62・65の2軒で確認された。このうちSI62では高さ8cm程度の盛土状に検出されたが、SI65では盛土状には検出されず、床面にて平面的に範囲を確認した。検出位置は、いずれも出入口から入って右側の隅である。

なお、SI74については、現道部分が未調査なため全容は不明だが、調査を実施した範囲内では、柱穴や炉をはじめ床面の付帯施設が一切検出されておらず、未調査部分にも付帯施設が無いことも想定される。このことに加え、出土遺物量の少なさが『平山遺跡』その2収載調査地点の竪穴状遺構SI24・45と類似することから、SI74についても炉を伴わない「竪穴状遺構」の可能性を指摘したい。

SI66で検出された粘土床炉については、既報告の平山遺跡の竪穴建物跡の中では初の検出例と思われる。日野市内においては、平山遺跡の北東に隣接し、同じ浅川左岸にある吹上遺跡の45号住居跡で事例がある程度であるが、やや範囲を広げてみると、浅川の支流である湯殿川沿いの八王子市神谷原遺跡で複数検出されている（八王子市櫛田遺跡調査会 1981・1982）。だが、報告されている同時期の竪穴建物跡157軒のうち、粘土床炉（報告では粘土板炉と呼称）は6軒のみであり、平山遺跡と同様に、炉の主流でないようである。



第 399 図 弥生時代後期～古墳時代前期の集落全体図 (1/4,000)

2) 帰属時期と集落の変遷

各竪穴建物跡の帰属時期については、本報告をもとに下記の2時期に分類した。

弥生時代後期後半 SI62・65・66

弥生時代終末期 SI59・60

このことから、最大規模のSI65とその東西のSI62・66が先行して構築され、その後、SI65に近く比較的小型のSI60・62が建てられたと仮定できる。また、平山遺跡その1・2調査地点と同様、建物跡どうしの切り合いや極端な近接がないことから、ある程度は併存、もしくは古い建物の廃絶後、それが存在していたことが認識されている期間に、隣接地に建てられた可能性が考えられる。

これらの建物跡とSI74の間に建物跡のみられない空白地帯があるが、これについては後述する。

3) 集落と墓域

今回の調査地点及び『平山遺跡』その1・2収載調査地点に加えて、近隣の既報告地点（平山橋遺跡、第二・四・九次調査、HY65、HY115）における同時期の竪穴建物跡及び方形周溝墓の分布を第399図に示した。既報告の建物跡の時期は、HY115地点については報告書の記述をもとに、それ以外は守屋（守屋2024）をもとにして、弥生時代後期後半、弥生時代終末期、古墳時代前期前葉の3時期に区分した。なお、守屋が弥生時代終末期後半としているものについては、ここでは弥生時代終末期とした。

この区分によると、最も古い竪穴建物は本調査地点のSI62・65・66の3軒である。それが弥生時代終末期になると、平山遺跡その2調査地点の西部から本調査地点の東部にかけてと、南東部のHY65地点で見られるようになる。続く古墳時代前期前葉になると、平山遺跡その2調査地点東側から平山遺跡その1調査地点、第二・四・九次調査地点及び平山橋遺跡地点へと移る。また、近年新たにHY115地点でも古墳時代前期前葉の建物跡が検出されており、この時期の集落は、平山遺跡その2調査地点の東部、平山遺跡その1調査地点から平山橋遺跡にかけて大規模に展開していた可能性も見えてきた。

一方、墓域については、南の第二・四・九次調査地点及びHY65地点の墓域と、平山遺跡その2調査地点西部のSZ2とが認められている。前者の墓域は、HY65地点で竪穴建物跡の後に方形周溝墓が築造されていることから、第二・四・九次調査地点からYH65地点への墓域の拡大により、集落が移動した可能性が考えられる。

また、後者は、現状では1基のみの報告であるが、その北側部分の発掘調査で方形周溝墓が確認されていることから、2基以上の複数基で墓域を形成していたとみられる。既報告地点に限ってみれば、墓域の南にやや間隔をあけて2基の竪穴建物跡もしくは竪穴状遺構が位置しているが、東西は建物跡の認められてない空間があることから、あらかじめ墓域の拡張を想定していたかのようである。また、この墓域に隣接する竪穴状遺構と竪穴状遺構の可能性のある竪穴建物跡は、墓域の拡張時に撤去する前提であったか、想像をたくましくすれば、墓前祭祀等に関連する施設であった可能性を考えたい。

以上のことからまとめると、弥生時代終末期の集落は平山遺跡その2調査地点の西部から本調査地点の東部にかけてと、南東部のHY65地点で見られるが、古墳時代前期前葉になると、前者は東と

西のそれぞれへと広がり、後者は墓域の拡大に伴い周縁へと広がる。その後、古墳時代前期中葉には今回の検討範囲内において竪穴建物跡は見られなくなり、代わりに平山遺跡西部の第 13 次調査地点で竪穴建物跡が見られるのを最後に、平山遺跡の集落は終焉を迎える。

平山遺跡の集落の変遷については、隣接する吹上遺跡や他の日野市内の遺跡のみでは検討できない。平山遺跡その 2 調査地点 SI34 出土の垂飾とみられる有孔石製品が八王子市域で多く出土することなど、粘土床炉共々、八王子地域との関連性を検討する必要がある。日野バイパス建設事業に伴う発掘調査及び整理調査の進捗や、隣接地における区画整理事業に伴う発掘調査による更なる成果を待って、改めて検討したい。

4 古 代

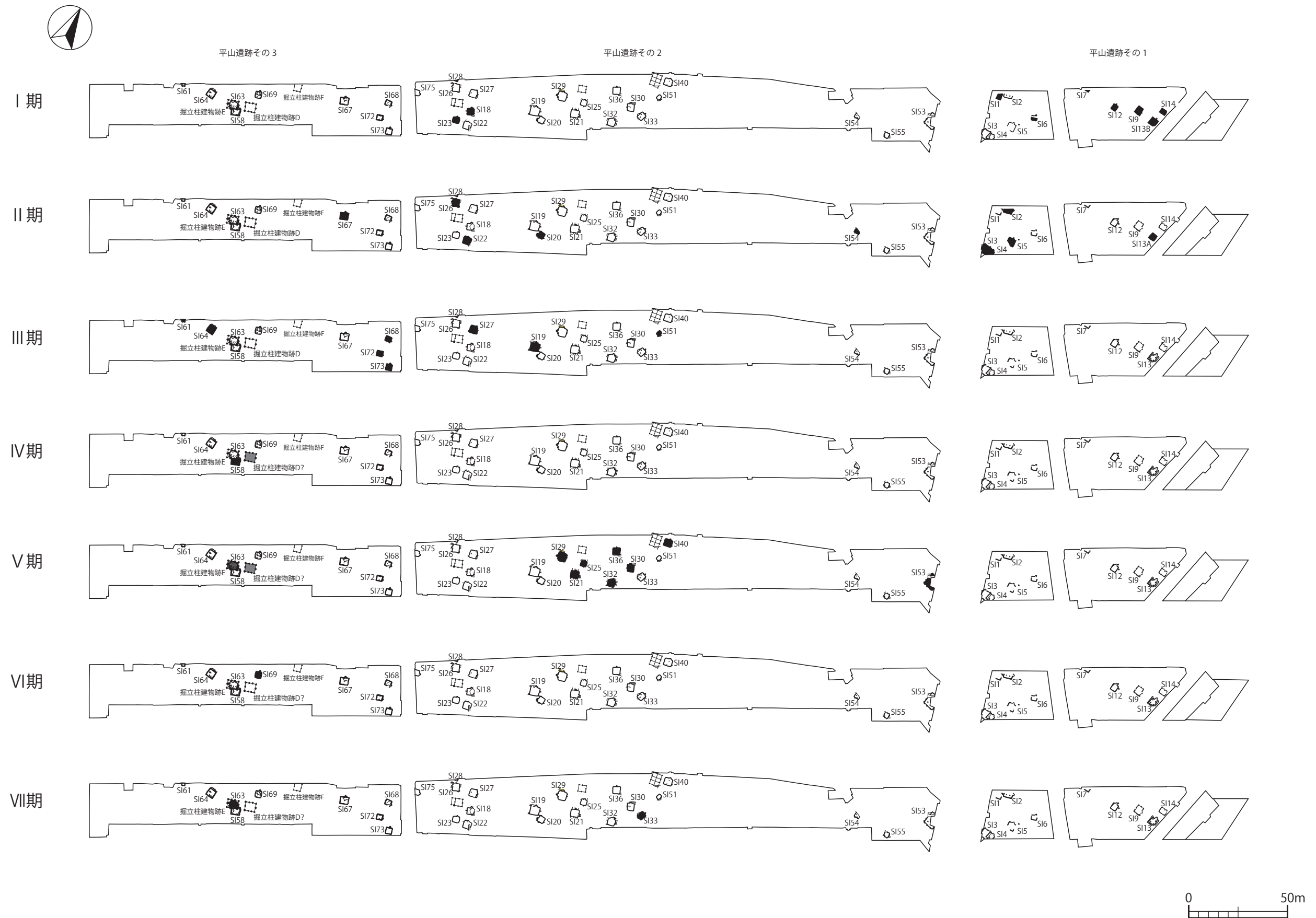
1) 平山遺跡その 1～3 調査地点における集落の変遷

今回の調査地点及び『平山遺跡』その 1・2 収載調査地点において、出土遺物や遺構の様相から古代に帰属すると判断した竪穴建物跡は 42 軒に及ぶ（SI13 は A・B の 2 軒とする）。これらを出土した須恵器・土師器の変遷過程から改めて帰属時期を検討し、7 時期に区分した。Ⅰ期：8 世紀前半、Ⅱ期：8 世紀前葉から中葉、Ⅲ期：8 世紀後葉、Ⅳ期：8 世紀後葉から 9 世紀初頭、Ⅴ期：9 世紀中葉から後葉、Ⅵ期：9 世紀末葉から 10 世紀初頭、Ⅶ期：10 世紀初頭から前葉である。

各時期の指標は、概ね次のとおりである。Ⅰ期は鬼高式土器の系統である厚手の土師器甕と盤状坏の組み合わせで、武蔵国府の土器編年（以下、武蔵国府編年とする、山口 1985）の N2 期、南比企窯跡群鳩山編年の H1・H2 期に相当する。Ⅱ期では引き続き盤状坏が見られ、甕は器壁の薄い武蔵型甕と、厚手の甕もまだ残る。須恵器坏は前内出窯よりも大ぶりの坏が見られる。武蔵国府編年の N2・N3 期に相当する。Ⅲ期は、土師器甕では武蔵型甕が主体となり、須恵器坏は底部の回転糸切り後、回転ヘラケズリ等の再調整を施すものが主体である。Ⅳ期では、須恵器坏の底部に再調整を施すものが多いが、底径の小型化が見られる。Ⅴ期では、須恵器坏の底部は回転糸切り後、無調整になるものが増える。口径と底径の比率で見ると、①口径<底径×2、②口径≒底径×2、③口径>底径×2 があるが、①と②が多い。南多摩窯 G37・G59 窯式（服部・福田 1979・1982）、南比企窯跡群鳩山編

第 66 表 古代竪穴建物跡時期別一覧表

時期	年代	平山遺跡その 1	平山遺跡その 2	平山遺跡その 3	計(軒)
Ⅰ期	8 世紀前半	SI1・6・7・9・12・13B・14	SI18・23・28	-	10
Ⅱ期	8 世紀前葉から中葉	SI2・3・4・5・13A	SI20・22・26・54	SI67	10
Ⅲ期	8 世紀後葉	-	SI19・27・51	SI61・64・68・72・73	8
Ⅳ期	8 世紀後葉から 9 世紀初頭	-	-	SI58	1
Ⅴ期	9 世紀中葉から後葉	-	SI21・25・29・30・32・36・40・53	-	8
Ⅵ期	9 世紀末葉から 10 世紀初頭	-	-	SI69	1
Ⅶ期	10 世紀初頭から前葉	-	SI33	SI63	2
(不明)		-	SI55・75	-	2
計(軒)		12	21	9	42



第 400 図 古代集落変遷図 (1/2,000)

年の H VI・H VII・H VIII が相当する。VI 期は、須恵器坏は回転糸切り後、底部に調整を施さず、口径と底径の比率では上記③の坏が主体になる。南多摩窯 G25 窯式、南比企窯跡群鳩山編年の H IX・H X 期に相当する。VII 期は、須恵器坏の底部は回転糸切り後、無調整のままで、底径の小型化がより進む。南多摩窯 G5 窯式、南比企窯跡群鳩山編年の H XI 期に相当する。

これらの時期に帰属する竪穴建物跡は第 66 表の通りである。また、これらを調査区全体図上で時期ごとに変遷を図示したものが第 400 図である。

同図によると、集落の変遷は凡そ以下の通りであることが分かる。

- I 期：東端の崖線付近の平山遺跡その 1 調査地点と、崖線から離れた平山遺跡その 2 調査地点西部で竪穴建物が建てられる。
 - II 期：崖線側の竪穴建物群は西へ展開し、SI13 は建て替え (SI13B)。平山遺跡その 2 調査地点の竪穴建物群は本調査地点も含む東西に展開か。
 - III 期：崖線側の平山遺跡その 1 調査地点では一旦竪穴建物跡が見られなくなる。平山遺跡その 2・3 調査地点の建物群は更に東西に広がる。
 - IV 期：平山遺跡その 3 調査地点の SI58 の 1 軒のみになる。
 - V 期：平山遺跡その 2 調査地点中央部で再び複数の竪穴建物群が展開。やや東寄りで側柱建物 SI53。
 - VI 期：再び 1 軒のみ。平山遺跡その 3 調査地点の SI69 が該当。
 - VII 期：平山遺跡その 2 調査地点の SI33、平山遺跡その 3 調査地点の SI63 の 2 軒のみ。
- この時期以降、竪穴建物跡は確認されていない。

なお、これらの帰属時期は出土遺物からの判断であり、また SI13・53・63 等、遺構の状況から建て替えが行われたものもあることから、実際には 1 つの建物が複数の期間にまたがって存続していた可能性もある。

2) 平山遺跡その 3 調査地点における遺構群の変遷

上記のうち、本報告地点である平山遺跡その 3 地点における竪穴建物跡の帰属時期を時期別にみると、III 期が SI61・64・68・72・73 の 5 軒で最も多く、II 期 (SI67)、IV 期 (SI58)、VI 期 (SI69)、VII 期 (SI63) が各 1 軒のみで、I 期と V 期については該当が無い。

竪穴建物跡以外の遺構に関しては、土坑として報告した SK195 は歪な隅丸長方形を呈する浅くて大型の遺構で、遺物は、中心部から出土する炭化材を複数の土師器や須恵器、大型の礫で取り囲むような遺物の出土状況と、何度か掘り返されたような状況で焼土を含む複数の層に分層される覆土の状況から、火葬墓や土坑墓等の可能性を考えている。この SK195 については、出土遺物から帰属時期は VI 期と推定されている。

次に、遺構間の切り合い関係を確認したい。

竪穴建物跡同士では SI58 を SI63 が切っていることが分かっている。また、掘立柱建物跡 E については、SI58 を切っており、SI63 に切られている。また、掘立柱建物跡 E の東側に位置し、同建物跡と東西の軸が同じで、柱穴の配列も揃う掘立柱建物跡 D については、一部のピットを SK195 に切られており、また、その配列から、掘立柱建物跡 E と同時期、もしくは近接した時期に存在してい

た可能性が考えられる。

これらの遺構の切り合い関係を、遺物からみた帰属時期に合わせて検討すると、切り合い関係からⅣ期のSI58とⅥ期のSI63の中間に位置する掘立柱建物跡Eは、帰属時期をⅤ期と仮定できる。また、SK195に切られる掘立柱建物跡Dについては、SK195より古いということでⅤ期に掘立柱建物跡Eと同時期に存在したか、それ以前に帰属すると考えられるが、掘立柱建物跡Eと時期が近かったとするならば、Ⅳ期が妥当であろうか。

以上をまとめると、本調査地点の主な古代の遺構の帰属時期は以下のように想定される。

Ⅰ期：なし

Ⅱ期：SI67

Ⅲ期：SI61・64・68・72・73

Ⅳ期：SI58・（掘立柱建物跡D？）

Ⅴ期：掘立柱建物跡E・（掘立柱建物跡D？）

Ⅵ期：SI69・SK195

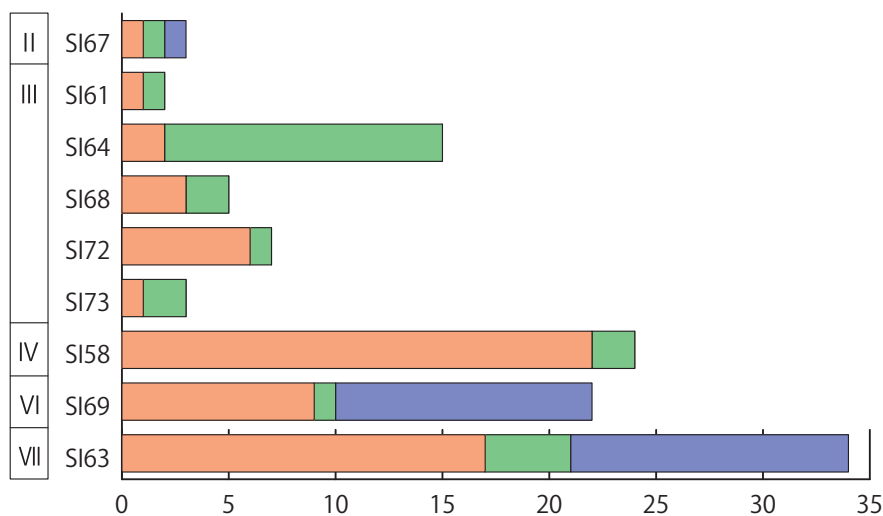
Ⅶ期：SI63

前項で見た通り、Ⅳ期とⅥ期に一時的に竪穴建物跡が1軒のみになり、それが、いずれも本調査地点の遺構が密集した場所に位置している。他の竪穴建物群が概ね距離を保って重複せず分布しているのとは異なり、この密集部では、近接した時期に重複して建物が構築されており、この箇所が何らかの特殊性（重要性）を有していたものと思われる。

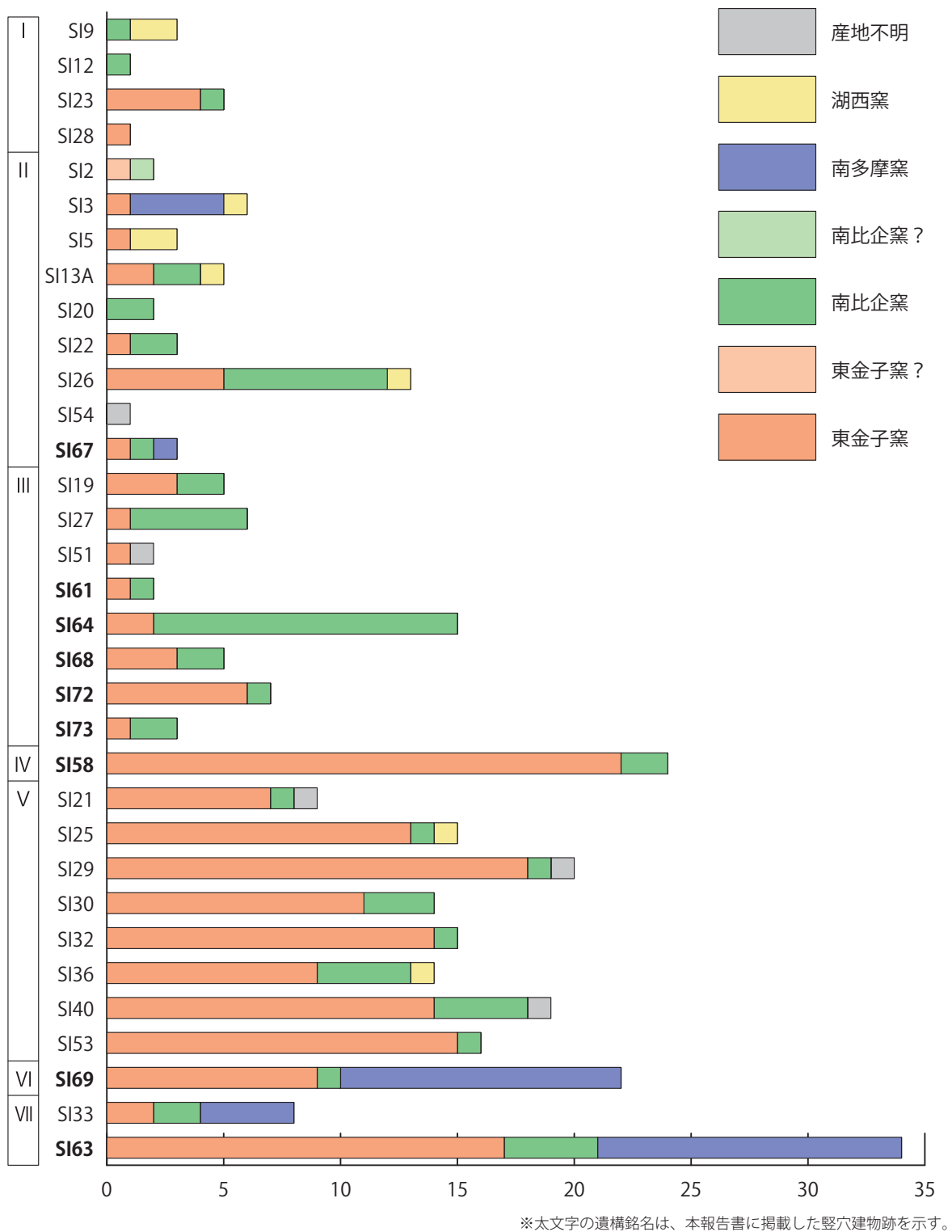
本調査地点周辺において、日野市教育委員会が発掘調査を実施した地点にも複数の竪穴建物跡があると考えられることから、それらの報告がなされた際には、より詳細に集落の変遷が明らかになることであろう。（相原）

3) 竪穴建物跡出土須恵器の産地と時期ごとの傾向について

本報告書に掲載した須恵器の産地同定については、古代の入間を考える会の根本靖氏に直接的な指導を賜り、肉眼観察を通じて、須恵器の胎土や焼成、質感や製作技法により、産地同定を行った。そ



第 401 図 古代竪穴建物跡出土須恵器産地別グラフ



第 402 図 平山遺跡その 1～3 調査地点竪穴建物跡出土須恵器産地別グラフ

の結果、本報告書に掲載した須恵器は、東金子窯、南比企窯、南多摩窯、湖西窯の製品であることが判明した。産地同定の対象とした須恵器は、遺物包含層から出土したものも含めて、207 点である。その中から古代の竪穴建物跡から出土した須恵器 115 点に限定し、産地別に集成したグラフを第 401 図に示した。これによると、東金子窯産須恵器が 62 点と最多で、南比企窯産須恵器 27 点、南

多摩窯産須恵器が 26 点と続く。なお、遺構外出土遺物には湖西窯産須恵器の甕が認められたが、竪穴建物跡からは出土していない。

時期別の傾向を見ると、Ⅱ・Ⅲ期では、東金子窯産須恵器と南比企窯産須恵器の両者が見られ、後者の方がやや出土量が多い。Ⅳ期になると、その状況は逆転し、南比企窯産須恵器を東金子窯産須恵器が上回り、圧倒的多数を占める。Ⅵ・Ⅶ期もその傾向に変化はないが、南多摩窯産須恵器の出土量が急激に増加する。

第 402 図には、日野バイパス建設事業に伴うこれまでの平山遺跡の発掘調査において、古代の竪穴建物跡から出土した須恵器を産地別に集計したグラフを示した。産地同定を行った須恵器の総点数は 303 点で、東金子窯産須恵器が 186 点と突出して多く（東金子窯産である可能性がある須恵器 1 点を含む）、次いで南比企窯産須恵器が 69 点（南比企窯産である可能性がある須恵器 1 点を含む）、南多摩窯産須恵器が 34 点と続き、湖西窯産須恵器は 9 点、産地不明が 5 点である。

各時期における様相では、Ⅱ期やⅢ期、Ⅴ期に湖西窯産須恵器が散見され、それらは甕が大部分を占める。Ⅱ期では東金子窯をはじめ、南比企窯や南多摩窯、湖西窯の各地の須恵器が見られ、目立った数量的な傾向はなさそうである。Ⅲ期になると、東金子窯産須恵器が 18 点に対し、南比企窯産須恵器は 26 点で、南比企窯産須恵器が東金子窯産須恵器を上回る。南比企窯産須恵器はⅡ期では 14 点であり、倍近くに増えている。Ⅳ期以降は様相が一変し、東金子窯産須恵器が圧倒的に増加し、南比企窯産須恵器の出土量は前期の半分程度に減少する。Ⅵ・Ⅶ期になると、東金子窯産須恵器と南比企窯産須恵器とが占める割合に大きな変化は見られないものの、南多摩窯産須恵器の出土量が目立つようになる。

時期ごとの産地別の須恵器出土量の変化とその傾向については、『平山遺跡』その 2（東京都埋蔵文化財センター第 382 集）でも指摘されており、今回提示した第 401・402 図の集計結果を合わせて考えても大きな差異は見られない。9 世紀末葉頃を境にして、これまで須恵器の供給を北武蔵地域に依存していた状況から、須恵器生産が活発化した近在の南多摩窯からも須恵器が供給される状況へと変化したことが窺える。

なお、Ⅲ期の SI64 では、同時期の竪穴建物跡と比べ、南比企窯産須恵器が突出して多い。これは当該期の南比企窯産須恵器の出土量を押し上げている要因でもある。平山遺跡その 2 収載調査地点においても、南比企窯産須恵器がまとまって出土した竪穴建物跡が確認されており（SI26・27）、SI20 のように南比企窯産須恵器のみという場合もある。こうした現象が須恵器消費地において何を意味するのか、須恵器産地に関する情報の蓄積を踏まえ、今後検討する必要がある。

4) 多摩ニュータウン№ 107 遺跡出土須恵器と類似する須恵器について

根本氏による古代須恵器の産地同定に関する現地指導の際に、「南多摩窯」産須恵器とした中に、多摩ニュータウン№ 107 遺跡で出土した須恵器と胎土や質感が類似するとの指摘を受けた須恵器が 6 点含まれていた。具体的には、SI67 出土の第 232・233 図 7、SK195 出土の第 294・295 図 8、掘立柱建物跡 D の SP786 出土の第 286 図 2、古代の遺構外出土遺物の第 316・317 図 6、第 322・323 図 59、第 324・325 図 75 である。これらの須恵器の特徴として、焼成が軟質であり、色調がにぶい黄橙色あるいは橙色を呈すること、胎土に砂粒を多く含み、緻密さに欠け、粗い印象を受ける

ことが挙げられる。

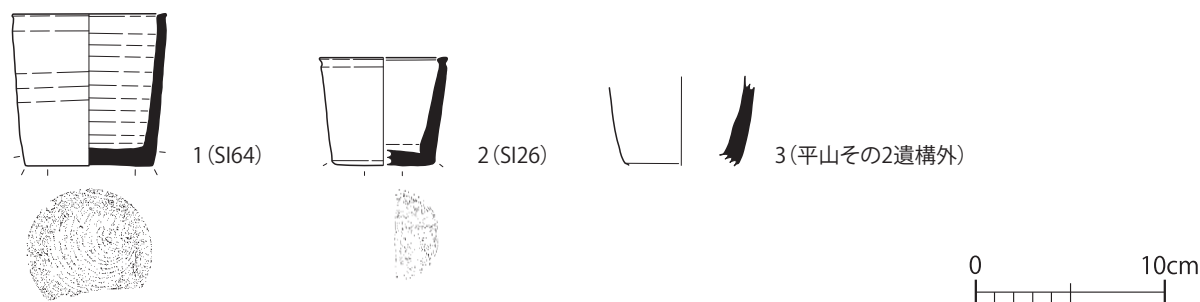
多摩ニュータウンNo. 107 遺跡は八王子市松木に所在し、多摩ニュータウン開発事業に伴い、昭和53年から平成元年にかけて発掘調査が実施された。遺跡は大栗川と大田川の合流地点に立地し、谷に面する台地では古墳時代後期や奈良・平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡が発見された。谷部には、古墳時代後期から奈良・平安時代の水場遺構が重層的に構築され、生活の場として利用されていただけでなく、遺物廃棄の状況も明らかになった。奈良・平安時代の水場遺構は8世紀後半に形成され、9世紀中頃には使用されなくなったとされる。水場遺構からは、土師器や須恵器のほかに、木製品のロクロで削り出した皿や椀、蓋や曲物といった容器類、弓や鞍、建築部材等が数多く出土した。この中には、「官」や「全」といった焼き印が捺された木製の皿をはじめ、「位」「全」「益」「田」等の文字や即天文字が記された墨書土器が含まれており、古代の文字資料が豊富であることで知られている(東京都埋蔵文化財センター 1999)。

古代の水場遺構から出土した須恵器のうち、東金子窯産須恵器に見られる製作技法で作られているものの、南多摩窯産須恵器に通じる胎土や焼成の須恵器の一群があり、これらの生産地に関して様々な議論があったとされる。根本氏によれば、平山遺跡で今回出土した上記の須恵器について、多摩ニュータウンNo. 107 遺跡の水場遺構出土須恵器との類似性が見出せるという。本報告では、これらの須恵器に対する胎土分析等を行っていないが、今後も平山遺跡の整理調査を進めていくうえで、留意すべき指摘である。古代における須恵器の生産・流通の解明に向けて、須恵器の産地同定に関する情報を積み上げていく必要があるだろう。

5) 平山遺跡出土のコップ形須恵器について

今回の発掘調査では、いわゆる「コップ形須恵器」と呼ばれる土器がSI64から1点出土した。また、『平山遺跡』その2収載調査地点においても、SI26から1点の出土例がある。コップ形須恵器は計量器として用いられたというのが通説で、平城京右京五条一坊五坪の井戸から出土した「三合一夕」銘があるコップ形須恵器や、唐招提寺境内経蔵前井戸跡から出土した「二合半」の墨書があるコップ形須恵器がよく知られている。

平山遺跡で出土したコップ形須恵器には、量銘の墨書は見られなかった。第403図1・2ともに体部が底部から直線的に立ち上がり、筒形を呈する。口縁端部は内傾する面を有し、口縁部直下の外面に凹線がめぐる。2はその凹線が深いため、口縁部がくびれたような形状になる。いずれも底部は回転糸切り後、外周に回転ヘラケズリを施す。1は口径8.0cm、器高8.0cm、底径6.7cm、2は口径



第403図 平山遺跡出土コップ形須恵器集成 (1/4)

6.6cm、器高 5.7cm、底径 5.2cm である。3 は遺物包含層から出土した体部破片で、その形状からコップ形須恵器だと考えられる。1・2 とともに胎土に海綿骨針が含まれることから南比企窯の製品で、3 は東金子窯の製品である。

なお、本調査地点よりも西側の調査地点（3-1 西区）においても、竪穴建物跡からコップ形須恵器が出土している。この出土例も含めると、コップ形須恵器が局所的に出土している状況が窺える。本報告書ではコップ形須恵器の集成と提示にとどめ、次回の報告書において出土状況等を踏まえた検討を行う予定である。

6) 平山遺跡その 3 調査地点の文字資料について

本報告書に掲載した遺物には、古代の墨書土器が 2 点含まれていた。1 点目は SI69 から出土した須恵器坏（第 258・259 図 4）で、外面に楷書で「良」と記されていた。2 点目は表土層から出土した須恵器蓋（第 322・323 図 50）で、天井部外面に「大垣内」と解釈できる墨書が認められた。これまでに平山遺跡で発見された墨書土器の傾向を見ると、一文字ないし二文字の墨書が多く、三文字の墨書土器は初見である。

平山遺跡において、「良」の墨書土器は大型四面廂建物跡周辺の竪穴建物跡からの出土事例があり、16V-5 号住と 17U-4 号住から 1 点ずつ出土している（宮本 2024）。

「大垣内」については、赤外線撮影や調整した画像をもとに判読を試みたもので、現時点での解釈であり、別の文字である可能性も考えられる。「大垣内」と仮定した場合、一文字目の「大」はサイズや規模を表す大小の大きいと理解するのが一般的である。次の文字を一続きで「垣内」と読むか、個別に「垣」と「内」とで読むかによって捉え方が変わる。「垣内」とすれば、まず思い浮かぶのが地名や固有名詞である。「垣」と「内」とで分けて読むのであれば、垣根のような施設があり、その内側であることを意味するのだろうか。現状では想像の域を出ない内容であり、類例の集成や検討材料を揃えたうえで、改めて検討を行いたい。（小西）

5 古代末～中世

今回の調査地点では、掘立柱建物跡、溝、土坑、ピットを検出した。

溝のうち SD12 については、出土した炭化材（カバノキ属）の年代測定を実施したところ、13 世紀代の暦年代範囲を示した（第 V 章第 1 節参照）。発掘調査時から、古代末～中世のなかでも中世に近い時期に帰属するものと想定していたが、分析の結果によってこれが裏付けられたかたちである。また、調査区を東西に横断し、SD12 と直交するとみられる SD13 についても、その位置関係や断面形状、覆土の様相から同時期のものとみられる。更には、SD13 から東に 180 m 離れた SF3 についても、同じく南北に伸びて SD13 と並走しており、形状等からも同時期のものと想定できそうである。SD12・13・SF3 共に、何らかの目的で土地を区画する意味を持っていたものと考えられる。

土坑は 31 基が検出され、平面形態から円形、楕円・小判・卵形、隅丸長方形に分けられる。そのうち 9 基は、円形を呈するいわゆる「円形土坑」である。

円形土坑とは、主に歴史時代に帰属し、直径 100cm 前後の正円形を基本とし、深さは最深 50cm 程度、底面は皿状もしくは鍋底状を呈し、覆土はスコリア質で締まりがない 1 層から数層が堆積する

といった斉一性があり、1つの遺跡で多数が検出されることが多い遺構のことである。概して出土遺物は少なく、遺物からの時期特定は困難である（市川 1986）。機能については、陥し穴、炭焼坑、墓壇、貯蔵穴など諸説ある。

神奈川県下北原遺跡を調査した小西絵美は、覆土全体に炭化物粒子、特に最下層に炭化材、底面に接して焼土や炭化物が集中しているものが多く、壁面に焼土が付着するものもあることから、炭焼坑を想定した（小西 2008）。

八王子市館町遺跡の報告で、田中良宣は、遺物がいずれも自然流入したものということは、遺物を伴わないということであり、また覆土が自然堆積ということは開口していたということであることから、内容物を取り出してから遺棄したと考えた。縄文時代と同様の陥し穴だと考えるには規模が小さすぎ、墓壇と考えるのも規模と覆土の堆積状況から合わない。同遺跡の調査区では同時期の他の遺構が見られないが、少量ながら同時期の遺物が包含されており、土地は利用されていたとみられることから、畑地として利用されていたと考えた。そのため、畑の両側に相当するとみられる範囲に円形土坑が構築されたとした（田中 1985）。ただ、平山遺跡では、平坦面のため地形的には検討しがたい。

帰属時期について、田中は8世紀代以降とした（田中 1985）。また鶴間は、多摩ニュータウン No.419・420 遺跡の円形土坑の覆土が新期富士降下火砕層の延暦 19 年（800 年）、貞観 6 年（864 年）の噴火物と考えられている IIB 層であり、その覆土中の土師器片などから、一応平安時代およびそれ以降としている（鶴間 1983）。

さて、平山遺跡例はどうであろうか。分布は、本調査地点の9基のうち8基が2-6 西区の中央部に集中していた。『平山遺跡』その2 収載調査地点でも3箇所程度の集中部があったことから、円形土坑については、複数がまとまって構築される傾向があると言えよう。遺物は少ないが、特異な例として、SK191 から小片だが古代の瓦片が出土している。同様の例は多摩ニュータウン No.587 遺跡で見られる（川島雅人・福嶋宗人 1983）。規模は直径 100cm 前後、深さは深くて 50cm 程度、底面は皿状もしくは鍋底状を呈し、覆土はスコリア質で締まりがない1層から数層、1つの遺跡で多数が検出されるという市川の挙げた特徴に当てはまる。

覆土の含有物については、平山遺跡例では炭化材や炭化物粒子、焼土が顕著なものは SK191（焼土微量）、SK232（最下層に炭化物微量）等、わずかである。

平山遺跡その2 調査地点では、炭化材は SK155 で多数の炭化材（クリ材）が出土したのをはじめ、円形土坑ではない複数の土坑で炭化物の含有が認められている。

機能については、市川は、農業用水の貯蔵用を想定しているが、少なくとも平山遺跡の例では、貯蔵用の桶等を設置した痕跡は積極的には認められない。平山遺跡その2 調査地点で古代の竪穴建物跡を切る例が3例あることから古代よりは新しいと想定でき、また、その時期の遺構が他に認められないことから畑地であった可能性を考え、農事関連の貯蔵穴等を想定しておきたい。

平山遺跡とここで挙げた他の遺跡では立地が異なることから、一概には比較できない。平山遺跡その2 調査地点の円形ではない土坑が、炭焼坑であった可能性が考えられるのではないだろうか。

6 近世以降

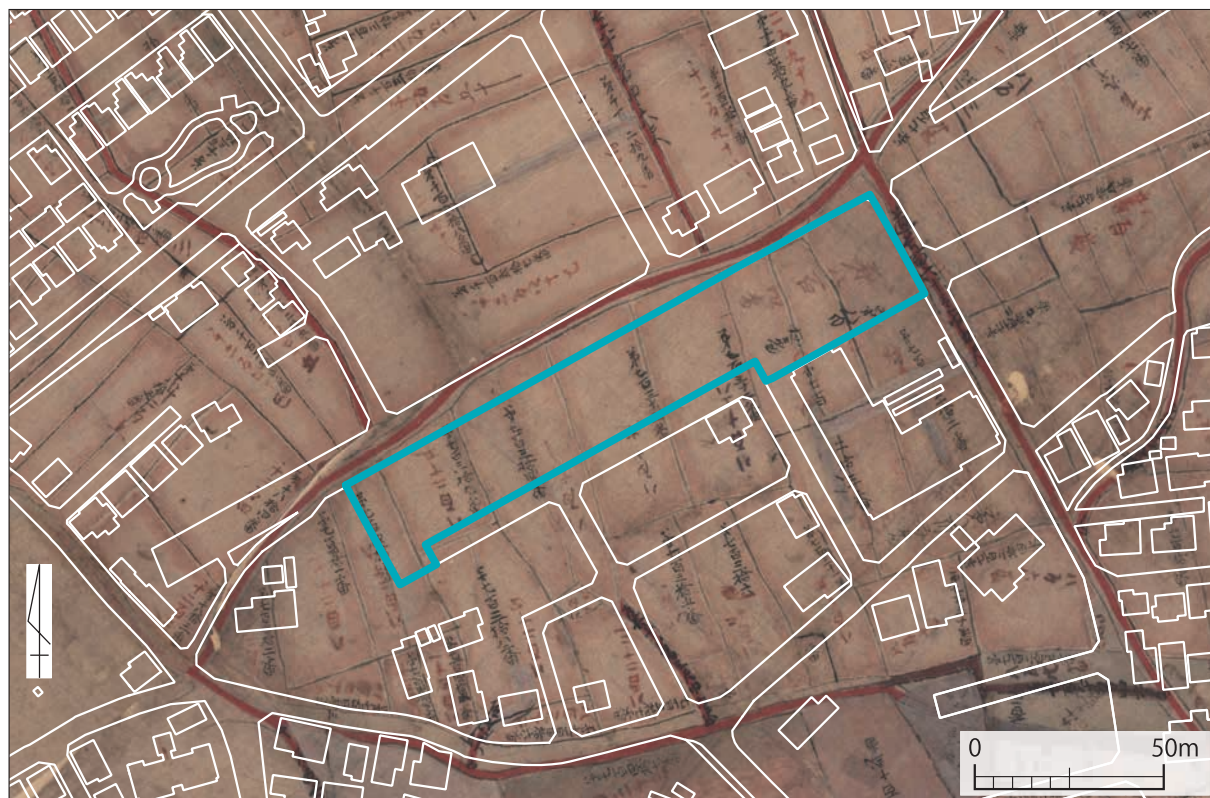
近世以降の帰属とした遺構は、『平山遺跡』その2 収載調査地点と同様に農事関連遺構群とした溝

726 条、土坑 636 基、ピット 124 基の他、道路跡が 1 条検出された。複数条が並走する溝の多くが畑作に伴ういわゆる畝間溝、密集する土坑の多くが野菜の貯蔵等に用いた「イモ穴」や廃棄用の土坑と想定され、いずれも農事関連遺構とする考え方も同様である。

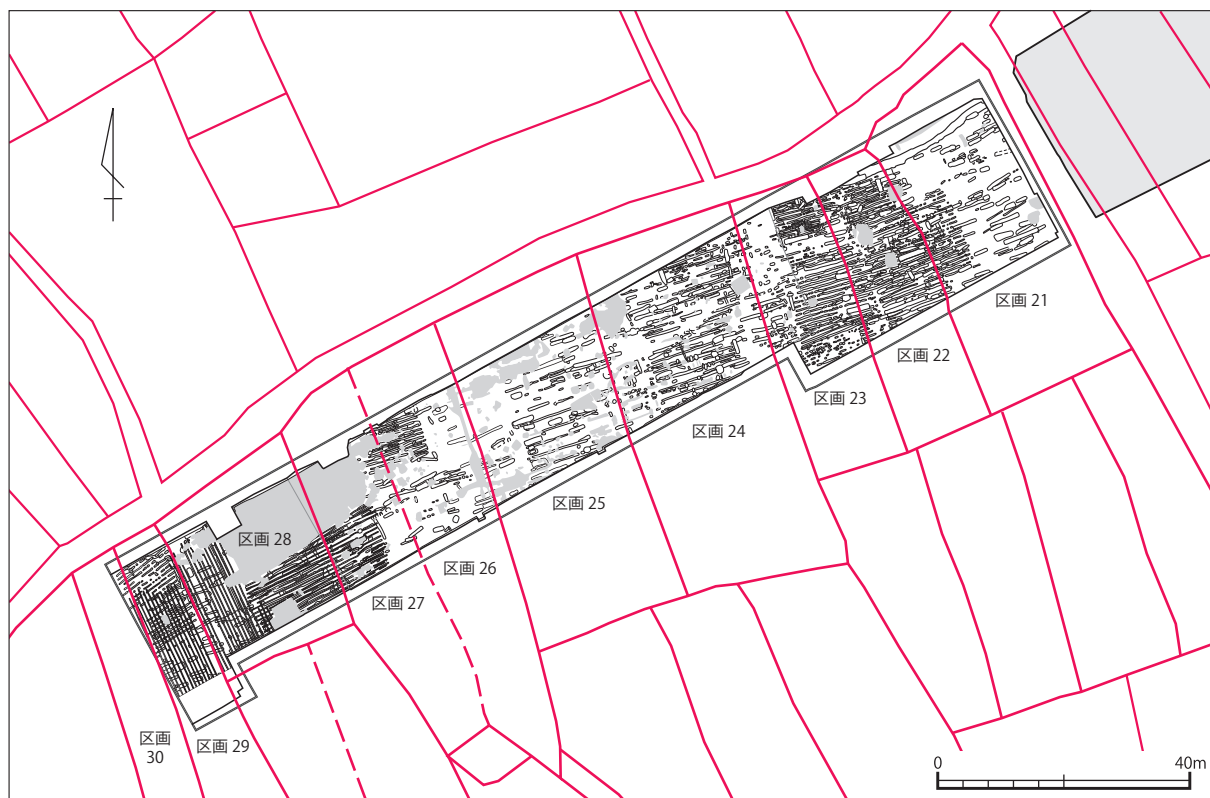
これらの遺構群については、前報告と同様、日野市所蔵「日野市域小字限り切絵図」の当該地区の絵図に今回の調査範囲を重ね（第 404 図上）、また同絵図をトレースしたものと今回の調査の近世以降の遺構分布図を重ね合わせ（同図下）、各区画の様相を検討した。地租改正のために明治時代初期の区画を示していると思われる同絵図の正確な縮尺は不明であるが、調査区東側を通る現道と、調査区南東のカーブした道をおおよその基準として重ねている。また、検出遺構と重なる各区画には、区画 21～30 の番号を付した。この図によると、やや誤差はあるが、検出された遺構のまとまりと区画が一致していることが分かる。

合成図では、区画 21 では東側は遺構が散漫だが、西側は比較的遺構が濃密で、北側には旧道をなぞるような緩やかなカーブを描く SFK1 が位置する。区画 22・23 は同じような密度で畝間溝が濃密に分布するが、両区画の間にはわずかな間隙がある。区画 24 は再び遺構が散漫になり、25 では更に遺構は少なく攪乱が目立つ。26 も同様だが、北側に畝間溝の集中が見られる。27 は北側が攪乱されるが、南側には根菜類栽培の溝が東西方向に走る。この溝は 28 の途中まで続くが、28 の西側は溝が南北方向に変わる。29 も根菜類の溝は南北方向を向いているほか、北側には東西の畝間溝も見られる。30 はごく一部のみが該当するが、根菜類の溝が同じく南北方向に走るが、北側の東西の畝間溝は 29・30 の境界付近で途切れるようである。

当調査地点を含む段丘や台地上は、明治時代より戦後頃まで桑畑であったとされていることから、恐らく桑畑のものとは異なるこれらの農事関連遺構群は、明治時代以前のものか、もしくは養蚕が衰退した戦後のもの、もしくは第二次世界大戦前後の食糧増産時のものと想定できる。（相原）



「日野市域小字限り切絵図」(日野市所蔵) 平山 5号(向耕地)・平山 8号(中原)・平山 9号(中矢崎) 及び国土地理院基盤地図情報基本項目データを合成・加筆



上記「日野市域小字限り切絵図」をトレースのうえ遺構分布図と合成

第 404 図 字限図・調査区と近世以降の遺構 (1/2,000・1/1,200)

引用・参考文献

- 飯塚武司・福嶋宗人 1983「No.587 遺跡Ⅲ遺構と遺物 2 平安時代」『『多摩ニュータウン遺跡—昭和 57 年度—』（第 3 分冊）東京都埋蔵文化財センター調査報告第 4 集 東京都埋蔵文化財センター
- 市川正史 1986「円形土坑について」『神奈川考古』22 神奈川考古同人会
- 及川良彦 2015「自然とともに生きた時代（弥生時代）」『新八王子市史 通史編 1 原始・古代』八王子市
- 及川良彦 2021「多摩地域の弥生時代」『多摩地域史研究会第 29 回大会発表要旨「邪馬台国」時代の多摩 3 世紀の多摩で何が起こっていたか—』多摩地域史研究会
- 加藤恭朗・坂野千登勢 2005『若葉台遺跡』若葉台遺跡発掘調査報告書Ⅵ 坂戸市教育委員会
- 株式会社 CEL 2016『平山遺跡 平成 27 年度平山遺跡における集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査（HY65 東平山 1 丁目 1 番 4 の一部 /5 の一部）報告書』
- 株式会社 CEL・日野市川辺堀之内土地区画整理組合 2015『吹上遺跡・神明上遺跡』
- 古代の入間を考える会 2013『古代入間の土器と遺跡（Ⅱ）—須恵器環の編年（9・10 世紀）—』
- 小西絵美 2008「第 7 章 まとめ」『下北原遺跡』かながわ考古学財団調査報告第 222 集（公財）かながわ考古学財団
- 渋谷芳浩 2003『南広間地遺跡』国土交通省関東地方整備局相武国道事務所
- 鈴木毅彦 2000「多摩川の河岸段丘—気候変化と海面変化に支配された浸食・堆積史」『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版
- 角田清美 2012「日野台地の地形と自由地下水」『駒澤地理』No.48 駒澤大学文学部地理学教室
- 田尾誠敏 2003「生産と交易」『平塚市史』11 下別編考古（2）平塚市
- 田尾誠敏 2007「律令制下の土師器」『土器の考古学』暮らしの考古学シリーズ① 学生社
- 田中広明 2003「腰帯の語る古代の官人社会」『地方の豪族と古代の官人—考古学が解く古代社会の権力構造—』KASHIWA 学術ライブラリー 01 柏書房
- 田中良宣 1985『館町遺跡』Ⅰ 八王子市館町遺跡調査団
- 鶴間正昭 1983「No.419・420 遺跡Ⅴ成果と問題点 奈良・平安時代」『多摩ニュータウン遺跡—昭和 57 年度—』（第 2 分冊）東京都埋蔵文化財センター調査報告第 4 集 東京都埋蔵文化財センター
- 鶴間正昭 2019『律令国家形成期の土器様相』六一書房
- 東京都埋蔵文化財センター 1983『多摩ニュータウン遺跡—昭和 57 年度—』（第 3 分冊）東京都埋蔵文化財センター調査報告第 4 集
- 東京都埋蔵文化財センター 1999『多摩ニュータウン遺跡—No.107 遺跡—古代編』東京都埋蔵文化財センター調査報告第 64 集
- 東京都埋蔵文化財センター 2022『平山遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告第 368 集
- 東京都埋蔵文化財センター 2024『平山遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告第 382 集
- 東京西線及び北八王子変電所遺跡調査会 1974『平山橋遺跡』
- トキオ文化財株式会社 2023『平山遺跡 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（HY115）報告書』
- 中西 充 2014「Ⅵ 成果と課題 3. 中近世以降」『八王子市塚場遺跡（八王子市 No.110 遺跡）』東京都埋蔵文化財センター調査報告第 287 集 東京都埋蔵文化財センター
- 八王子市栢田遺跡調査会 1981『神谷原Ⅰ』八王子市栢田遺跡調査会
- 八王子市栢田遺跡調査会 1982『神谷原Ⅲ』八王子資料刊行会
- 服部敬史・福田健司 1979「南多摩窯址群出土の須恵器とその編年」『神奈川考古』第 6 号 神奈川考古同人会
- 服部敬史・福田健司 1981「南多摩窯址群出土の須恵器とその編年」『神奈川考古』第 12 号 神奈川考古同人会
- 羽鳥謙三・加藤定男・向山崇久 2001「多摩川の変遷と武蔵野の地形発達」『多摩川流域の段丘形成と考古学的遺跡の立地環境』とうきゅう環境浄化財団
- 服部敬史・河合英夫・根本 靖・江口 桂・小野本敦 2011「南多摩窯跡群須恵器編年の暦年代検討」『八王子市史研究』創刊号 八王子市
- 比田井克仁 2001『関東における古墳出現期の変革』雄山閣
- 日野市遺跡調査会 1986『平山遺跡—第 13 次調査—』日野市埋蔵文化財発掘調査報告 2
- 日野市遺跡調査団 1978「平山遺跡：第Ⅱ次調査」『日野市遺跡調査会年報 1(1977 年度)』日野市遺跡調査会・日野市教育委員会
- 日野市史編さん委員会 1984『日野市史史料集 考古資料編』
- 日野市史編さん委員会 1988『日野市史 通史編 1 自然 原始・古代』
- 日野市ふるさと文化財課（日野市郷土資料館）2022『鎌倉殿の平山季重～中世日野武士の様相～』
- 府中市 2021『新府中市史 原始・古代資料編 3 考古資料 2』
- 法政大学エコ地域デザイン研究所編 2010『水の郷日野 農ある風景の価値とその継承』鹿島出版会
- 宮本涼子・大石絵里子・藤野修一 2020『平山遺跡—大型四面廂建物跡の保存目的発掘調査（HY81）報告書—』日野市教育委員会
- 宮本涼子 2024「古代大型四面廂建物跡の発見」『多摩のあゆみ』第 196 号 たましん地域文化財団
- 守屋 亮 2024「Ⅵ 成果と課題 4. 弥生時代終末期から古墳時代前期の土器」『平山遺跡』東京都埋蔵文化財センター調査報告第 382 集（第 2 分冊）東京都埋蔵文化財センター
- 渡辺 一 1990「南比企窯跡群の須恵器の年代—鳩山窯跡の年代を中心に—」『埼玉考古』第 27 号 埼玉考古学会
- 山口辰一 1985「武蔵国府と奈良時代の土器様相」『東京考古』第 3 号 東京考古談話会

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ひらやまいせき							
書 名	平山遺跡							
副 書 名	一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 その 3							
シ リ ー ズ 名	東京都埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第 391 集							
編 著 者 名	相原正人・小西絵美・塚田清啓・長佐古真也・パリノ・サーヴェイ株式会社							
編 集 機 関	公益財団法人東京都教育支援機構 東京都埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒 206-0033 東京都多摩市落合一丁目 14 番 2 TEL 042 - 374 - 8044							
発行年月日	西暦 2025 年 8 月 31 日							
ふ り が な 所 収 遺 跡 名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
ひらやまいせき 平山遺跡	とうきょうとひのし 東京都日野市 ひがしひらやまにちようめ 東平山二丁目	13212	022	35°39′ 12″	139°22′ 49″	20190402 ～ 20190723 20191101 ～ 20210720	3,654㎡	道路
所 収 遺 跡 名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
平山遺跡	包蔵地	旧石器時代	遺物集中部1箇所		石器、礫		ナイフ形石器、敲石	
		縄文時代	集石 3 基、土坑28基、ピット75基		土器、土製品、石器、礫		晩期の土器	
		弥生時代 前期			土器		条痕文土器	
		弥生時代後期～古墳時代前期	竪穴建物跡6軒、土坑1基、ピット1基		土器、石器・石製品、金属製品、焼成粘土塊、炭化種実、炭化材、礫		集落跡 イネやアワ類果等の炭化種実	
		古墳時代 後期			土師器、須恵器			
		古代	竪穴建物跡9軒、掘立柱建物跡 3 棟、土坑19基、ピット78基		土師器、須恵器、ロクロ土師器、灰釉陶器、石製品、金属製品、炭化種実、炭化材		集落跡 銅製の銚帯金具（巡方）、「良」「大垣内」墨書土器、コップ形須恵器	
		古代末～中世	溝3条、掘立柱建物跡 1 基、土坑31基、ピット139基		陶器、磁器、石製品、炭化材			
		近世以降	道路跡 1 条、農事関連遺構群（溝726条、土坑636基、ピット124基）		陶器、磁器、土製品、石製品、金属製品			
要 約	<p>平山遺跡は東京都日野市豊田三丁目から西平山四丁目にかけて所在する遺跡で、浅川左岸に形成された河岸段丘上に立地する。本報告書は、一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査によるもので、同事業の発掘調査報告書としては、東京都埋蔵文化財センター調査報告第 368 集、第 382 集に続き、3 冊目となる。</p> <p>今回の発掘調査では、旧石器時代をはじめ、縄文時代、弥生時代前期、弥生時代後期～古墳時代前期、古墳時代後期、古代、古代末～中世、近世以降の遺構や遺物を確認した。旧石器時代では、平山遺跡で 2 箇所目となる遺物集中部が見つかり、ナイフ形石器や剥片類、敲石が出土した。弥生時代後期～古墳時代前期の調査成果では、本調査地点周辺における当該期の集落域の西端を把握できたことが特筆される。</p> <p>古代では、竪穴建物跡 9 軒と掘立柱建物跡 3 棟を検出した。竪穴建物跡は、古い時期では 8 世紀前葉から中葉、新しい時期で 10 世紀初頭から前半の所産で、奈良時代から平安時代にかけて集落が営まれていたことが確認できた。また、竪穴建物跡から出土した須恵器を中心に産地同定を行ったところ、それまでは東金子窯産須恵器が大多数を占めている状況から、9 世紀末葉辺りを境にして、それ以降は南多摩窯産須恵器が増えてくる状況が見えてきた。</p>							

印刷仕様

表紙	レザック	215kg (四六判)
見返し	上質紙	86.5kg (A判)
本文	マットコート紙	57.5kg (A判)
写真図版	マットコート紙	57.5kg (A判)
印刷方式	オフセット印刷	
使用インク	ベジタブルインク	
製版線数	150 線 (カラー 175 線)	
本書は永久保存を考慮し、すべて中性紙を使用		

日野市

平山遺跡

—一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査その 3—

東京都埋蔵文化財センター調査報告 第 391 集

2025 年 8 月 31 日 発行

編集・発行

公益財団法人東京都教育支援機構

東京都埋蔵文化財センター

東京都多摩市落合一丁目 14 番 2

TEL 042 - 374 - 8044

印刷 明誠企画株式会社

東京都武蔵村山市榎 2-25-2